

口演，論文，著書など

医学部

目 次

| | | | |
|---------------------|-----|--------------|-----|
| 第一内科学教室（呼吸器） | 3 | 解剖学教室（肉眼解剖学） | 122 |
| 第一内科学教室（腎臓・リウマチ膠原病） | 9 | 解剖学教室（顕微解剖学） | 124 |
| 第一内科学教室（神経） | 14 | 統合生理学教室 | 126 |
| 第二内科学教室（循環器） | 17 | 細胞生理学教室 | 127 |
| 第二内科学教室（血液） | 23 | 生化学教室（1） | 128 |
| 第三内科学教室（消化器） | 24 | 生化学教室（2） | 128 |
| 第三内科学教室（糖尿病・内分泌・代謝） | 30 | 薬理学教室 | 129 |
| 腫瘍内科学教室 | 36 | 病理学教室 | 130 |
| 高齢医学教室 | 41 | 感染症学教室（微生物学） | 135 |
| 精神神経科学教室 | 45 | 感染症学教室（寄生虫学） | 138 |
| 小児科学教室 | 51 | 衛生学公衆衛生学教室 | 139 |
| 外科学教室（消化器・一般） | 53 | 法医学教室 | 145 |
| 外科学教室（呼吸器・甲状腺） | 57 | 共同研究施設 RI 部門 | 146 |
| 外科学教室（乳腺） | 61 | フローサイトメトリー部門 | 146 |
| 小児外科学教室 | 62 | 生体機能実験部門 | 146 |
| 救急医学教室 | 62 | 生物学教室 | 146 |
| 脳神経外科学教室 | 64 | 物理学教室 | 147 |
| 心臓血管外科学教室 | 70 | | |
| 整形外科学教室 | 71 | | |
| 皮膚科学教室 | 79 | | |
| 形成外科学教室 | 85 | | |
| 泌尿器科学教室 | 89 | | |
| 多発性嚢胞腎研究講座 | 92 | | |
| 眼科学教室 | 94 | | |
| 耳鼻咽喉科学教室 | 103 | | |
| 産科婦人科学教室 | 106 | | |
| 放射線医学教室 | 110 | | |
| 放射線腫瘍教室 | 112 | | |
| 麻酔科学教室 | 112 | | |
| 臨床検査医学教室 | 114 | | |
| 総合医療学教室 | 116 | | |
| リハビリテーション医学教室 | 118 | | |
| 「リハビリテーション室」 | 121 | | |
| 医学教育学教室 | 122 | | |

第一内科学教室
(呼吸器内科)

口 演

1. 滝澤始：喘息病態の多様性を考慮した治療戦略 現在と未来 アレルギー性炎症とサイトカイン. 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 平成25年4月19-21日.
2. 蘇原慧伶, 石井晴之, 小川ゆかり, 田中康隆, 高田佐織, 倉井大輔, 皿谷健, 横山琢磨, 滝澤始, 後藤元：間質性肺炎における呼気凝縮液中 exhaled breath condensate (EBC) の増殖因子測定の意義に関する研究. 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 平成25年4月19-21日.
3. 田村仁樹, 渡辺雅人, 倉井大輔, 和田裕雄, 石井晴之, 滝澤始, 後藤元：市中肺炎 (CAP) における血清プロカルシトニン (PCT) の経時変化の臨床的意義の検討. 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 平成25年4月19-21日.
4. 李英姫, 清水孝子, 平田幸代, 稲垣弘文, 新海雄介, 武田健, 吾妻安良太, 滝澤始, 山本雅之, 川田智之, 工藤翔二：Nrf2欠損マウスにおけるディーゼル排気粒子曝露のプレオマイシン気道炎症病態への影響. 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 平成25年4月19-21日.
5. 皿谷健, 小出卓, 中島明, 滝澤始, 後藤元：黒色胸水を呈した当院の一例と過去の文献報告7例による病態生理学的分野の検討. 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 平成25年4月19-21日.
6. 加藤冠, 久保田雅子, 高野智子, 木村文平, 成本治, 滝澤始：GOLD2011の COPD の総合的評価と管理についての検討. 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 平成25年4月19-21日.
7. 檜垣学, 皿谷健, 倉井大輔, 石田学, 中元康雄, 蘇原慧伶, 本多紘二郎, 田村仁樹, 田中康雄, 中島明, 乾俊哉, 小川ゆかり, 高田佐織, 横山琢磨, 石井晴之, 滝澤始, 後藤元：上肢の発汗減少を来した肺尖部肺癌の2症例. 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 平成25年4月19-21日.
8. 中島明, 渡邊崇靖, 肥留川一郎, 高田佐織, 横山琢, 皿谷健, 倉井大輔, 渡辺雅人, 和田裕雄, 石井晴之, 滝澤始, 後藤元：同一家族内に発症した夏型過敏性肺臓炎の検討. 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 平成25年4月19-21日.
9. 渡辺雅人, 田村仁樹, 倉井大輔, 和田裕雄, 石井晴之, 滝澤始, 後藤元：市中肺炎 (CAP) における抗G-CSF自己抗体の測定. 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 平成25年4月19-21日.
10. 和田裕雄：オリエンテーション 呼吸器系の解剖. 第10回呼吸ケアカンファレンス 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 平成25年4月19-21日.
11. 小出卓, 大場智広, 松林南子, 川辺梨恵, 奥田良, 天野雅子, 松島秀和：当院におけるEBUS-TBNAの臨床的検討. 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 平成25年4月19-21日.
12. 中村益夫, 和田裕雄, 本多紘二郎, 檜垣学, 渡辺雅人, 横山琢磨, 倉井大輔, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始, 後藤元, 井上信一, 小林富美恵：喫煙による気道炎症におけるInterleukin-17の気道炎症作用の検討. 第25回日本アレルギー学会春季臨床大会, 横浜, 平成25年5月11-12日.
13. 本多紘二郎, 中村益夫, 和田裕雄, 渡辺雅人, 辻本直貴, 中島明, 檜垣学, 横山琢磨, 倉井大輔, 皿谷健, 石井晴之, 後藤元, 滝澤始：気道上皮細胞のサイトカイン産生制御機構 とくにTNF α とIL-17の協同的作用について. 第25回日本アレルギー学会春季臨床大会, 横浜, 平成25年5月11-12日.
14. 杉原徳彦, 滝澤始, 栗田富美子, 佐野彰彦, 杉原壽彦：副鼻腔炎合併気管支喘息の解析. 第25回日本アレルギー学会春季臨床大会, 横浜, 平成25年5月11-12日.
15. 倉井大輔, 石井晴之, 皿谷健, 塚越博之, 木村博一, 滝澤始, 後藤元：入院を必要とした呼吸器疾患における呼吸器ウイルスの検出と臨床的特徴について. 第87回日本感染症学会学術講演会・第61回日本化学療法学会総会 合同学会, 横浜, 平成25年6月5-6日.
16. 辻晋吾, 皿谷健：Mycobacterium kansasii による肺感染症における画像的検討及びMycobacterium tuberculosis, MAC との比較検討. 第87回日本感染症学会学術講演会・第61回日本化学療法学会総会 合同学会, 横浜, 平成25年6月5-6日.
17. 辻晋吾, 皿谷健, 渡邊崇靖, 牧野博, 米谷正太, 荒木光二, 滝澤始, 後藤元：当院におけるMycobacterium kansasii 肺炎10例の画像及び臨床像の検討. 第87回感染症学学術講演会, 横浜, 平成25年6月5-6日.
18. Ishii H, Nakata K, Tazawa R, Inoue Y: Characteristics of negative GM-CSF autoantibody pulmonary alveolar proteinosis (NA-PAP) in Japan, American Thoracic Society 2013 International Conference, Philadelphia, May 20, 2013.
19. 皿谷健：マイコプラズマ研究の新展開を探る - 肺炎と感染実験, 日本マイコプラズマ学会 第40回学術集会, 東京, 平成25年5月23日.
20. 小出卓, 大場智広, 松林南子, 川辺梨恵, 奥田良, 天野雅子, 松島秀和：肺小細胞癌による傍腫瘍辺縁系脳炎の1例. 第204回日本呼吸器学会関東地方会, 東京, 平成25年5月25日.
21. 石井晴之：続発性肺胞蛋白症の臨床的特徴 MDS-SPAPを中心に. 山陰呼吸器病研究会, 米子市, 平成25年6月12日.
22. 滝澤始：包括的治療戦略. 第23回国際喘息学会 日本・アジア部会, 東京, 平成25年6月28-29日.
23. 本多紘二郎, 和田裕雄, 中村益夫, 渡辺雅人, 乾俊哉, 中本啓太郎, 石井晴之, 後藤元, 滝澤始：気道上皮細胞のサイトカイン産生制御とそのシグナル伝達経路の機構：とくにTNF α とIL-17の協同的作用について. 第23回国際喘息学会 日本・アジア部会, 東京, 平成25年6月28-29日.
24. 滝澤始：大気汚染環境によるアレルギー疾患への影

- 響 第44回日本職業・環境アレルギー学会・学術大会, 相模原市, 平成25年7月5-6日.
25. 石井晴之: 続発性肺胞蛋白症の調査研究2013. 平成25年度厚労科研(難治性稀少肺疾患に関する調査研究 H24- 難治一般 -035) 第一回班会議, 大阪, 平成25年7月6日.
 26. 石井晴之: 肺胞蛋白症の合併は骨髓異形成症候群の予後を増悪させる. 肺胞蛋白症, 先天性間質性肺疾患ワークショップ, 大阪, 平成25年7月7日.
 27. Ishii H: Clinical manifestations and prognosis of pulmonary alveolar proteinosis secondary to myelodysplastic syndrome, PeterMac morning journal club meeting, Melbourne, July 11. 2013.
 28. 滝澤始: 原因不明の間質性肺炎/肺線維症. 第2回間質性肺炎/肺線維症勉強会, 金沢市, 平成25年7月13日.
 29. 滝澤始: 上皮細胞への作用. 第20回マクロライド新作用研究会, 東京, 平成25年7月19日.
 30. 皿谷健: 成人における呼吸器ウイルスの影響—喘息・COPDを中心に—. 第533回呼吸器臨床談話会, 東京, 平成25年7月19日.
 31. 滝澤始: 呼吸管理に必要な生理学: 呼吸機能検査を中心に. 第35回日本呼吸療法学会学術総会, 東京, 平成25年7月20日.
 32. 神尾幸見, 佐田充, 大熊康介, 小木曾匡, 皿谷健, 倉井大輔, 石井晴之, 滝澤始, 後藤元, 河合伸: サイトメガロウイルス感染後に血球貪食症候群を合併した AIDS の1例. 第598回日本内科学会関東地方会, 東京, 平成25年7月21日.
 33. 石井晴之: 続発性肺胞蛋白症の予後調査に関して. 肺胞蛋白症およびリンパ管筋腫症に関する検討会, 仙台, 平成25年7月27日.
 34. 乾俊哉, 和田裕雄, 小川ゆかり, 小田未来, 高田佐織, 横山琢磨, 滝澤始, 後藤元, 新井秀宜, 長瀬洋之, 山口正雄: 呼吸困難発作を繰り返し, 難治性喘息が疑われた一例. 第71回臨床アレルギー研究会, 東京, 平成25年7月27日.
 35. Wada H, Akiyama Y, Takeda H, Nakamura M, Nishinono R, Takizawa H, and Goto H: Socialization in patients with chronic respiratory failure (CRF), undergoing long-term oxygen therapy (LTOT), as assessed by Lubben Social Networking Scale -6 (LSNS-6). ERS 2013, Barcelona, September 10. 2013.
 36. Wada H, Nakamura M, Higaki M, Uozumi N, Yoshihiro Kita, Nakamura M, Shimizu T, Takizawa H, Goto H: cPLA2 α plays a role in neutrophilic inflammatory response in mice induced by cigarette smoke exposure. ERS 2013, Barcelona, September 10. 2013.
 37. 皿谷健: 臨床現場ですぐに役立つナースのためのフィジカルアセスメント: 呼吸器系の診かた, 一般財団法人 ライフ・プランニング・センター, 東京, 平成25年9月14日.
 38. 皿谷健: case based discussion, 北部多摩医療センター内科診療教育講座, 東村山, 平成25年9月25日.
 39. 滝澤始: 呼吸器疾患におけるマクロライド療法: その位置づけと将来展望. 第15回浜松呼吸器感染症セミナー, 浜松, 平成25年9月28日.
 40. 皿谷健: 次代を担う若手医師育成拠点づくり, 総合診療を学ぶ特訓ゼミ「臨床推論8番勝負」, 茨城, 平成25年9月28-29日.
 41. 皿谷健: 肺炎の基礎と臨床 マイコプラズマ肺炎を中心に. TAMS (多摩地区アレルギー免疫セミナー), 東京, 平成25年10月4日.
 42. 滝澤始: 環境因子と呼吸器疾患 大気汚染と呼吸器疾患 とくにPM2.5について. 第23回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 東京, 平成25年10月10-11日.
 43. 和田裕雄, 中村益夫, 乾俊哉, 秋山陽子, 武田紘崇, 西之野梨奈, 柳下由弥, 本多紘二郎, 滝澤始, 後藤元: 動脈血酸素飽和度 (SpO₂) 連続モニタリングによる低酸素血症スクリーニング. 第23回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 東京, 平成25年10月10-11日.
 44. 皿谷健: 第9回症例から学ぶ感染症セミナー. 第62回日本感染症学会東日本地方会学術集会, 東京, 平成25年10月30日.
 45. 皿谷健: 総合医スキルアップセミナー. 日本医療教育プログラム推進機構 (JAMEP), 東京, 平成25年11月9日.
 46. Takizawa H: Impact of air pollution on lung health. 18th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Yokohama, November 11-14. 2013.
 47. Ishii H, Tazawa R, Inoue Y, Nakata K: Clinical characteristics of secondary pulmonary alveolar proteinosis complicated with myelodysplastic syndrome in Japan, 18th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Yokohama, November 13. 2013.
 48. Ishii H: The underlying disease of secondary pulmonary alveolar proteinosis (sPAP) in Japan, The 2nd Asian PAP meeting, Yokohama, November 14. 2013.
 49. Wada H, Akiyama Y, Takeda H, Nakamura M, Honda K, Inui T, Nakamoto K, Nishinono R, Yagishita Y, Goto H, Takizawa H: Association Between Lsns-6 And Cat In Patients Undergoing Long-Term Oxygen Therapy (Ltot) For Chronic Respiratory Failure (Crf), 18th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Yokohama, November 11-14. 2013.
 50. Kurai D, Saraya T, Ishii H, Wada H, Kimura H, Tsukagoshi H, Takiwawa H, Goto H: Respiratory Viral Infection In Admitted Adult Patients. 18th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Yokohama, November 11-14. 2013.
 51. Saraya T, Nakata K, Nakagaki K, Kurai D, Takizawa H, Goto H: Identification Of A Mechanism For Lung Inflammation Caused By Mycoplasma Pneumoniae Using A Novel Mouse Model, 18th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Yokohama, November 11-14. 2013.

52. Saraya T, Richard W Light, Takizawa H, Goto H: Black Pleural Effusion: Causes And Pathophysiological Classification. 18th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Yokohama, November 11 – 14. 2013.
53. Honda K, Wada H, Nakamura M, Nakamoto K, Watanabe M, Inui T, Sada M, Takata S, Yokoyama T, Saraya T, Kurai D, Ishii H, Goto H, Takizawa H: IL-17A And Tnf- α Synergistically Stimulate IL-8 Production In Human Airway Epithelial Cells, 18th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Yokohama, November 11 – 14. 2013.
54. Nakamura M, Wada H, Honda K, Nakamoto K, Ishii H, Inoue S, Kobayashi F, Kamma H, Takizawa H, Goto H: IL-17 plays a role in pulmonary inflammation induced by cigarette smoke exposure in mice. 18th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Yokohama, November 11 – 14. 2013.
55. Inui T, Yokoyama T, Takata S, Hirata A, Nishizawa T, Hirukawa I, Wada H, Ishii H, Takizawa H, and Goto H: Retrospective study of combination chemotherapy with Cisplatin plus Pemetrexed as first line therapy for advanced non-small cell non-squamous lung cancer, 18th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Yokohama, November 11 – 14. 2013.
56. 和田裕雄, 中村益夫, 乾俊哉, 秋山陽子, 竹田紘崇, 西之野梨奈, 柳下由弥, 本多紘二郎, 滝澤始, 後藤元: 動脈血酸素飽和度連続モニタリングによる低酸素血賞スクリーニング. 日本呼吸ケアリハビリテーション学会総会, 東京, 平成25年11月13日.
57. 滝澤始: 知らせざる21世紀の国民病 COPD: 対症療法から予後を改善する治療へ. SRL 10th Update Forum, 東京, 平成25年11月16日.
58. 高田佐織, 横山琢磨, 平田彩, 肥留川一郎, 小川ゆかり, 乾俊哉, 蘇原慧伶, 矢野絹子, 田島伸介, 関礼輔, 和田裕雄, 滝澤始, 後藤元: 経口補水液を用いたシスプラチンのハイドレーションの安全性について. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 平成25年11月21 – 22日.
59. 皿谷健: 本音で話す呼吸器感染症の治療～外来で抗生剤が必要な症例は? 抗生剤を処方してはいけない症例は? ～. 小平医師会学術講演会, 東京, 平成25年11月21日.
60. 小川ゆかり, 横山琢磨, 肥留川一郎, 辻本直貴, 佐田充, 高田佐織, 和田裕雄, 石井晴之, 滝澤始, 後藤元: 肺癌骨転移に対して骨シンチ診断支援ソフトによる Bone Scan Index を用いた定量評価. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 平成25年11月21 – 22日.
61. 乾俊哉, 横山琢磨, 平田彩, 肥留川一郎, 小川ゆかり, 高田佐織, 石井晴之, 和田裕雄, 滝澤始, 後藤元: 進行 Non-Sq NSCLC に対する CDDP+PEM+Bev 導入療法 +PEM 維持療法の第 II 相試験. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 平成25年11月21 – 22日.
62. 平田彩, 横山琢磨, 肥留川一郎, 乾俊哉, 小川ゆかり, 高田佐織, 石井晴之, 滝澤始, 後藤元: Cisplatin を使用した初回化学療法期間中に低ナトリウム血症を呈した肺癌症例の検討. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 平成25年11月21 – 22日.
63. 竹内彩乃, 横山琢磨, 遠藤ゆかり, 高田佐織, 秋山陽子, 矢野絹子, 関礼輔, 滝澤始, 後藤元: 化学療法時の経口補水療法について考える 看護師の視点から. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 平成25年11月21 – 22日.
64. 滝澤始: COPD と喘息: 気道炎症病態から見た相違点と共通点. 第63回アレルギー学会秋季学術大会, 東京, 平成25年11月28 – 30日.
65. 滝澤始: 気道感染症と炎症制御～マクロライドの可能性～. 第63回アレルギー学会秋季学術大会, 東京, 平成25年11月28 – 30日.
66. 松崎博崇, 山内康宏, 三上優, 堀江真史, 野口智志, 成木治, 城大祐, 高見和孝, 幸山正, 滝澤始, 長瀬隆英: 気道上皮細胞での酸化ストレス及び IL-17 によるケモカイン産生の影響. 第63回アレルギー学会秋季学術大会, 東京, 平成25年11月28 – 30日.
67. 皿谷健: 呼吸器疾患のピットフォール: Case based discussio, 愛知県医師会 第15回ジェネラルマインドセミナー, 愛知, 平成25年12月14日.
68. 石井晴之: 続発性肺胞蛋白症の長期予後調査 平成25年度厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服事業『難治性稀少肺疾患(肺胞蛋白症, 先天性間質性肺疾患, オスラー病)の調査研究』. 第2回班会議, 大阪, 平成25年12月22日.
69. 石井晴之: 成人呼吸器疾患におけるウイルス感染の臨床的意義. 国立病院機構愛媛医療センター臨床研究講演会, 愛媛, 平成26年1月29日.
70. 滝澤始: 気管支喘息の治療: 最新の話. 但馬喘息治療セミナー, 豊岡, 平成26年2月5日.
71. 石井晴之: 骨髄異形成症候群に合併した肺胞蛋白症の臨床的特徴. 北野病院臨床医学研究セミナー, 大阪, 平成26年2月12日.
72. 滝澤始: 咳から読み解く喘息の診断と治療方略. Asthma Meeting In Iruma 2014, 入間, 平成26年2月27日.
73. 石井晴之: 続発性肺胞蛋白症の長期予後調査. MDS-SPAP conference 2013. 平成25年度厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服事業『難治性稀少肺疾患(肺胞蛋白症, 先天性間質性肺疾患, オスラー病)の調査研究』, 東京, 平成25年3月1日.

論文

1. Saraya T, Ariga M, Takizawa H, Goto H: Late-occurring paradoxical reaction masquerading as treatment failure for tuberculous adenitis. Intern Med 52:2385-2386, 2013.
2. Kurai D, Saraya T, Ishii H, Takizawa H: Virus-induced exacerbations in asthma and COPD. Front Microbiol 1;4:293, 2013.
3. Sada M, Saraya T, Tanaka Y, Sato S, Wakayama M, Shibuya K, Uchiyama T, Ogata H, Takizawa H, Goto H: Invasive tracheobronchial aspergillosis in a patient with systemic lupus erythematosus-dermatomyositis overlap

- syndrome. *Intern Med* 52:2149-2153, 2013.
4. Nakajima A, Saraya T, Mori T, Ikeda R, Sugita T, Watanabe T, Fujiwara M, Takizawa H, Goto H: Familial summer-type hypersensitivity pneumonitis in Japan: two case reports and review of the literature. *BMC Res Notes* 6:371, 2013.
 5. Oda M, Saraya T, Wakayama M, Shibuya K, Ogawa Y, Inui T, Yokoyama E, Inoue M, Shimoyamada H, Fujiwara M, Ota T, Takizawa H, Goto H: Calcium oxalate crystal deposition in a patient with Aspergilloma due to *Aspergillus niger*. *J Thorac Dis* 5:E174-178, 2013.
 6. Saraya T, Inoue M, Takizawa H, Goto H: Varicella-zoster virus pneumonia in an immunocompetent patient. *Intern Med* 52:1003, 2013.
 7. Saraya T, Light RW, Takizawa H, Goto H: Black pleural effusion. *Am J Med* 126:641, 2013.
 8. Tsujimoto N, Saraya T, Takizawa H, Goto H: Tuberculous peritonitis incidentally diagnosed on FDG-PET/CT. *Intern Med* 52:841-842, 2013.
 9. Saraya T, Mikoshiba M, Kamiyama H, Yoshizumi M, Tsuchida S, Tsukagoshi H, Ishioka T, Terada M, Tanabe E, Tomioka C, Ishii H, Kimura H, Kozawa K, Shiohara T, Takizawa H, Goto H: Evidence for reactivation of human herpesvirus 6 in generalized lymphadenopathy in a patient with drug-induced hypersensitivity syndrome. *J Clin Microbiol* 51:1979-1982, 2013.
 10. Saraya T, Fujino T, Suzuki A, Shimura C, Kawachi R, Takei H, Ishii H, Fujiwara M, Oka T, Fujioka Y, Takizawa H, Goto H: Hodgkin lymphoma with rapidly destructive, cavity-forming lung disease. *J Clin Oncol* 20;31:211-214, 2013.
 11. Tamura M, Saraya T, Fujiwara M, Hiraoka S, Yokoyama T, Yano K, Ishii H, Furuse J, Goya T, Takizawa H, Goto H: High-resolution computed tomography findings for patients with drug-induced pulmonary toxicity, with special reference to hypersensitivity pneumonitis-like patterns in gemcitabine-induced cases. *Oncologist* 18:454-459, 2013.
 12. Kobayashi Y, Wada H, Rossios C, Takagi D, Charron C, Barnes PJ, Ito K: "A novel macrolide/fluoroketolide, splithromycin (CEM-101), reverses corticosteroid insensitivity via phosphoinositide 3-kinase pathway inhibition". *Br J Pharmacol* 169:1024-1034, 2013.
 13. Kobayashi Y, Wada H, Rossios C, Takagi D, Higaki M, Mikura S, Goto H, Barnes PJ: A novel macrolide solithromycin exerts superior anti-inflammatory effect via NF- κ B inhibition. *J Pharmacol Exp Ther* 345: 76-85, 2013.
 14. Kurai D, Nakagaki K, Wada H, Saraya T, Kamiya S, Fujioka Y, Nakata K, Takizawa H, Goto H: *Mycoplasma pneumoniae* extract induces an IL-17-associated inflammatory reaction in murine lung: implication for mycoplasmal pneumonia. *Inflammation* 36:285-293, 2013.
 15. Ohnishi H, Yonetani S, Matsushima S, Wada H, Takeshita K, Kuramochi D, De Souza PC, Campos CED, Da Costa BP, Ramos JP, Mikura S, Narisawa E, Fujita A, Funayama Y, Kobashi Y, Sakakibara Y, Ishiyama Y, Takakura S, Goto H, Watanabe T: *Mycobacterium kyorinense* Infection: Clinical Features and Antimicrobial Susceptibility. *Emerg Infect Dis* 19: 508-551, 2013.
 16. Kushibuchi I, Kobayashi M, Kusaka T, Tsukagoshi H, Ryo A, Yoshida A, Ishii H, Saraya T, Kurai D, Yamamoto N, Kanou K, Saitoh M, Noda M, Kuroda M, Morita Y, Kozawa K, Oishi K, Tashiro M, Kimura H: Molecular evolution of attachment glycoprotein(G) gene in human respiratory syncytial virus detected in Japan 2008-2011. *Infection, Genetics and Evolution* 18 :168-173, 2013.
 17. Kimura H, Yoshizumi M, Ishii H, Oishi K, Ryo A.: Cytokine production and signaling pathways in respiratory virus infection. *Front Microbiol* Sep17:4:276, 2013.
 18. Saraya T, Chinen K, Hirano K, Goto H: Massive myocardial abscesses caused by methicillin-susceptible *Staphylococcus aureus*. *Intern Med* 52(17):1999, 2013.
 19. Higaki M, Ishida M, Nakamoto Y, Saraya T: Horner's syndrome with a sensation of warmth due to hypohidrosis. *Intern Med* 52(15):1757-1758, 2013.
 20. Saraya T, Ohkuma K, Hirata A, Nakamoto K: Phantom tumour of the lung. *BMJ Case Rep* 13, 2013.
 21. Saraya T, Ariga M, Kato A, Goto H: Non-syndromic brachydactyly, known as Shamoji-yubi or Mamushi-yubi in Japan. *BMJ Case Rep* 30, 2013.
 22. Ohkuma K, Saraya T, Sada M, Kawai S: Evidence for cytomegalovirus-induced haemophagocytic syndrome in a young patient with AIDS. *BMJ Case Rep* Sep 25, 2013.
 23. Saraya T, Takata S, Fujiwara M, Takei H: Cellular non-specific interstitial pneumonia masquerading as congestive heart failure. *BMJ Case Rep* 3, 2013.
 24. Higaki M, Kurai D, Ito A, Saraya T: Evidence for hypohidrosis as clinical clue to diagnosis of Horner's syndrome. *BMJ Case Rep* 24, 2013.
 25. Nagatomo T, Saraya T: Re: Two cases of bilateral bronchial artery varices: one with and one without bilateral coronary-to-pulmonary artery fistulas. Review and characterization of the clinical features of bronchial artery varices reported in Japan. A reply. *Clin Radiol* 68(7):750, 2013.
 26. Saraya T, Suzuki T, Goto H: Fecal leukocyte in the diagnosis of ulcerative colitis. *Braz J Infect Dis* 18(2):225-226, 2014.
 27. Handa T, Nakatsue T, Baba M, Takada T, Nakata K, Ishii H: Clinical features of three cases with pulmonary alveolar proteinosis secondary to myelodysplastic syndrome developed during the course of Behcet's disease. *Respir Investig* 52(1):75-79, 2014.
 28. Tamura M, Watanabe M, Nakajima A, Kurai D, Ishii H, Takata S, Nakamoto K, Sohara E, Honda K, Nakamura

- M, Inui T, Wada H, Takizawa H, Goto H: Serial quantification of procalcitonin (PCT) predicts clinical outcome and prognosis in patients with community-acquired pneumonia (CAP). *J Infect Chemother* 20:97-103, 2014.
29. Takechi H, Mawatari K, Harada N, Nakaya Y, Asakura M, Aihara M, Takizawa H, Goto M, Nishino T, Minato T, Furukita Y, Yamamoto Y, Yuasa Y, Yamai H, Yoshida T, Seike J, Tangoku A: Glutamine protects the small intestinal mucosa in anticancer drug-induced rat enteritis model. *J Med Invest* 61:59-64, 2014.
 30. Ogawa Y, Saraya T, Koide T, Kikuchi K, Ohkuma K, Araki K, Makino H, Yonetani S, Takizawa H, Goto H: Methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* enterocolitis sequentially complicated with septic arthritis: a case report and review of the literature. *BMC Res Notes* 9:7:21,2014.
 31. Noguchi S, Yamauchi Y, Takizawa H: Novel therapeutic strategies for fibrotic lung disease: a review with a focus on epithelial-mesenchymal transition. *Recent Pat Inflamm Allergy Drug Discov* 8:9-18, 2014.
 32. Tazawa R, Inoue Y, Arai T, Takada T, Kasahara Y, Hojo M, Ohkouchi S, Tsuchihashi Y, Yokoba M, Eda R, Nakayama H, Ishii H, Nei T, Morimoto K, Nasahara Y, Ebina M, Akira M, Ichiwata T, Tatsumi K, Yamaguchi E, Nakata K: Duration of benefit in patients with autoimmune pulmonary alveolar proteinosis after inhaled granulocyte-macrophage colony-stimulating factor therapy. *Chest* 145(4):729-737, 2014.
 33. Ishii H, Seymour JF, Tazawa R, Inoue Y, Uchida N, Nishida A, Kogure Y, Saraya T, Tomii K, Takada T, Itoh Y, Hojo M, Ichiwata T, Goto H, Nakata K: Secondary pulmonary alveolar proteinosis complicating myelodysplastic syndrome results in worsening of prognosis. *BMC Pulm Med* 5; 14:37, 2014.
 34. Nishizawa T, Saraya T, Ishii H, Goto H: Antemortem diagnosis with multiple random skin biopsies and transbronchial lung biopsy in a patients with intravascular large B-cell lymphoma, the so-called Asian variant lymphoma. *BMJ Case Rep* 14, 2014.
 35. Sada M, Saraya T, Ishii H, Goto H: Sudden multiple fractures in a patient with sarcoidosis in multiple organs. *BMJ Case Rep* 10, 2014.
 36. Tsujimoto N, Saraya T, Shimoda M, Goto H: Three stripes sign: muscle involvement with internal fibrosis in a patient with sarcoidosis. *BMJ Case Rep* 10, 2014.
 37. 皿谷健: 新たなマイコプラズマ肺炎マウスモデルの確立 *日本マイコプラズマ学会雑誌* (1340-2382) 40: 34-38, 2014.
 38. 和田裕雄, 中村益夫, 滝澤始: 慢性閉塞性肺疾患の抗菌薬治療 *呼吸器内科*23: 209-215, 2013.
 39. 和田裕雄, 秋山陽子, 竹田紘崇, 滝澤始: 【実地医家のための最新・在宅医療実践ガイド 入門から最前線まで】 具体的な共通した在宅診療と技術の実際 在宅酸素療法と人工呼吸療法とその管理の実際 *Medical Practice*30臨増: 133-143, 2013.
 40. 和田裕雄, 滝澤始: 【呼吸器疾患 -state of arts Ver.6】 (第4章) 主要疾患 病態・診断・治療 横隔膜の疾患 横隔神経麻痺・横隔膜麻痺 *医学のあゆみ 別冊呼吸器疾患 -state of arts* 6: 485-487, 2013.
 41. 和田裕雄, 滝澤始: 喘息と COPD の併存例の診断と治療 *呼吸器内科*23: 209-215, 2013.
 42. 佐田充, 滝澤始: 【呼吸器疾患 -state of arts Ver.6】 (第4章) 主要疾患 病態・診断・治療 縦隔の疾患 先天性縦隔嚢胞 *医学のあゆみ別冊呼吸器疾患 -state of arts* 6: 389-391, 2013.
 43. 李英姫, 川田智之, 滝澤始: 大気汚染における遺伝子環境相互影響 *呼吸器内科* 23(5): 516-520, 2013.
 44. 横山恵美, 石井晴之: インジウム肺の臨床的特徴. *呼吸器内科*23 (5): 511-515, 2013.
 45. 和田裕雄: 吸入のし忘れを防ぐには行動との関連付けが大切 *Medical Tribune*46: 31, 2013.
 46. 渡辺雅人, 滝澤始: 【unified airway からみた鼻副鼻腔病変】 上気道と下気道の比較と関連性 気道粘膜の形態と機能 *JOHNS*29巻 (5): 809-811, 2013.
 47. 三倉真一郎, 滝澤始: 【検査値を読む2013】 炎症マーカー検査 C 反応性蛋白 *内科*111(6): 1326, 2013.
 48. 滝澤始: 気道クリーニング作用からみたマクロライドの使い方 *東京都医師会雑誌*66(5): 455-463, 2013.
 49. 西沢知剛, 横山琢磨, 高田佐織, 下山田博明, 滝澤始, 後藤元: 松果体転移で発見された原発性肺小細胞癌の1例 *肺癌*53(6): 803-808, 2013.
 50. 横山琢磨, 高田佐織, 大塚弘毅, 藤原正親, 滝澤始, 後藤元: ALK immunohistochemistry (IHC) 陽性, EML4-ALK fluorescence in situ hybridization (FISH) 判定不能の肺腺癌に対して crizotinib が奏効した1症例 *肺癌*53(7): 893-898, 2013.
 51. 皿谷健, 後藤元: 感染症症候群 (第2版) [下]- 症候群から感染性単一疾患までを含めて - 呼吸器感染症 *肺膿瘍, 膿胸, 胸膜炎 日本臨床* (0047-1852) 別冊感染症症候群 (下): 217-221, 2013.
 52. 和田裕雄, 中村益夫, 滝澤始: 慢性閉塞性肺疾患の抗菌薬治療 *呼吸器内科*24(6): 571-578, 2013.
 53. 皿谷健: 新たなマイコプラズマ肺炎マウスモデルの確立 *日本マイコプラズマ学会雑誌*40:34-38, 2013.
 54. 皿谷健: 新たな FKS 遺伝子変異によるミカファンギン耐性獲得を確認できた *Candida Glabrata* 血症の一例. *感染症学雑誌*88(2),2014.
 55. 清水麗子, 武井秀史, 平田佳史, 相原健一, 橘啓盛, 河内利賢, 苅田真, 中里陽子, 長島鎮, 皿谷健, 滝澤始, 藤原正親, 矢澤卓也, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 局所麻酔下胸腔鏡にて確定診断が得られた悪性リンパ腫の1例. *気管支*36(1): 99-100, 2014.
 56. 乾俊哉, 石井晴之, 石田学, 小田未来, 小川ゆかり,

横山恵美, 渡辺雅人, 倉井大輔, 坂田好美, 佐藤徹, 滝澤始, 後藤元: 明らかな肺線維症を伴わず肺高血圧症を合併したサルコイドーシスの1例. 日本胸部臨床73(1): 91-96, 2014.

57. 佐田充, 滝澤始: 【喘息の周辺疾患】好酸球増多関連疾患(好酸球性肺炎, CSS等を含む) アレルギー・免疫(1344-6932) 21(4): 648-655, 2014.
58. 石井晴之: 続発性肺胞蛋白症の予後解析. 呼吸器内科23(4): 342-349, 2013.
59. 木村博一, 吉田綾子, 塚越博之, 石井晴之, 野田雅博: RSウイルスのG蛋白の機能と分子疫学に関する最近の知見. RSウイルス感染症XバリブズマブDATA BOOK メディカルレビュー 66-69, 2013.
60. 乾俊哉, 石井晴之, 石田学, 小田未来, 小川ゆかり, 横山恵美, 渡辺雅人, 倉井大輔, 坂田好美, 佐藤徹, 滝澤始, 後藤元: 明らかな肺線維症を伴わず肺高血圧症を合併したサルコイドーシスの1例 日本胸部臨床73(1): 91-96, 2014.

著者

1. 田中康隆, 滝澤始: アレルギー性気管支肺真菌症(ABPM). 呼吸器疾患 最新の治療2013-2015. 貫和敏博, 杉山幸比古, 門田淳一編集. 東京, 南江堂, 2013.p.345-347.
2. 滝澤始: 間質性肺炎を究める. 滝澤始編. 東京, メディカルビュー社, 2013.
3. 滝澤始: 間質性肺炎マーカー(KL-6, SP-A, SP-D). 臨床検査ガイド2013~2014. 和田攻, 大久保昭行, 矢崎義雄, 大内尉義編集. 東京, 文光堂, 2013. p.139-141.
4. 和田裕雄, 秋山陽子, 竹田紘崇, 滝澤始: 在宅酸素療法と人工呼吸療法とその管理の実践. 実地医家のための最新在宅医療実践ガイド 入門から最前線まで. 東京, 文光堂, 2013.p.133-143.
5. 滝澤始: 膠原病随伴間質性肺炎. 臨床病態学 第2版. 北村聖総編集. 東京, ヌーヴェルヒロカワ, 2013. p.303-307.
6. 滝澤始: 環境因子(大気汚染, 生物燃料など). マネジメントシリーズ 慢性閉塞性肺疾患(COPD)のマネジメント 改訂3版. 橋本修編. 大阪, 医薬ジャーナル社, 2013.p.92-95.
7. 滝澤始: 好酸球性肺炎. スーパービジュアル呼吸器疾患. 東京, 成美堂出版, 2013, p.143-145.
8. 滝澤始: アレルギー性気管支肺アスペルギルス症. スーパービジュアル呼吸器疾患. 東京, 成美堂出版, 2013.p.146-148.
9. 小川ゆかり, 乾俊哉, 小田未来, 中本啓太郎, 肥留川一郎, 中島明, 小出卓, 横山琢磨, 田村仁樹, 高田佐織, 西沢知剛, 佐田充, 田中康隆, 倉井大輔, 蘇原慧伶, 辻本直貴, 檜垣学, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始: 初めて握る人のための気管支鏡入門マニュアル 杏林大学呼吸器内科編. 石井晴之編, 東京, メジカルビュー社, 2014.
10. 滝澤始: 肺の生活習慣病. シニアの体と健康. 東京, ジャパンライフデザインシステムズ, 2013.p.52-55.

11. 滝澤始: キーパーソンは薬剤師 喘息患者さんへのファーマシューティカルケア. Apo Talk. 東京, 羊土社, 2013.p.12-13.
12. 石井晴之: 間質性肺炎とその急性増悪 Acute on Chronic で切った呼吸器診療マニュアル. 滝澤始編集, 東京, 文光堂, 2013.p.57-77.
13. 皿谷健: あなたも名医! 侮れない肺炎に立ち向かう31の方法 非専門医のための肺炎診療指南書(3章) 病院での市中肺炎の治療 症例に応じたベストチョイスを! 非感染性肺炎を疑ったらどうする?. 東京, jmed mook28号, 2013.p.114-122.
14. 皿谷健: サパイラ 身体診察のアートとサイエンス. 東京, 医学書院, 2013.
15. 皿谷健: 免疫不全者の肺病変 Acute on Chronic で切った呼吸器診療マニュアル 事件は慢性期に起きている. 滝澤始編集, 東京, 文光堂, 2013.p.173-191.
16. 皿谷健: 呼吸器内科 放線菌肺炎: 肺アクチノマイコーシス. 東京, 科学評論社, 2013.p.39-42.
17. 皿谷健: “実践的” 抗菌薬の使い方 その本質を理解する. アジスロマイシン. 東京, 医学書院, 2013.p.1250-1254.
18. 石井晴之, 滝澤始: 初めて握る人のための気管支鏡入門マニュアル. 石井晴之編 滝澤始監, 東京, メジカルビュー社, 2014.

受賞, 特許等知的財産関係, 学会主催, 報告書

1. 滝澤始: ぜん息患者の増悪及び未発症成人の予測のための気道バイオマーカーの確立とその大気汚染物質の影響評価への応用に関する調査研究. 環境再生保全機構委託業務. 平成25年度研究報告書.
2. 高田佐織, 蘇原慧伶, 田中康隆, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始: 特発性間質性肺炎との鑑別におけるMechanic's handsの意義: 膠原病随伴所見としての有用性の検討. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業『びまん性肺疾患に関する調査研究』. 平成24年度研究報告書.
3. 石井晴之: 本邦における続発性肺胞蛋白症の予後解析に関する研究. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業『難治性稀少肺疾患(肺胞蛋白症, 先天性間質性肺疾患, オスラー病)』に関する調査研究. 平成24年度研究報告書.
4. 石井晴之: 続発性肺胞蛋白症の長期予後調査に関する研究. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業『難治性稀少肺疾患(肺胞蛋白症, 先天性間質性肺疾患, オスラー病)』に関する調査研究. 平成24年度研究報告書.
5. 木村博一, 倉井大輔, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始, 佐々木佳子, 塚越博之, 丹羽祥一, 小澤邦壽, 野田雅博, 石岡大成: 成人市中肺炎における病原体プロファイルと重症度. 厚生労働科学研究費補助金新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業 成人の重症肺炎サーベイランス構築に関する研究. 平成25年度総括・分担研究報告書.
6. 石岡大成, 鈴木裕, 細谷美香子, 永井佑樹, 田辺純子, 金山知代, 岡元冬樹, 濱田まどか, 岡野祥, 新垣絵

里, 倉井大輔, 皿谷健, 石井晴之, 野田雅博, 木村博一: 地方衛生研究所への肺炎球菌 Serotyping PCR 検査法の導入およびインフルエンザ菌の収集. 厚生労働科学研究費補助金新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業 成人の重症肺炎サーベイランス構築に関する研究. 平成25年度総括・分担研究報告書.

7. 黒田誠, 木村博一, 塚越博之, 吉住正和, 小澤邦壽, 調恒明, 吉川紗耶香, 水越文徳, 平野映子, 吉富秀亮, 清田直子, 仁平稔, 石井晴之, 倉井大輔, 皿谷健, 滝澤始, 河野陽一, 下条直樹, 松田俊二, 岡崎薫, 菅井和子, 宮地裕美子, 清水博之, 森田幸雄, 石岡大成, 佐藤弘, 加納和彦, 関塚剛史, 竹内史比古, 野田雅博: 病原体網羅遺伝子配列を基盤とした分子疫学解析法の開発. 厚生労働科学研究費補助金新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業 迅速・網羅的病原体ゲノム解析法を基盤とした感染症対策ネットワーク構築に関する研究. 平成25年度総括・分担研究報告書.

第一内科学教室

(腎臓・リウマチ膠原病内科)

口 演

1. 軽部美穂: 当院におけるインフリキシマブの増量効果の実例. 多摩 RA 女医セミナー, 東京, 平成25年2月19日.
2. 有村義宏: 血管炎の最近の知見. 教育講演, 第110回日本内科学会総会・講演会, 東京, 平成25年4月12-14日.
3. 吉原堅, 川嶋聡子, 池谷紀子, 小路仁, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: MPO-ANCA 関連腎炎の早期発見・治療が肺出血の発症を抑制する. 第110回日本内科学会, 東京, 平成25年4月12-14日.
4. Saito M, Komagata Y, Takahashi T, Isomura A, Kawashima S, Fukuoka K, Karube M, Yoshihara K, Kaname S, Arimura Y, Yamada A: A case of eosinophilic granulomatosis with polyangiitis (EGPA) who relapsed with saddle nose. 16th International Vasculitis & ANCA Workshop, France, Apr.14-17.2013.
5. Murakami K, Saito M, Komagata Y, Yoshihara K, Kaname S, Arimura Y, Yamada A, Nakamoto Y, Ishida M, Hikgaki M, Takizawa H, Kawachi R, Goya T, Fujiwara M, Yazawa T, Kamma H: A case of lung biopsy-proven MPO-ANCA positive granulomatosis with polyangiitis (GPA; Wegener's granulomatosis). 16th International Vasculitis & ANCA Workshop, France, Apr.14-17.2013.
6. Kawashima S, Arimura Y, Sano K, Komagata Y, Kaname S, Yamada A: The role of MPO-positive cells and MPO deposition in glomerular capillary injury in patients with various glomerulonephritis. 16th International Vasculitis & ANCA Workshop, France, Apr. 14-17.2013.
7. Komagata Y, Amonpatumrat S, Sano K, Kawashima S, Kaname S, Arimura Y, Yamada A: Autoantibodies for several antigens in neutrophil cytoplasm other than PR3 and MPO also promote release of NETs from neutrophils. 16th International Vasculitis & ANCA Workshop, France, Apr. 14-17.2013.
8. 有村義宏: わが国の血管炎の臨床試験. シンポジウム 血管炎の最前線, 第57回日本リウマチ学会総会・学術集会, 京都, 平成25年4月18-20日.
9. 有村義宏: 合併症マネージメント: 腎臓. Meet the Expert. 第57回日本リウマチ学会総会・学術集会, 京都, 平成25年4月18-20日.
10. 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 関節リウマチ患者における MTX 増量あるいは生物学的製剤 (BIO) 導入によるステロイド減量, 離脱の比較. ワークショップ 関節リウマチの治療. 第57回日本リウマチ学会総会・学術集会, 京都, 平成25年4月18-20日.
11. 佐田憲映, 山村昌弘, 藤井隆夫, 針谷正祥, 有村義宏, 榎野博史, 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 難治性血管炎に関する調査研究班: わが国の ANCA 関連血管炎の前向きコホート研究 Remit-JAV における有効性に関する解析. ワークショップ 血管炎2, 第57回日本リウマチ学会総会・学術集会, 京都, 平成25年4月18-20日.
12. 川上民裕, 石津明洋, 有村義宏, 小林茂人, 尾崎承一: 聖マリアンナ医科大学皮膚科で経験した皮膚型結節性多発動脈炎101例の集計. ワークショップ 血管炎3, 第57回日本リウマチ学会総会・学術集会, 京都, 平成25年4月18-20日.
13. 大學愛子, 高橋京子, 上條祐司, 杉山舞, 掛川哲司, 有村義宏: Capture ELISA による PR3-ANCA 測定が疾患活動性評価に有用であった多発血管炎性肉芽腫症の一例. ワークショップ 血管炎4, 第57回日本リウマチ学会総会・学術集会, 京都, 平成25年4月18-20日.
14. 有村義宏: ANCA 関連血管炎一診断治療の最新知見. ランチョンセミナー, 第57回日本リウマチ学会総会・学術集会, 京都, 平成25年4月18-20日.
15. 渡部香織, 針谷正祥, 佐田憲映, 山村昌弘, 藤井隆夫, 有村義宏, 榎野博史, 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 難治性血管炎に関する調査研究班: 抗好中球細胞質抗体関連血管炎の前向きコホート研究 Remit-JAV における治療開始後6か月間の重篤感染症解析. 第57回日本リウマチ学会総会・学術集会, 京都, 平成25年4月18-20日.
16. 小路仁, 磯村杏耶, 池谷紀子, 遠藤彰子, 高橋孝幸, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 胸腹水中で IL-6 の著名な高値を認めた, 関節リウマチの3症例. 第57回日本リウマチ学会総会・学術集会, 京都, 平成25年4月18-20日.
17. 福岡利仁, 清水英樹, 早川哲, 小路仁, 軽部美穂, 吉原堅, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: IgG4 関連疾患に対する免疫抑制薬の治療成績. 第57回日本リウマチ学会総会・学術集会, 京都, 平成25年4月

- 18-20日。
18. 有村義宏：ANCA 関連腎炎。診断から透析導入までの診療ガイド—国際化とエビデンスの構築—国際分類と日本における分類の比較，教育講演，第56回日本腎臓学会学術総会，東京，平成25年5月10-12日。
 19. 有村義宏：難治性血管炎に関する調査研究。公的班研究の現状と課題。第56回日本腎臓学会学術総会，東京，平成25年5月10-12日。
 20. 平山浩一，小林正貴，白井丈一，有村義宏，杉山斉，新田孝作，武曾恵理，和田隆志，山縣邦弘：抗 GBM 抗体型 RPGN における肺病変の検討。第56回日本腎臓学会学術総会，東京，平成25年5月10-12日。
 21. 軽部美穂，要伸也，福岡利仁，吉原堅，駒形嘉紀，要伸也，有村義宏，山田明：ネフローゼ症候群を合併した IgA 腎症の組織学的検討。第56回日本腎臓学会学術総会，東京，平成25年5月10-12日。
 22. 福岡利仁，齋藤督芸，村上華奈子，川嶋聡子，清水英樹，池谷紀子，早川哲，小路仁，駒形嘉紀，軽部美穂，吉原堅，要伸也，有村義宏，山田明：トルバプタンの CKD 合併浮腫に対する効果。第56回日本腎臓学会学術総会，東京，平成25年5月10-12日。
 23. 川嶋聡子，高橋孝幸，駒形嘉紀，要伸也，有村義宏，山田明：ループス腎炎の糸球体における MPO 陽性細胞と MPO 沈着についての病理組織学的検討。第56回日本腎臓学会学術総会，東京，平成25年5月10-12日。
 24. 要伸也：CKD 診療（とくに PD）におけるチーム医療～医師の視点から～。東京 CAPD 講座，東京，平成25年5月19日。
 25. Kawashima S, Komagata Y, Kaname S, Arimura Y, Yamada A: MPO-positive cells and extracellular MPO deposition are associated with capillary injury in glomerulonephritis. ISN World Congress of Nephrology meeting, Hong Kong May 31-June 3.2013.
 26. 軽部美穂：当院における Golimumab の使用経験。Medical Women's Conference On RA in Hiroshima, 広島，平成25年6月8日。
 27. 磯村杏耶，池谷紀子，要伸也，駒形嘉紀，有村義宏，山田明，長田純理，木戸直樹，大塚千尋，千葉厚郎：アルギニン酸製剤投与により著明な代謝性アシドーシスを呈した慢性腎不全の1例。三多摩腎疾患治療医会第65回研究会，東京，平成25年6月9日。
 28. Komagata Y, Amonpatumrat S, Sano K, Kawashima S, Kaname S, Arimura Y, Yamada A: Autoantibodies for several antigens in neutrophil cytoplasm other than PR3 and MPO also promote release of NETs from neutrophils. EULAR, Spain, Jun 12-15.2013.
 29. 佐藤綾，清水英樹，窪田沙也花，池谷紀子，駒形嘉紀，要伸也，有村義宏，山田明：長期経過で Churg-Strauss 症候群の再燃がみられた維持血液透析の1例。第58回日本透析医学会学術集会・総会，福岡，平成25年6月20-23日。
 30. 福岡利仁，小路仁，軽部美穂，吉原堅，駒形嘉紀，要伸也，有村義宏，山田明：保存期腎不全，腹膜透析症例におけるエポエチン- β ペゴル有効例と不応例の臨床的特徴。第58回日本透析医学会学術集会総会，福岡，平成25年6月20-23日。
 31. 浜井章，千々和京介，藤田直己，妹尾多位子，片山満代，平松佐紀子，則竹敬子，山田裕信，福岡利仁，軽部美穂，吉原堅，要伸也，山田明：血液透析患者における看護の必要量調査に関する現状と課題。第58回日本透析医学会学術集会総会，福岡，平成25年6月20-23日。
 32. 鈴木裕子，山田裕信，萬知子，軽部美穂，吉原堅，要伸也，山田明：アルガトロバンによる免疫吸着の1例。第58回日本透析医学会学術集会総会，福岡，平成25年6月20-23日。
 33. 山田裕信，鈴木裕子，村野祐司，萬知子，吉原堅，要伸也，山田明：新透析管理システムの導入。第58回日本透析医学会学術集会総会，福岡，平成25年6月20-23日。
 34. 浜井章，平松佐紀子，則竹敬子，福岡利仁，吉原堅，要伸也，山田明：糖尿病透析予防指導管理料算定に関する透析チームの取り組み。第58回日本透析医学会学術集会総会，福岡，平成25年6月20-23日。
 35. 磯村杏耶，池谷紀子，小路仁，吉原堅，駒形嘉紀，要伸也，有村義宏，山田明，岡野晴子，塩川芳昭：維持透析中に中枢神経障害を発症して診断された EGPA (CSS) の一例。第54回関東リウマチ研究会，東京，平成25年6月22日。
 36. 軽部美穂：PD 合併症。CAPP ナースカレッジ，多摩，平成25年6月27日。
 37. 要伸也：診療ガイドラインについて。第8回三鷹市民公開講座「腎臓について考えるフォーラム」，三鷹，平成25年6月29日。
 38. 片岡郁穂，磯村杏耶，齋藤督芸，軽部美穂，駒形嘉紀，要伸也，有村義宏，山田明：MPGN に IgA の係蹄壁沈着を伴った一例。第14回東京腎炎・ネフローゼ研究会，東京，平成25年7月6日。
 39. 有村義宏：ANCA 関連血管炎—最近の進歩—。千駄木リウマチ膠原病セミナー，東京，平成25年7月11日。
 40. 有村義宏：ANCA 関連血管炎—最近の話題—。第13回膠原病フォーラム，松山，平成25年7月13日。
 41. 有村義宏：ANCA 関連腎炎。—最近の進歩—。第6回東京腎炎セミナー，東京，平成25年9月10日。
 42. 軽部美穂：関節リウマチ患者におけるステロイド減量・離脱の検討。第2回多摩リウマチカンファレンス，東京，平成25年9月14日。
 43. 池谷紀子，中島瑛里子，宮澤さやか，岩澤彰子，川嶋聡子，駒形嘉紀，要伸也，有村義宏，山田明：尿細管間質性病変が主体であった顕微鏡的多発血管炎の1例。第17回腎間質障害研究会，東京，平成25年9月14日。
 44. 川嶋聡子，中島瑛里子，栗田瑛里子，宮澤さやか，池谷紀子，駒形嘉紀，要伸也，有村義宏，山田明，小川有紀，長田純理，大石知瑞子，千葉厚郎：尿細管間質性腎炎による腎機能障害を認めた顕微鏡的多発

- 血管炎の一例. 第17回腎間質障害研究会, 東京, 平成25年9月14日.
45. 福岡利仁, 早川哲, 清水英樹, 遠藤彰子, 磯村杏耶, 齋藤督芸, 川嶋聡子, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 当院CKD症例に対するトルバプタンの効果についての検討. 第45回臨床体液研究会, 東京, 平成25年9月21日.
 46. 清水英樹, 要伸也, 高野秀樹, 石橋由孝, 宮澤さやか, 高橋孝幸, 櫻井仁子, 窪田沙也花, 軽部美穂, 山田明: 腹膜透析導入時の医療連携がもたらす効果について. 第19回日本腹膜透析医学会, 大阪, 平成25年9月28-29日.
 47. 有村義宏: 急速進行性糸球体腎炎—最近の知見—CKD学術講演会・FROM-J地域連携ミーティング, 浦和, 平成25年9月30日.
 48. 要伸也: 酸塩基平衡の症例検討. 平成25年度東京都病院薬剤師会輸液・栄養領域薬剤師研究会, 立川, 平成25年10月3日.
 49. 宮澤さやか, 清水英樹, 軽部美穂, 中島瑛里子, 高橋孝幸, 窪田沙也花, 早川哲, 下山田博明, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: ステロイド治療のみで改善したSLEに伴うTTPの1症例. 第43回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 平成25年10月4-12日.
 50. 中島瑛里子, 池谷紀子, 宮澤さやか, 遠藤彰子, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 尿細管間質性腎炎による腎機能障害を認めた顕微鏡的多発血管炎の一例. 第43回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 平成25年10月4-12日.
 51. 遠藤彰子, 池谷紀子, 磯村杏耶, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 半月体形成, 係蹄壁へのIgAの顆粒上沈着を伴った若年女性のRPGN例. 第43回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 平成25年10月4-12日.
 52. 磯村杏耶, 池谷紀子, 要伸也, 駒形嘉紀, 長田純理, 大塚千尋, 木戸直樹, 千葉厚郎, 有村義宏, 山田明: L-アルギニン製剤投与により著明な代謝性アシドーシスを呈した慢性腎不全の一例. 第43回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 平成25年10月4-12日.
 53. Kawashima S, Arimura Y, Maesono T, Murakami K, Sato A, Kubota S, Saitou M, Yoshihara K, Komagata Y, Kaname S, Yamada Y: Relapse of tubulointerstitial nephritis with glomerulonephritis in a patient with Sjogren syndrome. The 12 th International Symposium on Sjogren's Syndrome. Kyoto, Oct 10-12. 2013.
 54. Saito M, Kaname S, Murakami K, Fukuoka K, Karube M, Komagata Y, Arimura Y, Yamada A: A case of primary Sjogren's syndrome complicated by immunotactoid glomerulopathy. The 12 th International Symposium on Sjogren's Syndrome. Kyoto, Oct 10-12. 2013.
 55. 遠藤彰子, 池谷紀子, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 自己免疫性血球減少症を合併したフェルタイー症候群の1例. 第52回多摩リウマチ研究会, 東京, 平成25年10月12日.
 56. 池谷紀子, 有村義宏, 片岡郁穂, 磯村杏耶, 遠藤彰子, 駒形嘉紀, 要伸也, 山田明: リツキシマブが有効であった慢性腎不全合併多発血管炎性肉芽腫症. 第6回西関東血管炎フォーラム, 東京, 平成25年10月17日.
 57. 清水英樹, 要伸也, 池谷紀子, 福岡利仁, 軽部美穂, 山田明: テルミサンタン内服による腎保護効果—肥満との関連について—. Meet the Experts 2013, 東京, 平成25年10月19日.
 58. 村上華奈子, 齋藤督芸, 駒形嘉紀, 吉原堅, 要伸也, 有村義宏, 山田明, 中元康雄, 石田学, 檜垣学, 滝澤始, 河内利賢, 呉屋朝幸, 藤原正, 矢澤卓也, 菅間博: 肺生検により確定診断に至ったMPO-ANCA陽性多発血管炎性肉芽腫症(GPA)の一例. 第18回血管病理研究会, 北海道, 平成25年10月19日-20日.
 59. 川嶋聡子, 小西文晴, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明, 岡野晴子, 西山和利, 平野和彦, 寺戸雄一, 倉田厚, 菅間博: 顕微鏡的多発血管炎の剖検例 脳梗塞を初発とした全身型ANCA関連血管炎. 第17回血管病理研究会, 東京, 10月26日.
 60. Harigai M, Ken-ei Sada, Takao Fujii, Masahiro Yamamura, Yoshihiro Arimura, Hirofumi Makino, for the Research Committee on Intractable Vasculitides, the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan: High Clinical Remission Rate with Relatively High Incidence of Serious Infection in Newly-Onset ANCA-Associated Vasculitides in Japan.- A Report from the Nationwide Prospective Cohort Study. USA. Oct. 26-30.2013.
 61. 軽部美穂, 要伸也, 鈴木裕子, 駒形嘉紀, 有村義宏, 山田明: 難治性ループスに対し, 抗凝固剤にアルガトロバンを使用し免疫吸着を施行した1例. 第34回日本アフエレーシス学会学術大会, 軽井沢, 11月1日-3日.
 62. Kawashima S, Arimura Y, Komagata Y, Kaname S, Yamada A: MPO-positive cells and extracellular MPO are associated with capillary injury in glomeruli in lupus nephritis. American Society of Nephrology meeting, USA, Nov 5-10, 2013.
 63. 有村義宏: 「ANCA関連血管炎—病態と臨床—」. 第20回岩手県自己免疫疾患研究会, 盛岡, 平成25年11月15日.
 64. 福岡利仁, 清水英樹, 早川哲, 齋藤督芸, 川嶋聡子, 軽部美穂, 磯村杏耶, 遠藤彰子, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 保存期CKDにおけるエポエチンベータペゴル(ミルセラ®)の反応性に関与する因子の臨床的検討. 第22回腎とエリスロポエチン研究会, 東京, 平成25年11月16日.
 65. 磯村杏耶, 池谷紀子, 要伸也, 駒形嘉紀, 長田純理, 木戸直樹, 大塚千尋, 千葉厚郎, 有村義宏, 山田明: L-アンギニン製剤投与により著明な代謝性アシドーシスを呈した慢性腎不全の1例. 第42回杏林医学会総会, 杏林大学医学部学生講義棟, 平成25年11月16日.
 66. 要伸也: CKDにおける降圧治療. Hypertension Forum 特別講演, 吉祥寺, 平成25年11月19日.

67. 要伸也：ANCA 関連血管炎・腎炎の最近の話題．倉敷腎臓病講演会，倉敷，平成25年11月21日．
68. 池谷紀子，有村義宏，片岡郁穂，磯村杏耶，遠藤彰子，駒形嘉紀，要伸也，山田明：リツキシマブが有効であった慢性腎不全合併多発血管炎性肉芽腫症（Granulomatosis with polyangiitis; GPA）の一例．第41回日本臨床免疫学会，下関，平成25年11月27日-29日．
69. 有村義宏：ANCA 関連血管炎の最新治療戦略．第41回日本臨床免疫学会ランチタイム教育講演，下関，平成25年11月27-29日．
70. 有村義宏：ANCA 関連血管炎—基礎・臨床の進歩—．第7回北里血管炎フォーラム，平成25年12月2日．
71. 高橋孝幸，清水英樹，要伸也，片岡郁穂，前園宏宏，中島瑛理子，宮澤さやか，櫻井仁子，小林昌史，村上華奈子，磯村杏耶，遠藤彰子，窪田沙也花，齋藤督芸，川嶋聡子，池谷紀子，早川哲，小路仁，駒形嘉紀，有村義宏，山田明：当院における緊急透析を要した救急患者CKD 症例の検討．第66回三多摩腎疾患治療医会，三鷹，平成25年12月8日．
72. 川口翔平，早川哲，宮澤さやか，小林昌史，軽部美穂，要伸也，駒形嘉紀，有村義宏，山田明：関節リウマチ（RA）に血栓性微小血管障害症（TMA）を合併し治療に難渋した1症例．第602回日本内科学会関東地方会，東京，平成25年12月14日．
73. 有村義宏：ANCA 関連血管炎の診療ガイドラインについて．第17回膠原病症例検討会，大阪，平成26年1月11日．
74. 要伸也：慢性腎臓病（CKD）の療養指導．第17回日本病態栄養学会，シンポジウム 慢性疾患の療養指導，大阪，平成26年1月11日．
75. 有村義宏：ANCA 関連血管炎．中外製薬 第2回 MR 専門研修会，東京，平成26年1月23日．
76. 要伸也：ANCA 関連血管炎・腎炎の最近の話題．東京大学先端研臨床エビデンス・ネティクス講座セミナー，東京，平成26年2月3日．
77. 有村義宏：ANCA 関連血管炎—最近の知見—．第27回香川膠原病研究会，高松，平成26年2月8日．
78. 要伸也：基礎から学ぶ腎疾患—臨床検査とのかかわりをふまえて—．第7回多摩尿検査講習会，教育講演，立川，平成26年2月8日．
79. 有村義宏：ANCA 関連血管炎—診断治療の最新知見—．水戸地区血管炎研究会 第3回学術講演会，水戸，平成26年2月13日．
80. 有村義宏：ANCA 関連血管炎—診断治療の最新知見—．千葉血管炎セミナー2014，千葉，平成26年2月22日．
81. 福岡利仁：アンケート結果報告～多摩地区のPD 療法の現状～ 第9回多摩PD 研究会，吉祥寺，26年2月22日．
82. 山田裕信，村野祐司，萬知子，曹由美，濱井章，則竹敬子，軽部美穂，要伸也，山田明：当院における透析管理システムの現状．第42回東京透析懇談会，東京，平成26年2月23日．
83. 軽部美穂，要伸也，高橋孝幸，川嶋聡子，駒形嘉紀，有村義宏，山田明：妊娠合併難治性ループス腎炎に対し免疫吸着療法を行い，出産に成功した1例．第24回腎と妊娠研究会，川越，平成26年3月1日．
84. 有村義宏：ANCA 関連血管炎—診断治療の最新知見—．第3回熊本 ANCA 関連血管炎フォーラム，熊本，平成26年3月6日．
85. 有村義宏：ANCA 関連血管炎—臨床の最新知見—．宮崎血管炎セミナー，宮崎，平成26年3月18日．
86. 要伸也：糖尿病性腎症の最近の話題．第16回南東京腎と糖尿病研究会．東京，平成26年3月27日．

平成24年度追加分

1. 軽部美穂：第1回 適正透析．ナースカレッジ PD Rescue Course，東京，平成24年5月31日．
2. 軽部美穂：当院における Golimumab の使用経験．Forecast in Rheumatology，東京，平成24年10月16日．

論文

1. 駒形嘉紀：難治性の病態 マクロファージ活性化症候群と血球貪食症候群．日本内科学会雑誌102:2639-2644, 2013.
2. Kawashima S, Arimura Y, Sano K, Kudo A, Komagata Y, Kaname S, Kawakami H, Yamada A: Immunopathologic co-localization of MPO, IgG, and C3 in glomeruli in human MPO-ANCA-associated glomerulonephritis. Clin Nephrol. 2013;79(4):292-301,2013.
3. Arimura Y, Kawashima S, Yoshihara K, Komagata Y, Kaname S, Yamada A: The role of myeloperoxidase and myeloperoxidase-antineutrophil cytoplasmic antibodies(MPO-ANCAs) in the pathogenesis of human MPO-ANCA-associated glomerulonephritis. Clin Exp Nephrol17:634-637.
4. Yoshihara K, Nomura K, Yoshihara K, Kawashima S, Komagata Y, Kaname S, Arimura Y, Yamada A : AP-VAS 2012 case report: MPO-ANCA-negative relapse of MPO-ANCA-associated vasculitis. CEN Case Rep, DOI 10.1007/s13730-013-0100-3, 2013.
5. 有村義宏：腎疾患に対する薬剤の使用法 ANCA 関連血管炎（顕微鏡的多発血管炎，多発血管炎性肉芽腫症，好酸球性多発血管炎性肉芽腫症）．腎と透析 74増刊号：196-198,2013.
6. 有村義宏：腎梗塞．腎と透析 74増刊号：261-263,2013.
7. 有村義宏：顕微鏡的多発血管炎の予後．リウマチ科 49(6):673-678,2013.
8. 要伸也：最新の知識で答える水電解質106の疑問：K の調節はどのように行われていますか？ 腎と透析74: 659-661, 2013.
9. 要伸也：最新の知識で答える水電解質106の疑問：酸塩基平衡と K 濃度の関係は？ 腎と透析74: 662-664, 2013.
10. 要伸也：最新の知識で答える水電解質106の疑問：高 K 血症の原因と治療は？ 腎と透析74: 671-673, 2013.
11. 要伸也：血栓性微小血管症（TMA;TTP/HUS）の最

- 新知見: 血液関連非典型 HUS. 腎と透析74: 33-37, 2013.
12. 要伸也: Fishberg 法. 検査値を読む2013. 内科 111: 1265, 2013.
 13. 遠藤彰子, 要伸也: トランスポーター異常による腎疾患: Bartter 症候群. Nephrology Frontier 12: 22-27, 2013.
 14. 有村義宏: 顕微鏡的多発血管炎. 医学のあゆみ .246(1):37-43,2013.
 15. 有村義宏: 血管炎の最新知見. 第110回日本内科学会講演会 教育講演日本内科学会雑誌 .102(9):2382-2390,2013.
 16. 松田朝子, 有村義宏, 吉原堅, 駒形嘉紀, 要伸也, 山田明: 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 (Churg-Strauss 症候群) 寛解期の末梢神経障害に対する大量 γ グロブリン療法の有効性. 日本臨床免疫学会誌 36(4):217-225,2013.
 17. 木村健二郎, 岡田浩一, 今井裕一, 田村功一, 西慎一, 和田隆志, 福井次矢, 松尾清一, 湯澤由紀夫, 有村義宏, 堀江重郎, 丸山彰一, 今井圓裕, 守山敏樹, 池住洋平, 石倉健司, 井関邦敏, 上田仁康, 小尾佳嗣, 大野岩男, 貝藤裕史, 香美祥二, 金崎啓造, 要伸也, 川田典孝, 河原崎宏雄, 北川清樹, 北田宗弘, 小井手裕一, 古家大祐, 後藤俊介, 後藤眞, 後藤憲彦, 近藤秀治, 佐古まゆみ, 柴垣有吾, 嶋英昭, 庄司哲雄, 新沢真紀, 鈴木芳樹, 諏訪部達也, 坪井伸夫, 鶴岡秀一, 徳山博文, 富田亮, 長澤康行, 西尾妙織, 長谷部直幸, 花房規男, 濱ひとみ, 早川洋, 原章規, 深川雅史, 藤井直彦, 藤井秀毅, 藤野貴行, 古市賢吾, 丸山達也, 丸山之進, 三浦健一郎, 三浦直人, 三ツ木加代, 武藤智, 望月俊雄, 森一越, 谷澤雅彦, 安田宜成, 山本裕康, 山本陵平, 脇野修, 鷺田直輝, 渡辺裕輔, 原田浩, 荒木信一, 伊藤貞嘉, 上村治, 白井丈一, 内田俊也, 宇津貴, 宇都宮保典, 風間順一郎, 柏原直樹, 川村哲也, 栗山哲, 小松康宏, 齊藤喬雄, 斎藤知栄, 酒井謙, 佐田憲映, 四方賢一, 杉山齊, 竹村司, 土谷健, 椿原美治, 成田一衛, 服部元史, 花岡一成, 馬場園哲也, 樋口誠, 平野勉, 星野純一, 堀尾勝, 山縣邦弘, 横山啓太郎, 横山仁, 吉川徳茂, 渡邊有三, 船橋徹, 益崎裕章, エビデンスに基づく CKD 診療ガイドライン2013作成委員会, 日本腎臓学会: 日本腎臓学会誌 .55(5) :585-860,2013.
 18. Komagata Y, Nomura K, Yoshihara K, Kawashima S, Kaname S, Arimura Y, Yamada A: AP-VAS2012 case report: MPO-ANCA-negative relapse of MPO-ANCA-associated vasculitis. CEN Case Reports. 2:180-183, 2013.
 19. Yamagata K, Usui J, Sugiyama H, Nitta K, Wada T, Muso E, Arimura Y, Koyama A, Makino H, Matsuo S: Clinical finding on ANCA-associated renal vasculitis from the Japan RPGN registry obtained via a questionnaire survey. Clin Exp Nephrol.17:646-649,2013.
 20. 有村義宏, 吉原堅: ANCA 関連血管炎. 炎症と免疫 22(1):24-27,2014.
 21. 有村義宏, 池谷紀子: リツキシマブ; ANCA 関連血管炎. 腎と透析 76(1):82-85, 2014.
 22. 有村義宏: 血管炎 アレルギーの視点から. アレルギーの臨床34(1):28-31,2014.
 23. Sawai T, Nangaku M, Ashida A, Fujimaru R, Hataya H, Hidaka Y, Kaname S, Okada H, Sato W, Yasuda T, Yoshida Y, Fujimura Y, Hattori M, Kagami S: Diagnostic criteria for atypical hemolytic uremic syndrome proposed by the Joint Committee of the Japanese Society of Nephrology and the Japan Pediatric Society. Clin Exp Nephrol. 2014 Feb;18(1):4-9.
 24. 有村義宏: RPGN(急速進行性糸球体腎炎症候群). 日本腎臓学会誌 55(5):140-150, 2013.
- 著書**
1. 清水英樹, 要伸也, 藤田敏郎: 腎臓への特異的 DDS 技術の動向. DDS 製剤の開発・評価と実用化手法抜刷, 技術情報協会, 2013, p.55-59.
 2. 佐藤綾, 要伸也: 血液ガスの読み方. 認定医・専門医のための輸液・電解質・酸塩基平衡. 中山書店, 東京, 2013.p.55-59.
 3. 要伸也: 免疫複合体. 透析患者の検査値の読み方, 改訂第3版. 日本メディカルセンター, 2013.p.422-423.
 4. 佐藤綾, 要伸也: 血液ガスの読み方. 認定医・専門医のための輸液・電解質・酸塩基平衡. 中山書店, 東京, 2013.p.55-59.
 5. 要伸也: 免疫複合体. 透析患者の検査値の読み方, 改訂第3版. 日本メディカルセンター, 2013.p.422-423.
 6. 要伸也: 腎・尿路感染症, 改訂第8版. 中山書店, 2013.p.505-510.
 7. 要伸也: 尿管管性アシドーシス. 腎臓内科分野監修, 木村健二郎. 今日の臨床サポート. 永井良三, 福井次矢, 木村健二郎, 上村直実, 桑島 巖, 今井 靖, 嶋田 元, 編. エルゼビア・ジャパン, 2013 (ウェブサイト: <http://clinicalsup.jp/jpoc/>)
 8. 要伸也: エビデンスに基づく CKD 診療ガイドライン: RPGN (急速進行性糸球体腎炎) RPGN と CKD, CQ1. p140-144, 日本腎臓学会編集, 東京医学社, 2013.
 9. Kaname S, & Yamamoto T: Renal disease-related proteome, In Quantitative Proteome Analysis: Methods and Applications, Imai K, Li SFY, eds.; p149-174, Pan Stanford Publishing, 2013.
 10. 有村義宏: 抗好中球細胞質抗体 (ANCA), 抗糸球体基底膜 (GBM) 抗体. 透析患者の検査値の読み方. 深川雅史編集, 東京, 日本メディカルセンター, 2013.p.303-305.
 11. 要伸也: 腎盂腎炎 (急性・慢性). 今日の治療指針2014年版 (山口 徹, 北原光夫 監修), 医学書院, 2014. p.578-580.
 12. 有村義宏: 厚労省の診断基準, 病型分類. ANCA 関連血管炎の診療ガイドライン (2014年改訂版). 厚生労働省難治性疾患克服研究事業. 尾崎承一, 榎野

博史編集, 東京, 第一資料印刷, 2014.p.20-22.

13. 有村義宏: 血管炎に伴う腎症 (ANCA 関連血管炎). 腎疾患・透析 最新の治療. 榎野博史, 秋澤忠男, 山縣邦弘編集, 東京, 南江堂, 2014.p.196-199.

第一内科学教室 (神経内科)

口 演

1. 傳法倫久: 脳梗塞急性期の治療と2次予防—特に脳梗塞急性期血行再建治療を中心に. Ichikawa Exact Meeting, 市川, 平成25年4月
2. 傳法倫久: 脳卒中の再発予防～EPAの新展開を中心に～. 第11回小金井臨床懇話会, 三鷹, 平成25年4月
3. 小川有紀, 大塚千尋, 田中雅貴, 木戸直樹, 山田智美, 長田純理, 内堀歩, 大石知瑞子, 宮崎泰, 千葉厚郎: 非閉塞性脳脊髄液循環異常症を疑い脳脊髄液排除試験を施行した16症例についての検討. 第54回日本神経学会学術大会, 東京, 平成25年5月29日-6月1日.
4. 大石知瑞子, 園生雅弘¹, 今福一郎², 三好光太², 千葉厚郎 (¹帝京大学, ²横浜労災病院): 針筋電図で証明された L5 far-out syndrome の3症例. 第54回日本神経学会学術大会, 東京, 平成25年5月29日-6月1日.
5. 千葉厚郎, 内堀歩: 組換え蛋白・ペプチドアレーによる SynapsinI 抗体の反応性の検討. 第54回日本神経学会学術大会, 東京, 平成25年5月29日-6月1日
6. 内堀歩, 千葉厚郎: 急性小脳性運動失調症 (acute cerebellar ataxia: ACA) の免疫治療. 第54回日本神経学会学術大会, 東京, 平成25年5月29日-6月1日
7. 大塚千尋, 内堀歩, 千葉厚郎: 傍腫瘍性神経症候群関連抗神経抗体陽性患者の臨床像. 第54回日本神経学会学術大会, 東京, 平成25年5月29日-6月1日
8. 田中雅貴, 内堀歩, 小川有紀, 山田智美, 長田純理, 岡野晴子, 大石知瑞子, 宮崎泰, 西山和利¹, 千葉厚郎, 窪田博² (¹北里大学, ²杏林大学心臓血管外科): 心臓血管外科手術後の神経合併症-術後痙攣に関して [続報]. 第54回日本神経学会学術大会, 東京, 平成25年5月29日-6月1日.
9. 野村英樹¹, 大石知瑞子, 松田剛明² (¹杏林大学医学研究科, ²杏林大学救急医学科): ER 診療における神経内科医の役割の重要性. 第54回日本神経学会学術大会, 東京, 平成25年5月29日-6月1日.
10. 木村浩晃, 傳法倫久, 谷崎義生, 美原盤: 3D-Xe-CTによる認知症脳血流評価の試み. 第54回日本神経学会学術大会. 東京. 平成25年5月29日-6月1日.
11. 千葉厚郎: レベチラセタムの使用経験: 神経内科の立場から. てんかん学術講演会, 武蔵野, 平成25年6月6日.
12. 富樫尚彦, 岡野晴子, 池田謙輔, 角谷真人, 千葉厚郎: 脳出血で発症し, 多発脳梗塞を合併した Churg-Strauss 症候群の74歳男性例. 第205回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 平成25年6月8日.
13. 古川裕一, 北國圭一, 小川剛, 畑中裕己, 園生雅弘, 内堀歩, 千葉厚郎: IgM- λ 型M蛋白を伴った, MAG抗体陽性ニューロパチーの68歳女性例. 第205回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 平成25年6月8日.
14. 磯村杏耶, 池谷紀子, 要伸也, 駒形嘉紀, 長田純理, 大塚千尋, 木戸直樹, 千葉厚郎, 有村義宏, 山田明: L-アルギニン製剤投与により著明な代謝性アシドーシスを呈した慢性腎不全の一例. 第65回三多摩腎疾患治療医会研究会, 三鷹, 平成25年6月9日.
15. 傳法倫久: 脳梗塞急性期治療における最近の話題. 榎原記念病院定例講演会, 府中, 平成25年6月
16. 小川有紀, 富樫尚彦¹, 岡野晴子, 池田謙輔, 角谷真人¹, 千葉厚郎 (¹防衛医科大学校 抗加齢血管内科・神経内科): 脳出血で発症し, 多発脳梗塞を合併した Churg-Strauss 症候群の74歳男性例. 第53回三鷹ニューロ研究会, 三鷹, 平成25年7月4日.
17. 綾野瑞樹, 田中雅貴, 大石知瑞子, 佐藤泰紀, 高梨遼, 宮崎泰, 千葉厚郎: 左半身の感覚障害で発症し, tumefactive MS との鑑別を要した後頭葉膠芽腫の一例. 第53回三鷹ニューロ研究会, 三鷹, 平成25年7月4日.
18. 千葉厚郎: パーキンソン病の診断と治療の実際. 大日本住友製薬講演会, 多摩, 平成25年7月9日.
19. 傳法倫久: 脳梗塞急性期治療の最近の話題 (脳梗塞急性期のカテーテル治療を中心に). 興和創薬株式会社社内講演会, 立川, 平成25年7月
20. Oishi C, Sonoo M¹, Kurono H¹, Hatanaka Y¹, Shimizu T¹, Chiba A, Sakuta M. (¹Teikyo Univ.): A new pitfall in sensory conduction study of the lateral antebrachial cutaneous (LAC) nerve spread of the radial nerve. 5th Asian and Oceanian congress of clinical neurophysiology, Indonesia, August 28-31, 2013.
21. 千葉厚郎: 自己免疫性神経疾患の診断と治療: 神経疾患と自己抗体. 日本血液製剤機構講演会, 東京, 平成25年9月3日.
22. 綾野水樹, 田中雅貴, 大石知瑞子, 宮崎泰, 小林啓一¹, 下山田博明², 永根基雄¹, 千葉厚郎 (1杏林大学脳神経外科, 2杏林大学病理学教室): 発症初期より髄腔内転移を認めた神経膠芽腫の43歳男性例. 第206回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 平成25年9月7日.
23. 田中雅貴, 内堀歩, 小川有紀, 山田智美, 長田純理, 岡野晴子, 大石知瑞子, 宮崎泰, 千葉厚郎, 窪田博, 西山和利: 心臓血管外科手術後の神経合併症-術後痙攣に関して-. 東京 Epilepsy カンファレンス 2013, 東京, 平成25年9月28日.
24. 傳法倫久: 脳梗塞急性期治療の最前線. 流山中央病院講演会, 流山, 平成25年10月.
25. 脊山英徳, 傳法倫久, 山田深, 岡村耕一, 佐藤栄志, 小西善史, 塩川芳昭: 同一チームによる頸動脈狭窄症連続198例の治療成績. 日本脳神経外科学会第72回学術総会, 横浜, 平成25年10月.
26. 清水淑恵, 岡村耕一, 小松原弘一郎, 脊山英徳, 傳

- 法倫久, 佐藤栄志, 山田深, 小西善文, 塩川芳昭: 当院での急性期脳梗塞に対する t-PA 静注療法後の血管内再開通療法の効果について. 日本脳神経外科学会第72回学術総会, 横浜, 平成25年10月.
27. Yuki Ogawa, Tomohisa Dembo, Naohiko Togashi, Haruko Okano, Kensuke Ikeda, Masato Kadoya, Satomi Yamada, Kentaro Nagai, Yoshiaki Shiokawa, Atsuro Chiba: Intracerebral hemorrhage followed by multiple cerebral infarcts as the first clinical manifestation in a patient with Churg-Strauss syndrome: case report, The 6th Korea-Japan Joint Stroke Conference, Osaka, Oct. 5-6, 2013.
 28. 川嶋聡子, 小西文晴, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明, 岡野晴子, 西山和利, 平野和彦, 寺戸雄一, 倉田厚, 菅間博: 顕微鏡的多発血管炎の剖検例 脳梗塞を初発とした全身型 ANCA 関連血管炎. 第54回日本脈管学会総会, 東京, 平成25年10月10-12日.
 29. Oishi C, Sonoo M¹, Kurono H¹, Chiba A (1Teikyo Univ.): The anatomical variation of the lateral antebrachial cutaneous (LAC) nerve and superficial radial (SR) nerve documented using the nerve conduction study. American Association of Neuromuscular and Electrodiagnostic Medicine 60th Annual Meeting, USA, Oct.16-19, 2013.
 30. Oishi C, Sonoo M¹, Tachibana S², (1Teikyo Univ., 2Kameda Medical Center): Tarsal tunnel syndrome (TTS) affecting medial plantar nerve documented by the double peaked tibial compound muscle action potential (CMAP). American Association of Neuromuscular and Electrodiagnostic Medicine 60th Annual Meeting, USA, Oct.16-19, 2013.
 31. Konoeda F¹, Sonoo M², Ando T³, Shozawa Y², Hatanaka Y², Oishi C, Higashihara M⁴, Sengoku R⁵, Suzuki N¹, (1Keio Univ., 2Teikyo Univ., 3Anjo Kosei Hosp., 4National Defense Medical College, 5Jikei Univ.): Clinical and electrophysiological features of true neurogenic thoracic outlet syndrome. American Association of Neuromuscular and Electrodiagnostic Medicine 60th Annual Meeting, USA, Oct.16-19, 2013.
 32. 大石知瑞子, 園生雅弘, 畑中裕己, 清水輝夫, 千葉厚郎: 神経伝導検査によって確認しえた外側前腕皮神経と橈骨神経の解剖学的変異について. 第43回日本臨床神経生理学会学術大会, 高知, 平成25年11月7-9日.
 33. 磯村杏耶, 池谷紀子, 要伸也, 駒形嘉紀, 長田純理, 大塚千尋, 木戸直樹, 千葉厚郎, 有村義宏, 山田明: L-アルギニン製剤投与により著明な代謝性アシドーシスを呈した慢性腎不全の一例. 第42回杏林医学学会総会, 三鷹, 平成25年11月16日.
 34. 千葉厚郎: CIDP の病態と治療: 最近の話題. 第2回茨城神経免疫研究会, 筑波, 平成25年11月20日.
 35. 千葉厚郎: 糖脂質抗体関連ニューロパチー: 基本と最近の話題. 第31回日本神経治療学会総会, 東京, 平成25年11月21-23日.
 36. 内堀歩, 千葉厚郎: ガングリオシド複合による抗原抗体反応増強の機序に関する検討. 第25回日本神経免疫学会学術集会, 下関, 平成25年11月27-29日.
 37. 千葉厚郎, 内堀歩: 抗 synapsin Ia 抗体の測定系の検討. 第25回日本神経免疫学会学術集会, 下関, 平成25年11月27-29日.
 38. 田中雅貴, 岡野晴子, 傳法倫久, 千葉厚郎: 末梢性右舌下神経麻痺のみを呈した頭蓋外右内頸動脈解離の45歳男性例. 第207回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 平成25年11月30日.
 39. 金澤隆三郎, 落合育雄, 河野和幸, 傳法倫久: Hybrid Neurosurgery を目指しての1年目. 第29回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 新潟, 平成25年11月.
 40. 落合育雄, 河野和幸, 金澤隆三郎, 傳法倫久: 当院における Penumbra 再灌流カテーテルの使用経験. 第29回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 新潟, 平成25年11月.
 41. 清水淑恵, 小松原弘一郎, 岡村耕一, 脊山英徳, 傳法倫久, 佐藤栄志, 小西善文, 塩川芳昭: 肺癌周術期に発症した心原性脳塞栓症に対し急性期血行再建を行った3例. 第29回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 新潟, 平成25年11月.
 42. 大川原舞, 金澤隆三郎, 落合育雄, 傳法倫久: 症候性の内頸動脈解離に対してステント留置術を行った1例. 第29回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 新潟, 平成25年11月.
 43. 落合育雄, 金澤隆三郎, 傳法倫久: 段階的複合治療を要した内頸動脈海綿静脈洞瘻の1例. 第29回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 新潟, 平成25年11月.
 44. 小松原弘一郎, 佐藤栄志, 脊山英徳, 傳法倫久, 小西善文, 塩川芳昭: 当院における急性期主幹動脈閉塞に対する血行再建療法の現状. 第29回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 新潟, 平成25年11月.
 45. 大石知瑞子, 園生雅弘¹, 畑中裕己¹, 清水照夫¹, 千葉厚郎 (1帝京大学): 神経伝導検査によって確認しえた外側前腕皮神経と橈骨神経の解剖学的変異について. 第43回日本臨床神経生理学会学術集会, 高知, 平成25年11月7-9日.
 46. 神谷久雄¹, 園生雅弘¹, 千葉隆司¹, 大石知瑞子, 溝井令一², 畑中裕己¹ (1帝京大学, 2埼玉医大): Palmar mixed method の pitfall. 第43回日本臨床神経生理学会学術集会, 高知, 平成23年11月7-9日.
 47. 千葉厚郎, 内堀歩, 加藤知子: 抗 synapsin Ia 抗体測定系の検討. 平成25年度厚生労働省難治性疾患等克服研究事業・『免疫性神経疾患に関する調査研究』班班会議, 東京, 平成26年1月22日.
 48. 永井健太郎, 小川有紀, 内堀歩, 岩田真由美, 日下邊直樹, 倉井大輔, 宮崎泰, 千葉厚郎: 結核性髄膜炎治療後, 遅発性に神経根痛が出現し胸髄結核腫に関連した paradoxical reaction と考えられた33歳女性例. 第208回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 平成26年3月1日.

49. Oishi C, Sonoo M¹, Chiba A (¹Teikyo Univ.): Validity of the 50% rule for the nerve conduction study of the lower-limb. 30th International Congress on clinical Neurophysiology (ICCN) of the IFCN, Germany, March 19-23, 2014.
50. Kamiya H¹, Sonoo M¹, Chiba T¹, Oishi C, Mizoi R², Hatanaka Y¹, (¹Teikyo Univ., ²Saitama Univ.): Pitfall of the palmar mixed method. 30th International Congress on clinical Neurophysiology (ICCN) of the IFCN, Germany, March 19-23, 2014.

論文

1. Dembo T, Deguchi I, Fukuoka T, Nagoya H, Maruyama H, Kato Y, Horiuchi Y, Ohe Y, Tanahashi N: Additional endovascular therapy in patients with acute ischemic stroke who are nonresponsive to intravenous tissue plasminogen activator: usefulness of magnetic resonance angiography-diffusion mismatch. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 22: 1056-1063, 2013.
2. Dembo T, Tanahashi N: Opalski syndrome caused by vertebral artery compression of the lateral surface of the medulla oblongata. *Intern Med* 52: 1115-1120, 2013.
3. 傳法倫久: 椎骨動脈による延髄圧迫で Opalski 症候群を呈した一例. *分子脳血管病* 12: 315-320, 2013.
4. Kato Y, Fukuoka T, Dembo T, Takeda H, Tanahashi N: Recurrent transient hemiparesis in a patient with a giant persisting Eustachian valve and patent foramen ovale: atypical hemiplegic migraine or paradoxical cerebral embolism? *Intern Med* 52: 1523-1525, 2013.
5. Ohe Y, Dembo T, Horiuchi Y, Maruyama H, Deguchi I, Fukuoka T, Kato Y, Nagoya H, Ishihara S, Tanahashi N: Clinical review of 28 patients with basilar artery occlusion. *J Stroke Cerebrovasc Dis*. 22:358-363, 2013.
6. Deguchi I, Dembo T, Fukuoka T, Nagoya H, Maruyama H, Kato Y, Ohe Y, Horiuchi Y, Uchino A, Tanahashi N: Magnetic resonance angiography-diffusion mismatch reflects diffusion-perfusion mismatch in patients with hyperacute cerebral infarction. *J Stroke Cerebrovasc Dis*. 22:334-339, 2013.
7. 千葉厚郎: Guillain-Barré 症候群に伴う自律神経障害 - 最近の進歩. *末梢神経*24: 38-43, 2013.
8. 千葉厚郎: 末梢性顔面神経麻痺 (ベル麻痺). *日本医師会雑誌* 142: S226-S227, 2013.
9. 千葉厚郎: Miller Fisher 症候群. *Clinical Neuroscience* 31: 620-621, 2013.
10. 内堀 歩, 千葉厚郎: ギラン・バレー症候群の治療と予後予測. *日本臨床* 71: 845-849, 2013.
11. 千葉厚郎: Guillain-Barré 症候群 (GBS) 疫学, 症候, 経過, 予後. *Clinical Neuroscience* 32: 284-287, 2014.

著書

1. 内堀 歩, 千葉厚郎: 免疫性神経疾患と液性免疫. *免疫性神経疾患ハンドブック*. 楠進. 東京, 南江堂, 2013. p.11-18.
2. 千葉厚郎: 9. 脳脊髄液検査. *ギラン・バレー症候群,*

- フィッシャー症候群診療ガイドライン2013. ギラン・バレー症候群, フィッシャー症候群診療ガイドライン作成委員会編集. 東京, 南江堂, 2013. p.60-66.
3. 千葉厚郎: 10. 血清学的検査. *ギラン・バレー症候群, フィッシャー症候群診療ガイドライン2013. ギラン・バレー症候群, フィッシャー症候群診療ガイドライン作成委員会編集.* 東京, 南江堂, 2013. p.67-76.
 4. 千葉厚郎: 11. 画像検査. *ギラン・バレー症候群, フィッシャー症候群診療ガイドライン2013. ギラン・バレー症候群, フィッシャー症候群診療ガイドライン作成委員会編集.* 東京, 南江堂, 2013. p.77-78.
 5. 千葉厚郎: 12. 病理. *ギラン・バレー症候群, フィッシャー症候群診療ガイドライン2013. ギラン・バレー症候群, フィッシャー症候群診療ガイドライン作成委員会編集.* 東京, 南江堂, 2013. p.79-80.
 6. 千葉厚郎: Guillain-Barré 症候群. *今日の処方 (改訂第5版)*. 浦部晶夫, 大田健, 川合眞一, 島田和幸, 菅野健太郎編集. 東京, 南江堂, 2013. p.576-577.
 7. 千葉厚郎: Parkinson 病. *今日の処方 (改訂第5版)*. 浦部晶夫, 大田健, 川合眞一, 島田和幸, 菅野健太郎編集. 東京, 南江堂, 2013. p.577-581.
 8. 千葉厚郎: 本態性振戦. *今日の処方 (改訂第5版)*. 浦部晶夫, 大田健, 川合眞一, 島田和幸, 菅野健太郎編集. 東京, 南江堂, 2013. p.581-583.
 9. 千葉厚郎: 顔面神経麻痺. *今日の処方 (改訂第5版)*. 浦部晶夫, 大田健, 川合眞一, 島田和幸, 菅野健太郎編集. 東京, 南江堂, 2013. p.583-585.
 10. 千葉厚郎: 顔面痙攣と顔面の不随意運動. *今日の処方 (改訂第5版)*. 浦部晶夫, 大田健, 川合眞一, 島田和幸, 菅野健太郎編集. 東京, 南江堂, 2013. p.585-587.
 11. 千葉厚郎: ギラン・バレー症候群. *今日の治療指針2014*. 福井次矢, 高木誠, 小室一成総編集. 東京, 医学書院, 2014. p.883-884.
 12. 千葉厚郎: MAG 抗体陽性ニューロパチー. *日本臨床*. 別冊神経症候群 II (第2版), 大阪, 日本臨床社, 2014. p.851-855.
 13. 傳法倫久: 主な脳卒中急性期の治療法 血管内治療の適応と内容 超選択的血栓溶解術とは? *All in One! 脳卒中看護とリハビリテーション - 急性期から在宅医療までのケアのすべて -* 塩川芳昭監修. 東京, 総合医学社, 2013. p.144-145.
 14. 傳法倫久: 主な脳卒中急性期の治療法 血管内治療の適応と内容 血栓回収術とは? *All in One! 脳卒中看護とリハビリテーション - 急性期から在宅医療までのケアのすべて -* 塩川芳昭監修. 東京, 総合医学社, 2013. p.146-147.

その他

1. 千葉厚郎, 内堀歩, 加藤知子: 抗 synapsin 1a 抗体測定系の検討. 平成25年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業『免疫性神経疾患に関する調査研究』. 平成25年度研究報告書, 74-75, 2014.

第二内科学教室
(循環器内科)

口 演

1. 佐藤徹：肺高血圧症に対する心臓リハビリテーション。第14回埼玉心臓リハビリテーションセミナー，埼玉，平成25年4月13日。
2. 坂田好美：高血圧ガイドライン2014改訂のポイントとみつけていただきたい心不全。高血圧，東京，平成26年4月9日。
3. 石黒みどり，坂田好美，上杉陽一郎，木村郷，井坂葵，南島俊徳，古谷充史，松下健一，佐藤徹，吉野秀朗：肺動脈性肺高血圧症例における3D Speckle Tracking Strainを用いた右室機能の評価。第25回日本心エコー学会学術集会，金沢，平成26年4月17日。
4. 上杉陽一郎，坂田好美，南島俊徳，井坂葵，石黒みどり，伊波巧，石黒晴久，松下健一，佐藤徹，吉野秀明：心エコーを用いた慢性血栓性肺高血圧症における経皮的肺動脈拡張術治療後の再灌流性肺水腫出現の予測。第25回日本心エコー学会学術集会，金沢，平成26年4月17日。
5. 副島京子：心外膜アブレーション。倉敷，平成25年4月18日。
6. 副島京子：心外膜アブレーション。大阪，平成25年4月19日。
7. 佐藤徹：疾患と運動時低酸素血症。第53回日本呼吸器学会学術講演会，東京，平成25年4月20日。
8. 谷合誠一：腎機能障害合併高血圧。循環器疾患カンファレンス，三鷹，2013年4月23日。
9. 坂田好美：コントロールシー4：運動負荷エコーは負荷心筋シンチグラムを越えるか，越えないか。第24回日本心エコー学会学術集会，東京，平成25年4月25日。
10. 坂田好美：肺高血圧患者の右心機能の定量的評価の重要性について-2Dおよび3D スペックルトラッキング法の有用性-。第24回日本心エコー学会学術集会-ランチョンセミナー，東京，平成25年4月26日。
11. 坂田好美：新技術を評価する-4Dプローブを用いたストレスエコー。第24回日本心エコー学会学術集会-ランチョンセミナー，東京，平成25年4月27日。
12. Yamasaki S, Taniai S, Nagae A, Shimoyama K, Nishimura T, Sakata K, Satoh T, Yoshino H: Can Lower Heart Rate Response to Adenosine Stress Myocardial Perfusion Imaging Predict Future Cardiovascular Events. ICNC 11, Nuclear Cardiology and Cardiac CT, Germany, May 7, 2013.
13. 副島京子：Heart Rhythm Society Annual Meeting, Invited lecturer “outflow PVC/VT ablation”. Heart Rhythm Society, USA, May 9, 2013.
14. 副島京子：“徐脈”，“WPW 症候群”。聖マリアンナ医科大学講義，川崎，平成25年5月13日。
15. 坂田好美：心エコーで評価する～右心機能の重要性～。第63回日本医学検査学会教育講演，東京，平成26年5月18日。
16. 上田明子，副島京子，三輪陽介，塚田雄大，宮越睦，星田京子，長岡身佳，佐藤俊明，吉野秀朗，新田隆，村田広茂：二弁置換後の心室頻拍に対する心外膜アブレーションを施行した1例。第43回臨床心臓電気生理研究会，名古屋，平成25年5月18日。
17. 坂田好美：パネルディスカッション＜診療に活かす＞負荷心エコー検査：From A to Z- 運動負荷心エコーの実際。日本超音波医学会第86回学術集会，大阪，平成25年5月25日。
18. 副島京子：不整脈治療の進歩。群馬レジデント研究会，群馬，平成25年5月31日。
19. 副島京子：東京医科歯科大学 アブレーション技術指導。講演，東京，平成25年6月7日。
20. 三輪陽介，星田京子，池田隆徳，吉野秀朗。心筋梗塞患者における Heart rate deceleration capacity と心臓死の関連性。シンポジウム。第33回日本ホルター・ノンベイス心電学研究会，東京，2013年6月8日。
21. 副島京子：豊田厚生病院 アブレーション技術指導。講演，豊田，平成25年6月13日。
22. 副島京子：心室頻拍治療の進歩。九州不整脈研究会，平成25年6月14日。
23. 舟橋紗耶華，伊波巧，合田あゆみ，志村亘彦，柳澤亮爾，石黒晴久，高昌秀安，坂田好美，佐藤徹，吉野秀朗：多臓器障害を合併し予後不良であった慢性血栓性肺高血圧症を経皮的肺動脈形成術で救命した一例。第228回日本循環器学会関東甲信越地方会，東京，平成25年6月15日。
24. 吉野秀朗：心房細動と今後の抗凝固療法。第34回三鷹市医師会循環器研究，三鷹，2013年6月17日。
25. 佐藤徹：『Cardiovascular Frontier』第21号座談会。東京，平成25年6月20日。
26. 坂田好美：負荷エコーのすすめ。Echo Kanazawa. 金沢，平成25年6月22日。
27. 坂田好美：頸動脈エコーによる動脈硬化の診断。頸動脈エコーハンズオンセミナー。平成25年6月22日。
28. 副島京子：横浜労災病院 技術指導，横浜，平成25年6月26日。
29. Higuchi S, Hasegawa T, Kabeya Y, Takahashi T, Mitamura H, Nakagawa S: The Incidence and Clinical Impact of J wave in Hypothermic Patients, EHRA EUROPACE 2013, Greece, Jun 23-26, 2013.
30. 佐藤徹：慢性血栓性肺高血圧症に対する血管内治療の現状と展望。第2回日本肺循環学会学術集会。名古屋，2013年6月23日。
31. 佐藤徹：肺高血圧症の最新の診断と治療。第3回高知肺高血圧症研究会，高知，2013年6月27日。
32. 副島京子：不整脈治療の進歩。旭川不整脈懇話会，旭川，平成25年6月28日。
33. Ueda A, Babu-Narayan S, Suman-Horduna I, Mantziari L, Ho SY, Ernst S: Supraventricular tachycardia ablation in adult patients with congenital heart diseases - experience of ablation procedures using remote magnetic navigation. 第28回日本不整脈学会学術集会，東京，平成25年7月4-6日。

34. Miwa Y, Hoshida K, Miyakoshi M, Tsukada T, Yusu S, Ikeda T, Yoshino H. Risk Stratification of Serious Cardiac Events by Simultaneous Assessment of T-Wave Alternans and Heart Rate Turbulence on Holter Electrocardiograms as Predictors for in Patients After Myocardial Infarction. シンポジウム. 第28回日本不整脈学会学術大会, 東京, 2013年7月4-6日.
35. Ueda A, Soejima K, Miwa Y, Miyakoshi M, Nagaoka M, Sato T, Yoshino H: Dual or single chamber implantable cardioverter defibrillator: Is atrial pacing really required during the follow up?. 第28回日本不整脈学会学術集会, 東京, 平成25年7月4-6日.
36. 副島京子: State of the Art The road to Opinion and Technical Leader for Ablation and Device-VT. 日本不整脈学会学術集会, 東京, 平成25年7月5日.
37. 副島京子: Panel Discussion Strategy and theoretical background of VT Past to Future. 日本不整脈学会学術集会, 東京, 平成25年7月5日.
38. 副島京子: Luncheon Seminar Wearable ICD, 日本不整脈学会学術集会, 東京, 平成25年7月6日.
39. 副島京子: 日本循環器学会 環器専門医をめざす研修医のための講習会(講師). 東京, 平成25年7月7日.
40. Yanagisawa R, Kataoka M, Inami T, Shimura N, Taguchi H, Ishiguro H, Yoshino H, Satoh T: Safety and Efficacy of Percutaneous Transluminal Pulmonary Angioplasty for High-Risk Patients of Pulmonary Endarterectomy. The 22nd Annual Meeting of the Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics, Kobe, Jul 11-13, 2013.
41. Inami T, Kataoka M, Shimura N, Yanagisawa R, Ishiguro H, Yoshino H, Satoh T: Validation of Pulmonary Edema Predictive Scoring Index in Percutaneous Transluminal Pulmonary Angioplasty. Japanese Pulmonary Circulation Society, 2nd Scientific Meeting, Tokyo, June 22-23, 2013.
42. Inami T, Kataoka M, Shimura N, Yanagisawa R, Ishiguro H, Kohshoh H, Yoshino H, Satoh T: Angiographic Flow Grade is Useful to Determine the Endpoint in Percutaneous Transluminal pulmonary angioplasty. The 22nd Annual Meeting of Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics, Kobe, July 11-13, 2013.
43. Inami T, Kataoka M, Shimura N, Yanagisawa R, Ishiguro H, Kohshoh H, Yoshino H, Satoh T: New Predictive Indexes for Risk of Reperfusion Pulmonary Edema in Percutaneous Transluminal Pulmonary Angioplasty. The 22nd Annual Meeting of Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics, Kobe, July 11-13, 2013.
44. 佐藤徹: 肺高血圧症の最近知見. RD-6 DM 対象社内勉強会プログラム, 東京, 2013年7月16日.
45. 伊波巧: 経皮的肺動脈形成術. PH サロン, 東京, 平成25年7月20日.
46. 坂田好美: 急増する高齢者に対する生活習慣病治療のコツ. ～循環器内科医からの視点～. 未来の健康を考える会, 小樽, 平成25年7月22日.
47. 吉野秀朗: 循環器疾患に伴う夜間頻尿について. 第5回多摩前立腺がん医療連携研究会, 三鷹, 平成25年7月27日.
48. 副島京子: 心室頻拍アブレーション. 九州不整脈研究会, 平成25年7月27日.
49. 坂田好美: 微量アルブミン尿の評価と降圧剤の選び方. 清瀬薬剤師会循環器勉強会, 東京, 平成25年7月31日.
50. 伊波巧, 片岡雅晴, 志村亘彦, 柳澤亮爾, 石黒晴久, 吉野秀朗, 佐藤徹: 経皮的肺動脈形成術における Pressure Wire Guide の有用性. PH サミット2013, 岡山, 平成25年8月3-4日.
51. Miwa Y, Hoshida K, Ikeda T, Yoshino H. Risk Stratification of Serious Cardiac Events Using Heart Rate Turbulence in Patients with Myocardial Infarction. Symposium. The 40th International Congress on Electrocardiology, UK, August 7-10, 2013.
52. 副島京子: 心室頻拍アブレーション. 高知市近森病院, 高知, 平成25年8月16日.
53. 副島京子: ICD の歴史. 大阪デバイス研究会, 大阪, 平成25年8月24日.
54. Inami T, Kataoka M, Shimura N, Yanagisawa R, Ishiguro H, Kohshoh H, Satoh T, Yoshino H: Influence of Balloon Pulmonary Angioplasty on Prognosis in Patients with Chronic thromboembolic Pulmonary Hypertension. European Society of Cardiology Congress 2013, Netherland, August 31 – September 4, 2013.
55. Yanagisawa R, Kataoka M, Inami T, Shimura N, Taguchi H, Ishiguro H, K. Fukuda, Yoshino H, Satoh T: Impact of percutaneous transluminal pulmonary angioplasty for the treatment of chronic thromboembolic pulmonary hypertension. European Society of Cardiology Congress, Amsterdam – Netherlands, Aug 31-Sep 04, 2013,
56. 佐藤徹: 肺高血圧症の最新の診断と治療. 日本内科学会第60回北陸支部生涯教育講演会, 金沢, 2013年9月1日.
57. Soejima K: How to Decide the Exit of the circuit-entrainment, ECG criteria lecturer, APHRS, HongKong, Sep 4, 2013.
58. Soejima K: Pacing Techniques in SVt differentiation in the EP Lab Lecturer. APHRS, HongKong, Sep 4, 2013.
59. Soejima K: Workshop Troubleshooting Difficult Cases of SVT Lecturer. APHRS, HongKong, Sep 4, 2013.
60. Soejima K: Epicardial catheter ablation. First Asia Pacific Women in EP Forum Speaker, APHRS, HongKong, Sep 5 2013.
61. 佐藤徹: 肺高血圧症の最新治療について. 循環器・呼吸器系医療講演会, 東京, 2013年9月15日.
62. 佐藤徹: 肺高血圧症の最新の診断と治療. 第一回膠原病とPHを考える会. 立川, 2013年9月20日.
63. 伊波巧, 片岡雅晴, 金谷允博, 志村亘彦, 柳澤亮爾, 石黒晴久, 吉野秀朗, 佐藤徹: 経皮的肺動脈形成術

- における Pressure Wire Guide の有用性. 第61回日本心臓病学会学術集会, 熊本, 平成25年9月20-22日.
64. 南島俊徳, 佐藤徹, 柳澤亮爾, 伊波巧, 石黒晴久, 片岡雅晴, 松下健一, 副島京子, 坂田好美, 吉野秀朗: 肺高血圧症におけるタダラフィルの効果に関する検討. 第61回日本心臓病学会学術集会, 熊本, 平成25年9月20-22日.
 65. 南島俊徳, 高昌秀安, 松下健一, 伊波巧, 佐藤俊明, 坂田好美, 副島京子, 佐藤徹, 吉野秀朗: 心不全治療に対するトルバプタンの長期投与の有効性について. 第61回日本心臓病学会学術集会, 熊本, 平成25年9月20-22日.
 66. 長岡身佳, 佐藤徹, 吉野秀朗: 膠原病性肺高血圧症の特徴と予後改善の方策特発性肺動脈性肺高血圧症と比較して. 第61回日本心臓病学会学術集会, 熊本, 平成25年9月20-22日.
 67. 武本和也, 菊池華子, 木村郷, 重田洋平, 志村亘彦, 柳澤亮爾, 石黒晴久, 谷合氏一, 遠藤英仁, 佐藤俊明, 副島京子, 坂田好美, 窪田博, 佐藤徹: 心室細動による心肺停止状態から救命され, 根治術に成功した Bland-White-Garland 症候群の成人例. 第61回日本心臓病学会学術集会, 熊本, 平成25年9月20-22日.
 68. 石黒みどり, 坂田好美, 武本和也, 南島俊徳, 上杉陽一郎, 木村郷, 松下健一, 佐藤徹, 吉野秀朗: 2D スペックルトラッキング法による右室ストレインを用いた肺高血圧症例の予後評価. 第61回日本心臓病学会学術集会, 熊本, 平成25年9月20日.
 69. 金谷允博, 伊波巧, 片岡雅晴, 石黒晴久, 柳澤亮爾, 志村亘彦, 坂田好美, 佐藤徹, 吉野秀朗: 経皮的肺動脈形成術後に重篤な再灌流性肺水腫を合併し救命し得た一症例. 第61回日本心臓病学会学術集会, 熊本, 平成25年9月20-22日.
 70. 坂田好美, 上杉陽一郎, 佐藤一樹, 南島俊徳, 武本和也, 松下健一, 佐藤徹, 吉野秀朗: 2D スペックルトラッキング法による肺高血圧症例の右心房圧上昇の推定. 第61回日本心臓病学会学術集会, 熊本, 平成25年9月22日.
 71. 副島京子: 不整脈. 佐賀大学医学部 講義, 佐賀, 平成25年9月25日.
 72. 佐藤徹: 肺高血圧症の最新の診断と治療. 第二回膠原病と PH を考える会, 立川, 平成25年9月26日.
 73. 佐藤徹: 肺高血圧症の最新の診断と治療. 第3回 Tokyo ERA Symposium for SSC. 東京. 平成25年10月2日.
 74. Nagaoka M, Miwa Y, Sato T, Ueda A, Miyakoshi M, Higuchi S, Matsushita N, Momose Y, Kanaya M, Soejima K, Yoshino H. Association between Traumatic Injury and History of Syncope in Patients with Reflex Syncope. 6th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session, Hong Kong, October 3-6. 2013.
 75. Miwa Y, Soejima K, Matsushita K, Sueoka J, Sato T, Sakata K, Takayama N, Yoshino H. Dramatic Improvement of Recurrent Anemia due to Intracardiac Mechanical Hemolysis in a Patient with Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy by Dual Chamber Pacing. 6th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session, Hong Kong, October 3-6. 2013.
 76. Matsushita N, Sato T, Nagaoka M, Momose Y, Higuchi S, Hoshida K, Miyakoshi M, Miwa Y, Ueda A, Soejima K, Yoshino H: The Efficacy of Cardiac Resynchronization Therapy on Octogenarian (Patients \geq 80 Years-Old). 6th Asia Pacific Heart Rhythm Society, Hong Kong, 3-6 Oct, 2013.
 77. Ueda A, Soejima K, Miwa Y, Miyakoshi M, Higuchi S, Matsushita N, Nagaoka M, Momose Y, Sato T, Yoshino H: Factors predicting future bradycardia in patients with high-voltage devices. 6th APHRS and Cardio Rhythm2013, China, Oct 3-5. 2013.
 78. Ueda A, Soejima K, Miwa Y, Miyakoshi M, Higuchi S, Matsushita N, Nagaoka M, Momose Y, Sato T, Yoshino H: Selection of single or dual-leads system in high voltage device implantation. 6th APHRS and Cardio Rhythm2013, China, Oct 3-5. 2013.
 79. Ueda A: Cardiac imaging and Catheter Ablation in EP—Essentials of CT, Cardiac MRI. 3D-RA and ICE Techniques in EP 6th APHRS and Cardio Rhythm2013, China, Oct 3-5. 2013.
 80. 伊波巧, 片岡雅晴, 石黒晴久, 柳澤亮爾, 志村亘彦, 田口浩樹, 佐藤徹, 吉野秀朗: 当院における経皮的肺動脈形成術の現状. 第54回日本脈管学会学術集会, 東京, 平成25年10月10日.
 81. 副島京子: 本邦エビデンスの国際発信に向けて. 若手教育トレーニング, 東京, 平成25年10月12日.
 82. 坂田好美: 肺高血圧の診療における心エコー図の役割. 第10回日本心エコー図学会秋期講習会, 東京, 平成25年10月13日.
 83. 坂田好美: 肺高血圧における心エコー法の有用性. 第1回肺高血圧学会学術集会シンポジウム2 肺高血圧症の画像診断・病理診断, 東京, 平成25年10月13日.
 84. 金谷允博, 伊波巧, 片岡雅晴, 石黒晴久, 柳澤亮爾, 志村亘彦, 佐藤徹, 吉野秀朗: 慢性血栓塞栓性肺高血圧症と脂質異常症及び EPA/AA 比の関連性. 第1回日本肺高血圧学会学術集会, 横浜, 平成25年10月13-14日.
 85. 上杉陽一郎, 伊波巧, 片岡雅晴, 石黒晴久, 柳澤亮爾, 志村亘彦, 佐藤徹, 吉野秀朗: 慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対する選択的肺動脈拡張剤著効例の臨床的特徴. 第1回日本肺高血圧学会学術集会, 横浜, 平成25年10月13-14日.
 86. 伊波巧, 片岡雅晴, 石黒晴久, 柳澤亮爾, 志村亘彦, 田村雄一, 川上崇史, 福田恵一, 佐藤徹, 吉野秀朗: 慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対する経皮的肺動脈形成術の現状. 第1回日本肺高血圧学会学術集会, 横浜, 平成25年10月13-14日.
 87. 副島京子: Arrhythmia Academy 講師, 北京, 平成25年10月19日.
 88. 山崎聡子: アデノシン負荷心筋シンチグラフィ施行時の心拍変動による Cardiac event の予測, 第11回

- オータム循環器カンファレンス, 府中, 2013年10月19日.
89. 吉野秀朗: 試験結果の報告と論文及び学会発表の検討. 心筋虚血再灌流障害抑制薬研究会, 東京, 平成25年10月20日.
 90. 吉野秀朗: 症例検討会～心筋虚血と致死性不整脈～. 三鷹市医師会循環器研究会, 三鷹, 平成25年10月21日.
 91. 佐藤徹: 第5回看護師のための患者と医師から学ぶ肺高血圧症セミナー. 東京, 平成25年10月17日.
 92. K Soejima: Mechanism and ablation of cardiac arrhythmias mechanism and value of EP study Lecturer . Venice Arrhythmia Congress, Venice, Oct.28, 2013.
 93. K Soejima: Ablation of cardiac arrhythmias lecturer. enice Arrhythmia Congress, Venice, Oct.28, 2013.
 94. 樋口聡, 三輪陽介, 金谷允博, 百瀬裕一, 長岡身佳, 松下紀子, 宮越睦, 上田明子, 佐藤俊明, 副島京子: 僧帽弁形成術後に合併した心房頻拍・粗動のアブレーション後に double P wave が出現した1例, 日本不整脈学会カテーテルアブレーション関連秋季大会2013, 東京, 平成25年11月1-3日.
 95. 坂田好美: 大血管障害予防を見据えた糖尿病治療. サノフィ社勉強会, 東京, 平成25年11月5日.
 96. 副島京子: 天理よろず診療所 カテーテルアブレーション指導. 天理, 平成25年11月15日.
 97. 副島京子: 心室頻拍のアブレーション. 福山不整脈フォーラム, 福山, 平成25年11月16日.
 98. Momose Y, Inami T, Kataoka M, Yanagisawa R, Shimura N, Ishiguro H, Ando M, Fukuda K, Yoshino H, Satoh T: Impact of Interventional Therapies for Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension; Comparison of Clinical Outcome of Pulmonary Endarterectomy vs. Percutaneous Transluminal Pulmonary Angioplasty. American Heart Association 2013 Scientific Sessions, USA, November 16-20.
 99. 副島京子: 臨床工学士専門試験 講師, 平成25年11月17日.
 100. 吉野秀朗: 冠疾患領域におけるハートチームの果たす役割. 第27回日本冠疾患学会学術集会, 和歌山, 平成25年12月3日.
 101. 副島京子: 致死性不整脈治療の進歩. 第20回埼玉循環器フォーラム, 平成25年12月3日.
 102. 副島京子: 不整脈疾患 - 心臓突然死を防ぐために. 墨田区医師会 学術講演会, 東京, 平成25年12月4日.
 103. Uesugi Y, Sakata K, Isaka A, Kimura G, Ishiguro M, Minamishima T, Takemoto K, Matsushita K, Satoh T, Yoshino H: Evaluation of Right Atrial Function Using Right Atrial Strain by Speckle Tracking Echocardiography in Patients with Pulmonary Artery Hypertension. EuroEcho-Imaging 2013 Congress, Turkey, December 12, 2013.
 104. Isaka A, Sakata K, Ishiguro M, Uesugi Y, Minamishima T, Takemoto K, Matsushita K, Satoh T, Yoshino H: Evaluation of right ventricular dysfunction and prognosis using speckle-tracking imaging in patients with pulmonary artery hypertension. EuroEcho-Imaging 2013 Congress, Turkey, December 12, 2013.
 105. 坂田好美: 左心不全&右心不全. 第245回多摩エコー研究会, 東京, 平成26年12月19日.
 106. 副島京子: 小牧市立病院アブレーション指導, 講演. 小牧, 平成26年12月19日.
 107. 松下紀子, 佐藤俊明, 金谷允博, 百瀬裕一, 長岡身佳, 樋口聡, 星田京子, 宮越睦, 三輪陽介, 上田明子, 副島京子, 吉野秀朗: 致死的不整脈を合併した筋ジストロフィーの2症例. 第26回心臓急死研究会, 東京, 2013年12月21日.
 108. 若林典弘, 佐藤徹, 長岡身佳, 上田明子, 坂田好美, 吉野秀朗: 高齢発症, 亜急性の経過を辿った valsalva 洞動脈瘤破裂の1例. 第230回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 平成25年12月27日.
 109. 副島京子: 心室頻拍アブレーション. 千歳電気生理懇話会, 千歳, 平成26年1月14日.
 110. 吉野秀朗: Vasospastic Heart Failure. 第46回循環器診療セミナー in 西宮, 西宮, 平成26年1月16日.
 111. 副島京子: 心室頻拍アブレーションの基礎. 第38回高知不整脈研究会, 高知, 平成26年1月17日.
 112. 佐藤徹: 肺高血圧症の最新の診断と治療. 城南地区肺高血圧症講演会. 東京. 平成26年1月23日.
 113. 副島京子: 不整脈治療の進歩. 日本医師会生涯教育講座 - 循環器治療最前線, 旭川, 平成26年1月23日.
 114. 吉野秀朗: 狭心症の病態と治療. 函館循環器病懇談会学術講演会, 函館, 平成26年1月24日.
 115. 副島京子: ライブデモンストレーション コメント. 伊勢志摩カテーテルアブレーションライブ 2014, 伊勢, 平成26年1月25日.
 116. 坂田好美: PHILIPS 超音波最新技術講演会. 東京, 平成26年1月30日.
 117. 副島京子: 文献執筆の工夫点 ワークショップ. 循環器若手セミナー. 平成25年2月1日.
 118. 吉野秀朗: 心不全とその原疾患～どうして心不全になるのか～. 三鷹市医師会循環器研究会, 三鷹, 平成25年2月5日.
 119. 佐藤徹: 肺高血圧症の診断治療経験. 第1回倉敷 PH Clinical Conference. 倉敷. 平成25年2月7日.
 120. 副島京子: 心室アブレーションの基本から応用. 第四回電気生理懇話会, 旭川, 平成25年2月16日.
 121. 坂田好美: 高血圧と心機能障害～診断と治療のポイント～. 循環器疾患カンファレンス, 東京, 平成25年2月19日.
 122. Kataoka M, Inami T, Yanagisawa R, Yoshino H, Satoh T: Percutaneous Transluminal Pulmonary Angioplasty for Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension. Japanese Physician Visit - Cardiac Catheterization Laboratory Conference in Mayo Clinic, USA, February 20-21, 2014.
 123. 松下紀子, 佐藤俊明, 百瀬裕一, 長岡身佳, 樋口聡, 星田京子, 宮越睦, 三輪陽介, 上田明子, 副島京子, 吉野秀朗: 静脈切開法を第一選択とする 心臓植え込みデバイスリード挿入の有用性. 第6回植込みデ

- バイス関連冬季大会, 広島, 2014年2月21-23日.
124. 上田明子, 佐藤俊明, 前田明子, 副島京子, 三輪陽介, 塚田雄大, 宮越睦, 星田京子, 長岡身佳, 吉野秀朗: 心臓植込みデバイスの電池交換後遠隔モニタリング再導入時の留意点. 第6回植え込みデバイス関連冬季大会, 広島, 平成26年2月21-23日.
 125. Kataoka M, Inami T, Yanagisawa R, Yoshino H, Satoh T: A New Era of Therapeutic Strategies for CTEPH by Two Different Interventional Therapies; Pulmonary Endarterectomy and Percutaneous Transluminal Pulmonary Angioplasty. Japanese Physician Visit - Cardiovascular Research Conference in Mayo Clinic, USA, February 20-21, 2014.
 126. 坂田好美: 大血管障害予防を見据えた糖尿病治療. アステラス製薬会社勉強会, 東京, 平成26年2月24日.
 127. K Soejima: Invited lecturer "Epicardial VT ablation". Live demonstration. Taiwan Heart Rhythm Society Annual Meeting, Taipei, Mar3-7, 2014.
 128. 吉野秀朗: 急性大動脈スーパーネットワークの近況. 第2回大動脈解離シンポジウム, 横浜, 平成25年3月8日.
 129. 坂田好美: 肺高血圧症と心エコー. 第19回経食道心エコー講習会, 東京, 平成26年3月9日.
 130. 副島京子: 致死性不整脈治療の進歩. 第20回大分心電図研究会, 大分, 平成26年3月14日.
 131. Goda A, Ishiguro M, Isaka A, Nagaoka M, Yanagisawa R, Shimura N, Inami T, Sakata K, Satoh T, Yoshino H: Early Detection of Precapillary Pulmonary Hypertension with Right Heart Catheterization and Exercise, *Circulation Journal* 2014, 78(Suppl. I):I-933. The 78th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Tokyo, Mar.21, 2014.
 132. Murakami T¹, Yoshikawa T², Maekawa Y³, Ueda T⁴, Isoga T⁴, Konishi Y⁵, Sakata K⁶, Nagao K⁷, Yamamoto T⁸, Takayama M² (Tokyo CCU Network Scientific Committee, Tokai University, Kanagawa¹, Tokyo CCU Network Scientific Committee, Sakakibara Heart Institute, Tokyo², Tokyo CCU Network Scientific Committee, Keio University, Tokyo³, Tokyo CCU Network Scientific Committee, Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, Tokyo⁴, Tokyo CCU Network Scientific Committee, Musashino Red Cross Hospital, Tokyo⁵, Tokyo CCU Network Scientific Committee, Kyorin University, Tokyo⁶, Tokyo CCU Network Scientific Committee, Nihon University, Tokyo⁷, Tokyo CCU Network Scientific Committee, Nihon Medical University, Tokyo⁸): Poor Clinical Outcomes during Hospitalization in Patients with Takotsubo Cardiomyopathy with Chronic Kidney Disease: Multi-Center Registry from Tokyo CCU Network. *Circulation Journal* 2014, 78(Suppl. I):I-1140. The 78th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Tokyo, March.21, 2014.
 133. Yanagisawa R, Kataoka M, Inami T, Kawakami T, Sano M, Fukuda K, Yoshino H, Satoh T: Plasma Amino Acid Concentrations (Aminograms) Have Ability to Predict Disease Severity in Patients with Pulmonary Arterial Hypertension. The 78th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Tokyo, Mar 21-23, 2014,
 134. Sakata K¹, Yoshikawa T², Murakami T², Maekawa Y³, Isogai T⁴, Konishi Y⁵, Nagao K⁶, Yamamoto T⁷, Takayama M¹ (Tokyo CCU Network Scientific Committee, Tokyo¹, Tokyo CCU Network Scientific Committee, Tokyo², Tokyo CCU Network Scientific Committee, Tokyo³, Tokyo CCU Network Scientific Committee, Tokyo⁴, Tokyo CCU Network Scientific Committee, Tokyo⁵, Tokyo CCU Network Scientific Committee, Tokyo⁶, Tokyo CCU Network Scientific Committee⁷): Tokyo Echocardiographic Evaluation of Cardiac Dysfunction in Patients with Takotsubo Cardiomyopathy - Results from Tokyo CCU Network Scientific Committee -, *Circulation Journal* 2014, 78(Suppl. I):I-2098. The 78th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Tokyo, March.23, 2014.
 135. Isogai T¹, Yoshikawa T², Ueda T¹, Maekawa Y², Sakata K², Murakami T², Nagao K², Yamamoto T², Takayama M² (Tokyo CCU Network Scientific Committee, Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, Tokyo¹, Tokyo CCU Network Scientific Committee, Tokyo²): Comparison of Electrocardiographic Findings among Three Ballooning Forms of Takotsubo Cardiomyopathy: A Multi-Center Study of Tokyo CCU Network Scientific Committee. The 78th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Tokyo, Mar.23, 2014.
 136. 副島京子: 心外膜アブレーション. 第78回日本循環器学会学術集会モーニングレクチャー, 東京, 平成26年3月23日.
 137. 副島京子: New Era of the Pacemaker-Leadless Pacer. 第78回日本循環器学会学術集会トピック演者, 東京, 平成26年3月23日.
 138. 副島京子: T Featured Session, Keynote Lecture. 第78回日本循環器学会学術集会モーニングレクチャー, 東京, 平成26年3月23日.
- ### 論文
- (和文)
1. 吉野秀朗: 抗腫瘍薬による心機能障害 - その評価と予防. *杏林医学界雑誌* 45-1: 31-34, 2014.
 2. 佐藤徹: 聴診が心エコー検査に役立った症例. *心エコー*. 14-4: 388-395, 2013.
 3. 佐藤徹: 肺高血圧症治療の現状. *ドクターサロン* 57-5: 17-20, 2013.
 4. 佐藤徹: 肺高血圧症治療薬 ~軽症または中等症例における使用指針: 内科9 *臨床雑誌*112-3: 433-438, 2013.
 5. 佐藤徹: 肺高血圧症の診察所見— 特に S3,S4について. *心エコー*14-4: 368-395, 2013.
 6. 佐藤徹: 特集 肺高血圧症制圧のための完全ガイ

- ド企画にあたって. Heart View 別冊, 17-7 : 6-7, 2013.
7. 佐藤徹 : 肺動脈性肺高血圧症に対するチロシンキナーゼ抑制剤.14回肺高血圧症治療研究会 Therapeutic Research 1194: 69-71, 2013.
 8. 佐藤徹 : 肺高血圧症の臨床症状と検査所見. 日本胸部臨床 68-12, 1122-1129, 2013.
 9. 佐藤徹 : 肺高血圧症とは何か. HEART 27-1, 98-104, 2014
 10. 佐藤徹 : 慢性血栓性肺高血圧症 : 内科的治療の展開. 循環器内科 74-6, 591-598, 2014.
 11. 佐藤徹 : 心不全の身体所見. 心臓 46-1, 138-141, 2014.
 12. 佐藤徹 : 日本人肺動脈性肺高血圧症の病態・遺伝学的特徴. 分子呼吸器病 18-1, 84-87, 2014.
 13. 乾俊哉, 石井晴之, 石田学, 小田未来, 小川ゆかり, 横山恵美, 渡部雅人, 倉井大輔, 坂田好, 佐藤徹, 滝澤始, 後藤元 : 明らかな肺線維症を伴わず肺高血圧症を合併したサルコイドーシスの1例. 日本胸部臨床 73-1, 91-96, 2014.
 14. 長岡山佳, 田口浩樹, 伊波巧, 石黒晴久, 高昌秀安, 米良尚晃, 遠藤英仁, 窪田博, 佐藤徹, 吉野秀朗 : 冠動脈バイパス術後の左鎖骨下動脈狭窄による急性心不全に対して腋窩動脈バイパス術が有効であった1例. 心臓 45-9, 1139-1143, 2013.
- (英文)
1. Satoh T : Medical Therapy of Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension. Circulation Journal. 77,1990-1991, 2013.
 2. M.M.Hoeper, R.J.Barst, R.C.Bourge, J.Feldman, A.E.Frost, N.Galie, M.A.Gomez-Sanchez, F.Griminger, E.Grunig, P.M.Hassoun, N.W. Morrel, A.J. Peacoc, T.Satoh, G.S. monneau, V.F. Tapson, F. Torres, D.Lawrence, D.A.Quinn, H-A Ghofrani: Imatinib Mesylate as Add-on Therapy for Pulmonary Arterial Hypertension. Circulation 127, 1128-1138, 2013.
 3. M.M.Hoeper, R.J.Barst, R.C.Bourge, J.Feldman, A.E.Frost, N.Galie, M.A.Gomez-Sanchez, F.Griminger, E.Grunig, P.M.Hassoun, N.W. Morrel, A.J. Peacoc, T.Satoh, G.Simonneau, V.F. Tapson, F. Torres, D.Lawrence, D.A.Quinn, H-A Ghofrani : Imatinib Mesylate as Add-on Therapy for Pulmonary Arterial Hypertension. Circulation 127:1128-1138, 2013
 4. Sakata K : Cardiomyopathy.:progress in diagnosis and treatments. Topics: III. Diagnosis leading to selection of therapy; 3. Echocardiography. Nihon Naika Gakkai Zasshi. 10;103:353-67, 2014.
 5. Murakami T, Yoshikawa T, Maekawa Y, Ueda T, Isogai T, Konishi Y, Sakata K, Nagao K, Yamamoto T, Takayama M; CCU Network Scientific Committee. : Characterization of predictors of in-hospital cardiac complications of takotsubo cardiomyopathy. multi-center registry from Tokyo CCU Network. J Cardiol. 63:269-73, 2014.
 6. Birnie DH, Sauer WH, Bogun F, Cooper JM, Culver DA, Duvernoy CS, Judson MA, Kron J, Mehta D, Cosedis Nielsen J, Patel AR, Ohe T, Raatikainen P, Soejima K: HRS Expert Consensus Statement on the Diagnosis and Management of Arrhythmias Associated With Cardiac Sarcoidosis, Heart Rhythm. May 7, 2014.
 7. Aimi Y, Hirayama T, Kataoka M, Momose Y, Nishimaki S, Matsushita K, Yoshino H, Satoh T, Gamou: A novel break point of the BMPR2 gene exonic deletion in a patient with pulmonary arterial hypertension. J Hum Genet. 58(12), 815-818, 2013.
 8. Asami T, Ishii M, Fujii H, Namkoong H, Tasaka S, Matsushita K, Ishii K, Yagi K, Fujiwara H, Funatsu Y, Hasegawa N, Betsuyaku T: Modulation of murine macrophage TLR7/8-mediated cytokine expression by mesenchymal stem cell-conditioned medium. Mediators Inflamm: Epub 2013:264260. doi: 10.1155/2013/264260, 2013
 9. Higuchi S, Takahashi T, Kabeya Y, Hasegawa T, Nakagawa S, Mitamura H: J waves in accidental hypothermia. Circulation Journal 78 : 128-34, 2013.
 10. Inami T, Kataoka M, Shimura N, Ishiguro H, Yanagisawa R, Taguchi H, Fukuda K, Yoshino H, Satoh T: Pulmonary Edema Predictive Scoring Index(PEPSI), a New Index to Predict Risk of Reperfusion Pulmonary Edema and Improvement of Hemodynamics in Percutaneous. JACC Cardiovascular Interventions 6-7, 725-736, 2013.
 11. Ishiguro H, Kataoka M, Inami T, Yanagisawa R, Shimura N, Taguchi H, Kohshoh H, Yoshino H, Satoh T.: Percutaneous transluminal pulmonary angioplasty for central-type chronic thromboembolic pulmonary hypertension. JACC Cardiovasc Interv. 6(11), 1212-3,2013.
 12. Kabata H, Satoh T, Kataoka M, Tamura Y, Ono T, Yamamoto M, Huqun, Hagiwara, K, Fukuda K, Betsuyaku T, Asano K: Kabata H, Satoh T, Kataoka M, Tamura Y, Ono T, Yamamoto M, Huqun, Hagiwara, K, Fukuda K, Betsuyaku T, Asano K: Bone morphogenetic protein receptor type 2 mutations, clinical phenotypes and outcomes of Japanese patients with sporadic or familial pulmonary hypertensionRespirology 18, 1076-1082, 2013.
 13. Kabata H, Satoh T, Kataoka M, Tamura Y, Ono T, Yamamoto M, Huqun, Hagiwara K, Fukuda K, Betsuyaku T, Asano K: Alu-mediated nonallelic homologous and nonhomologous recombination in the BMPR2 gene in heritable pulmonary arterial hypertension. Genet Med. 15(12), 941-7, 2013.
 14. Kataoka M, Aimi Y, Yanagisawa R, Ono M, Oka A, Fukuda K, Yoshino H, Satoh T, Gamou S: Alu-mediated nonallelic homologous and nonhomologous recombination in the BMPR2 gene in heritable pulmonary arterial hypertension. Genet Med.15(12)941-7, 2013.

15. Kataoka M, Yanagisawa R, Yoshino H, Satoh T.: Massive ascites in pulmonary arterial hypertension: caution with epoprostenol. *Ann Am Thorac Soc.*10(6), 726-7, 2013.
16. Miwa Y, Minamiguchi H, Bhandari AK, Cannom DS, Ho IC. Amiodarone Reduces the Amount of Ablation during Catheter Ablation for Persistent Atrial Fibrillation. *Europace.* 2014 Jan 19. Epub ahead of print.
17. Minamishima T, Sakata K: Usefulness of right ventricular tissue Doppler imaging for diagnosis of right ventricular myocardial infarction. *Journal of Echocardiography.* 11-3, 89-96, 2013.
18. Tsugu T, Iwanaga S, Matsushita K2013,, Tsuruta H, Dan M, Murata M, Fukuda K: Isolated accessory mitral valve tissue in an asymptomatic elderly patient. *Journal of Echocardiography* 11,100-102, 2013.
19. Ueda A, McCarthy KP, Sánchez-Quintana D, Ho SY : Right atrial appendage and vestibule: further anatomical insights with implications for invasive electrophysiology. *Europace.*15, 728-34, 2013.
20. Ueda A, Suman-Horduna I, Mantziari L, Gujic M, Marchese P, Ho SY, Babu-Narayan SV, Ernst S : Contemporary outcomes of supraventricular tachycardia ablation in congenital heart disease: a single-center experience in 116 patients. *Circ Arrhythm Electrophysiol* 6, 606-613, 2013.
21. Ueda A, Adachi I, McCarthy KP, Li W, Ho SY, Uemura H : Substrates of atrial arrhythmias: histological insights from patients with congenital heart disease. *Int J Cardiol* 168, 2481-2486, 2013.
22. Yoshida N, Inden Y, Soejima K, Goto H, Murohara T : A novel steerable Foley balloon catheter for preventing phrenic nerve injury during epicardial catheter ablation. *J Interv Card Electrophysiol.* Apr;39(3):259, 2014

書籍

1. 吉野秀朗: A. 内科学概論. 臨床工学技士標準テキスト. 小野哲章, 峰島三千男, 堀川宗之, 渡辺敏. 東京, 金原出版, 2014, p495-511.
2. 吉野秀朗: 虚血の同定 - 多枝病変で虚血同定をどうする? PCI・カテーテル室のピンチからの脱出法119. 村松俊哉. 東京, 南江堂, 2014, 12-14.
3. 佐藤徹: 静脈圧, 循環血液量, 循環時間. 容積脈波, サーモグラフィ. 内科学書 Vol.3 改訂第8版, 小川聡編, 中山書店, 2013, p70-71.
4. 佐藤 徹: 右心系疾患に伴う肺高血圧症. 肺高血圧症の臨床. 中西宣文編, 医薬ジャーナル社, 2013, p257-266.
5. 坂田好美, 吉川勉, 馬原啓太郎, 前川裕一郎, 上田哲郎, 磯貝俊明, 小西裕二, 吉野秀朗, 長尾建, 山本剛, 高山守正: たこつぼ型心筋症の臨床および心エコーの特徴—東京CCUネットワークよりの報告—. ICUとCCU. 東京, 医学図書出版, 2013, PS35-S41.
6. 坂田好美: 右室の動きを心エコーで評価できるか?. 月刊心エコー14. 東京, 文光堂, 2013, p670-679.

7. 坂田好美: 集中治療室におけるたこつぼ型心筋症画像—像診断・心エコー. ICUとCCU2013.37, 東京, 医学図書出版, 2013, p513-523.
8. 伊波巧: [Expertise] 慢性肺血栓塞栓症のカテーテル治療においてどうやって肺水腫を回避するか. *Heart View* 2013年7月号: 肺高血圧症制圧のための完全ガイド. 佐藤徹企画構成. 東京, メディカルビュー, 2013, p764-769.
9. 上田明子, 副島京子: 心外膜アプローチによる不整脈アブレーション. 井上博編, *Medical Topics Series 不整脈2013* 東京, メジカルレビュー, 2013. p170-174.
10. 上田明子: マッピングって何のこと? 副島京子編, *ハートナーシング* 9月号 東京, メディカ出版, 2013. p28-33.
11. 三輪陽介. (分担著書) Question 8 術前の患者ケアに必要なことは? *ハートナーシング* 26(9): 東京, メディカ出版, 2013. p910 -913.
12. 三輪陽介. (分担著書) Question 9 術中のケアポイントと申し送りのコツは? *ハートナーシング* 26(9): 東京, メディカ出版, 2013. p914 -917.
13. 谷合誠一 (分担): 血圧. 見てわかる循環器ケア看護手順と疾患ガイド. 窪田博, 大槻直美, 平澤英子編集. 東京, 照林社, 2013, p228-234.

受賞

1. 第2回杏林医学会研究奨励賞
柳澤亮爾(第二内科学): Impact of First-Line Sildenafil Monotreatment for Pulmonary Arterial Hypertension. *Circulation Journal* 76(5):1245-1252, 2012.

第二内科学教室
(血液内科)

口演

1. 高山信之: 再生不良性貧血の治療成績 杏林大学の治療経験. 第3回成人再生不良性貧血治療研究会. 東京, 平成25年6月29日.
2. 高山信之: CMLの診断から治療まで. 三鷹市薬剤師学術講演会. 三鷹, 平成25年9月18日.
3. Takayama N, Kuwabara A, Shikiba S, Momose E, Satoh N: Reduced-intensity cord blood transplantation for leukemia/MDS relapsed after myeloablative SCT. 第75回日本血液学会学術集会, 札幌, 平成25年10月11日.
4. Shikiba S, Kuwabara A, Satoh N, Momose E, Sakata K, Yoshino H, Takayama N: A case of primary cardiac T-cell lymphoma. 第75回日本血液学会学術集会, 札幌, 平成25年10月12日.
5. Momose E, Kuwabara A, Shikiba S, Satoh N, Takayama N: Therapy-related Burkitt lymphoma after chemotherapy for acute myeloid leukemia. 第75回日本血液学会学術集会, 札幌, 平成25年10月12日.
6. 高山信之: 血液疾患を見直そう - 骨髓標本から考

える悪性リンパ腫。東京都臨床検査技師会 血液研究班研修会, 東京, 平成26年2月27日。

7. 高山信之, 桑原彩子, 式場星矢, 百瀬恵美, 佐藤範英: 血縁者間同種末梢血幹細胞移植後に血球貪食症候群を合併した急性骨髄性白血病の1剖検例. 第36回日本造血細胞移植学会総会, 沖縄, 平成26年3月7日。

論文

1. 高山信之: 造血器腫瘍治療の現状と展望. 杏林医学会雑誌 44: 113-119, 2013
2. 高山信之: 特発性血小板減少性紫斑病と *Helicobacter pylori*. *Animis* 76: 43-48, 2013

その他

1. 高山信之: 水頭症研究マスターズ・ジャパン 2012 アワード受賞。

第三内科学教室 (消化器内科)

口演

1. 徳永健吾: *H. pylori* 感染症～診断と治療のピットフォール～. 第18回多摩 HP 肝炎研究会, 立川, 平成25年4月6日。
2. 徳永健吾: *H. pylori* 感染症～診断と治療のピットフォール～, ふくしま *Helicobacter pylori* フォーラム, 福島市, 平成25年4月10日。
3. 高橋信一 (特別講演): 日本人の胃を守る～胃がん撲滅を目指して～. *H. pylori* 学術講演会, 大分市, 平成25年4月11日。
4. 高橋信一 (特別講演): 日本人の胃を守る～胃がん撲滅を目指して～. タケブロン研究講演会, 草津市, 平成25年4月13日。
5. 高橋信一: 実地診療におけるピロリ除菌の実際. 三鷹市医師会学術講演会, 三鷹市, 平成25年4月15日。
6. 西川かおり: 腹部エコーマスター講座 ビギナーセミナー 胆道・膵臓・脾臓. アスリード, 東京, 平成25年4月20日。
7. 森秀明: 「腹部エコーマスター講座 (STEP1: ビギナー向けセミナー)」. アスリードセミナー, 東京, 平成25年4月21日。
8. 高橋信一 (特別講演): *H. pylori* 除菌を巡る新しい話題. 第11回茨城酸関連疾患研究会, つくば市, 平成25年4月23日。
9. 高橋信一: ピロリ菌研究から学んだこと. *Gastroenterology Special Lecture 2013*, 杏林大学, 平成25年5月2日。
10. 土岐真朗, 山口康晴, 高橋信一: ERCP 関連手技の前処置におけるトメントールの有用性の検討, 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 京都, 平成25年5月11日。
11. 三浦みき, 林田真理, 齋藤大祐, 櫻庭彰人, 山田雄二, 小山元一, 高橋信一: 小腸転移を来し, 消化管出血を繰り返した胸膜中皮腫の1例. 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 京都, 平成25年5月11日。
12. 倉田勇, 土岐真朗, 落合一成, 太田博崇, 新井健介,

- 内田康仁, 田部井弘一, 畑英行, 蓮江智彦, 中村健二, 山口康晴, 両角克朗, 高橋信一: 胆道狭窄に対する HANARO STENT 胆管ステントの短期成績, 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 京都, 平成25年5月12日。
13. 蓮江智彦, 土岐真朗, 太田博崇, 落合一成, 新井健介, 大野亜紀子, 倉田勇, 内田康仁, 田部井弘一, 畑英行, 中村健二, 徳永健吾, 山口康晴, 両角克朗, 高橋信一: 高齢者総胆管結石症の内視鏡的截石術ハイリスク症例における治療戦略. 第84回日本消化器内視鏡学会総会, 京都, 平成25年5月12日。
 14. 落合一成, 田部井弘一, 太田博崇, 新井健介, 倉田勇, 内田康仁, 畑英行, 蓮江智彦, 土岐真朗, 山口康晴, 両角克朗, 高橋信一: 内視鏡画像で経時変化を評価し得た食道粘膜下血腫の1例. 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 京都, 平成25年5月12日。
 15. 高橋信一 (特別講演): 実地診療におけるピロリ除菌の実際. 広島県内科会学術講演会, 広島市, 平成25年5月13日。
 16. 徳永健吾: *H. pylori* 感染胃炎～全例除菌時代における病院と診療所の役割分担について～第11回武蔵野消化器・肝疾患医療連携懇談会, 武蔵野市, 平成25年5月14日。
 17. 徳永健吾: 「ヘリコバクター・ピロリ胃炎」保険適用拡大後のピロリ菌診断と治療の A to Z. 第96回府中市薬剤師会定例研修会, 立川市, 平成25年5月15日。
 18. Kato M, Takeda H, Tominaga K, Kusunoki H, Furuta K, Sakurai K, Odaka T, Kinoshita Y, Haruma K, Takahashi S, Higuchi K, Kusano M, Fujimoto K, Arakawa T: A randomized, controlled, double-blind clinical trial of Rikkunshito versus placebo for gastrointestinal symptoms and quality of life in patients with proton pump inhibitor-refractory non-erosive reflux disease: The G-Pride Study. *Digestive Disease Week 2013, USA, May 18, 2013*.
 19. Saito D, Hayashida M, Takahashi S: The clinical characteristics of patients with pneumatosis cystoides intestinalis in Japan. *Digestive Disease Week 2013, USA, May 19, 2013*.
 20. Toki M, Yamaguchi Y, Kurata I, Tabei K, Hata H, Hasue T, Nakamura K, Takahashi S: Diabetes mellitus as a risk factor for pancreatic cancer-for realization of efficient screening of pancreatic cancer in patients with diabetes mellitus. *Digestive Disease Week 2013, USA, May 20, 2013*.
 21. Nakamura K, Yamaguchi Y, Tauchi M, Toki M, Takahashi S: The usefulness and safety of carbon dioxide insufflation during endoscopic retrograde cholangiopancreatography in elderly patients: A prospective, double-blind, randomized, controlled trial. *Digestive Disease Week 2013, USA, May 21, 2013*.
 22. Tominaga K, Iwakiri R, Kinoshita Y, Kato M, Haruma K, Miwa H, Higuchi K, Takahashi S, Kusano M, Fujimoto K, Arakawa T: Subpopulation analysis based on background responds to rabeprazole dose in patients with functional dyspepsia in a multicenter, double-blind, randomized,

- placebo-controlled clinical trial; the Samurai Study. Digestive Disease Week 2013, USA, May 21, 2013.
23. 高橋信一 (特別講演): ピロリ除菌の実際 - 胃炎保険適応を受けて - . 城南 *H. pylori* 勉強会 in 2013, 東京, 平成25年5月24日 .
 24. 森秀明 (パネルディスカッション8): 超音波検査士に望まれるレポート作成. 日本超音波医学会第86回学術集会, 大阪, 平成25年5月24日.
 25. 尾股佑, 田部井弘一, 倉田勇, 關里和, 塚田幾太郎, 西川かおり, 森秀明, 高橋信一: 上部消化管出血に対する内視鏡的止血術前に行う体外式超音波検査の有用性. 日本超音波医学会第86回学術集会, 大阪, 平成25年5月24日.
 26. 森秀明 (第38回日本検査学会学術集会ジョイントプログラム): これからの超音波検査士のあり方を考える. 超音波検査士に望む. 日本超音波医学会第86回学術集会, 大阪, 平成25年5月26日.
 27. 西川かおり: 「指導検査士試験に挑戦!」第1回指導検査士認定試験をふりかえる. 日本超音波医学会第86回学術集会, 大阪, 平成25年5月26日.
 28. 高橋信一 (特別講演): 高齢化社会に臨む消化器内視鏡医の挑戦. 第241回南部胃腸同好会学術講演会, 十和田市, 平成25年5月31日 .
 29. Tokunaga T, Taknaka A, Takahashi S(invited lecture): Current situation of *H. pylori* eradication therapy in Japan. The 10th Japan -Korea Joint Symposium on *Helicobacter* Infection, Korea, June 1, 2013.
 30. Tanaka A, Ota H¹, Tokunaga K, Takahashi S (1 Department of Biomedical Laboratory Sciences, School of Health Sciences, Shinshu University School of Medicine). Alterations in gastric mucous cell kinetics. Part of the defense system against *H. pylori* infection in the regenerating zone. The 10th Japan -Korea Joint Symposium on *Helicobacter* Infection, Korea, June 1, 2013.
 31. 森秀明 (教育講演): 「消化管の超音波診断」. 第52回日本消化器がん検診学会総会, 仙台, 平成25年6月8日.
 32. 池崎修, 奥山秀平, 高橋信一: CK19陽性肝細胞癌の1症例. 日本内科学会関東地方会, 東京, 平成25年6月8日.
 33. 徳永健吾: 「胃癌撲滅元年!!」～*H. pylori* 感染胃炎を考える～, *H. pylori* 感染胃炎を考える会, 小平, 平成25年6月14日 .
 34. 土岐真朗, 倉田勇, 蓮江智彦 (ワークショップ): ERCP 関連手技における患者にやさしい前処置の工夫. 第96回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 平成25年6月16日.
 35. 楠原光謹, 土岐真朗, 落合一成, 太田博崇, 新井健介, 大野亜希子, 倉田勇, 田部井弘一, 畑英行, 蓮江智彦, 山口康晴, 両角克朗, 高橋信一 (研修医セッション): 特発性食道粘膜下血腫が原因と考えられた食道粘膜剥離の1例. 第96回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 平成25年6月16日 .
 36. 高橋信一 (特別講演): ピロリ菌除菌療法の最新知見. 水戸消化器病研究会, 水戸市, 平成25年6月21日 .
 37. 徳永健吾: 実践! ピロリ除菌～保険適用拡大で酸関連疾患はどう変わる? ～. Nexium Symposium 2013 in 白石区・厚別区・江別市, 札幌, 平成25年6月26日 .
 38. 川村直弘: 肝臓病の基礎知識. 肝臓栄養治療セミナー, 三鷹, 平成25年6月28日 .
 39. 東京 Hp 研究会 (徳永健吾, 伊藤慎芳, 浅岡大介, 水野滋章, 松久威史, 佐々木仁, 永原章仁, 小俣富美雄, 正岡建洋, 川上浩平, 河合隆, 高橋信一, 西澤俊宏, 鈴木雅之, 鈴木秀和, 榊信廣, 大草敏史, 栗原直人, 峯徹哉, 鳥居明, 竹内義明) (シンポジウム): シタフロキサンをを用いた *H. pylori* 三次除菌療法—東京都内多施設検討—. 第19回日本ヘリコバクター学会学術集会, 長崎, 平成25年6月28日 .
 40. 中村正彦¹, 高橋哲史¹, 松井英則², 村山琮明³, 高橋信一, 土本寛一¹ (1北里大学薬学部, 2北里大学北里生命科学研究所, 3日本大学薬学部): *Helicobacter heilmannii* 感染 MALT リンパ腫における幹細胞および菌体の局在. 第19回日本ヘリコバクター学会学術集会, 長崎, 平成25年6月28日 .
 41. 東京 Hp 研究会 (永原章仁, 松久威史, 伊藤慎芳, 水野滋章, 西澤俊宏, 栗原直人, 徳永健吾, 鈴木秀和, 鳥居明, 鈴木雅之, 竹内義明, 小俣富美雄, 河合隆, 大草敏史, 峯徹哉, 高橋信一, 榊信廣): ESD 治療可能な除菌後胃癌診断のための適正な内視鏡検査間隔の検討—東京 Hp 研究会での多施設共同調査—. 第19回日本ヘリコバクター学会学術集会, 長崎, 平成25年6月28日 .
 42. 東京 Hp 研究会 (佐々木仁, 永原章仁, 浅岡大介, 水野滋章, 川上浩平, 河合隆, 正岡建洋, 鈴木秀和, 伊藤慎芳, 大草敏史, 小俣富美雄, 松久威史, 徳永健吾, 高橋信一, 西澤俊宏, 鈴木雅之, 栗原直人, 鳥居明, 峯徹哉, 竹内義明, 榊信廣): 東京都内多施設共同調査における *Helicobacter pylori* 一次・二次除菌率. 第19回日本ヘリコバクター学会学術集会, 長崎, 平成25年6月28日 .
 43. 松井英則¹, 高橋哲史², 村山そう明³, 内山郁夫⁴, 山口勝司⁴, 重信秀治⁴, 太田浩良⁵, 松本竹久⁵, 川久保雅友⁵, 中村真一⁶, 高橋信一, 中村正彦² (1北里大学北里生命科学研究所, 2北里大学薬学部病態解析学, 3日本大学薬学部, 4自然科学研究機構, 5信州大学医学部保健学科, 6東京女子医科大学消化器内科) (ワークショップ): *Helicobacter heilmannii* 検出法の開発. 第19回日本ヘリコバクター学会学術集会, 長崎, 平成25年6月29日 .
 44. 東京 Hp 研究会 (伊藤慎芳, 佐々木仁, 浅岡大介, 永原章仁, 徳永健吾, 高橋信一, 竹内義明, 松久威史, 西澤俊宏, 鈴木雅之, 水野滋章, 峯徹哉, 大草敏史, 小俣富美雄, 栗原直人, 鈴木秀和, 榊信廣, 川上浩平, 河合隆, 鳥居明) (シンポジウム): ペニシリンを用いないヘリコバクター除菌治療. 第19回日本ヘリコバクター学会学術集会, 長崎, 平成25年6月29日 .

45. 徳永健吾（教育セミナー）：*Helicobacter pylori* 感染症の診断・治療・適応疾患. 第19回日本ヘリコバクター学会学術集会, 長崎, 平成25年6月29日.
46. 森秀明：腹部超音波研修会「腹部超音波スクリーニングの完成」. 全国社会保険病院臨床検査技師会平成25年度生理検査研修班全国研修会, 東京, 平成25年6月29日.
47. 徳永健吾：「胃癌撲滅元年！！」～*H. pylori* 感染胃炎を考える～, *H. pylori* 感染胃炎を考える会, 調布, 平成25年7月3日.
48. 高橋信一（市民公開講座）：ピロリ菌を除菌してきれいな胃を取り戻そう！第19回日本ヘリコバクター学会学術集市民公開講座, 長崎, 平成25年6月30日.
49. 齋藤大祐, 林田真理, 三浦みき, 櫻庭彰人, 山田雄二, 小山元一, 高橋信一：当院における高齢者に対するダブルバルーン内視鏡検査の検討. 第16回日本高齢消化器病学会総会, 名古屋, 平成25年7月6日.
50. 高橋信一（パネルディスカッション）：*H. pylori* 保険診療適用拡大とABC分類. 第13回日本実地医家消化器内視鏡研究会, 東京, 平成25年7月7日.
51. 中村一久：肝疾患における最近の話題～B型肝炎/NASH・NAFLDに関して～. 第21回 Digestive Disease Conference, 三鷹, 平成25年7月10日.
52. 高橋信一（ランチョンセミナー）：実地医家におけるピロリ除菌の実際. 日本消化器病学会東北支部第195回例会, 弘前市, 平成25年7月12日.
53. 高橋信一（特別講演）：ピロリ菌除菌療法の実際. 第17回城東消化器研究会, 東京, 平成25年7月12日.
54. 箕輪慎太郎, 三浦みき, 齋藤大祐, 桜庭彰人, 山田雄二, 林田真理, 徳永健吾, 小山元一, 高橋信一：ステロイド長期投与が成因となり発症した腸管嚢胞状気腫症の1例. 第325回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 平成25年7月13日.
55. 高橋信一（特別講演）：*H. pylori* 感染胃炎が保険適応になった今, 診療所の除菌療法の取り組みについて. 西東京市医師会学術講演会, 西東京市, 平成25年7月16日.
56. 徳永健吾：実践！ピロリ除菌～感染胃炎の保険適用拡大で何が変わった？～. 横浜北部医療圏消化器疾患研究会, 横浜市, 平成25年7月18日.
57. 高橋信一（セミナー）：これでわかるピロリ除菌療法と保険適用. TAKEDA Scientific Seminar, 東京, 平成25年7月21日.
58. 高橋信一（特別講演）：実地診療におけるピロリ除菌の実際. 東村山市医師会学術講演会, 東村山市, 平成25年7月24日.
59. 川村直弘：慢性肝疾患の栄養療法. 21世紀の消化器疾患診療を考える会 第23回勉強会, 藤沢, 平成25年7月27日.
60. 高橋信一（特別講演）：日本人の胃を守る～胃がん撲滅を目指して～. *H. pylori* 感染胃炎に関する最近の話題, 西東京市, 平成25年7月31日.
61. 高橋信一（基調講演）：Hp 除菌治療－適応と意義を考える. Next summit 2013, 東京, 平成25年8月24日.
62. 高橋信一（基調講演）：Hp 除菌治療－適応と意義を考える. Next summit 2013, 東京, 平成25年8月25日.
63. 高橋信一（特別講演）：ピロリ除菌の実際－胃炎保険適応を受けて－. GI Forum in 多摩, 立川市, 平成25年9月4日.
64. 高橋信一：これでわかるピロリ～除菌療法と保険適用～. 第283回関東産業健康管理研究会, 東京, 平成25年9月11日. 健康管理61(3):2-15.2014.(3.1)
65. 高橋信一（特別講演）：実地診療におけるピロリ菌除菌療法. 第29回わかば会, 東京, 平成25年9月12日.
66. 深澤友里, 關里和, 奥山秀平, 齋藤大祐, 山田雄二, 徳永健吾, 森秀明, 高橋信一：ミリプラチンによる肝動脈化学塞栓療法後に薬剤起因性の免疫性溶血性貧血を併発した一例. 第326回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 平成25年9月14日.
67. 高橋信一：変化してゆく上部消化管診療. Next Forum in Mitaka, 三鷹市, 平成25年9月14日.
68. Nakamura M¹, Matsui H², Takahashi T¹, Takahashi S, Hibi T³, Tsuchimoto K¹(¹School of pharmaceutical sciences, Kitasato Univ.² Kitasato institute for life sciences, Kitasato Univ.³ Department of Internal Medicine, Keio University): C-MET inhibition decreases the liver and lung lesion in *Helicobacter heilmannii*-induced MALT Lymphoma. The 15th Taishotoyama International Symposium on Gastroenterology, Tokyo, September 27, 2013.
69. Tokyo Hp Study Group(Kawai T, Takahashi S, Sasaki H, Nagahara A, Asaoka D, Mizuno S, Kawakami K, Masaoka T, Suzuki H, Ito M, Ohkusa T, Omata F, Matsuhisa T, Tokunaga K, Nishizawa T, Suzuki M, Kurihara N, Torri A, Mine T, Takeuchi Y, Sakaki N: Progress of the first-line eradication rate of *H. pylori* using triple therapy –Multi center study in Tokyo metropolitan area-. The 15th Taishotoyama International Symposium on Gastroenterology, Tokyo, September 28, 2013.
70. 森秀明：アドバンスドエコーセミナー「腹部エコーマスター講座」. アスリードセミナー, 東京, 平成25年9月29日.
71. 西川かおり：腹部エコーマスター講座 アドバンスドセミナー 胆道・膵臓. アスリード, 東京, 平成25年9月29日.
72. 高橋信一（特別講演）：*H. pylori* 除菌を巡る新しい話題. 富山 GERD セミナー2013, 富山市, 平成25年10月2日.
73. 高橋信一（特別企画）：*Helicobacter pylori* 除菌治療－コンセンサスと今後の展開－. 第55回日本消化器病学会大会 (JDDW 2013), 東京, 平成25年10月9日.
74. 徳永健吾, 田中昭文, 林田真理, 土岐真朗, 山田雄二, 櫻庭彰人, 蓮江智彦, 田部井弘一, 畑 英行, 小山元一, 高橋信一. 日本語版 GerdQ 問診票を用いた逆流性食道炎患者に対するプロトンポンプ阻害薬治療の満足度実態調査およびエソメプラゾール切り替えによ

- る症状改善効果の検討. 第55回日本消化病学会大会 (JDDW2013), 東京, 平成25年10月9日.
75. Tanaka A, Tokunaga K, Takahashi S: Evaluation of *Helicobacter pylori* eradication therapy (PPI/AC) in elderly patients. Annual Scientific Meeting of the American College of Gastroenterology, USA, October 15, 2013. · AJG 108:s49,2013.
 76. Tokunaga K, Tanaka A, Takahashi S: Third-line rescue therapy with sitafloxacin is more effective than levofloxacin rescue regimen after two *Helicobacter pylori* treatment failure. Annual Scientific Meeting of the American College of Gastroenterology, USA, October 15, 2013. · AJG 108:s50,2013.
 77. 關里和, 森秀明, 齋藤大祐, 尾股佑, 塚田幾太郎, 櫻庭彰人, 西川かおり, 大倉康男, 杉山政則, 高橋信一: 体外式腹部超音波検査で診断し得た胆嚢軸捻転症の一例. 日本超音波医学会 関東甲信越地方会 第25回学術集会, 東京, 平成25年10月19日.
 78. 浦田毅, 岸野智則, 川野詳子, 大藤弥穂, 西川かおり, 森秀明, 吉野浩, 楊國昌, 大西宏明, 渡邊卓: 胸腺原発 T リンパ芽球性リンパ腫 (T-LBL) の一例. 日本超音波医学会 関東甲信越地方会 第25回学術集会, 東京, 平成25年10月20日.
 79. 高橋信一: ピロリ除菌の実際—胃癌撲滅から ABC 検診も含めて—, *H. pylori* カンファレンス, 春日部市, 平成25年10月22日.
 80. 徳永健吾: ピロリ除菌の実際—胃炎保険適用を受けて. 第7回相模原北部消化器病研究会, 相模原, 平成25年10月30日.
 81. 渡辺敬子, 岸野智則, 大西宏明, 有賀俊之, 浦田毅, 大藤弥穂, 大塚弘毅, 森秀明, 渡邊卓: 心エコーで評価した心外膜下脂肪厚と心収縮能制限の関連性について. 第60回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 平成25年11月2日.
 82. 浦田毅, 岸野智則, 大西宏明, 佐原條代, 渡辺敬子, 大藤弥穂, 松島早月, 大塚弘毅, 關里和, 尾股佑, 塚田幾太郎, 西川かおり, 森秀明, 高橋信一, 渡邊卓: 超音波で評価した体脂肪と生活習慣病の病勢との関連性 - 血液生化学検査値との相関性の検討 -. 第60回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 平成25年11月2日.
 83. 川野詳子, 岸野智則, 佐原條代, 浦田毅, 大藤弥穂, 大西宏明, 大塚弘毅, 望月眞, 關里和, 尾股佑, 塚田幾太郎, 西川かおり, 森秀明, 高橋信一, 杉山政則, 渡邊卓: 膵内分泌腫瘍との鑑別が困難であった限局性慢性膵炎の1例 - 超音波画像所見の検討 -. 第60回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 平成25年11月2日.
 84. 徳永健吾: *H. pylori* 感染症の最新知見. 第1回大橋消化器セミナー, 渋谷, 平成25年11月7日.
 85. 高橋信一 (ランチョンセミナー): *H. pylori* 除菌療法ですべては解決されるか? 第55回日本神経消化器病学会, 出雲市, 平成25年11月8日.
 86. 高橋信一: 日本人の胃を守る～胃がん撲滅を目指して～. 第2回瀬戸内胃がんリスク研究会, 岡山市, 平成25年11月13日.
 87. 徳永健吾: ピロリ感染症と酸関連疾患の今後の展望. Next Lecture Meeting, 葉山, 平成25年11月13日.
 88. 高橋信一 (特別講演): ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎の最新知見. 第20回両毛 PPI 研究会, 足利市, 平成25年11月14日.
 89. 森秀明: Dr. MORI の腹部超音波診断パーフェクト. 東京都臨床検査技師会, 東京, 平成25年11月20日.
 90. 高橋信一 (特別講演): 保険適応された *H. pylori* 除菌療法の実際. 第55回神奈川医学会総会学術集会, 神奈川, 平成25年11月23日.
 91. 高橋信一: *H. pylori* 胃炎における除菌治療の実際. 調布市医師会学術講演会, 調布市, 平成25年11月27日.
 92. 高橋信一 (特別講演): ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎の最新知見. GI Conference in 四日市市, 四日市市, 平成25年12月2日.
 93. 池崎修, 川村直弘, 奥山秀平, 中村一久, 松岡弘泰, 森秀明, 高橋信一: 肝硬変患者に対する分岐鎖アミノ酸顆粒2包の就寝前投与の有効性. 肝疾患の栄養療法講演会, 立川, 平成25年12月10日.
 94. 森秀明: US スクリーニング…症例に学ぶ…『膵臓』. 超音波スクリーニング研修講演会2013, 有明, 平成25年12月14日.
 95. 高橋信一 (特別講演): ピロリ除菌の実際—胃炎保険適用を受けて—. 群馬 *H. pylori* フォーラム, 前橋市, 平成26年1月23日.
 96. 徳永健吾: *H. pylori* 感染胃炎保険適用後の諸問題. 第33回多摩消化器シンポジウム, 立川, 平成26年1月25日.
 97. 高橋信一 (特別講演): 知っておきたい最新のヘリコバクター・ピロリ感染治療. 第526回甲府市内科医会, 甲府市, 平成26年1月28日.
 98. 高橋信一 (特別講演): ヘリコバクター・ピロリ感染と胃粘膜傷害. GI Forum 2014 Kyushu, 福岡市, 平成26年2月1日.
 99. 徳永健吾, 田中昭文, 高橋信一 (シンポジウム): *Helicobacter pylori* 除菌適応拡大～臨床からの問題点. 第47回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会, 市ヶ谷, 平成26年2月1日.
 100. 高橋信一: ピロリ菌を除菌してきれいな胃を取り戻そう. 三鷹市老人クラブ連合会健康長寿講演会, 三鷹市, 平成26年2月5日.
 101. 高橋信一 (特別講演): ヘリコバクター・ピロリ感染と胃粘膜傷害. 消化管治療 Update 学術講演会, 沼津市, 平成26年2月6日.
 102. 吉田翼: 当院におけるサムスカの使用経験. 第2回非代償性肝硬変の合併症対策研究会, 東京, 平成26年2月6日.
 103. 高橋信一 (ランチョンセミナー): ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎診療のコツ. 第39回日本微小循環学会, 東京, 平成26年2月7日.
 104. 川村直弘: 慢性肝疾患の栄養療法. ヤンセンファー

- マ社内勉強会，東京，平成26年2月14日。
105. 中村正彦¹，高橋哲史¹，松井英則²，高橋信一，土本寛一¹（1北里大学薬学部，2北里大学北里生命科学研究所）：胃，肝，肺 MALT リンパ腫形成における c-Met の関与：PHA665752による腫瘍縮小効果。第10回日本消化管学会総会学術集会，福島市，平成26年2月14日。
 106. 三浦みき，林田真理，箕輪慎太郎，齋藤大祐，平野和彦¹，桜庭彰人，山田雄二，徳永健吾，小山元一，正木忠彦²，大倉康男¹，高橋信一（1杏林大学病理，2杏林大学外科）：当院で経験した小腸内視鏡で診断された成人メッケル憩室の6例。第10回日本消化管学会総会学術集会，福島市，平成26年2月15日。
 107. 高橋信一（特別講演）：*H. pylori* 保険適応の現状と今後。第15回城南消化器病研究会，東京，平成26年2月20日。
 108. 森秀明，塚田幾太郎，尾股佑，關里和，権藤興一，本田普久，小樽二世，峯佳毅，西川かおり，高橋信一，岸野智則，小崎正博。Philips 社製 Sheer Wave Elastography 測定時の ROI の設定深度の変化における検討。第1回びまん性肝疾患の画像研究会，東京，平成26年2月22日。
 109. 森秀明：ステップアップするために必要な知識と考え方～肝臓～。日本消化器がん検診学会関東甲信越支部超音波研修委員会 第2回茨城セミナー，つくば，平成26年2月23日。
 110. 丹波光子，種山小栗，村田美裕，小田宏之，千野貴子，奥山秀平，小島幸一郎，大浦紀彦：12年間の中心静脈栄養から離脱した消化管切除後の吸収障害の一例。第29回日本静脈経腸栄養学会学術集会，横浜，平成26年2月27日。
 111. 高橋信一（特別講演）：ピロリ除菌の実際－胃炎保険適用後1年を迎えて－。第8回伊豆 GUT，三島市，平成26年3月1日。
 112. 倉田勇，川村直弘，新井健介，蓮江智彦，土岐真朗，奥山秀平，中村一久，松岡弘泰，森秀明，高橋信一：繰り返す下痢を契機に診断された多発性肝腫瘍の1剖検例。多摩山梨肝炎肝癌研究会，立川，平成26年3月8日。
 113. 高橋信一：胃がん検診とピロリ除菌。平成25年度前橋市医師会内視鏡併用胃がん検診講習会，前橋市，平成26年3月12日。
 114. 徳永健吾，田中昭文，土岐真朗，神保陽子，大野亜希子，倉田勇，畑英行，高橋信一：*H.pylori* 三次除菌療法の検討。第14回東京 UGI 研究会，東京，平成26年3月15日。
 115. 森秀明：これだけは知っておきたい腹部超音波診断。臨床消化器病カンファレンス，徳島，平成26年3月19日。
 116. 高橋信一（特別講演）：ピロリ除菌の実際－胃炎保険適用後1年を迎えて－。函館消化器病懇談会，函館市，平成26年3月27日。
- 論文**
1. 横山展子，中村正彦，松田唯，馬庭優子，伊香萌菜，松井英則，高橋哲史，高橋信一，土本寛一：胃，肝，肺 MALT リンパ腫形成における c-Met, Hepatocyte Growth Factor の関与：C-Met 抗体による腫瘍縮小効果。Prog. Med. 33: 397-400, 2013.
 2. 井本一郎，高橋信一：*H. pylori* 感染の診断法。日本ヘリコバクター学会誌 supplement:23-30,2013.
 3. 中村正彦，高橋哲史，松井英則，高橋信一，村山琮明，土本寛一：もうひとつの胃内の *Helicobacter* 属細菌 HHLO, *H. heilmannii*, *H. suis* – その発見史，特徴，診断，治療について。日本ヘリコバクター学会誌15(1):45-52,2013.
 4. 高橋信一：除菌療法の基本。日本医事新報4647:23-27,2013.
 5. 田部井弘一，徳永健吾，高橋信一：*H. pylori* 除菌の適応。Mebio 30(6):57-63,2013.
 6. 三浦みき，林田真理，高橋信一：転移性小腸腫瘍（肺悪性中皮腫）。消化器内視鏡 25(7):1002-1003,2013.
 7. Iwakiri R, Tominaga K, Furuta K, Inamori M, Furuta T, Masuyama H, Kanke K, Nagahara A, M, Haruma Kinoshita Y, Higuchi K, Takahashi S, Kusano M, Iwakiri K, Kato K, Hongo M, Hiraishi H, Watanabe S, Miwa H, Naito Y, Fujimoto K, Arakawa T (the Samurai Study): Randomised clinical trial: rabeprazole improves symptoms in patients with functional dyspepsia in Japan. Aliment Pharmacol Ther 38:729-740, 2013.
 8. 田中昭文，徳永健吾，高橋信一：除菌判定の実際。日本臨床 71(8):1388-1393,2013.
 9. 徳永健吾，田中昭文，高橋信一：胃過形成性ポリープ。日本臨床 71(8):1449-1452,2013.
 10. 徳永健吾，田中昭文，高橋信一：*Helicobacter pylori* 関連疾患の实地診療。Medical Practice 30(7):1196-1200. 2013.
 11. 徳永健吾，高橋信一：内視鏡治療とヘリコバクター・ピロリ（感染診断と除菌治療のタイミング）。消化器内視鏡レクチャー 1, 788-790, 2013.
 12. 徳永健吾：高齢者のピロリ除菌は，何歳までを適応と考えるか。日本医事新報 4667, 78-79, 2013.
 13. 徳永健吾，田中昭文，高橋信一：*H.pylori* 感染症診療の pitfall. 除菌後潰瘍未治癒例，再発例への対応。Helicobacter Research 17: 513-517, 2013.
 14. 徳永健吾，田中昭文，高橋信一：ピロリ菌感染胃炎に対する炎除菌適用拡大の目的と意義。消化器内視鏡 25：1931-1937, 2013.
 15. 田中昭文，徳永健吾，高橋信一：効果的な検診と *Helicobacter pylori* 感染症の治療。Helicobacter Research 17: 535-539, 2013.
 16. 楠原光謹，土岐真朗，落合一成，太田博崇，神保陽子，大野亜希子，倉田勇，田部井弘一，畑英行，蓮江智彦，平野和彦，林田真理，徳永健吾，山口康晴，大倉康男，高橋信一：特発性食道粘膜下血腫が原因と考えられた食道粘膜剥離の1例。Progress of Digestive Endoscopy 83：96-97, 2013.
 17. 森秀明：自分でできる！読める！腹部エコー 特集にあたって。レジデントノート15：1214～1215,

- 2013.
18. 森秀明: 超音波診断装置の調整法. レジデントノート 15: 1216~1219, 2013.
 19. Kawaguchi T, Shiraiishi K, Ito T, Suzuki K, Koreeda C, Ohtake T, Iwasa M, Tokumoto Y, Endo R, Kawamura NH, Shiraki M, Habu D, Tsuruta S, Miwa Y, Kawaguchi A, Kakuma T, Sakai H, Kawada N, Hanai T, Takahashi SI, Kato A, Onji M, Takei Y, Kohgo Y, Seki T, Tamano M, Katayama K, Mine T, Sata M, Moriwaki H, Suzuki K: Branched-chain Amino Acids Prevent Hepatocarcinogenesis and Prolong Survival of Patients With Cirrhosis. *Clin Gastroenterol Hepatol*.2013
 20. 齋藤大祐, 林田真理, 三浦みき, 桜庭彰人, 奥山秀平, 山田雄二, 徳永健吾, 小山元一, 川村直弘, 高橋信一: ソラフェニブ投与開始後に消化管潰瘍を認めた進行肝細胞癌の2例. *Gastroenterological Endoscopy* 55(11):3589-3593,2013.
 21. Asaoka D, Nagahara A, Matsuhisa T, Takahashi S, Tokunaga K, Kawai T, Kawakami K, Suzuki H, Suzuki M, Nishizawa T, Kurihara N, Ito M, Sasaki H, Omata F, Mizuno S, Torii A, Ohkusa T, Mine T, Sakaki N.: Trends of second-line eradication therapy for *Helicobacter pylori* in Japan: a multicenter study in the Tokyo metropolitan area.*Helicobacter*. 18(6):468-72, 2013.
 22. Nakamura K, Takahashi T, Matui H, Takahashi S, Murayama SY, Suzuki H, Tsuchimoto K: New pharmaceutical treatment of gastric MALT lymphoma: anti-angiogenesis treatment using VEGF receptor antibodies and celecoxib. *Curr Pharm Des*. 20(7):1097-1103,2014.
 23. IGICS Study Group(Hida N, Nakamura S, Hahm KB, Sollano JD, Zhu Q, Rani AA, Syam AF, Kachintorn U, Ueno F, Joh T, Naito Y, Suzuki H, Takahashi S, Fukudo S, Fujiwara Y, Kinoshita Y, Uchiyama K, Yamaguchi Y, Yoshida A, Arakawa T, Matsumoto T):A questionnaire-based survey on the diagnosis and management of inflammatory bowel disease in East Asian countries in 2012. *Digestion* 89(1):88-103.2014.
 24. G-PRIDE study group(Tominaga K, Kato M, Takeda H, Shimoyama Y, Umegaki E, Iwakiri R, Furuta K, Sakurai K, Odaka T, Kusunoki H,Nagahara A,Iwakiri K, Furuta T, Murakami K, Miwa H, Kinoshita Y, Haruma K, Takahashi S, Watanabe S, Higuchi K, Kusano M, Fujimoto K, Arakawa T);A randomized, placebo-controlled, double-blind clinical trial of rikkunshito for patients with non-erosive reflux disease refractory to proton-pump inhibitor. *J Gastroenterol* 2014.
 25. Oda I, Oyama T, Abe S, Ohnita K, Kosaka T, Hirasawa K, Ishido K, Nakagawa M, Takahashi S: Preliminary results of multicenter questionnaire study on long-term outcomes of curative endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer. *Digestive Endoscopy* 26(2):214-219,2014.
 26. 田中昭文, 徳永健吾, 高橋信一: *Helicobacter pylori* と胃癌. *Medicina* 51(3):550-553. 2014.
 27. 徳永健吾, 田中昭文, 高橋信一: 超高齢者に対する *H.pylori* 除菌治療. *臨床消化器内科* 29: 311-316, 2014.
 28. 徳永健吾: 「ピロリ菌」について. *健康ライフ* 75: 3-6, 2014.
 29. 高橋信一: *H. pylori* の除菌保険適用拡大を受けて—除菌療法の基本—. *日本臨床内科医会会誌* 28(5):707-711,2014.
 30. Yamamoto K, Nishiumi S, Yang L, Klimatcheva E, Pandina T, Takahashi S, Matsui H, Nakamura M, Zauderer M, Yoshida M, Azuma T: Anti-CXCL13 antibody can inhibit the formation of gastric lymphoid follicles induced by *Helicobacter* infection. *Mucosal Immunol*. 2014.
- 著書
1. 高橋信一: 第8章 胃腸の健康. 機能性食品素材のためのヒト評価. 山本哲郎監修, 東京, シームムシー出版, 2013.p.200-203.
 2. 高橋信一: 除菌判定について. ピロリ菌除菌療法ハンドブック. 福田能啓, 高橋信一監修, 東京, 先端医学社, 2013.p.56-65.
 3. 高橋信一(監修): 機能性胃腸症. サルーテ8,9月号 :7-8, 2013.
 4. 土岐真朗, 徳永健吾, 高橋信一: PPI 治療のコツがわかる本. 木下芳一, 高橋信一編, 東京, 南江堂, 2013.p.65-85.
 5. 徳永健吾, 高橋信一: カラー版消化器病学 基礎と臨床. 胃・十二指腸潰瘍. 浅香正博, 菅野健太郎, 千葉 勉編, 東京, 西村書店, 2013. p.658-665.
 6. 徳永健吾, 高橋信一: 胃・十二指腸潰瘍. 専門医のための消化器病学. 小俣政男, 千葉勉監修, 東京, 医学書院, 2013.p.93-100.
 7. 高橋信一: 胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 吻合部潰瘍. 今日の治療指針2013年版. 山口徹, 北原光男, 福井次矢編, 東京, 医学書院, 2013.p.440-442.
 8. 高橋信一: 36胃腸機能調整薬, 37消化性潰瘍治療薬, 38腸疾患治療薬, 40下剤. 今日の治療薬2014 第36版. 浦部晶夫, 島田和幸, 川合眞一編, 東京, 南江堂, 2013.p.703-750,p.755-764.
 9. 土岐真朗, 徳永健吾, 高橋信一: 実地医家ならこれを読め! PPI 治療のコツがわかる本. 南江堂, 2013. p.65-80, p.117-119.
 10. 高橋信一, 土岐真朗, 畑英行: 看護師のための早引き胃ろう [PEG] ケアハンドブック. ナツメ社, 2013.
 11. 大野亜希子, 大圃研, 高橋信一: 大腸内視鏡治療選択における Flexible ESD の位置づけ. *消化器内科, 科学評論社*, 2013.57巻3号. p .273-279.
 12. 森秀明: 腹部超音波診断パーフェクト, 診断と治療社, 東京, 2013.
 13. 森秀明: 消化器. クイズで学ぶ 超音波診断実践トレーニング. 増山理編, 南江堂, 東京, 2013.p.29-45
 14. 森秀明: 第3章 Sonazoid 造影超音波の基本的知識

4. 最適な条件 5Philips .EOB-MRI/Sonazoid 超音波による肝臓の診断と治療. 医学書院, 東京, 2013. p.240-242

15. 西川かおり: 肝臓. レジデントノート自分でできる! 読める! 腹部エコー. 森秀明編, 東京, 羊土社, 2013. p.1238-1245.

その他

1. 高橋信一 (座談会): ピロリ除菌 保険適用が拓く未来. MMJ9(2):60-65,2013.
2. 高橋信一 (ライブ放送): ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎~感染診断から除菌判定まで~. Web 講演会, 東京, 平成25年4月16日19:00~19:40.
3. 高橋信一(インタビュー):ピロリ菌除菌後も要注意. 日本経済新聞平成25年5月17日発行.
4. 高橋信一(インタビュー):胃炎の分類と最近の動向. ドクターサロン 57(6):9-12,2013.(5.20)
5. 蓮江智彦, 土岐真朗, 高橋信一: American College of Gastroenterology (ACG) 2012(*Helicobacter pylori* ニュース). *Helicobacter Research* 17:2013. p.150-152.
6. 森秀明: みんなの日超医クイズコンテストー○でニッコリ!×でナットク! (予選1). 日本超音波医学会第86回学術集会, 大阪, 平成25年5月24日.
7. 森秀明: みんなの日超医クイズコンテストー○でニッコリ!×でナットク! (予選2). 日本超音波医学会第86回学術集会, 大阪, 平成25年5月25日.
8. 森秀明: みんなの日超医クイズコンテストー○でニッコリ!×でナットク! (決勝). 日本超音波医学会第86回学術集会, 大阪, 平成25年5月25日.
9. 高橋信一 (インタビュー): 胸やけを改善するには. 社会新報平成25年5月29日発行.
10. 高橋信一 (インタビュー): ピロリ菌除菌治療への保険適用で脱・胃がん大国へ. 週間ポスト平成25年6月24日発行.
11. 高橋信一: 第6回日本カプセル内視鏡学会学術集会主催, 東京, 平成25年7月28日.
12. 高橋信一 (インタビュー): ピロリ菌の除菌治療. NHK きょうの健康307:89-95,2013. (発行9月21日)
13. 高橋信一 (コメンテーター): シンポジウム, JDDW 2013, 東京, 平成25年10月11日.
14. 高橋信一 (座談会): Club UBiT Vol.13. 東京, 平成25年12月18日.
15. 高橋信一 (インタビュー): ピロリ菌除菌治療の保険適用が承認. 週間朝日 MOOK 110:225,2013. (発行12月20日)
16. 田中昭文, 徳永健吾, 高橋信一: 第10回日韓合同 *Helicobacter* シンポジウム (10th Japan-Korea Joint Symposium on *Helicobacter* Infection) (*Helicobacter pylori* ニュース). *Helicobacter Research* 17: 105-107, 2013.
17. 森秀明 (TV): 胃もたれ. モーニングバード. 平成26年1月6日.
18. 高橋信一, 徳永健吾 (TV): 鳥越俊太郎 医療の現場! 「ピロリ菌 除菌で予防! ~胃がん最新事情~」

BS 朝日 平成2014年1月18日.

19. 高橋信一 (インタビュー): 大切な胃をピロリ菌から守りましょう. 婦人公論平成26年1月22日発行.
20. 徳永健吾 (ラジオ): 「健康知りたい話」ピロリ菌を除菌して健康な胃を取り戻そう! 日本人に感染者が多いピロリ菌!, ラジオ日本, 平成26年1月20日.
21. 徳永健吾 (ラジオ): 「健康知りたい話」ピロリ菌と関係する病気は?, ラジオ日本, 平成26年1月21日.
22. 徳永健吾 (ラジオ): 「健康知りたい話」ピロリ菌の除菌療法について, ラジオ日本, 平成26年1月22日.
23. 徳永健吾 (ラジオ): 「健康知りたい話」胃癌は感染症だった! 胃癌とピロリ菌の関係. ラジオ日本, 平成26年1月23日.
24. 高橋信一 (討論者): シンポジウム, 第10回日本消化管学会総会学術集会, 福島市, 平成26年2月14日.
25. 田中昭文, 徳永健吾, 高橋信一: 米国消化器病学会議 American College of Gastroenterology (ACG) 2013 (*Helicobacter pylori* ニュース). *Helicobacter Research* 18: 70-72, 2014.
26. 徳永健吾 (監修): 機能性ディスペプシア. クレデンシャル66: 12-13, 2014.
27. 徳永健吾: m3武田 MR くん「変貌する上部消化器疾患で実地医家に求められる最新知識の全て」「ヘリコバクター・ピロリ関連疾患の実地診療」平成26年3月20日.

平成24年度業績

1. 村田美裕, 種山小栗, 千野貴子, 清水孝一, 高橋久子, 丹波光子, 奥山秀平, 竹内弘久, 大浦紀彦: 心臓手術後のサルコペニア患者に対して積極的なりハビリテーションと栄養介入が有効であった一例. 第28回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 金沢, 平成25年2月27日.
2. 種山小栗, 村田美裕, 千野貴子, 清水孝一, 高橋久子, 丹波光子, 奥山秀平, 竹内弘久, 大浦紀彦: 栄養管理とリハビリテーションを続けることによってADL が改善した1症例. 第28回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 金沢, 平成25年2月27日.

第三内科学教室

(糖尿病・内分泌・代謝内科)

口 演

1. 西田進, 鈴木清¹, 貞莉利彦, 信太暁子, 村嶋俊隆, 森谷理恵, 小沼裕寿, 犬飼浩一, 板垣英二, 石田均 (¹市立島田市民病院): 2型糖尿病に生じる骨代謝機構でのアンカッピングの存在にはその成因として内因性酸化ストレスの増大が関与する. 第110回日本内科学会総会・講演会, 東京, 平成25年4月12日 - 14日.
2. Hirohisa Onuma, Kouichi Inukai, Toshio Hosaka, Atsuko Kitahara, Rie Moriya, Kazuto Takahashi, Hitoshi Ishida, Cross-talk between GLP-1 signaling and PPARγ activation in endothelial cells. Prediabetes and Metabolic Syndrome, Austria, April 20, 2013.

3. Daisuke Ito, Kouichi Inukai, Toshio Hosaka, Takashi Sumita, Yuichi Ikegami, Takuya Awata, Effects of Liraglutide on glycemic control and body weight in 60 obese Japanese subjects with type 2 diabetes. *Prediabetes and Metabolic Syndrome*, Austria, April 20, 2013.
4. Takujiro Iuchi, Toshio Hosaka, Kouichi Inukai, Takashi Sumita, Kenta Imai, Hiraku Ono, Hitoshi Ishida, Takuya Awata, Hypothalamic Liver Kinase B1 (LKB1) regulates Energy Homeostasis via AMPK modification. *Prediabetes and Metabolic Syndrome*, Austria, April 20, 2013.
5. 石田均 (特別講演): 糖尿病の食事療法の新たな展開～食品交換表の新たな方向性～. 竜ヶ崎市・牛久市医師会学術講演会, 龍ヶ崎, 平成25年4月23日.
6. 石田均 (特別講演): 食品交換表の改訂をめぐって—今後の糖尿病食事療法への展望. 千葉県栄養士会平成25年度病院栄養士協議会通常総会・研修会, 千葉, 平成25年4月27日.
7. 石田均 (特別講演): 日本人にふさわしい糖尿病食事療法—食品交換表の改訂をめぐって—. 徳島糖尿病学術講演会, 徳島, 平成25年5月2日.
8. 貴田岡正史¹, 石田均, 井上岳³, 菅野一男⁴, 高村宏⁵, 中野忠澄⁶, 西村一弘⁷, 西田賢司⁸, 辻野元祥⁹, 調進一郎¹⁰, 住友秀孝¹¹, 吉元勝彦¹², 和田幹子¹³, 朝比奈崇介¹⁴, 藤田寛子¹⁵, 伊藤眞一¹⁶, 武居正郎¹⁷, 堀口ハル子¹⁸, 宮川高一¹⁹, 植木彬夫²⁰ (1公立昭和病院内分泌・代謝内科, 3北里大学薬学部臨床薬学研究センター, 4かんの内科, 5高村内科クリニック, 6三菱京都病院糖尿病内科, 7緑風荘病院, 8東京都立多摩総合医療センター総合内科, 9東京都立多摩総合医療センター内分泌代謝科, 10HECサイエンスクリニック, 11立川相互病院内分泌・代謝科, 12吉元医院, 13けいゆう病院, 14朝比奈クリニック, 15多摩北部医療センター内分泌・代謝内科, 16伊藤内科小児科クリニック, 17武居小児科医院, 18近藤医院, 19医療法人社団エスタヴィア, 20東京医科大学八王子医療センター): 糖尿病地域連携システムの構築—西東京臨床糖尿病研究会25年の歩みと今後の展望—. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 平成25年5月17日-19日.
9. 石田均 (基調講演): 日本人の糖尿病食事療法に求められるもの. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 平成25年5月17日-19日.
10. 石田均 (教育講演): 糖尿病の食事療法—「食品交換表」改訂とそのポイント—. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 平成25年5月17日-19日.
11. 北原敦子, 高橋和人, 五林可織, 半田桂子, 森谷理恵, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 勝田秀紀, 西田進, 板垣英二, 犬飼浩一, 石田均: グレリンによる脂肪細胞からのアディポカイン分泌制御機構—MCP-1ならびに VEGF₁₂₀分泌の促進作用とその分子機構の解明—. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 平成25年5月17日-19日.
12. 犬飼浩一, 炭谷由計, 小沼裕寿, 森谷理恵, 北原敦子, 田中利明, 高橋和人, 西田進, 勝田秀紀, 板垣英二, 石田均: 混合型 Ins 製剤30mix から B2B (Basal 2 Bolus) 療法への変更による有効性と安全性の検討. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 平成25年5月17日-19日.
13. 西田進, 鈴木清¹, 貞利彦, 信太暁子, 村嶋俊隆, 森谷理恵, 小沼裕寿, 炭谷由計, 高橋和人, 田中利明, 勝田秀紀, 板垣英二, 犬飼浩一, 石田均 (1市立島田市民病院): 男性2型糖尿病患者の骨代謝異常ではフルクトース経路の亢進と内因性酸化ストレスの増大に伴う破骨細胞機能亢進が重要である. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 平成25年5月17日-19日.
14. 鈴木清¹, 服部隆一², 菊山宗嗣³, 阪上泰一¹, 西田進, 勝田秀紀, 高橋和人, 森谷理恵, 北原敦子, 犬飼浩一, 石田均 (1高田薬局調剤技術部, 2市立島田市民病院, 3日揮ファーマサービス): 2型糖尿病に認められる骨代謝異常の存在と脂肪細胞からのレプチン分泌の亢進との関連について. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 平成25年5月17日-19日.
15. 勝田秀紀, 小澤幸彦, 鈴木清, 石本麻衣, 高橋聡, 貞利彦, 信太暁子, 村嶋俊隆, 田中利明, 西田進, 吉元勝彦, 犬飼浩一, 石田均: 膵β細胞機能評価としてのプロインスリン変換酵素の活性化障害に関する臨床的意義—肥満および非肥満症例の耐糖能別にみた検討—. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 平成25年5月17日-19日.
16. 高橋和人, 北原敦子, 森谷理恵, 五林可織, 半田桂子, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 勝田秀紀, 西田進, 犬飼浩一, 石田均: 肥大化脂肪細胞からの完全分泌型 VEGF₁₂₀の低酸素非依存的分泌制御機構の解明. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 平成25年5月17日-19日.
17. 志原伸幸¹, 山田祐一郎², 石田均, 貴田岡正史⁴, 佐藤譲⁵, 寺内康夫⁶, 矢部大介⁷, 清野裕⁸ (1日本糖尿病協会学術委員会, 2秋田大学大学院医学系研究科内分泌・代謝・老年内科学講座, 4公立昭和病院内分泌・代謝内科, 5岩手医科大学医学部内科学講座糖尿病・代謝内科分野, 6横浜市立大学大学院医学研究科分子内分泌・糖尿病内科学, 7関西電力病院糖尿病・栄養・内分泌内科, 8関西電力病院): DPP-4阻害薬投与に関する大規模実態調査研究—UNITE Study—中間報告. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 平成25年5月17日-19日.
18. 炭谷由計, 犬飼浩一, 森田奈瑠, 近藤健, 貞利彦, 信太暁子, 村嶋俊隆, 高橋和人, 勝田秀紀, 田中利明, 西田進, 板垣英二, 石田均: 外来診療下でのCGMを用いたシタグリプチンとビルダグリプチンの血糖変動に及ぼす比較検討. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 平成25年5月17日-19日.
19. 井内卓次郎¹, 保坂利男¹, 犬飼浩一, 住田崇¹, 伊藤大輔¹, 今井健太¹, 小野啓¹, 石田均, 栗田卓也¹ (1埼玉医科大学病院内分泌糖尿病内科): 視床下部 Liver Kinase B1 (LKB1) の糖代謝における役割.

- 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 平成25年5月17日 -19日.
20. 小沼裕寿, 犬飼浩一, 北原敦子, 森谷理恵, 炭谷由計, 村嶋俊隆, 勝田秀紀, 西田進, 高橋和人, 石田均: インクレチンシグナルと PPAR γ 活性化代謝経路の血管内皮細胞におけるクロストーク. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 平成25年5月17日 -19日.
 21. 小林庸子¹, 浅間泉², 高橋久子², 塚田芳枝³, 田中利明, 高橋和人, 犬飼浩一, 石田均 (¹杏林大学医学部付属病院薬剤部, ²杏林大学医学部付属病院看護部, ³杏林大学医学部付属病院栄養部): 糖尿病透析予防指導管理料の算定症例における服用薬剤の検討とその背景について. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 平成25年5月17日 -19日.
 22. 森谷理恵, 高橋和人, 北原敦子, 五林可織, 半田桂子, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 勝田秀紀, 西田進, 板垣英二, 犬飼浩一, 石田均: 飽和脂肪酸が及ぼす骨芽細胞機能への影響とその分子機構の解析. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 平成25年5月17日 -19日.
 23. 浅間泉, 小林庸子, 平形明人, 炭谷由計, 高橋和人, 勝田秀紀, 田中利明, 西田進, 犬飼浩一, 石田均 (¹杏林大学医学部付属病院看護部, ²杏林大学医学部付属病院薬剤部, ³杏林大学医学部眼科学教室): 蛍光眼底造影検査の IV 専任看護師育成の取り組み. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 平成25年5月17日 -19日.
 24. 須崎由香¹, 炭谷由計, 藤澤祐基², 栗山絹世³, 長谷川純子, 塚田芳枝³, 貞莉利彦, 村嶋俊隆, 犬飼浩一, 岡島康友¹, 大野秀樹⁴, 石田均: (¹杏林大学医学部付属病院リハビリテーション室, ²杏林大学保健学部理学療法学科, ³杏林大学医学部付属病院栄養部, ⁴杏林大学医学部衛生学公衆衛生学教室): 嫌気性代謝値 (AT) 強度下での食後運動が2型糖尿病の血糖変動に及ぼす効果—CGM を用いた24時間血糖変動を指標として—. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 平成25年5月17日 -19日.
 25. 豊田雅夫¹, 鈴木大輔¹, 徳田八大², 武井泉³, 勝田秀紀, 石田均, 中山ひとみ⁴, 山田研太郎⁴, 宮川潤一郎², 難波光義² (¹東海大学医学部腎内分泌代謝内科, ²兵庫医科大学内科学糖尿病科, ³東京歯科大学市川総合病院, ⁴久留米大学内分泌代謝内科): シタグリプチンで血糖コントロール不十分な2型糖尿病に対するビルダグリプチンへの切り替え効果の検討. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 平成25年5月17日 -19日.
 26. 高橋久子¹, 今野里美¹, 近藤由理香², 関田真由美², 小林庸子³, 炭谷由計, 高橋和人, 勝田秀紀, 田中利明, 西田進, 吉元勝彦, 犬飼浩一, 板垣英二, 石田均 (¹杏林大学医学部付属病院看護部, ²杏林大学医学部付属病院総合周産期母子医療センター, ³杏林大学医学部付属病院薬剤部): 妊娠糖尿病の産褥期における療養指導の実際と課題. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 平成25年5月17日 -19日.
 27. 石田均 (教育講演): 日本人にふさわしい糖尿病の食事療法. 第67回日本栄養・食糧学会, 名古屋, 平成25年5月24日 - 26日.
 28. 石田均 (特別講演): 日本人にふさわしい糖尿病食事療法—食品交換表の改訂をめぐって—. 旭川糖尿病フォーラム, 旭川, 平成25年6月5日.
 29. 石田均 (特別講演): 日本人のための糖尿病食事療法—食品交換表の改訂をめぐって—. 第13回メタボリックシンドローム研究会, 長岡, 平成25年6月7日.
 30. 石田均 (基調講演): 日本人のための糖尿病食事療法とは?—食品交換表の改訂を踏まえて—. 第8回横浜生活習慣病フォーラム—糖尿病グループ講演会—, 横浜, 平成25年6月8日.
 31. 石田均 (特別講演): 日本人にふさわしい糖尿病食事療法を考える. 第19回新宿区医師会糖尿病研究会, 東京, 平成25年6月11日.
 32. 石田均 (特別講演): 日本人にふさわしい糖尿病食事療法—食品交換表の改訂とその新たな方向性—. 第27回臨床栄養学術セミナー, 東京, 平成25年6月15日.
 33. Katsuta H, Suzuki K, Ozawa S, Moriya R, Onuma H, Takahashi K, Tanaka T, Nishida S, Inukai K, Ishida H: Decreased proinsulin convertase enzyme 1/3 activity in pancreatic β cells could be a useful predictive marker combined with decreased HOMA- β for an increased risk of non-obese type 2 diabetes. The American Diabetes Association's 72nd Scientific Sessions, USA, June 21- 25, 2013.
 34. 北原敦子 (特別講演): 第7版食品交換表の改訂とポイントについて. 東京都栄養士会委託事業, 東京, 平成25年7月11日.
 35. 石田均 (特別講演): 2型糖尿病での骨ミネラル代謝異常. 平成25年度 三糖会, 福岡, 平成25年7月13日.
 36. 石田均 (特別講演): 日本人のための糖尿病食事療法を考える—食品交換表の改訂とその方向性をめぐって—. 平成25年度 西東京療養指導プログラム第10回西東京糖尿病教育看護研修会・第10回西東京病態栄養研修会・第10回西東京薬剤研修会, 3領域合同研修会, 東京, 平成25年7月21日.
 37. 石田均 (特別講演): 日本人にふさわしい糖尿病食事療法—食品交換表の改訂をめぐって—. Expert Meeting 糖尿病治療を考える会世話人会, 福岡, 平成25年7月25日.
 38. 石田均 (特別講演): 日本人のための糖尿病食事療法—食品交換表の改訂と今後の方向性—. 糖尿病アプローチフォーラム, 京都, 平成25年7月31日.
 39. 石田均 (特別講演): 糖尿病食事療法に関する最近の話題. 済生会福岡総合病院 学術講演会, 福岡, 平成25年8月2日.
 40. 石田均 (特別講演): 日本人の体質に合った糖尿病食事療法. 第28回福岡県臨床糖尿病医会, 福岡, 平成25年8月10日.
 41. 石田均 (特別講演): 日本人にふさわしい糖尿病食

- 事療法を考える—食品交換表の改訂とその新たな方向性—。第25回十勝糖尿病談話会, 帯広, 平成25年8月19日。
42. 小沼裕寿, 炭谷由計, 高橋和人, 勝田秀紀, 田中利明, 西田進, 犬飼浩一, 板垣英二, 石田均, ¹折原唯史, ¹廣田和成, ¹井上真, ¹平形明人 (眼科学教室): インクレチン関連薬投与における糖尿病網膜症進展抑制に関する観察研究. 第19回日本糖尿病眼学会総会, 神戸, 平成25年8月23日 - 25日。
 43. 石田均 (特別講演): 糖尿病診療における食事療法の新たな展開—日本人の体質に合った食事療法とは—。Special Diabetes Care Meeting, 名古屋, 平成25年8月24日。
 44. 石田均 (特別講演): 食品交換表の改訂とそのポイント—カーボカウントとの関わり方—。平成25年度第3回函館糖尿病療養指導研修会, 函館, 平成25年8月30日。
 45. 勝田秀紀 (講演): 2型糖尿病の指標としてのプロインスリン. 小児から成人までの糖尿病管理セミナー, 大阪, 平成25年8月31日。
 46. 近藤健, 犬飼浩一, 炭谷由計, 菅原祥子, 永瀬惟, 盛田久美, 日隈藍, 石本麻衣, 高橋聰, 森田奈瑠, 貞苺利彦, 信太暁子, 村嶋俊隆, 石田均: 2型糖尿病患者60名に対する GLP-1 受容体作動薬リラグチドの有効性の検討. 第28回日本糖尿病合併症学会, 旭川, 平成25年9月13日 -14日。
 47. 炭谷由計, 犬飼浩一, 近藤健, 森田奈瑠, 石本麻衣, 高橋聰, 菅原祥子, 永瀬惟, 日隈藍, 盛田久美, 比佐有紀, 信太暁子, 貞苺利彦, 村嶋俊隆, 石田均: 2型糖尿病患者における Reactive hyperemia peripheral arterial tonometry (RH-PAT) の有用性の検討. 第28回日本糖尿病合併症学会, 旭川, 平成25年9月13日 -14日。
 48. 鈴木清, 服部隆一¹, 菊山宗嗣², 阪上泰一³, 松林直⁴, 森谷理恵, 北原敦子, 西田進, 犬飼浩一, 石田均 (市立島田市民病院糖尿病代謝内科, ²日揮ファーマサービス, ³高田薬局調剤部, ⁴日水製薬研究部): 2型糖尿病での骨代謝機構の異常に及ぼす肥満の影響について. 第28回日本糖尿病合併症学会, 旭川, 平成25年9月13日 -14日。
 49. 西田進: 男性2型糖尿病患者の骨代謝異常ではフルクトース経路の亢進と内因性酸化ストレスの増大に伴う破骨細胞機能亢進が重要である. 第28回日本糖尿病合併症学会, 旭川, 平成25年9月13日 -14日。
 50. 石田均 (特別講演): 日本人にふさわしい糖尿病食事療法を考える—食品交換表の第7版への改訂とその新たな方向性をめぐって—。第18回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 横浜, 平成25年9月22日 - 23日。
 51. 石田均 (特別講演): 日本人のための糖尿病食事療法—食品交換表の改訂をめぐって—。広島県栄養士会生涯学習研修会, 広島, 平成25年9月28日。
 52. 北原敦子, 高橋和人, 森谷理恵, 小沼裕寿, 半田桂子, 炭谷由計, 田中利明, 勝田秀紀, 西田進, 犬飼浩一, 石田均: グレリンによるアディポカイン分泌への制御機構. 第34回日本肥満学会, 東京, 平成25年10月11日 - 12日。
 53. 高橋和人, 北原敦子, 森谷理恵, 小沼裕寿, 半田桂子, 炭谷由計, 勝田秀紀, 田中利明, 西田進, 犬飼浩一, 石田均: 完全分泌型 VEGF₁₂₀の低酸素非依存的分泌制御機構の解析—肥大化脂肪細胞における検討—。第34回日本肥満学会, 東京, 平成25年10月11日 - 12日。
 54. 比佐有紀, 田中利明, 貞苺利彦, 森田奈瑠, 近藤健, 石本麻衣, 高橋聰, 犬飼浩一, 板垣英二, 石田均: ソフトドリンク多飲により顕在化した緩徐進行1型糖尿病の症例. 第600回日本内科学会関東地方会, 東京, 平成25年10月12日。
 55. 石田均 (特別講演): 糖尿病の食品交換表の改訂とその新たな方向性. 平成25年度健康づくり米食栄養学術講習会, 東京, 平成25年10月12日。
 56. 石田均 (特別講演): 日本人のための糖尿病食事療法—食品交換表の第7版への改訂をめぐって—。糖尿病学術講演会—糖尿病治療における食習慣を考える—, 福岡, 平成25年10月18日。
 57. 石田均 (特別講演): 日本人のための糖尿病食事療法—「交換表」の改訂をめぐるとの話題—。第20回鳥取県東中部糖尿病セミナー, 鳥取, 平成25年10月26日。
 58. 石田均 (特別講演): 日本人にふさわしい糖尿病食事療法—インクレチンとの関係も含めて—。日医生涯教育協力講座, 金沢, 平成25年10月27日。
 59. 石田均 (特別教育講演): 日本人にふさわしい糖尿病の食事療法—食品交換表の第7版への改訂と今後の方向性—。第29回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会, 岐阜, 平成25年11月1日 - 2日。
 60. 石田均 (特別講演): 日本人の体質に合った糖尿病食事療法—「食品交換表」の改訂とその新たな方向性—。糖尿病療養指導について考える会 2013, 東京, 平成25年11月7日。
 61. 石田均 (特別講演): 日本人にふさわしい食事療法—食品交換表の改訂に合わせて—。第4回SGW会, 福岡, 平成25年11月11日。
 62. 石田均 (特別講演): 日本人にふさわしい糖尿病食事療法—「交換表」改訂のポイントとその方向性—。糖尿病教育研究会—平成25年度公開講座—, 高岡, 平成25年11月14日。
 63. 犬飼浩一, 小沼裕寿, 炭谷由計, 近藤健, 高橋和人, 勝田秀紀, 田中利明, 西田進, 板垣英二, 石田均: 2型糖尿病患者60名に対する GLP-1受容体作動薬リラグチドの有効性の検討. 杏林医学会総会, 東京, 平成25年11月16日。
 64. 石田均 (特別講演): 「食品交換表」の第7版への改訂とそのポイント. 長野県栄養士会医療事業部研修会, 松本, 平成25年11月23日。
 65. 石田均 (特別講演): 日本人の体質に合った糖尿病食事療法を考える. 東葛生活習慣病カンファランス, 浦安, 平成25年11月27日。
 66. 石田均 (特別講演): 日本人のふさわしい糖尿病食

- 事療法を考える。福岡赤十字病院 学術講演会—糖尿病治療 Up To Date—, 福岡, 平成25年11月28日。
67. 石田均 (特別講演): 日本人の体質に合った糖尿病食事療法。第4回横浜西部・中部地区 CDE フォーラム, 横浜, 平成25年11月30日。
 68. 石田均 (特別講演): 日本人のための糖尿病食事療法。第21回所沢地区糖尿病研究会, 所沢, 平成25年12月3日。
 69. 石田均 (特別講演): 糖尿病の食事療法について—糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版—。茨城県栄養士会 平成25年度茨城県栄養学術講習会, 水戸, 平成25年12月14日。
 70. 北原敦子, 高橋和人, 森谷理恵, 小沼裕寿, 半田桂子, 三橋順子, 五林可織, 信太暁子, 貞莉利彦, 村嶋俊隆, 炭谷由計, 田中利明, 勝田秀紀, 西田進, 犬飼浩一, 石田均: 脂肪組織からの MCP-1ならびに VEGF₁₂₀分泌に及ぼすグレリンの影響とその制御機構について。第17回日本病態栄養学会年次学術集会, 大阪, 平成26年1月11日-12日。
 71. 栗山絹世¹, 高橋久子², 下田ゆかり³, 小林庸子³, 渡辺美津子⁴, 田中耕史⁵, 塚田芳枝¹, 犬飼浩一, 石田均 (¹杏林大学医学部付属病院栄養部, ²杏林大学医学部付属病院看護部, ³杏林大学医学部付属病院薬剤部, ⁴杏林大学医学部付属病院臨床検査部, ⁵杏林大学医学部付属病院リハビリテーション科): 当院における糖尿病透析予防管理料算定への取り組み (第2報)。第17回日本病態栄養学会年次学術集会, 大阪, 平成26年1月11日-12日。
 72. 石田均 (特別講演): 日本人にふさわしい糖尿病食事療法を考える。第10回岡山市糖尿病カンファレンス, 岡山, 平成26年1月14日。
 73. 菅原祥子, 炭谷由計, 比佐有紀, 永瀬惟, 貞莉利彦, 信太暁子, 村嶋俊隆, 犬飼浩一, 石田均: 強化インスリン療法から BOT への切り替え3症例—CGMによる比較—。第51回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 平成26年1月18日。
 74. 盛田久美, 炭谷由計, 菅原祥子, 比佐有紀, 永瀬惟, 勝田秀紀, 田中利明, 西田進, 板垣英二, 犬飼浩一, 石田均: BOT 加療中グラルギンからテグレダクに切り替えた際の血糖変動比較—CGMによる3症例検討—。第51回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 平成26年1月18日。
 75. 森田奈瑠, 炭谷由計, 石本麻衣, 近藤健, 高橋聡, 貞莉利彦, 信太暁子, 村嶋俊隆, 板垣英二, 犬飼浩一, 石田均: 血清 K 高値に伴い2度心停止を呈した高齢緩徐進行型1型糖尿病の1例。第51回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 平成26年1月18日。
 76. 石本麻衣, 炭谷由計, 比佐有紀, 近藤健, 高橋聡, 貞莉利彦, 信太暁子, 村嶋俊隆, 板垣英二, 犬飼浩一, 石田均: 抗 VGKC 抗体陽性, 胸腺腫を伴った重症筋無力症に SPIDDM を合併した1例。第51回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 平成26年1月18日。
 77. 中嶋美奈子¹, 濱田あゆみ¹, 吉井ゆう子¹, 東海俊史², 三橋順子, 池田和穂², 田中直見², 田中利明, 西田進, 石田均 (¹小山記念病院看護部, ²小山記念病院内科): 事故により肢体障害を有する糖尿病患者に SMBG /インスリン自己注射を導入できた一例。第51回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 平成26年1月18日。
 78. 石田均 (特別講演): 日本人にふさわしい糖尿病食事療法—食品交換表の改訂とその新たな方向性—。福岡県栄養士会 生涯学習研修会「糖尿病 Up To Date 最新情報 糖尿病食事療法の現状と課題」, 福岡, 平成26年1月19日。
 79. 石田均 (特別講演): 糖尿病の新しい食品交換表について。栃木県栄養士会 管理栄養士を対象とした糖尿病・慢性腎臓病 (CKD) 研修会, 宇都宮, 平成26年1月26日。
 80. 石田均 (特別講演): 日本人のための糖尿病食事療法—食品交換表の改訂をめぐる—。都立病院管理栄養士会 平成25年度学術講演会, 東京, 平成26年1月29日。
 81. 石田均 (特別講演): 日本人にふさわしい糖尿病食事療法—インクレチンとの関連も含めて—。Next Generation ブラッシュアップセミナー, 和歌山, 平成26年2月6日。
 82. 石田均 (特別講演): 日本人のための糖尿病食事療法—「食品交換表」の改訂とその新たな方向性—。第31回公衆栄養活動研究会, 横浜, 平成26年2月8日。
 83. 石田均 (特別講演): 日本人にふさわしい糖尿病食事療法。神奈川県保険医協会 第30回糖尿病セミナー, 横浜, 平成26年2月11日。
 84. 石田均 (特別講演): 日本人にふさわしい糖尿病食事療法。第1回京築・筑豊 臨床糖尿病の集い〜京都医師会学術講演会〜, 行橋, 平成26年2月12日。
 85. 石田均 (特別講演): 糖尿病食事療法の実際とその意義—インクレチンとの関連も含めて—。第4回薬剤師糖尿病指導研究会, 国立, 平成26年2月22日。
 86. 石田均 (特別講演): 日本人のための食事療法を考える—インクレチンとの関連も含めて—。病診連携糖尿病勉強会, 浜松, 平成26年2月25日。
 87. 石田均 (特別講演): 日本人にふさわしい糖尿病食事療法を考える。日医生涯教育協力講座, 長野, 平成26年3月1日。
 88. 石田均 (シンポジウム): 糖尿病の食事療法 up to date 新しい食品交換表の使い方。第48回糖尿病学の進歩, 札幌, 平成26年3月7日 - 8日。
 89. 石田均 (特別講演): 食品交換表の第7版への改訂と今後の展望。東京都病人栄養研究会平成25年度第5回病態栄養講座, 東京, 平成26年3月11日。
 90. 石田均 (特別講演): 日本人の体質に合った糖尿病食事療法—インクレチンとの関連も含めて—。第21回糖尿病センター合同カンファレンス, 小山, 平成26年3月12日。
 91. 石田均 (特別講演): 日本人にふさわしい糖尿病食事療法とは?—食品交換表の改訂とその新たな展開—。第163回グメスの会総会 学術講演会, 前橋, 平成26年3月14日。

92. 石田均 (特別講演): 日本人のための糖尿病食事療法—インクレチンとの関連とともに—. 第48回愛媛糖尿病チーム医療研修会, 松山, 平成26年3月15日.
93. 石田均 (特別講演): 糖尿病の食事療法について—糖尿病食事療法のための食品交換表第7版—. 三重県栄養士会 平成25年度研究発表会・冬期研修会, 津, 平成26年3月21日.
- 論文**
1. K. Takahashi, K. Miyokawa-Gorin, K. Handa, A. Kitahara, R. Moriya, H. Onuma, Y. Sumitani, T. Tanaka, H. Katsuta, S. Nishida, K. Yoshimoto, H. Ohno and H. Ishida. Endogenous oxidative stress, but not ER stress, induces hypoxia-independent VEGF120 release through PI3K-dependent pathways in 3T3-L1 adipocytes. *Obesity* 21: 1615-1624, 2013.
 2. T. Sakurai, T. Ito, K. Wakame, K. Kitadate, T. Arai, J. Ogasawara, T. Kizaki, S. Sato, Y. Ishibashi, T. Fujiwara, K. Akagawa, H. Ishida, and H. Ohno. Enzyme-treated asparagus officinalis extract shows neuroprotective effects and attenuates cognitive impairment in senescence-accelerated mice. *Natural Product Commun* 9(1): 101-106, 2014.
 3. H. Onuma, K. Inukai, M. Watanabe, Y. Sumitani, T. Hosaka, and H. Ishida. Effects of long-term monotherapy with glimepiride vs glibenclamide on glycemic control and macrovascular events in Japanese type 2 diabetic patients. *J Diabetes Mellitus* 4(1): 33-37, 2014.
 4. R. Moriya, K. Takahashi, A. Kitahara, H. Onuma, K. Handa, Y. Sumitani, T. Tanaka, H. Katsuta, S. Nishida, E. Itagaki, K. Inukai, and H. Ishida. Possible involvement of PI3K-dependent pathways in the increased VEGF120 release from osteoblastic cells preloaded with palmitate. *Biochem Biophys Res Commun* 445: 275-281, 2014.
 5. 福井道明, 山本浩司, 石田均. 見直される糖尿病の食事療法. 6. 食品交換表第7版 改訂のポイント. *糖尿病* 56(12): 922-925, 2013.
 6. 大野秀樹, 木崎節子, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 佐藤章悟, 石橋義永, 宮澤伸子, 長澤純一, 野口いづみ, 貫田宗男, 荻原理江, 村上和子, 石田均, 宮崎裕美, 斎藤大蔵, 小林靖, 鈴木健二, 人見嘉哲, 中野法彦, 大河原知水, 大石修司, 桜井智野風, 井澤鉄也, 白土健, 今泉和彦, 芳賀脩光. 高所環境は肥満を改善する. *登山医学* 33: 167-171, 2013.
 7. 石田均. 「巻頭言」糖尿病合併症の総合的な討議をめざす. *日本糖尿病眼学会誌* 18(1): 1-2, 2014.
 8. 犬飼浩一, 保坂利男, 炭谷由計, 小沼裕寿, 大竹啓之, 住田崇, 高橋和人, 石田均. LEGEND Study (Leading Evaluation for Insulin Glargine and Glulisine Efficacy instead of Pre-mix Therapy) 混合型インスリン2回打ちから B2B (Basal 2 Bolus) 療法へ切り替えにおける有効性の検討. *Progress in Medicine* 33: 1384-1389, 2013.
- 著書**
1. 石田均. 糖尿病の食事療法における最新知見—“糖質量の把握”を鍵とした正しい食事療法のステップ—. *Expert Nurse* 29(5): 18-23, 2013.
 2. 勝田秀紀, 石田均. 糖尿病と膵臓・膵島移植. *Medical Practice* 50(5): 837-839, 2013.
 3. 石田均. 日本人のための糖尿病食事療法—「食品交換表」の第7版への改訂をめぐる動きとその展望. *Diabetes Journal* 41(3): 127-130, 2013.
 4. 石田均. (監訳) Part 6. 栄養. ハリソン内科学第18版 (日本語版第4版). 福井次矢, 黒川清監修. メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京, 2013, p506-553.
 5. 石田均. チアゾリジン薬が期待される理由. 膵保護作用. 期待されるチアゾリジン薬. 門脇孝編. フジメディカル出版, 大阪, 2013, p92-100.
 6. 犬飼浩一, 石田均. a グルコシダーゼ阻害薬との併用療法 典型的成功例, 失敗例. インクレチン関連薬 + a. 日本医事新報6月特集号 (No.4653) 稲垣暢也編. 日本医事新報社, 東京, 2013, p 110-116.
 7. 香川靖雄, 近藤和雄, 石田均, 門脇孝 (編集). 人体の構造と機能及び疫学の成り立ち 総論. 改訂第2版. 健康・栄養科学シリーズ. 南江堂, 東京, 2013.
 8. 香川靖雄, 近藤和雄, 石田均, 門脇孝 (編集). 人体の構造と機能及び疫学の成り立ち 各論. 改訂第2版. 健康・栄養科学シリーズ. 南江堂, 東京, 2013.
 9. 石田均 (食品交換表編集委員会・食品交換表改訂小委員会: 委員長). 糖尿病食事療法のための食品交換表第7版 (日本糖尿病学会編・著). 日本糖尿病協会, 文光堂, 東京, 2013.
 10. 梅田文夫, 石田均. 学会レポート: 第27回日本糖尿病合併症学会. 第18回日本糖尿病眼学会総会合同学会. *糖尿病の最新治療* 4(2): 108-109, 2013.
 11. 犬飼浩一. 2種類のインスリン製剤を上手に使う治療法, 実践ストップ! *糖尿病・腎臓病*: 20-21, 2013.
 12. 犬飼浩一. 検査値を読む: IRI, OGTT. *内科増刊* 111 (6): 1165-1166, 2013.
 13. 犬飼浩一. どう使う? 生活習慣病の配合剤. *月刊薬事* 155(7): 45-48, 2013.
 14. 炭谷由計, 犬飼浩一. 重症患者の血糖管理目標. *内分泌・糖尿病・代謝内科* 137(1): 89-93, 2013.
 15. 犬飼浩一. 強化インスリン療法. *腎と透析* 75(2): 202-206, 2013.
 16. 犬飼浩一. GLP-1アナログ, ビクトーザ利用のコツ. *東京内科医会会誌* 29(2): 150-152, 2013.
 17. 板垣英二. 視床下部・下垂体疾患. 栄養の異常. year note 2014. 岡庭豊, 荒瀬康司, 三角和雄編. メディックメディア, 東京, 2013, p 14-29.
 18. 板垣英二. 内分泌・代謝・栄養疾患. year note topics 2012-2013. 医療情報科学研究所編. メディックメディア, 東京, 2013, p 141-144.
 19. 板垣英二. 第107回医師国家試験問題解説書. 医師国家試験問題解説書編集委員会編. 医学評論社, 東

- 京, 2013, p42-43, 93, 101-102, 107-108.
20. 石田均. 糖尿病をめぐる話題と治療の現状：食事療法. 医学と薬学 71(1): 57-65, 2014.
 21. 福井道明, 山本浩司, 石田均. 2章 糖尿病食事療法の理論と実際 C. 食事療法の進め方と指導のコツ：食品交換表. 糖尿病患者の食事と運動－考え方と進め方. Visual 糖尿病臨床のすべて. 荒木栄一（編集主幹）中山書店, 東京, 2014, p40-49.
 22. 石田均, 青江誠一郎, 菅野丈夫, 桑原晶子, 佐藤香苗, 西村一弘, 細井孝之, 吉村弘, 吉村吾志夫, 渡辺敏江（執筆・取材協力）. 栄養士・管理栄養士のためのなぜ？ どうして？ ②人体の構造と機能／臨床栄養学②第2版. メディックメディア, 東京, 2014.
 23. 石田均. 特集「糖尿病食事療法のための食品交換表第7版」への改訂とそのポイント. さかえ54(2): 8-13, 2014.
 24. 石田均. 糖尿病の食品交換表の改訂とその新たな方向性. 日本栄養士会雑誌57(2): 67-68, 2014.
 25. 石田均. 日本人の体質に合った糖尿病の食事療法を考えよう. べんりの一と24(4): 12-13, 2014.
 26. 石田均. 無形文化遺産となった「和食」と食品交換表. Diabetes Contemporary 1(1): 54-55, 2014.
 27. 犬飼浩一. 持効型インスリン製剤の特性－インスリングルルギンとインスリンデクルデクの比較. 診療と新薬 51(2): 1-9, 2014.
- その他**
1. 石田均. 日本人の食事療法. “カーボカウント”の活用への道. Medical Tribune 第2部 糖尿病特集（2013年8月15日）si-15, 2013.
 2. K. Takahashi. Endogenous oxidative stress, but not ER stress, induces hypoxia-independent VEGF120 release through PI3K-dependent pathways in 3T3-L1 adipocytes. World Biomedical Frontiers. Diabetes and Obesity (2013 December), 26, 2013.
 3. 石田均. Interview「食品交換表」の新たな方向性－日本人の体質に合った糖尿病食事療法の導入を－. CLINIC magazine 535（2014年1月）: 22-24, 2014.
 4. 石田均, 武井泉（対談）. Diabetes Front :「糖尿病食事療法のための食品交換表」第7版～改訂のポイントと使い方. DITN 430: 2-3, 2014.
 5. 石田均. 小田原雅人（Talks）. 新しい食品交換表第7版改訂のポイント. Diabetes Contemporary 1(1): 48-52, 2014.
 6. 犬飼浩一, 清野裕, 片山茂裕（座談会）. DPP-4阻害薬の発売後に大きく変わった糖尿病の治療. カレントセラピー 134(4): 80-90, 2014.
2. Mizuno N, Valle JW, Furuse J, Jitlal M, Beare S, Wasan H, Bridgewater J, Okusaka T: Cisplatin and gemcitabine for advanced biliary tract cancer: a meta-analysis of two randomised trials(abstract 4120), American Society of Clinical Oncology(ASCO) 2013 Annual Meeting, USA, 3 June, 2013.
 3. 古瀬純司: 膵・胆道癌の化学療法－最新情報と今後の展望. 第99回日本消化器病学会中国支部例会教育講演, 岡山, 平成25年6月16日.
 4. 古瀬純司: 膵癌化学療法－最新情報と今後の展望. 第22回日本消化器病学会関東支部例会教育講演, つくば, 平成25年6月23日.
 5. 長島文夫: 高齢者がん患者の評価. 第4回臨床腫瘍セミナー, 福島, 平成25年7月16日.
 6. 古瀬純司: 膵がん化学療法の最新情報－ガイドライン改訂を踏まえて. ランチョンセミナー6. 第44回日本膵臓学会大会, 仙台, 平成25年7月26日.
 7. 古瀬純司: 膵がん化学療法の最新情報－ガイドライン改訂を踏まえて. モーニングセミナー. 第11回日本臨床腫瘍学会, 仙台, 平成25年8月29日.
 8. 大川伸一, 池田公史, 奥坂拓志, 山本俊介, 鈴木郁恵, 古瀬純司: GC33の日本人進行性肝細胞癌患者を対象とした第I相臨床試験. 第11回日本臨床腫瘍学会, 仙台, 平成25年8月30日.
 9. 三輪啓介, 藤田健一, 市川度, 河原香織, 長島文夫, 古瀬純司, 佐々木康綱: 転移再発大腸癌のホルマリン固定標本におけるKRAS遺伝子変異測定と比較検討. 第11回日本臨床腫瘍学会, 仙台, 平成25年8月30日.
 10. 長島文夫, 小川朝生, 濱口哲弥, 古瀬純司, 安藤昌彦, 北村浩, 春日章良, 高須充子, 成毛大輔, 岡野尚弘: 高齢のがん患者における高齢者総合的機能評価の開発. ワーキングショップ10 ハイリスク患者に対するがん化学療法の適応基準. 第11回日本臨床腫瘍学会, 仙台, 平成25年8月30日.
 11. 小川朝生, 長島文夫, 濱口哲弥: Cancer-Specific Geriatric Assessment (CSGA) 日本語版の開発. 第11回日本臨床腫瘍学会, 仙台, 平成25年8月30日.
 12. 長島文夫: Cancer Specific Geriatric Assessment 日本語版の開発. 高齢者のがん治療を考える会, 東京, 平成25年9月7日.
 13. Kudo M, Lencioni R, Ye SL, Bronowicki JP, Chen XP, Dagher L, Furuse J, Geschwind JF, de Guevara LL, Papandreou C, Arun J, Sanyal AJ, Takayama T, Yoon SK, Venook A, Nakajima K, Marrero J: Regional differences in treatment history, practices, and outcomes: final analysis of GIDEON (Global Investigation of therapeutic decisions in hepatocellular carcinoma and of its treatment with sorafenib), The 7th annual meeting of International Liver Cancer Association, USA, 13-15 September, 2013.
 14. Lencioni R, Kudo M, Marrero J, Venook A, Ye SL, Bronowicki JP, Chen XP, Dagher L, Furuse J, de Guevara LL, Papandreou C, Sanyal AJ, Takayama T,

腫瘍内科学教室

口 演

1. 古瀬純司: 膵・胆道癌化学療法の最新情報－エビデンスからプラクティスへ. ランチョンセミナー. 第113回日本外科学会学術集会, 福岡, 平成25年4月12日.

- Yoon SK, Nakajima K, Geschwind JF: Final analysis of GIDEON (Global Investigation of therapeutic decisions in hepatocellular carcinoma and of its treatment with sorafenib): safety and outcomes by prior transarterial chemoembolization use, 2013 congress Cardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe, Spain, 14-18 September, 2013.
15. 古瀬純司: 胆道癌に対する化学療法の現状と今後の展望. 日本胆道学会認定指導医養成講座8, 第49回日本胆道学会学術集会, 浦安, 平成25年9月20日.
 16. 北村浩, 長島文夫, 宮島謙介, 古瀬純司, 須藤紀子, 奥山徹, 明智龍男, 小川朝生, 安藤昌彦: 継続的な高齢者総合機能評価は高齢がん患者の予後予測因子となりうる. 第26回日本サイコロジ学会総会, 大阪, 平成25年9月21日.
 17. Shibasaki H, Minowa Y, Ayukawa H, Yokokawa A, Hosoda K, Ishii K, Nagashima F, Furuse J, Furuta T: Simultaneous measurement of irinotecan and its metabolites in human plasma by HPLC with fluorescence detection, International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology, USA, 22-26 September, 2013.
 18. Okusaka T, Ikari T, Isayama H, Furuse J, Ishii H, Nakai Y, Imai S, Okamura S, Hamada C: efficacy and safety of Gemcitabine plus S-1 treatment in locally advanced and metastatic pancreatic cancer: A pooled analysis of three randomized trials using updated individual patient data(abstract 2595), The European Cancer Congress 2013, Netherlands, 22-26 September, 2013.
 19. Furuse J, Ishii H, Ohkawa S, Sasaki Y, Maguchi H, Mizuno N, Ohashi Y, Tsunoda T: Phase II open-label single-arm trial of combining the epitope peptide derived from Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-2 with gemcitabine for patients with unresectable biliary tract cancer OTS102 Study202(abstract 2608), The European Cancer Congress 2013, Netherlands, 30 September, 2013.
 20. Okusaka T, Furuse J, Gemma A, Hatori T, Ichikawa W, Seki A: Safety profile of erlotinib in a Japanese post-marketing surveillance study of pancreatic cancer patients (pts): Interim analysis of the first 313 pts of 855 pts enrolled(abstract 2615), The European Cancer Congress 2013, Netherlands, 30 September, 2013.
 21. Arima S, Shimizu K, Okamoto T, Toki S, Kasuga A, Kitamura H, Takasu A, Nagashima F, Sugiyama M, Furuse J: A multicenter phase II study of gemcitabine plus S-1 chemotherapy for advanced biliary tract cancer(abstract 2620), The European Cancer Congress 2013, Netherlands, 30 September, 2013.
 22. Ohno I, Fukutomi A, Furuse J, Okusaka T, Asayama M, Nakamori S, Ishii H, Okuno T, Yamanaka T, Boku N: JASPAC 02: A phase II study of gemcitabine and oxaliplatin (GEMOX) for gemcitabine-refractory advanced biliary tract cancer (Abstract 2635), The European Cancer Congress 2013, Netherlands, 30 September, 2013.
 23. Kasuga A, Okano N, Naruge D, Kitamura H, Takasu A, Nagashima F, Furuse J: Salvage chemotherapy of fixed dose rate gemcitabine and S-1 combination therapy (FGS) for gemcitabine-refractory advanced pancreatic cancer (Abstract 2641), The European Cancer Congress 2013, Netherlands, 30 September, 2013.
 24. Furuse J: Current status and future directions of chemotherapy for gastric and pancreatic cancers in Japan, Special Lecture 8, Taiwan Digestive Disease, Taiwan, 6 October, 2013.
 25. 古瀬純司: 膵がん化学療法の最新情報. -ガイドライン改訂を踏まえて-. ブラックファーストセミナー2. 第44回日本消化器学会総会 (JDDW2013), 東京, 平成25年10月9日.
 26. 古瀬純司: 膵臓がんの診断と治療 (化学療法を含めて). 教育講演「消化器がんのサーベイランス」. JDDW2013, 東京, 平成25年10月11日.
 27. 古瀬純司: 胆道癌診療. 国内外の Up to date (内科) 消化器外科学会特別企画. JDDW2013 第11回日本消化器外科学会大会 (JDDW2013), 東京, 平成25年10月11日.
 28. Matsuyama M, Todaka A, Nakamori S, Ikeda M, Furuse J, Hara H, Okuno T, Okusaka T, Ishii H, Yamanaka T, Boku N, Fukutomi A: JASPAC 03: A Phase II Study of S-1 plus Leucovorin as First-line Treatment for Metastatic Pancreatic cancer, United European Gastroenterology week 2013, Germany, 12-16 October, 2013.
 29. Kitamura H, Nagashima F, Miyajima K, Ando M, Takasu A, Kasuga A, Naruge D: Continuous Comprehensive Geriatric Assessment (CGA) Scores could provide prognostic indicators for elderly cancer patients, International Society Of Geriatric Oncology (SIOG) 2013 Annual Conference, Denmark, 24-26 October, 2013.
 30. 古瀬純司, 奥坂拓志, 猪狩功遺, 伊佐山浩通, 石井浩, 中井陽介, 今井翔悟, 岡村正太, 浜田知久馬: 3つの無作為化試験 (GEST, JACCRO PC-01, GEMSAP) の個別症例 Data を用いた統合解析研究. 一般口演. 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都, 平成25年10月24日.
 31. 春日章良, 上野秀樹, 池田公史, 成毛大輔, 近藤俊輔, 光永修一, 高須充子, 森実千種, 清水怜, 長島文夫, 奥坂拓志, 大野泉, 高橋秀明, 古瀬純司: 日本人膵癌患者に対する ABI-007+ Gemcitabine 療法第 I 相試験. 一般口演. 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都, 平成25年10月24日.
 32. 池田公史, 奥坂拓志, 福富晃, 井岡達也, 大川伸一, 伊佐山浩通, 古瀬純司, 朴成和: 化学療法未治療の遠隔転移を有する膵癌に対する FOLFIRINOX 併用療法の第 II 相臨床試験. 一般口演. 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都, 平成25年10月24日.
 33. 成毛大輔, 春日章良, 岡野尚弘, 北村浩, 高須充子,

- 長島文夫, 古瀬純司: 進行肝細胞癌におけるソラフェニブ耐性後の治療経過の検討: 2次治療の実施について. ポスターセッション. 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都, 平成25年10月24日.
34. 春日章良, 岡野尚弘, 成毛大輔, 北村浩, 高須充子, 長島文夫, 古瀬純司: ゲムシタピン耐性進行膵癌に対するゲムシタピン定速静注/S-1 併用療法 (FGS療法) の検討. 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都, 平成25年10月24日.
35. 高須充子, 春日章良, 成毛大輔, 北村浩, 岡野尚弘, 長島文夫, 古瀬純司: 切除不能膵癌に対する GEM/Erlotinib 療法の検討. 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都, 平成25年10月24日.
36. 古瀬純司: 局所進行膵癌に対する化学放射線療法の過去・現在・未来. 教育シンポジウム. 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都, 平成25年10月25日.
37. 古瀬純司, 弦間昭彦, 羽鳥隆, 市川度, 奥坂拓志, 関頭洋: タルセバ錠 膵癌 特定使用成績調査 (全例調査) における300例中間結果報告. 一般口演. 第51回日本癌治療学会学術集会. 京都, 平成25年10月25日.
38. Sanyal AJ, Lencioni R, Ye SL, Kudo M, Venook A, Bronowicki JP, Chen XP, Dagher L, Furuse J, Geschwind JF, de Guevara LL, Papandreou C, Takayama T, Yoon SK, Nakajima K, Marrero J, Safety and outcomes by disease etiology in sorafenib-treated uHCC patients in clinical practice: final analysis of GIDEON (Global Investigation of therapeutic decisions in hepatocellular carcinoma and of its treatment with sorafenib)(Abstract 2176), The 64th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases, USA, 1-5 November, 2013.
39. 長島文夫: 高齢がん患者の薬物療法の現状と課題. 第71回福岡がん化学療法研究会, 福岡, 平成25年11月20日.
40. 古瀬純司: 肝・胆・膵癌の化学療法. 総会特別企画「若手外科医のための教育セッション」. 第75回日本臨床外科学会総会, 名古屋, 平成25年11月22日.
41. Geschwind J, Kudo M, Marrero J, Venook A, Ye SL, Bronowicki JP, Chen XP, Dagher L, Furuse J, de Guevara LL, Papandreou C, Sanyal AJ, Takayama T, Yoon SK, Nakajima K, Lencioni R: Final analysis of GIDEON (Global Investigation of therapeutic decisions in hepatocellular carcinoma [HCC] and Of its treatment with sorafenib): regional trends, safety, and outcomes in patients receiving concomitant transarterial chemoembolization (TACE), Radiological Society of North America 2013, USA, 1-6 December, 2013.
42. Zhu AX, Kudo M, Assenat E, Cattani S, Kang YK, Lim HY, Poon RTP, Blanc JF, Vogel A, Chen CL, Dorval E, Peck-Radosavljevic M, Santoro A, Daniele B, Furuse J, Jappe A, Perraud K, Anak O, Sellami DB, Chen LT: EVOLVE-1: Phase 3 study of everolimus for advanced HCC that progressed during or after sorafenib (Abstract 172), 2014 Gastrointestinal Cancers Symposium, USA, 17 January, 2014.
43. Nakai Y, Okusaka T, Ikari T, Isayama H, Furuse J, Ishii H, Imai S, Okamura S, Hamada C: Analysis of prognostic factors in locally advanced and metastatic pancreatic cancer treated with gemcitabine or gemcitabine and S-1 chemotherapy using individual patient data from three randomized studies (Abstract 223), 2014 Gastrointestinal Cancers Symposium, USA, 17 January, 2014.
44. Furuse J, Baba H, Ohkawa S, Sugimori K, Yamamoto K, Minami H, Kitagawa Y, Kuramochi H, Kwon AH, Unno M, Wakabayashi G, Aiba K, Tamura K: Prospective observational study on chemotherapy-induced nausea and vomiting (CINV) for hepatobiliary and pancreatic cancer patients who were to receive chemotherapy including cisplatin by the CINV study group of Japan (Abstract 341), 2014 Gastrointestinal Cancers Symposium, USA, 17 January, 2014.
45. Suzuki E, Kaneko S, Okusaka T, Ikeda M, Yamaguchi K, Moriguchi M, Sato T, Furuse J: A multicenter phase II study of sorafenib in Japanese patients with hepatocellular carcinoma and Child Pugh A or B cirrhosis (Abstract 354), 2014 Gastrointestinal Cancers Symposium, USA, 17 January, 2014.
46. 古瀬純司: 肝細胞癌の治療戦略—新しい時代へ向けた取り組み. ランチョンセミナー. 第9回肝がん分子標的治療研究会, 東京, 平成26年1月25日.
47. 成毛大輔, 古瀬純司, 長島文夫, 高須充子, 北村浩, 春日章良, 岡野尚弘: 当院における進行肝細胞癌に対する sorafenib 療法中止後の動向: 後治療としての治験についての検討. 第9回日本肝がん分子標的治療研究会, 東京, 平成26年1月25日.
48. Furuse J, Ye SL, Marrero J, Lencioni R, Venook A, Nakajima K, Kudo M: Final analysis of GIDEON (Global Investigation of therapeutic DEcisions in hepatocellular carcinoma and Of its treatment with sorafeNib): treatment practices, safety, and outcomes by race. Presidential Plenary Papers 1: Non-Viral Liver Disease, Asian Pacific association for the study of the liver, Australia, 14 March, 2014.

論文

1. 北村浩, 長島文夫, 宮島謙介, 高須充子, 春日章良, 有馬志穂, 古瀬純司, 須藤紀子, 奥山徹, 明智龍男: がん薬物療法時の高齢者総合的機能評価の実施可能性. 日本大腸肛門病学会雑誌 66(4):288, 2013.
2. 古瀬純司: これだけは押さえておきたいがん化学療法の薬—抗がん剤・ホルモン剤・分子標的薬—はや調べノート. ざっくり解説! ケアにつながる薬の種類と特徴. プロフェッショナルがんナーシング別冊 8-10, 2013.
3. 本告成淳, 古瀬純司: これだけは押さえておきたいがん化学療法の薬—抗がん剤・ホルモン剤・分子標的薬—はや調べノート. 抗がん剤以外でレジメンに入っている治療薬. プレドニゾロン. プロフェッショ

- ナルがんナーシング別冊 156-157, 2013.
4. 本告成淳, 古瀬純司: これだけは押さえておきたいがん化学療法の薬—抗がん剤・ホルモン剤・分子標的薬—はや調べノート. 抗がん剤以外でレジメンに入っている治療薬. デキサメタゾン. プロフェッショナルがんナーシング別冊 158-159, 2013.
 5. 長島文夫: これだけは押さえておきたいがん化学療法の薬—抗がん剤・ホルモン剤・分子標的薬—はや調べノート. 分子標的薬: 抗体薬 パニツムマブ(解説/特集). プロフェッショナルがんナーシング別冊 36-37, 2013.
 6. 長島文夫: これだけは押さえておきたいがん化学療法の薬—抗がん剤・ホルモン剤・分子標的薬—はや調べノート. 分子標的薬: 抗体薬 ベバシズマブ(解説/特集). プロフェッショナルがんナーシング別冊 38-39, 2013.
 7. 春日章良: 診断編Q7. 胃腺腫の対応はどうしたらよいか? 消化管内視鏡エキスパート ② 胃癌 104-106, 2013.
 8. 中澤潤一, 成毛大輔, 春日章良, 北村浩, 高須充子, 長島文夫, 森内昭博, 古瀬純司: 最近の肝細胞癌の診断と治療. 肝細胞癌治療後の抗ウイルス療法 (HBV, HCV). コンセンサス癌治療 12(2):109-111, 2013.
 9. 古瀬純司, 長島文夫: がん化学療法の役割と実践. 杏林医学会雑誌 44(2):65-69, 2013.
 10. 古瀬純司: 膵・胆道癌薬物療法: 臨床試験を読む! —最新の動向と実地診療へのインパクト—. 膵・胆道癌化学療法の動向—臨床試験の読み方. 胆と膵 34(8):593-598, 2013.
 11. 春日章良, 岡野尚弘, 成毛大輔, 北村浩, 高須充子, 長島文夫, 古瀬純司: 膵・胆道癌薬物療法: 臨床試験を読む! —最新の動向と実地診療へのインパクト—. 遠隔転移を伴う膵癌に対するゲムシタピン+ナブパクリタキセル併用療法の第Ⅲ試験. 胆と膵 34(8):619-624, 2013.
 12. 古瀬純司: 胆道癌に対する化学療法の現状と今後の展望. 胆道 27(3): 362, 2013.
 13. 古瀬純司: 消化器癌のサーベイランス 膵臓がんの診断と治療 (化学療法を含めて). 肝臓54 (Suppl.2): A423, 2013.
 14. 古瀬純司: 化学放射線療法の過去・現在・未来. 他の消化器癌. 局所進行膵癌に対する化学放射線療法の過去・現在・未来. 日本癌治療学会誌 48(2): 479-481, 2013.
 15. 金翔哲, 松岡弘芳, 小島洋平, 阿部昌之, 鶴見賢直, 紅谷鮎美, 小嶋幸一郎, 高安甲平, 吉敷智和, 小林敬明, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則, 正木忠彦, 古瀬純司: 上腸間膜血管を巻き込む腹腔内デスマイドにてイレウスを来した一例. 日本臨床外科学会雑誌 74巻増刊: 805, 2013.
 16. 古瀬純司: 膵がん化学療法の現状と展望. 日本消化器病学会雑誌110: 2060-2065, 2013.
 17. 成毛大輔, 春日章良, 中澤潤一, 北村浩, 高須充子, 長島文夫, 古瀬純司: 薬剤性消化器障害とその対策. 抗癌剤による消化管障害の現状と対策 (除分子標的薬). 成人病と生活習慣病 43(3):382-386, 2013.
 18. 古瀬純司, 成毛大輔, 春日章良, 中澤潤一, 北村浩, 高須充子, 長島文夫: 消化器癌化学療法—新たなエビデンスを求めて. 肝細胞癌に対する全身化学療法の新展開. 臨床消化器内科 28(3):323-329, 2013.
 19. 古瀬純司, 成毛大輔, 春日章良, 中澤潤一, 北村浩, 高須充子, 長島文夫: 胆道癌, 膵癌に対する個別化治療の新展開. 癌診療における個別化治療の位置づけ—新規薬剤を中心に—. 胆と膵 34(2):113-117, 2013.
 20. 椋棒由紀子, 成毛大輔, 川真田美和子, 平井えい子, 小森万希子: 星状神経節ブロック直後に脳梗塞を発症した1例 (A Case of Cerebral Infarction after Stellate Ganglion Block) (英語) (原著論文/症例報告). 東京女子医科大学雑誌 (0040-9022) 83(4): 258-260, 2013.
 21. 古瀬純司, 岡野尚弘, 成毛大輔, 春日章良, 北村浩, 高須充子, 長島文夫: 見直される膵癌診療の新展開. 治療における新展開—切除不能例への治療戦略. 切除不能膵癌に対する抗がん+分子標的薬治療. 臨床外科 69(1): 58-63, 2014.
 22. 古瀬純司: 最新がん薬物療法学—がん薬物療法の最新知見—. 臓器別がんの薬物療法. 膵がん・胆道がん・肝細胞がん. 膵がん. 日本臨床72 (Suppl.2): 381-386, 2014.
 23. 古瀬純司: 肝胆膵腫瘍のバイオインフォマティクス. 胆・膵領域の個別化薬物治療の現状. 肝胆膵 68(3): 465-470, 2014.
 24. 古瀬純司: 消化器Q&A. 抗がん剤のドラッグラグ. 消化器のひろば4: 2014. 春号, 2014.
 25. 古瀬純司: 第49回日本胆道学会学術集会記録. 日本胆道学会認定指導医養成講座. 胆道癌に対する化学療法の現状と今後の展望. 胆道 28(1): 43-48, 2014.
 26. 長島文夫, 北村浩, 古瀬純司, 須藤紀子, 松井敏史, 神崎恒一, 東尚弘, 中村文明: 高齢者のがんに対する総合的機能評価. 腫瘍内科 13(2): 182-185, 2014.
- 欧 文
1. Tamura M, Saraya T, Fujiwara M, Hiraoka S, Yokoyama T, Yano K, Ishii H, Furuse J, Goya T, Takizawa H, Goto H: High-resolution computed tomography findings for patients with drug-induced pulmonary toxicity, with special reference to hypersensitivity pneumonitis-like patterns in gemcitabine-induced cases. *Oncologist* 18:454-9, 2013.
 2. Matsuyama M, Ishii H, Kuraoka K, Yukisawa S, Kasuga A, Ozaki M, Suzuki S, Takano K, Sugiyama Y, Itoi T: Ultrasound-guided vs endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration for pancreatic cancer diagnosis. *World J Gastroenterol* 19:2368-73, 2013
 3. Suzuki E, Ikeda M, Okusaka T, Nakamori S, Ohkawa S, Nagakawa T, Boku N, Yanagimoto H, Sato T, Furuse

J: A multicenter phase II study of S-1 for gemcitabine-refractory biliary tract cancer, *Cancer Chemother Pharmacol* 71(5):1141-6, 2013.

4. Ueno H, Ioka T, Ikeda M, Ohkawa S, Yanagimoto H, Boku N, Fukutomi A, Sugimori K, Baba H, Yamao K, Shimamura T, Sho M, Kitano M, Cheng AL, Mizumoto K, Chen JS, Furuse J, Funakoshi A, Hatori T, Yamaguchi T, Egawa S, Sato A, Ohashi Y, Okusaka T, Tanaka M: Randomized Phase III Study of Gemcitabine Plus S-1, S-1 Alone, or Gemcitabine Alone in Patients With Locally Advanced and Metastatic Pancreatic Cancer in Japan and Taiwan: GEST Study, *J Clin Oncol* 31(13):1640-8, 2013.
5. Mitsunaga S, Ikeda M, Shimizu S, Ohno I, Furuse J, Inagaki M, Higashi S, Kato H, Terao K, Ochiai A: Serum levels of IL-6 and IL-1 β can predict the efficacy of gemcitabine in patients with advanced pancreatic cancer. *Br J Cancer* 108:2063-9, 2013.
6. Ikeda M, Okusaka T, Furuse J, Mitsunaga S, Ueno H, Yamaura H, Inaba Y, Takeuchi Y, Satake M, Arai Y: A multi-institutional phase II trial of hepatic arterial infusion chemotherapy with cisplatin for advanced hepatocellular carcinoma with portal vein tumor thrombosis, *Cancer Chemother Pharmacol* 72(2):463-70, 2013.
7. Morizane C, Okusaka T, Mizusawa J, Takashima A, Ueno M, Ikeda M, Hamamoto Y, Ishii H, Boku N, Furuse J: Randomized phase II study of gemcitabine plus S-1 versus S-1 in advanced biliary tract cancer: a Japan Clinical Oncology Group trial (JCOG 0805), *Cancer Sci* 104(9):1211-6, 2013.
8. Suyama K, Ikeda M, Suzuki E, Kojima M, Mitsunaga S, Shimizu S, Ohno I, Takahashi H, Okuyama H, Kuwahara A, Okusaka T, Furuse J: Early relapse of unresectable gallbladder cancer after discontinuation of gemcitabine monotherapy administered for 5 years in a patient who had complete response to the treatment. *Case Rep Oncol* 6:531-7, 2013.
9. Kasuga A, Yamamoto Y, Fujisaki J, Okada K, Omae M, Ishiyama A, Hirasawa T, Chino A, Tsuchida T, Hoshino E, Igarashi M: Simultaneous endoscopic submucosal dissection for synchronous double early gastric cancer. *Gastric cancer* 16(4):555-62, 2013.
10. Valle JW, Furuse J, Jitlal M, Beare S, Mizuno N, Wasan H, Bridgewater J, Okusaka T: Cisplatin and gemcitabine for advanced biliary tract cancer: a meta-analysis of two randomised trials. *Ann Oncol* 25:391-8, 2014.
11. Sunakawa Y, Furuse J, Okusaka T, Ikeda M, Nagashima F, Ueno H, Mitsunaga S, Hashizume K, Ito Y, Sasaki Y. Regorafenib in Japanese patients with solid tumors: phase I study of safety, efficacy, and pharmacokinetics. *Invest New Drugs* 328:104-12, 2014.

著書

1. 成毛大輔, 古瀬純司: 胆道疾患. 胆道癌. 治療過程

で一目でわかる消化器薬物療法 STEP 1・2・3. 一瀬雅夫, 岡政志, 持田智編. 東京, メジカルビュー社, 2013. p.243-247.

2. 古瀬純司: 胆道がんの治療法. 胆道がんにはどのような治療をするの? 胆道がんの治療とケアガイドー胆道がんの患者さん・ご家族と, がん診療に携わるすべての人々へ. がん研究会有明病院, 国立がん研究センター中央病院・東病院編. 東京, 金原出版, 2013. p.30-33.
3. 古瀬純司: 分子標的治療薬を用いた治療の実際. 肝がん. 悪性腫瘍治療ストラテジー. がん分子標的療法ハンドブック. 小松嘉人編. 東京, ヴァンメディカル, 2013. p.48-55.
4. 古瀬純司: 治療法. 放射線治療. インフォームドコンセントのための図説シリーズ. 膵がん 改訂3版. 船越顕博編. 大阪, 医薬ジャーナル, 2013. p.86-91.
5. 古瀬純司: 膵臓. 腫瘍性病変. トピックス 膵癌化学療法の進歩. 小俣政男, 千葉勉監. 下瀬川徹, 渡辺守, 木下芳一, 金子周一, 樫田博史編. 東京, 医学書院, 2013. p.650-654.

報告書

1. 古瀬純司: 切除不能局所進行膵がんに対する標準的放射線療法確立に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)平成23年度~平成25年度 総合研究報告書.
2. 古瀬純司: 切除不能局所進行膵がんに対する標準的放射線療法確立に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)平成25年度 総合研究報告書.
3. 長島文夫: 高齢がん患者における高齢者総合的機能評価の確立とその応用に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)平成25年度 総合研究報告書.
4. 長島文夫: 高齢がん患者における高齢者総合的機能評価の確立とその応用に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)平成25年度 総合研究報告書.

その他

1. 古瀬純司: 患者を生きる. 消化器 肝臓がん6. 朝日新聞, 平成25年4月28日.
2. 古瀬純司: 第8期がん情報ナビゲーター養成講座(オンデマンド・ウェブ・ラーニングシステム). 消化器がん③(その他の消化器がん: 膵臓がん・肝臓がんなど)疫学・診断・治療の実際. 特定非営利活動法人キャンサーネットジャパン, 配信 平成25年7月5日~平成26年3月28日.
3. 古瀬純司: どうすれば安全安心. 目立たないが怖い膵臓病. 毎日新聞, 平成25年9月12日夕刊.
4. 古瀬純司: なんでも健康相談. 腫瘍内科「膵嚢胞」は手術で取ったほうがよいのでしょうか. NHK きょうの健康 平成25年12月号. p. 128.
5. 古瀬純司: 膵がん X'mas 勉強会. 特定非営利活動法人パンキャンジャパン, 平成25年12月21日.
6. 古瀬純司. TOP/ 巻頭言 グローバルな新薬開発

に日本がどう関与していくべきか? BIO Clinica 29(2):13, 2014.

- 春日章良: Clinical characterization of gastric lesions initially diagnosed as low-grade adenomas on forceps biopsy. 平成25年度日本消化器内視鏡学会学会賞, 東京, 平成25年10月9日-12日.

高齢医学教室

口 演

- 長谷川浩: 認知症を地域でみるとはどういうことか. 小金井市認知症治療カンファレンス, 小金井, 平成25年4月25日.
- 保田直美¹, 寺島直樹¹, 望月豊¹, 中島久実子², 大荷満生³, 秦葭哉¹(¹紘友会三鷹病院, ²山梨学院大学健康栄養学部管理栄養学科, ³杏林大学医学部高齢医学): 寝たきり状態より栄養・リハビリ治療で自立を回復した糖尿病患者の一例. 第12回多摩 NST 研究会, 武蔵境市, 平成25年4月23日.
- 神崎恒一: 認知症と治療薬の効果. 武蔵野市薬剤師会在宅勉強会, 武蔵野, 平成25年4月25日.
- 松井敏史: アルコールと認知機能障害 第3回認知症セミナー. 杏林大学医学部付属病院, 三鷹, 平成25年5月9日.
- 柴田茂貴, 永井久美子, レヴィン ベンジャミン, 神崎恒一: 健常人での前負荷変化時の中心静脈圧と肺動脈楔入圧の関係. 日本麻酔科学会第60回学術集会, 札幌, 平成25年5月23-25日.
- 大荷満生: シンポジウム7- 医学における栄養学の最新研究「高齢者における body compositional disorders とサルコペニア」. 第67回日本食糧・栄養学会, 名古屋, 平成25年5月25日.
- 神崎恒一: 認知症と転倒. 第55回日本老年医学会学術集会, 大阪, 平成25年6月4日.
- 神崎恒一: (教育講演) 総合機能評価. 第55回日本老年医学会学術集会, 大阪, 平成25年6月5日.
- 田中政道, 須藤紀子, 長谷川浩, 神崎恒一: もの忘れセンター通院患者におけるサルコペニアの実態調査と臨床測定値に関する検討. 第55回日本老年医学会学術集会, 大阪, 平成25年6月5日.
- 須藤紀子, 永井久美子, 神崎恒一: 急性期病院入院がん高齢患者の現状-治療法選択と総合機能評価. 第55回日本老年医学会学術集会, 大阪, 平成25年6月5日.
- 小林義雄, 名古屋恵美子, 長谷川浩, 神崎恒一: 杏林大学病院の認知症疾患医療センターとしての役割. 第55回日本老年医学会学術集会, 大阪, 平成25年6月5日.
- 長谷川浩¹, 永井久美子¹, 井上慎一郎¹, 竹下実希¹, 長田正史¹, 里村元¹, 田中政道¹, 小原聡将¹, 神崎恒一¹, 鳥羽研二² (¹杏林大学医学部高齢医学, ²国立長寿医療研究センター): 中高年女性における脊柱矯正・柔軟体操の経年的効果 (10年次報告). 第55回日本老年医学会学術集会, 大阪, 平成25年6月5日.
- 永井久美子, 柴田茂貴, 須藤紀子, 小原聡将, 秋下雅弘, 鳥羽研二, 神崎恒一: 高齢者における非侵襲的動脈硬化検査法の有用性: 組み合わせ診断によるイベント予測能の向上. 第55回日本老年医学会総会, 大阪, 2013年6月5日.
- 木村紗矢香¹, 山田如子¹, 町田綾子¹, 神崎恒一¹, 鳥羽研二² (¹杏林大学医学部高齢医学, ²国立長寿医療研究センター): MCI 患者の予後予測のための COGNISTAT の有用性に関する検討. 第55回日本老年医学会学術集会, 大阪, 平成25年6月6日.
- 井上慎一郎, 佐藤道子, 永井久美子, 長谷川浩, 須藤紀子, 神崎恒一: 急性期病院へ入院した高齢者の入院時評価と転帰についての検討. 第55回日本老年医学会学術集会, 大阪, 平成25年6月6日.
- 小柴ひとみ, 永井久美子, 小林義雄, 山田如子, 木村紗矢香, 須藤紀子, 長谷川浩, 神崎恒一: 老年症候群の適切な把握のためのもの忘れ外来予診表の活用. 第55回日本老年医学会学術集会, 大阪, 平成25年6月6日.
- 輪千督高, 田中政道, 須藤紀子, 長谷川浩, 神崎恒一: 食思不振を症状に有し緊急入院した高齢患者の背景因子に関する検討. 第55回日本老年医学会学術集会, 大阪, 平成25年6月6日.
- 望月諭¹, 藤井広子¹, 神崎恒一² (¹康明会ホームケアクリニック, ²杏林大学医学部高齢医学): 在宅医療の阻害要因に関する検討. 第55回日本老年医学会学術集会, 大阪, 平成25年6月6日.
- 秦葭哉¹, 中島久実子², 大荷満生³, 望月豊¹, 保田直美¹, 寺島直樹¹ (¹紘友会三鷹病院, ²山梨学院大学健康栄養学部管理栄養学科, ³杏林大学医学部高齢医学): 自立障害高齢者における自立度, ADL との関連よりみたサルコペニアの身体計測およびカットオフ値-筋肉喪失の指標としての上腕周囲と下腿最大周. 第55回日本老年医学会総会, 大阪, 平成25年6月6日.
- 望月豊¹, 中島久実子², 保田直美¹, 寺島直樹¹, 大荷満生³, 秦葭哉¹(¹紘友会三鷹病院, ²山梨学院大学健康栄養学部管理栄養学科, ³杏林大学医学部高齢医学): 高齢者の自立度ならびに日常生活度からみたサルコペニア. 第55回日本老年医学会総会, 大阪, 平成25年6月6日.
- 松井敏史: アルコールと認知症断酒の効果について. 藤沢断酒新生会研修会, 藤沢. 平成25年6月20日.
- Toshifumi Matsui: Coexisting silent brain infarctions (and complications) in Alzheimer's disease. NCGG セミナー/国立長寿医療センター, 愛知, 6月21日.
- 松井敏史: 認知症治療薬の使い方. 認知症治療フォーラム in 多摩2013, 立川, 平成25年7月11日.
- 松井敏史: 高齢化社会とアルコール対策. 教育講座・基礎コース②第35回アルコール関連問題学会, 岐阜, 平成25年7月18日.
- Shigeki Shibata¹, Kumiko Nagai¹, Hitomi Koshiba¹, Benjamin D. Levine², Koichi Kozaki¹ (¹Department

- of Geriatric Medicine, Kyorin University School of Medicine, ²Institute for Exercise and Environmental Medicine, Texas Health Presbyterian Hospital Dallas and the University of Texas Southwestern Medical Center) : Effects of Long-term Exercise Training on Central Arterial Stiffness in the Elderly. 第45回日本動脈硬化学会総会学術集会, 東京, 平成25年7月19日.
26. 神崎恒一: 認知症と転倒. 第24回認知症を語る会, 名古屋, 平成25年7月25日.
 27. 松井敏史: 賢いお酒の飲み方講座. 第18回認知神経科学会イブニングセミナー, 東京, 平成25年7月27日.
 28. 神崎恒一: 三鷹市・武蔵野市 認知症連携シートについて. 多摩エリア認知症疾患医療センター連絡会, 立川, 平成25年7月29日.
 29. 松井敏史: 認知症の背景因子 - 生活習慣病との関連 -. 三鷹医師会学術講演会, 三鷹, 平成25年7月31日.
 30. 神崎恒一: 認知症の診断と治療 - 大島で認知症高齢者の方を支えるために -. 離島医療圏認知症講演会, 大島, 平成25年8月21日.
 31. 神崎恒一, 長谷川浩: 三鷹武蔵野認知症連携の取り組み. 北多摩南部地域各市医師会認知症を地域で考える会, 武蔵野, 平成25年9月6日.
 32. 高附里江, 輪千督高, 長田正史, 田中政道, 長谷川浩, 神崎恒一: 多重癌による傍腫瘍性神経症候群が疑われた一例. 第58回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 平成25年9月14日.
 33. 神崎恒一, 金信敬: 高齢者の転倒予防について. 三鷹市老人クラブ連合会講演, 三鷹, 平成25年9月13日.
 34. 船曳茜, 小原聡将, 井上慎一郎, 長谷川浩, 杉山小百合, 宮城島慶, 八反丸美喜子, 里村元, 松井敏史, 神崎恒一: 炎症性疾患に続発した高齢者偽痛風症例の検討. 第58回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 平成25年9月14日.
 35. 宮本孝英, 田中政道, 長谷川浩, 長田正史, 輪千督高, 小原聡将, 高附里江, 松井敏史, 神崎恒一: 高齢女性での初発の潰瘍性大腸炎の一例. 第58回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 平成25年9月14日.
 36. 神崎恒一: 認知症診療の地域連携 - 三鷹市・武蔵野市の取り組み -. 日野市認知症の地域連携を語る会, 日野, 平成25年9月19日.
 37. 長谷川浩: 小金井市認知症連携シート活用. 小金井市認知症研修会, 小金井, 平成25年9月24日.
 38. 神崎恒一: 認知症と向き合う. 杏林大学文化講演会, 羽村, 平成25年9月21日.
 39. 松井敏史: 認知症とその対応について. ケアマネージャー向け研修, 横浜, 平成25年9月26日.
 40. 松井敏史: 認知症医療における病診連携の取り組み. 第2回仙台認知症セミナー, 仙台, 平成25年9月26日.
 41. 長谷川浩: 認知症について学ぼう. 府中市地域包括にしふ公開講演会, 府中, 平成25年9月26日.
 42. 松井敏史: シンポジウム I 「アルコール関連脳障害と認知障害をめぐって」 アルコール依存症の脳画像所見について. アルコール・薬物依存関連学会, 岡山, 平成25年10月3日.
 43. Koichi Kozaki: Gender Difference of Sarcopenia in Cognitive Declined Elderly. 9th Congress of the European Union Geriatric Medicine Society, Venice-Italy, Oct 3. 2013.
 44. 保田直美¹, 望月豊¹, 寺島直樹¹, 中島久実子², 大荷満生³, 秦菫哉¹, (¹絃友会三鷹病院, ²山梨学院大学健康栄養学部管理栄養学科, ³杏林大学医学部高齢医学): 高齢者における肥満サルコペニア Obese sarcopenia の一例. 第35回日本臨床栄養学会総会, 京都, 平成25年10月4日.
 45. 松井敏史: 脂質異常症診療から認知症を防ぐためにできること. 日本人の認知症を考える2013年秋, 武蔵野, 平成25年10月9日.
 46. 長谷川浩: 「認知症の理解と最近の治療の動向」. 認知症見守り支援ヘルパー養成研修, 武蔵野, 平成25年10月16日.
 47. 大荷満生: 高脂血症 (脂質異常症) の病態と治療. 公益財団法人健康・体力づくり事業団指導者養成部主催平成25年度健康運動指導士養成講習会, 東京, 平成25年10月18日.
 48. 大荷満生: 高尿酸血症の病態と治療. 公益財団法人健康・体力づくり事業団指導者養成部主催平成25年度健康運動指導士養成講習会, 東京, 平成25年10月18日.
 49. 神崎恒一: 高齢者総合機能評価. 日本在宅医学会生涯教育プログラム, 東京, 平成25年10月26日.
 50. 神崎恒一: 認知症医療連携～薬剤師に求めること～. 西部薬剤師会講演会, 東村山, 平成25年10月27日.
 51. Koichi Kozaki: Team approach for dementia care from the early symptoms to the end of life. 4th International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG) Master Class on Ageing, Kyoto, Oct 31. 2013.
 52. 長谷川浩: 認知症地域連携オレンジプランの骨子, 早期支援チームについて. 調布市医師会認知症勉強会, 調布, 平成25年11月5日.
 53. 松井敏史¹, 松下幸生², 木村充², 伊藤満³, 神崎恒一¹, 樋口進² (¹杏林大学医学部高齢医学, ²国立病院機構久里浜医療センター認知症疾患医療センター): アルコール依存症の脳萎縮におけるアセトアルデヒド脱水素酵素遺伝子多型の関与. 第32回日本認知症学会学術集会, 松本, 平成25年11月8日.
 54. 中居龍平, 長谷川浩, 小林義雄, 神崎恒一: 高齢認知症における移動準備動作および準備量に対する動的脳血流分布の検討. 第32回日本認知症学会学術集会, 松本, 平成25年11月8日.
 55. 名古屋恵美子, 長谷川浩, 小林義雄, 松井敏史, 神崎恒一: 杏林大学医学部付属病院認知症疾患医療センターとしての役割. 第32回日本認知症学会学術集会, 松本, 平成25年11月8日.
 56. 神崎恒一: 生活習慣病と認知症. 第32回日本認知症学会学術集会, 松本, 平成25年11月10日.

57. 神崎恒一：総合病院における高齢者医療－老年科医の立場から－. 第4回首都圏老年精神医学懇話会, 東京, 平成25年11月15日.
58. Shigeki Shibata, Jeffrey L Hastings, Shuaib M Abdullah, Michael W Bungo, Steven Platts, Douglas R Hamilton, Benjamin D Levine. Determinants of Cardiac Loading during Long Duration Spaceflight. Presented at American Heart Association Meeting, Dallas, Texas, November 15-19, 2013
59. Shigeki Shibata, Naoki Fujimoto, Jeffrey L Hastings, Paul S Bhella, Graeme Carrick-Ranson, Tom Sarma, Yoshiyuki Okada, Dean Palmer, Kara Boyd, Sheryl Livingston, Benjamin D Levine. Advanced Glycation End-Product Inhibition with Alagebrium Slows Age-Related Large Vessel Arterial Stiffening in Healthy Elderly Humans. Presented at American Heart Association Meeting, Dallas, Texas, November 15-19, 2013
60. Hasegawa H, Cheng HJ, Morimoto A, Little WC, Cheng CP. : Vasopeptidase Inhibitor, Omapatrilat Enhances Cardiac Positive Inotropic and Lusitropic Responses to Dobutamine and Exercise in Heart Failure: Assessment by Pressure-Volume Analysis. American Heart Association's Scientific Sessions 2013 Dallas, Nov 18 2013
61. 神崎恒一：(ワークショップ) 高齢者支援における総合病院の役割. 第26回日本総合病院精神医学会総会, 京都, 平成25年11月30日.
62. 松井敏史：認知症患者の疾患理解とその治療. 日精看認知症講義, 東京, 平成25年12月11日.
63. 神崎恒一：高齢アルコール依存症者の断酒による骨代謝マーカーの変動. 第14回東京骨・カルシウム・ホルモン代謝研究会, 東京, 平成25年12月14日.
64. 神崎恒一：認知症と転倒・骨折. 医療マネージメント講演会～認知症と骨折～, 高山, 平成25年12月20日.
65. 神崎恒一：認知症の地域連携. 物忘れケア研究会学術講演会, 京都, 平成26年1月11日.
66. 神崎恒一：認知症を知る－認知症のことを正しく理解するために－. 国立市市民公開講座, 国立, 平成26年2月8日.
67. 大荷満生：食事脂肪・脂肪酸組成と炎症プロセスによるメタボリック症候群の制御. 第23回南大阪臨床栄養研究会, 大阪, 平成26年2月15日.
68. 長谷川浩：高齢者虐待の特徴と動向. 高齢者虐待防止勉強会, 三鷹, 平成26年2月21日.
69. 大荷満生：我が国の介護予防施策の現状と課題. 公益財団法人日本スポーツクラブ主催第10回上級介護予防運動スペシャリスト養成講習会, 東京, 平成25年2月23日.
70. 神崎恒一：杏林大学における認知症診療と地域連携の実際. お茶の水老年医学セミナー, 東京, 平成26年2月25日.
71. 神崎恒一：認知症に伴う運動器の障害. 第10回浜松ロコモ研究会, 浜松, 平成26年3月7日.
72. 神崎恒一：認知症と転倒. 第12回大阪アルツハイマー病研究会, 大阪, 平成26年3月8日.
73. 長谷川浩：地域に根付く認知症連携. 調布市医師会講演会, 調布, 平成26年3月10日.
74. 長谷川浩：認知症および関連する病態について. 三鷹市医師会学術講演会, 三鷹, 平成26年3月12日.
75. 里村元, 杉山小百合, 宮城島慶, 田中政道, 長谷川浩, 神崎恒一：意識障害を契機に発見された粘液水腫性昏睡の1例. 第59回日本老年医学会関東甲信越地方会, 千葉, 平成26年3月15日.
76. 八反丸美喜子, 松井敏史, 小原聡将, 竹下実希, 長谷川浩, 神崎恒一：肺 Pseudotumor を認めた高齢透析患者の1例. 第59回日本老年医学会関東甲信越地方会, 千葉, 平成26年3月15日.
77. 神崎恒一：認知症と転倒・骨折. 広島市東区認知症講演会, 広島, 平成26年3月18日.
78. 神崎恒一：高齢者の栄養管理. NST 勉強会(講演会), 島田, 平成26年3月24日.

論文

1. 神崎恒一：虚弱と老年症候群. 日本臨牀 71(6) : 974-979, 2013.
2. Masahiro Akishita¹, Shinya Ishii¹, Taro Kojima¹, Koichi Kozaki², Masafumi Kuzuya³, Hidenori Arai⁴, Hiroyuki Arai⁵, Masato Eto¹, Ryutaro Takahashi⁶, Hidetoshi Endo⁷, Shigeo Horie⁸, Kazuhiko Ezawa⁹, Shuji Kawai⁹, Yozo Takehisa¹⁰, Hiroshi Mikami¹¹, Shogo Takegawa¹², Akira Morita¹³, Minoru Kamata¹⁴, Yasuyoshi Ouchi¹, Kenji Toba⁷ (¹Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, ²Department of Geriatric Medicine, Kyorin University School of Medicine, ³Department of Geriatric Medicine, Nagoya University Graduate School of Medicine, ⁴Department of Human Health Sciences, Kyoto University Graduate School of Medicine, ⁵Department of Geriatric Medicine, Tohoku University Graduate School of Medicine, ⁶Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital and Institute of Gerontology, ⁷National Center for Geriatrics and Gerontology, ⁸Department of Urology, Teikyo University School of Medicine, ⁹Japan Association of Geriatric Health Services Facilities, ¹⁰Japan Association of Medical and Care Facilities, ¹¹Japan Medical Association, ¹²Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, ¹³Faculty of Law, Gakushuin University, ¹⁴Institute of Gerontology, The University of Tokyo) : Priorities of Health Care Outcomes for the Elderly. JAMDA 14 : 479-484, 2013.
3. 神崎恒一：認知症と転倒. Geriatric Medicine Vol.51 No.8 : 833-838, 2013.
4. Kumiko Nagai, Shigeki Shibata, Masahiro Akishita, Noriko Sudoh, Toshimasa Obara, Kenji Toba, Koichi Kozaki. Efficacy of combined use of three non-invasive atherosclerosis tests to predict vascular events in the elderly; carotid intima-media thickness, flow-mediated

- dilation of brachial artery and pulse wave velocity. *Atherosclerosis* 231(2): 365-370, 2013.
5. Tanaka M, Nagai K, Koshihara H, Sudo N, Obara T, Matsui T, Kozaki K. Weight loss and homeostatic imbalance of leptin and ghrelin levels in lean geriatric patient. *J Am Geriatric Soc* 61: 2234-2236, 2013.
 6. 神崎恒一：サルコペニアの定義と診断法. *日本医事新報* No4677 : 22-26, 2013.
 7. 大荷満生：高トリグリセライド血症の治療 - 食事療法・運動療法 -. *日本臨71(9):1630-1635*, 2013
 8. Masutani S, Cheng HJ, Morimoto A, Hasegawa H, Han QH, Little WC, Cheng CP. β 3-Adrenergic receptor antagonist improves exercise performance in pacing-induced heart failure. *Am J Physiol Heart Circ Physiol.*;305:H923-30 2013.
 9. Yokoyama A, Yokoyama T, Matsui T, Mizukami T, Kimura M, Matsushita S, et al : Trends in gastrectomy and ADH1B and ALDH2 genotypes in Japanese alcoholic men and their gene-gastrectomy, gene-gene and gene-age interactions for risk of alcoholism. *Alcohol Alcohol* 48: 146-52, 2013.
 10. Yokoyama A, Yokoyama T, Matsui T, Mizukami T, Matsushita S, Higuchi S, et al: Alcohol dehydrogenase-1B genotype (rs1229984) is a strong determinant of the relationship between body weight and alcohol intake in Japanese alcoholic men. *Alcohol Clin Exp Res* 37:1123-32, 2013.
 11. Yokoyama A, Mizukami T, Matsui T, Yokoyama T, Kimura M, Matsushita S, et al. Genetic Polymorphisms of Alcohol Dehydrogenase-1B and Aldehyde Dehydrogenase-2 and Liver Cirrhosis, Chronic Calcific Pancreatitis, Diabetes Mellitus, and Hypertension Among Japanese Alcoholic Men. *Alcohol Clin Exp Res* 37: 1391-401, 2013.
 12. Yoshimura A, Kimura M, Nakayama H, Matsui T, Okudaira F, Akazawa S, et al. Efficacy of Disulfiram for the Treatment of Alcohol Dependence Assessed with a Multicenter Randomized Controlled Trial. *Alcohol Clin Exp Res* 38: 572-8, 2013.
 13. Okada Y, Galbreath MM, Shibata S, Jarvis SS, Bivens TB, Vongpatanasin W, Levine BD, Fu Q. Morning blood pressure surge is associated with arterial stiffness and sympathetic baroreflex sensitivity in hypertensive seniors. *Am J Physiol Heart Circ Physiol.* 2013 Sep;305(6):H793-802
 14. Sarma S, Carrick-Ranson G, Fujimoto N, Adams-Huet B, Bhella PS, Hastings JL, Shafer KM, Shibata S, Boyd K, Palmer D, Szczepaniak EW, Szczepaniak LS, Levine BD. The Effects of Age and Aerobic Fitness on Myocardial Lipid Content. *Circ Cardiovasc Imaging.* 2013 Nov;6(6):1048-55
 15. Fujimoto N, Okada Y, Shibata S, Best SA, Bivens TB, Levine BD, Fu Q. Effects of sex and hypertension subtype on haemodynamics and left ventricular diastolic function in older patients with stage 1 hypertension. *J Hypertens.* 2013 Nov;31(11):2282-9
 16. Fujimoto N, Hastings JL, Carrick-Ranson G, Shafer KM, Shibata S, Bhella PS, Abdullah SM, Barkley KW, Adams-Huet B, Boyd KN, Livingston SA, Palmer D, Levine BD. Cardiovascular effects of 1 year of alagebrium and endurance exercise training in healthy older individuals. *Circ Heart Fail.* 2013 Nov;6(6):1155-64
 17. Nagai K, Shibata S, Akishita M, Sudoh N, Obara T, Toba K, Kozaki K. Efficacy of combined use of three non-invasive atherosclerosis tests to predict vascular events in the elderly; carotid intima-media thickness, flow-mediated dilation of brachial artery and pulse wave velocity. *Atherosclerosis.* 2013 Dec;231(2):365-70
 18. Koji Shibasaki¹, Sumito Ogawa¹, Shizuru Yamada², Katsuya Iijima¹, Masato Eto¹, Koichi Kozaki², Kenji Toba³, Masahiro Akishita¹ and Yasuyoshi Ouchi¹ (¹Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, ²Department of Geriatric Medicine, Kyorin University School of Medicine, Tokyo, and ³National Center for Geriatrics and Gerontology, Obu, Japan) : Association of decreased sympathetic nervous activity with mortality of older adults in long-term care. *Geriatr Gerontol Int* 14.: 159-166, 2014.
 19. Jarvis SS, Shibata S, Okada Y, Levine BD, Fu Q. Neural-humoral responses during head-up tilt in healthy young white and black women. *Front Physiol.* 2014 Mar 4;5:86
 20. Yokoyama A, Yokoyama T, Mizukami T, Matsui T, Kimura M, Matsushita S, et al: Blood ethanol levels of nonabstinent Japanese alcoholic men in the morning after drinking and their ADH1B and ALDH2 genotypes. *Alcohol Alcohol* 49: 31-7, 2014.
 21. Yokoyama A, Yokoyama T, Brooks PJ, Mizukami T, Matsui T, Kimura M, et al: Macrocytosis, Macrocytic Anemia, and Genetic Polymorphisms of Alcohol Dehydrogenase-1B and Aldehyde Dehydrogenase-2 in Japanese Alcoholic Men. *Alcohol Clin Exp Res*, Mar 3.,2014.
 22. Jarvis SS, Shibata S, Okada Y, Levine BD, Fu Q. Neural-humoral responses during head-up tilt in healthy young white and black women. *Front Physiol.* 2014 Mar 4;5:86
 23. 松井敏史, 井上慎一郎, 竹下実希, 柴田茂貴, 小林義雄, 長谷川浩, 神崎恒一：高齢者における誤嚥性肺炎の特徴. *日本歯科総論* 74(3) : 111-124, 2014.
 24. 永井久美子, 小柴ひとみ, 小林義雄, 山田如子, 須藤紀子, 長谷川浩, 松井敏史, 神崎恒一：老年症候群の適切な把握のためのもの忘れセンター予診票の作成に関する検討 - 予診票の妥当性と信頼性および回答者による回答率の差異についての検証 -. *日本老年医学会雑誌* 51(2): 161-169, 2014.
- 著書**
1. 神崎恒一：3章高齢者の診かたと高齢者総合機能評価 6認知機能の評価. *老年医学系統講義テキスト*.

- 日本老年医学会 編集. 東京. 西村書店, 2013. 77-80.
2. 神崎恒一: 3章高齢者の診かたと高齢者総合機能評価 7うつ傾向の評価. 老年医学系統講義テキスト. 日本老年医学会 編集. 東京. 西村書店, 2013. 81-83.
 3. 神崎恒一: 3章高齢者の診かたと高齢者総合機能評価 8意欲の評価. 老年医学系統講義テキスト. 日本老年医学会 編集. 東京. 西村書店, 2013. 84-86.
 4. 神崎恒一: 薬剤により歩行障害を来した症例. 症例から学ぶ高齢者の安全な薬物療法. 秋下雅弘, 葛谷雅文 監修. 東京. ライフサイエンス, 2013. 106-110.
 5. 宮城島慶, 神崎恒一: 超高齢者の高血圧. 高血圧診療のすべて. 島田和幸, 磯部光章 監修, 菊尾七臣, 斎藤能彦, 長谷部直幸, 弓倉整 編集. 東京, 日本医師会, 2013. 274-277.
 6. 松井敏史, 遠山朋海, 美濃部るり子, 櫻井秀樹, 木村充, 松下幸生: アルコールに関連する健康障害の知見 最近の進歩と今後の展望 認知症. *Progress in Medicine* 33: 847-55, 2013.
 7. 松井敏史. 認知症の背景因子 - 生活習慣病との関連 -. 三鷹醫人往来 35:13-9, 2013.
 8. 松井敏史. 軽度認知機能障害. 横須賀医師会 すこやか通信 10:2013.
 9. 松井敏史. 飲酒と認知症, 神経の病気. In: 樋口進, editor. お酒による健康・社会問題~飲みすぎは健康と人間関係を壊します~. 2. 東京: 厚生労働研究わが国における飲酒の実態把握およびアルコールに関連する生活習慣病とその対策に関する総合的研究; 24-5, 2013.
 10. 神崎恒一: 第1章2総合機能評価. 高齢者総合診療ノート. 大庭健三 編集. 東京, 日本医事新報社, 2014. 9-16.
 11. 望月諭, 神崎恒一: 在宅生活を支える医療と介護の連携 (家族教育から救急まで). 在宅の高齢者を支える. 愛知, 公益財団法人長寿科学振興財団, 2014. 91-96.
 12. 長谷川浩: 入院患者のうつ病・認知症 入院患者の認知症: 認知症を疑ったら 所見の取り方と鑑別の進め方. レジデントノート Vol 15 2411-2417 2013.
 13. 長谷川浩: 認知症診療に対するチーム医療 病診連携 月刊糖尿病 Vol 6 68-72 2014.
 14. 長谷川浩: 第3章高齢者に多い疾患 1神経疾患 2血管性認知症 高齢者総合診療ノート. 大場健三編 日本医事新報社 189-197, 2014.
 3. 神崎恒一: 被災地の再生を考慮した在宅医療の構築に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金 (地域医療基盤開発推進研究事業) 分担研究報告書.
 4. 神崎恒一: 高齢者在宅医療に関する多職種協働の阻害要因を克服する教育システムの構築に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金 (長寿科学総合研究事業) 分担研究報告書.
 5. 神崎恒一: 認知症非薬物療法の普及促進による介護負担の軽減を目指した地域包括的ケア研究. 厚生労働科学研究費補助金 (認知症対策総合研究事業) 分担研究報告書.
 6. 神崎恒一: 加齢による運動器への影響に関する研究 - サルコペニアに関する包括的検討 -. 厚生労働科学研究費補助金 (長寿科学総合研究事業) 分担研究報告書.
 7. 神崎恒一: 高齢者の薬物治療の安全性に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金 (長寿科学総合研究事業) 分担研究報告書.
 8. 神崎恒一: 日本人における大脳白質病変の老年症候群に及ぼす作用と危険因子の解明に関する研究. 長寿医療研究開発費 分担研究報告書.
 9. 神崎恒一: 虚弱の進行に関わる要因に関する研究. 長寿医療研究開発費 分担研究報告書.
 10. 神崎恒一: 在宅医療支援病棟を中心とした地域在宅医療活性化についての検討及び多職種協働による在宅医療患者への介入の有効性評価について. 長寿医療研究開発費 分担研究報告書.
 11. 長谷川浩: 高齢者の認知機能低下に対する, 心機能の向上を介した新規治療概念の構築 (副題: PDE III阻害薬であるプレタールのもつ心拍数増加と強心作用に着目した. 高齢者の認知機能低下に対する新規予防法・治療法の開発). 長寿医療研究開発費 分担研究報告書.
 12. 長谷川浩: 近赤外線スペクトロスコピーを用いた認知症周辺症状の臨床評価. 科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) 実績報告書
 13. 松井敏史: アルコール依存症者の脳画像解析, サントリー委託研究共同研究報告書 東京, 平成26年1月.

その他

1. 小林義雄: 特発性正常圧水頭症とアルツハイマー型認知症の定量的画像指標の比較; 日本老年医学会雑誌49巻6号731-739. 第55回日本老年医学会学術集会優秀論文賞
2. 松井敏史: 老いてさまよう: ある老健より 毎日新聞朝刊, 平成25年4月5日.

精神神経科学教室

口演

1. Takeuchi H¹, Uchida H², Suzuki T³, Bies RR⁴, Watanabe K, Remington G¹, Mimura M² (¹Dept of Psychiatry, Toronto Univ, ²Dept of Neuropsychiatry, Keio Univ, ³Inokashira Hospital, ⁴Schools of Pharmacy

- and Medicine, Univ of Pittsburgh) : Effects of atypical antipsychotic dose reduction on cognitive function in stable patients with schizophrenia : a randomized controlled trial. 14th Internat Congress on Schizophrenia Research, USA, Apr.5,2013.
2. Minamisawa A¹, Uchida H², Suzuki T³, Takeuchi H⁴, Nakajima S⁴, Watanabe K, Mimura M² (¹ Dept of Psychiatry, Kyoto Prefectural Univ of Medicine, ²Dept of Neuropsychiatry, Keio Univ, ³Inokashira Hospital, ⁴Dept of Psychiatry, Toronto Univ) : Trust of patients with schizophrenia in their psychiatrists : a cross-sectional survey. 14th Internat Congress on Schizophrenia Research, USA, Apr.5,2013.
 3. Takahashi T¹, Uchida H¹, Kane JM², Watanabe K, Mimura M¹, Correll CU², Kishimoto T^{1,2} (¹Dept of Neuropsychiatry, Keio Univ, ²Dept of Psychiatry, The Zucker Hillside Hospital) : The impact of prolactin-raising antipsychotics on bone mineral density in patients with schizophrenia : results from a longitudinal observational study. 14th Internat Congress on Schizophrenia Research, USA, Apr.5,2013.
 4. 渡邊衡一郎：教育講演2「気分安定薬の副作用，そしてモニタリング再考」，第32回リチウム研究会，東京，平成25年4月13日。
 5. 渡邊衡一郎：サテライトシンポジウム リカバリーを目指して「リカバリーを支援する薬物療法」，第8回日本統合失調症学会，北海道浦河町，平成25年4月19日。
 6. Takeuchi H¹, Uchida H², Suzuki T³, Bies RR⁴, Watanabe K, Remington G², Mimura M¹ (¹Dept of Psychiatry, Toronto Univ, ²Dept of Neuropsychiatry, Keio Univ, ³Inokashira Hospital, ⁴Schools of Pharmacy and Medicine, Univ of Pittsburgh) : Effects of Atypical Antipsychotic Dose Reduction on Cognitive Function in Stable Patients with Schizophrenia : A Randomized Controlled Trial. 14thInternat Congress on Schizophrenia Research (ICOSR),USA,Apr.25,2013.
 7. 古賀良彦：勤労者における「かくれ不眠」の実態と介入支援のあり方。第86回日本産業衛生学会，愛媛，平成25年5月15日。
 8. 青木裕見¹，渡邊衡一郎，古野毅彦²，小林靖³，千葉裕美⁴，垣田康秀⁵，井上真郷⁶，堀正士⁷ (¹早稲田大保健センター，²国立病院機構東京医療センター・精神科，³第一生命医務部，⁴慈雲堂内科病院，⁵逸見病院，⁶早稲田大・電気・情報生命工学科，⁷早稲田大・教育・総合科学学術院)：精神科外来での新しい治療方針決定法：Shared Decision Making の実践報告，第109回日本精神神経学会学術総会，福岡，平成25年5月23日。
 9. 渡邊衡一郎：トピック・フォーラム6「エビデンスに基づいた行動医学的視点からの精神疾患へのアプローチ」指定発言。第109回日本精神神経学会学術総会，福岡，平成25年5月23日。
 10. 渡邊衡一郎，菊地俊暁：教育講演12「改めて注目すべき向精神薬の副作用 update—抗精神病薬，抗うつ薬，気分安定薬に焦点を当てて—」。第109回日本精神神経学会学術総会，福岡，平成25年5月24日。
 11. 渡邊衡一郎：ワークショップ9「統合失調症ガイドラインから我々が学べること，学べないこと」。第109回日本精神神経学会学術総会，福岡，平成25年5月24日。
 12. 中島亨，加藤友紀子，小田千夏，古賀良彦：朝の起床困難に対する催眠療法の試み。第109回日本精神神経学会学術総会，福岡，平成25年5月23-25日。
 13. 鬼頭伸輔：経頭蓋磁気刺激（TMS）の現状と磁気けいれん療法（MST）への期待。第109回日本精神神経学会学術総会，福岡，平成25年5月23-25日。
 14. 鬼頭伸輔：rTMSによるうつ病治療の有効性と安全性。第109回日本精神神経学会学術総会，福岡，平成25年5月23-25日。
 15. 菊地俊暁，渡邊衡一郎：教育講演12「改めて注目すべき向精神薬の副作用 update —抗精神病薬，抗うつ薬，気分安定薬に焦点を当てて—」。第109回日本精神神経学会総会，福岡，平成25年5月24日
 16. 長谷川崇，鬼頭伸輔，中島亨，日比慎太郎，戸部有希子，持田政彦，古賀良彦：薬剤誘発性高プロラクチン血症に対するプロナセリンの有用性。第109回日本精神神経学会，福岡，平成25年5月23-25日。
 17. 田中伸一郎：精神医学論文の評価と書き方（ワークショップ11）—精神神経学雑誌投稿について—。第109回日本精神神経学会学術総会，福岡，平成25年5月24日。
 18. Takeuchi H¹, Uchida H², Suzuki T³, Remington G¹, Bies RR⁴, Abe T⁵, Graff-Guerrero A¹, Watanabe K, Mimura M² (¹Dept of Psychiatry, Toronto Univ, ²Dept of Neuropsychiatry, Keio Univ, ³Inokashira Hospital, ⁴Schools of Pharmacy and Medicine, Univ of Pittsburgh, ⁵Keio Center for Clinical Research) : Effects of Atypical Antipsychotic Dose Reduction on Cognitive Function in Stable Patients with Schizophrenia : A Randomized Controlled Trial. 36th Annual Meeting of the Canadian College of Neuropsychopharmacology (CCNP), Canada, May 30,2013.
 19. 渡邊衡一郎：共催企画講演IV「ミルタザピンを再解剖する」。第28回日本老年精神学会，大阪，2013年6月5日。
 20. Nakajima T : The characteristics of polysomnographical change under taking SSRI/SNRI in depressed patients: A preliminary study.11th World Congress of Biological Psychiatry, Kyoto, June 23-27, 2013.
 21. Kito S: Cortical activity and functional connectivity in depression: a TMS-EEG study. 11th World Congress of Biological Psychiatry, Kyoto, June 23-27, 2013.
 22. 古賀良彦：軽度短期不眠状態「かくれ不眠」と睡眠時計。日本睡眠学会第38回定期学術集会，秋田，平成25年6月27日。
 23. 中島亨，加藤友紀子，小田千夏，古賀良彦：朝の起床困難に対する催眠療法の試み，日本睡眠学会第38

- 回定期学術集会, 秋田, 平成25年6月27日.
24. 田中伸一郎: 文学にみる統合失調症の世界—芥川龍之介の病跡学—. 第7回精神神経科公開セミナー, 三鷹, 平成25年7月3日.
 25. 鬼頭伸輔, 長谷川崇, 小田千夏, 古賀良彦: 治療抵抗性うつ病の右背外側前頭前野への低頻度深部経頭蓋磁気刺激の有効性. 第28回財団法人井之頭病院研究基金助成論文発表会, 東京, 平成25年7月4日.
 26. 渡邊衡一郎: 「抗うつ薬治療におけるアドヒアランス —お薬を飲み続けると言うこと—」. 第9回一般医・精神科医ネットワーク研究会, 大阪, 平成25年7月13日.
 27. 中島亨: 予備的研究: 仰臥位/睡眠段階2において eszopiclone が呼吸状態に及ぼす影響, 第16回日本薬物脳波学会, 那須, 平成25年7月12-13日.
 28. 鬼頭伸輔: 経頭蓋磁気刺激 (TMS) による大うつ病の治療と機能的結合性 (functional connectivity): TMS-EEG 研究. 第16回日本薬物脳波学会, 那須, 平成25年7月12-13日.
 29. 渡邊衡一郎: 双極性障害委員会企画シンポジウム「双極性障害がなかなかよくなるに時に薬物療法はどうあるべきか」. 第10回日本うつ病学会総会, 福岡, 平成25年7月20日.
 30. 渡邊衡一郎: ランチョンセミナー7 「患者さんの飲み心地を重視した抗うつ薬の選択とは」. 第10回日本うつ病学会総会, 福岡, 平成25年7月20日.
 31. 鬼頭伸輔: rTMS による気分障害の治療ガイドライン: 大うつ病. 第10回日本うつ病学会総会, 北九州, 平成25年7月19-20日.
 32. 鬼頭伸輔, 長谷川崇, Pascual-Marqui RD¹, 古賀良彦 (¹滋賀医大・地域精神医療学講座, The KEY Institute for Brain-Mind Research, Univ Hospital of Psychiatry Zurich): 経頭蓋磁気刺激 (TMS) による治療抵抗性うつ病の治療と神経生理学的機序: TMS-EEG 研究. 第10回日本うつ病学会総会, 北九州, 平成25年7月19-20日.
 33. 菊地俊暁: シンポジウム5 閾値下うつ病および軽症うつ病への認知療法・認知行動療法の活用の可能性 「軽症うつ病の治療における認知療法・認知行動療法の位置づけ ~うつ病学会の治療ガイドラインの視点から」. 第10回日本うつ病学会, 北九州, 平成25年7月20日.
 34. 菊地俊暁, Miller JM¹, Parsey RV¹, Mann JJ¹ (¹コロンビア大・精神科): ポスター発表 「脳活動ならびに機能的・構造的連結による抗うつ薬の反応予測 - fMRI と DTI を用いて」. 第10回日本うつ病学会総会, 北九州, 平成25年7月19・20日.
 35. 中島亨: モーニングセミナー 女性の不眠とうつ, 第42回日本女性心身医学会学術集会, 東京, 平成25年7月27-28日.
 36. Kikuchi T, Kobayashi Y¹ (¹National Center of Neurology and Psychiatry): Making the Most of CBT in Challenging Patients: Using Exposure and Behavioral Activation to Enhance Treatment Progress. The 4th Asian Cognitive Behavior Therapy Conference 2013, Tokyo, Aug.23,2013.
 37. 鬼頭伸輔: 経頭蓋磁気刺激による大うつ病性障害の治療: TMS-SPECT/EEG 研究. 第4回 Stimulation Therapy 研究会, 東京, 平成25年8月24-25日.
 38. 菊地俊暁: シンポジウム8 精神療法のクオリティコントロールについて 「日本における認知行動療法のクオリティコントロール スーパーバイザーの立場から」. 第13回認知行動療法学会, 東京, 平成25年8月25日.
 39. 森千夏: 心理テストを体験しよう! 第8回精神神経科公開セミナー, 三鷹, 平成25年9月11日.
 40. 長谷川崇, 中島亨: 薬物の自覚的作用と薬物動態の関係について. 第29回日本催眠学会学術大会, 東京, 平成25年10月5日.
 41. 森千夏: 入院治療中の精神障害を持つ患者の没頭について - ロールシャッハ・テストに注目して -. 第29回日本催眠学会学術大会, 東京, 平成25年10月5日.
 42. 田中伸一郎: 肥大化する自己をコントロールしようと苦闘する一男性例—いつからどこから統合失調症と診断されるのか—. 第36回日本精神病理・精神療法学会, 京都, 平成25年10月11日.
 43. 長谷川崇, 中島亨: 薬物の自覚的作用と薬物動態の関係について. 第29回日本催眠学会学術大会, 東京, 平成25年10月5日.
 44. 中島亨: 過眠症・不眠症・リズム障害. 第4回 PSG スコアリングセミナー, 東京, 平成25年10月20日.
 45. 長谷川崇, 鬼頭伸輔, 中島亨, 日比慎太郎, 戸部有希子, 持田政彦, 古賀良彦: 統合失調症に対する blonanserin のプロラクチンに及ぼす影響の検討. 第23回日本臨床精神神経薬理学会・第43回日本神経精神薬理学会合同年会, 宜野湾, 平成25年10月24-26日.
 46. 菊地俊暁: シンポジウム3 抗うつ薬の反応予測はどこまで可能か 「脳画像を用いた抗うつ薬の反応予測 - fMRI を中心に -」. 第23回日本臨床精神神経薬理学会, 宜野湾, 平成25年10月24日.
 47. 中島亨: ワークショップ2 終夜睡眠ポリグラフの現状と課題 - 薬物投与下の PSG - 薬物投与下における終夜睡眠ポリグラフ判読の実際. 第43回日本臨床神経生理学会学術大会, 高知, 平成25年11月7-9日.
 48. 鬼頭伸輔: 経頭蓋磁気刺激による治療抵抗性うつ病の治療. 第43回日本臨床神経生理学会学術大会, 高知, 平成25年11月7-9日.
 49. 鬼頭伸輔, Pascual-Marqui RD¹, 長谷川崇, 古賀良彦 (¹滋賀医大地域精神医療学講座, The KEY Institute for Brain-Mind Research, Univ Hospital of Psychiatry Zurich): 経頭蓋磁気刺激は, うつ病患者の機能的結合性を変化させる. 第43回日本臨床神経生理学会学術大会, 高知, 平成25年11月7-9日.
 50. 長谷川崇, 鬼頭伸輔, 中島亨, 藤田憲一, 古賀良彦: 経頭蓋磁気刺激によるうつ病治療: 当院における臨床経験. 第43回日本臨床神経生理学会学術大会・第50回日本臨床神経生理学会技術講習会, 高知, 平成25年11月7-9日.

51. 渡邊衡一郎：ランチョンセミナー2「精神科臨床における新しい治療アプローチ—Shared Decision Making (SDM) の可能性—」. 第2回日本精神科医学会学術大会, 埼玉, 平成25年11月14日.
 52. 中島亨：GABA-A 作動薬における“効果の自覚”と主観的な副作用の関係について, 第30回不眠研究会, 東京, 平成25年11月25日.
 53. 鬼頭伸輔：経頭蓋磁気刺激 (TMS) の臨床応用：うつ病の治療. 第12回武蔵野地域医療懇話会, 東京, 平成25年11月28日.
 54. 渡邊衡一郎：ランチョンセミナー8「新しい治療方針決定法 Shared Decision Making (SDM) の精神科外来における実現可能性」. 第26回日本総合病院精神医学会総会, 京都, 平成25年11月30日.
 55. 鬼頭伸輔：経頭蓋磁気刺激による治療抵抗性うつ病の治療と機能的結合性：TMS-EEG 研究. 第26回日本総合病院精神医学会総会, 京都, 平成25年11月29-30日.
 56. Kito S, Pascual-Marqui RD¹, Hasegawa T, Koga Y (¹滋賀医大・地域精神医療学講座, The KEY Institute for Brain-Mind Research, Univ Hospital of Psychiatry Zurich) : Changes in cortical activity after TMS in the treatment of depression. 第26回日本総合病院精神医学会総会, 京都, 平成25年11月29-30日.
 57. 中島亨, 長谷川崇, 鬼頭伸輔, 古賀良彦：SSRI/SNRI で見られる睡眠構築の変化. 第30回日本脳電磁図トポグラフィ研究会, 博多, 平成26年1月11-12日.
 58. 鬼頭伸輔, 長谷川崇, Pascual-Marqui RD¹, 古賀良彦 (¹滋賀医大地域精神医療学講座, The KEY Institute for Brain-Mind Research, Uni Hospital of Psychiatry Zurich) : 経頭蓋磁気刺激 (TMS) によるうつ病治療と機能的結合性の変化：TMS-EEG 研究. 第30回日本脳電磁図トポグラフィ研究会, 博多, 平成26年1月11-12日.
 59. 渡邊衡一郎：特別講演II「抗うつ薬の効果が不十分なとき, 我々は何を考え, どう対処すべきなのか」. 第25回兵庫県精神医療学術講演会, 神戸, 平成26年1月18日.
 60. 田中伸一郎, 早坂友成¹ (¹杏林大・保健・作業療法学科) : 精神科リハビリテーションについて—作業療法 (occupational therapy) の意義—. 第9回精神神経科公開セミナー, 三鷹, 平成26年1月22日.
- 論 文**
1. 古賀良彦：脳波の現状と今後の発展. 臨床検査 57:1070-1076, 2013.
 2. Tanaka S¹, Nagase T¹, Suzuki T², Nomura K³, Takeuchi H⁴, Nakajima S⁴, Uchida H⁵, Yagi G⁶, Watanabe K, Mimura M⁵ (¹Dept of Information and Communication Sciences, Sophia Univ, ²Inokashira Hospital, ³Shimada Ryoiku Center, ⁴Dept of Psychiatry, Toronto Univ, ⁵Dept of Neuropsychiatry, Keio Univ, ⁶Suisei Healing Center) : Factor structure of the targeted inventory on problems in schizophrenia. Clin Psychopharmacol Neurosci 11(1) : 18-23, 2013.
 3. 長井信弘¹, 渡邊衡一郎 (¹山梨県立北病院) : 統合失調症の臨床 統合失調症の薬物療法 主な非定型抗精神病薬の薬理・適応・臨床ケース オランザピン (解説/特集). 日臨 71 (4) : 666-672, 2013.
 4. 澤田法英¹, 渡邊衡一郎 (¹大泉病院) : 服薬アドヒアランス /Shared Decision Making (意思決定の共有) (解説/特集). 精神科臨床サービス 13(2) : 224-225, 2013.
 5. Fujisawa D¹, Suzuki Y², Kato TA³, Hashimoto N⁴, Sato R⁵, Aoyama-Uehara K⁶, Fukasawa M⁷, Tomita M⁸, Watanabe K, Kashima H⁸, Otsuka K⁹ (¹Psych-Oncology, National Cancer Center, ²Dept of Adult Mental Health, National Institute of Mental Health, National Center of Neurology and Psychiatry, ³Dept of Neuropsychiatry, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu Univ, ⁴Dept of Psychiatry, Hokkaido Univ Hospital, ⁵Dept of Psychiatry, Yokohama City Univ School of Medicine, ⁶Dept of Child psychiatry, Yokohama City Univ Hospital, ⁷National Institute of Mental Health, National Center of Neurology and Psychiatry, ⁸Dept of Neuropsychiatry, Keio Univ, ⁹Dept of Disaster Psychiatry and Community Psychiatry, Iwate Medical Univ) : Suicide Intervention Skills Among Japanese Medical Residents. Academic Psychiatry 37(6) : 1-6, 2013.
 6. Sakurai H¹, Bies RR², Stroup ST³, Keefe RS⁴, Rajji TK⁵, Suzuki T⁶, Mamo DC⁷, Pollock BG⁷, Watanabe K, Mimura M¹, Uchida H¹ (¹Dept of Neuropsychiatry, Keio Univ, ²Schools of Pharmacy and Medicine, Univ of Pittsburgh, ³Dept of Psychiatry, Univ of North Carolina at Chapel Hill, ⁴Neurocognitive Assessment Unit, Duke Univ Medical Center, ⁵Geriatric Mental Health Program, Centre for Addiction and Mental Health, ⁶Inokashira Hospital, ⁷Dept of Psychiatry, Toronto Univ) : Dopamine D2 Receptor Occupancy and Cognition in Schizophrenia : Analysis of the CATIE Data. Schizophr Bull 39(3) : 564-574, 2013.
 7. Kikuchi T, Suzuki T¹, Uchida H², Watanabe K, Mimura M² (¹Inokashira Hospital, ²Dept of Neuropsychiatry, Keio Univ) : Association between antidepressant side effects and functional impairment in patients with major depressive disorders. Psychiatry Res 210(1) : 127-133, 2013.
 8. Takahashi T¹, Uchida H¹, Kane JM², Hirano J¹, Watanabe K, Mimura M¹, Correll CU², Kishimoto T^{1,2} (¹Dept of Neuropsychiatry, Keio Univ, ²Dept of Psychiatry, The Zucker Hillside Hospital) : The impact of prolactin-raising antipsychotics on bone mineral density in patients with schizophrenia : Findings from a longitudinal observational cohort. Schizophr Res 147(2-3) : 383-386, 2013.
 9. Takeuchi H¹, Suzuki T², Remington G¹, Bies RR³, Abe T⁴, Graff-Guerrero A¹, Watanabe K, Mimura M⁵, Uchida H⁵ (¹Dept of Psychiatry, Toronto

- Univ, ²Inokashira Hospital, ³Schools of Pharmacy and Medicine, Univ of Pittsburgh, ⁴Keio Center for Clinical Research, ⁵Dept of Neuropsychiatry, Keio Univ) : Effects of Risperidone and Olanzapine Dose Reduction on Cognitive Function in Stable Patients with Schizophrenia : An Open-label, Randomized, Controlled, Pilot Study. *Schizophr Bull* 39(5) : 993-998, 2013.
10. 富田真幸¹, 渡邊衡一郎¹(慶應大・医・精神神経科) : 気分障害に対する諸外国のガイドライン. *臨精薬理* 16(7) : 975-981, 2013.
 11. 渡邊衡一郎 : 統合失調症のリカバリーを考える 統合失調症における我々が求めるべき治療ゴールとは Recovery を目指して. *臨精薬理* 16(7) : 1068-1072, 2013.
 12. 渡邊衡一郎 : 精神科外来臨床における非薬物療法的アプローチの位置づけと期待—うつ病を例に一. *総病精医* 25(3) : 262-267, 2013.
 13. Hirano J¹, Watanabe K, Suzuki T², Uchida H¹, Den R³, Kishimoto T¹, Nagasawa T⁴, Tomita Y², Hara K⁵, Ochi H⁶, Kobayashi Y¹, Ishii M¹, Fujita A¹, Kanai Y¹, Goto M¹, Hayashi H¹, Inamura K¹, Ooshima F¹, Sumida M¹, Ozawa T¹, Sekigawa K¹, Nagaoka M¹, Yoshimura K¹, Konishi M¹, Inagaki A⁷, Saito T⁸, Motohashi N⁹, Mimura M¹, Okubo Y⁸, Kato M¹ (¹Dept of Neuropsychiatry, Keio Univ, ²Inokashira Hospital, ³Dept of Psychiatry, The Zucker Hillside Hospital, ⁴Komagino Hospital, ⁵Asai Hospital, ⁶KurumeGaoka Hospital, ⁷International Politics, Economics, Aoyama Gakuin Univ, ⁸Dept of Psychiatry, Nippon Medical School, ⁹Dept of Neuropsychiatry, Univ of Yamanashi) : An open-label study of algorithm-based treatment versus treatment-as-usual for patients with schizophrenia. *Neuropsychiatr Dis Treat* 2013;9 : 1553-1564. doi : 10. 2147/NDT. S46108. Epub 2013.
 14. Moriguchi S¹, Bies RR², Remington G³, Suzuki T⁴, Mamo DC³, Watanabe K, Mimura M¹, Pollock BG³, Uchida H¹ (¹Dept of Neuropsychiatry, Keio Univ, ²Schools of Pharmacy and Medicine, Univ of Pittsburgh, ³Dept of Psychiatry, Toronto Univ, ⁴Inokashira Hospital) : Estimated dopamine D2 Receptor occupancy and remission in schizophrenia : analysis of the CATIE data. *J Clin Psychopharm* 33(5) : 682-685, 2013.
 15. Kishimoto T^{1,2}, Watanabe K, Uchida H¹, Mimura M¹, Kane JM², Correll CU² (¹Dept of Neuropsychiatry, Keio Univ, ²Dept of Psychiatry, The Zucker Hillside Hospital) : Antipsychotic polypharmacy : a Japanese survey of prescribers' attitudes and rationales . *Psychiatry Research* 209(3) : 406-411, 2013.
 16. Mizushima J¹, Sakurai H¹, Mizuno Y¹, Shinfuku M¹, Tani H¹, Yoshida K¹, Ozawa C¹, Serizawa A¹, Kodashiro N¹, Koide S¹, Minamisawa A¹, Mutsumoto E¹, Nagai N¹, Noda S¹, Tachino G¹, Takahashi T¹, Takeuchi H², Kikuchi T, Uchida H¹, Watanabe K, Kocha Hiroki¹, Mimura M¹ (¹Dept of Neuropsychiatry, Keio Univ, ²Dept of Psychiatry, Toronto Univ) : Melancholic and reactive depression : a reappraisal of old categories. *BMC Psychiatry* 13 : 311, 2013.
 17. 渡邊衡一郎, 八木剛平¹ (¹翠星ヒーリングセンター) : 精神科リハビリテーションを支援する薬物療法—— Recovery 達成のためには. *精神障害とリハビリテーション* 17(2) : 163-168, 2013.
 18. 渡邊衡一郎 : 精神科外来臨床における非薬物療法的アプローチの位置づけと期待—うつ病を例に一. *総病精医* 25(3) : 262-267, 2013.
 19. 渡邊衡一郎 : うつ病軽症例に対する対応の実際—サンプル SDM の導入のスズメ—. *臨精医* 43(1) : 45-51, 2014.
 20. Ishida T¹, Katagiri T¹, Uchida H², Takeuchi H³, Sakurai H², Watanabe K, Mimura M² (¹Dept of Psychiatry, Sakuragaoka Memorial Hospital, ²Dept of Neuropsychiatry, Keio Univ, ³Dept of Psychiatry, Toronto Univ) : Incidence of Deep Vein Thrombosis in Restrained Psychiatric Patients. *Psychosomatics* 55(1) : 69-75, 2014.
 21. 渡邊衡一郎 : 【うつ病治療 up to date】薬物療法. *Medical ASAHI* 43(2) : 19-21, 2014.
 22. Kishimoto T^{1,2}, Robenzadeh A², Leucht C³, Leucht S⁴, Watanabe K, Mimura M¹, Borenstein M², Kane JM², Correll CU² (¹Dept of Neuropsychiatry, Keio Univ, ² Dept of Psychiatry, The Zucker Hillside Hospital, ³Dept of Psychiatry, Univ Hospital München, ⁴Dept of Psychiatry and Psychotherapy, Technical Univ of München) : Long-acting injectable vs oral antipsychotics for relapse prevention in schizophrenia : a meta-analysis of randomized trials. *Shizophr Bull* 40(1) : 192-213, 2014.
 23. 中島 亨 : 【てんかんと睡眠】抗てんかん薬が睡眠に及ぼす影響. *睡眠医療* 7, 191-194, 2013.
 24. 中島 亨, 長谷川 崇, 鬼頭 伸輔, 古賀 良彦 : SSRI / SNRI がうつ病の睡眠構築に及ぼす影響. *不眠研究* 2013, 49, 2013.
 25. 鬼頭 伸輔 : うつ病に対する反復経頭蓋磁気刺激 (rTMS). *臨精医* 42: 469-474, 2013.
 26. Kito S, Hasegawa T, Nakajima T, Koga Y, Hibi S, Tobe Y, Mochida M: Successful treatment with blonanserin for drug-induced hyperprolactinemia in chronic schizophrenia patients: a six-month follow-up of two cases. *J Neuropsychiatry Clin Neurosci* 25: E29-30, 2013.
 27. 鬼頭 伸輔, 長谷川 崇, 古賀 良彦 : 経頭蓋磁気刺激による治療抵抗性うつ病の治療 : 抗うつ機序と治療反応性の予測因子に関する研究. *杏林医学会誌* 44: s45-46, 2013.

28. 鬼頭伸輔：治療抵抗性うつ病の右背外側前頭前野への低頻度深部経頭蓋磁気刺激の有効性. 平成24年度財団法人井之頭病院研究紀要 32-36, 2013.
29. Kito S, Pascual-Marqui RD, Hasegawa T, Koga Y: High-frequency left prefrontal transcranial magnetic stimulation modulates resting EEG functional connectivity for gamma band between the left dorsolateral prefrontal cortex and precuneus in depression. *Brain Stimul* 7: 145-146, 2014.
30. 菊地俊暁, 渡邊 衡一郎：甲状腺疾患と精神神経疾患について. *日医師会誌*141(11)：2424, 2013.
31. 大野 裕¹, 藤澤 大介², 中川 敦夫¹, 菊地俊暁, 佐渡 光洋³ (¹国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター, ²国立がん研究センター 精神腫瘍科, ³慶應大・医)：うつ病の認知療法・認知行動療法. *精神誌*115(5)号：539-546, 2013.
32. 菊地俊暁：服薬アドヒアランス不良なうつ病患者に対する工夫とは. *臨精薬理*16(9)：1313-1320, 2013.
33. Kubota K¹, Okazaki M², Dobashi A³, Yamamoto M⁴, Hashiguchi M⁵, Horie A⁶, Inagaki A⁷, Kikuchi T, Mochizuki M⁸ (¹Dept of Pharmacoepidemiology, Graduate School of Medicine, the Univ of Tokyo, ²Dept of Surgery, Yamaguchi Grand Medical Center, ³Dept of Endoscopy, The Jikei Univ, ⁴Dept of Emergency and Critical Care Medicine, The Univ of Tokyo Hospital, ⁵Dept of Digestive Surgery, Breast and Thyroid Surgery, Kagoshima Univ, ⁶Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Sciences, Univ of Toyama, ⁷Dept of International Politics, Economics, Aoyama Gakuin Univ, ⁸Dept of Pharmacy, Keio Univ)：Temporal relationship between multiple drugs and multiple events in patient reports on adverse drug reactions: findings in a pilot study in Japan. *Pharmacoepidemiol Drug Saf* 22(10):1134-1137, 2013.
34. Mizushima J¹, Sakurai H¹, Mizuno Y¹, Shinfuku M¹, Tani H¹, Yoshida K¹, Ozawa C¹, Serizawa A¹, Kodashiro N¹, Koide S¹, Minamisawa A¹, Mutsumoto E¹, Nagai N¹, Noda S¹, Tachino G¹, Takahashi T¹, Takeuchi H², Kikuchi T, Uchida H¹, Watanabe K, Kocha Hiroki¹, Mimura M¹ (¹Dept of Neuropsychiatry, Keio Univ, ²Dept of Psychiatry, Toronto Univ)：Melancholic and reactive depression: a reappraisal of old categories. *BMC Psychiatry* 13(1)：311, 2013.
35. Kikuchi T, Suzuki T¹, Uchida H², Watanabe K, Mimura M² (¹Inokashira Hospital, ²Dept of Neuropsychiatry, Keio Univ)：Association between antidepressant side effects and functional impairment in patients with major depressive disorders. *Psychiatry Res* 210(1):127-133, 2013.
36. Miller JM¹, Schneck N², Siegle GJ³, Chen Y⁴, Ogden RT¹, Kikuchi T, Oquendo MA¹, Mann JJ¹, Parsey RV¹ (¹Dept of Psychiatry, Columbia Univ, ²School of Psychology, Fairleigh Dickinson Univ ³Dept of Psychiatry, Univ of Pittsburgh, ⁴Dept of Psychology, Univ of Connecticut)：fMRI response to negative words and SSRI treatment outcome in major depressive disorder: a preliminary study. *Psychiatry Res* 214(3)：296-305, 2013.
37. 田中伸一郎：統合失調症様の微細な異質性がみられた遷延性うつ病—多次元精神医学の見地から—。 *精神誌*116(1), 15-45, 2014.
38. 長谷川崇, 鬼頭伸輔：治療抵抗性うつ病に対する深部経頭蓋磁気刺激 (deep TMS) の可能性. *精神* 23：340-344, 2013.
39. 長谷川崇, 鬼頭伸輔：【精神保健・医療・福祉の今がわかる キーワード126】(第4章) 精神科治療トピックス 経頭蓋磁気刺激療法/カルボニルストレス. *精神科臨床サービス*13：216-217, 2013.
40. 木原潮, 投石保弘¹, 鬼頭伸輔, 古賀良彦 (¹名古屋大・情報科学研究科)：統合失調症における作動記憶障害の認知機能訓練の効果. *認知神経科学* 15:215-221.

著書

1. 水野裕也¹, 渡邊衡一郎 (¹慶應大・医・精神神経科)：第3章 抗精神薬の種類と基本的な作用. 抗精神薬プラクティカルガイド. 選んでどう使う? 吉村玲児編. 東京, 中外医学社, 2013. p.22-34.
2. Suzuki T¹, Uchida H², Watanabe K, Mimura M² (¹Inokashira Hospital, ²Dept of Neuropsychiatry, Keio Univ)：Antipsychotic polypharmacy in schizophrenia. How to counteract this common practice?. *Polypharmacy in Psychiatry Practice, Vol.II: Use of Polypharmacy in the "Real World"*. Ritsner MS (Ed.). Dordrecht, Springer, 2013. p.81-108.
3. 仁王進太郎¹, 佐藤美納子¹, 渡邊衡一郎 (¹慶應大・医・精神神経科)：不安障害と双極性障害の薬物療法. 不安障害と双極性障害. 貝谷久宣, 佐々木司, 不安・抑うつ臨床研究会編. 東京, 日本評論社, 2013. p.147-166.
4. 中島亨：精神・神経の治療薬事典2014-'15専門医からのアドバイス. 樋口輝彦編集. 東京, 総合医学社, 2013. p.350-355.
5. 中島亨：睡眠とその障害のクリニカルレビュー 200. 松浦雅人編集. 東京, 診断と治療社, 2014. p.174-179.
6. 中島亨：最新臨床睡眠学. 東京, 日本臨牀社, 2013. p.698.
7. 中島亨：睡眠薬のガイドライン 適正使用・休薬. 三島和夫編集. 東京, ㈱じほう, 2014.p.117-119,129-133.

その他

1. 田中伸一郎：書評・加藤敏著『職場結合性うつ病』. *精神誌*115(8), 912, 2013.
2. 田中伸一郎：学会印象記・日本精神病理・精神療法学会第36回大会. *臨精病理*34(3), 322-324, 2013.

小児科学教室

口 演

口 演

1. Kurayama R, Yan K: Angiotensin II blockade therapy in a nephrotic syndrome patient caused by mitochondrial cytopathy, The 11th Pediatric Nephrology Seminar 2013, Seoul, April 6, 2013.
2. 瀧浦俊彦, 福原大介, 楊國昌, 伊藤純子, 岡明: ぶどう膜炎に対する点眼ステロイドで Cushing 症候群を呈したと考えられた1例. 第116回日本小児科学会, 広島, 平成25年4月19日-21日.
3. Komatsu Y, Miyata Y, Nakamura Y, Oka A: The Morphometric Analysis Of Lateral Ventricles In MR Imaging Around Term-Equivalent Age of Preterm Infants, Referring To Neurodevelopmental Outcomes. Asian Society for Pediatric Research Congress, Malaysia, May 10, 2013.
4. Miyata Y, Komatsu Y, Shimazaki M, Nakamura Y, Oka A: Neurodevelopmental significance of diffuse excessive high signal intensity (DEHSI) on T2-weighted MR imaging in preterm infants. Asian Society of Pediatric Research Congress, Malaysia, May 11, 2013.
5. 中村由紀子, 島崎真希子, 小松祐美子, 中野瑛子, 松岡雄一郎, 宮田世羽, 岡明: 発達障害における攻撃的, 反社会的行動の検討. 第55回日本小児神経学会総会, 大分, 平成25年5月30日.
6. 宮田世羽, 小松祐美子, 中野瑛子, 松岡雄一郎, 島崎真希子, 中村由紀子, 岡明: 早産児 MRI の DEHSI と神経学的予後の関連. 第55回日本小児神経学会総会, 大分, 平成25年5月30日.
7. 小松祐美子, 中野瑛子, 松岡雄一郎, 島崎真希子, 宮田世羽, 中村由紀子, 岡明: 早産児の頭部 MRI による側脳室拡大と神経発達予後-部位別週数別での検討. 第55回日本小児神経学会学術集会, 大分, 平成25年5月31日.
8. 島崎真希子, 宮田世羽, 中村由紀子, 小松祐美子, 中野瑛子, 松岡雄一郎, 岡明: リポ多糖投与を用いた新生児敗血症による脳室周囲白質軟化症モデルの検討. 第55回日本小児神経学会学術集会, 大分, 平成25年5月31日.
9. 中村由紀子, 小松祐美子, 島崎真希子, 宮田世羽, 楊國昌: 発達障害児に合併する攻撃的行動, 素行障害の検討. 第107回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 平成25年6月21日.
10. 高橋昌兵, 武田良淳, 松山健: フルクトース -1,6-ジスホスファターゼ欠損症の一例. 第107回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 平成25年6月21日.
11. 倉山亮太, 濱野翔, 高橋昌兵, 羽田伊知郎, 中川美和, 福原大介, 楊國昌: 成長ホルモン補充療法中に膜性腎症を発症した男児の一例. 第48回日本小児腎臓病学会学術集会, 徳島, 平成25年6月28日.
12. 伊藤雄伍, 木内善太郎, 西堀由紀野, 楊國昌, 秋元義弘: ネフリン遺伝子の発現における Wolf-Hirschhorn syndrome candidate 1-like 1 のエピジェネティックな役割, 第48回小児腎臓病学会, 徳島, 平成25年6月28日~29日.
13. 細井健一郎: Nasal SiPAP による呼吸器管理. 第49回日本周産期・新生児医学会学術集会シンポジウム, 横浜, 平成25年7月14日-16日.
14. 鈴木信行, 麓聖子, 堀之内崇士, 松島実穂, 村田晋: 患者が期待する医療者像~周産期新生児に取り組むみなさんへエール~. 第49回日本周産期・新生児医学会学術集会, 横浜, 平成25年7月16日.
15. 松下充, 甲斐克秀, 村田将春, 宮崎典子, 渡辺憲和, 荒井清美, 渡邊真平, 青木里佳, 山本圭子: 次世代を担う私たちはこう思う「妊娠・分娩の管理」. 第49回日本周産期・新生児医学会学術集会, 横浜, 平成25年7月14日.
16. 瀧浦俊彦: 頭蓋咽頭腫の術後に発症した中枢性尿崩症の経過. 第10回三鷹小児内分泌臨床セミナー, 三鷹, 平成25年7月12日.
17. 那須ゆかり, 宮澤永尚: 細菌性髄膜炎の新生児に合併した尿崩症. 第10回三鷹小児内分泌臨床セミナー, 三鷹, 平成25年7月12日.
18. Bessho F, Tanimura M: Effects of parental smoking during pregnancy on development of childhood cancers. The 10th APACT Conference, Makuhari, Aug. 18-21, 2013.
19. 瀧浦俊彦: 頭蓋咽頭腫術後の14歳男児に対する内分泌管理について. 第10回小児内分泌専門セミナー, 東京, 平成25年8月23日-25日.
20. Ito Y, Kiuchi Z, Nishibori Y, Yan K, Akimoto Y: Epigenetic role of Wolf-Hirschhorn syndrome candidate 1-like 1 long form in nephrin gene expression. The 16th Congress of the International Pediatric Nephrology Association, Shanghai, Aug.30-Sep.3, 2013.
21. Bessho F, Tanimura M: Effects of prenatal exposure to diagnostic irradiation on development of children's leukemia. 45th Congress of the International Society of Paediatric Oncology, Hong Kong, Sep. 25-28,2013.
22. 渡辺こずえ, 牧野篤司, 山本明日香, 保崎明, 吉野浩, 楊國昌: 打撲を契機に発症したと考えられた A 群 β 溶連菌による腸腰筋筋膜炎の一例. 第108回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 平成25年10月4日.
23. 鴫田雅俊, 白山未央, 岡本静香, 長谷川典子, 大貫崇博, 宮地麻美子: 左頸部リンパ節炎を疑った先天性梨状窩瘻の一例. 第108回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 平成25年10月4日.
24. 山本明日香, 北沢博, 山本貴和子, 二村昌樹, 大矢幸弘, 竹内文乃: 幼児の Impulse oscillometry 法による呼吸機能評価一測定成功率を改善する方法の検討一. 第50回日本小児アレルギー学会, 横浜, 平成25年10月20日.
25. 牧野篤司, 中村由紀子, 保崎明, 楊國昌: 医療ネグレクトにより緊急一時保護となった1症例と当院での対応. 第29回日本小児外科学会秋季シンポジウム, 東京, 平成25年10月26日.
26. Ito Y, Kiuchi Z, Nishibori Y, Yan K, Akimoto Y, Katanaya

K: Epigenetic role of Wolf-Hirschhorn syndrome candidate 1-like 1 in glomerulogenesis. American Society of Nephrology Kidney Week 2013, Atlanta, Nov.7-10, 2013.

27. Kumagai Y, Ueda H, Nakanishi K, Yoshikawa N, Kurayama R, Yan K, Ashida A, Yamamoto D, Nagata M, Fujimaru R: Tri-Allelic Inheritance of NPHS1 Gene in Infantile-Onset Steroid-Resistant Nephrotic Syndrome. American Society of Nephrology Renal Week 2013, Atlanta, Nov.8, 2013.
28. He P, Kawamura H, Yan K, Takemoto M, Yokote K: Protective Effect of Cilostazol and Probuconol on Inflammatory Kidney Injury. American Society of Nephrology Renal Week 2013, Atlanta, Nov. 8, 2013.
29. Kiuchi Z, Ito Y, Nishibori Y, Yan K: GLCCI1 executes glucocorticoid action in thymocyte apoptosis. The ASN Kidney Week 2013 Annual Meeting, Atlanta, Nov. 7-10, 2013.
30. 羽田伊知郎, 保科弘明, 吉野浩, 楊國昌: 自然軽快がえられているMPD/NS(ヌーナン症候群関連性骨髄増殖性疾患)の一例. 第58回日本未熟児新生児学会学術集会, 金沢, 平成25年11月30日.
31. 上里忠光, 宮田世羽, 保科弘明, 楊國昌: 進行性水頭症を呈した先天性筋強直性ジストロフィーの一例. 第58回日本未熟児新生児学会, 金沢, 平成25年11月30日.
32. 那須ゆかり, 麓聖子, 楊國昌: 鎖肛に小腸穿孔を併発した正期産児の一例. 第58回日本未熟児新生児学会, 金沢, 平成25年11月30日.
33. 細井健一郎: 思春期に体重減少と下垂体機能低下を来した一例. 第11回三鷹小児内分泌臨床セミナー, 三鷹, 平成26年2月7日.
34. 安藤理恵, 上里忠光, 小峰素子, 瀧浦俊彦, 宮澤永尚, 小松祐美子, 倉山亮太, 吉野浩, 楊國昌: 激症1型糖尿病を発症したDandy-Walker variantの乳児例. 第11回三鷹小児内分泌臨床セミナー, 三鷹, 平成26年2月7日.
35. 那須ゆかり, 上里忠光, 宮澤永尚, 伊藤雄伍, 楊國昌: 日齢12に発症した遅発性GBS髄膜炎の一例. 第21回多摩小児感染・免疫研究会, 武蔵野, 平成26年2月15日.
36. 池上弓子, 笠井雅子, 中野瑛子, 松岡雄一郎, 長谷川廉: 新生児期に発症した尿細管性アシドーシスの一例. 第109回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 平成26年2月21日.
37. 小峰素子, 那須ゆかり, 山本明日香, 保崎明, 吉野浩, 楊國昌: 痙攣, 意識障害で発症した川崎病の一例. 第109回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 平成26年2月21日.

講演会

1. 楊國昌: タンパク尿とPodocyte Biology. 第56回日本腎臓学会学術総会, 東京, 平成25年5月10日.
2. 山本明日香: 学校における食物アレルギー・アナフィラキシーへの対応について. 調布市八雲台小学校職

員研修会, 調布市, 平成25年6月26日.

3. 楊國昌: 最近の当科における重症例について. 三鷹小児科医学会学術講演会, 東京, 平成25年7月3日.
4. 楊國昌: 糖質ステロイド作用の現在・未来. 第3回多摩腎臓病カンファレンス, 東京, 平成25年7月5日.
5. 楊國昌: 糖質ステロイド作用の歴史と未来. 第22回栃木膠原病と腎カンファレンス, 宇都宮, 平成25年7月19日.
6. 中村由紀子: てんかんについて. 症状, 治療, 対応. 青光学園特別支援学校 特別支援教育研修会, 東京, 平成25年8月1日.

一般向け講演会

1. 中村由紀子: ADHDの診療 年齢別の対応. ADHD学術講演会(日本イーライリリー), 小平, 平成25年11月29日.

論文

1. Miyai T, Aya K, Takaiwa M, Yan K, Sado Y, Tanaka H, Morishima T: Functional analysis of NPHS1 mutations in Japanese patients. *Histol Histopathol* 29:279-284,2014.
2. Kimura T, Takahashi M, Yan K, Sakurai H: Expression of SLC2A9 Isoforms in the Kidney and Their Localization in Polarized Epithelial Cells. *PLoS One*. 2014 Jan 7;9(1):e84996. doi: 10.1371/journal.pone.0084996.
3. Bessho F, Takayama N, Fronkova E, Zuna J: Reappearance of acute lymphoblastic leukemia 34 years after initial diagnosis: a case report and study of the origin of the reappeared blasts. *Int J Hematol* 97:525-528, 2013.
4. 吉野浩: 小児がん治療の現状と展望(小児科からの観点で). *杏林医学会誌*44(3), 156-158, 2013.
5. 中村由紀子, 岡明, 田辺恵美, 田中容子: 教育との医療連携における小児神経科医の役割-教育委員会での症例検討の効果. *小児保健研究*73(2),354-359,2014.
6. 伊藤雄伍, 木内善太郎, 西堀由紀野, 楊國昌: 糸球体発生におけるNSD3の機能解析. *発達腎研究会誌* 21: 15-17, 2013.
7. Fumoto S, Hosoi K, Ohnsihi H, Hoshina H, Yan K, Saji H, Oka A: Chimerism of Buccal Membrane Cells in a Monochorionic Dizygotic Twin. *Pediatrics*;originally published online March 31,2014,10.1542/peds.2013-1938.
8. 小松祐美子: Septo-optic dysplasiaの1例. *小児科* vol.54 No.12 2013.
9. 羽田伊知郎, 岡本さつき, 武田良淳, 遠海重裕, 五月女友美子, 松山健, 小高哲郎, 工藤孝広, 村越幸次: 多彩な症状を呈した新生児消化器アレルギーの2症例. *小児科臨床* 66(10): 2122-2128, 2013.

その他

受賞

1. 宮田世羽: 第55回日本小児神経学会 若手優秀演題賞
2. 伊藤雄伍: 第48回日本小児腎臓病学会学術集会 優秀演題奨励賞

3. 伊藤雄伍: The 16th Congress of the International Pediatric Nephrology Association 優秀口演
4. 伊藤雄伍: American Society of Nephrology Kidney Week 2013 優秀口演
5. 山本明日香: 第50回日本小児アレルギー学会 ベストポスター賞

研究会主催

1. 第107回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 平成25年6月21日.
2. 第10回三鷹小児内分泌臨床セミナー, 三鷹, 平成25年7月12日.
3. 第108回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 平成25年10月4日.
4. 第11回三鷹小児内分泌臨床セミナー, 三鷹, 平成26年2月7日.
5. 第21回多摩小児感染・免疫研究会, 武蔵野, 平成26年2月15日.
6. 第109回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 平成26年2月21日.

外科学教室
(消化器・一般外科)

口演

1. 正木忠彦: 大腸癌浸潤先進部の簇出について - その基礎と臨床 -. 第18回 三重がんフォーラム, 津, 平成25年1月11日.
2. 松岡弘芳, 正木忠彦, 小河晃士, 小嶋幸一郎, 吉敷智和, 高安甲平, 小林敬明, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則, 戸成綾子, 高山誠: 下部直腸癌に対する術中照射併用自律神経完全温存の試み, 第78回大腸癌研究会, 東京, 平成25年1月18日.
3. 小林敬明, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 高安甲平, 吉敷智和, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 肝転移を有する結腸直腸癌に対する術前化学療法に関して -TAC 試験の現状報告- 第80回 大腸癌研究会 東京 平成25年1月24日
4. 阿部展次, 竹内弘久, 大木亜津子, 森俊幸, 杉山政則: 胃十二指腸病変における筋層以深での内視鏡的切除—内視鏡的筋層剥離術, 内視鏡的全層切除術, 腹腔鏡補助下内視鏡的胃全層切除術—. 第9回日本消化管学会総会 (ワークショップ), 東京, 平成25年1月25日.
5. 橋本佳和, 比企直樹, 布部創也, 千葉丈広, 小菅敏幸, 本多通孝, 入野誠之, 谷村慎哉, 佐野武, 山口俊晴, 当院における内視鏡・腹腔鏡合同手術 LECS の変遷～より低浸襲な治療をめざして～, 第9回日本消化管学会総会学術集会 (ワークショップ), 東京, 平成25年1月25日.
6. T. Kishiki, T. Masaki, H. Matsuoka, T. Kobayashi, Y. Suzuki, N. Abe, T. Mori, M. Sugiyama Modified Glasgow Prognostic Score In Patients With Incurable Stage IV Colorectal Cancer The 29th PPSA 2013 Feb 7-9 Hawaii
7. 小林敬明, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 高安甲平, 吉敷

- 智和, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 根治切除困難な肝転移を有する結腸直腸癌に対する治療経験 - 当院における Conversion therapy の現状について -. 第10回 日本消化管学会, 福島, 平成25年2月14-15日.
8. 横山政明, 中里徹矢, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: Liver hanging maneuver と中肝静脈肝外剥離を併用した肝左葉切除術. 第32回 多摩消化器シンポジウム, 東京, 平成25年2月16日.
9. 竹内弘久, 阿部展次, 大木亜津子, 森俊幸, 杉山政則: GIST に対する完全内視鏡的全層切除の可能性 - 部分的全層切除の1例から - 第85回日本胃癌学会総会, 大阪, 平成25年2月27日 -3月1日.
10. 橋本佳和, 比企直樹, 布部創也, 田中友理, 入野誠之, 本多通孝, 清川貴志, 千葉丈広, 小菅敏幸, 峯真司, 山田和彦, 谷村慎哉, 佐野武, 山口俊晴, 胃癌の幽門側胃切除術における H.pylori 除菌法の検討, 第85回日本胃癌学会総会, 大阪, 平成25年2月28日.
11. 阿部展次, 竹内弘久, 大木亜津子, 杉山政則: 内視鏡的切除適応外病変に対する Palliative ESD の意義 (一般演題). 第85回日本胃癌学会総会, 大阪, 平成25年2月28日.
12. 橋本佳和, 比企直樹, 布部創也, 田中友理, 入野誠之, 本多通孝, 清川貴志, 千葉丈広, 小菅敏幸, 峯真司, 山田和彦, 谷村慎哉, 佐野武, 山口俊晴, 当院における腹腔鏡下胃切除術における Pitfall の対処法, 第85回日本胃癌学会総会, 大阪, 平成25年3月1日.
13. 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 高齢者急性胆管炎に対する内視鏡的胆道ドレナージの有用性について. 第49回日本腹部救急医学会. 福岡, 平成25年3月13日.
14. 竹内弘久 小嶋幸一郎 阿部展次 正木忠彦 森俊幸 杉山政則: 胃瘻カテーテルに対する救急対応の工夫. 第49回日本腹部救急医学会総会, 福岡, 平成25年3月13日 -3月14日.
15. 西沢良平 竹内弘久 阿部展次 正木忠彦 森俊幸 杉山政則: 急性虫垂炎にデユラホイ潰瘍を同時に合併した1例. 第49回日本腹部救急医学会総会, 福岡, 平成25年3月13日 -3月14日.
16. 鈴木裕, 森俊幸, 中沼安二, 坪内博仁, 杉山政則: 肝内胆管癌発生からみた肝内結石症の取扱い—コホート調査の検討—. 第99回日本消化器病学会総会. 鹿児島, 平成25年3月23日.
17. 正木忠彦: わたしの研究～癌浸潤先進部からみえるもの. 消化器癌学術講演会, 名古屋, 平成25年3月30日.
18. 小林敬明, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 高安甲平, 吉敷智和, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 切除困難な肝転移を有する結腸直腸癌に対する術前化学療法 - 当科での Conversion therapy の現状について -. 第114回 日本外科学会, 京都, 平成25年4月3-5日.
19. Tadahiko Masaki: Individualized Treatment of T1 Rectal Cancer. The Japan-Korea Colorectal Cancer

- symposium, Gyeongju, South Korea, 2013. 4.6.
20. 橋本佳和, 布部創也, 比企直樹, 谷村愼哉, 本多通孝, 小菅敏幸, 千葉丈広, 高橋祐, 有田淳一, 秋吉高志, 小西毅, 峯真司, 藤本佳也, 長山聡, 古賀倫太郎, 福長洋介, 山田和彦, 齋浦明夫, 上野雅史, 佐野武, 山口俊晴, 腹腔鏡下胃全摘術における再建の工夫 ～当院における食道空腸吻合～, 第113回日本外科学会定期学術集会 (パネルディスカッション), 福岡, 平成25年4月11日.
 21. 横山政明, 中里徹矢, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 胆道癌におけるシグナル伝達系および細胞周期関連分子の解析. 第113回日本外科学会定期学術集会, 平成25年4月11日 福岡.
 22. 阿部展次, 山口高史, 水野英彰, 松延修一郎, 柳田 修, 竹内弘久, 大木亜津子, 青木久恵, 森俊幸, 杉山政則: Reduced port surgery の適応拡大に向けて—ショートタイプ軟性内視鏡補助下单孔式手術. 第113回日本外科学会定期学術集会(ビデオシンポジウム), 福岡, 平成25年4月13日.
 23. 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 松木亮太, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則 (ビデオワークショップ): 手技・器機の改良による安全な臍空腸吻合に関する検討. 第113回日本外科学会学術集会, 福岡, 平成25年4月13日.
 24. 橋本佳和, 比企直樹, 布部創也, 小菅敏幸, 千葉丈広, 田中友理, 本多通孝, 入野誠之, 清川貴志, 大橋学, 谷村愼哉, 佐野武, 山口俊晴, 平澤俊明, 石山晃世志, 山本頼正, 藤崎順子, 2nd～3rd portion の十二指腸癌に対する LECS の2経験, 第7回腹腔鏡内視鏡合同手術研究会, 東京, 平成25年4月27日.
 25. 吉敷智和, 正木忠彦, 大西宏明, 松岡弘芳, 小嶋幸一郎, 高安公平, 小河晃士, 小林敬明, 渡辺卓 杉山政則: 大腸癌の抗 EGFR 抗体薬治療における新しい効果予測因子の検討. 第113回日本外科学会定期学術集会, 平成25年4月, 福岡.
 26. 木暮道夫, 杉山政則, 井手博子, 太田重久, 別府正彦, 高橋純子: 2年以上追求可能であった PEG 造設症例の検討 - 高齢者症例を中心に -. 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 京都, 平成25年5月10日.
 27. 阿部展次, 竹内弘久, 杉山政則: 胃粘膜下病変に対する筋層以深の内視鏡的切離—内視鏡的筋層剥離術, 内視鏡的全層切除術, 腹腔鏡補助下内視鏡的胃全層切除術—. 第85回日本消化器内視鏡学会総会 (ワークショップ), 京都, 平成25年5月10日.
 28. 鈴木裕, 中里徹矢, 杉山政則 (ワークショップ): IPMN の治療戦略 - 予測式による手術適応と術式選択, 至適郭清範囲について. 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 京都, 平成25年5月10日.
 29. 竹内弘久 小柏靖直 大木亜津子 阿部展次 杉山政則 甲能直幸: 中・下咽頭表在癌に対する内視鏡治療と ICG 蛍光法を用いたセンチネルリンパ節生検併用の試み. 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 京都, 平成25年5月10日.
 30. 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 松木亮太, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則: 腸回転解除を用いた臍頭十二指腸切除術～ IPDA 処理の工夫. 第67回日本手術手技研究会. 札幌, 平成25年5月17日.
 31. 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 松木亮太, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則: データマイニングを用いた IPMN の治療戦略 - 手術適応と術式選択, 至適郭清範囲に関して. 第25回日本肝胆膵外科学会学術集会. 宇都宮, 平成25年6月12日.
 32. 中里徹矢, 田中良太, 横山政明, 鈴木裕, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: IPMN における reprim 遺伝子メチル化の臨床病理学的検討. 第26回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 宇都宮, 平成25年6月12-14日.
 33. 横山政明, 中里徹矢, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 胆道癌におけるシグナル伝達系および細胞周期関連分子の解析. 第25回日本肝胆膵外科学会学術集会. 宇都宮, 平成25年6月14日.
 34. 木暮道夫, 杉山政則, 井手博子, 太田重久, 佐竹亮介: 胃瘻造設後の早期死亡例の検討と対策. 第96回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 平成25年6月15日.
 35. Hirohisa Takeuchi, Nobutsugu Abe, Atsuko Ooki, Gen Nagao, Tadahiko Masaki, Toshiyuki Mori, Masanori Sugiyama : Laparoscopy-assisted endoscopic full-thickness resection for gastric submucosal tumor. IGCC 2013, Verona(Italy), June 19-22 ,2013.
 36. Abe N, Takeuchi H, Nagao G, Ooki A, Mori T, Sugiyama M: Long-term outcomes of combination of endoscopic submucosal dissection and stomach-preserving laparoscopic lymph node dissection for early gastric cancer patients with potential risk of lymph node metastasis. 10th International Gastric Cancer Congress, Verona, Italy, June 20, 2013.
 37. 鈴木裕, 横山政明, 中里徹矢, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 発癌から見た肝内結石症の取扱い—コホート調査の解析—. 第30回日本胆膵病態・生理研究会. 仙台, 平成25年6月22日.
 38. Matsuoka H, Masaki T, Kojima K, Kishiki T, Kobayashi T, Takayasu K, Abe N, Mori T, Sugiyama M: Advanced low rectal cancer cases: Preoperative treatment and subsequent operation. Then, which treatment is suitable for cure? 7th. Colorectal Disease Symposium in Tokyo (CDST). Tokyo, Japan. June 29, 2013.
 39. 阿部展次 (評価者): 専修医セッション I「消化管」. 日本消化器病学会関東支部第325回支部例会, 東京, 平成25年7月13日.
 40. 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 松木亮太, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則 (ワークショップ): データマイニングを用いた IPMN の治療戦略 - 手術適応と術式選択, 至適郭清範囲について. 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 平成25年7月17日.
 41. 竹内弘久, 小柏靖直, 大木亜津子, 阿部展次, 正

- 木忠彦, 森俊幸, 甲能直幸, 杉山政則: 中・下咽頭表在癌に対する新しい治療戦略(内視鏡切除と ICG 蛍光法を用いたセンチネルリンパ節生検併用療法). 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 平成25年7月17日.
42. 横山政明, 中里徹矢, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 肝内胆管癌発生からみた肝内結石症の取扱い—コホート調査の検討—第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 平成25年7月17日.
 43. 中里徹矢, 鈴木裕, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 手技・器機の改良による安全な膵管空腸粘膜吻合. 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 平成25年7月18日.
 44. 杉山政則, 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸: 腸回転解除術を用いた mesopancreas の切除. 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 平成25年7月19日.
 45. 阿部展次, 中里徹矢, 鈴木裕, 橋本佳和, 森俊幸, 杉山政則: 定型化した腹腔鏡下尾側膵切除術の工夫. 第68回日本消化器外科学会総会(一般演題), 宮崎, 平成25年7月19日.
 46. 木暮道夫, 杉山政則, 井手博子, 太田重久, 池袋賢一: 高齢者の消化器がん手術における認知症とせん妄の取り扱いについて. 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 平成25年7月19日.
 47. 橋本佳和, 布部創也, 比企直樹, 峯真司, 山田和彦, 谷村愼哉, 齋浦明夫, 上野雅資, 佐野武, 山口俊晴, 腹腔鏡下胃切除術の開腹移行例の検討から得た術中偶発症に対する私の対処法, 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 平成25年7月19日.
 48. 中里徹矢, 鈴木裕, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 慢性膵炎合併膵癌における DNA メチル化異常の解析. 第44回日本膵臓学会大会, 仙台, 平成25年7月25-26日.
 49. 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 松木亮太, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則: IPMN の治療戦略 - データマイニングを用いた手術適応の決定と術式選択, 至適郭清範囲. 第44回日本膵臓学会大会, 仙台, 平成25年7月26日.
 50. 吉敷智和, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 高安公平, 小河晃士, 小林敬明, 松岡弘芳, 杉山政則: 大腸癌の抗 EGFR 抗体薬治療における新しい効果予測因子の検討. 第68回日本消化器外科学会総会, 平成25年7月 宮崎.
 51. 吉敷智和, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 高安公平, 小林敬明, 松岡弘芳, 杉山政則: 大腸癌の抗 EGFR 抗体薬治療における新しい効果予測因子の検討: 第79回大腸癌研究会, 平成25年7月, 大阪.
 52. Matsuoka H, Masaki T, Kojima K, Kishiki T, Kobayashi T, Takayasu K, Abe N, Mori T, Sugiyama M: Pudendal nerve terminal motor latency: its roll and pitfall. 17th. Conference on Functional Disorder of Anorectal Disease, Tokyo, Japan. August 3. 2013.
 53. 阿部展次, 山口高史, 松延修一郎, 柳田修, 水野英彰, 竹内弘久, 森俊幸, 杉山政則: ショートタイプ軟性内視鏡補助下单孔式手術. 第6回単孔式内視鏡手術研究会(シンポジウム), 札幌, 平成24年8月25日.
 54. 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 近藤恵里, 堀合真市, 阿部展次, 森俊幸, 大倉康男, 杉山政則: 重複膵管を伴う IPMN に対し膵頭十二指腸切除術を施行した1例. 第40回日本膵切研究会. 高松, 平成25年8月31日.
 55. 中里徹矢, 鈴木裕, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 尾側膵切除術後の膵瘻に対する予防的・治療的内視鏡的膵管ステントの有用性. 第40回日本膵切研究会, 高松, 平成25年8月30-31日.
 56. 松岡弘芳, 正木忠彦, 小河晃士, 小嶋幸一郎, 吉敷智和, 高安甲平, 小林敬明, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 直腸癌肛門括約筋温存手術後排便障害の影響について. 第17回大腸肛門機能障害研究会, 東京, 平成25年9月7日.
 57. 鈴木裕, 森俊幸, 横山政明, 中里徹矢, 松木亮太, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則: 肝内結石症全国調査—新規横断調査—. 第49回日本胆道学会学術集会, 千葉, 平成25年9月19日.
 58. 木暮道夫, 杉山政則, 佐竹亮介: 術後血糖コントロールが改善した, 膵胆管合流異常を伴う総胆管拡張症の2例. 第49回日本胆道学会学術集会, 浦安, 平成25年9月20日.
 59. 横山政明, 中里徹矢, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 肝内胆管癌疑陽性症例の調査研究. 第49回日本胆道学会学術集会, 千葉, 平成25年9月20日.
 60. 横山政明, 中里徹矢, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 術前化学療法によって組織学的根治を得られた大動脈リンパ節転移を伴う中部胆管癌の一例. 日本外科病理学会学術集会東京, 平成25年9月27日.
 61. 小暮正晴, 高和正, 小林敬明, 中村裕輔, 浜本隆二: ヒストン脱メチル化酵素 JMJD2A は G1/S 期移行を制御してヒト癌化に寄与する (Deregulation of JMJD2A is involved in human carcinogenesis through regulation of the G1/S transition). 日本癌学会, 2013年9月27日, 横浜.
 62. 松岡弘芳, 正木忠彦, 小河晃士, 小嶋幸一郎, 吉敷智和, 高安甲平, 小林敬明, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 直腸癌リンパ節転移の形態学的検討. 第18回日本外科病理学会学術集会, 東京, 平成25年9月28日.
 63. Matsuoka H, Masaki T, Kojima K, Kishiki T, Kobayashi T, Takayasu K, Abe N, Mori T, Sugiyama M. Impact of laparoscopy assisted anterior resection on postoperative bowel function. The 30th. Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter (PPSA-JC). Oct. 3. 2013.
 64. 竹内弘久, 阿部展次, 大木亜津子, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 跡見裕: 胃治療困難例に対

- する手技の工夫 -ESD から全層切除へ -JDDW2013, 品川, 平成25年10月9日 -10月11日.
65. 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 松木亮太, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則: 決定木分析による IPMN の治療成績 - 手術適応と術式選択, 至適郭清範囲 -. 第11回日本消化器外科学会大会 (JDDW2013). 東京, 平成25年10月12日.
 66. 正木忠彦: 炎症性腸疾患診療における Bio 製剤の位置付け. 第267回大和市胃・大腸検診カンファレンス; 第233回大和市消化器病研究会, 大和, 平成25年10月25日.
 67. 東京大腸手術手技研究会 第27回学術集会 大腸癌術後補助化学療法についての話題, 東京, 平成25年11月1日.
 68. 松岡弘芳, 正木忠彦, 小河晃士, 小嶋幸一郎, 吉敷智和, 高安甲平, 小林敬明, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 陰部神経伝導速度の有用性に関する検討. 第68回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京, 平成25年11月15日.
 69. 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則 (パネルディスカッション): データマイニングからみた IPMN の治療戦略 - 手術適応と術式選択, 至適郭清範囲. 第75回日本臨床外科学会総会, 名古屋, 平成25年11月22日.
 70. 木暮道夫, 杉山政則, 池袋 賢一, 佐竹亮介: 2週間の継続高圧酸素療法が奏効した, イレウス術後の麻痺性イレウスの1例. 第75回日本臨床外科学会総会, 名古屋, 平成25年11月23日.
 71. 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則: 急性膵炎における血液浄化療法の実態と有効性. 第26回日本外科感染症学会総会, 神戸, 平成25年11月25日.
 72. 森俊幸, 山形基夫: 熱き内視鏡外科医の軌跡 - アカシア治療を進展させる. 第26回日本内視鏡外科学会総会, 2013年11月28日, 福岡
 73. 森俊幸, 万代恭嗣, 山口茂樹, 黒川良望, 技術認定委員会, 教育委員会によるビデオウェブキャスト, 第26回日本内視鏡外科学会総会, 2013年11月28日 福岡.
 74. 阿部展次, 竹内弘久, 水野英彰, 松延修一郎, 山口高史, 森俊幸, 杉山政則: 軟性内視鏡を用いた腹腔内手術は幻に終わるのか. 第26回日本内視鏡外科学会総会 (パネル D), 福岡, 平成25年11月28日.
 75. 阿部展次, 竹内弘久, 大木亜津子, 橋本佳和, 森俊幸, 杉山政則: 胃 GIST に対する内視鏡的全層切除術の成績 (一般演題). 第7回 NOTES 研究会 (一般演題), 福岡, 平成25年11月29日.
 76. 森俊幸, 山口茂樹, 小西文雄, 万代恭嗣: 消化器一般外科領域における技術認定の現況. 第26回日本内視鏡外科学会総会, 2013年11月30日, 福岡
 77. 橋本佳和, 森俊幸, 得津敬之, 藤原愛子, 渡邊武志, 横山政明, 中里徹矢, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則, 腹腔鏡下 Nissen 術における Reduced Port Surgery の経験, 第26回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 平成26年11月30日.
 78. 吉敷智和, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 高安甲平, 鈴木裕, 小林敬明, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: Stage IV 大腸癌の細分類についての検討. 第75回日本臨床外科学会総会, 平成25年11月, 名古屋.
 79. 吉敷智和, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 小林敬明, 松岡弘芳, 杉山政則: 大腸癌 KRAS 変異症例に対する抗 EGFR 抗体薬治療の効果予測因子の検討. 第68回日本大腸肛門病学会学術集会, 平成25年11月, 東京.
 80. 吉敷智和, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 高安甲平, 小林敬明, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 大腸癌 KRAS 変異症例に対する抗 EGFR 抗体薬治療の効果予測因子の検討. JDDW 2013 東京.
 81. 横山政明, 中里徹矢, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 胆道癌における閉塞性黄疸例の術前ドレナージ法の検討. JDDW 2013, 東京.
- ## 論文
1. 杉山政則: 治療内視鏡の進歩. 消化器内視鏡 2013; 25: 6-7.
 2. 杉山政則: 胆管・膵管拡張をみたら・序説. 消化器内視鏡 2013; 25: 175.
 3. 杉山政則, 鈴木裕, 横山政明, 中里徹矢, 阿部展次, 森俊幸: 膣空腸吻合 (膣管空腸粘膜吻合). 手術 2013; 67: 953-959.
 4. Hirosawa T, Itabashi M, Ohnuki T, Yamaguchi N, Sugihara K, Kameoka S; Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (JSCCR) Study Group for Pulmonary Metastases from Colorectal Cancer. Prognostic factors in patients undergoing complete resection of pulmonary metastases of colorectal cancer: a multi-institutional cumulative follow-up study. Surg Today. 43(5):494-9, 2013.
 5. 正木忠彦: 局所高度進行直腸癌に対する放射線治療 a) 術中照射. 外科 75(3):282-286, 2013.
 6. Abe N, Takeuchi H, Ooki A, Nagao G, Masaki T, Mori T, Sugiyama M. Recent developments in gastric endoscopic submucosal dissection: towards the era of endoscopic resection of layers deeper than the submucosa. Dig Endosc Suppl 1:64-70, 2013
 7. 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 【外科医必読膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) のすべて】 分枝膵管型 IPMN に対する術式決定 縮小手術は可能か. 外科 75: 177-181, 2013.
 8. 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則: 胆管・膵管拡張をみたら II. 膵管拡張をみたら [内視鏡的アプローチ] ERCP によるアプローチ. 消化器内視鏡 25: 283-287, 2013.
 9. Suzuki Y, Sugiyama M, Inui K, Igarashi Y, Ohta H, Tazuma S, Tsuji T, Miyakawa H, Atomi Y: Management for pancreatolithiasis: A Japanese multicenter study.

- Pancreas 42: 584-588, 2013.
- 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 松木亮太, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則: ドレナージ大全 術後胆汁漏・瘻 胆と瘻 34: 1023-1027, 2013.
 - 鈴木裕, 森俊幸, 横山政明, 中里徹矢, 阿部展次, 杉山政則: 肝内結石症診療の現況 全国調査からみた肝内結石症の現況 胆と瘻 34: 1119-1124, 2013.
 - 渡邊武志, 正木忠彦, 藤原愛子, 松木亮太, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則, 大倉康男: 胃小弯リンパ節への孤立性転移を認めた直腸扁平上皮癌の1例 日本消化器外科学会雑誌 46: No10 784-790, 2013
 - 横山政明, 中里徹矢, 鈴木裕, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 後期高齢者における腹腔鏡下胆嚢摘出術の安全性の検討 消化器内科 56;6, 667-671, 2013 6月
 - 横山政明, 小河晃士, 中里徹矢, 鈴木裕, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 肝・胆・瘻; 総胆管結石症 臨床外科 68巻11号, 170-176, 2013 10月
 - Kogure M, Takawa M, Saloura V, Sone K, Piao L, Ueda K, Ibrahim R, Tsunoda T, Sugiyama M, Atomi Y, Nakamura Y, Hamamoto R: The oncogenic polycomb histone methyltransferase EZH2 methylates lysine 120 on histone H2B and competes ubiquitination. Neoplasia 15 :11:1251-1261 2013
 - Kogure M, Takawa M, Cho HS, Toyokawa G, Hayashi K, Tsunoda T, Kobayashi T, Daigo Y, Sugiyama M, Atomi Y, Nakamura Y, Hamamoto R.: Deregulation of the histone demethylase JMJD2A is involved in human carcinogenesis through regulation of the G(1)/S transition. Cancer Letters 9;336(1):76-84. 2013

著書

- 杉山政則: 瘻奇形. 内科学書. 第10版. 矢崎義雄編. 東京, 朝倉書店, 2013.6.10. p1040-1041.
- 杉山政則, 鈴木裕: 臨床病態学. 第2版. 北村聖編. 東京, ヌーヴェルヒロカワ, 2013.3.25. 第2巻, P191-194.
- 森俊幸, 杉山政則: 単孔式手術と Reduced Port Surgery in 渡邊昌彦, 國土典宏, 土岐祐一郎編 消化器外科レビュー 2013 最新主要文献と解説 169-173頁, 総合医学社 2013, 東京.
- 森俊幸, 阿部展次, 杉山政則, 単孔式内視鏡手術: ツール組み合わせ減孔式への拡張やがん手術も Medical ASAHI August 2013, 18-19pp
- 橋本佳和: 第2章Ⅱ. 新癌についての質問に答える. 小川道雄監修. 『コンセンサス癌治療』編集委員会編集. 東京, へるす出版, 2013. p.85-92.
- 正木忠彦: 鼠径ヘルニア, 大腿ヘルニア, 腹壁ヘルニア, 横隔膜ヘルニア. 今日の治療指針. 山口徹, 北原光夫, 福井次矢編, 東京, 医学書院, 2013年, p. 466-467.

その他

- 阿部展次 (座長): 一般演題「胃—手術」. 第86回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 平成25年10月10日.

- 阿部展次 (座長): ポスター「胃 術式/臨床研究」. 第113回日本外科学会定期学術集会 (ビデオシンポジウム), 福岡, 平成25年4月12日.
- 阿部展次 (座長): 要望演題19「ハイブリッド・LECS」. 第26回日本内視鏡外科学会総会 (パネル D), 福岡, 平成25年11月28日.
- 鈴木裕 (座長): プレナリーセッション IPMN. 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 京都. 平成25年4月11日.
- 正木忠彦: 進行性大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金 (H24- がん臨床 - 一般 -005) 分担研究報告書
- 正木忠彦: 肛門扁平上皮癌に対する新規化学放射線療法の確立. 厚生労働科学研究費補助金 (H23- がん臨床 - 一般 -012) 分担研究報告書.
- 正木忠彦: 国内外科手術成績を基礎とした経口抗がん剤による治癒切除大腸癌術後補助療法の確立. 厚生労働科学研究費補助金 (H22- がん臨床 - 一般 -027) 分担研究報告書.

外科学教室

(呼吸器・甲状腺外科)

口演

- 須田一晴, 古屋敷剛, 喜多秀文, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 完全鏡視下左 S3区域切除術の1例. 第20回新潟心臓血管肺手術手技研究会, 新潟, 平成25年4月20日.
- 武井秀史, 平田佳史, 相原健一, 清水麗子, 橘啓盛, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: Pancoast 腫瘍に対する Transmanubrial osteomuscular sparing approach. 第30回日本呼吸器外科学会総会, 名古屋, 平成25年5月9日.
- 松脇りえ, 菱田智之, 石井源一郎, 平山俊希, 松村勇輝, 春木朋広, 青景圭樹, 吉田純司, 永井完治: 胸壁浸潤を有する pT3N0M0肺癌の予後 - 浸潤の深さは予後に影響するか? -. 第30回日本呼吸器外科学会総会, 名古屋, 平成25年5月9日.
- 荻田真, 平田佳史, 相原健一, 清水麗子, 橘啓盛, 河内利賢, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 武井秀史, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 当科における若年者原発性自然気胸の手術成績について. 第30回日本呼吸器外科学会総会, 名古屋, 平成25年5月9日.
- 田口怜, 河内利賢, 相原健一, 清水麗子, 橘啓盛, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 武井秀史, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 逆 L 字型 Mini-Sternotomy アプローチにより切除した縦隔神経鞘腫の一例. 第30回日本呼吸器外科学会総会, 名古屋, 平成25年5月9日.
- 清水麗子, 武井秀史, 相原健一, 橘啓盛, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 骨セメントを用いた胸骨再建. 第30回日本呼吸器外科学会総会, 名古屋, 平成25年5月9日.
- 藤田敦, 吉田勤, 堀越浩幸, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 電子カルテと連携した術中画像ナビゲーションシス

- テム；非接触型レーザーキーボードの有用性について。第30回日本呼吸器外科学会総会，名古屋，平成25年5月9日。
8. 平田佳史，河内利賢，相原健一，清水麗子，橘啓盛，荻田真，中里陽子，田中良太，長島鎮，武井秀史，古瀬純司，杉山政則，近藤晴彦，呉屋朝幸：3回の異時性肺転移に対し肺切除を施行した1例。第30回日本呼吸器外科学会総会，名古屋，平成25年5月9日。
 9. 新井信晃，田中良太，相原健一，清水麗子，橘啓盛，河内利賢，荻田真，中里陽子，長島鎮，武井秀史，近藤晴彦，呉屋朝幸：若年期に手術を必要とした先天性嚢胞性腺腫様奇形（CCAM）の1例。第30回日本呼吸器外科学会総会，名古屋，平成25年5月9日。
 10. 長島鎮，平田佳史，相原健一，清水麗子，橘啓盛，河内利賢，荻田真，中里陽子，田中良太，武井秀史，近藤晴彦，呉屋朝幸：術後長期生存中のG-CSF産生肺多形癌の1例。第30回日本呼吸器外科学会総会，名古屋，平成25年5月9日。
 11. 柴田英克，岩谷和法，吉岡正一：胸壁に発生したデスマイド型線維腫症の1例。第30回日本呼吸器外科学会総会，名古屋，平成25年5月9日。
 12. 吉田勤，藤田敦，中里宜正，飯島美砂，近藤晴彦，呉屋朝幸：検診発見肺癌の手術成績。第30回日本呼吸器外科学会総会，名古屋，平成25年5月9日。
 13. 古屋敷剛，須田一晴，喜多秀文，藤田敦，近藤晴彦，呉屋朝幸：粗大な縦隔奇形腫を完全鏡視下季肋部切開法にて切除した1例。第30回日本呼吸器外科学会総会，名古屋，平成25年5月10日。
 14. 橘啓盛，平田佳史，相原健一，清水麗子，河内利賢，荻田真，中里陽子，田中良太，長島鎮，武井秀史，近藤晴彦，呉屋朝幸：Transmanubrial osteomuscular sparing approachによる甲状腺癌縦隔リンパ節転移の1切除例。第30回日本呼吸器外科学会総会，名古屋，平成25年5月10日。
 15. 須田一晴，古屋敷剛，近藤晴彦，呉屋朝幸：悪性胸膜中皮腫に対する完全鏡視下左胸膜肺全摘術。第30回日本呼吸器外科学会総会，名古屋，平成25年5月10日。
 16. 喜多秀文，白石裕治，葛城直哉，下田清美，平松美也子，田中さゆり：術前診断が肺化膿症にて完全鏡視下右下葉切除術を施行後に肺分画症と診断された1例。第30回日本呼吸器外科学会総会，名古屋，平成25年5月10日。
 17. 中里宜正，町田浩美，佐々木英夫，吉田勤，土田秀，神山晴美，小島勝，正和信英：全身性エリテマトデス（SLE）に合併した肺胞蛋白症の1例。第54回日本臨床細胞学会総会（春期大会），東京，平成25年5月31日。
 18. 橘啓盛，平田佳史，相原健一，清水麗子，河内利賢，荻田真，中里陽子，田中良太，長島鎮，武井秀史，近藤晴彦，呉屋朝幸：気管膜様部を損傷した上縦隔原発気管支原性嚢胞の1切除例。第162回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，東京，平成25年6月1日。
 19. 清水麗子，武井秀史，平田佳史，相原健一，橘啓盛，河内利賢，荻田真，中里陽子，長島鎮，近藤晴彦，呉屋朝幸，藤原正親，矢澤卓也，菅間博：肺毛細血管腫の2切除例。第162回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，東京，平成25年6月1日。
 20. 吉田勤，神山晴美，土田秀，布瀬川卓也，中里宜正，飯島美砂，小島勝：偽中皮腫様の進展が推測された肺多形癌の1例。第54回日本臨床細胞学会総会（春期大会），東京，平成25年6月2日。
 21. 吉田勤，山根正之，中里宜正，飯島美砂：治療後全身転移をきたした若年者舌癌の1例。第102回日本病理学会総会，札幌，平成25年6月6日。
 22. 松脇りえ，青景圭樹，石井源一郎，清水恵，平山俊希，松村勇輝，菱田智之，吉田純司，永井完治：扁平上皮腺上皮混合型乳頭腫の1例。第167回日本肺癌学会関東支部会，東京，平成25年6月8日。
 23. 平田佳史，河内利賢，清水麗子，橘啓盛，荻田真，中里陽子，田中良太，長島鎮，武井秀史，藤原正親，矢澤卓也，近藤晴彦，呉屋朝幸：複数の腫瘍の既往があり，術前診断に苦慮した多発肺病変の1例。第167回日本肺癌学会関東支部会，東京，平成25年6月8日。
 24. 喜多秀文，白石裕治，葛城直哉，下田清美，平松美也子：肺癌術後の喉頭蓋および梨状窩の転移に対し気管支鏡下エタノール注入が奏功した1例。第36回日本呼吸器内視鏡学会学術集会，さいたま，平成25年6月20日。
 25. 近藤晴彦：肺癌治療の現況 肺がんは治りますか？元通りの生活が出来るのですか？ 第36回日本呼吸器内視鏡学会 市民公開講座，さいたま，平成25年6月21日。
 26. 柴田英克，岩谷和法，岩本範博，吉岡正一：胸腔内にびまん性に浸潤したDesmoid-type fibromatosisの1例。第36回日本呼吸器内視鏡学会学術集会，さいたま，平成25年6月21日。
 27. 吉田勤，藤田敦，三浦陽介，藤本栄，中里宜正，湊浩一，近藤晴彦，呉屋朝幸：経気管支鏡的肺生検で診断しえた肺過誤腫の1例。第36回日本呼吸器内視鏡学会学術集会，さいたま，平成25年6月21日。
 28. 橘啓盛，平田佳史，相原健一，清水麗子，河内利賢，荻田真，中里陽子，長島鎮，武井秀史，近藤晴彦，呉屋朝幸：pN2にどう対応するか？【化学療法の視点から】 第2回Thoracic surgical oncology conference in West Tokyo，東京，平成25年7月5日。
 29. 古屋敷剛，須田一晴：当施設における完全鏡視下肺全摘手術の報告。第4回上信越呼吸器外科懇談会，長野，平成25年7月20日。
 30. 須田一晴，古屋敷剛，喜多秀文，近藤晴彦，呉屋朝幸：中枢病変に対する完全鏡視下手術。第4回上信越呼吸器外科懇談会，長野，平成25年7月20日。
 31. 中里宜正：WHO分類における肺腺癌組織分類改訂のpitfall CT検診普及で診断されるGGOを含む小型肺癌の病理学的悪性度評価。第21回日本がん検診・診断学会総会，前橋，平成25年7月20日。
 32. 須田一晴，古屋敷剛，喜多秀文，近藤晴彦，呉屋朝幸：

- 完全鏡視下手術における肺動脈遮断. 第37回新潟肺癌研究会総会, 新潟, 平成25年8月24日.
33. 清水麗子, 武井秀史, 平田佳史, 相原健一, 橋啓盛, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 長島鎮, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 右上葉支 - 中間気管支幹分岐部狭窄に対し, シリコン Y ステントを留置した一例. 第146回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 東京, 平成25年9月14日.
 34. 須田一晴, 古屋敷剛: 分葉不全左肺癌に対する完全鏡視下肺葉切除術. 第1回新潟呼吸器外科手術手技研究会, 新潟, 平成25年10月5日.
 35. 中里宜正: WHO 分類における肺腺癌組織分類改訂の pitfall と観察者間変動について. 第1回栃木県細胞診従事者講習会, 栃木, 平成25年10月5日.
 36. 中里宜正: 遺伝子検査のいろいろな使い方. 第50回関東甲信越支部医学検査学会, つくば, 平成25年10月6日.
 37. 藤田敦: がんセンターにおける呼吸器外科手術. 深谷市・大里郡医師会定例会 日医生涯教育講座, 深谷, 平成25年10月9日.
 38. Kawachi R, Tachibana K, Karita S, Nakazato Y, Nagashima Y, Takei H, Kondo H, Goya T: Is lymph node dissection at station 11s necessary in primary lung cancer located in the middle lobe? The 15th world conference on lung cancer, Australia, Oct 28, 2013.
 39. 平田佳史, 河内利賢, 相原健一, 清水麗子, 橋啓盛, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 武井秀史, 望月眞, 矢澤卓也, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 出血による嚢胞の切迫破裂を来した, 横隔膜発生気管支原性嚢胞の1例. 第163回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 平成25年11月2日.
 40. 吉田勤, 中里宜正, 土田秀, 神山晴美, 布施川卓也, 飯島美砂, 小島勝: 検診発見肺癌の予後. 第52回日本臨床細胞学会総会 (秋期大会), 大阪, 平成25年11月3日.
 41. 松脇りえ, 菱田智之, 石井源一郎, 平山俊希, 荒牧直, 松村勇輝, 青景圭樹, 吉田純司, 永井完治: pT4肺癌外科切除例の予後—再発形式も同一か?—. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 平成25年11月21日.
 42. 吉田勤, 三浦陽介, 藤本栄, 中里宜正, 藤田敦, 飯島美砂, 湊浩一, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 肺癌組織における HPV 感染の検討. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 平成25年11月21日.
 43. 河内利賢, 平田佳史, 相原健一, 清水麗子, 橋啓盛, 荻田真, 中里陽子, 長島鎮, 武井秀史, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 右上葉発生原発性肺癌 pN2症例の気管分岐部リンパ節転移症例の検討. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 平成25年11月21日.
 44. 須田一晴, 古屋敷剛, 喜多秀文, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 胸壁合併切除を伴う完全鏡視下右上葉切除術. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 平成25年11月21日.
 45. 橋啓盛, 平田佳史, 相原健一, 清水麗子, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 長島鎮, 武井秀史, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: III A 期 pN2非小細胞肺癌切除例に対する化学療法の有効性に関する検討. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 平成25年11月21日.
 46. 古屋敷剛, 須田一晴, 喜多秀文, 藤田敦, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 肺癌に対する完全鏡視下手術の工夫 完全鏡視下右肺全摘気管支形成・大網充填術の1例. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 平成25年11月21日.
 47. 喜多秀文, 白石裕治, 葛城直哉, 下田清美, 平松美也子, 田中さゆり: 長期生存が得られた肺癌術後小腸転移の一切除例. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 平成25年11月21日.
 48. 平田佳史, 河内利賢, 相原健一, 清水麗子, 橋啓盛, 荻田真, 中里陽子, 長島鎮, 武井秀史, 小島洋平, 中里徹矢, 正木忠彦, 杉山政則, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 縦隔結腸瘻により胸骨正中切開創の便汁汚染を併発した1例. 第75回日本臨床外科学会総会, 名古屋, 平成25年11月21日.
 49. 田口怜, 河内利賢, 平田佳史, 相原健一, 清水麗子, 橋啓盛, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 武井秀史, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: ゲフィチニブを用いた化学療法後右下葉切除を施行した肺癌の一例. 第75回日本臨床外科学会総会, 名古屋, 平成25年11月21日.
 50. 近藤晴彦: 外科治療. 第54回日本肺癌学会 市民公開講座, 東京, 平成25年11月23日.
 51. 荻田真, 平田佳史, 相原健一, 清水麗子, 橋啓盛, 河内利賢, 中里陽子, 長島鎮, 武井秀史, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 月経随伴性気胸に対して横隔膜切除縫合を行った2例について. 第75回日本臨床外科学会総会, 名古屋, 平成25年11月23日.
 52. 清水麗子, 武井秀史, 平田佳史, 相原健一, 橋啓盛, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 肋骨骨折による横隔膜損傷, 小網出血が原因であった外傷性血胸の1例. 第75回日本臨床外科学会総会, 名古屋, 平成25年11月23日.
 53. 清水麗子, 武井秀史, 平田佳史, 相原健一, 橋啓盛, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 肺癌術後の乳び胸にサンドスタチン投与が奏功した1例. 第75回日本臨床外科学会総会, 名古屋, 平成25年11月23日.
 54. 清水麗子, 武井秀史, 平田佳史, 相原健一, 橋啓盛, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 長島鎮, 皿谷健, 滝澤始, 藤原正親, 矢澤卓也, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 局所麻酔下胸腔鏡にて確定診断が得られた悪性リンパ腫の1例. 第147回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 東京, 平成25年12月7日.
 55. Nakazato Y, Kojima M, Takada A, Kaneko Y, Suzuki S, & Masawa N: Atypical interfollicular hyperplasia of tonsils resembling mucosa associated lymphoid tissue lymphoma. A clinicopathological, immunohistochemical study and Epstein-Barr virus findings of 12 cases. The 12th Japanese-Korean lymphoreticular workshop (in conjunction with the 5th Asian hematopathology symposium), Japan, Jan 24, 2014.
 56. 須田一晴, 古屋敷剛: 分葉不全左肺癌に対する完全

- 鏡視下肺葉切除術. 第23回日本呼吸器外科医会冬期学術集会, 湯沢, 平成26年1月25日.
57. 古屋敷剛, 須田一晴, 喜多秀文, 藤田敦, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 当施設における完全鏡視下手術の肺癌拡大手術 完全鏡視下右肺全摘気管支形成・大網充填術の1例. 第21回長岡肺癌研究会, 長岡, 平成26年1月31日.
 58. 藤田敦: 呼吸器外科領域における人工気胸下手術. 第21回長岡肺癌研究会, 長岡, 平成26年1月31日.
 59. Nakazato Y, Kojima M, Takada A, Inoue T, Hayama M, Kobayashi S, Oyaizu T, Honma K, Masawa N, & Chida M: Lung cancer complicated with IgG4-related disease of the lung; a case report. The second international symposium on IgG4 related disease & associated conditions, USA, Feb 17, 2014.
 60. 近藤晴彦: 間質性肺炎合併肺癌の外科治療～日本呼吸器外科学会学術委員会主導多施設共同研究の結果から～. 第35回しずおか呼吸器フォーラム, 静岡, 平成26年2月28日.
 61. 清水麗子, 武井秀史, 平田佳史, 橋啓盛, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 長島鎮, 寺戸雄一, 望月眞, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: PET-CTで異常集積を認めた縦隔 Castleman 病の1例. 第164回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 平成26年3月1日.
 62. 藤田敦, 喜多秀文: 呼吸器外科領域における炭酸ガスによる人工気胸法の有用性について. 第41回群馬県立がんセンター院内学会, 太田, 平成26年3月7日.
 63. 清水麗子, 武井秀史, 平田佳史, 相原健一, 橋啓盛, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 長島鎮, 稲葉雄亮, 遠藤英仁, 窪田博, 藤原正親, 矢澤卓也, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 収縮性心膜炎で再発した悪性胸膜中皮腫の一例. 第169回日本肺癌学会関東支部会, 東京, 平成26年3月8日.
 64. 三ツ間智也, 荻田真, 武井秀史, 平田佳史, 清水麗子, 橋啓盛, 河内利賢, 中里陽子, 長島鎮, 皿谷健, 滝澤始, 藤原正親, 矢澤卓也, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: FDG-PET 陽性で肺癌との鑑別が困難であった肺アスペルギルス症の1例. 第832回外科集談会, 東京, 平成26年3月8日.
- 論文**
- 邦文**
1. 小野貴之, 吉積隆, 小尾俊太郎, 平野浩一, 海老原敏: 輪状軟骨に転移した肝細胞癌の1例. 頭頸部外科 23 : 357-361, 2013.
 2. 小野貴之, 吉積隆, 平野浩一, 大山和一郎, 海老原敏: 喉頭癌に対する喉頭垂直部分切除術の治療成績. 頭頸部外科 23 : 363-368, 2013.
 3. 荻田真, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 進行肺癌に対する拡大手術 - 最近の動向 - 4. 胸壁合併切除. 日本外科学会雑誌 114 : 182-185, 2013.
 4. 呉屋朝幸: 肺癌の診断と治療 - 現状と展望 -. 杏林医学会雑誌 44 : 143-150, 2013.
 5. 呉屋朝幸: 肺癌の診断・治療の変遷と展望 3. 外科治療. 日本臨牀2013年増刊号 最新肺癌学—基礎と臨牀の最新研究動向— : 26-30, 2013.
6. 呉屋朝幸: Patients-oriented Medicine and Best Surgical Practice. 日本臨床外科学会雑誌 74 : 2949-2961, 2013.
 7. 喜多秀文, 白石裕治, 葛城直哉, 下田清美, 斉藤美也子: 月経時の再手術が功を奏した月経随伴生気胸. 胸部外科 66: 1071-1073, 2013.
 8. 喜多秀文, 白石裕治, 葛城直哉, 下田清美, 斉藤美也子, 田中さゆり: リンパ節転移をきたした肺硬化性血管腫. 胸部外科 66: 1141-1144, 2013.
 9. 土田秀, 中里宜正, 田端里美, 神山晴美, 富宇加麻里, 吉田勤, 飯島美砂, 鹿沼達哉, 小島勝, 杉原志朗: 再水和処理を用いた検体処理法の検討. 日本臨床細胞学会雑誌 52: 12-16, 2013.
 10. 土田秀, 小島勝, 町田浩美, 神山晴美, 中里宜正, 飯島美砂, 杉原志朗, 正和信英: 類上皮細胞を多数認めた肺の MALT リンパ腫の1例. 日本臨床細胞学会雑誌 52: 28-31, 2013.
 11. 土田秀, 中里宜正, 神山晴美, 布瀬川卓也, 吉田勤, 飯島美砂, 小島勝, 杉原志朗: 肺原発印環細胞癌の1例. 日本臨床細胞学会雑誌 52: 143-146, 2013.
 12. 土田秀, 中里宜正, 神山晴美, 布瀬川卓也, 吉田勤, 飯島美砂, 小島勝, 杉原志朗: 胸水セルブロック標本が有用であった ALK 陽性肺癌の1例. 日本臨床細胞学会雑誌 52: 346-349, 2013.
 13. 土田秀, 中里宜正, 神山晴美, 布瀬川卓也, 吉田勤, 飯島美砂, 小島勝, 杉原志朗: 液状化細胞診を用いた尿細胞診の検体処理法の検討. 日本臨床細胞学会雑誌 52: 406-410, 2013.
 14. 橋啓盛, 近藤晴彦: 画像診断 Q&A. 胸部外科 67 : 142-145, 2013.
 15. 喜多秀文, 白石裕治, 下田清美, 平松美也子, 吉田勤: 肺癌術後の口腔内転移に対し気管支鏡下エタノール注入療法が有効であった1例. 日本呼吸器内視鏡学会誌 36: 188-192, 2014.
- 欧文**
1. Nakazato Y, Maeshima A, Ishikawa Y, Yatabe Y, Fukuoka J, Yokose T, Tomita Y, Minami Y, Asamura H, Tachibana K, Goya T, & Noguchi M : Interobserver agreement in the nuclear grading of primary pulmonary adenocarcinoma. J Thorac Oncol 8 : 736-743, 2013.
 2. Tanaka R, Nakazato Y, Horikoshi H, Tsuchida S, Yoshida T, Nakazato Y, Tachibana K, Kondo H, & Goya T: Diffusion-weighted imaging and positron emission tomography in various cytological subtypes of primary lung adenocarcinoma. Clin Imaging 37: 876-883, 2013.
 3. Tachibana K, Nakazato Y, Tsuchida S, Kazama T, Minato K, Yoshida T, Fujita A, Horikoshi H, Tanaka R, Iijima M, & Goya T: Immediate cytology improves accuracy and decreases complication rate in real-time computed tomography-guided needle lung biopsy. Diagn Cytopathol 41: 1063-1068, 2013.
- 著書**
1. 河内利賢, 近藤晴彦, 呉屋朝幸 (分担執筆): 気胸.

胸膜全書. 中野孝司編. 大阪, 医薬ジャーナル社, 2013. p. 155-162.

2. 荻田真, 武井秀史, 近藤晴彦: 5. 治療方針: B. 小細胞癌 1. 手術適応はどのように考えますか? 肺癌診療 Q&A 1つ上を行く診療の実践 第2版. 弦間昭彦編. 東京, 中外医学社, 2013. p.209-210.
3. 河内利賢, 浅村尚生: 6. 治療各論: 手術 2. 縮小手術のエビデンスと適応について教えてください. 肺癌診療 Q&A 1つ上を行く診療の実践 第2版. 弦間昭彦編. 東京, 中外医学社, 2013. p.230-232.
4. 河内利賢, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 6. 治療各論: 手術 5. 高齢者肺癌に対する手術療法の限界について教えてください. 肺癌診療 Q&A 1つ上を行く診療の実践 第2版. 弦間昭彦編. 東京, 中外医学社, 2013. p.238-241.
5. 増井一夫, 亀田陽一: 大細胞癌. 臨床研修医のための肺癌症例の実際. 一瀬幸人, 加藤治文, 呉屋朝幸, 西條長宏, 中西洋一監修. 東京, メディカルレビュー社, 2013.p.34-35.

その他

学会主催

1. 呉屋朝幸: 第2回日本臨床倫理学会. すみだ産業会館, 東京, 平成26年3月2日

外科学教室 (乳腺外科)

口 演

1. Imoto S, Nakatsugawa N, Ito H, Imi K, Isaka H, Miyamoto K, Nakatsura T: Host-tumor immune response for breast cancer patients. AACR 104th Annual Meeting. USA, April 07, 2013.
2. 井本滋, 愛甲孝, 北島政樹: センチネルリンパ節転移陽性乳癌患者の腋窩治療. 第113回日本外科学会総会学術集会, 福岡, 平成25年4月11日.
3. 伊東大樹: 症例検討 第2回多摩乳がん臨床検討会, 東京, 平成25年4月19日.
4. Imoto S: Would you have ever thought to ablate...? Breast cancer. Presented at Interventional Oncology Sans Frontières. Italy, June 1, 2013.
5. 井本滋, 酒村智子, 伊東大樹, 伊美建太郎, 伊坂泰嗣, 宮本快介: 乳癌患者における腫瘍免疫応答の解明. 第21回日本乳癌学会学術総会, 浜松, 平成26年6月27日.
6. 伊東大樹, 井本滋, 伊美建太郎, 宮本快介, 北村真由美: HER2陽性進行再発乳癌における1次治療としてのトラスツズマブ/ピノレルピン療法の検討. 第21回日本乳癌学会学術総会, 浜松, 平成25年6月27日.
7. 伊美建太郎, 井本滋, 伊坂泰嗣, 伊東大樹, 宮本快介, 北村真奈美: 乳癌骨転移の定量化の試み. 第21回日本乳癌学会学術総会, 浜松, 平成25年6月28日.
8. 宮本快介, 北村真奈美, 伊東大樹, 伊美健太郎, 菅間博, 井本滋: センチネルリンパ節転移陽性症例における非センチネルリンパ節転移の予測式の構築

とカットオフ値の検討. 第21回日本乳癌学会学術総会, 浜松, 平成25年6月28日.

9. Imi K, Ito H, Miyamoto K, Kitaura M, Imoto S: Utility of bone scan index, 2013 Tokyo Busan Regional Breast Cancer Consensus Symposium, Tokyo, September 14, 2013.
10. 北村真奈美, 伊東大樹, 伊美健太郎, 宮本快介, 菅間博, 井本滋: センチネルリンパ節転移陽性症例における非センチネルリンパ節転移の予測式の構築とカットオフ値の検討. 第15回 SNNS 研究会学術集会, 釧路, 平成25年9月20日.
11. 上野貴之: ハラヴェンの新規作用とその可能性. 北陸乳がん研究会, 福井, 平成25年11月29日
12. 上野貴之: 薬剤作用から考えるハラヴェンの可能性, 第11回日本乳癌学会近畿地方会大阪, 平成25年11月30日
13. 北村真奈美, 伊東大樹, 伊美健太郎, 宮本快介, 井本滋: 乳房一期再建術後に発症した toxic shock syndrome の1例, 第10回日本乳癌学会関東地方会, さいたま, 平成25年12月7日.
14. 北村真奈美, 上野貴之, 伊東大樹, 伊美健太郎, 宮本快介, 井本滋: 乳房一期再建術後に発症した toxic shock syndrome の1例, 第832回外科集談会, 東京, 平成26年3月8日.

論 文

1. 上野貴之: EMT. クリニシアン 60: 88-94. 2013.
2. 上野貴之: 固形がんにおける循環がん細胞. 生体の科学 65: 164-170. 2014.
3. 上野貴之: 細胞増殖と細胞死の評価, Pharma Medica 32: 19-23. 2014.
4. 上野貴之: 個別化医療の今後 -Oncotype DX, MammaPrint を例にして - Mebio 31: 52-57. 2014.
5. 井本滋: 乳癌治療の現状と展望. 杏林医学会雑誌 43: 145-150, 2013.
6. 井本滋: ラジオ波焼灼治療の現状. 臨床と研究 90: 1311-1315, 2013.
7. Meretoja TJ, Audisio RA, Heikkilä PS, Bori R, Sejben I, Regitnig P, Luschin-Ebengreuth G, Zgajnar J, Perhavec A, Gazic B, Lázár G, Takács T, Kővári B, Saidan ZA, Nadeem RM, Castellano I, Sapino A, Bianchi S, Vezzosi V, Barranger E, Lousquy R, Arisio R, Foschini MP, Imoto S, Kamma H, Tvedskov TF, Jensen MB, Cserni G, Leidenius MH. International multicenter tool to predict the risk of four or more tumor-positive axillary lymph nodes in breast cancer patients with sentinel node macrometastases. Breast Cancer Res Treat 138: 817-827, 2013.
8. Hojo T, Kinoshita T, Imoto S, Shimizu C, Isaka H, Ito H, Imi K, Wada N, Ando M, Fujiwara Y: Use of the neo-adjuvant exemestane in post-menopausal estrogen receptor-positive breast cancer: a randomized phase II trial (PTEX46) to investigate the optimal duration of preoperative endocrine therapy. Breast 22: 263-267, 2013.

著 書

1. 宮本快介, 井本滋: LH-RH アゴニスト. 乳癌薬物療法. 木下貴之, 戸井雅和編 南山堂, 東京, 2013. p147-151.

その他

1. 井本滋: 早期乳がんにおけるセンチネルリンパ節生検とラジオ波焼灼治療 (分担研究報告). 厚生労働省科学研究費補助金第3次対がん総合戦略研究事業「QOLの向上をめざしたがん治療法の開発研究」に関する研究 平成25年度 総括・分担研究報告書
2. 上野貴之, 直居靖人, 川端英孝, 近藤正英: 早期乳癌における多重遺伝子診断の有用性と費用対効果 (座談会) Think BC (Breast Cancer) Vol.6, Vol.7. 2013.

小児外科学教室

口 演

1. 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 望月智弘, 鮫島由友: 当院で経験したボタン電池誤飲症例についての検討, 第50回日本腹部救急医学会総会, 東京, 平成25年3月6日.
2. 望月智弘, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 鮫島由友: DICを初発症状として診断された先天性胆道拡張症の1例. 第111回東京小児外科研究会, 東京, H25年5月14日
3. 望月智弘, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 増古賢太郎, 鮫島由友: 鼠径ヘルニア再発症例の検討. 第50回日本小児外科学会学術集会, 東京, H25年5月30日
4. 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 望月智弘, 鮫島由友: 当院における外科的疾患を伴った13, 18rtisomy症候群の検討, 第50回日本小児外科学会学術集会, 東京, 平成25年5月30日
5. 鮫島由友, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 増古賢太郎, 望月智弘: 出血を主訴とした Meckel 憩室7例の検討. 第50回日本小児外科学会学術集会, 東京, 平成25年5月31日
6. 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 望月智弘, 鮫島由友: wound retractor を用いて臍部小切開で手術を行った6例, 第38回日本外科系連合学会, 東京, 平成25年6月6日.
7. 鮫島由友, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 増古賢太郎, 望月智弘, 杉山政則¹, 正木忠彦¹, 鈴木裕¹ (¹杏林大・医・消化器外科): 早期に Vater 乳頭部癌を生じた家族性大腸腺腫症の1症例. 第38回外科系連合学会学術集会, 東京, 平成25年6月6日
8. 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 望月智弘, 鮫島由友: 停留精巣に合併した精巣捻転症の2例, 第27回日本小児救急医学会学術集会, 沖縄, 平成25年6月14日
9. 浮山越史 (ワークショップ): 急性腹症における超音波検査の pitfall. 第27回日本小児救急医学会学術集会, 沖縄, 2013平成25年6月14日
10. 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 望月智弘, 鮫島由

友: 当院における新生児壊死性腸炎穿孔と新生児限局性腸管穿孔症例の検討, 第49回日本周産期・新生児医学会学術集会, 横浜, 平成25年7月14日

11. 望月智弘, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 谷垣伸治, 岩下光利: 当院における小児外科的疾患での出生前診断の診断率. 第49回日本周産期・新生児医学会学術集会, 横浜, H25年7月15日
12. 望月智弘, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 鮫島由友: 腸回転異常を伴わない小腸捻転症の2例. 第48回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 水戸, H25年10月12日
13. 鮫島由友, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 望月智弘: 腸間膜裂孔ヘルニアにより絞扼性イレウスを発症した新生児の1例. 第48回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 水戸, 平成25年10月12日
14. 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史: 当科における術後イレウス症例の検討, 第75回日本臨床外科学会総会, 名古屋, 平成25年11月21日
15. 浮山越史 (セミナー): 小児救急における超音波検査. 第4回神戸ルミナリエ教育セミナー, 神戸, 平成25年12月7日
16. 望月智弘, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 鮫島由友: DICを初発症状として診断された先天性胆道拡張症の1例. 第832回外科集談会, 東京, H26年3月8日

論 文

1. 浮山越史, 葦澤融司, 渡邊佳子, 増古賢太郎, 望月智弘, 鮫島由友: 【特集 この症状の診断と次の一手】乳児の下血小児外科 45: 187-191, 2013.
2. 浮山越史, 葦澤融司, 渡邊佳子, 増古賢太郎, 望月智弘, 鮫島由友: 【特集 スーパー研修医になる: その心得と到達目標】全身管理におけるモニターの読み方. 小児外科 45: 291-295, 2013.
3. 浮山越史, 葦澤融司, 渡邊佳子, 望月智弘, 鮫島由友: 【特集 小児外傷性臓器損傷の治療戦略と手術のポイント】肝・胆道損傷の治療戦略と手術のポイント小児外科 45: 983-989, 2013.
4. 葦澤融司: 小児の外科的悪性腫瘍. 杏林医学会誌 44-4: 149-152, 2013.

著 書

1. 浮山越史 (編集, 分担執筆) 胸部外傷, 腹部外傷, 急性腹症, FAST 小児救急・蘇生学の理論と実践 (梅原実, 渡部誠一, 櫻井淑男, 村田佑二, 有吉孝一, 浮山越史編) 編集室なるにあ, 東京, 100-110, 125-129, 193-195, 2013.
2. 葦澤融司 (分担執筆) 消化管穿孔に対する治療戦略. 低出生体重児の外科. (窪田昭男 編集), 永井書店, 東京, 136-141, 2013.
3. 葦澤融司 (分担執筆) 小児科 あなむね (安田幸雄 編集) 医学評論社, 東京, 229, 236-237, 246-249, 254-255, 2013.

救急医学教室

口 演

1. 加藤聡一郎, 川崎磨美¹, 浅井精一¹, 早川達也¹
(¹聖隷三方原病院): ドクターヘリで対応した外傷症例の検討～浜松宇方式の現状, 限界と新たな取り組み～. 第27回日本外傷学会・学術集会, 久留米, 平成25年5月23日.
2. 濱田尚一郎, 海田賢彦, 山田賢治, 山口芳裕: 自宅退院が可能となった3度85%広範囲熱傷の一例. 第39回日本熱傷学会総会・学術集会, 名護, 平成25年6月6日.
3. 海田賢彦, 宮国泰彦, 樽井武彦, 小泉健雄, 山田賢治, 山口芳裕: 重症熱傷患者における鎮静鎮痛管理の現状と課題. 第39回日本熱傷学会総会・学術集会, 名護, 平成25年6月7日.
4. 山口芳裕: 非臨床・臨床試験結果は, ヒト急性中毒をどこまで担保できるかーヒトの急性中毒でみられる症状と非臨床・臨床試験結果との整合性ー. 第40回日本毒性学会学術年会, 幕張, 平成25年6月18日.
5. 加藤聡一郎: OPLL に多発椎体骨折を伴った頸髄損傷に対して後頭骨胸椎後方固定を行い早期リハビリと機能改善を得た1例. 第39回日本骨折治療学会, 久留米, 平成25年6月28日.
6. Yamaguchi Y: L'organisation de la médecine de catastrophe au Japon. 日仏医学コロック2013日本とフランスにおける外傷(トラウマ), France, Jun 28.2013.
7. 山口芳裕: N 災害に対する東京都の取り組み. 第16回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 東京, 平成25年7月13日.
8. 五十嵐昂, 松田岳人, 玉田尚, 宮内洋, 山田賢治, 松田剛明, 山口芳裕: 骨盤骨折を伴わない腰動脈損傷から出血性ショックを呈した2例. 第16回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 東京, 平成25年7月13日.
9. 樽井武彦, 宮国泰彦, 海田賢彦, 玉田尚, 松田岳人, 宮内洋, 山田賢治, 松田剛明, 山口芳裕: 三次救急搬送された脱法ハーブ中毒ーその身体的・社会的インパクト. 第35回日本中毒学会総会・学術集会, 大阪, 平成25年7月20日.
10. 大畑徹也, 星亨¹, 丸野秀人², 樽井武彦, 山口芳裕, 市村正一² (¹東大和病院, ²杏林大学医学部整形外科): 骨盤輪骨折を伴う多発外傷における予後予測因子の検討(血清乳酸値を中心に). 第62回東日本整形災害外科学会, 軽井沢, 平成25年8月20日.
11. 樽井武彦, 山田賢治, 松田剛明, 山口芳裕: 重症敗血症の生存率向上を目指す三段式初期治療の提案～開始時の病態認識, 定量指標に基づく初期蘇生, 治療後の受傷度判定～. 第41回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 平成25年10月21日.
12. 吉川慧, 樽井武彦, 濱田尚一郎, 守永広征, 加藤聡一郎, 玉田尚, 宮内洋, 山田賢治, 山口芳裕: LD50は本当に有用か?～薬物過量服用患者の予後との関係から～. 第41回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 平成25年10月21日.
13. 功刀主税, 樽井武彦, 五十嵐昂, 大田原正幸, 大畑徹也, 松田岳人, 山田賢治, 松田剛明, 山口芳裕: 全身性に動脈瘤破裂を繰り返した線維筋性異形成の一例. 第41回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 平成25年10月22日.
14. 坂本学映, 樽井武彦, 荻野聡之, 宮国泰彦, 海田賢彦, 山田賢治, 山口芳裕: 治療抵抗性低血圧に対して血液浄化療法が奏功した降圧薬大量服用の一救命例. 第41回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 平成25年10月22日.
15. Yamada K, Matsuda T, Kaita Y, Tamada N, Miyauchi H, Tarui T, Matsuda T, Shimazaki S, Yamaguchi Y: Two adult cases of sepsis-associated purpura fulminans. The 7th Asian Conference on Emergency Medicine, Tokyo, Oct 22.2013.
16. 山口芳裕: 今後の救急救命士の教育のあり方～教育体制の課題と指導的立場の救命士の役割～. 第22回全国救急隊シンポジウム, 北九州, 平成26年1月31日.
17. 佐藤勇太¹, 山田賢治, 八木橋敏, 樽井武彦, 山口芳裕 (¹東京消防庁): 三次搬送後に治療差し控えとなった症例に関する検討. 第51回救急隊員学術研究会, 横浜, 平成26年2月1日.
18. 加藤聡一郎, 山田賢治, 宮内洋, 山口芳裕: 当院で実施したNBC災害訓練と受講者の訓練効果・心理的変化等に関する検証. 第19回日本集団災害医学会・学術集会, 東京, 平成26年2月25日.
19. 加藤聡一郎, 山田賢治, 宮内洋, 山口芳裕: 大規模災害時の防災ヘリによる航空医療搬送にはメディカルコントロールスタッフとしてのフライトドクター参画が不可欠. 第19回日本集団災害医学会・学術集会, 東京, 平成26年2月25日.
20. 加藤聡一郎, 大田原正幸, 守永広征, 宮国泰彦, 海田賢彦, 玉田尚, 松田岳人, 宮内洋, 山田賢治, 山口芳裕: 当院で過去5年間に施行された心肺停止蘇生後患者に対する低体温療法の検討. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 平成26年2月27日.
21. 海田賢彦, 玉田尚, 宮内洋, 山田賢治, 山口芳裕: 広範囲熱傷における抗真菌薬の選択について. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 平成26年3月1日.
22. 吉川慧, 海田賢彦, 玉田尚, 宮内洋, 樽井武彦, 山田賢治, 山口芳裕: 重症熱傷の治療経過中に悪性症候群を合併した1例. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 平成26年3月1日.
23. 五十嵐昂, 海田賢彦, 玉田尚, 宮内洋, 樽井武彦, 山田賢治, 山口芳裕: 当高度救命救急センターにおける食物に起因するアナフィラキシーショックの検討. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 平成26年3月1日.
24. 宮内洋, 五十嵐昂, 宮国泰彦, 海田賢彦, 玉田尚, 松田岳人, 樽井武彦, 山田賢治, 山口芳裕: 過去5年における当高度救命救急センターに救命対応となったアナフィラキシーの検討. 第41回日本集中治

療医学会学術集会, 京都, 平成26年3月1日.

25. 加藤聡一郎, 大畑徹也, 工藤文孝¹, 山岸賢一郎¹, 星亨¹ (東大和病院): 創外固定器を definitive fixator として用いた下肢重度解放骨折の検討. 第27回日本創外固定・骨延長学会, 千里, 平成26年3月7日.

論文

1. 樽井武彦, 山口芳裕: 炭酸水素ナトリウム. 救急医 37: 564-567, 2013.
2. 樽井武彦, 山口芳裕: 外傷. 臨床外科 68: 561-563, 2013.
3. 日本救急医学会 Sepsis Registry 特別委員会 (樽井武彦¹, 山口芳裕, 鈴木幸一郎, 鶴田良介, 丸藤哲, 荒木恒敏, 池田弘人, 小倉裕司, 久志本成樹, 小谷穰治, 齋藤大蔵, 白石振一郎, 鈴木泰, 田熊清継, 武山直志, 藤島清太郎, 真弓俊彦, 三木靖雄, 山下典雄, 相川直樹 (同特別委員会支援委員)): 日本救急医学会 Sepsis Registry 特別委員会報告. 日本救急医学会誌 24: 247-319. 2103.
4. 樽井武彦, 山口芳裕: Fluid therapy. 救急医 37: 1462-1466, 2013.
5. 大田原正幸, 山口芳裕: 急性肝不全. 救急医 37: 1763-1766, 2013.
6. 守永広征, 山口芳裕: 救急医療現場の臨床医からの要望. 医療と検査機器・試薬 36: 761-764, 2013
7. 吉川慧, 松田剛明: 熱傷の外來診療 142. : 1792-1793, 2013.
8. 加藤聡一郎, 山口芳裕, 大畑徹也, 星亨², 丸野秀人¹, 市村正一¹ (杏林大・医・整形外科, ²東大和病院・整形外科): 高エネルギー外傷における大腿骨骨幹部骨折の治療成績. 骨折 35: 696-699, 2013.
9. 松田兼一¹, 平澤博之¹, 織田成人¹, 浅井康文¹, 石坂彰敏¹, 遠藤重厚¹, 小谷穰治¹, 坂本照夫¹, 志馬伸郎¹, 丹正勝久¹, 山口芳裕, 横田裕行¹ (日本救急医学会): 重症敗血症/敗血症性ショック症例に対する免疫調節経腸栄養剤の有用性. 日本集中治療医学会誌 21: 155-163, 2013.
10. 中島幹男¹, 山口芳裕 (東京都立広尾病院・救命救急センター): 強制呼吸のすすめ. Mod Physician 34: 340-340, 2014.
11. 中島幹男¹, 山口芳裕 (東京都立広尾病院・救命センター): 吸入指導のススメ. Mod Physician 34: 341-341, 2014.

著書

1. 海田賢彦, 山口芳裕: 熱傷初期診療 (ABLS). 熱傷治療マニュアル 改訂2版. 田中裕編集. 東京, 中外医学社, p.89-93.
2. 山口芳裕: 防災基本計画, 防災業務計画. 救急用語辞典. 坂本哲也, 畑中哲生編集. 東京, ぱーそん書房, p.921-922.
3. 山口芳裕: NDMS response teams. 救急用語辞典. 坂本哲也, 畑中哲生編集. 東京, ぱーそん書房, p.1080.
4. 守永広征, 山口芳裕: ショックと循環管理. 救急・集中治療医学レビュー2014. 島崎修次, 前川剛志監

修/岡元和文, 横田裕行編集. 東京, 総合医学社, p.82-87.

その他

1. 山口芳裕: 「オトナへのトビラ TV」熱中症予防のポイントについて解説, NHK E テレ, 平成25年7月25日.
2. 山口芳裕: 「やじうまテレビ!」低体温, 過換気症候群についてコメント, テレビ朝日, 平成25年7月29日.
3. 山口芳裕: 「ゲリラ豪雨」低体温症についての対処方法, 朝日小学生新聞, 平成25年8月8日.
4. 山口芳裕: 「みのもんたの朝ズバッ!」小児の遊具による熱傷について解説, TBS, 平成25年8月16日.
5. 山口芳裕: 「モーニングバード!」京都福知山で起きた花火大会で露天商の屋台が爆発した事故の熱傷について解説, テレビ朝日, 平成25年8月19日.
6. 山口芳裕: 「評論」国家安全保障会議 (日本版 NSC) 創設にあたっては, 医療の備え重視を, 秋田さきがけ, 中国, 長崎, 山梨日日, 高知, 山形新聞ほか, 平成25年10月30日~11月7日.

脳神経外科学教室

口演

1. Nagane M, Nitta Y¹, Shimizu S, Shishido-Hara Y², Shiokawa Y. (Department of Neurosurgery, Kugayama Hospital,³Department of Pathology, Kyorin University Faculty of Medicine.) Anti-EGFR monoclonal antibody nimotuzumab enhances temozolomide-induced growth suppression of mutant EGFR expressing glioma xenografts. American Association for Cancer research, Washington, Apl6-10, 2013.
2. 塩川芳昭: 手術シミュレーション 開頭メイフィールドシステム. 第22回脳神経外科手術と機器学会, 長野, 2013年4月12日.
3. 脊山英徳, 鳥居正剛, 田中雅樹, 佐藤栄志, 塩川芳昭: 左鎖骨下動脈起始部閉塞を伴う腕頭動脈高度狭窄に対する左総頸動脈-右総頸動脈バイパス術の1例. 第22回脳神経外科手術と機器学会, 長野, 2013年4月13日.
4. 横矢重臣, 田中雅樹, 島田大輔, 畑中良, 河合拓也, 野口明男, 塩川芳昭: 当院における外科治療を施行した急性硬膜下血腫の転帰・予後の検討. 第47回多摩脳神経外科懇話会, 多摩, 2013年4月18日.
5. 永根基雄: 悪性脳腫瘍の化学療法 up-to-date. 第3回長崎脳腫瘍研究会, 長崎, 2013年4月22日.
6. 永根基雄: 転移性脳腫瘍の病態と治療について. 城北肺癌治療セミナー, 東京, 2013年4月24日.
7. 永根基雄: 転移性脳腫瘍の病態と治療. がん研有明病院化学療法カンファレンス, 東京, 2013年5月8日.
8. 永根基雄: Glioma に対する治療—初発膠芽腫に対する Upfront Bevacizumab のランダム化比較試験結果. 第26回東京脳腫瘍治療懇話会, 東京, 2013年6月28日.

9. 永根基雄: Glioma の遺伝子異常と治療成績. 第31回日本脳腫瘍病理学会, 東京, 2013年5月2日.
10. 小林啓一, 宍戸-原由紀子, 河合拓也, 吉田裕毅, 福島慎太郎, 野口明男, 市村幸一, 菅間博, 塩川芳昭, 永根基雄: 若年左頭頂葉 oligodendroglioma の生物学的, 免疫組織学的特徴. 第31回日本脳腫瘍病理学会, 東京, 2013年5月24日.
11. 丸山啓介, 野口明男, 五明美穂, 宮崎功, 小柳正道, 土屋一洋, 塩川芳昭: 頭蓋底手術支援のための多種の術前・術中画像使用の刷新. 第25回日本頭蓋底外科学会, 名古屋, 2013年6月26日.
12. 塩川芳昭: 脳卒中と自動車等の運転との関係について. 関東管区警察学校運転適性相談専科, 多摩, 2013年7月2日.
13. 永根基雄: 転移性脳腫瘍の病態と治療について. 肺がん治療カンファレンス, 東京, 2013年7月2日.
14. 小林啓一, 宍戸-原由紀子, 横矢重臣, 阿部泰明, 塩川芳昭, 菅間博, 永根基雄: 左前頭葉 Low grade glioma の再発例. 第110回東京脳腫瘍研究会, 東京, 2013年7月6日.
15. 永根基雄, 小林啓一, 宍戸-原由紀子, 河合拓也, 吉田裕毅, 福島慎太郎, 野口明男, 市村幸一, 菅間博, 塩川芳昭: 左頭頂葉 oligodendroglioma と診断された若年例の病理遺伝子学的特徴. 第19回文京脳腫瘍研究会, 東京, 2013年7月8日.
16. 永根基雄: 悪性神経膠腫に対する Bevacizumab 療法. Tokyo Oncology Seminar 2013, 東京, 2013年7月11日.
17. 佐藤栄志, 小西善史, 小松原弘一郎, 塩川芳昭: コイル塞栓術後の破裂脳動脈瘤に対する再治療の1例. 第28回東京脳血管内治療研究会, 東京, 2013年7月13日.
18. 永根基雄: 悪性神経膠腫に対する Bevacizumab 療法～臨床試験レビュー. 中外 e セミナー on Brain Tumor, 東京, 2013年7月18日.
19. 横矢重臣, 小林啓一, 阿部泰明, 野口明男, 塩川芳昭, 永根基雄: 再発膠芽腫における再摘出術の役割と有用性. 第45回ニューロ・オンコロジーの会, 東京, 2013年7月28日.
20. 小林啓一, 野口明男, 横矢重臣, 小松原弘一郎, 脊山英徳, 田中雅樹, 佐藤栄志, 永根基雄, 塩川芳昭: 当科における glioma 手術のテクニックと周術期 予測し得なかった脳血管攣縮による脳梗塞を併発した痛恨の glioma 手術の一例. 第6回南十字星脳神経外科カンファレンス, 札幌, 2013年8月24日.
21. 佐藤研隆, 井上智弘, 塩川芳昭: より安全かつ確実に CEA を行うために. 第6回南十字星脳神経外科カンファレンス, 札幌, 2013年8月24日.
22. Okamura K, Tsubokawa T, Johshita H, Miyazaki H, Shiokawa Y. (¹Department of Neurosurgery, Saimta Cardiovascular and Respiratory Center, ²Department of Neurosurgery Kugayama Hospital): Experimental hemorrhagic infarction in the edaravone-treated hyperglycemic rat brain, Electron microscopic studies of microvasculature. Asia Pacific Stroke Conference, 30 August - 01 September, Hong Kong, 2013.
23. 永根基雄: 悪性神経膠腫に対する治療の最前線. 福島脳腫瘍学術講演会, 福島, 2013年9月5日.
24. 脊山英徳: 病態から SCU (脳卒中ケアユニット) まで. 生命科学研究所 脳卒中マスター講座, 東京, 2013年9月7日.
25. 阿部光世, 鈴木亜希子, 蛭沢志織, 道又元裕, 脊山英徳, 塩川芳昭: 病室における臭気対策の検討～排気吸引・気流制御装置設置による臭気対策の効果～. 第40回日本脳神経看護研究学会, 岐阜, 2013年9月13日.
26. 丸山啓介, 野口明男, 塩川芳昭: 術前・術中画像ツールを駆使した安全な脳腫瘍の手術. 第18回日本脳腫瘍の外科学会, 大津, 2013年9月19日.
27. 永根基雄: 悪性神経膠腫に対する Bevacizumab 療法. アバスタチン適応拡大講演会～悪性神経膠腫の今後の治療を考える～, 横浜, 2013年9月25日.
28. 永根基雄: 悪性神経膠腫における Bevacizumab 療法 ～有効性と課題～. HANSHIN Neuro-Oncology Seminar, 大阪, 2013年9月27日.
29. 横矢重臣, 小林啓一, 阿部泰明, 野口明男, 塩川芳昭, 永根基雄: 再発膠芽腫における再摘出術の役割と有用性. 第18回日本脳腫瘍の外科学会, 滋賀, 2013年9月20日.
30. 岡田啓, 丸山啓介, 島田大輔, 吉田裕毅, 横矢重臣, 田中雅樹, 脊山英徳, 野口明男, 塩川芳昭: 3つのイベントを起こした海綿静脈洞部血栓化巨大内頸動脈瘤の1例. 第121回日本脳神経外科学会関東支部会, 東京, 2013年9月28日.
31. 脊山英徳: 脳卒中センターにおける抗血小板療法の実際. 多摩 ATIS 講演会, 多摩, 2013年9月30日.
32. 永根基雄: 転移性脳腫瘍に対する治療戦略. 脳腫瘍アップデート, 松山, 2013年10月2日.
33. 佐々木重嘉, 脊山英徳: 頸動脈病変に対する CEA と CAS の相補的な使い分け. 第34回多摩地区脳卒中研究会, 東京, 2013年10月4日.
34. 永根基雄: 新規抗がん剤の適正使用. 第20回多摩脳腫瘍研究会, 多摩, 2013年10月5日.
35. 永根基雄, 小林啓一, 横矢重臣, 塩川芳昭: 膠芽腫に対するベバシズマブ・テモゾロミドによる免疫化学療法の効果と問題点. 第72回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2013年10月16日.
36. 鳥居正剛, 田村晃, 齋藤勇, 河野拓司, 岡部慎一, 塩川芳昭: 定量化した QOL 変化から検討した脳ドックのあり方. 第72回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2013年10月16日.
37. 末松慎也, 岡村耕一, 脊山英徳, 岡野晴子¹, 傳法倫久¹, 山田深², 塩川芳昭 (杏林大学 ¹神経内科, ²リハビリテーション教室): 当施設における脳梗塞発症後3～4.5時間の t-PA 治療成績の検討. 第72回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2013年10月16日.
38. 岡田啓, 脊山英徳, 鳥居正剛, 岡村耕一, 清水淑恵, 末松慎也, 佐々木重嘉, 塩川芳昭: 無侵襲混合血酸素飽和度監視システム (INVOS) の使用経験 CEA

- 周術期において. 第72回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2013年10月16日.
39. 丸山啓介, 末松慎也, 野口明男, 五明美穂, 宮崎功, 小柳正道, 塩川芳昭: 頭蓋底腫瘍に対する術前・術中ツールを駆使した手術戦略. 第72回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2013年10月16日.
 40. 岡村耕一, 坪川民治, 城下博夫, 塩川芳昭, 轉石小百合, 松原幸枝, 宮東昭彦, 川上速人: グラボンによる出血性脳梗塞の抑制, 高血糖ラットモデルを用いた実験的検討, 電子顕微鏡による観察. 第72回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2013年10月16日.
 41. 熊切敦, 原田洋一, 伏原豪司, 林基高, 宇都宮利史, 山下圭一, 金子伸幸, 河野拓司, 塩川芳昭: 特発性頭蓋外頸動脈解離4症例の検討. 第72回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2013年10月16日.
 42. 田中雅樹, 丸山啓介, 塩川芳昭: Free software DICOM viewer を用いた外傷性頭蓋内血腫画像の検討. 第72回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2013年10月16日.
 43. 佐々木重嘉, 福田信, 丸山啓介, 野口明男, 塩川芳昭: V-P シェント感染予防プロトコール導入後の効果. 第72回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2013年10月16日.
 44. 佐藤研隆, 井上智弘, 塩川芳昭: より安全かつ確実にCEAを行うために-見習いから初心者へ-. 第72回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2013年10月16日.
 45. 小松原弘一郎, 佐藤栄志, 脊山英徳, 野口明男, 小西善史, 塩川芳昭: 当院における急性期脳主幹動脈閉塞に対する血行再建療法の現状. 第72回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2013年10月17日.
 46. 野口明男, 脊山英徳, 佐藤栄志, 小西善史, 山口竜一, 栗田浩樹, 塩川芳昭: 巨大血栓化動脈瘤の現状と課題. 第72回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2013年10月16-18日.
 47. 永根基雄, JCOG 脳腫瘍グループ: 神経膠腫に対する標準治療とJCOG 脳腫瘍グループによる多施設共同臨床試験. 第72回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2013年10月17日.
 48. 小林啓一, 永根基雄, 高山信之, 塩川芳昭: 初発および再発中枢神経系原発悪性リンパ腫に対する多剤併用免疫化学療法の治療効果. 第72回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2013年10月17日.
 49. 佐藤栄志, 小西善史¹, 島田篤², 小松原弘一郎, 脊山英徳, 野口明男, 塩川芳昭 (¹西湘病院脳神経外科, ²佐々総合病院脳神経外科): スtent 支援下脳動脈瘤塞栓術の初期・中期治療成績: 特に虚血性合併症について. 第72回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2013年10月18日.
 50. 脊山英徳, 傳法倫久, 山田深, 岡村耕一, 佐藤栄志, 小西善史, 塩川芳昭: 同一チームによる頸動脈狭窄症連続198例の治療成績. 第72回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2013年10月18日.
 51. 山口竜一, 野口明男, 丸山啓介, 田中雅樹, 横矢重臣, 佐藤栄志, 小西善史, 塩川芳昭: 当院における未破裂脳動脈瘤診療の実態. 第72回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2013年10月18日.
 52. 阿部泰明, 横矢重臣, 小林啓一, 野口明男, 塩川芳昭, 永根基雄: 再発膠芽腫におけるメチオニンPETとその他術前画像検査の有用性の比較. 第72回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2013年10月18日.
 53. 横矢重臣, 小林啓一, 阿部泰明, 野口明男, 塩川芳昭, 永根基雄: 再発膠芽腫における再摘出術の役割と有用性. 第72回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2013年10月18日.
 54. 島田大輔, 高井敬介, 谷口真: Spinal subependymoma の画像検討. 第72回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2013年10月18日.
 55. 永根基雄, 小林啓一, 高山信之, 塩川芳昭: 初発中枢神経系原発悪性リンパ腫に対する多剤併用免疫化学療法 (R-MPV-A) の治療効果. 第51回日本癌治療学会, 京都, 2013年10月26日.
 56. Sasaki N, Seyama, H, Yamagishi Y, Torii M, Dembo T, Yamada S, Okamura K, Sato E, Konishi Y, Shiokawa Y: Overall results of 198 treated cases of carotid artery stenosis by the single team. The 6th Korea-Japan joint stroke conference, Osaka, Nov 5 2013.
 57. 横矢重臣, 小林啓一, 阿部泰明, 野口明男, 塩川芳昭, 永根基雄: 当科における神経膠腫に対する機能温存を考慮した腫瘍摘出の現状とピットフォール. 第48回多摩脳神経外科懇話会, 多摩, 2013年11月7日.
 58. 丸山啓介, 山口竜一, 野口明男, 塩川芳昭: 経鼻経蝶形骨アプローチにおける内視鏡の役割の最適化. 第20回日本神経内視鏡学会, 山梨, 2013年11月7日.
 59. 山口竜一, 丸山啓介, 小林啓一, 野口明男, 永根基雄, 塩川芳昭: 第3脳室底開窓術の治療成績. 第20回日本神経内視鏡学会, 山梨, 2013年11月8日.
 60. 永根基雄: 悪性脳腫瘍治療の現状と展望. 第8回岐阜脳腫瘍研究会, 岐阜, 2013年11月9日.
 61. 永根基雄, 小林啓一: 5-ALA を用いた術中蛍光診断の限界と対策. 悪性神経膠腫の診断と治療 Up to date. 千代田区, 東京, 2013年11月14日.
 62. 岡田啓, 脊山英徳, 島居正剛, 岡村耕一, 清水淑恵, 末松慎也, 佐々木重嘉, 塩川芳昭: 無侵襲混合血酸素飽和度監視システム (INVOS) の使用経験 CEA 周術期において. 第42回杏林医学会総会, 多摩, 2013年11月16日.
 63. 佐々木重嘉, 福田信, 丸山啓介, 野口明男, 塩川芳昭: V-P シェント感染予防プロトコール導入後の効果. 第42回杏林医学会総会, 多摩, 2013年11月16日.
 64. Nagane M, Kobayashi K, Takayama N, Shiokawa Y: Multidrug immunochemotherapy (RMPVA) for newly diagnosed and recurrent primary central nervous system lymphomas. the 4th Quadrennial Meeting of the World Federation of Neuro-Oncology San Francisco, 2013 Nov 22.
 65. 佐藤栄志, 小西善史, 島田篤, 林基高, 小松原弘一郎, 笹森寛生, 脊山英徳, 清水淑恵, 塩川芳昭: スtent 支援下脳動脈瘤塞栓術の初期・中期治療成績: 特

- に虚血性合併症について. 第29回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 新潟, 2013年11月22日.
66. 佐々木重嘉, 山口竜一, 小松原弘一郎, 小林啓一, 原由紀子, 野口明男, 菅間博¹, 塩川芳昭, 永根基雄: 脳室内腫瘍が疑われた神経サルコイドーシスの1例. 第122回日本脳神経外科学会関東支部会, 東京, 3年12月7日.
 67. 佐藤栄志: Neuroform EZ の臨床経験と有用性~快心の一撃とテクニカルチップス~~安全に使用するためのポイント. 第29回日本脳神経血管内治療学会総会・ティーチングセミナー7, 新潟, 2013年11月23日.
 68. 小林啓一: 初発および再発中枢神経系原発悪性リンパ腫に対する多剤併用免疫化学療法の治療効果. 第31回日本脳腫瘍学会学術集会, 宮崎, 2013年12月8日.
 69. 横矢重臣, 小林啓一, 阿部泰明, 野口明男, 塩川芳昭, 永根基雄: 再発膠芽腫における再摘出術の役割と有用性. 第31回日本脳腫瘍学会, 宮崎, 2013年12月8日.
 70. 永根基雄, 小林啓一, 横矢重臣, 塩川芳昭: 膠芽腫に対するベバシズマブ・テモゾロミドによる免疫化学療法の効果と問題点. 第31回日本脳腫瘍学会, 宮崎, 2013年12月9日.
 71. 永根基雄: 5-ALA による光線力学診断と適正使用. 第31回日本脳腫瘍学会学術集会, 宮崎市, 2013年12月9日.
 72. 末松慎也, 田中雅樹, 丸山啓介, 塩川芳昭: Free software DICOM viewer を用いた外傷性頭蓋内血腫画像の検討. 第19回日本脳神経外科救急学会, 富山, 2014年1月11日.
 73. 末松慎也, 田中雅樹, 丸山啓介, 塩川芳昭: 脳神経外傷の画像診断. 第37回日本脳神経外傷学会, 多摩, 2014年3月7日.
 74. 佐藤栄志, 小西善史, 島田篤, 林基高, 小松原弘一郎, 笹森寛生, 脊山英徳, 清水淑恵, 塩川芳昭: ステント支援下脳動脈瘤塞栓術の初期・中期治療成績: 特に虚血性合併症について. 第43回日本脳卒中の外科学会学術集会, 大阪, 2014年3月13日.
 75. 脊山英徳, 傳法倫久¹, 山田深, 小松原弘一郎, 佐藤栄志, 小西善史, 塩川芳昭: rt-PA 静注療法連続255例の治療成績. 第39回日本脳卒中学会総会, 大阪, 2014年3月13日.
 76. 横矢重臣, 小林啓一, 阿部泰明, 野口明男, 塩川芳昭, 永根基雄: 細胞外マトリックス分解酵素がプラーク不安定化に関与するかー病理組織学的解析による検討. 第39回日本脳卒中学会総会, 大阪, 2014年3月13日.
 77. 岡田啓, 脊山英徳, 鳥居正剛, 岡村耕一, 清水淑恵, 末松慎也, 佐々木重嘉, 塩川芳昭: CEA 周術期における INVOS の使用経験. 第39回日本脳卒中学会総会, 大阪, 2014年3月13日.
 78. 末松慎也, 丸山啓介, 田中雅樹, 野口明男, 佐藤栄志, 塩川芳昭: 静脈洞血栓症14例 診断を確定し得るまでの臨床, 画像所見の検討. 第39回日本脳卒中学会総会, 大阪, 2014年3月13日.
 79. 阿部泰明, 小松原弘一郎, 小林啓一, 野口明男, 脊山英徳, 佐藤栄志, 永根基雄, 塩川芳昭: 開頭腫瘍摘出後に脳血管攣縮を来した1例. 第30回スバズムシンポジウム, 大阪, 2014年3月13日.
 80. 丸山啓介, 末松慎也, 野口明男, 宮崎功, 木崎直人, 塩川芳昭: Eloquent area 血管奇形への術前シミュレーションを併用した集学的手術. 第43回日本脳卒中の外科学会学術集会, 大阪, 2014年3月14日.
 81. 岡村耕一, 脊山英徳, 岡野晴子, 傳法倫久, 山田深, 塩川芳昭: 急性期軽症脳梗塞の抗血小板療法. 第39回日本脳卒中学会総会, 大阪, 2014年3月14日.
 82. 田中雅樹, 丸山啓介, 塩川芳昭: Free software DICOM viewer を用いた脳内血腫画像の検討. 第39回日本脳卒中学会総会, 大阪, 2014年3月14日.
 83. 鳥居正剛, 山岸夢希, 岡田啓, 小松原弘一郎, 脊山英徳, 佐藤栄志, 塩川芳昭: 頸動脈内膜剥離術後発生した血管遮断鉗子による総頸動脈解離を認めた2症例ー遮断鉗子特性の検討を含めー. 第39回日本脳卒中学会総会, 大阪2014年3月14日.
 84. 熊切敦: 前下小脳動脈遠位部破裂脳動脈瘤によるくも膜下出血の一例. 第39回日本脳卒中学会総会, 大阪, 2014年3月14日.
 85. 鳥田大輔, 鳥居正剛, 脊山英徳, 塩川芳昭: 出血, 梗塞, 解離の3つのイベントを引き起こした真性多血症の1例. 第39回日本脳卒中学会総会, 大阪, 2014年3月14日.
 86. 山口竜一, 野口明男, 丸山啓介, 田中雅樹, 横矢重臣, 佐藤栄志, 小西善史, 塩川芳昭: 当院における未破裂脳動脈瘤診療の実態. 第39回日本脳卒中学会総会, 大阪, 2014年3月15日.
 87. 小松原弘一郎, 佐藤栄志, 脊山英徳, 野口明男, 小西善史, 塩川芳昭: 当院における急性期脳主幹動脈閉塞に対する血行再建療法の現状. 第39回日本脳卒中学会総会, 大阪, 2014年3月15日.
- 論 文**
1. Endo K, Kario K, Koga M, Nakagawara J, Shiokawa Y, Yamagami H, Furui E, Kimura K, Hasegawa Y, Okada Y, Okuda S, Namekawa M, Miyagi T, Osaki M, Minematsu K, Toyoda K. : Impact of early blood pressure variability on stroke outcomes after thrombolysis: the SAMURAI rt-PA Registry. Stroke. Mar ;44(3): 816-8, 2013.
 2. 塩川芳昭: 手術不能の脳動脈瘤とは. Clinical Neuroscience vol.31, No.4 : 461-462, 2013
 3. 塩川芳昭: 新たな視点からみた脳出血. 分子脳血管病 vol.12, No.3 : 1-2, 先端医学社, 2013年7月.
 4. Endo K, Koga M, Sakai N, Yamagami H, Furui E, Matsumoto Y, Shiokawa Y, Yoshimura S, Okada Y, Nakagawara J, Hyogo T, Hasegawa Y, Nagashima H, Fujinaka T, Hyodo A, Terada T, Toyoda K; Joint Research Group from JR-NET2 and SAMURAI Study Investigators : Stroke Outcomes of Japanese Patients With Major Cerebral Artery Occlusion in the Post-

- Alteplase, Pre-MERCI Era. *J Stroke Cerebrovasc Dis.* 2013 Aug; 22(6): 805-810.
5. 萬知子, 塩川芳昭, 森山潔, 東祐佳: 中心静脈カテーテル挿入に伴う機械的合併症に関連する因子の検討 - 杏林大学病院における5年間の中心静脈穿刺の後ろ向き観察研究. *臨床麻酔* vol.37.No.10: 1451-1457, 真興交易株式会社, 2013.
 6. Aoki J, Kimura K, Koga M, Kario K, Nakagawara J, Furui E, Shiokawa Y, Hasegawa Y, Okuda S, Yamagami H, Okada Y, Shibazaki K, Sakamoto Y, Toyoda K.: NIHSS-time score easily predicts outcomes in rt-PA patients: the SAMURAI rt-PA registry. *J Neurol Sci.* 15; 327(1-2): 6-11, 2013.
 7. 塩川芳昭: くも膜下出血. 今日の治療指針 私はこう治療している TODAY'S THERAPY vol.56: 836-839, 医学書院, 東京, 2014.
 8. Kobayashi J, Koga M, Tanaka E, Okada Y, Kimura K, Yamagami H, Okuda S, Hasegawa Y, Shiokawa Y, Furui E, Nakagawara J, Kario K, Okata T, Arihiro S, Sato S, Nagatsuka K, Minematsu K and Toyoda K: Continuous Antihypertensive Therapy Throughout the Initial 24 Hours of Intracerebral Hemorrhage: The Stroke Acute Management With Urgent Risk-Factor Assessment and Improvement Intracerebral Hemorrhage Study. *Stroke.* published online January 14, 2014.
 9. Nagane M, Kobayashi K, Tanaka M, Sato K, Tsuchiya K, Shishido-Hara Y, Shiokawa Y. Predictive value of mean apparent diffusion coefficient value for responsiveness of temozolomide-refractory malignant glioma to bevacizumab. *Int J Clin Oncol* DOI 10.1007/s10147-013-0517-x, 2013.
 10. 永根基雄: ニムスチン. In プロフェッショナルがんナーシング2013別冊. これだけは押さえておきたいがん化学療法の薬. 古瀬純司 (編); 100-101, メディカ出版, 大阪, 2013.
 11. 永根基雄: グリオーマのアバスチン療法. *Clinical Neuroscience* 31 (10): 1182-1184, 2013
 12. 永根基雄: 転移性脳腫瘍. In 神経・精神疾患診療マニュアル. 飯森眞喜雄, 内山真一郎, 片山容一, 岸本年史, 水澤英洋 (編), 日本医師会雑誌 142 (特2): S181-182, 2013.
 13. Nagane M, Nishikawa R: Bevacizumab for glioblastoma – a promising drug or not? *Cancers* 5(4): 1456-1468, 2013; doi:10.3390/cancers5041456.
 14. 永根基雄: 悪性神経膠腫に対する抗血管新生療法と課題 (Anti-angiogenic therapy for malignant glioma) . 癌と化学療法 41 (2); 141-147, 2014.
 15. 永根基雄: 悪性神経膠腫 (Malignant glioma) . 希少疾患ライブラリー・ケアネット, on line, 2013. 12. 12公開, <http://www.carenet.com/report/library/general/rare/mg2.html>.
 16. 永根基雄: 神経膠腫の化学療法トピックス. In BRAIN 治療の最前線114: 6-7, 脳神経財団, 東京, 2014.
 17. 永根基雄: 膠芽腫 (Glioblastoma). In 神経症候群 III—その他の神経疾患を含めて— [第2版], 日本臨牀社, 東京, 日本臨牀 2014年6月別冊, 2014.
 18. Nagane M, Kobayashi K, Tanaka M, Tsuchiya K, Shishido-Hara Y, Shimizu S, Shiokawa Y: Predictive significance of mean apparent diffusion coefficient value for responsiveness of temozolomide-refractory malignant glioma to bevacizumab: preliminary report. *Int J Clin Oncol* 19; 16-23, 10.1007/s10147-013-0517-x, 2014
 19. 佐藤栄志: 脳動脈瘤に対する経カテーテル治療. 臨床画像別冊; 146-162, メディカルビュー, 2012.
 20. Maruyama K, Koga T¹, Niranjana A², Kondziolka D², Flickinger J C², Lunsford L D² (¹Department of Neurosurgery University of Tokyo², University of Pittsburgh Medical Center): Radiosurgery for Brainstem Arteriovenous Malformation. *Progress in neurological surgery* vol27; 67-72, Karger, 2013.
 21. Maruyama K, Kurita H¹, Yamaguchi R, Noguchi A, Shiokawa Y (¹Saitama Medical University International Medical Center) One-Stage Clipping of Bilateral Middle Cerebral Artery Aneurysms Via the Bilateral pterional keyhole Approach. *Neurologia Medico-Chirurgica* vol.53, No3; 148-152, 2013.
 22. Shibui S, Narita Y, Mizusawa J, Beppu T, Ogasawara K, Sawamura Y, Kobayashi K, Nishikawa R, Mishima K, Muragaki Y, Maruyama T, Kuratsu J, Nakamura H, Kochi M, Minamida Y, Yamaki T, Kumabe T, Tominaga T, Koyama T, Sakurada K, Nagane M, Kobayashi K, Nakamura H, Ito T, Yazaki T, Sasaki H, Tanaka K, Takahashi H, Asai A, Todo T, Wakabayashi T, Takahashi J, Takano S, Fujimaki T, Sumi M, Miyakita Y, Nakazato Y, Sato A, Fukuda H, Nomura K: Randomized trial of chemoradiotherapy and adjuvant chemotherapy with nimustine (ACNU) versus nimustine plus procarbazine for newly diagnosed anaplastic astrocytoma and glioblastoma (JCOG0305). *Cancer Chemother Pharmacol* 71: 511-521, 2013.
 23. 脊山英徳, 塩川芳昭: 脳動脈瘤, 解離性脳動脈瘤 (動脈解離). 日本臨牀新領域別症候群シリーズ No.26 神経症候群 (第2版) - その他の神経疾患を含めて - 1血管障害その他; 383-389, 2013.
 24. 脊山英徳, 塩川芳昭: 脳卒中急性期医療 - 大学脳卒中センターのあゆみ. 杏林医学会雑誌44巻4号別冊; 185-189, 2013.
 25. Okamura K, Tsubokawa T, Johshita H, Miyazaki H, Shiokawa Y. (¹Department of Neurosurgery, Saitama Cardiovascular and Respiratory Center, ²Department of Neurosurgery Kugayama Hospital): Edaravone, a free radical scavenger, attenuates cerebral infarction and hemorrhagic infarction in rats with hyperglycemia. *Neurological Reserch* Vol.36, No.1; 65-69, 2014.
- 著書**
1. 塩川芳昭: 神経・精神・運動器疾患 脳卒中, 脳出

- 血, 脳梗塞, クモ膜下出血, もやもや病. year note TOPICS 2013-2014内科・外科疾患3rd edition 研修医・非専門医でも知っておくべき近年と今後の主な動向; 289-295, MEDIC MEDIA, 東京, 2013.
2. 塩川芳昭: 脳ドック 死を招く脳卒中の兆候を発見し未然に防ぐ! 脳ドックの最新事情. 血管がぐんぐん若返る No.1自力療法; 42-46, マキノ出版, 東京, 2014年1月6日.
 3. 塩川芳昭: 脳動脈, 脳室およびくも膜下腔, 脊柱, 脊髄. 標準脳神経外科学第13版; 20-32, 医学書院, 東京, 2014.
 4. 塩川芳昭: 脳卒中(脳出血・脳梗塞・クモ膜下出血・もやもや病) year note TOPICS 2014-2015内科・外科疾患4th edition 研修医・非専門医でも知っておくべき近年と今後の主な動向; 307-311. メディックメディア, 東京, 2014.
 5. 野口明男: 6前頭側頭開頭において顔面神経側頭枝損傷を避ける工夫. 頭蓋顎顔面の骨固定 基本とバリエーション 脳神経外科医・形成外科医のための1stステップ; 217, 克誠堂出版株式会社, 東京, 2013.
 6. 野口明男: 頭蓋へのアプローチ 2・Orbitozygomatic craniotomy. 頭蓋顎顔面の骨固定 基本とバリエーション 脳神経外科医・形成外科医のための1stステップ; 62, 克誠堂出版株式会社, 東京, 2013.
 7. 小林啓一, 永根基雄: 髄芽腫. インフォームドコンセントのための図説シリーズ 脳腫瘍(寺本明編); 92-99, 医薬ジャーナル社, 大阪, 2013.
 8. 小林啓一: 脳腫瘍に対する治療とケアの最前線. クリティカルケアの実践力を磨く! 重症集中ケア2・3月号; 116-125, 日経研出版, 東京, 2013.
 9. 小林啓一, 永根基雄: 悪性神経腫瘍の薬物療法. 腫瘍内科11; 145-154, 科学評論社, 東京, 2013.
 10. 脊山英徳: 頸動脈内膜剥離術. BRAIN NURSING 春季増刊; 132-137, メディカ出版, 大阪, 2013.
 11. 脊山英徳, 塩川芳昭: くも膜下出血, もやもや病, 今日の治療と看護 改訂第3版; 718-724, 永井良三, 大田健(総編), 南江堂, 東京, 2013.
 12. 脊山英徳, 塩川芳昭: 治療の場としての SCU, 治療後の管理. 脳梗塞 rt-PA 静注療法実践ガイド; 77-84, 診断と治療社, 東京, 2013
 13. 脊山英徳: II 脳ドレーン 脳の解剖生理 - すべての基本はここから始まります!. 集中ケアナーシングのための急性・重症患者ケア vol2 No4 インシデント事例から学ぶ重症患者のドレーン管理 - 解剖生理・術式・目的・排液・ケアのすべてがわかる! - ; 772-778, 総合医学社, 東京, 2013.
 14. 脊山英徳: クモ膜下出血の術前「血圧を下げる」の根拠がわかる. BRAIN NURSING vol.29 No.6; 11-13, メディカ出版, 大阪, 2013.
 15. 脊山英徳: 体温管理 - 合併症, 廃用症候群を起さない! 脳神経外科急性疾患の術後全身管理. BRAIN NURSING vol.29 No.12; 20-23, メディカ出版, 大阪, 2013.
 16. 山口竜一, 塩川芳昭: クモ膜下出血の原因と危険因子. あなたも名医! 脳卒中と一過性脳虚血発作を見逃すな! 時間が決め手! 予防と治療の水際作戦 jmed mook25; 144-148, 日本医事新報社, 東京, 2013.
 17. 山口竜一, 塩川芳昭: 「中大脳動脈瘤のすべて」中大脳動脈瘤の疫学と特徴, 東京, メディカ出版, 2013.
 18. 田中雅樹, 永根基雄: 脳腫瘍 Brain tumor. In 今日の治療と看護 改訂第3版. 永井良三, 大田健(総編), 南江堂, 東京, 2013.
 19. 田中雅樹: 脳卒中看護とリハビリテーション - 急性期から - 在宅医療までのケアのすべて - 塩川芳昭, 岡島康友, 西山和利, 脊山英徳, 松本由美 編; 8-9, 総合医学社, 東京, 2013.
 20. 田中雅樹, 横矢重臣, 河合拓也, 山口竜一, 丸山啓介, 野口明男, 佐藤栄志, 小西善史, 塩川芳昭: 当院における破裂脳動脈瘤治療の現状と課題. 脳血管攣縮 vol.29, 脳卒中の外科学会機関誌. 第41巻増刊号, 2014.
 21. 佐々木重嘉: 脳卒中看護とリハビリテーション - 急性期から在宅医療までのケアのすべて - 塩川芳昭, 岡島康友, 西山和利, 脊山英徳, 松本由美 編; 44-50, 総合医学社, 東京, 2013.
- その他
1. 塩川芳昭: 取材記事 脳卒中を防ぐ 3つの生活改善策 & 早期発見法. 週刊朝日2月15日号; 40-43, 2013.
 2. 荻野美恵子, 豊田一則, 塩川芳昭, 田口博基: 座談会 国全体で脳卒中に立ち向かうにはどうしたらよいか? 内科 vol.111 No.5; 937-950, 南江堂, 東京, 2013.
 3. 塩川芳昭: 取材記事 脳卒中を知る!. いきいき 2013年7月号; 78-80, いきいき株式会社, 東京, 2013.
 4. 塩川芳昭: テレビ出演 くも膜下出血. チョイス @ 病気になったとき. NHK, NHK エデュケーショナル科学健康部, 2013年6月29日.
 5. 塩川芳昭, 他: 医療界と法曹界の相互理解のためのシンポジウム 第5回. 判例タイムズ No.1391; 48-88, 2013.
 6. 内山真一郎, 松本昌泰, 塩川芳昭, 鈴木倫保, 片山泰朗, 阿部康二: 座談会 脳卒中研究・臨床におけるトピックス2014. 分子脳血管病 vol.13 No.1; 1-8, 先端医学社, 2014.
 7. 塩川芳昭: DVD くも膜下出血. チョイス @ 病気になったとき. NHK, NHK エデュケーショナル科学健康部, 2014.
 8. 佐藤栄志: 指導医の声. 杏林大学医学部付属病院臨床研修(初期・後期)のご案内; 4, 杏林大学医学部付属病院総合研修センター, 2013.
 9. 佐藤栄志: 准教授就任挨拶. 杏林大学医学部同窓会誌 第69号; 11, 杏林大学医学部同窓会事務局, 2013年.

10. 佐藤栄志：脳血管内治療はどんどん進化している。それと一緒に自分も成長していきたい。杏林大学医学部付属病院ホームページ 当院のドクター紹介, 2013年7月30日。
11. 脊山英徳, 高橋秀寿¹ (杏林大学リハビリテーション科)：急性期治療と並行したリハビリテーションで, 自宅復帰・社会復帰を図る。NO！梗塞.net, 脳梗塞コラム第41回, 2013年4月22日。

心臓血管外科教室

口 演

1. Inaba Y, Noma M, Hidehito Endo H, Tsuchiya H, Yoshimoto A, Takahashi Y, Nishino Y, Tsuboi A, Kubota H : Off-pump versus on-pump beating at isolated coronary artery bypass grafting. The 21th Annual Meeting of the Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery, kobe, 6th Apr, 2013.
2. Noma M, Endo H, Tsuchiya H, Yoshimoto A, Takahashi Y, Inaba Y, Nishino Y, Tsuboi A, Kubota H: Continuous hemodiafiltration therapy after coronary artery bypass grafting applying to patients not depending on dialysis. The 21th Annual Meeting of the Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery, kobe, 6th Apr, 2013.
3. Ikezoe T: Pattern and Distribution of Isolated calf deep vein thrombosis. The 8th Korea-Japan Joint Meeting of Vascular Surgery, Seoul, April 26th, 2013.
4. 五月女恵一¹, 斎藤慶幸¹, 新崎あや乃¹, 小高哲郎¹, 長谷川小百合¹, 浅井聖子¹, 仲丸誠¹, 古川秋生¹, 宮崎洋史¹, 諸角強英¹, 永藤裕², 遠藤英仁, 窪田博 (1公立福生病院 外科, 2公立福生病院 耳鼻咽喉科)：甲状腺乳頭癌術後15年目に再発上縦隔リンパ節切除手術時, 右総頸動脈損傷を来たし血行再建した1例。第25回日本内分泌外科学会総会, 山形, 平成25年5月23日。
5. 遠藤英仁, 野間美緒, 土屋博司, 吉本明浩, 稲葉雄亮, 池添亨, 窪田博：破裂型下行および胸腹部大動脈瘤に対する緊急手術症例の検討。第41回日本血管外科学会学術総会, 大阪, 平成25年5月30日。
6. 池添亨, 布川雅雄, 根元洋光, 高橋直子, 細井温, 窪田博：孤立性上腸間膜動脈解離の18例。第41回日本血管外科学会学術総会, 大阪, 平成25年5月30日。
7. 野間美緒：心室細動から生還した成人型 Bland-White- Garland 症候群の2例。第50回日本小児外科学会, 東京, 平成25年6月1日。
8. 土屋博司, 窪田博, 野間美緒, 遠藤英仁, 稲葉雄亮, 池添亨, 西野純史, 坪井文香, 杉山政則¹ (杏林大学外科)：r-GEA を用いた CABG 術後に隣頭部十二指腸切除術を行った一例。第162回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 平成25年6月1日。
9. 細井温, 布川雅雄, 池添亨：術前スクリーニングで発見された無症候性下腿限局型深部静脈血栓症に関する検討。第33回日本静脈学会総会, 倉敷, 平成25年6月28日。
10. 窪田博：Proximal Anastomosis Using PAS・Port Device - A 700 Unit Experience -。第18回日本冠動脈外科学会 ランチョンセミナー, 福岡, 平成25年7月12日。
11. 布川雅雄, 牧野能久, 池添亨, 細井温, 窪田博：腎梗塞, 脾梗塞で発症した腹部大動脈内血栓の1例。第13科医血管外科アカデミー, 加賀, 平成25年8月24日。
12. 池添亨, 布川雅雄, 牧野能久, 細井温, 窪田博：解離性上腸膜動脈瘤の1例。第157回血管外科症例検討会, 川崎, 平成25年10月5日。
13. 窪田博, 野間美緒, 遠藤英仁, 土屋博司, 吉本明浩, 高橋雄, 稲葉雄亮：On-pump Beating 法を用いた CABG と術者の育成。第66回日本胸部外科学会定期学術総会, 仙台, 平成25年10月17日。
14. 遠藤英仁, 野間美緒, 土屋博司, 稲葉雄亮, 窪田博：急性 A 型大動脈解離に対する外科治療の早期成績とリスク因子に関する検討。第66回日本胸部外科学会定期学術集会, 仙台, 平成25年10月18日。
15. Hosoi Y, Nunokawa M, Ikezoe T, Makino Y, Kubota H : Distribution of asymptomatic calf vein thrombosis and perioperative thrombus recurrence. 14th Congress of Asian Society for Vascular Surgery, Turkey, Oct.29.2013.
16. 牧野能久, 池添亨, 細井温, 布川雅雄, 窪田博：異常第1肋骨を原因とする左鎖骨下動脈瘤・胸郭出口症候群の一例。第21回日本血管外科学会関東甲信越地方会, 東京, 平成25年11月9日。
17. 土屋博司：2013年杏林大学心臓血管外科年間手術症例報告。平成25年胸部外科報告会。東京, 平成25年12月21日。
18. Kubota H : How to treat the infected thoracic aortic prosthesis with esophageal perforation. BIT's 5th Annual International Congress of Cardiology, Rome Italy, Dec.4, 2013.
19. 遠藤英仁：脳保護効果に関する新しい指標を用いた逆行性脳灌流法の検討。第44回日本心臓血管外科学会総会。熊本, 平成26年2月21日。
20. 池添亨：血管内治療に難渋した一例。血管内治療セミナー in 松山, 松山, 平成26年2月27日。
21. 牧野能久, 遠藤英仁, 野間美緒, 土屋博司, 稲葉雄亮, 窪田博：右側大動脈弓及び左鎖骨下動脈起始異常を伴う Korn-merell 憩室破裂に対し大動脈 patch 形成・左鎖骨下動脈再建を施行した1例。第164回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 平成26年3月1日。
22. 高山真梨子, 稲葉雄亮, 野間美緒, 遠藤英仁, 土屋博司, 牧野能久, 窪田博：左房後壁より起始した巨大粘液種に対し腫瘍摘出術を施行した超高齢者の一例。第164回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 平成26年3月1日。
23. Tonari K : Effect of the therapy with adenosine and milrinone on experimental pulmonary hypertension. APPCS 2014 The 5th Congress of Asia Pacific Pediatric Cardiac Society. New Delhi, 8 Mar. 2014.

論文

1. Kubota H, Miyata H, Motomura N, Ono M, Takamoto S, Harii K, Norihiko Oura N, Hirabayashi S, Kyo S: Deep sternal wound infection after cardiac surgery. *Journal of Cardiothoracic Surgery*.8, MAY 20 2013

著書

1. 窪田博:『画像診断Q&A』. 胸部外科66(5), p.406-409.
2. Kubota H: Renal Failure: Prevention, Causes and Treatment (Chapter VII); Cardiac Swinging Calcified Amorphous Tumors (SCAT) and Stroke in End-Stage Renal Failure. "Renal Failure" Nova Science Publishers, June.2013..
3. 窪田博:「オープンステントデリバリーシステム (CLATE)」 s f b f s f s f .『わが国で生まれた心臓血管外科手術 先達の創意工夫に学ぶ』 Developing the Academic Surgeon 編 川副浩平・責任編集, 東京, メディカルビュー, 2013年10月1日 p 122.
4. 窪田博:「粥状硬化を伴った下行大動脈置換術における脳梗塞予防の工夫」『わが国で生まれた心臓血管外科手術 先達の創意工夫に学ぶ』 Developing the Academic Surgeon 編 川副浩平・責任編集, 東京, メディカルビュー, 2013年10月1日, p 140.
5. 窪田博:「漏斗胸による高度心臓変位を伴う M a r f a n 症候群症例に対する開心術の工夫」『わが国で生まれた心臓血管外科手術 先達の創意工夫に学ぶ』 Developing the Academic Surgeon 編 川副浩平・責任編集, 東京, メディカルビュー, 2013年10月1日, p 142.
6. 窪田博:「非僧帽弁膜症性心房細動に対する心外膜からの凍結凝固を用いた左心房 M a z e 手術 (L A V I E)」.『わが国で生まれた心臓血管外科手術 先達の創意工夫に学ぶ』 Developing the Academic Surgeon 編 川副浩平・責任編集, 東京, メディカルビュー, 2013年10月1日, p 298.
7. 窪田博, 遠藤英仁:手術後の管理.「大動脈外科の要点と盲点」 監修・編集高本真一, 文光堂, 2013年10月7日.
8. 窪田博:阿部論文に対する Editorial Comment. 心臓 2013; Vol. 45, No.11, p1434-1435.

その他

1. 高山真梨子, 稲葉雄亮, 野間美緒, 遠藤英仁, 土屋博司, 牧野能久, 窪田博 (学生発表奨励賞受賞). 第164回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 平成26年3月1日.

整形外科学教室

口演

発表 (学会, 研究会)

1. 工藤文孝, 高山拓人, 内倉長造, 丸野秀人, 市村正一:高齢者手根管症候群の術後成績. 第56回日本手外科学会学術集会, 神戸, 平成25年4月19日.

2. 井上功三朗, 長谷川雅一, 市村正一, 井上智雄, 宮坂芳郎, 森脇孝博:ラロキシフェン塩酸塩とエルデカルシトールの併用効果の検討 ~アルファカルシドールからエルデカルシトールへの切り替え~. 第3回骨粗鬆症治療研究会, 三鷹, 平成25年4月20日.
3. 田島崇, 向井原健太, 浅野尚文, 森井健司, 川井章, 近藤格:プロテオーム解析による粘液型脂肪肉腫に対する個別化医療のためのバイオマーカー探索 (第二報). 第10回関東骨・軟部腫瘍の基礎を語る会春のセミナー, 水上, 平成25年4月20-21日.
4. 藤原靖, 松山幸弘, 四宮謙一, 川端茂徳, 安藤宗治, 齋藤貴徳, 里見和彦, 他:脊髄髄内腫瘍摘出術における術中脊髄モニタリング新アラームポイント「振幅70%以上低下」の有有用性—日本脊椎脊髄病学学会多施設共同研究. 第42回日本脊椎脊髄病学会, 宜野湾, 平成25年4月25-27日.
5. 伊藤全哉, 松山幸弘, 小林祥, 四宮謙一, 川端茂徳, 安藤宗治, 齋藤貴徳, 藤原靖, 小林祥, 里見和彦:胸椎 OPLL 手術における脊髄モニタリングの多施設前向き研究—後ろ向き研究と比較して. 第42回日本脊椎脊髄病学会, 宜野湾, 平成25年4月25-27日.
6. 長谷川雅一, 高橋雅人, 長谷川淳, 五十嵐一峰, 佐野秀仁, 里見和彦, 市村正一:腰椎椎間板ヘルニアに対する MED 後の再手術例の検討. 第42回日本脊椎脊髄病学会, 宜野湾, 平成25年4月25-27日.
7. 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川雅一, 佐野秀仁, 長谷川淳, 大柁英昭, 竹内拓海, 佐藤俊輔, 市村正一:頭蓋刺激—複合筋活動電位による術中脊髄モニタリングの疾患別有効性. 第42回日本脊椎脊髄病学会, 宜野湾, 平成25年4月25-27日.
8. 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川雅一, 長谷川淳, 大柁英昭, 佐藤俊輔, 竹内拓海, 市村正一:頸椎後縦靭帯骨化症の障害高位と術後成績—第三の診断法を用いた障害高位診断—. 第42回日本脊椎脊髄病学会, 宜野湾, 平成25年4月25-27日.
9. 宝亀登, 井上智雄, 辻将明:腰椎椎間孔狭窄の画像診断だけで評価できるか?. 第42回脊椎脊髄病学会, 宜野湾, 平成25年4月25-27日.
10. 五十嵐一峰, 高橋雅人, 長谷川雅一, 佐野秀仁, 市村正一, 里見和彦:化膿性脊椎炎における全身状態不良例の手術治療の検討. 第42回日本脊椎脊髄病学会, 宜野湾, 平成25年4月25-27日.
11. 五十嵐一峰, 長谷川雅一, 高橋雅人, 佐野秀仁, 市村正一, 里見和彦:腰椎変性すべり症に対する棘突起縦割式椎弓切除術—術後5年の画像評価—. 第42回日本脊椎脊髄病学会, 宜野湾, 平成25年4月25-27日.
12. 小林祥, 松山幸弘, 四宮謙一, 川端茂徳, 安藤宗治, 齋藤貴徳, 高橋雅人, 里見和彦, 他:術後麻痺を回避することができた脊髄モニタリング. 第42回日本脊椎脊髄病学会, 宜野湾, 平成25年4月25-27日.
13. 竹内拓海, 高橋雅人, 長谷川雅一, 長谷川淳, 大柁英昭, 佐藤俊輔, 里見和彦, 市村正一:脊髄回旋と術後 C5麻痺の関係. 第42回日本脊椎脊髄病学会, 宜野湾, 平成25年4月25-27日.

14. 長谷川淳, 高橋雅人, 竹内拓海, 大祢英昭, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 里見和彦, 市村正一: 頸髄半截ラットにおける運動機能代償機構-幼若ラットと成熟ラットの比較-. 第42回日本脊椎脊髄病学会, 宜野湾, 平成25年4月25 - 27日.
15. 森井健司, 森岡秀夫, 上田孝文, 荒木信人, 橋本伸之, 川井章, 竹内克仁, 穴澤卯圭: 腫瘍型人工膝関節における深部感染の患肢機能への影響. 第86回日本整形外科学会学術総会, 広島, 平成25年5月23-26日.
16. 吉山晶, 森井健司, 青柳貴之, 田島崇, 望月一男, 市村正一: 脂肪腫と高分化型脂肪肉腫の判別における血清 d-dimer の有用性の検討. 第86回日本整形外科学会学術総会, 広島, 平成25年5月23-26日.
17. 田島崇, 森井健司, 吉山晶, 青柳貴之, 望月一男, 市村正一: 神経刺激装置は末梢神経鞘腫の術後神経障害発生率を低下させる. 第86回日本整形外科学会学術総会, 広島, 平成25年5月23-26日.
18. 山中裕司, 仙波浩幸, 長尾巴也, 上蘭紗映, 林光俊, 平川淳一: 精神科疾患患者における大腿骨頸部骨折後の予後調査 第二報. 第48回日本理学療法学会大会, 名古屋, 平成25年5月24-26日.
19. 上蘭紗映, 仙波浩幸, 林光俊, 平川淳一: 精神科疾患・身体疾患合併患者の入院時 ADL の特徴 -リハビリ非実施の精神科患者との比較-. 第48回日本理学療法学会大会, 名古屋, 平成25年5月24-25日.
20. 上蘭紗映, 仙波浩幸, 林光俊, 平川淳一: 精神科疾患を持つ患者の入院時 ADL の特徴-精神科疾患別の比較-. 第48回日本理学療法学会大会, 名古屋, 平成25年24-25日.
21. 高山拓人, 相川大介, 坂倉健吾他: 創傷被覆材を用いた橈骨遠位端骨折術後早期からの渦流浴の有用性. 第78回日本温泉気候物理医学会, 別府, 平成25年5月24-25日.
22. Takahashi M, Satomi K, Ichimura S: Dynamic radiographical risk factors for the treatment of cervical spondylotic amyotrophy. Takahashi M, Satomi K, Hasegawa M, Ichimura S. The 29th annual meeting of European section cervical spine research society, Bordeaux, France, May 30-31, 2013.
23. Hasegawa A, Takahashi M, Satomi K, Ichimura S : Functional motor restoration in rats with cervical spinal cord hemisection- comparison of immature and adult rats-. The 29th annual meeting of European section cervical spine research society, Bordeaux, France, May 30-31, 2013.
24. 林光俊, 上蘭紗映, 平川淳一, 安部学, 川上純範, 岡島康友: 精神病院における身体リハビリテーション - FIM による推移を主として -. 第50回日本リハビリテーション医学会学術集会, 東京, 平成25年6月13-15日.
25. 宝亀登, 池田真人: 脊椎圧迫骨折患者の栄養状態の変化. 第15回山梨 NST 研究会, 甲府, 平成25年6月20日.
26. 佐々木茂, 小谷明弘, 鈴木啓司, 佐藤行紀, 今給黎直明, 福島久樹, 剣持雅彦, 市村 正一: HA/PLLA interference screw を使用した膝前十字靭帯再建術の治療経験 -骨付き膝蓋腱を用いた再建術, 画像所見を中心に-. The 5th JOSKAS 2013, 札幌, 平成25年6月20-22日.
27. 佐藤行紀, 小谷明弘, 佐々木茂, 給黎直明, 鈴木啓司, 市村正一: 変形性膝関節症の進行に伴う大腿骨上顆軸の変化. The 5th JOSKAS 2013, 札幌, 平成25年6月20-22日.
28. 星亨, 今給黎直明, 工藤文孝, 山岸賢一郎, 松隈卓徳, 山下紗季: 感染性偽関節および骨髄炎に対する Ilizarov 法の治療成績. 第39回日本骨折治療学会, 久留米, 平成25年6月28-29日.
29. 丸野秀人, 大畑徹也, 工藤文孝, 高山拓人, 平野純, 内倉長造, 市村正一: 舟状骨偽関節の治療経験. 第39回日本骨折治療学会, 久留米, 平成25年6月28-29日.
30. 坂倉健吾, 高山拓人, 相川大介: 上腕骨近位部骨折に対して PHILOS を用いた治療成績. 第39回日本骨折治療学会, 久留米, 平成25年6月28-29日.
31. 稲田成作, 森脇孝博, 五十嵐一峰: 非転位型大腿骨頸部骨折における固定材料の術後 telescoping が及ぼす大腿外側部痛の検討. 第39回日本骨折治療学会, 久留米, 平成25年6月28-29日.
32. 松隈卓徳, 星亨, 工藤文孝, 大畑徹也, 山岸賢一郎, 今給黎直明, 山下紗季: ピンニングを行った小児上腕骨顆上骨折の治療成績と問題点. 第39回日本骨折治療学会, 久留米, 平成25年6月28-29日.
33. 山岸賢一郎, 星亨, 今給黎直明, 工藤文孝, 松隈卓徳, 山下紗季: 骨粗鬆症性椎体骨折に対する椎体形成術の治療成績. 第39回日本骨折治療学会, 久留米, 平成25年6月28-29日.
34. 鈴木淳一, 加藤英之, 林光俊, 平川淳一: 上腕切断後の幻肢痛に対する認知神経リハビリテーション. 第47回日本作業療法士学会, 大阪, 平成25年6月28-30日.
35. 小寺正純, 井上功三朗, 市村正一, 根本康子, 相馬真弓, 森脇孝博: 手術器具による Bacterial Contamination について. 第36回日本骨・関節感染症学会, 横浜, 平成25年7月5-6日.
36. 星亨, 工藤文孝, 山岸賢一郎, 松隈卓徳, 今給黎直明: 糖尿病に合併した感染性足病変の患肢温存治療 -マゴットセラピーの治療成績-. 第36回日本骨・関節感染症学会, 横浜, 平成25年7月5-6日.
37. 高山拓人, 相川大介, 井上智雄, 宝亀登, 稲田成作: LCP-DHP による上腕骨近位端骨折の治療経過中 MRSA 骨髄炎を合併し治療に難渋した1例. 第36回日本骨・関節感染症学会, 横浜, 平成25年7月5-6日.
38. 森井健司, 森岡秀夫, 上田孝文, 荒木信人, 橋本伸之, 川井章, 望月一男, 市村正一: 腫瘍型人工膝関節感染例の感染制御の実態調査. 第46回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 東京, 平成25年7月11-12日.
39. 青柳貴之, 森井健司, 大塚弘毅, 大西宏明, 田島崇,

- 吉山晶, 市村正一: Bax はゾレンドロン酸による肺癌骨転移治療における薬剤耐性を制御する. 第46回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 東京, 平成25年7月11-12日.
40. 藤野節, 森井健司, 田島崇, 本谷啓太, 寺戸雄一, 高木正之, 望月一男: 腸骨転移を来した高齢者の肋骨腫瘍の1例. 第46回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 東京, 平成25年7月11-12日.
 41. 剣持雅彦, 佐々木茂, 中澤雄起, 瀧澤哲也: ストレッチを指標とした腰椎疲労骨折の治療経験-安静だけが治療なのか?- . 第26回日本臨床整形外科学会学術集会, 静岡, 平成25年7月14-15日.
 42. 杉岡稔, 剣持雅彦, 大塚良美, 藤崎和希, 佐々木茂: 体幹柔軟性に着目した内側型野球肘のリハビリテーション. 第26回日本臨床整形外科学会学術集会, 静岡, 平成25年7月14-15日.
 43. 剣持雅彦, 佐々木茂, 藤崎和希, 大塚良美: 超音波画像分類を用いた足関節靭帯損傷の治療経験. 第26回日本臨床整形外科学会学術集会, 静岡, 平成25年7月14-15日.
 44. 菊地潤, 剣持雅彦, 藤崎和希, 佐々木茂: 新鮮 ACL 損傷の保存的治療 - 人事を尽くして再建を待つのみか? -. 第26回日本臨床整形外科学会学術集会, 静岡, 平成25年7月14-15日.
 45. 須崎真美, 井上英子, 近江瑞輝, 熊谷好美, 日橋映子, 星亨: 経口補水液による術前体液管理~患者満足度と看護業務への影響~. 第26回日本臨床整形外科学会学術集会, 静岡, 平成25年7月14-15日.
 46. 吉山晶, 森井健司, 田島崇, 青柳貴之: 分子標的治療薬導入後の腎細胞癌骨転移予後予測に関する研究. 第2回信濃町骨軟部腫瘍研究会, 東京, 平成25年7月20日.
 47. 青柳貴之, 森井健司, 吉山晶, 田島崇: 骨盤内軟骨肉腫の1例. 第2回信濃町骨軟部腫瘍研究会, 東京, 平成25年7月20日.
 48. 吉山晶, 森井健司, 青柳貴之, 本谷啓太, 平野和彦: 放射線照射後肉腫の一例. 多摩骨軟部腫瘍研究会, 三鷹, 平成25年8月24日.
 49. 吉山晶, 森井健司, 青柳貴之, 本谷啓太, 平野和彦: 脛骨ユーイング肉腫の一例. 多摩骨軟部腫瘍研究会, 三鷹, 平成25年8月24日.
 50. 山岸賢一郎, 星亨, 今給黎直明, 工藤文孝, 道廣岳: 骨粗鬆症性椎体骨折に対する椎体形成術の治療成績. 第9回椎体形成術研究会, 京都, 平成25年8月31日.
 51. 林光俊, 安部学, 中村貢: トライアスロン鉄人レースにおける医療救護の実際- 全日本トライアスロン宮古島大会 -. 第39回日本整形外科学スポーツ医学会学術集会, 名古屋, 平成25年9月13-14日.
 52. 今給黎直明, 林光俊, 西野衆文: バレーボール選手における腹直筋損傷の受傷原因と後療法について. 第39回日本整形外科学スポーツ医学会学術集会, 名古屋, 平成25年9月13-14日.
 53. 西野衆文, 林光俊: バレーボール選手の下肢疲労性障害-メディカルチェックにおける下肢圧痛点の意義-. 第39回日本整形外科学スポーツ医学会学術集会, 名古屋, 平成25年9月13-14日.
 54. 松井智裕, 熊井司, 田中康仁, 福井由佳, 林光俊: トップレベルバレーボール選手における足関節前方インピンジメント症候群-足関節3DCTを用いた評価-. 第39回日本整形外科学スポーツ医学会学術集会, 名古屋, 平成25年9月13-14日.
 55. 橋本吉登, 林光俊, 内倉長造: ナショナルチーム男子バレーボール選手の手指変形と異常可動域について. 第39回日本整形外科学スポーツ医学会学術集会, 名古屋, 平成25年9月13-14日.
 56. 荒木大輔, 黒田良祐, 松田直樹, 林光俊, 山口博, 藤田耕司, 小原和宏: 前十字靭帯, 内側側副靭帯, 内側半月板損傷後復帰し得たロンドンオリンピックメダリストの1例. 第39回日本整形外科学スポーツ医学会学術集会, 名古屋, 平成25年9月13-14日.
 57. 高山拓人, 相川大介, 井上智雄, 宝亀登, 稲田成作: アキレス腱断裂に対する早期運動療法の検討. 第39回日本整形外科学スポーツ医学会学術集会, 名古屋, 平成25年9月13-14日.
 58. Tajima T, Mukaiharu K, Asano N, Yoshida A, Morii T, Kawai A, Kondo T: PROTEOMIC APPROACH FOR PROGNOSTIC BIOMARKER IN MYXOID LIPOSARCOMA. The 12th Human Proteome Organisation World Congress, Yokohama, Sep 14-18. 2013.
 59. 小谷明弘, 佐藤行紀, 佐々木茂, 市村正一: 変形性膝関節症における膝蓋骨骨棘形成の検討. 第62回東日本整形災害外科学会, 軽井沢, 平成25年9月19-21日.
 60. 星亨, 工藤文孝, 山岸賢一郎, 道廣岳, 今給黎直明: 骨髄炎における Papineau 法の治療成績. 第62回東日本整形災害外科学会, 軽井沢, 平成25年9月19-21日.
 61. 星亨: Ilizarov 法による巨大骨欠損を伴う感染性偽関節の治療戦略. 第62回東日本整形災害外科学会, 軽井沢, 平成25年9月19-21日.
 62. 高山拓人, 相川大介, 井上智雄, 宝亀登, 稲田成作: 重複神経麻痺を合併した上腕骨骨幹部骨折と前腕デグロビング損傷の1例. 第62回東日本整形災害外科学会学術集会, 軽井沢, 平成25年9月19-21日.
 63. 大畑徹也, 星亨, 丸野秀人, 樽井武彦, 山口芳裕, 市村正一: 骨盤輪骨折を伴う多発外傷における予後予測因子の検討 (血清乳酸値を中心に). 第62回東日本整形災害外科学会, 軽井沢, 平成25年9月19-20日.
 64. 佐野秀仁, 大柵英昭, 高橋雅人, 長谷川雅一, 市村正一: 骨化を伴った腰椎硬膜内脱出ヘルニアの手術症例. 第62回東日本整形災害外科学会, 軽井沢, 平成25年9月19日 -21日.
 65. 吉山晶, 森井健司, 青柳貴之, 田島崇, 市村正一: 血清 d-dimer 値による脂肪腫と高分化型脂肪肉腫の鑑別診断. 第62回東日本整形災害外科学会, 軽井沢, 平成25年9月19-21日.
 66. 青柳貴之, 森井健司, 吉山晶, 田島崇, 市村正一:

- 骨修飾薬を長期投与された乳癌患者における大腿骨非定型骨折の一例. 第62回東日本整形災害外科学会, 軽井沢, 平成25年9月19-21日.
67. 坂倉健吾, 小谷明弘, 佐々木茂, 佐藤行紀, 市村正一, 富田哲也, 菅本一臣, 山崎隆治: Mobile bearing PS型人工膝関節の生体内動作解析. 第62回東日本整形災害外科学会, 軽井沢, 平成25年9月19-21日.
 68. 大森雅夫, 佐藤行紀, 佐々木茂, 小谷明弘, 市村正一: 外傷性膝伸展機構損傷に対し膝蓋骨に骨孔を空け, FiberWire®を用いて修復した2例. 第62回東日本整形災害外科学会, 軽井沢, 平成25年9月19日-21日.
 69. 宝亀登: 頸椎疾患について -主に病態・治療について-. 第5回加納岩医療フォーラム, 山梨, 平成25年9月26日.
 70. 高山拓人, 相川大介, 井上智雄, 宝亀登, 稲田成作: 手指挫滅切断に対する再接着術の治療成績と問題点. 日本マイクロサージャリー学会40周年記念学術集会, 盛岡, 平成25年9月26-28日.
 71. 高山拓人, 相川大介, 井上智雄, 宝亀登, 稲田成作: アキレス腱縫合術後のMRSAによる感染性腱・皮膚軟部組織欠損に対し腱付き peroneal flapで再建した1例. 日本マイクロサージャリー学会40周年記念学術集会, 盛岡, 平成25年9月26-28日.
 72. 高山拓人, 相川大介, 井上智雄: 治療に難渋した不安定型肘関節脱臼骨折 (terrible triad) の1例. 第3回山梨骨折治療フォーラム, 山梨, 平成25年10月4日.
 73. 田島崇, 向井原健太, 浅野尚文, 森井健司, 川井章, 近藤格: プロテオーム解析による粘液型脂肪肉腫に対する個別化医療のためのバイオマーカー探索~2-D Clean-Up Kitを用いたサンプル調整~. 第11回関東骨軟部腫瘍の基礎を語る会, 東京, 平成25年10月12日.
 74. 長谷川雅一, 西川洋平, 丸野秀人, 市村正一: 骨粗鬆症診療におけるアレンドロネート静注剤の使用経験. 第15回日本骨粗鬆症学会, 大阪, 平成25年10月11-13日.
 75. 井上功三朗, 長谷川雅一, 市村正一, 井上智雄, 宝亀登, 宮坂芳郎, 森脇孝博: ラロキシフェン塩酸塩とエルデカルシトールの併用効果の検討 ~アルファカルシドールからエルデカルシトールへの切り替え~. 第15回日本骨粗鬆症学会, 大阪, 平成25年10月11-13日.
 76. 工藤文孝: 手外科領域における外傷治療. 第6回中伊豆ハンドセラピー勉強会, 静岡, 平成25年10月13日.
 77. 田島崇, 窪田大介, 向井原健太, 森井健司, 川井章, 近藤格: プロテオーム解析に寄る粘液型脂肪肉腫に対する個別化医療のためのバイオマーカー探索. 第28回日本整形外科学会基礎学術集会, 千葉, 平成25年10月17-18日.
 78. 吉山晶, 森井健司, 大塚弘毅, 大西宏明, 田島崇, 青柳貴之, 望月一男, 市村正一: ゾレドロン酸の抗腫瘍効果に対する耐性獲得と幹細胞性の発現. 第28回日本整形外科学会基礎学術集会, 千葉, 平成25年10月17-18日.
 79. 大柵英昭, 高橋雅人, 長谷川淳, 竹内拓海, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 市村正一, 里見和彦: 頸髓半截ラットにおける運動機能代償 -神経解剖学的検証-. 第28回日本整形外科学会基礎学術集会, 千葉, 平成25年10月17-18日.
 80. 大森雅夫, 五十嵐一峰, 佐野秀仁, 市村正一, 中島剛, 渋谷賢, 大木紫, 遠藤隆志: 頸髄症患者における巧緻運動障害の客観的評価法の開発. 第28回日本整形外科学会基礎学術集会, 千葉, 平成25年10月17-18日.
 81. Tajima T, Ohta T, Mukaiyama K, Asano N, Morii T, Kawai A, Kondo T: INTERACTOMIC APPROACH IDENTIFIED FUS-CHOP BINDING PROTEINS IN MYXOID LIPOSARCOMA. Connective Tissue Oncology Society 18th annual meeting, USA, Oct 30-Nov 2, 2013.
 82. 佐野秀仁, 長谷川雅一, 高橋雅人, 市村正一: 当院でのBKP(Balloon Kyphoplasty)の術後成績と隣接椎体骨折の検討. 第21回日本腰痛学会, 東京, 平成25年11月1-2日.
 83. 小谷明弘 (シンポジウム): 人工関節の感染への対応 人工関節置換術後感染に対する二期的再置換術の治療経験. 第41回日本関節病学会, 名古屋, 平成25年11月2-3日.
 84. 佐々木茂, 小谷明弘, 佐藤行紀, 市村正一: 膝前内側回旋不安定性に対する内側靭帯支持組織修復術の経験. -移植腱を使用しない手術方法-. 第41回日本関節病学会, 名古屋, 平成25年11月2-3日.
 85. 佐藤行紀, 小谷明弘, 佐々木茂, 今給黎直明, 鈴木啓司, 市村正一: 変形性関節症の進行に伴う大腿骨上顆軸の変化. 第41回日本関節病学会, 名古屋, 平成25年11月2-3日.
 86. 坂倉健吾, 小谷明弘, 佐々木茂, 市村正一: 肩腱板修復術の治療経験 - mini open法と鏡視下腱板修復術の比較 -. 第41回日本関節病学会, 名古屋, 平成25年11月2-3日.
 87. 上蘭紗映, 仙波浩幸, 林光俊, 平川淳一: 精神科疾患をもつ患者の入院時ADLの特徴. 第32回関東甲信越ブロック理学療法士学会, 千葉, 平成25年11月2-3日.
 88. 大畑徹也: 脛骨近位端骨折に対するPlating technique. Private Cadaver Training Course, タイ, 平成25年11月4日.
 89. 伊藤全哉, 松山幸弘, 四宮謙一, 安藤宗治, 川端茂徳, 里見和彦, 他: 術中アラームポイントの策定及び総括—脊椎脊髄病学会モニタリング委員会による多施設調査. 日本臨床神経生理学会, 高知, 平成25年11月7-9日.
 90. 高山拓人, 相川大介, 井上智雄, 宝亀登, 稲田成作: 4歳児の陈旧性小指深指屈筋腱断裂に対し腱移植術を行った1例. 第24回日本小児整形外科学会学術集会, 横浜, 平成25年11月8-9日.

91. 宝亀登, 井上智雄: 硬膜内に脱出した腰椎々間板ヘルニアの1例. 第48回日本脊髄障害医学会, 福岡, 平成25年11月14-15日.
92. 佐野秀仁, 高橋雅人, 長谷川雅一, 市村正一, 里見和彦: 骨化を伴った腰椎硬膜内脱出ヘルニアの手術症例. 第48回日本脊髄障害医学会, 福岡, 平成25年11月14-15日.
93. 長谷川淳, 八木満, 竹光正和, 町田正文, 朝妻孝仁: 環軸関節亜脱臼を伴う環軸関節化膿性脊椎炎の1例. 第48回日本脊髄障害医学会, 福岡, 平成25年11月14-15日.
94. 長谷川淳, 八木満, 竹光正和, 町田正文, 朝妻孝仁: 頸髄損傷患者における側弯症の発生頻度と危険因子の検討. 第48回日本脊髄障害医学会, 福岡, 平成25年11月14-15日.
95. 田島崇, 向井原健太, 浅野尚文, 黒田悠太, 窪田大介, 川井章, 近藤格: 粘液型脂肪肉腫のタンパク質サンプル調整に2-D Clean-Up Kit は有用である. 第64回日本電気泳動学会総会, 仙台, 平成25年11月15-16日.
96. 諸井威彦, 佐藤行紀, 小谷明弘, 森井健司, 佐々木茂, 坂倉健吾, 市村正一: 滑膜軟骨腫瘍が疑われ, 多数の関節内腫瘍を伴ったリウマチ膝と考えられた一例. 第42回杏林医学会総会, 三鷹, 平成25年11月16日.
97. 川野洋介, 青柳貴之, 吉山晶, 田島崇, 森井健司, 市村正一: 3DCT を用いて経皮的切除した類骨骨腫の2例. 第42回杏林医学会総会, 三鷹, 平成25年11月16日.
98. 長谷川雅一, 佐野秀仁, 長谷川淳, 五十嵐一峰, 高橋雅人, 市村正一: 腰椎椎間板ヘルニアに対するMED術後の再手術例の検討. 第16回日本内視鏡低侵襲脊椎外科学会, 神戸, 平成25年11月21-22日.
99. 坂倉健吾, 小谷明弘, 佐々木茂, 中村克司, 市村正一: 変形性膝関節症による慢性疼痛に対するトラマドール塩酸塩/アセトアミノフェン配合錠の有効性. 多摩疼痛治療研究会, 調布, 平成25年11月29日.
100. 井上功三朗, 小寺正純, 森脇孝博, 市村正一: 血液透析患者における人工股関節置換術の治療成績. 第40回日本股関節学会, 広島, 平成25年11月29-30日.
101. 高山拓人: 掌側ロッキングプレート (PLP) を用いた橈骨遠位端骨折の治療. 第2回杏セミナー, 東京, 平成25年12月7日.
102. 渡辺弘樹, 高島康夫: 周術期の疼痛管理におけるトラマドール塩酸塩/アセトアミノフェン配合錠ロキソプロフェンの効果に関する前向き比較検討. 第6回日本運動器疼痛学会, 神戸, 平成25年12月7-8日.
103. 坂倉健吾, 小谷明弘, 佐々木茂, 中村克司, 市村正一: 変形性膝関節症による慢性疼痛に対するトラマドール塩酸塩/アセトアミノフェン配合錠の有効性. 第6回日本運動器疼痛学会, 神戸, 平成25年12月7-8日.
104. 吉山晶, 本谷啓太, 平野和彦, 青柳貴之, 丸野秀人, 森井健司: 手根骨に発生した骨腫瘍の一例. 第3回信濃町骨軟部腫瘍研究会, 東京, 平成25年12月28日.
105. 伊藤全哉, 松山幸弘, 安藤宗治, 川端茂徳, 四宮謙一, 里見和彦, 谷俊一, 他: 胸椎後縦韌帯固着症 (OPLL) 手術において術後麻痺を防ぐには? - 麻痺を呈する操作及びモニタリングアラームポイント: 全国多施設調査. 第35回脊髄機能診断研究会, 東京, 平成26年2月1日.
106. 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 大柵英昭, 竹内拓海, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 佐野秀仁, 市村正一: 頭蓋刺激-複合筋活動電位による single-modarity 術中脊髄モニタリング. 第35回脊髄機能診断研究会, 東京, 平成26年2月1日.
107. 竹内拓海, 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 大柵英昭, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 市村正一: 頸髄半截ラットにおける前肢運動機能代償機構-電気生理学的検証 - Mechanism of motor functional restoration in rats with cervical spinal cord hemisection; Electrophysiological verification. 第35回脊髄機能診断研究会, 東京, 平成26年2月1日.
108. 長谷川淳, 高橋雅人, 大柵英昭, 竹内拓海, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 里見和彦, 市村正一: 頸髄半截ラットにおける前肢運動機能代償機構-幼若・成熟ラットの比較-. 第35回脊髄機能診断研究会, 東京, 平成26年2月1日.
109. 大柵英昭, 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 竹内拓海, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 市村正一: 頸髄半截ラットにおける運動機能代償-神経解剖学的検証-. 第35回脊髄機能診断研究会, 東京, 平成26年2月1日.
110. 高山拓人, 相川大介, 井上智雄, 宝亀登, 稲田成作: 重複神経麻痺を合併した上肢ローラー外傷の1例. 第28回東日本手外科研究会, 東京, 平成26年2月1日.
111. 青柳貴之, 森井健司, 吉山晶, 田島崇: A case of pelvic chondrosarcoma extending into the proximal part of the thigh. 第2回日韓合同骨軟部腫瘍フォーラム, 東京, 平成26年2月8日.
112. 小寺正純, 井上功三朗, 市村正一, 森脇孝博: セメントレスシステムにおける周囲骨反応変化 - 髓腔占拠型 VS 骨温存型 -. 第44回日本人工関節学会, 宜野湾, 平成26年2月21-22日.
113. 佐藤行紀, 小谷明弘, 佐々木茂, 坂倉健吾, 市村正一: 大腿骨上顆軸と脛骨内反との関係. 第44回日本人工関節学会, 宜野湾, 平成26年2月21-22日.
114. 坂倉健吾, 小谷明弘, 佐々木茂, 佐藤行紀, 市村正一, 富田哲也, 菅本一臣, 山崎隆治: Mobile bearing PS 型人工膝関節の術後動態解析. 第44回日本人工関節学会, 宜野湾, 平成26年2月21-22日.
115. 渡辺弘樹, 高島康夫: 非転位型大腿骨頸部骨折の成績不良例の検討. 第672回関東整形災害外科学会月例会, 東京, 平成26年2月22日.
116. 稲田成作, 宝亀登: 橈骨遠位端骨折における関節内骨折の発生は橈骨骨密度と関連する. 第672回関東整形災害外科学会月例会, 東京, 平成26年2月22日.
117. 大森雅夫, 大野公宏, 安部学, 市村正一: AO 分類43 (下腿遠位部骨折, 足関節 Pilon 骨折) に対する手

- 術治療成績。第672回関東整形災害外科学会月例会，東京，平成26年2月22日。
118. 道廣岳，星亨，工藤文孝，山岸賢一郎：創外固定で治療を行った脛骨近位骨端線損傷の3例。第672回関東整形災害外科学会月例会，東京，平成26年2月22日。
 119. 高柳正俊，小林裕明，山本重吉：右小指 PIP 関節に関節破壊を生じた痛風結節の一例。第672回関東整形災害外科学会月例会，東京，平成26年2月22日。
 120. 小西一斉，五十嵐一峰，森脇孝博，市村正一：脊髄腫瘍と複数椎体骨折を合併し症状発現高位の診断に難渋した一例。第672回関東整形災害外科学会月例会，東京，平成26年2月22日。
 121. 山下紗季，吉山晶，丸野秀人，青柳貴之，森井健司，市村正一：手根骨に発生した骨巨細胞腫の一例。第672回関東整形災害外科学会月例会，東京，平成26年2月22日。
 122. 川野洋介，青柳貴之，吉山晶，田島崇，森井健司，市村正一：3DCT を用いた類骨骨腫に対する治療法の検討。第672回関東整形災害外科学会月例会，東京，平成26年2月22日。
 123. 高山拓人，相川大介，井上智雄，宝亀登，稲田成作：治療に難渋した不安定型肘関節脱臼骨折 (terrible triad 損傷) の1例。第26回日本肘関節学会学術集会，東京，平成26年2月28日 -3月1日。
 124. 高山拓人，相川大介，井上智雄，宝亀登，稲田成作：小児 Jeffery 型骨折と Jeffery 類似損傷の2例。第26回日本肘関節学会学術集会，東京，平成26年2月28日 -3月1日。
 125. 太田武雄，林光俊，上野俊明，川原貴：2011年～2013年全日本男女バレーボール歯科検診。第4回日本バレーボール協会バレーボール・スポーツ障害セミナー，東京，平成26年3月1日。
 126. 和田規克，矢野博也，林光俊，橋本吉登，吉澤穰治：全日本男子 (シニア) バレーボールのメディカルサポート。第4回日本バレーボール協会バレーボール・スポーツ障害セミナー，東京，平成26年3月1日。
 127. 吉山晶：骨軟部腫瘍～日常診療で遭遇する“しこり”について～。第9回松崎記念ゼミナール，東京，平成26年3月5日。
 128. 星亨，工藤文孝，山岸賢一郎，道廣岳：骨髄炎・感染性偽関節に対する Ilizarov 法の治療成績。第27回日本創外固定・骨延長学会学術集会，大阪，平成26年3月7-8日。
 129. 加藤聡一郎，星亨，大畑徹也，工藤文孝，山岸賢一：創外固定器を definitive fixator として用いた下肢重度開放骨折の検討。第27回日本創外固定・骨延長学会学術集会，大阪，平成26年3月7-8日。
 130. 高山拓人，相川大介，井上智雄，宝亀登，稲田成作：創外固定器を併用し治療した新鮮膝蓋靭帯断裂の1例。第27回日本創外固定骨延長学会学術集会，大阪，平成26年3月7-8日。
 131. 高山拓人，相川大介，井上智雄：比較的稀な内反強制による不安定型肘関節脱臼骨折の1例。第40回山梨総合医学会，山梨，平成26年3月9日。
 132. 高山拓人，相川大介，井上智雄：陳旧性小指深指屈筋腱断裂に対して腱移植を行った4歳児の1例。第40回山梨総合医学会，山梨，平成26年3月9日。
 133. 星亨：「世界最小の外科医による足壊疽に対する患肢温存治療の現状」-Maggot Debridement Therapy (マゴット治療) の手技と臨床成績 -。第1回間欠性跛行診断カンファレンス，立川，平成26年3月26日。
 134. 林光俊，市村正一：新鮮アキレス腱断裂の保存療法 -ギプステクニックの実際-。第54回関東整形災害外科学会，東京，平成26年3月28-29日。
 135. 森井健司，吉山晶，青柳貴之，田島崇，市村正一：軟部悪性腫瘍 unplanned resection 例に対する追加広範切除術の実際とその治療成績。第54回関東整形災害外科学会，横浜，平成26年3月28-29日。
 136. 森井健司，吉山晶，青柳貴之，田島崇，市村正一：パズパニブによる進行期軟部肉腫の治療経験。第54回関東整形災害外科学会，横浜，平成26年3月28-29日。
 137. 佐々木茂，小谷明弘，鈴木啓司，佐藤行紀，福島久樹，今給黎直明，剣持雅彦，市村正一 HA/PLLA interference screw を使用した膝前十字靭帯再建術の治療経験 -骨付き膝蓋腱を用いた再建術，画像所見を中心に-。第54回関東整形災害外科学会，横浜，平成26年3月28-29日。
 138. 山岸賢一郎，星亨，工藤文孝，道廣岳，今給黎直明：アキレス腱断裂保存療法における下肢深部静脈血栓。第54回関東整形災害外科学会，横浜，平成26年3月28-29日。
 139. 五十嵐一峰，小西一斉，森脇孝博：骨粗鬆症性椎体骨折と腸腰筋断面積。第54回関東整形災害外科学会，横浜，平成26年3月28-29日。
 140. 道廣岳，星亨，工藤文孝，山岸賢一郎：Ilizarov 創外固定器を用いて治療した脛骨開放骨折後偽関節の1例 -骨髄異形成症候群に対する最小侵襲手術-。第54回関東整形災害外科学会，横浜，平成26年3月28-29日。
- 講演**
1. 小谷明弘：変形性膝関節症における疼痛治療方針 (ガイドラインから見た新規鎮痛薬の位置づけ)。OA EXPERT MEETING，東京，平成25年4月6日。
 2. 宝亀登：骨粗鬆症性骨折における最新の治療と最近の話題。第36回笛吹市整形外科リハビリテーション医会講演会，笛吹，平成25年4月9日。
 3. 市村正一：日常診療に役立つ骨粗鬆症薬物治療の実際。第3回さくら骨粗鬆症治療戦略セミナー，東京，平成25年4月12日。
 4. 宝亀登：骨粗鬆症性骨折における治療と最近の話題。杏林山梨整形外科講演会，甲府，平成25年5月16日。
 5. 小谷明弘：変形性膝関節症における疼痛治療方針 (ガイドラインから見た新規鎮痛薬の位置づけ)。新潟県中越慢性疼痛治療講演会，長岡，平成25年6月7日。
 6. 小谷明弘：変形性膝関節症における疼痛治療方針 (ガ

- イドラインから見た新規鎮痛薬の位置づけ). JPAT IN 越谷, 越谷, 平成25年6月11日.
7. 市村正一: 骨粗鬆症診療における最近の話題. 骨粗鬆症アップデートカンファレンス, 横浜, 平成25年6月13日.
 8. 市村正一: 整形外科からみた骨粗鬆症診療の実際. 第9回兵庫県骨粗鬆症懇話会, 神戸, 平成25年6月22日.
 9. 林光俊: メディカルクリニック, 小学生のバレーボール傷害予防 ZAMST SPORTS FESTA. 浦和, 平成25年7月14日.
 10. 市村正一: 骨粗鬆症薬物治療法の最近の動向. 第26回日本臨床整形外科学会学術集会, 静岡, 平成25年7月15日.
 11. 市村正一: 日常診療に役立つ骨粗鬆症薬物療法の実例. Lilly Bone Web ストリーミング講演会, 東京, 平成25年7月24日.
 12. 林光俊: バレーボール競技におけるスポーツ障害とリハビリテーション. 広島県臨床整形外科医会研修講演会, 広島, 平成25年7月27日.
 13. 林光俊: バレーボール・テニスにおけるスポーツ障害. 東京都鍼灸師協会講演会, 東京, 平成25年7月27日.
 14. 林光俊: メディカルクリニック, 小学生のバレーボール傷害予防, ZAMST SPORTS FESTA. 大阪, 平成25年8月3日.
 15. 市村正一: 骨粗鬆症治療における骨形成促進剤の有用性. 筑後地区テリパラチド学術講演会, 久留米, 平成25年8月21日.
 16. 市村正一: 脊椎代謝性疾患の治療 (主として骨粗鬆症). 第11回日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医研修会, 東京, 平成25年8月24日.
 17. 星亨: 上腕骨近位部骨折に対する Locking Plate 固定法. 第50回 JABO 研修会 (日本整形外科学会教育研修講演), 東京, 平成25年8月24日.
 18. 市村正一: テリパラチドの骨粗鬆症薬物療法における役割. Oita Bone Forum, 大分, 平成25年8月29日.
 19. 市村正一: 骨粗鬆症薬物療法におけるテリパラチドの有用性. 千葉骨折予防戦略セミナー, 千葉, 平成25年8月31日.
 20. 星亨: 「大腿骨近位部骨折の治療変遷」-CHS を知らずして近位部骨折は語れない! - (日本整形外科学会教育研修講演). 第62回東日本整形災害外科学会ハンズオンセミナー4, 軽井沢, 平成25年9月19-20日.
 21. 市村正一: 骨粗鬆症性脊椎骨折への対応. Spinal Symposium in Tokyo 2013「第二次健康日本21」と脊椎疾患, 東京, 平成25年9月21日.
 22. 市村正一: 骨代謝マーカーを用いた骨粗鬆症薬物治療戦略. 岡山 Bone フォーラム2013, 岡山, 平成25年9月26日.
 23. 市村正一: 骨代謝マーカーを用いた骨粗鬆症診療. 第253回京都整形外科医会学術講演会, 京都, 平成25年9月28日.
 24. 里見和彦: 多摩脊椎脊髄カンファレンス第30回までの歩み. 第30回多摩脊椎脊髄カンファレンス, 立川, 平成25年10月10日.
 25. 稲田成作: 腰痛, 下肢の痛み, しびれ-背骨がかかわる病気について-. 第30回加納岩健康まつり, 山梨, 平成25年10月19日.
 26. 森井健司: 良性骨軟部腫瘍の診断と治療. 東京都臨床整形外科医会多摩ブロック研修会「四市の会」, 府中, 平成25年10月24日.
 27. 山岸賢一郎: 腰痛の基礎知識 ~こし・あしの痛みスッキリ解決~. 第181回大和会公開医学講座, 東大和, 平成25年11月2日.
 28. 小谷明弘: 変形性膝関節症における疼痛治療方針(ガイドラインから見た新規鎮痛薬の位置づけ). 群馬県膝関節疾患研究会, 前橋, 平成25年11月15日.
 29. 市村正一: 骨粗鬆症薬物療法の新しい潮流. 長岡骨粗鬆症学術講演会, 長岡, 平成25年11月21日.
 30. 小谷明弘: 変形性膝関節症における疼痛治療方針(ガイドラインから見た新規鎮痛薬の位置づけ). 全国ネット講演会, 東京, 平成25年11月21日.
 31. 市村正一: 骨粗鬆症治療薬の特徴と使い方. 骨粗鬆症性脊椎疾患を考える会, 立川, 平成25年11月22日.
 32. 林光俊: 2020 TOKYO オリンピック. 第3回杏林大学整形外科スポーツ医学セミナー, 武蔵野, 平成25年11月27日.
 33. 市村正一: 骨粗鬆症治療の特徴と使い方. 世田谷整形外科研修会, 東京, 平成25年12月18日.
 34. 市村正一: 骨粗鬆症性脊椎骨折の保存療法から手術療法まで. 第5回北アルプス 整形外科勉強会, 大町, 平成26年1月11日.
 35. 市村正一: 骨粗鬆症性椎体骨折の診断と治療. 平成25年度第3回大宮整形外科医会学術講演会, さいたま, 平成26年1月15日.
 36. 市村正一: 骨粗鬆症における骨吸収抑制薬の使い方. 第34回香川整形外科セミナー, 高松, 平成26年1月30日.
 37. 市村正一: Fragility Fracture 予防における骨粗鬆症治療の最前線. 愛媛県骨粗鬆症治療講演会, 松山, 平成26年2月13日.
 38. 森井健司: 当院におけるパズパニブの治療経験. 第1回東京ボトリエント研究会, 東京, 平成26年2月15日.
 39. 市村正一: 骨粗鬆症診療最近の進歩. 東久留米市医師会学術講演会, 東久留米, 平成26年2月19日.
 40. 市村正一: 骨粗鬆症に伴う腰痛の治療-鑑別診断から薬物療法および外科治療まで-. 日本医師会生涯教育講座, 東京, 平成26年2月20日.
 41. 長谷川雅一: 骨粗鬆症性椎体骨折の診断と治療. 多摩地域の整形外科疾患を考える, 武蔵野, 平成26年2月26日.
 42. 小谷明弘: 変形性膝関節症における疼痛治療方針(ガイドラインから見た新規鎮痛薬の位置づけ). ヤンセンファーマ本社社内勉強会, 東京, 平成26年3月4日.
 43. 市村正一: ビスフォスフォネート静注剤の骨粗鬆症

薬物療法における有用性. 町田市医師会整形外科部会学術講演会, 町田, 平成26年3月7日.

44. 長谷川雅一, 骨粗鬆症性椎体骨折に対するコルセット療法および手術療法, 第3回文京骨粗鬆症セミナー, 東京, 平成26年3月7日.
45. 市村正一: 骨粗鬆症診療におけるビスフォスフォネート静注剤の役割. 第18回沖縄県臨床整形外科医会, 沖縄, 平成26年3月14日.
46. 市村正一: 骨粗鬆症薬物療法におけるビスフォスフォネート静注剤の使い方. 山梨骨粗鬆症フォーラム, 甲府, 平成26年3月20日.

論 文

1. 佐々木孝, 里見和彦: 「整形外科手術調査2009の経緯および評価—専門医制度を視野に入れて」序文. 日整会誌 87: 527-528, 2013.
2. 小林祥, 松山幸弘, 四宮謙一, 川端茂徳, 安藤宗治, 寒竹司, 齋藤貴徳, 高橋雅人, 伊藤全哉, 村本明生, 藤原靖, 木田和伸, 和田欄一郎, 山田圭, 山本直也, 里見和彦, 谷俊一: 術中脊髄モニタリングのアラームポイント. 日本脊椎脊髄病学会モニタリング委員会による多施設前向き研究. 脊髄機能診断34: 85-89, 2012.
3. 市村正一, 長谷川雅一, 高橋雅人, 佐野秀仁: [骨粗鬆症における骨折の連鎖とその予防] 脊椎骨折の最前線 椎体骨折後の骨粗鬆症治療をどうするか. 整形・災害外科56(4):357-362, 2013.
4. 市村正一: リウマチ性疾患 知っておきたいバイオマーカー (第4回) 骨形成マーカーの臨床的有用性と課題. Rheumatology Clinical Research 2 (3):221-225, 2013.
5. 市村正一: [脊椎骨粗鬆症・圧迫骨折に対する治療戦略-薬物療法を中心に] 椎体骨折を伴う骨粗鬆症の治療戦略. 脊椎脊髄ジャーナル 27(3):170-178, 2013.
6. 小谷明弘: 【なぜ使うの? なにに使うの? 決定版 整形外科の薬剤 “ビジュアル薬剤一覧” 付き】 周術期感染の予防 (解説/特集). 整形外科看護19(3): 238-241.
7. 星亨, 今給黎直明, 工藤文孝, 山岸賢一郎, 片山和洋, 山下紗季: Ilizarov 創外固定器を用いて治療した感染性偽関節の治療成績. 骨折35: 460-464, 2013.
8. 星亨, 渡辺佳明: 骨関節感染症の画像診断. Monthly Book Orthopaedics 26: 59-67, 2013.
9. 星亨: 上腕骨顆部骨折. 関節外科32: 34-44, 2013.
10. 星亨, 工藤文孝, 山岸賢一郎, 松隈卓徳, 今給黎直明: 糖尿病に合併した感染性足壊疽の患肢温存治療—マゴットセラピーの治療成績—. 日骨関節感染症誌27: 17-20, 2013.
11. Morii T, Morioka H, Ueda T, Araki N, Hashimoto N, Kawai A, Takeuchi K, Anazawa U, Mochizuki K, Ichimura S: Functional analysis of cases of tumor endoprostheses with deep infection around the knee: a multi institutional study by the Japanese Musculoskeletal Oncology Group (JMOG). J Orthop Sci. 87: 605-12,

2013.

12. 森井健司: 悪性骨・軟部腫瘍の治療. 杏林医学会誌 44巻2号103-111. 2013.
13. 森井健司: 整形外科手術調査2009の経緯および評価—専門医制度を視野に入れて—骨・軟部腫瘍外科の現状. 日整会誌87巻: 555 - 559, 2013.
14. Yoneda Y, Kunisada T, Naka N, Nishida Y, Kawai A, Morii T, Takeda K, Hasei J, Yamakawa Y, Ozaki T: Favorable outcome after complete resection in elderly soft tissue sarcoma patients: Japanese Musculoskeletal Oncology Group Study. Eur J Surg Oncol. 40: 49-54, 2014.
15. Kobayashi S, Matsuyama Y, Shinomiya K, Kawabata S, Ando M, Kanchiku T, Saito T, Takahashi M, Ito Z, Muramoto A, Fujiwara Y, Kida K, Yamada K, Wada K, Yamamoto N, Satomi K, and Tani T: A new alarm point of transcranial electrical stimulation motorevoked potentials for intraoperative spinal cord monitoring: a prospective multicenter study from the Spinal Cord Monitoring Working Group of the Japanese Society for Spine Surgery and Related Research. J Neurosurg: Spine / November 15, 2013.
16. Ito Z, Matsuyama Y, Shinomiya K, Ando M, Kawabata S, Kanchiku T, Saito T, Takahashi M, Taniguchi S, Yamamoto N, Yamada K, Kida K, Fujiwara Y, Kobayashi S, Satomi K, Tani T: Usefulness of multi-channels in intraoperative spinal cord monitoring: multi-center study by the monitoring committee of the Japanese Society for Spine Surgery and related research. Eur Spine J. 22: 1891-6. 2013.
17. Aoyagi T, Morii T, Ohtsuka K, Oonishi H, Tajima T, Yoshiyama A, Mochizuki K, Satomi K, Ichimura S: Lung Cancer Cell Line Sensitivity to Zoledronic Acid Is BAX-dependent. Anticancer Research 33: 3-9, 2013.
18. 高山拓人: 後期高齢者(75歳以上)の上腕骨遠位端骨折に対するLCP-Distal Humeral Plateの治療経験. 日本肘関節学会雑誌20(2): 1-4, 2013.
19. 宝亀登, 井上智雄, 辻将明: 硬膜外血腫を伴った腰椎黄色靭帯内血腫の1例. 山梨医学41: 86-87, 2013.
20. 丸野秀人, 大畑徹也, 市村正一, 工藤文孝, 渡辺弘樹: 上腕骨小頭滑車骨折の治療経験. 骨折35(4): 825-829, 2013.
21. 大畑徹也, 星亨, 丸野秀人, 山口芳裕, 里見和彦: M-shaped pelvic plate を用いた不安定型骨盤輪骨折の治療成績. 骨折35(2): 324 - 327, 2013.
22. 加藤聡一郎, 大畑徹也, 丸野秀人, 市村正一, 山口芳裕, 星亨: 高エネルギー外傷における大腿骨骨幹部骨折の治療成績. 骨折35: 696-699, 2013.
23. 稲田成作, 佐藤俊輔, 安部学, 丸野秀人: 背側転位型橈骨遠位端骨折の術後治療成績 掌側ロッキングプレートと背側ノンロッキングプレートの比較. 骨折35(2): 261-263, 2013.
24. 長谷川淳, 福田健太郎, 藤吉兼浩, 町田正文, 臼井宏: 椎体内へ侵入した胸髄巨大神経鞘腫の1例. 東

日本整形誌25: 504 - 508, 2013.

25. 大森雅夫, 星亨, 今給黎直明, 市村正一: 第 I 中足骨基部に発生した抗酸菌性骨髄炎の1例. 関東整形災害外科学会雑誌45(2): 119-124, 2014.
26. 山下紗季, 山岸賢一郎, 星亨: 下肢手術に対するエコーガイド下神経ブロックの有用性. 日本最小侵襲整形外科学会雑誌13: 2-9, 2013.
27. 山下紗季, 山岸賢一郎, 今給黎直明, 工藤文孝, 片山和洋, 星亨: エコーガイド下神経ブロックを用いて下肢手術を行ったハイリスク4症例の検討. 骨折35: 906-909, 2013.

著書

1. 里見和彦: 小児の spinal cord tethering に対する untethering. 脊髄の手術. 馬場久敏, 他編, 東京, 中山書店, 2014. p.111-117.
2. 林光俊: 整形外科骨折ギプスマニュアル, 新鮮アキレス腱断裂に対するギプス固定, 日本骨折治療学会教育委員会編, メジカルビュー社, 東京, 2014. p48-56.
3. 林光俊: (DVD) 整形外科骨折ギプスマニュアル, 新鮮アキレス腱断裂に対するギプス固定, 日本骨折治療学会教育委員会編, メジカルビュー社, 東京, 2014.
4. 森井健司: 原発性悪性骨腫瘍(骨肉腫, 他) 今日の治療指針. 福井次矢, 高木誠, 小室一成 編, 東京, 医学書院. 2014. p1018-1019.
5. 森井健司, 望月一男: 第8章骨・軟部腫瘍8. 骨・軟部腫瘍における治療抵抗性の探求. 先端医療シリーズ44 臨床医のための最新整形外科. 平澤泰介, 三浪明男, 戸山芳昭 編, 東京, 寺田国際事務所/先端医療技術研究所. 2013. p162-165.

特許等知的財産関係報告書

1. 森井健司: 高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究. 厚生労働省 がん臨床研究事業 分担研究報告書.

その他

1. 里見和彦: 若き整形外科医に(私論). 整形外科 64:324, 2013.
2. 市村正一: フォルテオ PINP 座談会, 東京, 平成25年6月16日.
3. 市村正一: 骨粗鬆症. こまど34: 4-8, 東京, 平成25年7月1日.
4. 市村正一: 週刊朝日 MOOK 新「名医」の最新治療 2014: 60-63, 平成25年12月20日.
5. 森井健司: 第11回関東骨軟部腫瘍の基礎を語る会主催, 東京, 平成25年10月12日.

平成24年度追加分

口演

発表(学会, 研究会)

1. 高山拓人: 橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレート固定法の治療経験～成績不良例の検討～. 第4回加納岩医療フォーラム, 山梨, 平成24年9月27日.
2. 高山拓人: OM Femoral Nail を用いた大腿骨転子部

骨折の治療成績, 第4回加納岩医療フォーラム, 山梨, 平成24年9月27日.

3. 高山拓人: 舟状骨偽関節に対する血管柄付き骨移植術の治療経験. 第27回東日本手外科研究会, 東京, 平成25年1月26日.
4. 高山拓人: 後期高齢者(75歳以上)の上腕骨遠位端骨折に対するLCP-Distal Humerus Plateの治療経験. 第25回日本肘関節学会学術集会, 東京, 平成25年2月8-9日.
5. 高山拓人: 橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレート固定法の治療成績. 第39回山梨県総合医学会, 山梨, 平成25年3月10日.
6. 高山拓人: 難治性舟状骨偽関節に対する血管柄付き骨移植術の治療経験. 第39回山梨県総合医学会, 山梨, 平成25年3月10日.
7. 高山拓人: OM Short Femoral Nail と Multi Fixation Hip Screw Nail System を用いた大腿骨転子部骨折の治療成績. 第53回関東整形災害外科学会, 宇都宮, 平成25年3月28-29日.

皮膚科学教室

口演

1. 塩原哲夫: ランチョンセミナー2. アトピー性皮膚炎: 病態と外用療法の視点から. アトピー性皮膚炎の病態について: 自然免疫, 衛生仮説の側面から. 第29回日本臨床皮膚科医会臨床学術大会, 名古屋, 平成25年4月6日.
2. Takahashi R (Division of Flow Cytometry, Kyorin Univ), Shiohara T: Suppressive CD 14dimCD16+ monocytes contribute defective anti-viral immune responses in eczema herpeticum. International Investigative Dermatology 2013, Scotland, May 8-11, 2013.
3. Ushigome Y, Takahashi R (Division of Flow Cytometry, Kyorin Univ), Shiohara T: CD16+patrolling monocytes(pMO)sensing HSV negatively control regulatory T cell (Treg) responses in severe drug eruptions. The 8th Meeting of International Investigative Dermatology 2013, Scotland, May 8-11, 2013.
4. Ukida A¹, Aoyama Y¹, Shirafuji Y, Umemura H¹, Kamiya K¹, Shiohara T, Iwatsuki K¹: (¹Okayama Univ): Steroid treatment during the acute stage of severe drug eruptions is associated with improved long-term outcomes in the generation of autoantibodies: longitudinal analysis up to 12 years of autoantibodies against epidermal proteins. The 8th Meeting of International Investigative Dermatology 2013, Scotland, May 8-11, 2013.
5. 佐藤洋平, 平原和久, 狩野葉子: 肺アスペルギルス症患者に生じた急性汎発性発疹性膿疱症(AGEP)の1例. 日本皮膚科学会 第848回東京地方会, 東京, 平成25年5月18日.
6. 狩野葉子: マイコプラズマ感染に関連した皮膚病変. 日本マイコプラズマ学会 第40回学術集会, 東

- 京,平成25年5月23-24日.
7. 水川良子:教育講演4. 臨床医にとっての研究 発汗異常が教えてくれる皮膚疾患の新たな側面. 第112回日本皮膚科学会総会, 横浜, 平成25年6月14-16日.
 8. 塩原哲夫:教育講演8. 汗の生理と関連疾患 汗とアレルギー. 第112回日本皮膚科学会総会, 横浜, 平成25年6月14-16日.
 9. 塩原哲夫:教育講演16. 難治性の蕁麻疹をいかに克服するか 蕁麻疹に対するステロイド治療の適否. 第112回日本皮膚科学会総会, 横浜, 平成25年6月14-16日.
 10. 塩原哲夫:教育講演23. アトピー性皮膚炎:バリア障害による表皮と免疫のクロストーク 外用治療によるバリア機能の回復. 第112回日本皮膚科学会総会, 横浜, 平成25年6月14-16日.
 11. 石田正:教育講演 27. 重症薬疹のトピックス あたらしい重症薬疹とその臨床像. 第112回日本皮膚科学会総会, 横浜, 平成25年6月14-16日.
 12. 塩原哲夫:教育講演44. ウイルス感染症の病態と予防~急性発疹症を中心に~帯状疱疹の多様な臨床症状. 第112回日本皮膚科学会総会, 横浜, 平成25年6月14-16日.
 13. 平原和久, 佐藤洋平, 堀江千穂, 五味方樹, 狩野葉子, 塩原哲夫: SJS/TEN の治療経過中のサイトメガロウイルスの検討. 第112回日本皮膚科学会総会, 横浜, 平成25年6月14-16日.
 14. 青山裕美¹, 神谷浩二¹, 濱田利久¹, 林宏明², 藤本亘², 塩原哲夫, 岩月啓氏¹ (岡山大,²川崎医大): 天疱瘡と類天疱瘡に対する二重膜濾過血漿交換療法と全血漿交換療法施行時の血清 IL-10濃度の検討. 第112回日本皮膚科学会総会, 横浜, 平成25年6月14-16日.
 15. 平原和久, 佐藤洋平, 堀江千穂, 五味方樹, 狩野葉子, 塩原哲夫: SJS/TEN の治療経過中のサイトメガロウイルスの検討. 第112回日本皮膚科学会総会, 横浜, 平成25年6月14-16日.
 16. 高橋良 (同フローサイトメトリー部門, 皮膚科): アトピー性皮膚炎患者におけるヘルペスウイルスの再活性化と制御性T細胞の動態. 第23回日本サイトメトリー学会, 東京, 平成25年6月22日.
 17. Shiohara T: Role of viruses in various forms of cutaneous drug eruption. EAACI-WAO World Allergy & Asthma Congress, Italy, June 24, 2013.
 18. Shiohara T: DRESS-Physiopathologie. Seminaire ALLERGOLYON 2013, France, June 27, 2013.
 19. 塩原哲夫:ランチョンセミナー 目からウロコ(?)の外用療法—プロトピックの使い方と発汗異常. 第11回南九州地区合同地方会, 那覇, 平成25年7月14日.
 20. 塩原哲夫:重症薬疹を見逃さないために. 第10回日本うつ病学会総会ランチョンセミナー, 北九州, 平成25年7月19日.
 21. 新田桐子, 狩野葉子, 塩原哲夫: 皮膚科医が造影MRIにより診断し得た骨髄炎. 日本皮膚科学会 第849回東京地方会, 東京, 平成25年7月20日.
 22. Komatsu Y, Shiohara T: A 30-year old man presenting with Behçet's disease-like papules and pustules after pharyngitis. The 3rd Munich International Summer Academy of Practical Dermatology, Germany, July 21-26, 2013.
 23. Shiohara T: Meet the Expert. Cutaneous Drug Eruption. 3rd Munich International Summer Academy of Practical Dermatology, Germany, July 24, 2013.
 24. 小松由莉江, 牛込悠紀子, 佐藤洋平, 水川良子, 塩原哲夫: アミロイド苔癬における発汗障害の関与. 第3回汗と皮膚の勉強会, 東京, 平成25年8月7日.
 25. 狩野葉子:重症薬疹 救急治療を要する皮膚疾患. 日本皮膚科学会 研修講習会必須 A コース, 東京, 平成25年8月24日.
 26. 塩原哲夫:シンポジウム1「発汗異常を伴う皮膚疾患の病態と治療」発汗異常とアレルギー. 第21回日本発汗学会総会, 松本, 平成25年8月30日.
 27. 塩原哲夫:ランチョンセミナー1「一歩上を行く匠のアトピー性皮膚炎治療」アトピー性皮膚炎における角層水分量の重要性. 第77回日本皮膚科学会東部支部学術大会, 大宮, 平成25年9月21-22日.
 28. 塩原哲夫: Visual Dermatology Archives ベストセレクション. 第77回日本皮膚科学会東部支部学術大会, 大宮, 平成25年9月21-22日.
 29. 福田知雄, 岡崎亜希, 高山信之 (同血液内科): 四肢に多発性皮膚潰瘍が生じるも, 自然消退した節外性NK/T細胞リンパ腫 (疑) の1例. 第77回日本皮膚科学会東部学術大会, 大宮, 平成25年9月21-22日.
 30. 塩原哲夫:薬疹を見逃さないために必要な知識. 久喜市医師会学術講演会, 久喜, 平成25年10月10日.
 31. 塩原哲夫:薬疹の多様性とその反応. 第9回神奈川皮膚免疫アレルギー疾患研究会 特別講演, 横浜, 平成25年10月12日.
 32. 堀江千穂, 平原和久, 塩原哲夫:再発を繰り返すリンパ節郭清患者における蜂窩織炎の1例. 第64回日本皮膚科学会 中部支部学術大会, 名古屋, 平成25年11月2-3日.
 33. 新田桐子, 早川順, 塩原哲夫: ソラフェニブ投与後急速に出現したケラトアkantoma様有棘細胞癌 (KA-like SCC) の1例. 第65回日本皮膚科学会 西部学術大会, 鹿児島, 平成25年11月9-10日.
 34. 三友貴代, 牛込悠紀子, 福田知雄, 狩野葉子, 塩原哲夫: 皮膚サイコイドーシスが疑われたクロモミコーシスの1例. 日本皮膚科学会 第851回東京地方会, 東京, 平成25年11月16日.
 35. 牛込悠紀子, 狩野葉子, 塩原哲夫: 扁平上皮癌に随伴した Bazex 症候群の1例. 第42回杏林医学会総会, 三鷹, 平成25年11月16日.
 36. Horie C, Hirahara K, Kano Y, Shiohara T: DIHS/DRESS presenting a variety of symptoms caused by cytomegalovirus reactivation. Pre-international Congress on Cutaneous Adverse Drug Reactions Meeting, Taiwan, Nov 15, 2013.

37. Kano Y, Shiohara T: Therapeutic guidance of SCAR (SJS/TEN, DRESS/DIHS) from Japan. Pre-international Congress on Cutaneous Adverse Drug Reactions Meeting, Taiwan, Nov 15, 2013.
38. Kano Y: Long-term outcome of patients with DIHS/DRESS in a single institution. 8th International Congress on Cutaneous Adverse Drug Reactions Meeting, Taiwan, Nov16-17, 2013.
39. Mizukawa Y, Shiohara Y: Mechanisms insuring regulatory T cell recruitment in fixed drug eruption lesions. 8th International Congress on Cutaneous Adverse Drug Reactions Meeting, Taiwan, Nov 16-17, 2013.
40. Shiohara T: The role of virus in drug hypersensitivity syndrome. 8th International Congress on Cutaneous Adverse Drug Reactions Meeting, Taiwan, Nov 16-17, 2013.
41. Kurosawa M¹, Kano Y, Shiohara T, Yokoyama K¹ (¹Juntendo Univ): Epidemiological and clinical characteristics of Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis in Japan. 8th International Congress on Cutaneous Adverse Drug Reactions Meeting, Taiwan, Nov16-17, 2013.
42. Aoyama Y¹, Ukida A¹, Shirafuji Y¹, Umemura H¹, Kamiya K¹, Ushigome Y, Kano Y, Shiohara T, Iwatsuki K¹ (¹Okayama Univ): Steroid therapy during the acute stage of severe drug eruptions is associated with the generation of autoantibodies against epidermal proteins. 8th International Congress on Cutaneous Adverse Drug Reactions Meeting, Taiwan, Nov 16-17, 2013.
43. Sotozono C¹, Kinoshita S¹, Kitami A², Iijima M², Aihara M³, Ikezawa Z³, Kano Y, Shiohara T, Shirakata Y⁴, Hashimoto K⁴ (¹Kyoto prefectural Univ, ²Showa Univ, ³Yokohama City Univ, ⁴Ehime Univ): Etiologic features of Stevens-Johnson Syndrome and toxic epidermal necrolysis with ocular involvement. 8th International Congress on Cutaneous Adverse Drug Reactions Meeting, Taiwan, Nov 16-17, 2013.
44. 堀江千穂, 平原和久, 狩野葉子, 塩原哲夫: 移植片対宿主病 (GVHD) と同様の病態を考えた薬剤性過敏症候群 (DIHS) の1例. 第43回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会, 金沢, 平成25年11月29日 - 12月1日.
45. 平原和久, 佐藤洋平, 倉田麻衣子, 堀江千穂, 五味方樹, 狩野葉子, 塩原哲夫: 重症薬疹 (DIHS/SJS/TEN) における治療経過中のサイトメガロウイルスの検討. 第43回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会, 金沢, 平成25年11月29日 - 12月1日.
46. 小川浩平¹, 森戸啓統¹, 長谷川文子¹, 宮川史¹, 小林信彦¹, 渡辺秀晃², 末木博彦², 藤山幹子³, 橋本公二³, 狩野葉子, 塩原哲夫, 伊藤加世子⁴, 藤田浩之⁴, 相原道子⁴, 浅田秀夫¹ (¹奈良県立医科大学, ²昭和大学, ³愛媛大学, ⁴横浜市立大学): 薬剤性過敏症候群 (DIHS) における血清 TARC 値の上昇とヒトヘルペスウイルス6との関連. 第43回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会, 金沢, 平成25年11月29日 - 12月1日.
47. 水川良子, 何川宇啓, 塩原哲夫, 高山信之 (同血液内科): 光線過敏症皮膚炎様症状および下腿の浮腫性硬化性病変が交互に生じた慢性 GVHD の1例. 第43回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会, 金沢, 平成25年11月29日 - 12月1日.
48. 倉田麻衣子, 平原和久, 佐藤洋平, 堀江千穂, 狩野葉子, 塩原哲夫: ラモトリギンによる薬疹 - 教室例の解析. 第43回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会, 金沢, 平成25年11月29日 - 12月1日.
49. 水川良子, 何川宇啓, 塩原哲夫: 角質水分量は皮膚アレルギー反応の強さを決めている. 第9回 TAP 研究会, 東京, 平成25年12月7日.
50. 佐藤洋平, 平原和久, 狩野葉子, 塩原哲夫: 薬剤性過敏症候群 (DIHS) 回復後に無痛性甲状腺炎を続発した1例. 日本皮膚科学会 第852回東京地方会, 東京, 平成25年12月14日.
51. 佐藤典子¹, 勝田倫江¹ (¹公立阿伎留), 加藤峰幸, 塩原哲夫: マイコプラズマ感染後にアナフィラクトイド紫斑と結節性紅斑を生じた1例. 日本皮膚科学会 第853回東京地方会, 東京, 平成26年1月18日.
52. 金高由佳, 小松由莉江, 平原和久, 塩原哲夫: インフルエンザワクチン接種後に発症した帯状疱疹の1例. 日本皮膚科学会 第853回東京地方会, 東京, 平成26年1月18日.
53. 堀江千穂, 平原和久, 清水理恵, 塩原哲夫: 発症に水痘帯状疱疹ウイルスの関与が示唆された溶連菌感染症. 第77回日本皮膚科学会 東京支部学術大会, 東京, 平成26年2月16 - 17日.
54. 倉田麻衣子, 水川良子, 徳山道生, 狩野葉子, 塩原哲夫: 帯状疱疹 (HZ) の発症部位と HSV 抗体の関連 - 当科入院症例の解析. 第77回日本皮膚科学会 東京支部学術大会, 東京, 平成26年2月16 - 17日.
55. Sotozono C¹, Kano Y, Shiohara T, Sakabayashi S², Kinoshita S¹ (¹Kyoto prefectural Univ, ²Translational Research Informatics Center, Kobe): Etiologic Features of Stevens-Johnson syndrome(SJS) and Toxic Epidermal Necrolysis(TEN)with Ocular Involvement. World Ophthalmology Congress 2014, Tokyo, April 2-4, 2014.

論文

1. 塩原哲夫: 蕁麻疹と感染症の関わり. アレルギー免疫 20: 211-215, 2013.
2. 水川良子: 写真で学ぶアレルギー これが DIHS の顔の膿疱だ! 皮アレルギーフロンテ 11: 52, 2013.
3. 水川良子: 写真で学ぶアレルギー これが間擦疹型薬疹だ! 皮アレルギーフロンテ 11: 53, 2013.
4. Shiohara T: Die rolle viraler infektionen bei schwerer arzneimittelreaktionen. Der Bayerische Internist 33: 14-20, 2013.
5. 倉田麻衣子, 平原和久, 五味方樹, 狩野葉子, 塩原哲夫: 粘膜症状が強く認められたマイコプラズマ感染による Stevens-Johnson 症候群 (SJS) の1例. 日皮会誌 123: 318, 2013.
6. 狩野葉子: 薬剤性過敏症候群の治療. 臨免疫・ア

- レルギー科 59: 471-476, 2013.
7. 平原和久: 薬疹の臨床診断における注意点と検査手順. *Visual Dermatology* 12: 408-413, 2013.
 8. 塩原哲夫: 憎悪・進展有害事象かの見極めと対応のポイント ステロイド薬中止後の症状の悪化とカポジ水痘様発疹症. *薬局* 64: 1926-1932, 2013.
 9. 狩野葉子, 倉田麻衣子, 佐藤洋平, 平原和久: マイコプラズマ感染に関連した皮膚病変. *日本マイコプラズマ学会雑誌* 40: 63-65, 2013.
 10. Ushigome Y, Kano Y, Ishida T, Hirahara K, Shiohara T: Short-and long-term outcomes of 34 patients with drug-induced hypersensitivity syndrome in a single institution. *J Am Acad Dermatol* 68: 721-728, 2013.
 11. Hayakawa J, Mizukawa Y, Kurata M, Shiohara T: A syringotropic variant of cutaneous sarcoidosis -Presentation of 3 cases exhibiting defective sweating responses. *J Am Acad Dermatol* 68: 1016-1021, 2013.
 12. Saraya T¹, Mikoshiba M², Kamiyama H³, Yoshizumi M⁴, Tsuchida S³, Tsukagoshi H⁴, Ishioka T⁴, Terada M³, Tanabe E⁵, Tomioka C³, Ishii H¹, Kimura H⁶, Kozaka K⁴, Shiohara T, Takizawa H¹, Goto H¹(¹Department of Respiratory, Kyorin Univ, ²Japan Red Cross Musashino Hospital, ³Gunma Prefectural Cancer Center, ⁴Juntendo Naika Hospital, Gunma, ⁵Juntendo Naika Hospital, Tokyo, ⁶National Institute of Infectious Diseases): Evidence for reactivation of human herpesvirus 6 in generalized lymphadenopathy in a patient with drug-induced hypersensitivity syndrome. *J Clin Microbiol* 51: 1979-1982, 2013.
 13. 塩原哲夫: ステロイド外用薬-アトピー性皮膚炎に活かす視点. 特集に当たって. *薬局* 64: 13, 2013.
 14. 塩原哲夫: ステロイド外用薬-アトピー性皮膚炎に活かす視点. ステロイド薬中止後の症状の悪化とカポジ水痘様発疹症. *薬局* 64: 1926-1932, 2013.
 15. 塩原哲夫: 解説 免疫再構築症候群. *リウマチ科* 49: 741-749, 2013.
 16. 塩原哲夫: 薬疹の臨床型と病因. *日医師会誌* 142: 493-497, 2013.
 17. 工藤千秋¹, 山川伸隆², 中村祐³ (1くどうちあき脳神経外科クリニック, ²伊勢市立伊勢総合病院 脳神経外科, ³香川大学 精神神経医学講座) 塩原哲夫: 保湿剤の塗布がリバスチグミン貼付剤の皮膚症状を軽減させる 皮脂欠乏症を伴う認知症患者に保湿剤を貼付1週間前から塗布する有用性の検討. *日早期認知症会誌* 6: 98-102, 2013.
 18. 狩野葉子: 見逃したくない皮膚症状~全身疾患を診断するための考え方 薬剤性過敏症症候群. *Mod Physician* 33: 995-998, 2013.
 19. 佐藤洋平, 狩野葉子, 塩原哲夫: 筋症状を伴ったアナフィラクトイド紫斑. *皮膚診療* 35: 747-750, 2013.
 20. 早川順, 小松由莉江, 塩原哲夫: クリオグロブリン血症性紫斑から多発性骨髄腫の診断に至った例. *皮膚診療* 35: 869-872, 2013.
 21. 福田知雄: 皮膚悪性腫瘍に対する非観血的治療法の取り組み. *杏林医学会誌* 44: 159-166, 2013.
 22. Hirahara K, Kano Y, Sato Y, Horie C, Okazaki A, Ishida T, Aoyama Y¹, Shiohara T (¹ Okayama Univ): Methylprednisolone pulse therapy for Stevens-Johnson syndrome/toxic epidermal necrolysis: Clinical evaluation and analysis of biomarkers. *J Am Acad Dermatol* 69: 496-498, 2013.
 23. Shiohara T: The role of viral infection in the development of severe drug eruptions. *Dermatologica Sinica* 31: 205-210, 2013.
 24. Kano Y, Shiohara T: Long-Term outcome of patients with severe cutaneous adverse reactions. *Dermatologica Sinica* 31: 211-216, 2013.
 25. 塩原哲夫: 触る皮膚科医, 触らぬ皮膚科医. *臨皮* 67: 844-845, 2013.
 26. 塩原哲夫: 長期予後からみた common disease の行く末. 羅針盤. 病気は人生の変遷にも似て. *Visual Dermatology* 12: 1019, 2013.
 27. 塩原哲夫: 長期予後からみた common disease の行く末. 総説. 病気の色は移りにけりな, いたずらに長期観察例から学ぶ疾患の本質. *Visual Dermatology* 12: 1022-1025, 2013.
 28. 塩原哲夫: 長期予後からみた common disease の行く末. 30年間経過を見ることのできた難治性乾癬. *Visual Dermatology* 12: 1026-1028, 2013.
 29. 塩原哲夫: 長期予後からみた common disease の行く末. (自然) 軽快が得られた疾患 11年間と30年間観察し続けた掌蹠膿疱症の2例. *Visual Dermatology* 12: 1029-1031, 2013.
 30. 塩原哲夫: 長期予後からみた common disease の行く末. 10年以上経過観察し, 軽快と自然治癒を認めた類乾癬の2例. *Visual Dermatology* 12: 1032-1034, 2013.
 31. 狩野葉子: 約20年の観察中, 乳癌の肺転移とともに皮膚症状が再燃した皮膚筋炎. *Visual Dermatology* 12: 1074-1075, 2013.
 32. 狩野葉子: 4年間の観察中, 時期を間違えて異なる臨床像を呈した環状肉芽腫. *Visual Dermatology* 12: 1076-1078, 2013.
 33. 福田知雄: スキンケア-乳幼児から高齢者まで-真菌症とスキンケア. *Derma* 210: 62-67, 2013.
 34. 狩野葉子: 皮膚症状を伴う消化器疾患. *消臨* 16: 449-453, 2013.
 35. 塩原哲夫: 薬剤性過敏症症候群. *アレルギー免疫* 20: 1793-1802, 2013.
 36. 小川浩平¹, 森戸啓統¹, 長谷川文子¹, 宮川史¹, 小林信彦¹, 渡辺秀晃², 末木博彦², 藤山幹子³, 橋本公二³, 狩野葉子, 塩原哲夫, 伊藤香世子⁴, 藤田浩之⁴, 相原道子⁴, 浅田秀夫¹ (¹奈良県立医科大学, ²昭和大学, ³愛媛大, ⁴横浜市大): 薬剤性過敏症症候群 (DIHS) における血清 TARC 値の上昇とヒトヘルペスウイルス6との関連. *J Environ Dermatol Cutan Allergol* 7: 444, 2013.
 37. 水川良子, 何川宇啓, 塩原哲夫, 高山信之 (同血液内科): 光線過敏症皮膚炎様症状および下腿の浮腫

- 性硬化病変が交互に生じた慢性のGVHDの1例. *J Environ Dermatol Cutan Allergol* 7: 487, 2013.
38. 倉田麻衣子, 平原和久, 佐藤洋平, 堀江千穂, 狩野葉子, 塩原哲夫: ラモトリギンによる薬疹-教室例の解析. *J Environ Dermatol Cutan Allergol* 7: 492, 2013.
 39. 小松由莉江: 3rd Munich International Summer Academy of Practical Dermatology に参加して. *臨皮* 67: 1096-1098, 2013.
 40. 塩原哲夫: 経皮吸収型製剤による皮膚へのトラブルとその対策・対応. *薬局* 64: 3159-3166, 2013.
 41. 福田知雄: Brown病とのつきあい方 イミキモドとPDTの比較. *Visual Dermatol* 12: 1299-1301, 2013.
 42. 塩原哲夫: 発汗異常とアレルギー. *発汗学* 20: 62-64, 2013.
 43. 塩原哲夫: 皮膚アレルギー 内科医のための診断・鑑別と治療の要点. *Med Pract* 31: 287-290, 2013.
 44. 水川良子: 臨床医にとっての研究 発汗異常が教えてくれる皮膚疾患の新たな側面. *日皮会誌* 123: 2447-2448, 2013.
 45. 塩原哲夫: 汗の生理と関連疾患 汗とアレルギー. *日皮会誌* 123: 2500-2502, 2013.
 46. 塩原哲夫: 難治性の蕁麻疹をいかに克服するか 蕁麻疹に対する内服ステロイドの適否. *日皮会誌* 123: 2615-2617, 2013.
 47. 塩原哲夫: アトピー性皮膚炎: バリア障害による表皮と免疫のクロストーク 外用治療によるバリア機能の回復. *日皮会誌* 123: 2711-2713, 2013.
 48. 石田正: 重症薬疹のトピックス あたらしい重症薬疹とその臨床像. *日皮会誌* 123: 2755-2758, 2013.
 49. 塩原哲夫: ウイルス感染症の病態と予防~急性発疹症を中心に~帯状疱疹の多様な臨床症状. *日皮会誌* 123: 2996-2998, 2013.
 50. 平原和久: これがカボジ水痘様発疹症だ! 皮アレルギーフロンテ. 11: 54, 2013.
 51. 小松由莉江: これがアミロイド苔癬だ! 皮アレルギーフロンテ. 11: 55, 2013.
 52. 塩原哲夫: 座談会 経口免疫におけるパラダイムシフト. *皮アレルギーフロンテ* 11: 163-169, 2013.
 53. Kitagaki H¹, Hiyama H¹, Kitazawa T¹, Shiohara T (Ako Research Institute, Otsuka Pharmaceutical): Psychological stress with long-standing allergic dermatitis causes psychodermatological conditions in Mice. *J Invest Dermatol* 134: 1561-1569, 2014.
 54. 何川宇啓, 水川良子, 塩原哲夫, 横川真紀¹, 佐野栄紀¹ (高知大学): インフリキシマブ投与中にS状結腸癌が発見された尋常性乾癬の1例. *臨皮* 68: 18-22, 2014.
 55. Demoly P¹, Adkinson F², Brockow K³, Castells M⁴, Chiriac AM¹, Greenberger PA⁵, Khan DA⁶, Lang DM⁷, Park HS⁸, Pichler W⁹, Sanchez-Borges M¹⁰, Shiohara T, Thong BY¹¹ (University hospital of Montpellier, France and Sorbonne Universitiés, ²The Hopkins Bayview Medical Campus, Baltimore, MD, ³Technische Universität München, ⁴Brigham and Women's Hospital, Boston MA, ⁵Northwestern University Feinberg School of Medicine, Chicago IL, ⁶University of Texas Southwestern Medical Center, Dallas, ⁷Cleveland Clinic Foundation, Cleveland, OH, ⁸Ajou University School of Medicine, Suwon, ⁹Inselspital, University of Bern, ¹⁰Centro Medico Docente La Trinidad, Caracas, ¹¹Tan Tock Seng Hospital, Singapore): International consensus on drug allergy. *Allergy* 69: 420-437, 2014.
 56. Ishida T, Kano Y, Mizukawa Y, Shiohara T: The dynamics of herpesvirus reactivations during and after severe drug eruptions: their relation to the clinical phenotype and therapeutic outcome. *Allergy* 69: 798-805, 2014.
 57. Takahashi R (Division of Flow Cytometry, Kyorin Univ), Sato Y, Kurata M, Yamazaki Y, Kimishima M, Shiohara T: Pathological role of regulatory T cell in the initiation and maintenance of eczema herpeticum lesions. *J Immunol* 192: 969-978, 2014.
 58. 塩原哲夫: 痒疹の粘り強い治療 外用療法: 保湿剤など. *デルマ* 214: 29-34, 2014
 59. 石田正: ラモトリギンによるふつうの薬疹 (重症薬疹を除く). *Visual Dermatol* 13: 138-139, 2014.
 60. 塩原哲夫: 治療 外来を訪れるアレルギー疾患の臨床の最前線と一般日常診療の実際 皮膚アレルギー 内科医のための診断・鑑別と治療の要点. *Med Pract* 31: 287-290, 2014.
 61. 塩原哲夫: 質疑応答 固定薬疹の病態. *日小皮会誌* 33: 88-89, 2014.
 62. 狩野葉子: 薬剤性過敏症症候群 (DIHS) の治療と管理. *アレルギーの臨* 34: 92-95, 2014.
 63. 狩野葉子, 塩原哲夫: トピックス 重症薬疹 アレルギー疾患ガイドライン改定について. *アレルギー免疫* 21: 470-479, 2014.
- 著書**
1. 塩原哲夫: 薬剤による多形滲出性紅斑の最新知見. *皮膚科臨床アセット* 18. 紅斑と痒疹-病態治療の新たな展開 (古江増隆, 横関博雄編). 東京, 中山書店, 2013. P.30-38.
 2. 塩原哲夫: 慢性痒疹の臨床症状と必要な検査. *皮膚科臨床アセット* 18. 紅斑と痒疹-病態治療の新たな展開 (古江増隆, 横関博雄編). 東京, 中山書店, 2013. P.198-202.
 3. 塩原哲夫: 自然免疫, 衛生仮説からみたアトピー性皮膚炎. *What's new in 皮膚科学* 2014-2015. 東京, メディカルレビュー社, 2013. p. 36-38.
 4. 福田知雄: 乳房外パジェット病の非手術療法. *WHAT'S NEW in 皮膚科学* 2014-2015. 宮地良樹編, 東京, メディカルレビュー社, 2014. p.140-141.
 5. Descamps V¹, Tohyama M², Kano Y, Shiohara T (Hôpital Bichat, Université Paris, ²Ehime Univ): HHV-6A and HHV-6B in drug-induced hypersensitivity syndrome/drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms. In: Human herpesviruses HHV-6A, HHV-6B, and HHV-7, Diagnosis and clinical management. 3rd Ed. Flamand L, Lautenshlager I, Krueger G, Abrashi D, eds. New

York, Elsevier, 2014. p.179-200.

受賞, 特許等知的財産関係, 学会主催, 報告書

1. 塩原哲夫: 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 重症多形滲出性紅斑に関する調査研究 平成25年度総括・分担研究報告書(平成26年3月).
2. 塩原哲夫: 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 重症多形滲出性紅斑に関する調査研究 平成22~25年度 総合研究報告書(平成26年3月).

その他

1. 塩原哲夫: リバスタッチパッチの皮膚症状対策について. Rivastach Opinion Leaders Meeting 2013, 東京, 平成25年4月6日.
2. 塩原哲夫: アトピー性皮膚炎のスキンケアと外用療法. 徳島県小児科学術講演会, 高松, 平成25年4月17日.
3. 水川良子: 日経メディクイズー皮膚. 日経メディカル, 平成25年4月.
4. 狩野葉子: Stevens-Johnson 症候群. ラジオ NIKKEI ドクターサロン, 平成25年4月26日.
5. 塩原哲夫: 認知症, 高齢者へのスキンシップの大切さ. 認知症ー手をあてるフォーラム, 東京, 平成25年5月18日.
6. 堀江千穂: リンパ節郭清患者における蜂窩織炎の特徴. 第12回皮膚合同カンファレンス, 武蔵野, 平成25年5月25日.
7. 塩原哲夫: 皮膚症状対策. Dementia Expert Meeting, 東京, 平成25年5月26日.
8. 塩原哲夫: 多彩な薬疹に対する対応を考えるー抗アレルギー薬の有用性. 旭川皮膚アレルギーセミナー, 旭川, 平成25年6月7日.
9. 塩原哲夫: 抗精神薬の副作用診断に関して. 日本精神神経学会 薬事委員会向精神薬の副作用診断・治療ガイドランタスクフォース. 東京, 平成25年6月8日.
10. 狩野葉子: 日常診療に必要な薬疹の知識 - Stevens-Johnson 症候群を中心に - . 気仙医師会学術講演会, 気仙沼, 平成25年6月7日.
11. 塩原哲夫: リバスタッチパッチの皮膚症状対策について. Rivastach Opinion Leaders Meeting 2013. 東京, 平成25年6月15日.
12. 狩野葉子: 重症薬疹. 日本皮膚科学会認定皮膚科専門医研修講習会テキスト, 日本皮膚科学会刊, 平成25年8月24日.
13. 福田知雄: 知っておきたい真菌症の基礎知識. 2013年愛知県皮膚真菌症フォーラム, 名古屋, 平成25年9月14日.
14. 塩原哲夫: 貼付剤における皮膚症状対策. 区東部認知症学術講演会, 東京, 平成25年9月26日.
15. 塩原哲夫: 効果を最大限に引き出す為の皮膚症状対策. 立川, 平成25年10月1日.
16. 塩原哲夫: 薬疹は薬疹か? 第5回せたたま皮膚科セミナー, 調布, 平成25年10月2日.
17. 狩野葉子: Stevens-Johnson Syndrome. ドクターサロン2013, 57: 27-30, 2013.
18. 岡崎亜希: 知っていますか? 血管肉腫. 第13回皮膚合同カンファレンス, 武蔵野, 平成25年10月5日.
19. 堀江千穂: 特異な臨床を呈するリンパ節郭清後の蜂窩織炎. 第13回皮膚合同カンファレンス, 武蔵野, 平成25年10月5日.
20. 塩原哲夫: 貼付剤の皮膚ケアについて. Dementia Forum in 城西, 東京, 平成25年10月16日.
21. 塩原哲夫: 目からウロコ(?)の外用療法. 中越皮膚科学術講演会, 長岡, 平成25年10月17日.
22. 岡崎亜希: ロドデノールによる皮膚障害ーこれまでの当科受診者の傾向. 多摩皮膚科専門医会10月例会. 東京, 平成25年10月26日.
23. 牛込悠紀子: 扁平上皮癌に随伴した Bazex 症候群の1例. 多摩皮膚科専門医会, 武蔵野, 平成25年10月26日.
24. 塩原哲夫: アトピー性皮膚炎における衛生仮説と自然免疫. 北多摩皮膚科セミナー, 平成25年10月30日.
25. 塩原哲夫: アトピー性皮膚炎におけるスキンケアと外用療法. 第58回福山小児科医学会学術講演会, 福山, 平成25年11月1日.
26. 塩原哲夫: アトピー性皮膚炎におけるスキンケアと外用療法. 第185回筑後小児科医会, 久留米, 平成25年11月6日.
27. 塩原哲夫: 常識を見直そう 汗とスキンケア. 茨城県南スキンケアセミナー, 平成25年11月20日.
28. 早川順: 眼瞼の皮膚疾患. 国分寺眼科医会, 国分寺, 平成25年11月25日.
29. 塩原哲夫: アトピー性皮膚炎におけるスキンケア. 福島県南小児科医会, 平成25年11月28日.
30. 塩原哲夫: 貼付剤における皮膚症状対策. 山梨認知症治療セミナー. 平成25年12月6日.
31. 塩原哲夫: ステロイドの甘い罠. 福島皮膚学術講演会, 福島, 平成25年12月16日.
32. 塩原哲夫: アナフィラキシーの評価および管理に関する世界アレルギー機構ガイドライン(分担翻訳). アレルギー 62: 1464-1500, 2013.
33. 福田知雄: 杏林大学病院皮膚科におけるベルセルナクリームの使用経験. 皮膚疾患フォーラム, 調布, 平成26年1月17日.
34. 塩原哲夫: アトピー性皮膚炎におけるスキンケア. 小児皮膚疾患研究会, 東松山, 平成26年1月28日.
35. 塩原哲夫: 常識を見直そう: 汗とスキンケア. 岡山スキンケアフォーラム, 岡山, 平成26年1月31日.
36. 塩原哲夫: 常識を見直そう 汗とスキンケア. 皮膚科セミナー, 前橋, 平成26年2月13日.
37. 狩野葉子: 日常診療のための薬疹の知識. 第109回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 平成26年2月14日.
38. 狩野葉子: 高齢者にみられる皮膚疾患ー帯状疱疹と疥癬ーよみうりランド慶友病院「感染症対策研修会」, 東京, 平成25年2月18日.
39. 塩原哲夫: ミニ講座. 表面積2mm² スキンケア. ゆいまる, ノバルティス ファーマ, 3号 p.15.
40. 塩原哲夫: 巻頭言 すべては経皮感作から始まる. 皮アレルギーフロンテ 11: 5, 2013.

41. 佐藤洋平: 悪性黒色腫の多彩な臨床像～良性悪性の鑑別～. 第14回皮膚合同カンファレンス, 武蔵野, 平成26年3月5日.
42. 岡崎亜希: これって痤瘡? 間違えやすい皮膚疾患～酒さ様皮膚炎～. 第14回皮膚合同カンファレンス, 武蔵野, 平成26年3月5日.
43. 堀江千穂: 植物依存性運動誘発アナフィラキシーの診断と生活指導. 第14回皮膚合同カンファレンス, 武蔵野, 平成26年3月5日.
44. 早川順: 皮膚乾燥からわかるサルコイドーシス. 第14回皮膚合同カンファレンス, 武蔵野, 平成26年3月5日.
45. 牛込悠紀子, 高橋良 (同サイトメトリー部門, 皮膚科), 塩原哲夫: 重症薬疹における単球と制御性T細胞の検討. 第2回ケラチノサイトと免疫を考える会, 東京, 平成26年3月29日.
46. 塩原哲夫: 常識を見直そう 汗とスキンケア. 青葉区皮膚科専門医会学術講演会, 横浜, 平成26年3月12日.
47. 塩原哲夫: 常識を見直そう 汗とスキンケア. 三重アトピー性皮膚炎学術講演会, 津, 平成26年3月13日.
48. 塩原哲夫: 貼付剤を上手に使う為のコツ. CNS Night Conference 2014, 東京, 平成26年3月17日.
8. 大浦紀彦: 在宅で褥瘡を診るのに必要な知識「在宅医療・緩和ケアカンファレンス」. 特別講演, 三鷹, 平成25年4月16日.
9. 多久嶋亮彦, 栗田昌和, 白石知大, 波利井清紀: 健側顔面神経と患側咬筋神経の二重支配を受ける広背筋移植術による笑いの再建. 第36回日本顔面神経研究会, 那覇, 平成25年4月25日.
10. 大浦紀彦: 難治性創傷と栄養. 東京大学創傷治療と栄養管理勉強会, 東京, 平成25年4月25日.
11. 栗田昌和, 多久嶋亮彦, 白石知大, 波利井清紀: 小児顔面神経麻痺に対する遊離筋肉移植術による「笑い表情」の再建. 第36回日本顔面神経研究会, 那覇, 平成25年4月24-25日.
12. 白石知大, 栗田昌和, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 顔面神経麻痺における眼瞼部の再建. 第36回日本顔面神経研究会, 那覇, 平成25年4月26日.
13. 大浦紀彦: 難しくないこんなに簡単 NPWT. 第10回日本褥瘡学会九州地方会学術集会, 北九州, 平成25年5月10日.
14. CLI に対する V.A.C.ATS 治療システムを用いた局所陰圧閉鎖療法の検討. 第42回日本血管外科学会, 神戸, 平成25年5月30日.
15. Takushima A: Latissimus dorsi versus gracilis FFMT for facial reanimation. 22th Congress of the Spanish Society of Oral and Maxillofacial Surgery, Spain, June 6. 2013.
16. Takushima A: One-stage latissimus dorsi muscle transfer for facial reanimation. Video with demonstration of the surgical technizue. 22th Congress of the Spanish Society of Oral and Maxillofacial Surgery, Spain, June 6. 2013.
17. Takushima A: Double innervated latissimus dorsi muscle transfer. 22th Congress of the Spanish Society of Oral and Maxillofacial Surgery, Spain, June 6. 2013.
18. 大浦紀彦: 難治性創傷と栄養. 横浜みなと赤十字病院 NST 研究会, 平成25年6月7日.
19. 大浦紀彦: 「下肢・足病変の病態と治療」 第10回日本褥瘡学会関東甲信越褥瘡学会地方会学術集会, 幕張, 平成25年6月8日.
20. 成田圭吾, 多久嶋亮彦, 白石知大, 栗田昌和, 平野浩一, 岡崎睦, 波利井清紀: 遊離空腸パッチ移植による咽頭皮膚瘻の再建, 第37回日本頭頸部癌学会, 東京, 平成25年6月13-14日.
21. 大浦紀彦: 最新の重症下肢虚血に対する治療戦略形成外科の立場から. NTT 東日本関東病院 フットケア研究会, 東京, 平成25年6月27日.
22. Takushima A: Double innervated latissimus dorsi muscle transfer for longstanding paralyzed face. XII International Facial Nerve Symposium, USA, June 30. 2013.
23. Kurita M, Takushima A, Yamazaki K, Eto H, Harii K. Neurotiziation of Segmented Lattisimus Dorsi Muscle Through Distal Nerve Stump Dissected from Muscle Berry. XII International Facial Nerve Symposium, USA, Jun 27-Jul 01.2013.
24. 大浦紀彦: CLI(重症下肢虚血)に対する地域連携. 第7回信州 VascularMeeting, 松本, 平成25年7月

形成外科学教室

口 演

1. 大浦紀彦, 倉地功, 加賀谷優, 清家志円, 海咲子, 芝崎由佳, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 重症下肢虚血救済のための形成外科の果たす役割と現状と課題 - 下肢温存群と大切断・状態悪化群の比較検討 - . 第56回日本形成外科学会総会・学術集会, 東京, 平成25年4月3日.
2. 尾崎峰, 成田圭吾, 白石知大, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 外傷性眼球陥凹に対して肋軟骨移植術を施行した症例の検討. 第56回日本形成外科学会総会・学術集会, 東京, 平成25年4月3日.
3. 白石知大, 辻直子, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 人工物を用いた乳房再建. 第56回日本形成外科学会総会, 東京, 平成25年4月4日.
4. 白石知大, 栗田昌和, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 顔面神経麻痺における眼瞼部の再建. 第56回日本形成外科学会総会, 東京, 平成25年4月5日.
5. 成田圭吾: ガイドラインシンポジウム 頭蓋底再建, 第56回日本形成外科学会総会・学術集会, 東京, 平成25年4月3-5日.
6. 江藤ひとみ, 小林よう, 渡辺玲, 中山玲玲, 尾崎峰, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 異所性蒙古斑に対するレーザー治療の検討. 第56回日本形成外科学会総会・学術集会, 東京, 平成25年4月3-5日.
7. 栗田昌和, 白石知大, 成田圭吾, 倉地功, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 指尖部再建における partial second toe pulp free flap の使用経験. 第56回日本形成外科学会総会・学術集会, 東京, 平成25年4月3-5日.

- 6日。
25. 大浦紀彦：CLIの治療戦略 -Strategy for CLI Patients-. 第22回日本心血管インターベンション治療学会学術集会，神戸，平成25年7月11日。
 26. 栗田昌和，江藤ひとみ，菅浩隆，多久嶋亮彦，波利井清紀：皮膚潰瘍上皮化促進を目的とした線維芽細胞からケラチノサイトへの直接転換のこころみ。第5回日本創傷外科学会総会・学術集会，京都，平成25年7月11-12日。
 27. 大浦紀彦，井原玲，清家志円，芝崎由佳，北幸紘，中村正人，飯田修，多久嶋亮彦，波利井清紀：わが国における重症下肢虚血に対する血管内治療(EVT)の現状，可能性と限界 多施設共同前向き研究；Olive Registry より報告。第5回創傷外科学会，京都，平成25年7月12日。
 28. 尾崎峰，成田圭吾，栗田昌和，白石知大，多久嶋亮彦，波利井清紀：下顎関節突起骨折に対する内固定型骨延長器を用いた牽引療法の検討，第15回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会，熊本，平成25年7月13日。
 29. Narita K, Takushima A, Shiraiishi T, Masakazu K, Oura N, Harii K: Is it safe to use free flaps for elderly patients in order to improve their quality of life? 7th Congress of the World Society for Reconstructive Microsurgery, USA, July 11-14, 2013.
 30. 大浦紀彦：New TIME 何が変わったのか。千葉県創傷管理セミナー，千葉，平成25年7月15日。
 31. 大浦紀彦：創傷治療・ケアの深化 あなたなら，どうしますか？ デブリードマンから褥瘡治療を考える。第15回日本褥瘡学会学術集会，神戸，平成25年7月18日。
 32. 大浦紀彦：踵部褥瘡の手術適応と周術期管理方法の標準化へ向けてのアンケート調査 褥瘡の手術適応に関する作業部会。第15回日本褥瘡学会学術集会，神戸，平成25年7月19日。
 33. 尾崎峰，栗田昌和，加地展之，井原玲：高流量血管奇形の診断と治療，第10回血管腫・血管奇形講習会，盛岡，平成25年7月19日。
 34. 栗田昌和，尾崎峰，井原玲，加地展之，多久嶋亮彦，波利井清紀：2-0 ナイロン糸によるコンパートメンテーションを用いた頬部静脈奇形部分切除術の経験。第10回血管腫・血管奇形研究会，盛岡，平成25年7月19-20日。
 35. 井原玲，栗田昌和，尾崎峰，加地展之，多久嶋亮彦，波利井清紀：いちご状血管腫に対するプロプラノロール内服中の体重変化の検討。第10回血管腫・血管奇形研究会，盛岡，平成25年7月19-20日。
 36. 尾崎峰：レーザー治療の実際と疼痛管理。ジェイシスジャパンランチョンセミナー，東京，平成25年7月28日。
 37. 大浦紀彦：透析患者／糖尿病患者の足を考える。第4回足病・フットケアミーティング，東京，平成25年7月29日。
 38. 大浦紀彦：糖尿病性足病変の治療戦略。町田フットケアセミナー，町田，平成25年8月8日。
 39. 大浦紀彦：フットケアと下肢創傷治療 糖尿病性足病変の救済のために。第115回大分ストーマ創傷ケア勉強会，大分，平成25年8月24日。
 40. 大浦紀彦：在宅・一般病院・高機能病棟の褥瘡治療形成外科手術を有効活用し早期治療をめざして。日本在宅褥瘡創傷ケア推進協会 2013年度 関東甲信越地区 床ずれセミナー，東京，平成25年9月8日。
 41. 大浦紀彦：栄養と褥瘡治療・創傷治療。昭和大学病院院内講演会，東京，平成25年9月17日。
 42. 大浦紀彦：最新の創傷治療 -創傷被覆材をどう活用するか-。虎ノ門皮膚外科フォーラム特別講演，東京，平成25年9月27日。
 43. 白石知大，辻直子，多久嶋亮彦，波利井清紀：乳房温存術の適応について。第1回オンコプラスティックサージャリー学会，福岡，平成25年9月19日。
 44. 多久嶋亮彦，波利井清紀：顔面神経損傷に対する神経縫合・神経移行・神経移植・神経血管柄付き遊離筋肉移植。日本マイクロサージャリー学会40周年記念学術集会，盛岡，平成25年9月27日。
 45. 波利井清紀：遊離皮弁移植開発の道程。日本マイクロサージャリー学会40周年記念学術集会，盛岡，平成25年9月26-28日。
 46. 成田圭吾，多久嶋亮彦，白石知大，栗田昌和，尾崎峰，波利井清紀：下顎二次再建における肩甲骨弁の有用性。日本マイクロサージャリー学会40周年記念学術集会，盛岡，平成25年9月26-28日。
 47. 栗田昌和，多久嶋亮彦，成田圭吾，白石知大，菅浩隆，波利井清紀：遊離広背筋移植における移植筋体遠位側神経の縫合による逆行性神経再支配—臨床的検証。日本マイクロサージャリー学会40周年記念学術集会，盛岡，平成25年9月26-28日。
 48. 大浦紀彦：下肢創部感染症の評価と治療 糖尿病・透析患者の下肢感染症 -診断と治療-。第10回日本フットケア学会鎌倉セミナー，鎌倉，平成25年10月12日。
 49. 大浦紀彦：糖尿病・透析患者の足病変の治療戦略—フットケアのポイント—。第2回糖尿病と透析領域における地域連携の会 多職種で支えていく在宅糖尿病，日本イーライリリー特別講演，立川，平成25年10月24日。
 50. 尾崎峰，成田圭吾，井原玲，多久嶋亮彦，波利井清紀：一時的な顔面神経側頭枝麻痺による眉毛下垂に対する簡便な眉毛挙上術。第31回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会，名古屋，平成25年10月24日。
 51. 大浦紀彦：糖尿病性潰瘍患者に対する total-contact casting の有用性。第38回 日本足の外科学会，仙台，平成25年11月1日。
 52. 菅浩隆：Geoffrey Gurtner：脂肪由来幹細胞移植における移植細胞の追跡と作用機序の解明。第22回日本形成外科学会基礎学術集会，新潟，平成25年11月7日。
 53. 江藤ひとみ，栗田昌和，菅浩隆，栗田恵里奈，佐藤卓士，大浦紀彦，多久嶋亮彦，波利井清紀：マイクロレイを用いた真皮浅層線維芽細胞と深層線維芽

- 細胞の比較解析. 第22回日本形成外科学会基礎学術集会, 新潟, 平成25年11月7-8日.
54. 栗田昌和, 江藤ひとみ, 佐藤卓士, 菅浩隆, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 皮膚潰瘍上皮化促進を目的とした線維芽細胞からケラチノサイトへの直接転換のこころみ. 第22回日本形成外科学会基礎学術集会, 新潟, 平成25年11月7-8日.
 55. 江藤ひとみ, 栗田昌和, 菅浩隆, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: マイクロアレイを用いた真皮浅層線維芽細胞と深層線維芽細胞の比較解析. 第22回日本形成外科学会基礎学術集会, 新潟, 平成25年11月7-8日.
 56. 栗田恵里奈, 菅浩隆, 栗田昌和, 江藤ひとみ, 佐藤卓士, 波利井清紀: 単球・マクロファージ系細胞が線維芽細胞に及ぼす影響の解明. 第22回日本形成外科学会基礎学術集会, 新潟, 平成25年11月7-8日.
 57. 木村勇亮, 大浦紀彦, 匂坂正信¹, 江藤ひとみ, 芝崎由佳, 梶谷彩奈, 多久嶋亮彦, 波利井清紀 (¹国立がん研究センター中央病院・形成外科): アルベカシン硫酸塩の血中・組織滲出液濃度の比較及び組織移行性についての検討. 第43回日本創傷治癒学会, 大分, 平成25年11月14日-15日.
 58. 大浦紀彦: 重症下肢虚血の治療戦略. 末梢動脈疾患学術講演会, 東京, 平成25年11月21日.
 59. 大浦紀彦: 「難治性創傷の栄養管理」. 市立旭川病院NST講演会, 旭川, 平成25年11月29日.
 60. 大浦紀彦: CLIに対する創傷処置 創傷治療の基本「CLIは血行再建のみでは救えない!」. KNIC (Kamakura Non-Cardiac Intervention Conference) シンポジウム, 横浜, 平成25年12月20日.
 61. Kurita M, Eto H, Suga H, Takushima A, Harii K: Searching the way of direct conversion of fibroblasts into keratinocytes for the treatment of cutaneous ulcers. Cira International Symposium 2014. Osaka, Jan. 16-18, 2014.
 62. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変に対する治療戦略ーフットケア外来の実際ー. 第17回安佐糖尿病勉強会 (安佐医師会), 広島, 平成25年12月6日.
 63. 大浦紀彦: こんなに面白い! 創傷の世界 創傷治療の基礎から実践まで. 第8回末梢循環セミナー, 横浜, 平成26年1月18日.
 64. 佐藤卓士, 栗田昌和, 江藤ひとみ, 菅浩隆, 栗田恵里奈, 尾崎峰, 井原玲, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 効率的な血管奇形組織からの血管内皮細胞単離法の開発. 第25回東京大学医学部形成外科学教室同門学術集会, 東京, 平成26年1月18日.
 65. 大浦紀彦: CLIを救え! CLI治療を困難にしているものは何か?. 第3回鹿児島PAD学術講演会, 鹿児島, 平成26年1月30日.
 66. 大浦紀彦: Core Laboratory in JET to assess the wounds for clinical trial for Multidisciplinary clinical trial 「完結版: CLIに対する臨床評価指標」. JET2014, 東京, 平成26年2月15日.
 67. 白石知大, 辻直子, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 再建材料と術後整容性・患者満足度について (自家組織, インプラント, インプラント+脂肪注入の比較). 第19回形成外科手術手技学会, 名古屋, 平成26年2月22日.
 68. Ohura N: How to Evaluate Wound Healing and Use of Wounds Labs Japan-U.S. Synergies in Global Medical Device Evaluation & Innovation: Harmonization By Doing (HBD). CRT2014, Washington, Feb.24.2014.
 69. 大浦紀彦: 栄養と褥瘡と創傷治癒. 第10回日本褥瘡学会中部地方会学術集会, 浜松, 平成26年3月2日.
 70. 大浦紀彦: 心臓・大血管手術後創傷への挑戦 NPWTをどう使うか. VAC Summit 2014, 東京, 平成26年3月29日.
- 論文**
1. 多久嶋亮彦: 専門医取得に必要な形成外科手技 口頭試問への対策 顔面神経麻痺の治療. 形成外科 56, 957-966, 2013.
 2. 多久嶋亮彦: 【悪性腫瘍 (第3集)】がんと治療に対する形成外科の関わり. 杏林医学会雑誌 44 (3): 171-178, 2013.
 3. 大浦紀彦, 清家志円, 加賀谷優, 多田明子, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 栄養状態の評価と治療法 創傷の評価と治療法の選択. 形成外科 56: 945-955, 2013.
 4. 大浦紀彦, 栗田昌和, 菅浩隆: ほか褥瘡発生のメカニズム 褥瘡の周術期管理 特集 形成外科における手術スケジュールエキスパートの周術期管理. PEPARS, 83: 77-84, 2013.
 5. 大浦紀彦, 江藤ひとみ, 木村勇亮, 加賀谷優, 芝崎由佳, 梶谷彩奈, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 外用薬と創傷被覆材による創傷の保存的治療 特集 創傷治療マニュアル. PEPARS, 82: 25-32, 2013.
 6. 安井佑, 木下幹雄, 栗田恵里奈, 佐藤大介, 大浦紀彦: 全身性炎症反応症候群を呈した重症感染性足壊疽に対し二期的切断術が有用であった2例. 形成外科 57(3): 303-309, 2014.
 7. 三上智子, 尾崎峰, 加賀谷優, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 外傷後の球後出血により重篤な視力障害を生じた2例. 形成外科 56: 1095-1101, 2013.
 8. 尾崎峰, 中山玲玲: レーザー・光治療による皮膚美容治療 炭酸ガスレーザーによるニキビ痕・水痘痕の治療. 形成外科 56: S35-S40, 2013.
 9. 菅浩隆, 大浦紀彦: 形成外科の基本手技: 褥瘡. 手術 68: 321-324, 2014
 10. 木村勇亮, 大浦紀彦, 梶谷彩奈, 多田明子, 菅浩隆, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 重症下肢虚血に対する創傷治療. 臨床循環器 4: 67-72, 2014.
 11. 福岡大太朗, 菅浩隆: サイトカインを利用した治療法: 脂肪由来幹細胞分泌蛋白を用いて. 形成外科 56: S149-S154, 2013.
 12. Yang S*, Eto H*, Kato H, Doi K, Kuno S, Kinoshita K, Ma H, Tsai CH, Chou WT, Yoshimura K: Comparative Characterization of Stromal Vascular Cells Derived from Three Types of Vascular Wall and Adipose Tissue. Tissue Eng Part A, 19(23-24):2724-34, 2013. *these authors contributed equally to this work.

13. 江藤ひとみ, 大浦紀彦, 木村勇亮, 芝崎由佳, 梶谷彩奈, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 急性創傷に対して縫合か創傷被覆材のみで十分かを見極めるポイント. 薬局 64: 55-58, 2013.
 14. 栗田昌和, 尾崎峰: 薬剤による顔面ケミカルピーリング, resurfacing 療法 レチノインを使った効果的な皮膚美容療法のコツ. 形成外科 56: S88-S93, 2013.
 15. Kurita M, Takushima A, Shiraishi T, Kinoshita M, Ozaki M, Harii K: Recycle of temporal muscle in combination with free muscle transfer in the treatment of facial paralysis. J Plast Reconstr Aesthet Surg ,66(7): 991-995, 2013.
 16. Suga H, Glotzbach JP, Sorkin M, Longaker MT, Gurtner GC. Paracrine mechanism of angiogenesis in adipose-derived stem cell transplantation. Ann Plast Surg, 72: 234-241, 2014.
 17. Kurita M, Yamazaki K, Eto H, Seike S, Takushima A, Harii K: Reinnervation of segmented latissimus dorsi muscle with the distal stump of the thoracodorsal nerve: A preliminary experimental study in rats. Microsurgery, 33(7):545-550, 2013.
 18. Iida S, Takushima A, Ohura N, Sato S, Kurita M, Harii K: Silicone sheet containing all-trans retinoic acid and hydroquinone for the treatment of epidermal melanosis. Dermatol surg. 39(8):1237-42, 2013.
 19. Shiraishi T, Park S, Niu A, Hasegawa H: Congenital hypertrophy of multiple intrinsic muscles of the foot. J Plast Surg Hand Surg. Jul 4. 2013.
- 著書**
1. 大浦紀彦: 壊死・不活性組織. 深化した TIME による褥瘡ケーススタディ, 照林社, 2013.
 2. 大浦紀彦, 細川直登, 清家志円, 加賀谷優, 多久嶋亮彦: VIII 皮膚軟部組織感染症 全身性皮膚軟部組織感染症 ガス壊疽. 別冊新領域別症候群シリーズ 感染症症候群 (第2版) 下 No. 25, 日本臨床, 2013. p523.
 3. 大浦紀彦: 68局所陰圧閉鎖療法 ORTHOPLASTIC SURGERY 四肢再建手術の実際. (監修 平瀬雄一, 矢島弘嗣), 克誠堂, 2013. p270.
 4. 大浦紀彦: 2局所治療を理解する 3免荷 最新版ナースのための糖尿病フットケア技術. (宮路良樹 真田弘美 大江真琴), メディカルレビュー社, 2013. p208-217.
 5. 大浦紀彦: 糖尿病性潰瘍 (非虚血) 痛みの診療ベストプラクティス. (監修 小川節郎 牛田享宏), メディカルレビュー社, 2013. p100.
 6. 大浦紀彦: 手術室 特集「特殊ユニット 他のチーム医療から考える褥瘡ケア」 総説. WOC Nursing, 2014年4月号.
 7. 大浦紀彦: あなたの? にズバリお答えします! 栄養療法のギモン Q&A100+9 臨床応用編【第7章】褥瘡 / 高齢者 / 低栄養 褥瘡患者の経腸栄養の際の注人体位と時間で注意することは何? (Q&A/ 特集). 2013春季増刊, メディカ出版, 2013. p221.
8. 大浦紀彦, 安田浩: 褥瘡治療の "今さら聞けない!" かんたん理解! ドレッシング材 & 外用剤 ドレッシング材と外用剤の使い方・"現実的な"ギモン解決 Q&A (Q&A/ 特集), Expert Nurse, 2013. 29(4): 104-107.
 9. 大浦紀彦: 褥瘡治療の "今さら聞けない!" かんたん理解! ドレッシング材 & 外用剤 これだけはおさえておきたい! "見てわかる" 選択基準 ドレッシング材3つのタイプと選択 (解説 / 特集), Expert Nurse, 2013. 29(4): 88-95.
 10. 大浦紀彦: 褥瘡治療の "今さら聞けない!" かんたん理解! ドレッシング材 & 外用剤 これだけはおさえておきたい! 忘れてはいけない! 褥瘡治療の3つの前提 (解説 / 特集). Expert Nurse, 2013. 29(4): 83-87.
 11. 菅浩隆, 大浦紀彦: 消化器外科医必修! 「形成外科」のエッセンス 形成外科の基本手技. 褥瘡 (解説 / 特集), 2014. 68(3): 321-324.
 12. 福岡大太郎, 菅浩隆: 脂肪由来幹細胞分泌蛋白を利用した毛髪再生治療. 毛髪再生の最前線, シーエムシー出版, 2013. p149-154.
 13. 江藤ひとみ, 大浦紀彦, 木村勇亮, 芝崎由佳, 梶谷彩奈, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 小外傷・熱傷・褥瘡 創傷に対応する「ワザ」と「知恵」急性創傷のピットフォール! 誤った対応をしないポイント. 急性創傷に対して縫合か創傷被覆材のみで十分かを見極めるポイント (解説 / 特集), 64(12): 2013. 2975-2978.
 14. 木村勇亮, 大浦紀彦, 梶谷彩奈, 多田朋子, 菅浩隆, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 重症下肢虚血における創傷治療. 臨床循環器, 南都伸介編, 東京, 医学出版, 2014.No2. p67-72.
 15. 木村勇亮, 大浦紀彦, 梶谷彩奈, 多田朋子, 菅浩隆, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 足潰瘍・壊疽の局所療法. 総合リハビリテーション. 東京, 医学書院, 2014.42(4)p 305-312.
- 特許等知的財産関係, 報告書**
1. 多久嶋亮彦: 早期乳癌に対する術式検討. 分担研究報告書 厚生労働省がん研究助成金櫻庭班
- その他**
1. 大浦紀彦: 編集 看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア.
 2. 大浦紀彦: 企画編集 特殊ユニット 他のチーム医療から考える褥瘡ケア WOC Nursing, 2014年4月号.
 3. 大浦紀彦: 学会主催 第6回東京 CLI の会. 新宿住友スカイルーム, 平成25年4月12日.
 4. 大浦紀彦: 学会主催 第7回東京 CLI の会. 新宿住友スカイルーム, 平成25年7月4日.
 5. 大浦紀彦: 学会主催 第8回東京 CLI の会. 新宿住友スカイルーム, 平成25年10月3日.
 6. 大浦紀彦: 学会主催 第9回東京 CLI の会. 新宿住友スカイルーム, 平成26年1月23日.
 7. 大浦紀彦: 学会主催 多摩地区下肢救済フットケア

- 研究会, 三鷹, 平成25年8月10日.
8. 大浦紀彦: 学会主催 多摩地区 CLI カンファレンス, 三鷹, 平成25年11月16日.
 9. 大浦紀彦: 学会主催 第2回 Tama Limb Salvage and Wound Care Nursing Network, 三鷹, 平成26年2月1日.
 10. 江藤ひとみ: 第56回日本形成外科学会総会・学術集会, 学術奨励賞, 東京, 平成25年4月3-5日.
 11. 栗田昌和: 日本マイクロサージャリー学会40周年記念学術集会 U40エデュケーショナルコンペティション優秀演題賞, 盛岡, 平成25年9月26-28日.

泌尿器科学教室

口 演

1. 中村雄, 二宮直紀, 舛田一樹, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 多発性嚢胞腎における腎容積と腎機能. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌, 平成25年4月25日.
2. 宍戸俊英, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 榎本香織, 藤田直之, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 当院におけるHoLEP (holmium laser enucleation of the prostate) の中期治療成績. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌, 平成25年4月25日.
3. 板谷直, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 当院における腎盂尿管癌の臨床的検討. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌, 平成25年4月25日.
4. 原秀彦, 二宮直紀, 舛田一樹, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 進行性腎細胞癌に対する分子標的治療薬の治療成績. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌, 平成25年4月26日.
5. 林建二郎, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 腸管を利用した尿路変向術が消化管粘膜に及ぼす影響の検討 (中間報告). 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌, 平成25年4月26日.
6. 藤田直之, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄, 寺戸雄一¹ (杏林大・医・病理): VEGF による腎細胞癌術後再発の予測. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌, 平成25年4月27日.
7. 山口剛, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 前立腺癌骨転移におけるゾレドロン酸使用での腎機能推移と治療効果. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌, 平成25年4月27日.
8. 桶川隆嗣, 多武保光宏, 宍戸俊英, 奴田原紀久雄: 杏林大学におけるロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術の初期治療成績. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌, 平成25年4月28日.
9. 多武保光宏, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: PNL 術後の全身性炎症反応症候群 (SIRS) 発症への危険因子. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌, 平成25年4月28日.
10. 田中良典^{1,5}, 奴田原紀久雄², 遠坂顕^{2,5}, 千賀康弘^{3,5}, 川村健二^{4,5}, 佐藤ゆずり¹, 中園周作¹, 赤松展彦¹, 大塚真史¹ (武蔵野赤十字病院, ²とおさかクリニック, ³千賀皮膚科クリニック, ⁴川村クリニック, ⁵多摩前立腺がん医療連携研究会): 前立腺がんの地域連携は連携参加医にどのように認識されているか? —研究会参加者アンケート及び連携医療機関へのアンケートから, 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌, 平成25年4月25日~28日.
11. 奴田原紀久雄, 東原英二, 桶川隆嗣, 宍戸俊英, 多武保光宏, 小林邦典¹, 似鳥健明¹ (杏林大・医・放射線): 常染色体優性多発性嚢胞腎における腎容積と腎機能について, 第56回日本腎臓学会学術総会, 東京, 平成25年5月10日~12日.
12. 武藤智¹, 望月俊雄², 土谷健², 奴田原紀久雄, 西尾妙織³, 花岡一成⁴, 鶴屋和彦⁵, 石村栄治⁶, 成田一衛⁷, 香村衡一⁸, 乳原善文⁹, 堀江重郎¹ (帝京大, ²東京女子医科大, ³北海道大, ⁴東京慈恵会医科大, ⁵九州大, ⁶大阪市立大, ⁷新潟大, ⁸千葉東病院, ⁹虎の門病院): 多発性嚢胞腎患者全国登録による多施設共同研究 (J-PKD レジストリー研究) の登録時データの集計, 第56回日本腎臓学会学術総会, 東京, 平成25年5月10日~12日.
13. 林建二郎, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 75歳以上の高齢者に対する, 膀胱全摘除術の検討. 第26回老年泌尿器科学会, 横浜, 平成25年5月18日.
14. 桶川隆嗣: 前立腺癌の新規薬剤評価における血中循環癌細胞 (Circulating Tumor Cells; CTCs) の測定と, その Characterization の意味とは. 第10回新愛媛泌尿器科診断治療研究会, 愛媛, 平成25年6月8日.
15. 桶川隆嗣: 腎癌バイオマーカーの新知見. 東京 RCC 分子標的薬治療セミナー, 東京, 平成25年6月14日.
16. 奴田原紀久雄: 次期軟性尿管ビデオスコープ技術小委員会 最終報告. 第17回泌尿器内視鏡懇話会, 東京, 平成25年6月22日.
17. 二宮直紀, 北村盾二, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: ひだり腎尿管全摘除術後, 18年経過して肺転移をきたした尿管癌の1例. 第612回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 平成25年6月22日.
18. 多武保光宏, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 当科における男性更年期外来8年間の臨床的検討. 第13回日本抗加齢医学会総会, 横浜, 平成25年6月29日.

19. 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 前立腺肥大症 (BPH) に対するホルミウムレーザー前立腺核出術 (HoLEP) にて前立腺癌患者の検出率は向上するのか? 三鷹市医師会医療連携講演会, 東京, 平成25年7月27日.
20. 桶川隆嗣, 板谷直, 原秀彦, 奴田原紀久雄 (特別企画): 腎腫瘍に対する単孔式後腹膜鏡下腎摘除術. 第7回単孔式内視鏡手術研究会, 盛岡, 平成25年8月2日
21. 奴田原紀久雄 (特別講演): 上部尿路結石の内視鏡的治療, 第9回千葉泌尿器疾患カンファレンス, 千葉, 平成25年9月5日.
22. 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 腎門部に発生した炎症性偽腫瘍の1例, 第120回多摩泌尿器科医会, 立川, 平成25年9月13日.
23. 林建二郎, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 膀胱全摘後の回腸利用代用膀胱における排尿状態の検討. 第20回日本排尿機能学会, 静岡, 平成25年9月20日.
24. 宍戸俊英, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 当院におけるホルミウムレーザー前立腺核出術 (HoLEP) の長期治療成績. 第20回日本排尿機能学会, 静岡, 平成25年9月21日.
25. 加藤司顕: 新宿区市民公開講座 さわやかシニアの為のおしっこの話~大好評! 自分で出来る尿もれ体操~. 新宿区医師会泌尿器科医会, 東京, 平成25年10月5日.
26. 桶川隆嗣: 前立腺癌の新規薬剤評価における血中循環癌細胞 (Circulating Tumor Cells; CTCs) の評価と Characterization による個別化医療への展望. 第3回新愛知泌尿器金鯱セミナー, 名古屋, 平成25年10月11日.
27. 原秀彦: 当科におけるトーリセル長期投与の1例, RCC Target Therapy Clinical Seminar in Tama, 立川, 平成25年10月11日.
28. 宍戸俊英, 奴田原紀久雄: 安全な HoLEP を行うためのトラブルシューティング. HoLEP 研究会, 札幌, 平成25年10月13日.
29. 宍戸俊英, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄 (シンポジウム): 間質性膀胱炎に対する低用量シクロスポリン A (CyA) 内服治療効果と今後の課題. 第78回日本泌尿器科学会東部総会, 新潟, 平成25年10月18日.
30. 舛田一樹, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 腎盂尿管癌における開創手術と腹腔鏡手術の臨床的比較. 第78回日本泌尿器科学会東部総会, 新潟, 平成25年10月18日.
31. 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 腎癌における開腹手術と腹腔鏡下手術との治療成績. 第78回日本泌尿器科学会東部総会, 新潟, 平成25年10月18日.
32. 中村雄, 二宮直紀, 舛田一樹, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 当院における浸潤性膀胱癌に対する膀胱全摘症例の臨床的検討. 第78回日本泌尿器科学会東部総会, 新潟, 平成25年10月18日.
33. 多武保光宏, 奴田原紀久雄 (シンポジウム): 難治性尿路結石治療に挑む- 周術期尿路感染症の治療-. 第78回日本泌尿器科学会東部総会, 新潟, 平成25年10月19日.
34. 二宮直紀, 北村盾二, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 当院における精巣腫瘍の臨床的検討. 第78回日本泌尿器科学会東部総会, 新潟, 平成25年10月19日.
35. 小田金哲広, 加藤司顕: 高感度パワードプラを用いた経直腸前立腺生検の初期経験. 第78回日本泌尿器科学会東部総会, 新潟, 平成25年10月19日.
36. Nutahara K, Matsuzaki J¹, Mugiya S², Yamaguchi A³ (¹Oguchi-higashi General Hospital, ²Suzukake Central Hospital, ³Harasanshin General Hospital): Comparison of optical resolution among 2 digital and standard fiberoptic ureterorenoscopes using an in vitro model, 31st World Congress of Endourology & SWL, USA, October 22-26, 2013.
37. 山口剛, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 腎部分切除後における腎機能の推移, 制癌効果とそれに影響する因子についての検討. 第51回日本癌治療学会学術総会, 京都, 平成25年10月25日.
38. 舛田一樹, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 前立腺癌骨転移におけるゾレドロン酸の長期投与成績. 第51回日本癌治療学会学術総会, 京都, 平成25年10月25日.
39. 桶川隆嗣, 多武保光宏, 宍戸俊英, 奴田原紀久雄: 転移性前立腺癌における治療での末梢循環癌細胞検査の意義. 第51回日本癌治療学会学術総会, 京都, 平成25年10月26日.
40. 奴田原紀久雄 (卒後教育講演): 上部尿路内視鏡による処置と手術 II 尿路結石. 第65回西日本泌尿器科学会総会 卒後教育プログラム I, 佐賀, 平成25年11月1日.
41. 舛田一樹, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 腹腔鏡下前立腺全摘術とロボット支援腹腔鏡下全摘術との治療成績. 第27回日本泌尿器内視鏡学会総会, 名古屋, 平成25年11月7日.
42. 桶川隆嗣 (シンポジウム): LESS は従来の腹腔鏡

手術よりも低侵襲か?—腎腫瘍に対する単孔式後腹膜鏡下腎摘除術は従来の腹腔鏡手術よりも低侵襲か?第27回日本泌尿器科内視鏡学会総会, 名古屋, 平成25年11月8日.

43. 多武保光宏, 奴田原紀久雄 (教育プログラム): f-TUL 困難症例の次の一手—TULかPNLか?—. 第27回日本泌尿器内視鏡学会総会, 名古屋, 平成25年11月8日.
44. 山口剛, 中村雄, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: T2以上の腎癌における腹腔鏡下腎摘除術の検討. 第27回日本泌尿器内視鏡学会総会, 名古屋, 平成25年11月8日.
45. 原秀彦, 中村雄, 林建二郎, 板谷直, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 褐色細胞腫に対する腹腔鏡下副腎摘除術の臨床的検討. 第27回日本泌尿器内視鏡学会総会, 名古屋, 平成25年11月8日.
46. 中村雄, 二宮直紀, 舛田一樹, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 当院における腹腔鏡下腎盂形成術の治療成績. 第27回日本泌尿器内視鏡学会総会, 名古屋, 平成25年11月8日.
47. 宍戸俊英, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 榎本香織, 藤田直之, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 当院におけるHoLEP (holmium laser enucleation of the prostate) の長期治療成績と術式の変遷. 第27回日本泌尿器内視鏡学会総会, 名古屋, 平成25年11月8日.
48. 三浦一郎, 徳本直彦¹, 村田憲彦, 吉野修司², 村田明弘 (¹湘南鎌倉総合病院, ²中野総合病院): 当院におけるロボット支援前立腺全摘除術の初期治療経験. 第27回日本泌尿器内視鏡学会総会, 名古屋, 平成25年11月8日.
49. 板谷直, 舛田一樹, 中村雄, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 当科における腹腔鏡下膀胱全摘除術の初期経験. 第27回日本泌尿器内視鏡学会総会, 名古屋, 平成25年11月9日.
50. 小田金哲広, 加藤司顕: 当院におけるNarrow band imaging (NBI) を用いた経尿道的膀胱腫瘍切除術の経験. 第27回日本泌尿器内視鏡学会総会, 名古屋, 平成25年11月9日.
51. 二宮直紀: 膀胱マラコプラキアの一例, 第121回多摩泌尿器科医会, 武蔵野, 平成25年11月15日.
52. 奴田原紀久雄 (特別講演): 上部尿路結石の治療—PNLとURS. 平成25年度岐阜泌尿器科医会第65回例会, 岐阜, 平成25年11月23日.
53. 原秀彦, 二宮直紀, 舛田一樹, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 当院における腎癌での開腹手術と腹腔鏡手術との治療成績. 第26回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 平成25年11月30日.
54. 中村雄, 二宮直紀, 舛田一樹, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣,

奴田原紀久雄, 東原英二: 当院における腹腔鏡下膀胱全摘除術の治療成績. 第26回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 平成25年11月30日.

55. 村田明弘, 五十嵐明子, 鈴木敦, 三浦一郎, 村田憲彦: 排尿困難をきたした膀胱頸部前立腺嚢胞の1例. 第63回日本泌尿器科学会中部総会, 名古屋, 平成25年11月30日.
56. 徳本直彦¹, 三浦一郎, 村田憲彦, 秦野直² (¹湘南鎌倉総合病院, ²東京医科大): 当院におけるロボット支援下前立腺全摘除術 (RALP) の初期治療経験. 第26回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 平成25年11月30日.
57. 二宮直紀, 北村盾二, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 膀胱マラコプラキアの1例. 第614回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 平成26年2月27日.

論文

1. Okegawa T, Ushio K¹, Imai M¹, Morimoto M², Hara T² (¹Extra Value Generation and General Medicine Drug Discovery Unit, Takeda Pharmaceutical Company Limited, ²Oncology Drug Discovery Unit, Takeda Pharmaceutical Company Limited): Orphan nuclear receptor HNF4G promotes bladder cancer growth and invasion through the regulation of the hyaluronan synthase 2 gene. *Oncogenesis* 2:e58, 2013 Jul 29.
2. Tambo M, Okegawa T, Shishido T, Higashihara E, Nutahara K: Predictors of septic shock in obstructive acute pyelonephritis. *World J Urol*. Sep 15, 2013.
3. 眞森直子¹, 岸野智則^{1,2}, 大西宏明^{1,2}, 多武保光宏, 寺戸雄一³, 要伸也⁴, 森秀明⁵, 奴田原紀久雄, 東原英二, 渡邊卓^{1,2} (¹杏林大・医・付属病院臨床検査部, ²杏林大・医・臨床検査医学, ³杏林大・医・病理学, ⁴杏林大・医・第一内科, ⁵杏林大・医・第三内科): 右腎全体にびまん性に浸潤した集合管癌 (Bellini 管癌) の1例. *超音波医* 40(2): 183-189, 2013.
4. 桶川隆嗣, 板谷直, 原秀彦, 東原英二, 奴田原紀久雄: 腎腫瘍に対する単孔式後腹膜鏡下根絶的腎摘除術. *Jpn J Endourol* 26(1): 57-61, 2013.
5. 奴田原紀久雄: 上部尿路内視鏡治療の現状—その適応と限界 序文. *泌外* 26(10): 1475-1476, 2013.
6. 多武保光宏, 奴田原紀久雄: 上部尿路内視鏡治療の現状—内視鏡手術前の尿路感染症コントロール—. *泌外* 26(10): 1483-1487, 2013.
7. 奴田原紀久雄: ナーシングプロセス—前立腺がん. *クリニカルスタディ* 34(14): 1187-1194, 2013.
8. 奴田原紀久雄: 第6章 エンドウロロジー・膀胱鏡: 上部尿路内視鏡による処置と手術. II 尿路結石. *日本泌尿器科学会2013年卒後教育テキスト* 18(2): 130-135, 2013.
9. 谷口珠実, 丹波光子¹, 平山千登勢¹, 金城真実, 榎本香織, 多武保光宏, 林建二郎, 菅田明子, 東原英二, 奴田原紀久雄 (¹杏林大・看護部): 泌尿器科外来を受診した女性患者に対する看護介入の現状と成

果. 日女性骨盤底医学会誌 10(1): 127-131, 2013.

10. 金城真実, 嘉村康邦¹, 関口由紀², 奴田原紀久雄, 東原英二 (¹四谷メディカルキューブ, ²横浜元町女性医療クリニック LUNA): 骨盤臓器脱患者におけるリングペッサリーの下部尿路症状, QOL の変化. 日女性骨盤底医学会誌 10(1): 146-148, 2013.
11. Higashihara E¹, Nutahara K, Okegawa T, Shishido T, Tanbo M, Kobayashi K², Nitadori T² (¹ADPKD Research, Kyorin Univ, ²Radiology, Kyorin Univ): Kidney volume and function in autosomal dominant polycystic kidney disease. Clin Exp Nephrol 18(1): 157-165, 2014.
12. Kamiya N^{1,2}, Suzuki H^{1,2}, Nishimura K², Fujii M², Okegawa T, Matsuda T², Morita T², Takihana Y², Ozono S², Namiki M², Matsubara A², Ichikawa T^{2,3}, Miki T^{2,4} (¹Urology, Toho Univ, ²Nonsteroidal Antiandrogen Sequential Alternation for Prostate Cancer Study Group, ³Urology, Chiba Univ, ⁴Urology, Kyoto Prefectural Univ): Development of Nomogram to Non-steroidal Antiandrogen Sequential Alternation in Prostate Cancer for Predictive Model. Jpn J Clin Oncol 44(3): 263-269, 2014
13. 奴田原紀久雄: 前立腺癌外科的治療の展望 ―ロボット支援下腹腔鏡下前立腺全摘術. 特集 悪性腫瘍. 杏林医学会誌 45(1): 119-123, 2014.
14. 奴田原紀久雄: レーザー施設紹介 ―杏林大学医学部付属病院泌尿器科. 日レーザー医学会誌 34(4): 443-445, 2014.

著書

1. 奴田原紀久雄: 5-2 内視鏡的治療 (TUL, PNL, 膀胱碎石術). ベッドサイド泌尿器科 (改訂第4版). 吉田修 監修, 小川修, 岡田裕作, 荒井陽一, 寺地敏郎, 松田公志, 笈善行, 羽淵友則 編集. 東京. 南江堂. 2013. p.875-878.
2. 奴田原紀久雄: エンドウロロジー手術の周術期管理の特徴. 新版 泌尿器科周術期管理のすべて. 荒井陽一, 松田公志, 高橋悟 編集. 東京, メジカルビュー, 2013. p.64-68.
3. 奴田原紀久雄: 膀胱・尿道結石. 今日の治療指針 2014年版 私はこう治療している. 山口徹, 北原光夫 監修, 福井次矢, 高木誠, 小室一成 総編集. 東京. 医学書院. 2014. p.1043.

特許等知的財産関係, 報告書

1. 堀江重郎, 奴田原紀久雄: 進行性腎障害に関する調査研究 (多発性嚢胞腎分科会). 平成25年度厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患等克服研究事業) 分担研究報告書.

平成24年度追加分

1. 堀江重郎, 奴田原紀久雄: 進行性腎障害に関する調査研究 (多発性嚢胞腎分科会). 平成24年度厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患等克服研究事業) 分担研究報告書.

その他

1. 奴田原紀久雄: 「腎盂尿管内病変の表記法について -3D プリンターを用いた新しい表記法の開発」, 内

視鏡医学研究振興財団 平成25年度研究助成受賞.

2. 奴田原紀久雄: 第21回嚢胞性腎疾患研究会主催, 三鷹, 平成25年9月21日.

多発性嚢胞腎研究講座

口 演

1. 中村雄, 二宮直紀, 舛田一樹, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 多発性嚢胞腎における腎容積と腎機能. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌, 平成25年4月25日.
2. 宍戸俊英, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 榎本香織, 藤田直之, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 当院におけるHoLEP (holmium laser enucleation of the prostate) の中期治療成績. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌, 平成25年4月25日.
3. 板谷直, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 当院における腎盂尿管癌の臨床的検討. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌, 平成25年4月25日.
4. 原秀彦, 二宮直紀, 舛田一樹, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 進行性腎細胞癌に対する分子標的治療薬の治療成績. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌, 平成25年4月26日.
5. 藤田直之, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄, 寺戸雄一: VEGF による腎細胞癌術後再発の予測. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌, 平成25年4月27日.
6. 山口剛, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 前立腺癌骨転移におけるゾレドロン酸使用での腎機能推移と治療効果. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌, 平成25年4月27日.
7. 多武保光宏, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: PNL 術後の全身性炎症反応症候群 (SIRS) 発症への危険因子. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌, 平成25年4月28日.
8. 奴田原紀久雄, 東原英二, 桶川隆嗣, 宍戸俊英, 多武保光宏, 小林邦典, 似鳥健明: 常染色体優性多発性嚢胞腎における腎容積と腎機能について. 第56回日本腎臓学会学術総会, 東京, 平成25年5月10日~12日.
9. 東原英二: 多発性嚢胞腎の治療の展望. PKD の会 第19回総会, 調布, 平成25年6月16日.
10. 二宮直紀, 北村盾二, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: ひだり尿管全摘除術後, 18年経過して肺転移をきたした尿管癌の1例. 第612回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京,

- 平成25年6月22日.
11. 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 腎門部に発生した炎症性偽腫瘍の1例, 第120回多摩泌尿器科医会, 立川, 平成25年9月13日.
 12. 東原英二: 多発性嚢胞腎の治療について. 第21回嚢胞性腎疾患研究会市民公開講座, 東京, 平成25年9月21日.
 13. 宍戸俊英, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 当院におけるホルミウムレーザー前立腺核出術 (HoLEP) の長期治療成績. 第20回日本排尿機能学会, 静岡, 平成25年9月21日.
 14. 宍戸俊英, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄 (シンポジウム): 間質性膀胱炎に対する低用量シクロスポリン A (CyA) 内服治療効果と今後の課題. 第78回日本泌尿器科学会東部総会, 新潟, 平成25年10月18日.
 15. 舛田一樹, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 腎尿管痛における開創手術と腹腔鏡手術の臨床的比較. 第78回日本泌尿器科学会東部総会, 新潟, 平成25年10月18日.
 16. 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 腎癌における開腹手術と腹腔鏡下手術との治療成績. 第78回日本泌尿器科学会東部総会, 新潟, 平成25年10月18日.
 17. 中村雄, 二宮直紀, 舛田一樹, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 当院における浸潤性膀胱癌に対する膀胱全摘症例の臨床的検討. 第78回日本泌尿器科学会東部総会, 新潟, 平成25年10月18日.
 18. 山口剛, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 腎部分切除後における腎機能の推移, 制癌効果とそれに影響する因子についての検討. 第51回日本癌治療学会学術総会, 京都, 平成25年10月25日.
 19. 舛田一樹, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 前立腺癌骨転移におけるゾレドロン酸の長期投与成績. 第51回日本癌治療学会学術総会, 京都, 平成25年10月25日.
 20. Gansevoort RT, Chapman AB, Czerwiec FS, Devuyst O, Grantham JJ, Higashihara E, Krasa H, Ouyang J, Perrone RD, Torres VE for the TEMPO 3:4 investigators: The effect of tolvaptan on albuminuria in ADPKD. Results of the TEMPO 3:4 trial. ASN Kidney Week 2013, USA, November 5-10, 2013.
 21. Devuyst O, Chapman AB, Gansevoort RT, Grantham JJ, Higashihara E, Perrone RD, Torres VE, Krasa HB, Ouyang J, Shoaf S, Wang X, Czerwiec FS for the TEMPO 3:4 Trial investigators: Effect of tolvaptan on urine osmolality outcome in ADPKD: Results from the TEMPO 3:4 trial. ASN Kidney Week 2013, USA, November 5-10, 2013.
 22. Grantham JJ, Chapman AB, Czerwiec FS, Devuyst O, Gansevoort RT, Higashihara E, Krasa H, Ouyang J, Perrone RD, Torres VE: Tolvaptan administration to patients with ADPKD suppresses urine MCP-1 excretion: Results from the TEMPO 3:4 trial. ASN Kidney Week 2013, USA, November 5-10, 2013.
 23. Perrone RD, Chapman AB, Czerwiec FS, Devuyst O, Gansevoort RT, Grantham JJ, Higashihara E, Krasa H, Ouyang J, Torres VE: Correlation of total kidney volume and eGFR in patients with ADPKD: Results from the TEMPO 3:4 trial. ASN Kidney Week 2013, USA, November 5-10, 2013.
 24. Zimmer C, Chapman AB, Czerwiec FS, Devuyst O, Gansevoort RT, Higashihara E, Krasa H, Ouyang J, Perrone RD, Torres VE: Profile of transaminase elevations in autosomal dominant polycystic kidney disease – results from the TEMPO 3:4 trial. ASN Kidney Week 2013, USA, November 5-10, 2013.
 25. Czerwiec FS, Chapman AB, Devuyst O, Gansevoort RT, Higashihara E, Krasa H, Ouyang J, Perrone RD, Torres VE: Clinical outcomes in ADPKD: Results from the TEMPO 3:4 trial. ASN Kidney Week 2013, USA, November 5-10, 2013.
 26. Horie S, Higashihara E, Muto S, Nutahara K, Iino Y, Narita I, Ouyang J, Torres VE for the TEMPO 3:4 investigators: Effects of tolvaptan in ADPKD: Subanalysis of Japanese patients from the TEMPO 3:4 trial. ASN Kidney Week 2013, USA, November 5-10, 2013.
 27. 舛田一樹, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 腹腔鏡下前立腺全摘術とロボット支援腹腔鏡下全摘術との治療成績. 第27回日本泌尿器内視鏡学会総会, 名古屋, 平成25年11月7日.
 28. 山口剛, 中村雄, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: T2以上の腎癌における腹腔鏡下腎摘除術の検討. 第27回日本泌尿器内視鏡学会総会, 名古屋, 平成25年11月8日.
 29. 中村雄, 二宮直紀, 舛田一樹, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 当院における腹腔鏡下腎盂形成術の治療成績. 第27回日本泌尿器内視鏡学会総会, 名古屋, 平成25年11月8日.
 30. 宍戸俊英, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 榎本香織, 藤田直之, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 当院におけるHoLEP (holmium laser enucleation of the prostate) の

長期治療成績と術式の変遷. 第27回日本泌尿器内視鏡学会総会, 名古屋, 平成25年11月8日.

31. 板谷直, 舛田一樹, 中村雄, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 当科における腹腔鏡下膀胱全摘除術の初期経験. 第27回日本泌尿器内視鏡学会総会, 名古屋, 平成25年11月9日.
32. 原秀彦, 二宮直紀, 舛田一樹, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 当院における腎癌での開腹手術と腹腔鏡手術との治療成績. 第26回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 平成25年11月30日.
33. 中村雄, 二宮直紀, 舛田一樹, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 当院における腹腔鏡下膀胱全摘除術の治療成績. 第26回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 平成25年11月30日.
34. 二宮直紀, 北村盾二, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 膀胱マラコプラキアの1例. 第614回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 平成26年2月27日.

論文

1. Tambo M, Okegawa T, Shishido T, Higashihara E, Nutahara K: Predictors of septic shock in obstructive acute pyelonephritis. *World J Urol* 32: 803-811, 2013.
2. 畷森直子, 岸野智則, 大西宏明, 多武保光宏, 寺戸雄一, 要伸也, 森秀明, 奴田原紀久雄, 東原英二, 渡邊卓: 右腎全体にびまん性に浸潤した集合管癌 (Bellini 管癌) の1例. *超音波医* 40(2): 183-189, 2013.
3. 桶川隆嗣, 板谷直, 原秀彦, 東原英二, 奴田原紀久雄: 腎腫瘍に対する単孔式後腹膜鏡下根治的腎摘除術. *Jpn J Endourol* 26(1): 57-61, 2013.
4. 谷口珠実, 丹波光子¹, 平山千登勢¹, 金城真実, 榎本香織, 多武保光宏, 林建二郎, 菅田明子, 東原英二, 奴田原紀久雄 (杏林大・看護部): 泌尿器科外来を受診した女性患者に対する看護介入の現状と成果. *日女性骨盤底医学会誌* 10(1): 127-131, 2013.
5. 金城真実, 嘉村康邦, 関口由紀, 奴田原紀久雄, 東原英二: 骨盤臓器脱患者におけるリングペッサリーの下部尿路症状, QOL の変化. *日女性骨盤底医学会誌* 10(1): 146-148, 2013.
6. 東原英二: 世界希少・難治性疾患の日 希少疾病ライブラリ 多発性嚢胞腎 この疾患の治療をご存知ですか? ケアネット 2013.
7. 東原英二: 第2章病態生理 疾患固有の病態病理 4. 常染色体優性多発性嚢胞腎 (ADPKD). 最新医学・別冊新しい診断と治療の ABC11 CKD (慢性腎臓病) 慢性腎不全 改訂第2版. 90-97, 2013.
8. Higashihara E, Nutahara K, Okegawa T, Shishido T, Tanbo M, Kobayasi K¹, Nitadori T: Kidney volume and function in autosomal dominant polycystic kidney disease. *Clin Exp Nephrol* 18(1): 157-165, 2014.

著書

1. 東原英二, 松田公志, 大園誠一郎 監修. 経尿道敵膀胱腫瘍一塊切除術 (TURBO). 術者: 池田洋. *Endourology の進歩シリーズ (DVD) No.14*. 東京, 株式会社インターメディカ制作, 大日本住友製薬株式会社発行. 2013.

特許等知的財産関係, 報告書

1. 石橋道男, 東原英二: 多発性嚢胞腎の細胞マトリックス接着応答とエビジェメテイクス修飾による治療法の研究. 平成25年度文部科学省基盤研究 (C) 分担研究報告書.

その他

1. 東原英二: 多発性嚢胞腎啓発ウェブサイト「たはつせいのうほうじんって?」開設. 2013年7月.

眼科学教室

口演

1. 伊東裕二: OCT-HS100の使用経験, 第117回日本眼科学会ランチョンセミナー, 東京, 平成25年4月4日.
2. 安藤良将, 久須見有美, 柴田朋宏, 井上真, 島田典明¹, 丸子一郎², 平形明人, 大野京子¹, 飯田知弘³ (¹東京医歯大, ²女子医大, ³福島県医大): Intrachoroidal cavitation に合併した黄斑剥離の症例の臨床的特徴. 第117回日本眼科学会総会, 東京, 平成25年4月4-7日.
3. 折原唯史, 廣田和成, 横田怜二, 國田大輔, 伊東裕二, 利井東昇, 平岡智之¹, 井上真, 平形明人 (¹平岡眼科医院): 強度近視眼の有水晶体眼における裂孔原性網膜剥離の検討. 第117回日本眼科学会総会, 東京, 平成25年4月4-7日.
4. 平形明人: 糖尿病網膜症. 眼科専門医志向者トレーニングコース, 第117回日本眼科学会総会, 東京, 平成25年4月4-7日.
5. 平形明人: Swept Source OCT 観察の感動. 第117回日本眼科学会総会, 東京, 平成25年4月4-7日.
6. 山本亜希子, 岡田アナベルあやめ, 利井東昇, 横田怜二, 杉谷篤彦: 滲出型AMDに対するラニビズマブ3回投与後視力不良例の特徴とその経過, 第117回日本眼科学会総会, 東京, 平成25年4月4-7日.
7. 慶野博: シンポジウム5眼炎症制御に関する因子・遺伝子アップデート難治性眼炎症疾患に対するFoxp3陽性制御性T細胞による免疫抑制療法の可能性, 第117回日本眼科学会総会, 東京, 平成25年4月4日-7日.
8. 岡田アナベルあやめ: 英文論文のレビュー (査読): Top 10 Dos and Don'ts. 教育セミナー「学術論文の作り方」, 第117回日本眼科学会総会, 東京, 平成25年4月5日.
9. 山田昌和: 成人眼検診プログラム, シンポジウム, 眼科医療における費用対効果, 第117回日本眼科学会総会, 東京, 平成25年4月5日.
10. 井上真: 行き過ぎた retinotomy? RETINA の会, 東京, 平成25年4月5日.

11. 平形明人：眼外傷総論. 専門医制度第58回講習会, 東京, 平成25年4月6日.
12. 井上真：黄斑疾患の手術と進歩, 第117回日本眼科学会総会サブスペシャルサンデー:後眼部疾患, サージカルレチナ, 東京, 平成25年4月7日.
13. Hiroshi Keino: Evaluation of choroidal thickness in Vogt-Koyanagi-Harada disease and Sympathetic Ophthalmia by enhanced depth imaging - OCT (EDI-OCT) International Workshops and Granulomatous Uveitis and Ocular Behcet's disease and Asia-Pacific Intraocular Inflammation Study Group. 8th International Workshop on Vogt-Koyanagi-Harada disease and sympathetic ophthalmia Kaohsiung, Taiwan, April 12-13, 2013.
14. Hirakata A: Remembrance of Japan's Great Leader in Retina- Professor Tetsuo Hida and Yasuo Tano. The 20th anniversary of the retina center at Pali Momi, Waikiki USA, 2013.4.12-14.
15. Hirakata A: Vitrectomy without laser treatment of gas tamponade for macular detachment associated an optic disc pit. The 20th anniversary of the retina center at Pali Momi, Waikiki USA, 2013.4.12-14.
16. Hirakata A: Myoschisis: Myopic traction maculopathy. The 20th anniversary of the retina center at Pali Momi, Waikiki USA, 2013.4.12-14.
17. 山田昌和：ドライアイ：治療戦略アップデート, 第7回四国 Eye ランドセミナー, 高松, 平成25年4月14日.
18. 富田茜, 柳沼重晴, 今野公士, 中山真紀子, 木村奈津子¹, 平形明人, 甲能直幸¹(¹杏林大学医学部耳鼻咽喉科学教室): 副鼻腔炎に併発し急激に失明に至った眼窩蜂窩織炎の1例, 第4回東京多摩眼科連携セミナー, 三鷹, 平成25年4月20日.
19. 山田昌和：ドライアイ治療の最新戦略, 第59回愛媛県眼科集談会, 松山, 平成25年4月21日.
20. Keino H, Sato Y, Okada AA: IL-2/IL-2 Ab complex plus rapamycin ameliorate experimental autoimmune uveoretinitis associated with expansion of CD4⁺Foxp3⁺ regulatory T cells, ARVO, Seattle May 4-8, 2013.
21. Inoue M, Hidaka J¹, Hirakata A (¹HOYA Corp., Tokyo, Japan.): Restoration of acrylic intraocular lens injected through cartridge. ARVO 2013 Annual Meeting, Seattle USA, 2013.5.5-9.
22. 井上真：小切開硝子体手術の進歩, 第3回水道橋眼科フォーラム, 東京, 平成25年5月16日.
23. 平形明人：乳頭ピット黄斑症候群における眼内液と脳脊髄液の交流の可能性. 第5回東邦大学佐倉病院眼科フォーラム, 千葉市, 平成25年5月18日.
24. 山田昌和：眼表面のマネージメント, ドライアイと薬剤起因性角膜障害, 埼玉学術講演会, 大宮, 平成25年5月22日.
25. 山田昌和：ドライアイの治療戦略アップデート, 札幌ムコスタ発売1周年記念講演会, 札幌, 平成25年5月25日.
26. 井上真：ミニシンポジウム「黄斑疾患の治療と近未来」, 外科的治療. 第46回日本眼科講演会, 東京, 平成25年5月25日.
27. 井上真：「水晶体関係」. 第12回硝子体手術ビデオセミナー, 東京, 平成25年5月26日.
28. 平形明人：乳頭ピット黄斑症候群の硝子体手術経験から病因を考える. 第14回奈良県黄斑疾患研究会, 奈良市, 平成25年5月30日.
29. 井上真：黄斑下血腫の1例. 第4回 VR 研究会, 東京, 平成25年5月30日.
30. 山田昌和：Tear Film Oriented Therapy, 液層の治療, 第7回箱根ドライアイクラブ, 小田原, 平成25年5月31日.
31. 山田昌和：ドライアイ治療の最新戦略, 第5回アイセンターサミット, 東京, 平成25年6月1日.
32. 山田昌和：治らないドライアイ：摩擦と炎症を忘れてませんか? 大塚ライブオンセミナー, 東京, 平成25年6月6日.
33. 井上真：Chromovitrectomy の現状, 未来, 北海道眼科医会生涯教育講座, 札幌, 平成25年6月15日.
34. 山田昌和：ドライアイの治療戦略アップデート, 第2回オキュラーサーフェスセミナー, 柏, 平成25年6月20日.
35. 松木奈央子, 渡辺交世, 柳沼重晴, 並木泉, 永本敏之：硬い核における Ozil Custom Pulse Mode と IP の比較, 第28回日本白内障屈折矯正手術学会総会, 浦安, 平成25年6月27-29日.
36. 柳沼重晴, 中野敦雄, 松木奈央子, 渡辺交世, 二宮夕子, 並木泉, 永本敏之：真性小眼球症例での白内障手術成績, 第28回日本白内障屈折矯正手術学会総会, 浦安, 平成25年6月27-29日.
37. 柳沼重晴, 中野敦雄, 松木奈央子, 渡辺交世, 二宮夕子, 並木泉, 永本敏之：真性小眼球症例での白内障手術成績, 第28回 JSCRS 学術総会, 浦安, 平成25年6月27-29日.
38. Hiroshi Keino, Yasuhiko Sato, Annabelle A Okada: Retinoic acid receptor-a/b-specific ligand Am80 ameliorates optic neuritis in mice with experimental autoimmune encephalomyelitis. Federation of Clinical Immunology Societies (FOCIS) Boston USA, Jun 27-30, 2013.
39. 井上真：行列ができる相談所, 日本眼内レンズ学会, 千葉, 平成25年6月28日.
40. 山田昌和：ドライアイにおける抗炎症療法の役割, ランチョンセミナー, フォーサム2013, 大阪, 平成25年7月12日.
41. 今野公士¹, 柳沼重晴¹, 近藤義之², 忍足和浩¹, 杏林アイセンター², 近藤眼科: 涙道内視鏡下シリコーンチューブを再施行した予後不良例の検討, 大阪, 平成25年7月12日.
42. Inoue M: Image quality of the eye with a premium IOL - Simulation of the retina surgeon's view. Asia-Pacific Association of Cataract and Refractive Surgeons (APACRS), Singapore, July 12-13, 2013.
43. 渡邊交世, 慶野博, 瀧和歌子, 越前成旭, 肥留川京

- 子, 岡田アナベルあやめ: 網膜中心静脈閉塞症から抗リン脂質抗体症候群の診断に至った一例, 第47回日本眼炎症学会, 大阪, 平成24年7月12-13日.
44. 高瀬博, 大黒伸行, 岡田アナベルあやめ, 後藤浩, 園田康平, 富田誠, 南場研一, 水木信久, 望月學: 急性網膜壊死の診断基準の作成, 第47回日本眼炎症学会, 大阪, 平成25年7月12-14日.
 45. 慶野博, 渡辺交世, 宮東昭彦, 川上速人, 岡田アナベルあやめ: 実験的自己免疫性ぶどう膜網膜炎(EAU)における眼局所の microRNA の発現, 第47回日本眼炎症学会, 大阪, 平成25年7月12-14日.
 46. 井之川宗右, 慶野博, 福田憲, 福島敦樹, 岡田アナベルあやめ, 平形明人, 梅澤一夫: ヒト培養角膜線維芽細胞に対する dehydrowymethylepoxyquinomicin (DHMEQ) の抗炎症効果, 第47回日本眼炎症学会, 大阪, 2013年7月12-14日.
 47. 重安千花, 阿久根陽子, 水野嘉信, 大澤浩, 望月弘嗣, 山田昌和: 涙液の薬物動態分析による S-1角膜障害の検討, 第2回日本涙液涙道学会, 大阪, 平成25年7月13日.
 48. 西川優子, 重安千花, 山崎梨沙, 山田昌和: 角膜真菌症様の所見を呈したまつ毛エクステンションによる角膜浸潤の1例, 第50回日本眼感染症学会, 大阪, 平成25年7月13日.
 49. 柳沼重晴, 今野公士, 忍足和浩, 鈴木由美, 近藤義之¹, 平形明人 (¹近藤眼科): 涙道内視鏡を用いた小児涙道閉塞の治療経験, 第2回日本涙道・涙液学会総会, 大阪, 平成25年7月13-14日.
 50. 井上真: 特別講演. 「小切開硝子体手術入門」, 第9回北関東手術検討会, 宇都宮, 平成25年7月18日.
 51. 山本亜希子, 岡田アナベルあやめ, 横田怜二, 吉川泉, 杉谷篤彦: 難治性滲出型加齢黄斑変性に対する aflibercept 切り替え後の治療対応, 第30回日本眼循環学会, 東京, 平成25年7月19-20日.
 52. 古泉英貴, 山本亜希子, 狩野麻里子, 齋藤昌晃, 丸一朗, 杉谷篤彦, 岡田アナベルあやめ, 石龍鉄樹, 飯田知弘: 滲出型加齢黄斑変性に対するアフリベルセプト硝子体内注射の3カ月治療経過, 第30回日本眼循環学会, 東京, 平成25年7月19-20日.
 53. 山田昌和: コンタクトレンズと感染性角膜炎, 第10回自治医科大学さいたま医療センター病診連携クリニックカンファレンス, さいたま, 平成25年7月20日.
 54. Koto T, Hirukawa K, Inoue M, Hirakata A: FAF findings in case of vitelliform maculopathy. 第2回 Fluorescein Conference in Tokyo(FCIT), 東京, 平成25年7月21日.
 55. 井上真: コンステレーションエリアセミナー名古屋「極める! 術中眼圧コントロール」, 名古屋, 平成25年7月21日.
 56. 井上真: 極める! 術中眼圧コントロール, コンステレーションエリアセミナー名古屋, 名古屋, 平成25年7月21日.
 57. Inoue M: How to treat ILM peeling, to peel or not to peel?, 2013年第六屆天津眼科国際中日眼科学術交流会, China, Jun 21-22. 2013.
 58. 平形明人: アトピー性皮膚炎に合併する網膜剥離の治療について, 第5回ドライアイ・アレルギージョイントセミナー, 東京, 平成25年7月26日.
 59. 井上真: 第17回沖縄眼疾患フォーラム, 「小切開硝子体手術の進歩と適応」, 沖縄平成25年7月27日.
 60. 山田昌和: ドライアイの治療戦略アップデート, 長崎ムコスタ点眼液発売1周年記念講演会, 長崎, 平成25年8月3日.
 61. 山田昌和: 眼科医療の「価値」を評価する, 杏林大学オープンカンファレンス, 三鷹, 平成25年8月7日.
 62. 井上真: LASIK 後に網膜剥離になりやすい. Smart Refractive Surgery, 第1回 JCRS サマーセミナー, 東京, 平成25年8月18日.
 63. 小沼裕寿¹, 炭谷由計¹, 高橋和人¹, 勝田秀紀¹, 田中利明¹, 西田進¹, 犬飼浩一¹, 板垣英二¹, 石田均¹, 折原唯史, 廣田和成, 井上真, 平形明人 (¹杏林大・糖尿病内分泌代謝内科): インクレチン関連薬投与における糖尿病網膜症進展抑制に関する観察研究. 第19回日本糖尿病眼学会総会, 神戸市, 平成25年8月23-25日.
 64. 前川亜紀¹, 米谷昇子¹, 浅間泉¹, 鳥村祥子¹, 十文字菜穂², 小林庸子², 渡邊交世, 石田均³, 平形明人 (¹杏林大・看護部, ²杏林大・薬剤部, ³杏林大・内科): 眼科領域における造影剤静脈注射専任看護師導入後の現状と課題. 第19回日本糖尿病眼学会総会, 神戸市, 平成25年8月23-25日.
 65. Inoue M, Hirakata A: Macular retinoschisis and detachment associated with normal tension glaucoma. American Society of Retina Specialist (ASRS) meeting 2013 Toronto, Canada, August 25. 2013.
 66. 井上真: 自傷行為の1例, 第13回信濃町網膜研究会, 東京, 平成25年8月30日.
 67. 山田昌和: コンタクトレンズ, 合併症と問題点, 東京都眼科医会コンタクトレンズ管理者講習会, 東京, 平成25年8月31日.
 68. 江本宜暢: Werner 症候群に網膜分離症様の嚢胞黄斑浮腫を合併した1例, 千葉硝子体研究会, 幕張, 平成25年8月31日.
 69. 山田昌和: 眼表面のマネジメント, ドライアイと薬剤起因性角膜障害, GI フォーラム in 多摩, 立川, 平成25年9月4日.
 70. 平形明人: 乳頭ピット黄斑症候群における眼内液と脳脊髄液の交流の可能性. 第166回大分眼科集談会, 大分市, 平成25年9月7日.
 71. 山田昌和: ドライアイの治療戦略アップデート, ドライアイアカデミーイン佐倉, 佐倉, 平成25年9月12日.
 72. 江本宜暢: 全身投与がでさず局所加療で対応した原田病の1例, 第2回千葉黄斑研究会, 千葉, 平成25年9月14日.
 73. 山田昌和: ドライアイの自覚症状と QOL, ドライアイシンポジウムイン東京, 東京, 平成25年9月27日.
 74. 井上真: Fluidics in Vitrectomy. Advanced Vitrectomy Surgery Course, 東京, 平成25年9月28日.

75. Hirakata A: Memorial lecture for history of AVS course. Advanced Vitreous Surgery Course, Tokyo, 平成25年9月28-29日.
76. Hirakata A: Morning glory syndrome. Advanced Vitreous Surgery Course, Tokyo, 平成25年9月28-29日.
77. 井上真: Fovea-sparing ILM peeling and inverted ILM flap technique for myopia. Advanced Vitrectomy Surgery Course, 東京, 平成25年9月29日.
78. 久須見有美, 柳沼重晴, 今野公士, 平形明人: 杏林アイセンターにおける LACRIFAST® の使用経験. 第56回東京多摩地区眼科集談会, 三鷹市, 平成25年10月5日.
79. 今野公士: 涙道内視鏡治療を中心とした昨今の涙道疾患治療について, 東京, 平成25年10月9日.
80. 渡辺敏樹: 視神経疾患の診療について, 多摩南部地域病院勉強会, 多摩市, 平成25年10月9日.
81. 山田昌和: コンタクトレンズと感染性角膜炎, 葛南地区眼科講演会, 浦安, 平成25年10月10日.
82. 山田昌和: ドライアイの治療戦略アップデート, ドライアイシンポジウムイン信州, 軽井沢, 平成25年10月12日.
83. 平形明人: 糖尿病網膜症治療の現状と課題. 第21回武蔵野 SDM 研究会, 武蔵野市, 平成25年10月15日.
84. 平形明人: 乳頭部先天異常に伴う網膜剥離と鑑別疾患. 第33回福岡眼科研究会, 福岡市, 平成25年10月25日.
85. 井上真: インストラクションコース. IC-6さらなる低侵襲小切開硝子体手術を目指して. 25G から27G へ. 「27G 手術でのワンポイント」, 第67回日本臨床眼科学会, 横浜, 平成25年10月31日.
86. 井上真: アルコンイブニングセミナー. みんなのトリック, Trick or Toric, 硝子体術者の立場から, 第67回日本臨床眼科学会, 横浜, 平成25年10月31日.
87. 江本宜暢, 山添克弥, 鎗田理沙, 笹井英明, 堀田順子, 堀田一樹: VDT 作業におけるジクアホソルナトリウム点眼液の効果, 第67回日本臨床眼科学会, 横浜, 平成25年10月31日.
88. 平形明人: MIVS への道. 第67回日本臨床眼科学会, 横浜市, 平成25年10月31日 -11月3日.
89. 平形明人: Optos だから見逃さなかった!. 第67回日本臨床眼科学会, 横浜市, 平成25年10月31日 -11月3日.
90. 平形明人: 私にとっての unconventional approach 症例の変遷. 第67回日本臨床眼科学会, 横浜市, 平成25年10月31日 -11月3日.
91. 白湯ゆかり¹, 福田亘輝¹, 藤田智純¹, 森實祐基², 井上真, 平形明人, 白神史雄² (¹香川大・眼科, ²岡山大・眼科): 網膜細動脈瘤による黄斑下出血に対する t-PA 網膜下注入によるガス血腫移動術. 第67回日本臨床眼科学会, 横浜市, 平成25年10月31日 -11月3日.
92. 折原唯史, 廣田和成, 横田怜二, 國田大輔, 伊東裕二, 利井東昇, 厚東隆志, 平岡智之, 井上真, 平形明人: アトピー性皮膚炎と鈍の外傷に伴う網膜剥離の比較検討. 第67回日本臨床眼科学会, 横浜市, 平成25年10月31日 -11月3日.
93. 斎藤恒浩, 廣田和成, 厚東隆志, 井上真, 平形明人: 光干渉断層計によるガス下での黄斑円孔の検出. 第67回日本臨床眼科学会, 横浜市, 平成25年10月31日 -11月3日.
94. 安藤良将, 平形明人, 横田怜二, 折原唯史, 厚東隆志, 井上真: 強度近視研究会 近視性牽引性黄斑症あるいは黄斑円孔網膜剥離における強膜短縮術の画像解析. 第67回日本臨床眼科学会, 横浜市, 平成25年10月31日 -11月3日.
95. 慶野博, 中島史絵, 渡辺交世, 瀧和歌子, 岡田アナベルあやめ: 杏林アイセンターにおける小児および若年者のぶどう膜炎の統計, 第67回日本臨床眼科学会, 神奈川, 平成25年10月31日 -11月3日.
96. 古泉英貴, 狩野麻里子, 山本亜希子, 齋藤昌晃, 杉谷篤彦, 丸子一郎, 石龍鉄樹, 岡田アナベルあやめ, 飯田知弘: 滲出型加齢黄斑変性に対するアフリベルセプト硝子体内注射後の脈絡膜厚変化, 第67回日本臨床眼科学会, 神奈川, 平成25年10月31日 -11月3日.
97. 狩野麻里子, 山本亜希子, 古泉英貴, 齋藤昌晃, 杉谷篤彦, 丸子一郎, 岡田アナベルあやめ, 飯田知弘, 石龍鉄樹: 典型滲出型加齢黄斑変性に対する aflibercept 硝子体内注射の短期治療成績, 第67回日本臨床眼科学会, 神奈川, 平成25年10月31日 -11月3日.
98. 山本亜希子, 狩野麻里子, 古泉英貴, 齋藤昌晃, 杉谷篤彦, 丸子一郎, 石龍鉄樹, 飯田知弘, 岡田アナベルあやめ: ポリープ状脈絡膜血管症に対する aflibercept 療法の短期治療成績, 第67回日本臨床眼科学会, 神奈川, 平成25年10月31日 -11月3日.
99. 山田昌和: ドライアイの薬物療法レビュー, シンポジウム, 第67回日本臨床眼科学会, 横浜, 平成25年11月.
100. 平塚義宗, 川崎良, 小野浩一, 山田昌和, 山下英俊: インストラクションコース, 眼科医のための「数字力」養成講座3, 第67回日本臨床眼科学会, 横浜, 平成25年11月.
101. 小川佳子, 松家清栄, 水野喜信, 角田和繁, 山田昌和: 弱視の治療開始時期と視機能予後に関する多施設共同研究, 第67回日本臨床眼科学会, 横浜, 平成25年11月.
102. 川崎良, 阿久根陽子, 平塚義宗, 山田昌和: マルコフモデルを用いた糖尿病網膜症検診プログラムの費用対効果と有用性評価, 第67回日本臨床眼科学会, 横浜, 平成25年11月.
103. 田村寛, 後藤励, 阿久根陽子, 平塚義宗, 山田昌和: マルコフモデルを用いた加齢黄斑変性検診プログラムの有用性評価, 第67回日本臨床眼科学会, 横浜, 平成25年11月.
104. 平塚義宗, 阿久根陽子, 大野京子, 山田昌和: マルコフモデルを用いた病的近視検診プログラムの有用性評価, 第67回日本臨床眼科学会, 横浜, 平成25年11月.

105. 平野慎一郎, 重安千花, 山田昌和: 角膜穿孔を起こした Pearson 症候群の一例, 第67回日本臨床眼科学会, 横浜, 平成25年11月.
106. 中村奈津子, 重安千花, 山田昌和: 眼窩脂肪ヘルニアに対する結膜強膜縫着術の術後成績, 第67回日本臨床眼科学会, 横浜, 平成25年11月.
107. 井上真: 参天ランチョンセミナー. 後眼部合併症における白内障手術攻略法, 第67回日本臨床眼科学会, 横浜, 平成25年11月1日.
108. 井上真: アルコインビニングセミナー. ナイトメア, 「薄暗闇に光る物体…」, 第67回日本臨床眼科学会, 横浜, 平成25年11月1日.
109. 井上真: 「注意一秒, 穴一生?」, RETINA の会, 横浜, 平成25年11月2日.
110. Suzuki Y, Hama Y, Yoshikawa-Kobayashi I, Tomita K, Inoue M, Hirakata A: Excision of eyelid along eyelash line for ciliary entropion in patients with Down syndrome. American Academy of Ophthalmology 2013 Annual Meeting, New Orleans, USA, November 18-19 2013.
111. 渡辺敏樹, 気賀沢一輝, 大原有紗, 田中恵子, 河内泉, 高橋利幸, 平形明人: 抗アクアポリン4抗体陽性視神経炎の視神経 MRI 画像および視機能障害の検討, 第51回日本神経眼科学会, 秋田市, 平成25年11月22日.
112. 平形明人: 糖尿病網膜症治療の現状と課題. 第2回日本くすりと糖尿病学会学術集会, 東京, 平成25年11月23-24日.
113. 慶野博: ワークショップ7 免疫疾患と動物モデル. ベーチェット病ぶどう膜炎モデル動物を用いた制御性 T 細胞による炎症抑制機構, 第41回日本臨床免疫学会総会, 下関市, 平成25年11月27日-29日.
114. Inoue M: Macular retinoschisis associated with enlarged optic nerve cup in eyes with normal tension glaucoma, The 10th Japan-Taiwan Joint Meeting, Taipei, November 30. 2013.
115. Kimihito Konno, Shigeharu Yaginuma, Yoshiyuki Kondo, Yumi Kusumi, Makoto Inoue, Akito Hirakata¹⁾Kyorin Eye Center, Tokyo, Japan. ²⁾Kondo eye-institute clinic: Direct Endoscopic Probing for Congenital Nasolacrimal Duct Obstruction in 9 Cases. Taiwan, November 30 – December 1. 2013.
116. Ohtsuki M¹, Uda S¹, Inoue M, Hirakata A (¹Nihonmatsu Eye Hospital): Association between the extent of nonperfusion areas and macular edema in untreated branch retinal vein occlusion. The 8th Asia Pacific Vitreo-Retina Society Congress & the 52th Annual Meeting of Japanese Retina and Vitreous Society, Nagoya, December 6-8.2013.
117. Inoue M, Koto T, Hirota K, Kunita D, Orihara T, Hirakata A: Internal limiting membrane peeling for macular retinoschisis associated with normal tension glaucoma. The 8th Asia Pacific Vitreo-Retina Society Congress & the 52th Annual Meeting of Japanese Retina and Vitreous Society, Nagoya, December 6-8.2013
118. Otake A, Hirota K, Koto T, Inoue M, Hirakata A: A case of Takayasu arteritis suspected from ocular manifestation as an initial symptom. The 8th Asia Pacific Vitreo-Retina Society Congress & the 52th Annual Meeting of Japanese Retina and Vitreous Society, Nagoya, December 6-8.2013.
119. Hirota K, Hirakata A, Orihara T, Yokota R, Inoue M: Macular detachment associated with an optic disc pit located on the Supero-Nasal aspect. The 8th Asia Pacific Vitreo-Retina Society Congress & the 52th Annual Meeting of Japanese Retina and Vitreous Society, Nagoya, 2013.12.6-8.
120. Koizumi H, Kano M, Yamamoto A, Sekiryu T, Okada AA, Iida T: Changes in choroidal thickness after intravitreal injections of aflibercept for exudative age-related macular degeneration: 3-month results, The 8th Congress of the Asia-Pacific Vitreoretinal Society, Nagoya, December 6-8. 2013.
121. Kano M, Yamamoto A, Koizumi H, Iida T, Okada AA, Sekiryu T: Initial clinical outcomes of intravitreal aflibercept for typical age-related macular degeneration, The 8th Congress of the Asia-Pacific Vitreoretinal Society, Nagoya, December 6-8. 2013.
122. Yamamoto A, Kano M, Koizumi H, Sekiryu T, Iida T, Okada AA: Initial clinical outcomes of intravitreal aflibercept for polypoidal choroidal vasculopathy, The 8th Congress of the Asia-Pacific Vitreoretinal Society, Nagoya, December 6-8. 2013.
123. Hiroshi Keino: APVRS Symposium: “Assessment and Treatment of Intraocular Lymphoma “Differential diagnosis and systemic evaluation”. 8th Asia Pacific Vitreo-retina Society Congress (APVRS), Nagoya, December 6-8. 2013.
124. Razaee K, Kadonosono K, Oshima Y, Nagpal M, Ruamviboonsk P, Inoue M, Chang A, Okame GT: RETINAWAS, The 8th Asia-Pacific Vitreo-Retina Society Congress. The 52nd Annual meeting of the Japanese Retina and Vitreous Society, Nagoya, December 7. 2013.
125. Inoue M: RVO cases, 2013 APVRS Novartis Dinner Meeting, Nagoya, December 7. 2013.
126. 平形明人: 糖尿病網膜症—内科眼科連携の促進を目指して—. 糖尿病細小血管障害合併症治療研究会 (DMTK 会), 倉敷市, 平成26年1月16日.
127. 平形明人: 眼球外傷. 平成25年度東京都眼科医会卒後研修会, 東京, 平成26年1月18日.
128. 今野公士: 眼窩外傷および眼科疾患, 東京都眼科医会平成25年度卒後教育講演, 平成26年1月18日.
129. 新井千賀子, 尾形真樹, 田中恵津子, 小田浩一, 岡田アナベルあやめ, 平形明人: ロービジョンケア前後における QOL の変化とケア内容の分析, 日本視覚学会2014年冬季大会, 東京, 平成26年1月22-24日.
130. 山田昌和: ドライアイの治療戦略アップデート, 三淀眼科研究会, 大阪, 平成26年1月25日.
131. 山田昌和: コンタクトレンズとドライアイ, 参天記

- 念講演会, 東京, 平成26年1月26日.
132. 山田昌和: 角膜治療最新アップデート, 周術期管理編, ランチョンセミナー, 第30回日本角膜学会, 那覇, 平成26年1月30日.
133. 山田昌和: ドライアイに抗炎症は重要か? シンポジウム, 第30回日本角膜学会, 那覇, 平成26年1月30日.
134. 山田昌和, 重安千花, 阿久根陽子, 川島素子: SCL装用者のドライアイに対するジクアホソルナトリウム点眼の効果, 第30回日本角膜学会, 那覇, 平成26年1月30日.
135. 堀江大介, 五月女典久, 稲見達也, 山口靖子, 吉野啓, 山田昌和: P K P 後の続発性緑内障に対するEXPRESS手術の短期経過, 第30回日本角膜学会, 那覇, 平成26年1月30日.
136. 齊藤恒浩, 重安千花, 中島史絵, 藤井かんな, 山田昌和: オルソケラトロジーによるアカントアメーバ角膜炎, 第30回日本角膜学会, 那覇, 平成26年1月30日.
137. 中島史絵, 重安千花, 藤井かんな, 井之川宗右, 阿久根陽子, 山田昌和: 特異な涙液蛋白パターンを示した先天性無涙腺症の1例, 第30回日本角膜学会, 那覇, 平成26年1月30日.
138. 中村奈津子, 福井正樹, 水野喜信, 重安千花, 山田昌和: Salzmann 角膜変性の2症例, 第30回日本角膜学会, 那覇, 平成26年1月30日.
139. 重安千花, 阿久根陽子, 川島素子, 山田昌和: SCL装用者のドライアイに対するレバミピド点眼の効果, 第30回日本角膜学会, 那覇, 平成26年2月1日.
140. 山田昌和, 島崎潤, 高村悦子, 木下茂: ドライアイの自覚症状を考える, ムコスタ発売2周年記念講演会, 東京, 平成26年2月8日.
141. 平形明人: ビデオセッション~世話人秘蔵ビデオ公開~. 硝子体手術フォーラム Winter Vitrectomy Meeting, 北海道虻田郡, 平成26年2月14-15日.
142. 井上真: アルコンイブニングセミナー「極める! 術中眼圧コントロール」, Winter vitrectomy meeting, ルスツ, 平成26年2月14日.
143. 井上真: 黄斑下血腫に帯する網膜下 t-PA+ 空気注入術, Winter vitrectomy meeting, ルスツ, 平成26年2月15日.
144. Takayo Watanabe, Kyoko Hirukawa, Hiroshi Keino, Wakako Taki, Nariaki: Clinical characteristics of patients diagnosed with presumed diabetic iritis. IOIS meeting Valencia, Spain, February 27- March 1.
145. 山田昌和: 涙とドライアイ, 確かなこと, 不確かなこと, 第29回近畿眼科先進医療研究会, 大阪, 平成26年3月1日.
146. 井上真: Novartis 座談会, 東京, 平成26年3月7日.
147. 山田昌和: ドライアイ診療アップデート, 福井県眼科シンポジウム, 福井, 平成26年3月8日.
148. 柳沼重晴: 白内障について. 参天製薬社内学術講演, 立川市, 平成26年3月11日.
149. 山田昌和: ドライアイ診療アップデート, 第5回広島眼科セミナー, 広島, 平成26年3月15日.
150. 平形明人: 症例から学ぶ眼底疾患アップデート. 第252回長野県眼科医会集談会, 松本市, 平成26年3月16日.
151. 平形明人: 症例から学ぶ眼底疾患アップデート. 第43回京都眼科フォーラム, 京都市, 平成26年3月22日.
152. 井上真: どげんがせないかん! 近視性網膜分離症, 第12回おっしょいの会, 福岡, 平成26年3月22日.
153. Inoue M: Fovea-sparing ILM peeling and inverted ILM flap technique for myopia, 2nd Duke Alumni & Friends Night Seminar, Tokyo, March 31, 2014.

論文

- Hirakata A, Inoue M, Hiraoka T, McCuen II BW¹ (¹Duke University School of Medicine, Department of Ophthalmology Durham, North Carolina): Auther Reply. *Ophthalmology* 120: 878-879, 2013.
- Ito Y, Inoue M, Rii T, Hirota K, Hirakata A: Correlation between foveal cone outer segment tips line and visual recovery after epiretinal membrane surgery. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 54:7302-7308, 2013.
- Kawamura R¹, Shinoda K^{1,2}, Inoue M, Noda T³, Ohnuma K⁴, Hirakata A (¹Department of Ophthalmology, Keio Univ., Department of Ophthalmology, ²Teikyo Univ., Department of Ophthalmology, ³National Hospital Organization Tokyo Medical Center, ⁴Department of Medical System Engineering, Chiba Univ.): Images of intravitreal objects projected onto posterior surface of model eye. *Acta Ophthalmol* 91:e561-566, 2013.
- Taniuchi S¹, Hirakata A, Itoh Y, Hirota K, Inoue M (¹Juntendo Univ., Department of Ophthalmology): Vitrectomy with or without internal limiting membrane peeling for each stage of myopic traction maculopathy. *Retina* 33:2018-2025, 2013
- 斎藤恒浩, 廣田和成, 井上真, 野村昌弘¹, 岡田アナベルあやめ, 平形明人 (¹国家公務員共済組合連合会立川病院眼科): von Hippel-Lindau 病に伴う傍乳頭血管腫の治療の2症例. *日眼会誌* 118:33-39, 2014.
- Ohno-Matsui K¹, Hirakata A, Inoue M, Akiba M², Ishibashi T³ (¹Department of Ophthalmology and Visual Science, Tokyo Medical and Dental University ²Topcon Corporation³, Department of Ophthalmology, Kyushu University): Evaluation of congenital optic disc pits and optic disc colobomas by swept-source optical coherence tomography. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 54:7769-78, 2013.
- Rii T, Hirakata A, Inoue M: Comparative findings in childhood-onset versus adult-onset optic disc pit maculopathy. *Acta Ophthalmol* 91:429-33, 2013.
- Inoue M, Bissen-Miyajima H¹, Arai H², Hirakata A (¹Department of Ophthalmology, Tokyo Dental College Suidobashi Hospital, ²Minatomirai Eye Clinic): Retinal images viewed through a small aperture corneal inlay. *Acta Ophthalmol*: 92, e168-9, 2014.
- Hirota K, Hirakata A, Inoue M: Dehiscence of detached internal limiting membrane in eyes with myopic traction maculopathy with spontaneous resolution. *BMC*

- Ophthalmol 14: 39, 2014.
10. Iwashashi-Shima C, Azumi A, Ohguro N, Okada AA, Kaburaki T, Goto H, Sonoda K-H, Namba K, Mizuki N, Mochizuki M: Factors associated with anatomic and visual outcomes in acute retinal necrosis. *Jpn J Ophthalmol* 57:98-103, 2013.
 11. Yamamoto A, Okada AA, Sugitani A, Kunita D, Rii T, Yokota R: Two-year outcomes of pro re nata ranibizumab therapy for exudative age-related macular degeneration in Japanese patients. *Clinical Ophthalmology* 7:757-763, 2013.
 12. Trusko BE, Jabs DA, Thorne JE, Belfort R, Dick AD, Gangaputra S, Nussenblatt RB, Okada AA, Rosenbaum JT and the Standardization of Uveitis Nomenclature (SUN) Working Group: Development of a clinical evidence base utilizing informatics tools and techniques for the standardization of uveitis nomenclature (SUN) project. *Methods Inf Med.* 52:259-260, 2013.
 13. Okada AA, Jabs DA: The SUN Project: the future is here. *JAMA Ophthalmol* [Editorial] 131:787-789, 2013.
 14. Hirukawa K, Keino H, Watanabe T, Okada AA: Enhanced depth imaging optical coherence tomography of the choroid in new-onset acute posterior scleritis. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* 251:2273-2275.
 15. Taki W, Keino H, Watanabe T, Okada AA: Enhanced depth imaging optical coherence tomography of the choroid in recurrent unilateral posterior scleritis. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* 251:1003-1004, 2013.
 16. Hiratsuka Y, Yamada M, Akune Y, Murakami A, Okada AA, Yamashita H, Ohashi Y, Yamagishi N, Tamura H, Fukuhara S, Takura T: Cost-utility analysis of cataract surgery in Japan: a probabilistic Markov modeling study. *Jpn J Ophthalmol* 57:391-401, 2013.
 17. LEVEL-J Study Group: Maintenance therapy with pegaptanib sodium for neovascular age-related macular degeneration: an exploratory study in Japanese patients (LEVEL-J study). *Jpn J Ophthalmol* 57:417-423, 2013.
 18. Wolf S, Balciuniene VJ, Laganovska G, Menchini U, Ohno-Matsui K, Sharma T, Wong TY, Silva R, Pilz S, Gekkieva M on behalf of the the RADIANCE Study Group (including AA Okada): RADIANCE: A Randomized Controlled Study of Ranibizumab in Patients with Choroidal Neovascularization Secondary to Pathologic Myopia. *Ophthalmology* (in press).
 19. Kaburaki T, Namba K, Sonoda K, Kezuka T, Keino H, Fukuhara T, Kamoi K, Nakai K, Mizuki N, Ohguro N and the Ocular Behcet Disease Research Group of Japan (including AA Okada): Behcet's disease ocular attack score 24: evaluation of ocular disease activity before and after initiation of infliximab. *Jpn J Ophthalmol* (in press).
 20. Tano T, Ono K, Hiratsuka Y, Fukuhara S, Murakami A, Yamada M: Prevalence of pterygium in a population in Northern Japan: The Locomotive Syndrome and Health Outcome in Aizu Cohort Study. *Acta Ophthalmologica.* 2013;91:e232-e236.
 21. Hiratsuka Y, Akune Y, Yamada M, Eye Care Comparative Effectiveness Research Team (ECCERT) : Cost-utility analysis of cataract surgery in Japan: a probabilistic Markov modeling study. *Jpn J Ophthalmol* 2013;27:391-401.
 22. Araki-Sasaki K, Hirano K, Osakabe Y, Kuroda M, Kitagawa K, Mishima H, Obata H, Yamada M, Maeda N, Nishida K, Kinoshita S: Classification of secondary corneal amyloidosis and involvement of lactoferrin. *Ophthalmology* 2013;120:1166-1172.
 23. Shigeyasu C, Hirano S, Akune Y, Mochizuki H, Yamada M: Evaluation of the frequency of ophthalmic solution application: washout effects of topical saline application on tear components. *Curr Eye Res.* 2013;38:722-728.
 24. Fukuhara S, Wakita T, Yamada M, Hiratsuka Y, Green J, Oki K: Development of a Short Version of the Visual Function Questionnaire Using Item-Response Theory. *PLoS ONE* 2013;8: e73084.
 25. 杉山沙織, 小川佳子, 大出尚郎, 仁科幸子, 山田昌和: 周期性内斜視術後に間欠性外斜視を呈した成人の1例. *眼臨紀要* 6:979-982. 2013
 26. 田中宏樹, 重安千花, 谷井啓一, 渡辺健, 春畑裕二, 秋山邦彦, 山田昌和: Bacillus 属による遅発性濾過胞感染に伴う眼内炎の1例. *あたらしい眼科*30: 385-389. 2013
 27. 山田昌和. ドライアイ治療の最新戦略. *東京都医師会雑誌* 66:246-252. 2013
 28. 山田昌和: ドライアイ, 新規薬剤の位置付け. *Medicament News* 2127:8-9. 2013
 29. 山田昌和: ドライアイの点眼治療. *眼科* 55:805-811. 2013
 30. 山田昌和: 白内障手術の効用. *眼科手術* 26:415-418. 2013
 31. 平塚義宗, 山田昌和, 阿久根陽子, 村上晶, 山下英俊, 大橋裕一: マルコフモデルを利用したシミュレーション研究と白内障手術の費用対効果. *日眼会誌* 117:766-770. 2013
 32. 小幡博人, 堀裕一, 山田昌和, 横井則彦: 困った目の不定愁訴はこうして解決する. *あたらしい眼科* 31:225-229. 2014
 33. Taniuchi S, Hirakata A, Itoh Y, Hirota K, Inoue M. Vitrectomy with or without internal limiting membrane peeling for each stage of myopic traction maculopathy. *Retina.* 2013 Nov-Dec;33(10):2018-25.
 34. Hirukawa-Nakayama K, Hirakata A, Tomita K, Hiraoka T, Inoue M. Increased choroidal thickness in patient with high-altitude retinopathy. *Indian J Ophthalmol.* 2013 Sep 6. [Epub ahead of print]
 35. Hirota K, Hirakata A, Inoue M. Dehiscence of detached internal limiting membrane in eyes with myopic traction maculopathy with spontaneous resolution. *BMC Ophthalmol* 2014 March 29;14:39.

36. Inoue M, Bissen-Miyajima H, Arai H, Noda T, Ohnuma K, Hirakata A. Image quality of grating target in model eye when viewed through small aperture corneal inlay. *J Cat Refract Surg* (in press)
37. Ideta S, Ota Y, Yuki K, Noda M, Inoue M, Tsubota K. Evaluation of surgical outcomes for ptosis surgery by face recognition software. *Asia-Pacific J Ophthalmol* (in press).
38. Matsumoto-Otake A, Hirota K, Koto T, Inoue M, Hirakata A. Thickened retinal ganglion cell complex in patient with severe Takayasu retinopathy at early stage. *Retinal Cases & Brief Reports* (in press).
39. Inoue M, Uchida A, Shinoda K, Taira Y, Noda T, Ohnuma K, Bissen-Miyajima H, Hirakata A. Images created in model eye during simulated cataract surgery can be basis for images perceived by patients during cataract surgery. *Eye (Lond)* (in press)
40. Itoh Y, Inoue M, Rii T, Ando Y, Hirakata A. Asymmetrical recovery of cone outer segment tips line and foveal displacement after successful macular hole surgery. *Invest Ophthalmol Vis Sci* (in press)
41. Suzuki Y, Hama Y, Yoshikawa-Kobayashi I, Tomita K, Inoue M, Hirakata A. Eyelash line resection for ciliary entropion in patients with Down's syndrome. *Br J Ophthalmol* (in press)
42. 柴田朋宏, 井上真, 廣田和成, 平岡智之, 平形明人, 大槻勝紀, 宇多重員: 眼内レンズ縫着術後に生じた後眼部合併症の臨床的特徴. *日眼会誌*117(1), 19-26, 2013.
43. 満川忠宏, 柳沼重晴, 今野公士, 井上真, 渡邊敏樹, 気賀沢一輝, 石田正, 大石知瑞子, 平形明人: 水痘・帯状疱疹ウイルス感染を契機とした眼窩先端部症候群の1例. *眼科*55(13), 1635-1640, 2013.
44. 野崎実穂, 鈴間潔, 井上真, 川崎良, 喜照代, 高村佳弘, 長岡泰司, 村上智昭, 吉田茂生: 日韓糖尿病網膜症研究グループ. 日韓糖尿病網膜症治療の現状についての比較調査. *日眼会誌*117: 735-742, 2013.
45. 斎藤恒浩, 廣田和成, 井上真, 野村晶弘, 岡田アナベルあやめ, 平形明人: von Hippel-Lindau 病に伴う傍乳頭血管腫に対し光凝固を施行した2症例. *日眼会誌*118(1): 33-39, 2014.
46. Kaburaki T, Namba K, Sonoda KH, Kezuka T, Keino H, Fukuhara T, Kamoi K, Nakai K, Mizuki N, Ohguro N: Ocular Behçet Disease Research Group of Japan. Behçet's disease ocular attack score 24: evaluation of ocular disease activity before and after initiation of infliximab. *Jpn J Ophthalmol*. 2014;58:120-30. doi: 10.1007/s10384-013-0294-0
47. Keino H, Watanabe T, Sato Y, Shudo K, Kitaoka Y, Harada T, Okada AA: Retinoic acid receptor stimulation ameliorates experimental autoimmune optic neuritis *Clin Experiment Ophthalmol*. 2014 Mar 10. doi: 10.1111/ceo.12308.
48. Sugita S, Kawazoe Y, Imai A, Kawaguchi T, Horie S, Keino H, Takahashi M, Mochizuki M: Role of IL-22- and TNF- α -producing Th22 cells in uveitis patients with Behçet's disease. *J Immunol*. 2013 ;190:5799-808. doi: 10.4049/jimmunol.1202677.
49. 渡辺交世, 松木奈央子, 柳沼重晴, 永本敏之: 先天白内障の角膜乱視. *日本眼科学会雑誌*118: 98-103, 2014.
- 著書**
1. 平形明人: 黄斑疾患: 黄斑円孔. 落合慈之, 平形明人監: 眼科疾患ビジュアルブック, 学研, 東京, 2013. p. 205-208.
 2. 平形明人: 黄斑疾患: 黄斑上膜. 落合慈之, 平形明人監: 眼科疾患ビジュアルブック, 学研, 東京, 2013. p. 209-211.
 3. 平形明人: 網膜色素変性症(杆体錐体ジストロフィ). 落合慈之, 平形明人監: 眼科疾患ビジュアルブック, 学研, 東京, 2013. p. 226-229
 4. 平形明人: 網膜症治療の現状と課題. 月刊糖尿病 Vol.5 No.1, 医学出版, 東京, 2013. p. 61-69.
 5. 平形明人: 網膜剥離. 疾患・症状別今日の治療と看護 改訂版3版, 南江堂, 東京, 2013. P. 1372-1376.
 6. 平形明人: 乳頭ピット黄斑症候群. 瓶井資弘編: 専門医のための眼科診療クオリファイ17 裂孔原性網膜剥離—How to treat, 中山書店, 東京, 2013. p.259-267.
 7. 平形明人: 乳頭ピット黄斑症候群. 飯田知弘編: 専門医のための眼科診療クオリファイ18 眼底 OCT のすべて, 中山書店, 東京, 2013. p.100-106.
 8. 平形明人: 糖尿病網膜症. 香川靖雄, 近藤和雄, 石田均, 門脇孝編: 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち各論 改訂第2版, 南江堂, 東京, 2013. p.25-32.
 9. 落合慈之, 平形明人, 永本敏之, 岡田アナベルあやめ, 井上真, 小田仁: 眼科疾患ビジュアルマップ. 学研メディカル秀潤社, 東京, 2013.
 10. 山田昌和: 点状表層角膜症. 眼科疾患最新の治療2013-2015. 大橋裕一, 白神史雄編. 南江堂, 2013. p.48-49.
 11. 山田昌和: 薬剤毒性角膜症. 眼科疾患最新の治療 2013-2015. 大橋裕一, 白神史雄編. 南江堂, 2013. p.107.
 12. 山田昌和: 成人斜視手術の適応と限界. 斜視手術. 若倉雅登, 石川均編. 金原出版, 2013. p.12-18.
 13. 山田昌和: 斜視術後の整容的な不満足. 斜視手術. 若倉雅登, 石川均編. 金原出版, 2013. p.102-104.
 14. 山田昌和: 結膜弛緩症(単純型) 結膜切除を行わない方法. 眼手術学 4. 角膜・結膜・屈折矯正. 西田幸二, 横井則彦, 前田直之編. 文光堂, 2013. p.296-299.
 15. 山田昌和: 涙液油層の構築とその機能. 眼科診療クオリファイ 19. ドライアイスペシャリストへの道. 横井則彦編. 中山書店, 2013. p.30-31.
 16. 山田昌和: リン脂質はマイボーム腺から分泌されていないって本当ですか. 眼科診療クオリファイ 19. ドライアイスペシャリストへの道. 横井則彦編. 中山書店, 2013. p.32-33.

17. 山田昌和：涙液のターンオーバーとその異常. 眼科診療クオリファイ 19. ドライアイスペシャリストへの道. 横井則彦編. 中山書店, 2013. p.69-71.
 18. 山田昌和：コンタクトレンズ装用眼の涙液のターンオーバーはどうなりますか. 眼科診療クオリファイ 19. ドライアイスペシャリストへの道. 横井則彦編. 中山書店, 2013. p.72-73.
 19. 山田昌和：20章, 眼疾患. 今日の処方, 改訂第5版, 浦部晶夫, 大田健, 川合真一, 島田和幸, 菅野健太郎編. 南江堂, 2013. p.1103-1111.
 20. 山田昌和：結膜弛緩症. 眼科外来処置・小手術クローズアップ, 江口秀一郎編. メジカルビュー社, 2014. p.82-83.
 21. 井上真：増殖糖尿病網膜症の治療 / 硝子体手術の治療と予後. 専門医のための眼科診療クオリファイ 16糖尿病眼合併症の新展開, 中山書店, 2013年2月 P82-86.
 22. 井上真：眼内腫瘍（網膜芽細胞腫, 脈絡膜腫瘍ほか）. 眼科ビジュアルブック, 学研, 2013年4月.
 23. 井上真：強膜内視術 / 網膜下液排液. 専門医のための眼科診療クオリファイ17裂孔原性網膜剥離—How to treat, 中山書店, 2013年6月 P125-129.
 24. 井上真：眼内レンズの特殊な使用法. 眼内レンズ強膜縫着術. 専門医のための眼科診療クオリファイ20眼内レンズの使いかた, 中山書店, 2014年1月 P225-232.
 25. 井上真：網膜外層所見と視機能. ここを活かそう！OCT. OCULISTA, 全日本病院出版会, 2013年5月 p40-46.
 26. 井上真：コーツ病の光凝固治療. 光凝固療法実線マニュアル. OCULISTA, 全日本病院出版会, 2013年6月 p71-74.
 27. 井上真：黄斑上膜の治療. 黄斑円孔・上膜の病態と治療. OCULISTA, 全日本病院出版会, 2013年5月 p16-22.
 28. 慶野博：ぶどう膜炎の眼科検査所見. Monthly Book OCULISTA No.5 ぶどう膜炎外来診療. 竹内大. 東京, 全日本病院出版会, 2013. p9-16.
 29. 慶野博：Chapter 8 強膜疾患 強膜炎, 上強膜炎. 眼科疾患ビジュアルブック. 平形明人. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2013. p145-148.
 30. 慶野博：Chapter 12 後眼部疾患・ぶどう膜炎. 眼科疾患ビジュアルブック. 平形明人. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2013. p177-191.
 31. 慶野博：急性前部ぶどう膜炎. 眼科臨床エキスパート 所見から考えるぶどう膜炎. 園田康平, 後藤浩. 東京, 医学書院, 2013. p142-149.
 32. 慶野博：サルコイドーシス原田病. 眼科疾患最新の治療2013-2015. 大橋裕一, 白神史雄. 東京, 南江堂, 2013. p242.
 33. 慶野博：原田病. 眼科疾患最新の治療2013-2015. 大橋裕一, 白神史雄. 東京, 南江堂, 2013. p244.
 34. 慶野博：左眼充血, 眼痛, 下肢関節痛も伴う症例. 眼科診療のピットフォール. 松本長太. 京都, 金芳堂, 2013. p99-102.
 35. 鈴木由美, 富田香, 今野公士：眼球付属器の構造と機能. 眼科ビジュアルブック, 学研, 2013年4月.
 36. 鈴木由美, 富田香：斜視. 眼科ビジュアルブック, 学研, 2013年4月.
 37. 鈴木由美, 富田香：弱視. 眼科ビジュアルブック, 学研, 2013年4月.
 38. 鈴木由美, 富田香：眼組織の発生と分化. 眼科ビジュアルブック, 学研, 2013年4月.
 39. 鈴木由美, 富田香：先天異常の原因と種類. 眼科ビジュアルブック, 学研, 2013年4月.
 40. 渡辺交世：Chapter 1 眼球の構造と機能 中間透光体. 眼科疾患ビジュアルブック. 平形明人. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2013. P5.
 41. 渡辺交世：Chapter 9 水晶体疾患. 眼科疾患ビジュアルブック. 平形明人. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2013. P149-155.
 42. 渡辺交世：梅毒・結核. 眼科疾患最新の治療2013-2015. 大橋裕一, 白神史雄. 東京, 南江堂, 2013. p238.
- 特許等知的財産関係, 報告書**
1. 平形明人：黄斑下手術の現状と課題. 平成24年度次世代医療機器評価指標作成事業 再生医療審査 WG 報告書, 2013. p.37-53.
 2. 平成25年度厚生科研医療機器開発研究事業「読書が可能な人工視覚システム（脈絡膜上-経網膜電気刺激（STS）法の実用化（H24-医療機器-一般-004）報告書, 2014.
- その他**
1. 平形明人：恩師を語る. 銀海 No. 222, 千寿製薬株式会社, 東京2013. p.30-31.
 2. 平形明人：現場を知り, 空気を読める人に. 「医師の心を開く対話術」佐藤望著, 幻冬舎, 東京, 2013. p.156-164.
 3. 平形明人：糖尿病網膜症治療の現状と課題. 第227号目黒区医師会 会報, 目黒区医師会, 東京, 2013. p.1.
 4. 平形明人：糖尿病網膜症の最新治療—糖尿病網膜症に対してどう向き合えばよいのか—. べんちのーと vol24, No2, メディカル・ジャーナル社, 東京, 2013. p.12-13.
 5. 平形明人：病的近視の診断・治療と今後の課題 ラニビズマブの果たすべき役割. 病的近視におけるCNV 座談会, ノバルティスファーマ株式会社 日本アルコン株式会社, 東京, 2013.
 6. 平形明人：老化現象？それとも病気のサイン？飛蚊症. きょうの健康, NHK 出版, 東京, 2014. p.80-84.
 7. 平形明人：Optos だから見逃さなかった. 第67回日本臨床眼科学会 セミナーレポート, Chuo Sangio Times vol., 中央産業貿易株式会社, 東京, 2014. p.6.
 8. 岡田アナベルあやめ：加齢黄斑変性についてのインタビュー, 日系 CNBC ニュース, 平成26年2月24日.
 9. 慶野博：文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究C（平成23年度-平成25年度）レチノイドを用いた眼炎症疾患における視神経, 神経網膜保護の試み.

10. 伊東裕二, 井上真, 利井東昇, 廣田和成, 平形明人: 黄斑前膜術後における中心窩錐体細胞外節端の修復と視力回復との関係, 日本眼科学会雑誌, 外国誌要覧, 118: 303, 2014.
11. 柳沼重晴: 第28回 JSCRS 学術総会賞 (Best of Cataract Surgery).
12. 柳沼重晴: 「東京多摩地区眼科集談会」の歩み, 眼科臨床紀要7(3): 234-235, 2014.
13. 渡邊交世: 日本学術振興会 科学研究費助成事業若手研究 (B) (平成24年度 - 平成 25年度) マイクロ RNA を標的とした難治性網膜ぶどう膜炎の炎症制御の可能性.
14. 幸: 顎骨に発生したのう胞性疾患の臨床的検討. 第114回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 札幌, 平成25年5月18日.
15. 唐帆健浩【パネルディスカッション】: 嚥下障害に対する耳鼻咽喉科医の役割 - 嚥下訓練の実際. 第114回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 札幌, 平成25年5月18日.
16. 安田卓史, 榎本愛, 藏口潤, 小泉敏之, 里見貴史, 松尾朗, 金子忠良, 近津大地: 口腔扁平苔癬の初診時臨床診断と確定診断の一致率に関する検討, 第67回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会, 宇都宮, 平成25年5月23-24日.

耳鼻咽喉科学教室

口 演

1. 小柏靖直: 高齢者及び合併症を有する症例に対する S-1併用放射線化学療法. 第12回頭頸部腫瘍フォーラム, 立川, 平成25年4月12日.
2. 濱之上泰裕: 鼻の手術症例. 第19回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 平成25年4月13日.
3. 尾川昌孝: 遺伝性難聴症例. 第19回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 平成25年4月13日.
4. 山中英敬: 悪性頸動脈小体腫瘍の1例. 第19回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 平成25年4月13日.
5. 横井秀格【講演】: 眼症状を主訴とした鼻副鼻腔病変. 北多摩耳鼻咽喉科医会学術講演会, 東京, 平成25年4月25日.
6. 唐帆健浩【教育講演】: 摂食嚥下障害の基礎知識 (2). 中野区医師会 (中野区摂食嚥下機能支援講習会). 東京, 平成25年5月14日.
7. 広瀬弥奈, 村田幸枝, 福田敦史, 八幡祥子, 松本大輔, 藏口潤, 齊藤正人, 水谷博幸: フッ素化合物先行実地地区と日実地地区における幼児の口腔環境の比較について. 第62回日本口腔衛生学会総会, 松本, 平成25年5月15 - 17日.
8. 横井秀格, 小柏靖直, 松本吉史, 小倉慶雄, 松本祐磨, 甲能直幸: 内視鏡下鼻内アプローチ (EEA) にて摘出したまれな鼻中隔腫瘍の3例. 第114回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 札幌, 平成25年5月16日.
9. 増田正次, 甲能直幸, 小川郁: 耳鳴に対するストレス応答の他覚的測定. 第114回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 札幌, 平成25年5月16日.
10. 甲能直幸【司会のことば】: 臨床セミナー (5) 抗がん剤の有害事象対策. 第114回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 札幌, 平成25年5月17日.
11. 佐藤大, 横井秀格, 小柏靖直, 甲能直幸: *Corynebacterium striatum* が起炎菌として疑われた重症難治性副鼻腔炎の1例. 114回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 札幌, 平成25年5月17日.
12. 池田哲也, 小柏靖直, 佐藤佑樹, 松田雄大, 甲能直幸: 顎骨に発生したのう胞性疾患の臨床的検討. 第114回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 札幌, 平成25年5月18日.
13. 唐帆健浩【パネルディスカッション】: 嚥下障害に対する耳鼻咽喉科医の役割 - 嚥下訓練の実際. 第114回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 札幌, 平成25年5月18日.
14. 安田卓史, 榎本愛, 藏口潤, 小泉敏之, 里見貴史, 松尾朗, 金子忠良, 近津大地: 口腔扁平苔癬の初診時臨床診断と確定診断の一致率に関する検討, 第67回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会, 宇都宮, 平成25年5月23-24日.
15. Taguchi T, Kubota A, Yoshino K, Tomita K, Kohno N, Kawabata K, Fukushima M, Tsukahara K, Takemura H, Hasegawa Y, Terada T, Nagahara K, Nakatani H, Higaki Y, Iwae S, Beppu T, Hanamura Y, Teramukai S, Fujii M: Adjuvant chemotherapy with S-1 after curative treatment in patients with head and neck cancer (ACTS-HNC). 2013 ASCO Annual Meeting, USA, May 30. 2013
16. Karaho T, Kohno N: Surgical Management of Dysphagia. IFOS Seoul 2013 20th World Congress of the international Federation of Oto-Rhino-Laryngological Societies, Korea, June 2. 2013.
17. Kogashiwa Y, Kohno N: Sentinel Node Navigation Surgery using Indocyanin Green (ICG) Fluorescence imaging for Head and Neck Squamous Cell Carcinoma. IFOS Seoul 2013 20th World Congress of the international Federation of Oto-Rhino-Laryngological Societies, Korea, June 3. 2013.
18. 尾川昌孝: 原因不明の成人軟口蓋穿孔の1例. 第26回口腔・咽頭科学会総会 学術講演会, 名古屋, 平成25年6月12日.
19. 佐藤佑樹, 小柏靖直, 甲能直幸: 咽頭後血腫を生じた弓部大動脈瘤破裂の1例. 第26回口腔・咽頭科学会総会 学術講演会, 名古屋, 平成25年6月12日.
20. 長谷川泰久, 藤井正人, 久保田彰, 吉野邦俊, 富田吉信, 甲能直幸, 川端一嘉, 塚原清彰, 手良向聡, 福島雅典: 頭頸部扁平上皮癌根治治療後の TS-1 補助化学療法多施設無作為化比較試験 (ACTS-HNC). 第37回日本頭頸部癌学会, 東京, 平成25年6月14日.
21. 横井秀格, 中川隆之, 児玉悟, 小柏靖直, 松本祐磨, 甲能直幸: 経鼻内視鏡的アプローチにて摘出した早期嗅神経芽細胞腫症例の評価と検討. 第25回日本頭蓋底外科学会, 名古屋, 平成25年6月27日.
22. 小柏靖直: 当科における頭頸部癌化学療法の臨床と研究. 多摩頭頸部がんセミナー, 立川, 平成25年6月28日.
23. 松本吉史, 小柏靖直, 甲能直幸【ポスター】: 当科における耳鼻咽喉科領域の結核10症例の検討. 第75回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会, 神戸, 平成25年7月12日.
24. 唐帆健浩【特別講演】: 耳鼻咽喉科診療や一般外来で行う摂食嚥下障害の診療. 第4回多摩杏林耳鼻科会, 東京, 平成25年7月20日.

25. Yokoi H, Matsumoto Y, Watanabe I, Kawada M, Kohno N : A case of rhinogenic optic neuropathy associated with abducens nerve paralysis caused by mixed viral and bacterial infection. 16th Asian Research Symposium in Rhinology, JAPAN, Aug 29-31. 2013.
26. 佐藤大, 山内宏一, 小柏靖直, 甲能直幸 : 早期頭頸部扁平上皮癌に対するセンチネルリンパ節生検のメタ解析を用いた有用性の検討. 第15回 SNNS 研究会学術集会, 釧路, 平成25年9月20日.
27. 小柏靖直, 佐藤大, 茂呂順久, 松本吉史, 渡邊格, 中村健大, 甲能直幸 : ICG 蛍光法を用いた頭頸部センチネルリンパ節生検においてトレーサーの2次リンパ節流入を抑制する方法に関する基礎研究. 第15回 SNNS 研究会学術集会, 釧路, 平成25年9月20日.
28. 川田往嗣, 横井秀格, 松本祐磨, 渡邊格, 甲能直幸 : 鼻性頭蓋内合併症の一例. 第52回日本鼻科学会総会・学術講演会, 福井, 平成25年9月28日.
29. 渡邊格, 横井秀格, 松本祐磨, 川田往嗣, 甲能直幸 : 網脈中心動脈閉塞症を合併した鼻性視神経炎の一例. 第52回日本鼻科学会総会・学術講演会, 福井, 平成25年9月28日.
30. 横井秀格, 松本祐磨, 渡邊格, 川田往嗣, 甲能直幸 : ウイルスと細菌の混合感染が原因と示唆され, 外転神経麻痺を伴った鼻性視神経症の一例. 第52回日本鼻科学会総会・学術講演会, 福井, 平成25年9月28日.
31. 松本祐磨, 池田哲也, 横井秀格, 川田往嗣, 渡邊格, 甲能直幸 : 当科における片側性副鼻腔炎についての検討. 第52回日本鼻科学会総会・学術講演会, 福井, 平成25年9月28日.
32. 池田哲也, 横井秀格, 松本祐磨, 甲能直幸 : 慢性副鼻腔炎における菌性感染症の関連について. 第52回日本鼻科学会総会・学術講演会, 福井, 平成25年9月28日.
33. 池田哲也, 甲能直幸 : 当科におけるビスフォスフォネート関連顎骨壊死に対する対応について. 第58回日本口腔外科学会総会・学術大会, 福岡, 平成25年10月11日.
34. 藏口潤, 池田哲也, 里見貴史, 近津大地, 甲能直幸 : 口腔扁平苔癬類似粘膜炎の臨床病理組織学的検討. 第58回日本口腔外科学会総会・学術大会, 福岡, 平成25年10月12日.
35. 唐帆健浩【シンポジウム】 : 嚥下障害診療の標準化における現状と展望-嚥下機能検査. 第58回日本音声言語医学会総会・学術講演会, 高知, 平成25年10月17日.
36. Sato D, Yamauchi K, Kogashiwa Y, Kohno N : Diagnostic Evaluation of Sentinel Lymph Node Biopsy in early head and neck squamous cell carcinoma. The 30th Congress of Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, USA, October 17,2013.
37. Kawada M, Yokoi H, Matsumoto Y, Watanabe I, Kohno N : A case of rhinogenic intracranial complication. The 30th Congress of Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, USA, October 17,2013.
38. Watanabe I, Matsumoto Y, Kogashiwa Y, Sato D, Kohno N : Malignant lymphoma of submandibular gland in a patient with HIV infection: a case report. The 30th Congress of Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, USA, October 17,2013.
39. 尾川昌孝 : 原因不明の成人発症軟口蓋穿孔. 第20回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 平成25年10月26日.
40. 濱之上泰裕 : 小児の片側高度難聴症例. 第20回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 平成25年10月26日.
41. 佐藤哲也 : 咽喉頭異常感を合併した逆流性食道炎患者のエソメプラゾールの臨床評価-運動機能改善薬併用効果との比較検討-. 第20回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 平成25年10月26日.
42. 久場潔実, 菅澤正, 横山純吉, 甲能直幸, 塩谷彰浩, 小須田茂, 長谷川泰 : ICG 蛍光法と R I 法を用いた頭頸部がんセンチネルリンパ節生検術の実行可能性の検討. 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都, 平成25年10月26日.
43. 横井秀格【講演】 : アレルギー性鼻炎の診断と治療-最新のトレンド-. 第2回日臨技首都圏支部 医学検査学会, 東京, 平成25年10月27日.
44. 茂呂順久, 小柏靖直, 渡邊格, 松本吉史, 中村健大, 佐藤大, 甲能直幸 : ICG 蛍光法によるセンチネルリンパ節生検においてトレーサーの粒子径を簡便に増大させる動物実験の報告. 第65回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 東京, 平成25年10月31日.
45. 唐帆健浩, 佐藤哲也, 甲能直幸 : 不顕性誤嚥の評価と気道管理. 第65回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 東京, 平成25年11月1日.
46. 増田正次, 守田雅弘, 松本丈武, 松田雄大, 中村健大, 木村奈津子, 松本祐磨, 甲能直幸 : 耳管開放症による蝸牛障害を生じる可能性についての検討. 第39回多摩耳鼻咽喉科臨床研究会, 三鷹, 平成25年11月9日.
47. 濱之上泰裕, 増田正次 : 内耳道狭窄の1症例. 一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会例会第201回学術講演会, 東京, 平成25年11月9日.
48. 増田正次, 守田雅弘, 松田雄大, 中村健大, 松本丈武, 松本祐磨, 木村奈津子, 甲能直幸 : 耳管開放症により蝸牛障害を生じる可能性についての検討. 第23回日本耳科学会総会・学術講演会, 宮崎, 平成25年11月24日.
49. 横井秀格【講演】 : アレルギー性鼻炎の診断と治療-最新のトピックス-. 杉並区耳鼻咽喉科専門医会学術講演会特別講演, 東京, 平成25年11月27日.
50. 横井秀格, 松本祐磨, 川田往嗣, 高戸良之, 品川喜代美, 甲能直幸 : 花粉アレルギー検査における CCD 特異 IgE 抗体の関与について. 第63回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京, 平成25年11月29日.
51. Masuda M, Morita M, Matsumoto J, Matsuda T, Matsumoto Y, Nakamura T, Kimura N, Kohno N :

- The influence of the long-lasting patulous Eustachian tube syndrome on the sensorineural hearing loss. 12th Taiwan-Japan Conference on Otolaryngology Head and Neck surgery, Taiwan, December 6, 2013.
52. 中村健大, 小柏靖直, 甲能直幸: 診断に苦慮した口蓋扁桃原発の筋外性NK/T細胞リンパ腫, 鼻型の1例. 第24回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 高松, 平成26年1月30日.
 53. 渡邊格, 小柏靖直, 松本祐磨, 松本吉史, 佐藤大, 甲能直幸: 顎関節に発生した滑液胞炎の1例. 第24回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 高松, 平成26年1月30日.
 54. 木村奈津子, 小柏靖直, 渡邊格, 茂呂順久, 中村健大, 佐藤大, 横井秀格, 甲能直幸: 当科における8年間の顎下腺腫瘍51例の検討. 第24回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 高松, 平成26年1月31日.
 55. 佐藤大, 小柏靖直, 茂呂順久, 甲能直幸: 頸部膿瘍を合併した頭頸部癌の2症例. 第24回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 高松, 平成26年1月31日.
 56. 横井秀格【講演】: アレルギー性鼻炎における診断と治療戦略-最近のトピックス-. 多摩スプリングフォーラム, 立川, 平成26年2月8日.
 57. 佐藤哲也, 唐帆健浩, 甲能直幸: 嚥下障害を主訴とした小脳橋角部髄膜腫の1例. 第37回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会, 東京, 平成26年2月15日.
 58. 唐帆健浩【教育講演】: 嚥下障害診療チームにおける医療と地域医療連携. 第85回大分耳鼻咽喉科臨床研究会, 大分, 平成26年2月20日.
 59. 茂呂順久, 唐帆健浩, 甲能直幸: 嚥下内視鏡・圧検査の有用性に関する検討. 第26回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 沖縄, 平成26年3月7日.
 60. Masuda M: 【Poster Session 5】 Objective Measurements of Tinnitus distress. 8th International TRI Tinnitus Conference, New Zealand, March 13, 2014.
 61. 池田哲也: 好酸球性副鼻腔炎における菌性感染症の関連について. 第23回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会, 福岡, 平成26年3月23日.
 62. 横井秀格【講演】: アレルギー性鼻炎と慢性副鼻腔炎-上気道と下気道との関連の中での治療戦略-. サノフィ株式会社社内レクチャー, 武蔵野, 平成26年3月27日.
- 論文**
1. Yamauchi K, Fujioka Y, Kohno N: Sentinel node navigation Surgery Versus observation as a management strategy for early tongue carcinoma. *Head Neck* 34(4):568-72, 2012.
 2. Yamauchi K, Kogashiwa Y, Nakamura T, Moro Y, Nagafuji H, Kohno N: Diagnostic evaluation of sentinel lymph node biopsy in early head and neck squamous cell carcinoma: A Meta-Analysis. *Head Neck*: doi:10.1002/hed.23526, 2013.
 3. Sato D, Kogashiwa Y, Tsukahara K, Yamauchi K, Kohno N: Phase I study of nedaplatin prior to S-1 in patients with locally advanced head and neck squamous cell carcinoma. *Chemotherapy* 59(4):314-8, 2013.
 4. 唐帆健浩, 佐藤哲也: 嚥下障害診療における医療連携. *ENTONI* 150: 64-68, 2013.
 5. 小柏靖直, 甲能直幸【総説】: 頭頸部癌治療の現状と展望. *杏林医会雑誌* 44(2): 97-101, 2013.
 6. 横井秀格, 吉武洋, 甲能直幸: 花粉アレルギー検査における花粉アレルゲンおよび CCD 検出頻度に関する検討. *アレルギーの臨床*33(12): 77-82, 2013.
 7. 横井秀格, 松本祐磨, 川田往嗣, 甲能直幸【総説】: 特集 篩骨蜂巢-その不思議なもの Haller 蜂巢. *JOHNS* 29(8):1259-62, 2013.
 8. 横井秀格: 知っているようで知らない疾患のトリセツ 慢性副鼻腔炎. *クレデンシャル*61: 12-13, 2013.
 9. 佐藤佑樹, 増田正次, 甲能直幸【症例報告】: ステロイド精神病を呈した急性感音難聴の1例. *日本耳鼻咽喉科学会会報* 116: 969-974, 2013.
 10. 小柏靖直, 佐藤大, 茂呂順久, 中村健大, 甲能直幸: 頭頸部癌に対して Hyper Eye Medical System (HEMS) を用いた新しいセンチネルリンパ節ナビゲーション手術の試み. *耳鼻咽喉科展望*56(5):332-334, 2013.
 11. 横井秀格, 吉武洋, 甲能直幸: 「アレルギーの臨床」に寄せる 花粉アレルギー検査における花粉アレルゲンおよび CCD 検出頻度に関する検討. *アレルギーの臨床*33(12): 1155-1160, 2013.
 12. 茂呂順久, 山内宏一, 小柏靖直, 永藤裕, 中村健大, 守田雅弘, 横井秀格, 唐帆健浩, 甲能直幸: 当科における耳下腺腫瘍の臨床統計. *頭頸部外科* 23(1): 93-98, 2013.
 13. 小柏靖直, 甲能直幸【症例報告】: 喉頭機能温存治療失敗例・合併症の検討 放射線化学療法後の再発に対して機能温存手術を行ったものの治療に難渋した2例. *日本気管食道科学会会報*64 (3): 241, 2013.
 14. 松本祐磨, 横井秀格, 松田雄大, 中川秀樹, 甲能直幸【症例報告】: 3剤併用による逆流性食道炎の治療により改善した声門下狭窄と喉頭肉芽腫を併発した1例. *日本気管食道科学会会報*64(6): 405-410, 2013.
 15. 松本吉史, 小柏靖直, 甲能直幸: 頸部リンパ節結核9症例の検討. *日本耳鼻咽喉科学会会報* 117: 184-190, 2014.
 16. 神崎仁, 増田正次【総説】: 聴覚に関わる社会医学的諸問題「ストレス感音難聴に関する考察-特に突発性難聴との関係について. *Audiology Japan* 56: 137-152, 2013.
 17. Masuda M, Jin Kanzaki: Cause of idiopathic sudden sensorineural hearing loss: The stress response theory. *World journal of Otorhinolaryngology* 3(3): 42-57, 2013.
 18. 唐帆健浩: 誤嚥防止手術の適応と基本手技. *日本耳鼻咽喉科学会会報* 117: 220-221, 2014.
 19. Yokoi H, Arakawa A, Matsumoto F, Yokoi N, Ikeda K,

Kohno N : Organized hematoma of the maxillary sinus: A clinicopathologic study of 5 cases. ENT 93 : 23-26, 2014.

20. 増田正次【総説】：高齢者の難聴. 日本老年医学会雑誌51(1) : 1-10, 2014.
21. 唐帆健浩, 佐藤哲也, 甲能直幸 : 不顕性誤嚥の評価と気道管理. 日本気管食道科学会会報 65 : 118, 2014.
22. Ikeda T, Kobayashi R, Kogashiwa Y, Matsuda T, Kohno N : Epstein-barr virus diversity in immunocompetent healthy persons: reassessment of the distribution of genetic variants. J Med Virol 86(2):301-5, 2014.

著書

1. 甲能直幸 : 【のどー診断・検査】 喉頭ファイバースコープ検査施行中に呼吸困難をきたした再発性多発性軟骨炎 (RP) 症例. 耳鼻咽喉科 てこずった症例のブレイクスルー. 本庄巖 編, 東京, 中山書店, 2013, 166-167.
2. 甲能直幸, 小柏靖直【回答】 : 喉頭・気管領域. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 Q & A 日常診療の疑問を解決. 岡本美孝 編, 東京, 中外医学社, 2013, 251-253.
3. 唐帆健浩【回答】 : 喉頭血管腫. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 Q & A 日常診療の疑問を解決. 岡本美孝 編, 東京, 中外医学社, 2013, 261-263.
4. 唐帆健浩, 佐藤哲也 : 「嚥下障害」を訴える患者の鑑別診断と実際の診療の勧め方. のどの異常とプライマリケア. 久育男編. 東京, 中山書店, 2013, 15-23.

特許等知的財産関係, 報告書

1. 藏口潤 (研究代表者), 池田哲也 (研究分担者) : 口腔癌の顎骨浸潤抑制に対して mTOR・COX-2 による新たな治療法の開発. 科学研究費補助金 (基盤研究 C) 研究報告書.

その他

1. 甲能直幸【寄稿】 : カザフの春. 日本耳鼻咽喉科学会 東京都地方部会会報 69 : 4-6, 2013.
2. 甲能直幸【座長まとめ】 : 第5回喉頭機能温存治療研究会 シンポジウム II. 日本気管食道科学会会報 64(3) : 241-242, 2013.
3. 甲能直幸, 馬場秀夫【司会者まとめ】 : パネルディスカッション1「咽喉頭・頸部食道癌の治療戦略」. 日本気管食道科学会会報 65(2) : 135-136, 2014.

産科婦人科学教室

口演

1. 塚田愛, 木村徹, 大槻純男, 福富俊之, 上原一朗, 谷垣伸治, 岩下光利, 市田公美, 櫻井裕之 (優秀発表賞候補) : 尿酸は胎盤を傍細胞経路で通過する. 第86回日本薬理学会年会, 福岡, 平成25年3月21日. (24年度分)
2. 和地祐一, 松澤由記子, 井澤朋子, 酒井啓治, 岩下

光利 : 脱落膜化子宮内膜由来プロラクチンに対する検討. 第86回日本内分泌学会学術総会, 仙台, 平成25年4月25-27日.

3. 田中啓, 谷垣伸治, 片山素子, 松島実穂, 宮崎典子, 和地祐一, 井澤朋子, 酒井啓治, 岩下光利 : Light-for-date を合併した極低出生体重児の短期・長期予後と周産期因子の検討. 公益社団法人日本産科婦人科学会第65回学術講演会, 札幌, 平成25年5月10-12日.
4. 松本浩範, 鳥海玲奈, 金田由香子, 真山麗子, 百村麻衣, 橋場剛士, 小林陽一, 岩下光利 : 子宮頸癌に対する術前化学療法 (NAC) の治療効果と安全性についての検討. 公益社団法人日本産科婦人科学会第65回学術講演会, 札幌, 平成25年5月10-12日.
5. 黒田恵子, 澁谷裕美, 高木崇子, 長内喜代乃, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 百村麻衣, 橋場剛士, 小林陽一, 岩下光利 : 術前 DVT スクリーニングにおける血清 D-dimer 値のカットオフ値に関する検討. 公益社団法人日本産科婦人科学会第65回学術講演会, 札幌, 平成25年5月10-12日.
6. 山田研二, 西ヶ谷順子, 中島千絵, 松澤由記子, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利 : 術前画像診断において卵巣明細胞癌の鑑定は可能か. 公益社団法人日本産科婦人科学会第65回学術講演会, 札幌, 平成25年5月10-12日.
7. 松島実穂, 谷垣伸治, 片山素子, 田中啓, 宮崎典子, 橋本玲子, 岩下光利 : 当院における胎児超音波スクリーニングの検討. 公益社団法人日本産科婦人科学会第65回学術講演会, 札幌, 平成25年5月10-12日.
8. 宮崎典子, 谷垣伸治, 荒岡千景, 片山素子, 高木崇子, 田中啓, 松島実穂, 和地祐一, 井澤朋子, 酒井啓治, 岩下光利 : 双胎妊娠における切迫早産の予後判定. 公益社団法人日本産科婦人科学会第65回学術講演会, 札幌, 平成25年5月10-12日.
9. 谷垣伸治, 田中啓, 片山素子, 松島実穂, 宮崎典子, 岩下光利 (シンポジウム) : 胎盤の緊急病変. 日本超音波学会第86回学術集会, 大阪, 平成25年5月24-26日.
10. 高木崇子, 谷垣伸治, 中島千絵, 片山素子, 田中啓, 松島実穂, 宮崎典子, 井澤朋子, 酒井啓治, 岩下光利 : 新生児貧血を認めた胎児腹腔内臍静脈瘤の1症例. 日本超音波学会第86回学術集会, 大阪, 平成25年5月24-26日.
11. 田中啓, 谷垣伸治, 片山素子, 松島実穂, 宮崎典子, 橋本玲子, 岩下光利 (パネルディスカッション) : 臍帯動脈血栓症が疑われた胎児発育不全の一例. 日本超音波学会第86回学術集会, 大阪, 平成25年5月24-26日.
12. 野田清香, 和地祐一, 谷垣伸治, 金田由香子, 片山素子, 高木崇子, 上原一朗, 松島実穂, 宮崎典子, 井上慶子, 井澤朋子, 酒井啓治, 岩下光利 : 卵子提供妊娠症例から考えられる問題点の検討. 第366回東京産科婦人科学会例会, 東京, 平成25年5月25日.
13. 西ヶ谷順子, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利, 坂本憲彦, 小松京子,

- 望月眞：子宮内膜細胞診にて扁平上皮癌成分のみを認めた類内膜腺癌の1例. 第54回日本臨床細胞学会, 東京, 平成25年5月31-6月2日.
14. 百村麻衣, 小林陽一, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 岩下光利：子宮内膜, 卵管, 卵巣に病変を認めた漿液性腺癌の1例. 第54回日本臨床細胞学会, 東京, 平成25年5月31-6月2日.
 15. 永岡晋一, 谷垣伸治, 荒岡千景, 田中啓, 真山麗子, 松島実穂, 宮崎典子, 岩下光利：帝王切開痕部妊娠に対し保存的治療を行った3例. 第125回関東連合産科婦人科学会学術集会, 東京, 平成25年6月15, 16日.
 16. 清水英里子, 西ヶ谷順子, 鳥海玲奈, 荒岡千景, 松澤由記子, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利：MRI が診断に有用であったホルモン産生卵巣腫瘍の一例. 第125回関東連合産科婦人科学会学術集会, 東京, 平成25年6月15, 16日.
 17. 橋場剛士, 荒岡千景, 真山麗子, 松澤由記子, 和地祐一, 岩下光利：Junctional zone myometrium から発生した子宮筋腫の手術方法に関する考察. 第125回関東連合産科婦人科学会学術集会, 東京, 平成25年6月15, 16日.
 18. 堂園溪, 谷垣伸治, 渡邊百恵, 荒岡千景, 松島実穂, 小林陽一, 岩下光利：サマースクールを通して伝える産婦人科の魅力. 第369回四水回, 東京, 平成25年6月19日.
 19. 谷垣伸治：婦人科救急の超音波診断. 第8回婦人科ME研究会, 東京, 平成25年6月27日.
 20. 谷垣伸治：多胎育児準備クラスでの講演, 三鷹, 平成25年7月6日.
 21. 谷垣伸治：妊娠中・後期の超音波検査と装置活用法. 第20回産婦人科MEセミナー, 大阪, 平成25年7月7日.
 22. 岩下光利（会長講演）：周産期医学は研究課題の宝庫—研究への誘い. 第49回日本周産期・新生児医学会学術集会, 横浜, 平成25年7月14-16日.
 23. 谷垣伸治（教育セミナー）：若手医師に伝えたい, 先を予見した帝王切開術の基本的テクニック. 第49回日本周産期・新生児医学会学術集会, 横浜, 平成25年7月14-16日.
 24. 谷垣伸治（シンポジウム）：助産師とのチーム医療を考える, 助産師の行う超音波検査. 第49回日本周産期・新生児医学会学術集会, 横浜, 平成25年7月14-16日.
 25. 井澤朋子, 酒井啓治, 岩下光利：Trophoblast の遊走に血管内皮細胞が与える影響. 第49回日本周産期・新生児学会学術集会, 横浜, 平成25年7月14-16日.
 26. 和地祐一, 酒井啓治, 谷垣伸治, 岩下光利, 井澤朋子, 宮崎典子, 松島実穂, 片山素子, 高木崇子, 橋本玲子, 田中啓：双胎帝王切開における出血量についての検討. 第49回日本周産期・新生児学会学術集会, 横浜, 平成25年7月14-16日.
 27. 橋本玲子, 谷垣伸治, 山田研二, 和地祐一, 片山素子, 田中啓, 宮崎典子, 松島実穂, 金杉優, 田島泰宏, 酒井啓治, 岩下光利：当院で経験した筋強直性ジストロフィー合併妊娠の2症例. 第49回日本周産期・新生児医学会学術集会, 横浜, 平成25年7月14-16日.
 28. 望月智弘, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 谷垣伸治, 岩下光利：当院における小児外科的疾患の出生前診断率. 第49回日本周産期・新生児医学会学術集会, 横浜, 平成25年7月14-16日.
 29. 山崎龍王, 松本浩範, 菊池友美, 大川智実, 赤股宣子, 塚本可奈子, 小林織恵, 岩本豪紀, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 大田昌治, 田村和也, 小林弥生子, 前田大伸, 村松俊成, 武知公博, 小林陽一, 磯西成治, 岩下光利, 梅澤聡：再発卵巣癌における salvage chemotherapy としての gemcitabine 単剤療法の検討. 第54回特定非営利活動法人日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 東京, 平成25年7月19-21日.
 30. 松本浩範, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 黒田恵子, 長内喜代乃, 關壽之, 中島恵子, 磯西成治, 山崎龍王, 小林弥生子, 田村和也, 大田昌治, 梅澤聡, 武知公博, 村松俊成, 百村麻衣, 小林陽一, 岩下光利：再発上皮性卵巣癌に対するハイカムチンの有用性. 第54回特定非営利活動法人日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 東京, 平成25年7月19-21日.
 31. 黒田恵子, 松本浩範, 深川裕一郎, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 小林陽一, 岩下光利：卵巣原発扁平上皮癌の一例. 第54回特定非営利活動法人日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 東京, 平成25年7月19-21日.
 32. 岩下光利：産科医と助産師の連携. 第294回青森県臨床産婦人科医会特別講演, 弘前, 平成25年7月20日.
 33. 岩下光利：最近の我が国の産婦人科を取り巻く諸問題と学会の対応—専門医制度のゆくえ. 東京産婦人科医会多摩ブロック学術講演会特別講演, 立川, 平成25年8月1日.
 34. 岩下光利：GnRH と胎盤. 第20回中四国 GnRH 研究会, 岡山, 平成25年8月24日.
 35. 片山素子, 西ヶ谷順子, 小林陽一, 堂園溪, 松澤由記子, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 荻安俊哉, 吉田真衣子, 似鳥俊明, 岩下光利：当院における卵巣明細胞癌と類内膜腺癌の画像所見の検討. 第14回 JSAWI, 淡路, 平成25年9月6, 7日.
 36. 堂園溪, 田中啓, 百村麻衣, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利, 吉田真衣子, 似鳥俊明：術前診断が困難であった胎盤部トロホプラスト腫瘍の1例. 第14回 JSAWI, 淡路, 平成25年9月6, 7日.
 37. 谷垣伸治：妊娠中期の胎児超音波スクリーニング. 第7回東京産婦人科臨床フォーラム, 東京, 平成25年9月8日.
 38. 谷垣伸治（特別講演）：日常診療における胎児超音波スクリーニング. 第43回埼玉県産婦人科医会超音波研究会, さいたま, 平成25年9月14日.
 39. 藤田亜也, 松澤由記子, 野田清香, 渡部耕平, 西ヶ谷順子, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 橋場剛士, 小林陽一, 岩下光利：当院で経験した子宮ポリープ状異型腺筋腫の3例. 第367回東京産科婦人科学会例会, 東京, 平成25年9月21日.

40. 橋場剛士, 松澤由記子, 和地祐一, 岩下光利: 不育症女性の子宮内腔癒着に対する診断・評価と子宮鏡下治療について. 第36回日本産婦人科手術学会, 東京, 平成25年9月28日.
41. 橋場剛士 (ワークショップ): 機能温存手術—婦人科良性疾病—. 第36回日本産婦人科手術学会, 東京, 平成25年9月28日.
42. 井澤朋子, 酒井啓治, 岩下光利: Trophoblast の細胞遊走に血管内皮細胞が与える影響. 第21回日本胎盤学会学術集会, 名古屋, 平成25年10月25, 26日.
43. 橋場剛士, 松澤由記子, 和地祐一, 岩下光利: サラゾスルファピリジンおよびフィナステリド投与に関した精子減少症・無力症の治療経験. 第126回関東連合産科婦人科学会学術集会, 浜松, 平成25年10月26, 27日.
44. 佐藤友美, 田中啓, 清水英里子, 堂園溪, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 転移性脳腫瘍を契機に発見された子宮頸癌の1例. 第126回関東連合産科婦人科学会学術集会, 浜松, 平成25年10月26, 27日.
45. 栗山絹世, 塚田美裕, 高橋久子, 谷垣伸治, 高橋和人, 塚田芳枝, 犬飼浩一, 石田均: インスリン治療導入を拒否のうえ食事摂取量を自ら減らしていた妊娠糖尿病の1例. 第29回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会, 岐阜, 平成25年11月1日.
46. 西ヶ谷順子, 清水英里子, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 平野和彦, 望月眞, 寺戸雄一, 坂本穆彦, 小林陽一, 岩下光利: 子宮頸部上皮内癌の円錐切除後経過観察中に発見された最小偏倚型粘液性腺癌 (MDA) の一例. 第52回日本臨床細胞学会秋期大会, 大阪, 平成25年11月2, 3日.
47. 清水英里子, 百村麻衣, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 坂本穆彦, 加藤拓, 寺戸雄一, 望月眞, 大倉康男, 小林陽一, 岩下光利: 当院における AGC 症例の検討. 第52回日本臨床細胞学会秋期大会, 大阪, 平成25年11月2, 3日.
48. 橋場剛士, 松澤由記子, 和地祐一, 岩下光利: 経蝶形骨洞の下垂体腫瘍摘出後の女性に対する不妊治療. 第58回日本生殖医学学術講演会, 神戸, 平成25年11月15, 16日.
49. 和地祐一, 荒岡千景, 松澤由記子, 橋場剛士, 酒井啓治, 岩下光利: 自然妊娠双胎と ART 妊娠双胎の妊娠経過の違い. 第58回日本生殖医学学術講演会, 神戸, 平成25年11月15, 16日.
50. 田中啓, 谷垣伸治, 片山素子, 宮崎典子, 松島実穂, 橋本玲子, 橋場剛士, 大西宏明, 小野正恵: 原因不明胎児死亡症例に対する死産後染色体検査. 日本人類遺伝学会第58回大会, 仙台, 平成25年11月21日.
51. 宮崎典子, 谷垣伸治, 田中啓, 松島実穂, 岩下光利: 双胎妊娠における早産の予後判定. 第7回日本早産予防研究会学術集会, 川崎, 平成25年11月23日.
52. 橋場剛士: oocyte capture mechanism の改善を目指した生殖外科手術, 小さな卵巣嚢腫・傍卵巣嚢腫にも注意しよう. 第26回日本内視鏡外科学会, 博多, 平成25年11月28-30日.
53. 野田清香, 堂園溪, 田中啓, 百村麻衣, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 術前診断が困難であった胎盤部トロホプラスト腫瘍の1例. 第370回四水会, 東京, 平成25年12月4日.
54. 清水英里子, 松島実穂, 鳥海玲奈, 高木崇子, 井澤朋子, 酒井啓治, 岩下光利: 子宮動脈塞栓術後の子宮内感染が5ヵ月蔓延したが子宮温存した一例. 第368回東京産婦人科学会例会, 東京, 平成25年12月21日.
55. 嘉治真彦, 上原彩子, 谷垣伸治, 小林陽一, 清河康: GnRHα による保存療法をおこなった右卵巣周囲貯留嚢胞の1例. 第368回東京産科婦人科学会例会, 東京, 平成25年12月21日.
56. 岩下光利: 産科医と助産師の連携. 第16回宮城県委託周産期医療研修会特別講演, 仙台, 平成26年1月18日.
57. 堂園溪, 田中啓, 百村麻衣, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 子宮内膜症性嚢胞の破裂と血漿 D-dimer 値上昇に関する検討. 第35回日本エンドメトリオーシス学会, 鹿児島, 平成26年1月25, 26日.
58. 谷垣伸治: 胎児超音波スクリーニングと経膈超音波による胎盤評価. 市川市産婦人科医会研修会, 市川, 平成26年1月29日.
59. 小林陽一: 卵巣子宮内膜症性嚢胞の管理と問題点. 県北地区子宮内膜症フォーラム. 栃木, 平成26年2月7日.
60. 岩下光利: GnRH と胎盤. 産婦人科フォーラム特別講演, 前橋, 平成26年2月14日.
61. 齋藤将也, 澁谷裕美, 渡邊百恵, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: S 状結腸穿孔を伴った卵巣成熟嚢胞性奇形腫悪性転化の1例. 第369回東京産科婦人科学会例会, 東京, 平成26年2月22日.

論文

1. Mayama R, Izawa T, Sakai K, Suci N, Iwashita M: Improvement of insulin sensitivity promotes extravillous trophoblast cell migration stimulated by insulin-like growth factor-I. *Endocr J* 60(3):359-368, 2013. (平成24年度分)
2. 橋場剛士, 荒岡千景, 松澤由記子, 和地祐一, 谷垣伸治, 岩下光利: X 染色体に異常をもつ不妊女性に対する生殖医療の問題点について. *関東連産婦会誌* 50(3):191-196, 2013. (平成24年度分)
3. 木村徹, 上原一朗, 谷垣伸治, 岩下光利, 安西尚彦, 櫻井裕之: 妊娠時における母体・胎児間の尿酸代謝解析. *発達腎研会誌* 21(4):7-11, 2013.
4. 中島千絵, 井澤朋子, 前原真里, 高木崇子, 松島実穂, 宮崎典子, 和地祐一, 谷垣伸治, 酒井啓治, 岩下光利: 子宮動脈塞栓術後の妊娠で癒着胎盤となり単純子宮全摘出術を施行した1例. *東京産婦会誌* 62(2):272-274, 2013.
5. 谷垣伸治, 田中啓, 宮崎典子, 岩下光利: いまさ

- ら聞けないシリーズ その5, GBSについて. 助産師 67(2): 27-29, 2013.
6. 谷垣伸治, 松島実穂, 三輪玲亜, 片山素子, 田中啓, 山田研二, 宮崎典子, 橋本玲子, 岩下光利: 胎児超音波スクリーニングのポイント. 産婦の実際 62(6):747-758, 2013.
 7. 岩下光利: 産科医と助産師の連携. 徳島産婦人科医報 46:4-5, 2013.
 8. Kato R, Hasegawa K, Ishii R, Owaki A, Torii Y, Oe S, Hirasawa H, Kobayashi Y, Udagawa Y: Human epidermal growth factor-2 overexpression and amplification in metastatic and recurrent high grade or type 2 endometrial carcinomas. *Onco Targets Ther* 6:1065-1071, 2013.
 9. Miyazaki N, Kobayashi Y, Nishigaya Y, Momomura M, Matsumoto H, Iwashita M. Burkitt lymphoma of the ovary: A case report and literature review. *J Obstet Gynaecol Res* 39(8):1363-1366, 2013.
 10. Nikzad H, Taherian A, Akimoto Y, Iwasthia M, Mahabadi J, Salehi M, Nikzad M: $\alpha\beta$ integrin expression on mid-luteal human endometrium: an immunogold and immunofluorescent staining study. *Anatomical Sci* 10(3):137-143, 2013.
 11. 井澤朋子, 酒井啓治, 岩下光利: 常位胎盤早期剥離. 産婦の実際 62(8):1079-1083, 2013.
 12. 谷垣伸治, 橋場剛士, 佐藤友美, 齋藤将也, 黒田恵子, 宮崎典子, 岩下光利: 妊娠34週まで切迫早産治療を延長できた場合, 治療を中止する. 周産期医 43(8):997-1001, 2013.
 13. Tsunawaki T, Sakai K, Momomura M, Wachi Y, Matsuzawa Y, Iwashita M: Hypoxia alters phosphorylated status of insulin-like growth factor (IGF)-binding protein-1 and attenuates biological activities of IGF-I in HepG2 cell cultures. *J Obstet Gynaecol Res* 39(9):1367-1373, 2013.
 14. 松澤由記子, 西ヶ谷順子, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 骨盤リンパ節廓清における癒着防止材貼付の有用性. 産と婦 80(9):1242-1246, 2013.
 15. 小林陽一, 岩下光利: 卵巣癌治療の現況と展望. 杏林医会誌 44(3):151-154, 2013.
 16. 野田清香, 和地祐一, 谷垣伸治, 金田由香子, 片山素子, 上原一朗, 井上慶子, 酒井啓治, 岩下光利: 卵子提供妊娠症例から考えられる問題点の検討. 東京産婦会誌 62(4):611-615, 2013.
 17. 小林陽一, 岩下光利: プロメテウス, 婦人科癌最新医療, 8. 再発子宮頸がんの治療. 産婦の実際 62(12) 臨時増刊号: 1715-1719, 2013.
 18. 岩下光利: 周産期医学は研究課題の宝庫 - 研究への誘い. 日周産期・新生児会誌 49(4):1145-1149, 2013.
 19. Ohara T, Kobayashi Y, Yoshida A, Yoshioka N, Yahagi N, Kondo H, Tozawa A, Kiguchi K, Suzuki N: Combination of irinotecan (CPT-11) and nedaplatin (NDP) for recurrent patients with uterine cervical cancer. *Int J Clin Oncol* 18(6):1102-1106, 2013.
 20. 谷垣伸治, 山田研二, 宮崎典子, 松島実穂, 橋本玲子, 秦健一郎, 岩下光利: イラストでみる産婦人科診療, 第21回胎児心臓の超音波検査—実践編①. 産と婦 80(12):1555-1561, 2013.
 21. 谷垣伸治, 宮崎典子, 片山素子, 松島実穂, 秦健一郎, 岩下光利: 助産師に求められる産科超音波検査. 助産雑誌 67(12):1010-1017, 2013.
 22. 内田ゆみ, 谷垣伸治, 日吾雅宣: 装置の使いかたと画像描出のポイント. 助産雑誌 67(12):1018-1025, 2013.
 23. 谷垣伸治, 宮崎典子, 右田王介, 山田研二, 松島実穂, 橋本玲子, 秦健一郎, 岩下光利: 周産期の画像診断, 母体・胎児編, I 超音波診断, C. 胎児異常13, 顔面・頸部. 周産期医 43 増刊: 127-132, 2013.
 24. 藤田亜也, 松澤由記子, 野田清香, 渡部耕平, 西ヶ谷順子, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 橋場剛士, 小林陽一, 岩下光利: 当院で経験した子宮ポリープ状異型腺筋腫の3例. 東京産婦会誌 63(1):94-98, 2014.
 25. 谷垣伸治, 山田研二, 宮崎典子, 松島実穂, 橋本玲子, 秦健一郎, 岩下光利: イラストでみる産婦人科診療, 第22回胎児心臓の超音波検査—実践編②. 産と婦 81(2):131-138, 2014.
 26. Tanaka K, Tanigaki S, Matsushima M, Miyazaki N, Hashimoto R, Izawa T, Sakai K, Yazawa T, Iwashita M: Prenatal diagnosis of umbilical artery thrombosis. *Fetal Diagn Ther* 35(2):148-150, 2014.
 27. 小林陽一: 子宮がん化学療法の一問一答. プロフェッショナルがんナーシング 4(2):160-165, 2014.
 28. 百村麻衣, 小林陽一, 寺戸雄一, 坂本穆彦, 長内喜代乃, 西ヶ谷順子, 松本浩範: S 状結腸癌の子宮転移の1例. 日臨細胞会誌 53(2):114-119, 2014.
 29. 谷垣伸治: 医師が助産院を訪ねたら, 産科医師による矢島助産院訪問記. 助産雑誌 68(2):214-217, 2014.
- 著書**
1. 谷垣伸治, 谷垣礼子 (翻訳): クイックレビュー臨床発生学 原書4版. Ronald W. Dudek 原著. 東京, 丸善出版, 2013.
 2. 井上慶子, 小林陽一: よく見る産婦人科疾患の知識, 骨盤臓器脱. 見てわかる産婦人科ケア. 道又元裕監修, 岩下光利, 高橋由香理編. 東京, 照林社, 2013. p.97-99.
 3. 小林陽一: ナースが知っておきたい婦人科手術, 骨盤臓器脱の手術療法. 見てわかる産婦人科ケア. 道又元裕監修, 岩下光利, 高橋由香理編. 東京, 照林社, 2013. p.116-118.
 4. 谷垣伸治: 多胎妊娠. 見てわかる産婦人科ケア. 道又元裕監修, 岩下光利, 高崎由佳理編. 東京, 照林社, 2013. p.218-220.
 5. 谷垣伸治: 胎児発育不全. 見てわかる産婦人科ケア. 道又元裕監修, 岩下光利, 高崎由佳理編. 東京, 照林社, 2013. p.221-224.
 6. 岩下光利: II 各論, 第1章 子宮筋腫, 子宮動脈塞栓術 (UAE). 子宮筋腫・子宮内膜症・子宮腺筋症 診

療マニュアル, 百枝幹雄編. 東京, 診断と治療社, 2013. p.57-60.

7. 岩下光利: 第1章 妊娠期の身体のしくみと疾患の理解, I 妊娠期の身体のしくみ, 新体系 看護学全書 母性看護学, マタニティサイクルにおける母子の健康と看護. 新道幸恵, 中野仁雄, 遠藤俊子編. 東京, メヂカルビュー社, 2013. p.11-32.

その他

1. 谷垣伸治 (TV 監修): 日本テレビ「スクール革命」, 鼻の下の溝は, 特に意味がない!, 平成25年4月28日.

放射線医学教室

口 演

1. 五明美穂, 土屋一洋¹, 大原有紗, 立石秀勝, 鳥谷直希¹, 似鳥俊明 (¹東京通信病院・放射線科): Evaluation of the dose of saline flush in cerebral perfusion MR imaging. 第72回日本医学放射線学会総会, 横浜, 平成25年4月11-14日.
2. 大原有紗, 土屋一洋¹, 五明美穂, 立石秀勝, 似鳥俊明 (¹東京通信病院・放射線科): 術前脳腫瘍における ASL と DSC による CBF 所見の乖離の検討. 第72回日本医学放射線学会, 横浜, 平成25年4月11-14日.
3. 荏安俊哉, 横山健一, 石村理英子, 似鳥俊明, 新田修平¹, 塩寺太郎¹, 武口智之¹, 久原重英² (¹(株) 東芝 研究開発センター マルチメディアラボラトリー, ²東芝メディカルシステムズ (株) MRI 事業部): Knowledge-based automatic slice alignment method (Cardioline) for 3T cardiac magnetic resonance imaging in clinical practice. 第72回日本医学放射線学会, 横浜, 平成25年4月11-14日.
4. 石村理英子, 横山健一, 荏安俊哉, 似鳥俊明, 新田修平¹, 塩寺太郎¹, 武口智之¹, 久原重英² (¹(株) 東芝 研究開発センター マルチメディアラボラトリー, ²東芝メディカルシステムズ (株) MRI 事業部): Knowledge-based automatic slice alignment method of cardiac magnetic resonance imaging for right ventricular evaluation in patients with pulmonary hypertension. 第72回日本医学放射線学会, 横浜, 平成25年4月11-14日.
5. 似鳥俊明: 特別講演 “放射線科医師, 技師のための MRI Conditional Pacemaker 講座”. 第20回高知 MRI 研究会, 高知, 平成25年5月11日.
6. 黒木一典, 増田裕, 似鳥俊明, 竹山信之, 林高樹, 橋本東児, 樋口恵子: IVR における情報の共有 -IVR 医の立場から-. 第42回日本 IVR 学会 シンポジウム, 軽井沢, 平成25年5月16-18日.
7. 増田裕, 森永圭吾, 立石秀勝, 岩元香保里, 本谷啓太, 荏安俊哉, 木下雄介, 黒木一典, 似鳥俊明: マルチスライス CT ガイド下による経皮的横隔膜下膿瘍ドレナージ. 第42回日本 IVR 学会, 軽井沢, 平成25年5月16-18日.
8. 五明美穂, 土屋一洋¹, 大原有紗, 立石秀勝, 似

鳥俊明 (¹東京通信病院・放射線科): Comparison of the Value of CT Perfusion and MR Perfusion in the Differential Diagnosis of Intra-axial Brain Tumors. American Society of Neuroradiology 51ST Annual Meeting, San Diego, MAY 18-23, 2013.

9. 本谷啓太: 整形外科領域の MRI(上肢を中心に). 葛飾フレッシュマンズフォーラム2013, 江戸川区, 平成25年5月26日.
10. 横山健一: 心臓 MRI 検査の意義と実際. 多摩心臓 MRI セミナー Current & Future Prospective of CMR, 東京, 平成25年6月7日.
11. 似鳥俊明: 特別講演 “放射線科医師, 技師のための MRI Conditional Pacemaker 講座”. 第26回秋田 MRI 研究会, 秋田, 平成25年7月6日.
12. 藤野節, 森井健司, 田島崇, 本谷啓太, 寺戸雄一, 高木正之, 望月一男: 腸骨転移を来した高齢者の肋骨腫瘍の1例. 日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会, 文京区, 平成25年7月11-12日.
13. 本谷啓太: がん画像の診断のポイント -骨・軟部領域-. 遠隔画像診断支援インテンシブ生涯教育コース2013- 遠隔画像診断支援に必要な ABC- 駒沢大学 文科省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 第2回 がん画像診断支援「入門・基礎コース2」, 世田谷区, 平成25年7月13日.
14. 横山健一: MRI とペースメーカー・ICD. 心臓 MR ワークショップ2013 第6回 SCMR Japan Chapter 研究会, 東京, 平成25年8月3日.
15. 黒木一典: 進化する放射線科医の未来, 研修医のための画像診断セミナー. 東京, 平成25年8月17日.
16. 横山健一: 東京で研修する意義. 研修医のための画像診断セミナー, 東京, 平成25年8月17日.
17. 横山健一: 条件付き MRI 対応植え込み型デバイス患者の MRI 検査. 第20回埼玉画像フォーラム 教育講演, さいたま市, 平成25年8月31日.
18. 堂園溪, 吉田真衣子 他: 術前診断が困難であった胎盤部トロホプラスト腫瘍の1例, 第14回 JSAWI (Japanese Society of the Advancement of Women's Imaging), 淡路島, 平成25年9月6-7日.
19. 西ヶ谷順子, 吉田真衣子 他: 当院における卵巣明細胞癌と類内膜腺癌の画像所見の検討, 第14回 JSAWI (Japanese Society of the Advancement of Women's Imaging), 淡路島, 平成25年9月6-7日.
20. 横山健一: 条件付き MRI 対応ペースメーカーの国内導入から1年を前にして. Advisa MRI の市販後調査中間報告, 第41回日本磁気共鳴医学会大会 教育講演, 徳島, 平成25年9月19-21日.
21. 五明美穂, 土屋一洋¹, 高橋沙奈江², 宮崎功², 小林邦典³, 似鳥俊明 (¹東京通信病院・放射線科, ²杏林大学・医・放射線部, ³杏林大学・保・診療放射線技術学科): 中大脳動脈M1狭窄における頭蓋内ブランクイメージングの初期臨床応用. 第41回日本磁気共鳴医学会大会, 徳島, 平成25年9月19-21日.
22. 石村理英子, 横山健一, 荏安俊哉, 似鳥俊明, 吉岡達也¹, 宮崎功¹, 小林邦典², 竹島秀則³, 久原重英⁴

- (¹杏林大学・医・放射線部, ²杏林大学・保・診療放射線技術学科, ³(株)東芝 研究開発センター マルチメディアラボラトリー, ⁴東芝メディカルシステムズ(株)MRI事業部): トレーニングスキャンレス k-t 法による心臓リアルタイムシネ撮像の臨床例における検討. 第41回日本磁気共鳴医学会大会, 徳島, 平成25年9月19-21日.
23. 土屋充輝: 第346回東京レントゲンカンファレンス第6症例 Discussor, 東京, 平成25年9月26日.
 24. 荻安俊哉: 救急の CT (3次救急の外傷を中心に) ~放射線科医の立場から~. 公益社団法人日本放射線技術学会東京部会第183回技術フォーラム, 東京, 平成25年9月27日.
 25. 似鳥俊明: 特別講演 “放射線科医師, 技師のための MRI Conditional Pacemaker 講座”. 沖縄 画像診断講演会, 那覇, 平成25年9月28日.
 26. Yokoyama K: For the enhancing cardiac MRI -Clinical application of Toshiba's new technologies-symposium. European Society for Magnetic Resonance in Medicine Biology (ESMRMB), Toulouse, France, October 3-5, 2013.
 27. Kariyasu T, Yokoyama K, Ishimura R, Nitatori T, Kuhara S¹, Takeshima H²(¹MR system Division, Toshiba Medical Systems Corporation, ²Toshiba Corporation, Multimedia Laboratory, Corporate Research & Development Center): Clinical usefulness of real-time cardiac cine imaging with the no-training-scan k-t method. European Society for Magnetic Resonance in Medicine Biology (ESMRMB), Toulouse France, October 3-5, 2013.
 28. 土屋充輝, 本谷啓太, 林真弘, 似鳥俊明他: 左大腿に発生した骨外性 Ewing 肉腫 / PNET の1例. 第49回日本医学放射線学会秋季大会, 名古屋, 平成25年10月12-14日.
 29. 五明美穂: 頭部感染症の画像診断. 第5回吉祥寺画像診断セミナー, 東京, 平成25年11月2日.
 30. 大原有紗: 頸部感染症の画像診断. 第5回吉祥寺画像診断セミナー, 東京, 平成25年11月2日.
 31. 岩元香保里, 村上清寿, 増田裕, 黒木一典, 似鳥俊明: 当院における永久留置型下大静脈フィルター有害事象についての検討. 第42回杏林医学会総会, 三鷹, 平成25年11月16日.
 32. 横山健一: 心臓 MRI の有用性と可能性. MRI とペースメーカー講演会, 千葉市, 平成25年11月22日.
 33. 黒木一典: X線撮影・血管撮影と読影の補助について. 診療放射線技師応用技術講習, 東京, 平成25年12月15日.
 34. 黒木一典: がん画像診断技術の治療的応用 -IVR 編-. 駒澤大学がんプロフェッショナル養成基盤推進プランセミナー, 横浜, 平成26年1月19日.
 35. 似鳥俊明: 特別講演 “若き心への寸言 - ポリクリ脱線話から -”. 第30回多摩画像医学カンファレンス, 吉祥寺, 平成26年2月1日.
 36. 横山健一: 大型血管炎の画像診断. 第33回日本画像医学会 シンポジウム, 東京, 平成26年2月21-22日.
 37. 岩元香保里: 腹部画像 —CT, MRI の特徴を中心に—. 多摩南部地域病院 特別講演会, 東京, 平成26年2月25日.
 38. 五明美穂 (シンポジウム): 脳腫瘍における灌流画像 ~ dynamic susceptibility contrast (DSC) 法 t p arterial spin labeling (ASL) 法について~. 第37回日本脳神経 CI 学会総会, 大宮, 平成26年2月28日-3月1日.
 39. Yoshida M, et al: MR features of Uterine Cervical Cystic Lesions. Vienna, 20th, ECR (European Congress of Radiology), March 6-10, 2014.
 40. 横山健一: 条件付き MRI 対応植え込み型デバイス患者の MRI 検査. Full ProMRI Portfoli from BIOTRONIK, 福岡, 平成26年3月15日.
 41. 大原有紗, 土屋一洋¹, 五明美穂, 立石秀勝, 似鳥俊明 (¹東京通信病院・放射線科): 脳腫瘍術前の ASL と DSC における CBF 乖離の検討. 第43回日本神経放射線学会, 鳥取, 平成26年3月21-23日.
 42. 横山健一: 条件付き MRI 対応ペースメーカー患者の MRI 検査の実際. 一循環器科領域を中心に—. 日本循環器学会学術集会 教育講演, 東京, 平成26年3月22日.
- ### 論文
1. 黒木一典, 本谷啓太, 塚原弥生, 横山健一, 似鳥俊明: 胸痛 (突然の痛み). 臨床画像29(10)増刊号, 87-91, 2013.
 2. 黒木一典, 本谷啓太, 塚原弥生, 横山健一, 似鳥俊明: 胸痛 (慢性). 臨床画像29(10)増刊号, 92-97, 2013.
 3. 横山健一: 条件付き MRI 対応ペースメーカーの院内導入の実際. RadFan11(5),8-9,2013.
 4. Yokoyama K, Yui M¹, Kuhara S¹, Ishimura R, Yodo K¹, Imai M, Nitatori T (¹Toshiba Medical Systems Corporation): Evaluation of dual-channel and 4-port multi transmit technique in 3T MRI: Implications for cardiac SSFP cine MRI. Jpn J Diagn Imaging 31; 101-113, 2013.
 5. 本谷啓太, 土屋一洋: ニューロナーズの疑問に答える! 脳神経疾患画像診断レクチャー (第17回) 外傷 急性硬膜下血腫 / 急性硬膜外血腫 / 慢性硬膜下血腫 (図説) Brain3(5) 354-361,2013.
 6. 立石秀勝, 横山健一, 似鳥俊明: 薬剤師が知っておくべき臓器別画像解析の基礎知識 (30) 5 循環器分野 (6) 閉塞動脈硬化症の画像診断. 医薬ジャーナル 49(6), 2013. p.1409-1413, 2013.
 7. 依光美佐子, 横山健一, 似鳥俊明: 大動脈弓奇形の画像診断. 医薬ジャーナル49(4), 5-13,2013.
 8. 塚原弥生, 横山健一, 土屋一洋, 似鳥俊明: 突然の胸痛, 呼吸困難. 臨床画像29(4), 96-98,2013.
 9. 荻安俊哉, 横山健一, 似鳥俊明: 薬剤師が知っておくべき臓器別画像解析の基礎知識 (25)5 循環器分野 (1) 大動脈瘤の画像診断. 医薬ジャーナル49(1) 5-10,2013.
 10. 荻安俊哉, 横山健一, 本谷啓太, 似鳥俊明: 冠動脈

の解剖 (AHA 分類) を知っていますか? . 臨床画像29(4), 70-72, 2013.

11. 石村理英子, 横山健一, 荻安俊哉, 似鳥俊明: 心臓 MRI で心筋疾患を読む: 心筋疾患の診断に活かす. Heart View17(12), 209-215, 2013.
12. 似鳥俊明企画・序文: インプラント患者の画像診断 - 主に MRI Conditional Pacemaker をめぐって. Rad Fan, vol 12, p53-82, 2014.

著書

1. 横山健一: 心血管 MRI. 画像診断ガイドライン 2013年版 日本医学放射線学会, 日本放射線科専門医会・医会編. 東京, 金原出版株式会社, 2013. p.172-175.
2. 横山健一: 心臓検査における MRI の意義. MRI 応用自在第3版 高原太郎監修. 東京, メディカルビュー社, 2013. p.385-388.
3. 立石秀勝, 五明美穂, 土屋一洋¹ (¹東京通信病院・放射線科): 脳内出血. 救急医学 37, 2013. p.1153-1159.
4. 五明美穂, 小柳正道¹, 土屋一洋² (¹杏林大学・医・放射線部, ²東京通信病院・放射線科): Multi detector-row CT (MDCT) の画像による脳腫瘍手術の支援. 映像情報メディカル増刊号, 2013. p.40-46.
5. 土屋一洋¹, 五明美穂: (¹東京通信病院・放射線科): 脳虚血の画像診断の最近の進歩. 杏林医学会誌 44(5), 2013. p.191-200.
6. 大原有紗: ②頭頸部 画像診断ガイドライン2013年版 日本医学放射線学会, 日本放射線科専門医会・医会編. 東京, 金原出版株式会社, 2013. p.118-119. p.124-125.
7. 大原有紗, 土屋一洋¹ (¹東京通信病院・放射線科): 意識障害. 臨床画像29(4), 2013. p.24-28.
8. 似鳥俊明編著: 3次元画像から学ぶ CT・MRI 断層解剖. 全438頁, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2014.

その他

1. 似鳥俊明: "My Hobby 仏像が好き! ラジオロジー 22, p7-8, 2014.

放射線腫瘍学教室

口演

1. 戸成綾子, 高山誠, 池田郁夫, 丸山靖, 村上晋也: 乳房温存術後照射時の周辺臓器への影響<甲状腺と心臓について>. 第26回日本放射線腫瘍学会, 青森, 平成25年10月18-20日.
2. 戸成綾子: 当院での前立腺癌治療成績ほか: 東京放射線治療技術研究会第6回定例会. 東京, 三鷹, 平成25年11月30日.

論文

1. 高山誠: がん治療における放射線治療の役割. 杏林医学会雑誌, 44; 153-155, 2014.

麻酔科学教室

口演

学会発表

1. 三上大介, 萬知子, 森山潔, 長谷川綾子, 川田良紀, 鮫島圭; 待機的消化器外科高難度手術における周術期合併症発生予測因子としての BNP の有用性, 第60回日本麻酔科学会, 札幌, 平成25年5月23日
2. 満田真吾, 森山潔, 小谷真理子, 神山智幾, 足立智, 萬知子; 全身麻酔中と ICU での, 胸部レントゲン上での気管チューブ先端位置の変化, 第60回日本麻酔科学会, 札幌, 平成25年5月23日
3. 齋藤珠恵, 丸山蘭, 箱根雅子, 中澤春政, 森山潔, 萬知子; 当大学病院中央手術部におけるラテックスアレルギーハイリスク対応の有用性, 第60回日本麻酔科学会, 札幌, 平成25年5月23日
4. 大橋夕樹, 本保晃, 鶴沢康二, 光田将憲, 竹内徳子, 萬知子; 当院における緊急帝王切開症例に対する取り組み, 第60回日本麻酔科学会, 札幌, 平成25年5月24日
5. 森山久美, 窪田靖志, 木下尚之, 田口敦子, 巖康秀, 萬知子; 神経障害性疼痛ラットの行動評価方法—自動解析方法の確率—, 第60回日本麻酔科学会, 札幌, 平成25年5月24日
6. 箱根雅子, 丸山蘭, 中澤春政, 森山久美, 萬知子; 当大学医学部附属病院における静脈血栓塞栓症予防スクリーニングの現状, 第60回日本麻酔科学会, 札幌, 平成25年5月24日
7. 東佑佳, 森山潔, 大橋夕樹, 山科元範, 糟谷洋平, 萬知子; 当院における初期研修医に対する中心静脈カテーテル挿入実技試験の導入, 第60回日本麻酔科学会, 札幌, 平成25年5月24日
8. 本保晃, 森山潔, 金井理一郎, 小谷真理子, 山田達也, 萬知子; 高濃度酸素投与器具間での吸入酸素濃度の比較 高機能患者シミュレーターを用いた研究, 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 平成26年2月27日
9. 満田真吾, 森山潔, 神山智幾, 安藤直朗, 金井理一郎, 萬知子; HighFO ネブライザー TM を用いた経鼻酸素投与における肺胞酸素濃度 (シミュレーターによる計測), 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 平成26年2月28日
10. 鶴沢康二, 森山潔, 神山智幾, 金井理一郎, 小谷真理子, 山田達也, 萬知子; 中心静脈カテーテルガイドライン変更後の消毒薬選択の実態調査, 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 平成26年3月1日
11. 田嶋佳代子, 鶴沢康二, 山科元範, 木下尚之, 山田達也, 萬知子; 長時間手術の輸液戦略について, 術式, 輸液の種類や手術時間についての後方観察研究, 第53回日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部 合同学術集会, 新宿, 平成25年9月7日
12. 竹内徳子, 本保晃, 森山潔, 大橋夕樹, 山田達也, 萬知子; HiFO ネブライザー TM を用いた経鼻高流量純酸素投与下での鎮静下気管支鏡下での鎮静下気管支鏡ガイド下気管挿管, 第53回日本麻酔科学会関東

- 甲信越・東京支部 合同学術集会, 新宿, 平成25年9月7日
13. 山崎由香里, 森山久美, 片山あつ子, 東佑佳, 山田達也, 萬知子; 周術期管理外来の効果, 第53回日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部 合同学術集会, 新宿, 平成25年9月7日
 14. 安藤直朗, 森山久美, 光田将憲, 中澤春政, 山田達也, 萬知子; 手術開始直後に発症した たこつば型心筋症の一例, 第53回日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部 合同学術集会, 新宿, 平成25年9月7日
 15. 沢田龍治, 神山智幾, 森山潔, 小谷真理子, 山田達也, 萬知子; Nasal high flow が有効であった肥満患者の口蓋扁桃摘出術後管理, 第53回日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部 合同学術集会, 新宿, 平成25年9月7日
 16. 安藤直朗, 神山智幾, 森山潔, 小谷真理子, 萬知子; 純酸素での経鼻高流量酸素投与により管理しえた, 経皮的肺動脈形成術術後の再灌流性肺水腫の1症例, 第42回杏林医学会総会, 三鷹市, 平成25年11月16日
 17. 萬知子, 森山潔, 本保晃, 森山久美, 岡田智香子, 山田達也; 高機能患者シミュレータを用いた, 非再呼吸式リザーバマスクの吸気酸素濃度についての研究, 第42回杏林医学会総会, 三鷹市, 平成25年11月16日
 18. Motoyasu A, Moriyama K, Moriyama K, Mitsuda S, Yorozu T. HighFO Nebulizer® supplies high flow oxygen and shortens the required time for preoxygenation. International anesthesia research society 2013 annual meeting.
 19. Mitsuda S, Motoyasu A, Moriyama K, Moriyama K, Yorozu T. 20/22 rule to determine the appropriate depth of oral endotracheal intubation in Japanese population. International anesthesia research society 2013 annual meeting
 20. T Yorozu, Y Shiokawa, K Moriyama, Y Azuma; Evaluation of prominent factors for mechanical omplications of central venous catheterization. Retrospective multivariate analysis in cases during five years. 87th International Anesthesia Research Society, San Diego, USA, May 4, 2013 (ANESTH ANALG 2013);
 21. T Yorozu, K Moriyama, K Moriyama, A Motoyasu, S Mitsuda; Evaluation of the efficacy of an wxygen mask with a reservoir bag using a high fidelity human patient simulator. 87th International Anesthesia Research Society, San Diego, USA, May 5, 2013
- 講演会**
1. 萬知子; 育児勤務の女性麻酔科医による周術期管理外来への献身は手術室の安全と効率化に寄与する, 第53回日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部 合同学術集会, 新宿, 平成25年9月7日
 2. 萬知子 (ランチオンセミナー); 「Prevention of preventable death」臨床麻酔学会第33回大会, 金沢市, 平成25年11月1日
 3. 山田達也; 座長 一般演題 優秀演題 (臨床), 第60回日本麻酔科学会学術集会, 札幌, 平成25年5月23日
 4. 山田達也; コメンテーター ポスターセッション TEE その他, 第18回日本心臓血管麻酔学会, 小倉, 平成25年9月28日
 5. 山田達也, 又吉徹; 体外循環を安全に実施するために麻酔科医との連携, 日本心臓血管学会合同シンポジウム, 第20回日本体外循環技術医学会, 関東甲信越支部会, 新潟, 平成25年4月21日, 東京
 6. 山田達也, 芦原京美; シンポジウム2 外科手術と心エコー図, 第24回日本心エコー図学会学術集会, 平成25年4月25日, 東京
 7. 山田達也, 小出康弘; シンポジウム5 JB-POT の現状と今後, 第24回日本心エコー図学会学術集会, 平成25年4月26日, 東京
 8. 山田達也, 他; シンポジウム5 TEE によりこう変わった心臓血管手術, 第24回日本心エコー図学会学術集会, 東京, 平成25年4月26日,
 9. 山田達也, 他; 小切開僧帽弁形成術ライブセッション (Live) Local Faculty, 第24回日本心エコー図学会学術集会, 東京, 平成25年4月27日
 10. 山田 達也; 人工心臓中の異常を診断する: JB-POT 直前レクチャー, 日本心臓麻酔学会 第18回学術大会, 小倉, 平成25年9月29日
 11. 山田達也; 教育講演: 心臓手術における低侵襲循環動態モニタリングの総論と手法~ JiDCOrapid の臨床評価を踏まえて~ 第18回日本心臓血管麻酔学会, 小倉, 平成25年9月28日
 12. 山田達也; 非心臓手術の術前心エコー図; 心エコー図と手術, 日本心エコー図学会 第10回秋期講習会, 東京, 平成25年10月13日
 13. 山田 達也, 野村 実; TEE セミナー「虚血性心疾患と TEE」, 第33回日本臨床麻酔学会, 金沢, 平成25年11月1日
 14. 山田達也; 教育講演「術中経食道エコーでしか見えない特殊な心エコー所見」, 第41回無侵襲心機能検査法研究会, 東京, 平成26年2月1日
 15. 山田達也; Introduction TEE セミナー2014 Before JB-POT:PPCS セミナー, 東京, 平成25年2月16日
 16. 山田達也; MICS と麻酔管理: 僧帽弁形成術: 第19回経食道心エコー講習会, 東京, 平成26年3月8-9日
 17. 窪田靖志; 誰でもよくわかる! やさしく学ぶ緩和ケア入門, ホスピス緩和ケア週間プログラム市民参加型学習会, 府中市, 平成25年10月12日
 18. 窪田靖志; がん性疼痛を持つ患者評価および治療, 川崎市立川崎病院緩和ケア研修会, 川崎, 平成25年11月10日
 19. 窪田靖志; がん性疼痛を持つ患者評価および治療, 川崎市立川崎病院緩和ケア研修会, 川崎, 平成25年11月10日
 20. 森山久美; シンポジウム 子持ちでもいきいき楽しく仕事を続けるために, 第33回日本臨床麻酔学会, 金沢市, 平成25年11月3日
 21. 森山久美; 杏林大学病院でのフェントステープの使用状況, 杏林大学緩和ケア学術講演会, 三鷹, 平成

26年2月10日

論文

1. 萬知子, 塩川芳昭, 森山潔, 東佑佳; 中心静脈カテーテル挿入に伴う機械的合併症に関連する因子の検討 杏林大学病院における5年間の中心静脈穿刺の後ろ向き観察研究, 臨床麻酔 2013; 10 55(6) 1451-1457
2. 萬知子; 中心静脈関連合併症 機械的合併症と血流感染, 日本臨床麻酔学会誌 2014.01 34(1) 11-16
3. 萬知子; Prevention of Preventable death, 日本臨床麻酔学会学会誌, 2013.10 33(6) 1451-1457
4. 萬知子; 超音波ガイド下血管穿刺④超音波ガイド下血管穿刺の教育に必要な知識・技術. 日本臨床麻酔学会誌 2013.33, 476-482
5. 萬知子, 塩川芳昭, 森山潔, 東佑佳; 中心静脈カテーテル挿入に伴う機械的合併症に関連する因子の検討—杏林大学病院における5年間の中心静脈穿刺の後ろ向き観察研究—. 臨床麻酔2013 37(10) 1451-1457,
6. 萬知子; 抗凝固・肺塞栓症予防 特集 エビデンスに基づいた周術期の患者安全. 麻酔2014 63(3) 278-286,
7. 鶴沢康二; 肺動脈性肺高血圧および混合生呼吸障害合併症に対する低用量等比重プロピバカインを用いた脊髄くも膜下麻酔, 麻酔 The Japanese Journal of Anesthesiology, 2013.63(2) 157-160
8. 鶴沢康二; 質疑応答 臨床麻酔, 2013.7 37(7) 1086-1097
9. 三上大介, 中澤春政, 森山潔, 萬知子; 開心術後合併症予測因子としての脳性ナトリウム利尿ペプチド (BNP) の有用性, 麻酔. 2014 63(2): 138 -142
10. 森山潔, 中澤春政, 川田良紀, 糟谷洋平, 萬知子; 術前抗菌薬投与の現状調査, 麻酔, 2014. 63(2). 215 -217
11. 金井理一郎, 鶴沢康二, 森山潔, 小谷真理子, 神山智幾, 中澤春政, 安田博之, 萬知子; パルスオキシメーターの低酸素血症検出に関する信頼性の検討, 日本集中治療医学会雑誌, 2014. 21.175-176.
12. 長谷川綾子, 東佑佳, 大橋夕樹, 山科元範, 森山潔, 飯島毅彦, 萬知子; 妊娠を契機に増悪した肺動脈性肺高血圧合併に対する帝王切開の麻酔管理, 麻酔, 2013. 62(2): 183-185
13. 山田達也; 心臓手術麻酔, 術中の水分・電解質バランス, 術後ケアにかかわる術中管理ポイント, 術式別イラストで見える・わかる・動けるよく動けるよく出会う心臓手術の術後ケア, HEART nursing, 2013.6 26(6) 6-7
14. 山田達也; 重度大動脈弁狭窄症患者に対する伏臥位手術の麻酔経験, 麻酔 2013 62 721-723
15. 山田達也; 下行大動脈瘤手術: 開胸による手術およびステント挿入術: 脊髄保護が重要な術式への対応3 脊髄保護の Myth と Evidence, そして Realities, Anesthesia 21 century, 2013 15(3-47) 18-23
16. 山田達也; 術中の輸液管理を考える, 臨床麻酔 2014

38 147-155

17. 山田達也; もやもや病患者における僧帽弁形成術の麻酔経験, 麻酔 2014 63 342-5
18. 窪田靖志; 【悪性腫瘍】杏林大学病院がんセンターでの緩和医療(総説/特集), 杏林医学会雑誌, 2013.01(0368-5829)43(4) 127-131
19. Nakazawa H, Moriyama K, Motoyasu A, Endo H, Kubota H, Yorozu T; Prompt institution of percutaneous cardiopulmonary support managed perioperative refractory vascular spasm after isolated coronary artery bypass grafting surgery. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2013 Jan 12
20. Yamada T; Thoracic and thoracoabdominal aortic repair under regional spinal cord hypothermia. Eur J Cardiothorac Surg 2013 Dec 12
21. Yamada T; Loeffler endocarditis and restrictive cardiomyopathy with biventricular apical thrombi. J Echocardiogr 12: 46-7, 2014
22. H Nakazawa, A Nishimura, K Suga, T Mishima, T Yorozu, T Iijima; FRET-based evaluation of Bid cleavage in a single primary cultured neuron. Neuroscience Letters 2013

著書

1. 萬知子; 超音波ガイド下血管穿刺の教育に必要な知識・技術. In 臨床麻酔実践シリーズ6 麻酔科医に必要な超音波ガイド手技のポイントと教育, 日本臨床麻酔学会 坂本篤裕, 佐藤重仁 編集. 株式会社ライフメディコム. 2013. 56-64
2. 萬知子; 鎮痛・鎮静の評価方法～鎮痛, 鎮静, せん妄の正しい評価なうして効果的なケアはありえない～. 急性・重症患者ケア3(1), p16-23 In 重症患者の鎮痛・鎮静 最前線 道又元裕 編集. 株式会社総合医学社. 2014
3. 山田達也; MICS に対応した麻酔法. 低侵襲心臓外科手術 (MICS) における体外循環法—慶應義塾大学病院—. 心臓手術の実際. 学研メディカル秀潤社, 東京. pp84-87, 2013.4.5
4. 山田達也; 術前・術中・術後トラブルシューティング: 術前評価: 骨格系, 中枢・末梢神経系. 周術期管理ナビゲーション. 医学書院, 東京. pp194-203, 2014.2.15

臨床検査医学

平成24年度追加

1. Yonetani S, Okazaki M, Araki K, Makino H, Fukugawa Y, Okuyama T, Ohnishi H, Watanabe T. Direct inoculation method using BacT/ALERT 3D and BD Phoenix System allows rapid and accurate identification and susceptibility testing for both Gram-positive cocci and Gram-negative rods in aerobic blood cultures. Diagn Microbiol Infect Dis 73 :129-134, 2012.

口演

1. 横山政明, 松木亮太, 中里徹矢, 鈴木裕, 松岡弘芳,

- 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 大西宏明, 渡邊卓, 大倉康男: 胆道癌におけるシグナル伝達系および細胞周期関連分子の解析. 第113回日本外科学会定期学術集会, 福岡, 平成25年4月11-13日.
2. 吉敷智和, 正木忠彦, 大西宏明, 松岡弘芳, 小嶋幸一郎, 高安甲平, 小河晃士, 小林敬明, 大倉康男, 渡邊卓, 杉山政則: 大腸癌の抗 EGFR 抗体薬治療における新しい効果予測因子の検討. 第113回日本外科学会定期学術集会, 福岡, 平成25年4月11-13日.
 3. 石井隆浩, 小倉航, 関口久美子, 小島直美, 岡崎ゆり子, 高野麻衣子, 大西宏明, 渡邊卓: RhD 検査結果の不一致が見られ partial D が疑われた1症例. 第61回日本輸血・細胞治療学会総会, 横浜, 平成25年5月16-18日.
 4. 小倉航, 大藤弥穂, 高城靖志, 大西宏明, 大塚弘毅, 渡邊卓: KRAS 遺伝子変異検査における変異判定困難症例の検討. 第62回日本医学検査学会, 高松, 平成25年度5月18-19日.
 5. 横山政明, 中里徹矢, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 大塚弘毅, 大西宏明, 渡邊卓, 大倉康男: 胆道癌におけるシグナル伝達系および細胞周期関連分子の解析. 第25回日本肝胆膵外科学会学術集会, 宇都宮, 平成25年度6月12-14日.
 6. 関口久美子: 当院における緊急輸血シミュレーション. 第17回多摩臨床血液・輸血療法研究会, 立川, 平成25年6月13日.
 7. 青柳貴之, 森井健司, 大塚弘毅, 大西宏明, 田島崇, 吉山晶, 望月一男, 市村正一: Bax はゾレドロン酸による肺癌骨転移治療における薬剤耐性を制御する. 第46回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会, 東京, 平成25年度7月11-12日.
 8. 千葉直子: 末梢血液像を見直そう. 東京都臨床検査技師会血液検査研究班, 東京, 平成25年7月18日.
 9. 大西宏明: 神経損傷予防と対処法. 第13回首都圏ラボラトリーフォーラム, 東京, 平成25年9月7日.
 10. 千葉直子: 初心者および中級者以上のための血液像・骨髄像実技講習会. 東京都臨床検査技師会血液検査研究班, 東京, 平成25年9月29日.
 11. 吉山晶, 森井健司, 大塚弘毅, 大西宏明, 田島崇, 青柳貴之, 望月一男, 市村正一, ゾレドロン酸の抗腫瘍効果に対する耐性獲得と癌幹細胞性の発現. 第28回日本整形外科学会基礎学術集会, 千葉, 平成25年度10月17-18日.
 12. 浦田毅, 岸野智則, 川野詳子, 大藤弥穂, 西川かおり, 森秀明, 吉野浩, 楊國昌, 大西宏明, 渡邊卓: 胸腺原発Tリンパ芽球性リンパ腫 (T-LBL) の一例. 第25回日本超音波医学会関東甲信越地方会学術集会, 東京, 平成25年10月19日.
 13. 加藤麻衣子, 関口久美子, 小島直美, 岡崎ゆり子, 千葉直子, 石井隆浩, 大藤弥穂, 高城靖志: 非専任技師に行った試験管法による新生児血液型検査実習. 第2回日臨技首都圏支部医学検査学会, 東京, 平成25年10月26-27日.
 14. 石井隆浩, 関口久美子, 小島直美, 岡崎ゆり子, 千葉直子, 加藤麻衣子, 大藤弥穂, 高城靖志: 電子カルテ導入に伴う患者認証システムの問題点の検証. 第2回日臨技首都圏支部医学検査学会, 東京, 平成25年10月26-27日.
 15. 佐藤英樹, 宮城雅美, 高坂洋子, 高城靖志, 大藤弥穂: 心筋梗塞患者における Heart rate turbulence の日内変動について. 第2回日臨技首都圏支部医学検査学会, 東京, 平成25年10月26-27日.
 16. 井田陽子, 米谷正太, 広井愛美, 牧野博, 大藤弥穂, 高城靖志: 炭酸ガス要求性 Escherichia. 第2回日臨技首都圏支部医学検査学会, 東京, 平成25年10月26-27日.
 17. 牧野博, 米谷正太, 井田陽子, 西圭史, 山内弘子, 荒木光二, 佐野彰彦, 小林治, 河合伸, 大藤弥穂, 高城靖志, 大西宏明, 渡邊卓: 当院における血液培養およびカテーテル培養カンジダ属菌の感受性動向調査. 第62回日本感染症学会東日本地方会学術集会, 東京, 平成25年10月30日 -11月1日.
 18. 吉敷智和, 大西宏明, 大塚弘毅, 岸野智則, 渡邊卓: 大腸癌 KRAS 変異症例における抗 EGFR 抗体薬治療の効果予測因子の検討. 第60回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 平成25年10月31日 -11月3日.
 19. 大塚弘毅, 大西宏明, 小倉航, 岸野智則, 松島早月, 横山琢磨, 橋啓盛, 藤原正親, 大倉康男, 渡邊卓: ALK FISH 検査におけるプレアナリティカルな注意点. 神戸, 平成25年10月31日 -11月3日.
 20. 坂本大典, 千葉直子, 小倉航, 米山里香, 杉浦満喜, 高山信之, 大藤弥穂, 高城靖志, 大西宏明, 渡邊卓: inv(16)(p13.1q22) と t(9;22)(q34;q11.2) を同時に認めた AML の一症例. 第60回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 平成25年10月31日 -11月3日.
 21. 佐原條代, 岸野智則, 須藤恵美, 川野詳子, 大藤弥穂, 大塚弘毅, 寺戸雄一, 多武保光宏, 奴田原紀久雄, 大西宏明, 渡邊卓: 腎オンコサイトーマの2例その超音波画像からの考察 (第2報). 第60回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 平成25年10月31日 -11月3日.
 22. 大西宏明, 松島早月, 米谷正太, 大塚弘毅, 荒木光二, 岸野智則, 渡邊卓: Mycobacterium kyorinense とその近縁種の遺伝子解析による比較. 第60回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 平成25年10月31日 -11月3日.
 23. 渡辺敬子, 岸野智則, 大西弘明, 有賀俊之, 浦田毅, 大藤弥穂, 大塚弘毅, 森秀明, 渡邊卓: 心エコーで評価した心外膜下脂肪厚と心収縮能の関連性について. 第60回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 平成25年10月31日 -11月3日.
 24. 浦田毅, 岸野智則, 大西宏明, 佐原條代, 渡辺敬子, 大藤弥穂, 松島早月, 大塚弘毅, 關里和, 尾股佑, 塚田幾太郎, 西川かおり, 森秀明, 高橋信一, 渡邊卓: 超音波で評価した体脂肪と生活習慣病の病勢との関連性-血液生化学検査値との相関性の検討-. 第60回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 平成25年10月31日 -11月3日.

25. 須藤恵美, 岸野智則, 川野詳子, 大藤弥穂, 大塚弘毅, 平野和彦, 吉敷智和, 横山政明, 森井健司, 大西宏明, 渡邊卓: 巨大な後腹膜神経鞘腫の一例-超音波画像所見の考察-. 第60回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 平成25年10月31日-11月3日.
26. 奥山貴洋, 米谷正太, 井田陽子, 広井愛美, 牧野博, 荒木光二, 大藤弥穂, 大西宏明, 渡邊卓: 血液培養から *C. symbiosum* が検出された1症例. 第60回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 平成25年10月31日-11月3日.
27. 川野詳子, 岸野智則, 須藤恵美, 浦田毅, 大藤弥穂, 大西宏明, 大塚弘毅, 望月眞, 關里和, 尾股佑, 塚田幾太郎, 西川かおり, 森秀明, 高橋信一, 杉山政則, 渡邊卓: 膵内分泌腫瘍との鑑別が困難であった限局性慢性膵炎の1例-超音波画像所見の検討-. 第60回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 平成25年10月31日-11月3日.
28. 佐藤英樹: 生理機能検査システムの入口から出口まで-電子カルテ運用を中心に-. 東京都臨床検査技師会情報システム研究会, 東京, 平成25年11月15日.
29. 大西宏明: 神経損傷予防のポイントについて. 海浜病院医療安全研修会, 千葉市, 平成25年11月21日.
30. 大西宏明: 採血の安全性をめざして. 山梨大学医学部附属病院研修会, 中央市, 平成25年12月18日.
31. 井田陽子, 広井愛美, 奥山貴洋, 米谷正太, 牧野博, 荒木光二, 大藤弥穂, 高城靖志, 大西宏明, 渡邊卓: 血液培養から *Desulfovibrio*. 第25回臨床微生物学会, 名古屋, 平成26年2月1-2日.
32. 米谷正太, 荒木光二, 牧野博, 井田陽子, 奥山貴洋, 広井愛美, 高城靖志, 大藤弥穂, 大西宏明, 渡邊卓: *Propionibacterium propionicum* による腸腰筋膿瘍の1症例. 第25回臨床微生物学会, 名古屋, 平成26年2月1-2日.
33. 木崎直人: 脳波検査に必要な基礎知識. 東京都臨床検査技師会生理検査研究班, 東京, 平成26年2月22日.

論文

1. Kishiki T, Ohnishi H, Masaki T, Ohtsuka K, Ohkura Y, Furuse J, Watanabe T, Sugiyama M: Overexpression of MET is a new predictive marker for anti-EGFR therapy in metastatic colorectal cancer with wild-type KRAS. *Cancer Chemother Pharmacol* 73:749-757, 2014.
2. Kanai R, Iijima T, Hashimoto S, Nakazawa H, Ohnishi H, Yorozu T, Ohkawa R, Nijiri T, Shimizu M, Okazaki H: Impact of immunoreactive substances contained in apheresis platelet concentrate on postoperative respiratory function in surgical patients receiving platelet transfusion: a prospective cohort study. *Transfusion Med* 23:344-350, 2013.
3. Aoyagi T, Morii T, Ohtsuka K, Ohnishi H, Tajima T, Yoshiyama A, Mochizuki K, Satomi K, Ichimura S. Lung cancer cell line sensitivity to Zoledronic acid is BAX-dependent. *Anticancer Res* 33:5357-5363, 2013.
4. 米谷正太, 荒木光二, 広井愛美, 奥山貴洋, 井田陽子, 牧野博, 鹿住裕子, 高城靖志, 大藤弥穂, 大

西宏明, 渡邊卓: *Mycobacterium mageritense* による胃がん術後創部感染の1例. *臨床微生物* 23:112-116, 2013.

5. 広井愛美, 井田陽子, 米谷正太, 荒木光二, 高城靖志, 大西宏明, 今野公士, 渡邊卓: *Propionibacterium propionicum* が原因と考えられた涙小管炎の2症例. *都臨技会誌* 41:269-273, 2013.
6. 鳶森直子, 岸野智則, 大西宏明, 多武保光宏, 寺戸雄一, 要伸也, 森秀明, 奴田原 紀久雄, 東原英二, 渡邊卓: 右腎全体にびまん性に浸潤した集合管癌 (Bellini管癌) の1例. *超音波医学* 40:183-189, 2013.
7. 大塚弘毅, 大西宏明: がんの遺伝子異常と分子標的治療最前線. *杏林医学会雑誌* 44:71-80, 2013.
8. 塚田幾太郎, 關里和, 尾股祐, 本田普久, 峯佳毅, 小樽二世, 松本茂藤子, 西川かおり, 森秀明, 高橋信一, 岸野智則, 贅田真由美: 【超音波診断の進化】腹部領域における3次元超音波検査の有用性. *Rad Fan* 11(15): 59-61, 2013.
9. 横山琢磨, 高田佐織, 大塚弘毅, 藤原正親, 滝澤始, 後藤元. *ALK immunohistochemistry (IHC) 陽性, EML4-ALK fluorescence in situ hybridization (FISH) 判定不能の肺腺癌に対して crizotinib が奏効した1症例*. *肺癌* 53: 893-898, 2013.
10. 広井愛美, 井田陽子, 米谷正太, 荒木光二, 高城靖志, 大西宏明, 今野公士, 渡邊卓: *Propionibacterium propionicum* が原因と考えられた涙小管炎の2症例. *都臨技会誌* 41:269-273, 2013.
11. 米谷正太, 鹿住裕子, 荒木光二, 広井愛美, 奥山貴洋, 井田陽子, 牧野博, 高城靖志, 大藤弥穂, 大西宏明, 渡邊卓: *Mycobacterium mageritense* による胃がん術後創部感染の一例. *日本臨床微生物学雑誌* 23:112-116, 2013.

著書

1. 大西宏明: *Mycobacterium kyorinense*. ウイルス・細菌・真菌・寄生虫同定便覧. 菅原隆編集, 東京, 2014年. P200-203.

総合医療学教室

口演

1. 杉原徳彦, 滝澤始, 栗田富美子, 佐野彰彦: 副鼻腔炎合併気管支喘息の解析, 第25回日本アレルギー学会春季臨床大会, 横浜, 平成25年5月11日-12日.
2. 野村英樹: 医師のプロフェッショナルリズムとその生物学的基盤. 第5回日本脳神経外科学会 FD コース, 第33回日本脳神経外科コンgres総会, 大阪, 平成25年5月12日.
3. 野村 英樹: 禁煙カウンセリングの理論と実際, WS27 明日からできる禁煙支援-プライマリ・ケアの現場にあわせて-, 第4回日本プライマリ・ケア連合学会学術集会, 仙台, 平成25年5月19日.
4. 野村 英樹: 大病院の立場から. シンポジウム 16 どうする? 禁煙サポート-禁煙ガイドラインの普及に向けて-. 第4回日本プライマリ・ケア連合学会学

- 術集会, 仙台, 平成25年5月19日.
5. 野村英樹, 大石千瑞子, 松田剛明: ER 診療における神経内科医の役割の重要性. シンポジウム 救急場面における神経内科医のプレゼンス, 第54回日本神経学会学術集会, 東京, 平成25年6月1日.
 6. 佐野彰彦, 西圭史, 山内弘子, 荒木光二, 牧野博, 米谷正太, 井田陽子, 河合伸: 長期在宅 IVH の経過中, 反復する CV 感染を合併し *C. guilliermondii* が検出された1例. 第87回日本感染症学会, 横浜, 平成25年6月5日.
 7. 西圭史, 山内弘子, 佐野彰彦, 篠原高雄, 小林治, 河合伸: 感染性動脈瘤の置換術に対する1.2% リファンピシン液の使用成績. 第87回日本感染症学会, 横浜, 平成25年6月5日.
 8. 山本実: 脂質異常症の管理法. 小金井市高脂血症予防教室, 小金井市, 平成25年6月21日.
 9. 野村英樹: 医のプロフェッショナルリズム. 全国済生会研修指導医養成講習会特別講演, 大阪, 平成25年6月29日.
 10. 佐野彰彦: 医師ノススめ. 医学部予備校 Meplus 講演会, 東京, 平成25年7月11日.
 11. 本間聡起, Troxclair DA, Zieske AW, Malcom GT, Strong JP: 粥状動脈硬化性病変の初期病変 (fatty streak) から進行性病変に至る過程に対する危険因子の就職様式—若年剖検例を用いた組織学的検討. 第45回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 東京, 平成25年7月18日.
 12. 野村英樹: 社会との関わり: 社会契約と医師免許制度シンポジウム3卒前・卒後教育のアウトカムとしての「プロフェッショナルリズム」第45回日本医学教育学会学術集会, 東京, 平成25年7月26日.
 13. 石川智: ウェブログの活用が自己への気づきを深めた一例—対人場面での緊張・過換気発作に悩む女子学生との面接過程—. 第32回日本心理臨床学会秋季大会, 横浜, 平成25年8月27日.
 14. 島田正亮, 菅野恵, 前川あさ美: 児童養護施設における措置変更事例の実態について—職員への面接調査からの検討—. 日本心理臨床学会第32回秋季大会, 横浜, 平成25年8月27日.
 15. 菅野恵, 島田正亮, 元永拓郎: 児童養護施設入所児童における9年間の追跡調査—心理療法が継続された困難事例の経過—. 日本心理臨床学会第32回秋季大会, 横浜, 平成25年8月27日.
 16. 本間聡起, 今村晴彦, 渡邊茂道, 藤村香央里, 今野理洋, 前田裕二, 金子郁容: 健康指標のテレモニタリングに伴う個別化指導介入法に関する比較研究—レポート発行とテレビ電話による指導の臨床的指標の改善度—. 第54回人間ドック学会学術大会, 浜松, 平成25年8月30日.
 17. 野村英樹: 道徳性の科学とプロフェッショナルリズム, およびその教育. 日本医学教育学会第4回医学教育シンポジウム, 東京, 平成25年9月22日.
 18. 佐野彰彦: 耐性菌からみた地域医療—在宅から大病院まで—. 在宅医療医会勉強会, 田無, 平成25年10月15日.
 19. Takahiro Uechi, Takehiro Tsukada, Hiroko Miyauchi, Kyoko Hoshida, Shigeki Shibata, Kazuhiko Ohira, Takeaki Matsuda, Hideki Nomura: Rapid Decrease in Ambient Temperature Prior to the Onset of Out-of-Hospital Cardiac Arrest Negatively Affects Neurological Outcome After One Month. The 31st Congress of the Pan-Pacific Surgical Association – Japan Chapter, USA, Oct 17, 2013.
 20. 本間聡起, 渡邊茂道, 藤村香央里, 今野理洋, 前田裕二, 金子郁容: 高齢慢性疾患患者を対象とした汎用性の高いシステムを用いた遠隔診療実験—システム構築と接続試験の結果—. 第17回日本遠隔医療学会学術大会 (JTTA2013), 高松, 平成25年10月19日.
 21. 野村英樹: プロフェッショナルリズムの科学的基盤とその教育. 浜松医科大学 FD 講演会, 浜松, 平成25年10月21日.
 22. 本間聡起 (パネリスト): 糖尿病患者 (社員) における適切な保健指導とは? . 多摩生活習慣病予防フォーラム—糖尿病編—, 立川, 平成25年10月23日.
 23. 牧野博, 米谷正太, 井田陽子, 山内弘子, 西圭史, 荒木光二, 佐野彰彦, 小林治, 河合伸, 渡邊卓: 当院における血液培養およびカテーテル培養由来カンジダ属菌の感受性動向調査. 第62回日本感染症学会 東日本地方会学術集会, 東京, 平成25年11月1日.
 24. 山内弘子, 西圭史, 米谷正太, 牧野博, 荒木光二, 佐野彰彦, 小林治, 河合伸: カンジダ血症患者の背景と抗真菌薬の使用状況. 第62回日本感染症学会 東日本地方会学術集会, 東京, 平成25年11月1日.
 25. Miyauchi H, Uechi T, Tsukada T, Hoshida K, Shibata S, Ohira K, Ikeda T, Yonemoto N, Nonogi H, Kimura T, Nagao K, Matsuda T, Nomura H: Dispatching Emergency Life-Saving Technician Improves Neurological Outcome 1-Month After Out-of-Hospital Cardiac Arrest Independently of Their Advanced Life Support Procedures. AHA/ASA Resuscitation Science Symposium 2013, USA, Nov 17, 2013.
 26. 佐野彰彦, 佐野麻里子, 寺澤典子, 河合伸: ウェスタンブロット法で陰性が持続する HIV および, CMV 初感染の1症例. 第27回日本エイズ学会, 熊本, 平成25年11月20日.
 27. 野村英樹: 医療の質保証とプロフェッションの役割ワーキンググループ. ワークショップ5. 医療の質・安全学会学術集会, 東京, 平成25年11月24日.
 28. 佐野彰彦: ICT (感染制御チーム) と臨床—症例提示を含めて—, ロッシュ多摩学術セミナー, 立川, 平成25年12月5日.
 29. 河合伸: 院内感染症—どうして起こり, いかにかを防ぐか—. 三多摩腎疾患治療医会 第66回研究会, 東京, 平成25年12月8日.
 30. 石川智, 給前麻実子, 強瀬順子, 星野崇啓: 社会的養護の施設における性暴力ネットワークへの取り組み—施設における性的問題の特徴とは—. 第19回日本子ども虐待防止学会, 松本, 平成25年12月14

日。

31. 河合伸：敗血症（重症感染症）に病態と治療。日本内科学会関東支部主催 第49回生涯教育講演会プログラム，東京，平成25年12月14日。
32. 山本実：脂質異常症の管理法。小金井市高脂血症予防教室，小金井市，平成26年1月10日。
33. 島田正亮，菅野恵：児童養護施設における措置変更事例についての検討—学校との関連から—，日本学校メンタルヘルス学会第17回大会，八王子，平成26年1月26日。
34. 菅野恵，島田正亮，元永拓郎：高校生の精神科受診をめぐるスクールカウンセリング—学校生活の支障やリスクを抱えた事例の検討—，日本学校メンタルヘルス学会第17回大会，八王子，平成26年1月26日。
35. 中島良二，菅野恵，岸江美沙，中西政人，島田正亮：家庭での養育困難から施設入所に至った子どもの調査研究—学校生活に関連する課題に着目して—，日本学校メンタルヘルス学会第17回大会，八王子，平成26年1月26日。
36. 宮内弘子，植地貴弘，塚田雄大，星田京子，柴田茂貴，大平和彦，松田剛明，野村英樹，他：心原性院外心停止に対する救急救命士の同乗の効果。日本蘇生科学シンポジウム，京都，平成26年3月1日。
37. 本間聡起（シンポジスト）：高齢在宅患者の管理を目指した新しい遠隔診療（テレケア）システム。日本医工学治療学会第30回学術大会，名古屋，平成26年3月21日。

論文

1. Ohkuma K, Saraya T, Sada M, Kawai S : Evidence for cytomegalovirus-infected haemophagocytic syndrome in a Young patient with AIDS. *BMJ Case Rep Sep 25;2013. pii: bcr2013200983. doi: 10.1136/bcr-2013-200983.*
2. 河合伸：ICT 活動と血液培養—病院管理の観点から—。臨床と微生物 40 : 393-397,2013.
3. 野村英樹：医師免許制度とプロフェッショナルリズムによる医師個人の質の保証。医療の質・安全学会誌 8: 213-221. 2013.
4. 本間聡起，渡邊茂道，藤村香央里，今野理洋，前田裕二，金子郁：高齢慢性疾患患者を対象とした汎用性の高いシステムを用いた遠隔診療実験—システム構築と接続試験の結果。日本遠隔医療学会雑誌 9:193-196. 2013.
5. 石川智：ロール・プレイング的役割理論の特徴に関する一考察：交流分析との比較から。国際文化研究紀要 (20), 43-65, 2013.
6. 菅野恵，島田正亮，元永拓郎：親の精神疾患と子どもの課題についての質的検討—児童養護施設での追跡調査を通して—，帝京大学心理学紀要 18, 23-29, 2014.

著書

1. 河合伸：「菌血症，敗血症，敗血症性ショック」「感染性心内膜炎」「マイコプラズマ感染症」。内科学書 改定第8版。小川聡編。東京，中山書店，2013.

P67~72.

2. 本間聡起：生体モニタリング。図説・日本の遠隔医療2013 日本語版。一般社団法人 日本遠隔医療学会編。高崎，一般社団法人 日本遠隔医療学会事務局，2013. p.12-13. http://jtta.umin.jp/pdf/telemedicine/telemedicine_in_japan_20131015-2_jp.pdf
3. Homma S : Telemonitoring with Vital Sensors. *Telemedicine in Japan 2013*. Takasaki, Japanese Telemedicine and Telecare Association, 2013. p.15-17. http://jtta.umin.jp/pdf/telemedicine/telemedicine_in_japan_20131015-2_en.pdf

受賞，特許等知的財産関係，報告書

1. 石川智：感情をめぐる問題を抱える児童への心理教育グループの実施について。平成23年度埼玉性的虐待研究会報告書（平成23年度社会福祉事業研究開発基金報告書） pp.14-28. 2013.
2. 島田正亮，菅野恵，石井義久，遠田滋，春日明子，前川あさ美：児童養護施設における措置変更事例の実態について—心理的側面からの検討を含めて—，平成24年度植山つる児童福祉研究奨励基金助成研究報告書，平成25年8月。

その他

1. 野村英樹：医療法人生長会研修指導医養成講習会タスクフォース，大阪，平成25年6月7日～9日。
2. 野村英樹：日本内科学会 JMECC 指導者講習会インストラクター，東京，平成25年6月15日。
3. 野村英樹：日本内科学会 JMECC 指導者講習会インストラクター，東京，平成25年7月20日。
4. 野村英樹：第110回全国自治体病院協議会研修指導医養成講習会タスクフォース，東京，平成25年8月29日～9月1日。
5. 野村英樹：日本病院会研修指導医養成講習会タスクフォース，東京，平成25年9月13日～9月15日。
6. Hideki Nomura: Advisor for Facilitator training workshop for Train-the-trainer workshop for healthcare workers in Vietnam. Hanoi, Vietnam, September 24-29, 2013.
7. 野村英樹：平成25年度臨床研修プログラム責任者養成講習会タスクフォース，神戸，平成25年11月24日～30日。
8. 野村英樹：第113回全国自治体病院協議会研修指導医養成講習会タスクフォース，東京，平成25年12月19日～22日。
9. 野村英樹：「視点」医師のプロフェッションによる自律団体のあり方について。静岡県医師会報，平成26年3月号
10. 野村英樹：東海大学医学部付属病院メンター養成講習会講師，厚木，平成26年3月8日。
11. 佐野彰彦：21世紀の医療と介護をみつめて，ラジオ日本，平成26年3月21日，3月28日。

リハビリテーション医学教室

口 演

1. 團志朗, 都丸哲也, 五十嵐有紀子, 千野直一, 石濱裕規, 金森宏, 門馬博, 高橋秀寿, 岡島康友: 上肢痙縮患者へのボツリヌス治療の効果 - 肩関節への影響に関する検討 - . 50回日本リハビリテーション医学会学術集会, 東京, 平成25年6月2日 .
2. Yamada S: Mission X challenge Japan. 2nd Mission X International Closing Event, Netherlands, Jun 5, 2013.
3. 林光俊, 上園紗映, 平川淳一, 安部学, 川上純範, 岡島康友: 精神病院における身体リハビリテーション - FIM による推移を主として - . 第50回日本リハビリテーション医学会学術集会, 東京, 平成25年6月13-15日 .
4. 團志朗, 都丸哲也, 五十嵐有紀子, 千野直一, 石濱裕規, 金森宏, 門馬博, 鬼塚俊朗, 野本達哉, 高橋秀寿, 岡島康友: 上肢痙縮患者へのボツリヌス治療の効果 - 肩関節への影響に関する検討 - . 第50回日本リハビリテーション医学会学術集会, 東京, 平成25年6月13-15日 .
5. Yamada S: Space medicine and rehabilitation. 7th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine, China, Jun 17, 2013.
6. 岡島康友: いろいろな原因による麻痺とその回復. 第7回松崎記念ゼミナール (特別講演), 三鷹, 平成25年7月3日 .
7. 山田深: 重力と人体 宇宙医学の視点から. 第64回都心病院小児科医の会, 東京, 平成25年7月17日 .
8. 高橋秀寿: 脳卒中の急性期のリハビリテーションの重要性について. (社) 日本脳卒中協会共同事業 ストップ!NO 卒中プロジェクト 全国一斉エリア会議 埼玉支部講演会, さいたま, 平成25年8月24日 .
9. 高橋秀寿: 脳卒中の超急性期リハビリテーション. 脳卒中とりハビリを考える会, 川越, 平成25年9月10日 .
10. 深田和浩, 藤野雄次, 網本和, 井上真秀, 蓮田有莉, 森田菜々恵, 細谷学史, 高石真二郎, 牧田茂, 高橋秀寿: 健常者の前額面・矢状面における垂直認知の測定再現性の検討. 第37回日本神経心理学会総会, 札幌, 平成25年9月12日 .
11. 藤野雄次, 網本和, 井上真秀, 深田和浩, 細谷学史, 蓮田有莉, 森田菜々恵, 高石真二郎, 牧田茂, 高橋秀寿: 発症早期の脳血管障害患者における垂直認知の半球間差異. 第37回日本神経心理学会総会, 札幌, 平成25年9月12日 .
12. 山田深: 宇宙という極限環境における身体の変化 - 開発と宇宙医学の視点から - . 慶應義塾大学日吉キャンパス公開講座, 横浜, 平成25年10月12日 .
13. 高橋秀寿: 脳卒中の急性期・回復期のリハビリテーション. 白岡医療フォーラム, 白岡, 平成25年11月5日 .
14. 高橋秀寿: 脳卒中急性期リハビリテーション 脳卒中に負けない. 第2回埼玉医科大学国際医療センター市民公開講座, 日高, 平成25年11月9日 .

15. 高橋秀寿: 脳性麻痺ガイドライン第2版について - ボツリヌス療法のエビデンスを中心に - . 第2回多摩ボツリヌス療法講演会, 立川, 平成25年11月15日 .
16. 山田深: 有人宇宙開発とりハビリテーション. 第56回日本リハビリテーション医学会関東地方会専門医・認定臨床医生涯教育研修会, 東京, 平成25年12月14日 .
17. 山田深: ミッション X に挑戦しよう! 立川市立新生小学校 JAXA 連携授業, 立川, 平成26年1月20日 .
18. 山田深: 月面歩行と転倒予防. 平成25年度宇宙基地医学研究会, 東京, 平成26年2月7日 .
19. 山田深: Stroke Unit Care とりハビリテーション. ATIS 学術講演会, 相模原, 平成26年2月21日 .
20. Takahashi H, Tanahashi N, Takahashi N, Nishikawa J, Dan S, Okajima Y: The effect of new insole to decrease the spasticity for stroke patient by evaluating reciprocal inhibition from ankle dorsiflexion to ankle plantar flexors. The 30th International Congress of Clinical Neurophysiology (ICCN), Berlin, Germany, March 20-23, 2014.

論 文

1. 岡島康友: 脳卒中急性期リハビリテーション嚙下マネージメントを含めて. 内科111(5): 897-900, 2013.
2. 高橋秀寿, 岡島康友: 脳卒中リハビリテーション - 脳卒中ユニットにおける早期リハビリテーションの取り組み - . 杏林医会誌 44 巻 4 号: 219-222, 2013.
3. 山田深: 【もう悩まない!100症例から学ぶリハビリテーション評価のコツ】脳血管障害 (症例1) 急性期 (軽度例) (解説/特集). MEDICAL REHABILITATION 163: 24-27, 2013.
4. 高橋秀寿: 【もう悩まない!100症例から学ぶリハビリテーション評価のコツ】脳性麻痺 (成長後の歩行障害例). MEDICAL REHABILITATION 163: 380-383, 2013.
5. 牛場直子, 高橋秀寿: 【もう悩まない!100症例から学ぶリハビリテーション評価のコツ】外反扁平足. MEDICAL REHABILITATION 163: 392-395, 2013.
6. 松尾知明, 田中喜代次, 山田深, 大島博, 向井千秋: 宇宙環境での VO2max 低下を制御するための運動プログラム. 筑波大学体育系紀要 36: 93-103, 2013.
7. Omoto M, Matsuse H, Takano Y, Yamada S, Ohshima H, Tagawa Y, Shiba N: Oxygen Uptake during Aerobic Cycling Exercise Simultaneously Combined with Neuromuscular Electrical Stimulation of Antagonists. Nov Physiother 3-6, 2013.
8. Matsuse H, Shiba N, Takano Y, Yamada S, Ohshima H, Tagawa Y: Cycling exercise to resist electrically stimulated antagonist increases oxygen uptake in males: Pilot study. J Rehabil Res Dev. 50: 545-554, 2013.
9. Seki M, Hase K, Takahashi H, Liu M: Comparison of three instruments to assess changes of motor impairment in acute hemispheric stroke: the Stroke Impairment Assessment Set (SIAS), the National Institute of Health

Stroke Scale (NIHSS) and the Canadian Neurological Scale (CNS). Disabil Rehabil 18 : 1-6, 2013.

10. 團志朗, 都丸哲也, 五十嵐有紀子, 石濱裕規, 金森宏, 門馬博, 千野直一, 高橋秀寿, 岡島康友: 槌趾・足関節内反に対し, ボツリヌス療法が効を奏した1例. 総合リハビリテーション 42: 261-264, 2013.
11. 高橋宣成: 電気生理検査による機能障害の評価 痙縮と相反抑制の評価. J Clin Rehabil vol.22 3: 294-299, 2013.
12. 高橋修, 高橋宣成: 信頼されるデータを導き出すために 神経伝導検査における波形解析. 検と技 41: 454-462, 2013.
13. 高橋宣成, 高橋秀寿: 【特集 脳卒中急性期治療の最前線】脳卒中急性期リハビリテーションの現状と課題. 総合リハ 41: 1111-1118, 2013.
14. 畑中 良, 岡村 耕一, 小松原 弘一郎, 脊山 英徳, 高橋秀寿, 塩川 芳昭: 急性期脳卒中センターにて深部静脈血栓症を合併した3症例. 脳卒中の外科41: 379-384, 2013

著書, 編集

1. 岡島康友: 慢性疼痛疾患, 三叉神経痛, ヘルペス. 今日のリハビリテーション指針. 伊藤利之・江藤文夫・木村彰男編. 東京, 金原出版, 2013. p.347-349, p.353-357.
2. 高橋秀寿: 作業療法. 今日のリハビリテーション指針. 伊藤利之・江藤文夫・木村彰男編. 東京, 医学書院, 2013. p.549-555.
3. 高橋秀寿: ADLの評価バッテリー. わかりやすいリハビリテーション. 岡島康友編集. 東京, 中山書店, 2013. p.192-202.
4. 高橋秀寿: 脳性麻痺の診断 ハイリスク児に対する評価. 脳性麻痺リハビリテーションガイドライン - 第2版 -. 脳性麻痺リハビリテーションガイドライン策定委員会編集. 東京, 金原出版, 2013. p.20.
5. 高橋秀寿: 脳性麻痺の診断 脳性麻痺の診断. 脳性麻痺リハビリテーションガイドライン - 第2版 -. 脳性麻痺リハビリテーションガイドライン策定委員会編集. 東京, 金原出版, 2013. p.30.
6. 高橋秀寿: ハイリスク児への早期介入. 脳性麻痺リハビリテーションガイドライン - 第2版 -. 脳性麻痺リハビリテーションガイドライン策定委員会編集. 東京, 金原出版, 2013. p.72.
7. 高橋秀寿: 脳性麻痺の合併症と治療. 脳性麻痺リハビリテーションガイドライン - 第2版 -. 脳性麻痺リハビリテーションガイドライン策定委員会編集. 東京, 金原出版, 2013. p.194.
8. 高橋秀寿: 脳性麻痺の合併症と治療 膀胱機能障害に対する対応はどのようにすべきか? 脳性麻痺リハビリテーションガイドライン - 第2版 -. 脳性麻痺リハビリテーションガイドライン策定委員会編集. 東京, 金原出版, 2013. p.217.
9. 高橋秀寿: 脳性麻痺の合併症と治療 性機能障害に対する対応はどのようにすべきか? 脳性麻痺リハビリテーションガイドライン - 第2版 -. 脳性麻痺リハビリテーションガイドライン策定委員会編集. 東京, 金原出版, 2013. p.218.
10. 高橋秀寿: 脳卒中とリハビリテーション Q78 脳卒中の早期リハビリテーション. Nursing Care Q&A 47 脳卒中看護とリハビリテーション. 塩川芳昭監修. 東京, 総合医学社, 2013. p.170-171.
11. 岡島康友: 脳卒中とリハビリテーション Q79 脳卒中患者の機能予後. Nursing Care Q&A 47 脳卒中看護とリハビリテーション. 塩川芳昭監修. 東京, 総合医学社, 2013. p.172-173.
12. 高橋宣成: 脳卒中とリハビリテーション Q80 片麻痺. Nursing Care Q&A 47 脳卒中看護とリハビリテーション. 塩川芳昭監修. 東京, 総合医学社, 2013. p.174-175.
13. 高橋宣成: 脳卒中とリハビリテーション Q81 運動失調. Nursing Care Q&A 47 脳卒中看護とリハビリテーション. 塩川芳昭監修. 東京, 総合医学社, 2013. p.176-177.
14. 團志朗: 脳卒中とリハビリテーション Q82 痙縮. Nursing Care Q&A 47 脳卒中看護とリハビリテーション. 塩川芳昭監修. 東京, 総合医学社, 2013. p.178-179.
15. 岡島康友: 脳卒中とリハビリテーション Q84 高次脳機能障害. Nursing Care Q&A 47 脳卒中看護とリハビリテーション. 塩川芳昭監修. 東京, 総合医学社, 2013. p.182-183.
16. 中村みゆき, 高橋秀寿: 脳卒中とリハビリテーション Q85 嚥下障害. Nursing Care Q&A 47 脳卒中看護とリハビリテーション. 塩川芳昭監修. 東京, 総合医学社, 2013. p.184-186.
17. 團志朗, 高橋秀寿: 脳卒中とリハビリテーション Q89 下肢装具と車いす. Nursing Care Q&A 47 脳卒中看護とリハビリテーション. 塩川芳昭監修. 東京, 総合医学社, 2013. p.195-197.
18. 西川順治, 岡島康友: 脳卒中とリハビリテーション Q90: 自宅復帰. Nursing Care Q&A 47 脳卒中看護とリハビリテーション. 塩川芳昭監修. 東京, 総合医学社, 2013. p.198-199.
19. 西川順治, 岡島康友: 脳卒中とリハビリテーション Q91: 社会参加. Nursing Care Q&A 47 脳卒中看護とリハビリテーション. 塩川芳昭監修. 東京, 総合医学社, 2013. p.200-201.
20. 山田深: 脳卒中とリハビリテーション Q92 廃用症候群とは? Nursing Care Q&A 47 脳卒中看護とリハビリテーション. 塩川芳昭監修. 東京, 総合医学社, 2013. p.202-203.
21. 山田深: 脳卒中とリハビリテーション Q93 肩手症候群とは? Nursing Care Q&A 47 脳卒中看護とリハビリテーション. 塩川芳昭監修. 東京, 総合医学社, 2013. p.204-205.
22. 中村みゆき, 高橋秀寿: 口腔ケアとは? 脳卒中とリハビリテーション Q95 口腔ケアとは? Nursing Care Q&A 47 脳卒中看護とリハビリテーション. 塩川芳昭監修. 東京, 総合医学社, 2013. p.209-211.

23. 中村みゆき, 高橋秀寿: 脳卒中とリハビリテーション Q97 気管切開患者のケアは? Nursing Care Q&A 47 脳卒中看護とリハビリテーション. 塩川芳昭監修. 東京, 総合医学社, 2013. p.214-216.
24. 高橋秀寿: 脳卒中とリハビリテーション Q99 排尿ケアは? Nursing Care Q&A 47 脳卒中看護とリハビリテーション. 塩川芳昭監修. 東京, 総合医学社, 2013. p.220-222.
25. 山田深: 退院支援と在宅医療 Q101 リハビリ病院との連携パスについて教えてください. Nursing Care Q&A 47 脳卒中看護とリハビリテーション. 塩川芳昭監修. 東京, 総合医学社, 2013. p.226-27.
26. 高橋宣成: 典型事例から学ぶ! 摂食嚥下障害のリハビリテーション. 医療政策部医療政策課編, 東京, 東京都福祉保健局, 2014.
27. 岡島康友: 救命救急医療, 外科総論. PT・OT・ST のための一般臨床医学-3版. 椿原彰夫, 平岡崇編集. 東京, 医歯薬出版, 2014. p.1-21.
28. 岡島康友: 【編集】リハビリテーション医学白書. 日本リハビリテーション医学会, 2013.
29. 岡島康友: 【編集】リハビリテーション医学会記念誌. 日本リハビリテーション医学会, 2013.
30. 岡島康友: 【編集】わかりやすいリハビリテーション. 中山書店, 東京, 2013.
31. 高橋秀寿: 【編集】脳性麻痺リハビリテーションガイドライン第2版. 日本リハビリテーション医学会, 2014.

その他

1. 岡島康友, 團志朗, 石田幸平, 相原圭太: 主催・講演第11回 看護師・コメディカルのためのFIM講習会【基礎編】. 三鷹, 平成25年7月7日.
2. 岡島康友, 團志朗, 石田幸平, 相原圭太: 主催・講演第12回 看護師・コメディカルのためのFIM講習会【基礎編】. 三鷹, 平成25年12月1日.
3. 山田深: 講演 第12回 看護師・コメディカルのためのFIM講習会【応用編】. 三鷹, 平成25年12月1日.
4. 山田深: 燦然と輝く. 日本リハビリテーション医学会50周年記念誌. 日本リハビリテーション医学会監修. 東京, 医歯薬出版, 2013. p.160.

「リハビリテーション室」

口 演

1. 須崎由香, 炭谷由計, 藤澤祐基, 栗山絹世, 長谷川純子, 塚田芳枝, 貞莉利彦, 村嶋俊隆, 犬飼浩二, 岡島康友, 大野秀樹, 石田均: 嫌気性代謝域値(AT)強度下での食後運動が2型糖尿病の血糖変動に及ぼす効果 - CGM を用いた24時間血糖変動を指標として -. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 平成25年5月16-18日.
2. 境哲生, 高橋秀寿, 岡島康友, 小林啓一: 病棟形態の相違における終末期脳腫瘍患者のリハビリテーション介入動向. 第18回日本ホスピス・在宅ケア研究会, 長崎, 平成25年7月6-7日.

3. 西田悠一郎, 合田あゆみ, 横山さち, 神山裕司, 土井麻莉子, 佐藤徹, 岡島康友, 吉野秀朗: 慢性血栓塞栓性肺高血圧症患者に対する経皮的肺動脈形成術が運動耐容能と Quality of Life に及ぼす影響. 第19回心臓リハビリテーション学会学術集会, 仙台, 平成25年7月13-14日.
4. 林良幸, 山田深, 穂村美津子, 岡島康友: チュ-プのみ訓練により嚥下機能の改善を認めた急性期延髄梗塞の1例. 第19回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会, 岡山, 平成25年9月22-23日.
5. 宅美貴子, 笠井新一郎, 原修一: 語義失語が主訴の意味性認知症患者に対する言語聴覚療法の意義. 第58回日本音声言語医学会学術講演会, 高知, 平成25年10月17-18日.
6. 藤澤祐基, 岡島康友, 高橋秀寿, 橋立博幸, 中野尚子, 潮見泰藏: 小脳性運動失調症の3次元書字運動解析. 第43回日本臨床神経生理学会, 高知, 平成25年11月7-9日.
7. 穂村美津子: 大学病院の高次脳機能障害者へのリハビリ部門対応. 第2回北多摩南部医療圏高次脳機能障害地域支援研修会, 東京, 平成25年12月23日.
8. 遠藤晋哉, 大和田絢子, 岡佐和子, 菊池道代, 原田亜由美, 阿部光世, 鈴木亜希子, 石田幸平, 脊山英徳, 塩川芳昭: 脳梗塞患者における離床阻害要因 - stroke unit における離床への介入ポイント -. 第2回杏林メディカルフォーラム, 東京, 平成26年2月16日.
9. 佐藤敦子, 高橋秀寿, 平さより, 山田深, 岡島康友, 塩川芳昭: 急性期脳卒中片麻痺患者に対するIVESの歩行センサーを用いた電気刺激治療の即時効果. 第39回日本脳卒中学会総会, 大阪, 平成26年3月13-15日.
10. 遠藤晋哉, 大和田絢子, 岡佐和子, 菊池道代, 原田亜由美, 阿部光世, 鈴木亜希子, 石田幸平, 脊山英徳, 塩川芳昭: 脳梗塞患者における離床阻害要因. 第39回日本脳卒中学会総会, 大阪, 平成26年3月13-15日.

著 書

1. 西田悠一郎, 木村雅彦, 小松由佳: 看護師のためのリハビリテーション実践 - 運動器リハビリテーション -. 道又元裕編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2013. p.14-42.
2. 穂村美津子, 高橋秀寿: 脳卒中とリハビリテーション Q83 言語障害. Nursing Care Q&A 47 脳卒中看護とリハビリテーション. 塩川芳昭監修. 東京, 総合医学社, 2013. p.180-181.
3. 神山裕司, 岡島康友: 脳卒中とリハビリテーション Q87: 歩行の評価と訓練. Nursing Care Q&A 47 脳卒中看護とリハビリテーション. 塩川芳昭監修. 東京, 総合医学社, 2013. p.189-191.
4. 本橋尚道, 高橋秀寿: 脳卒中とリハビリテーション Q88 ADL の評価と訓練. Nursing Care Q&A 47 脳卒中看護とリハビリテーション. 塩川芳昭監修. 東京, 総合医学社, 2013. p.192-194.
5. 神山裕司, 岡島康友: 脳卒中とリハビリテーション

ン Q94: ポジショニングとは? Nursing Care Q&A 47
脳卒中看護とリハビリテーション. 塩川芳昭監修.
東京, 総合医学社, 2013. p.206-208.

その他

1. 石田幸平, 相原圭太: 講師 第11回看護師・コメディカルのためのFIM講習会【基礎編】. 三鷹, 平成25年7月7日.
2. 池田光代: 講師 第11回看護師・コメディカルのためのFIM講習会【応用編】. 三鷹, 平成25年7月7日.
3. 石田幸平, 相原圭太: 講師 第12回看護師・コメディカルのためのFIM講習会【基礎編】. 三鷹, 平成25年12月1日.
4. 池田光代: 講師 第12回看護師・コメディカルのためのFIM講習会【応用編】. 三鷹, 平成25年12月1日.

医学教育学

口 演

学会, 研究会

1. 泉田直己, 小川俊一, 浅井利夫, 赤木美智男, 住友直方, 土井庄三郎, 山岸敬幸, 渡辺 象: 都立学校心臓検診での検診システム (ポスターセッション). 第49回日本小児循環器学会総会・学術集会, 東京, 平成25年7月12日.
2. 赤木美智男: 臨床能力の評価とは? 第51回医学教育セミナーとワークショップ in 医科歯科 ワークショップ3: 臨床実習の現場における医学生の評価を考える, 東京, 平成26年1月25日~26日.

講演

1. 富田泰彦: 東京都市大学附属高等学校 学部学科ガイダンス 講義 (出前授業) 医学教育の新しい流れ (医師養成), 平成25年7月18日.
2. 富田泰彦: 杏林大学医学部オープンキャンパス 模擬講義「“JIN-仁-”, “Dr. DMAT - 瓦礫の下のヒポクラテス-” から学ぶ医療人の心構え ~医療監修の立場から~, 平成25年7月27日.
3. 赤木美智男: 実習生とのコミュニケーション - フィードバックとSEA, 第9回東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップ, 東京, 平成25年9月23日.
4. 赤木美智男: 心疾患を持つ小児への対応, 中野区医師会講演会, 東京, 平成25年12月17日.
5. 赤木美智男: 実習生とのコミュニケーション - フィードバックとSEA, 第10回東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップ, 東京, 平成26年3月2日.

論文

1. 【共に学ぼう! 診療録記載・プレゼンテーションのすすめ】プレゼンテーション 上手なプレゼンテーションとは. 小児科診療 76 (4):575-579, 2013.

その他

教育関係

1. 赤木美智男: 杏林大学医学部付属病院第17回指導医

養成ワークショップ. 主催責任者 (ディレクター), 東京, 平成25年5月17日~18日.

2. 富田泰彦: 杏林大学医学部付属病院第17回指導医養成ワークショップ. チーフ・タスクフォース, 東京, 平成25年5月17日~18日.
3. 赤木美智男: 日本病院会指導医養成講習会. 講師 (タスクフォース), 東京, 平成25年6月22日~23日.
4. 赤木美智男: 日本小児科学会第10回小児科医のための臨床研修指導医講習会. 世話人 (タスクフォース), 大阪, 平成25年7月5日~7日.
5. 赤木美智男: 日本病院会指導医養成講習会. 講師 (タスクフォース), 東京, 平成25年9月14日~15日.
6. 赤木美智男: 全国自治体病院協議会 第111回臨床研修指導医養成講習会. 講師 (チーフタスクフォース), 東京, 平成25年9月20日~22日.
7. 赤木美智男: 杏林大学医学部付属病院第18回指導医養成ワークショップ. 主催責任者 (ディレクター), 東京, 平成25年10月19日~20日.
8. 富田泰彦: 杏林大学医学部付属病院第18回指導医養成ワークショップ. チーフ・タスクフォース, 東京, 平成25年10月19日~20日.
9. 赤木美智男: 全国自治体病院協議会 第112回臨床研修指導医養成講習会. 講師 (タスクフォース), 東京, 平成25年12月6日~8日.
10. 赤木美智男: 日本小児科学会第11回小児科医のための臨床研修指導医講習会. 世話人 (タスクフォース), 福岡, 平成26年1月10日~12日.
11. 赤木美智男: 日本病院会指導医養成講習会. 講師 (タスクフォース), 東京, 平成26年2月8日~9日.
12. 赤木美智男: 慶應義塾大学共用試験 OSCE 外部評価者. 東京, 平成26年2月16日.

医事指導・監修

1. 富田泰彦: 「新御宿かわせみ」, BSスカパー24, 平成25年5月6日放送.
2. 富田泰彦: 「桜ほうさら」, NHK 正月時代劇, 平成26年1月1日放送.
3. 富田泰彦: 「Dr. DMAT」, TBS 木曜ドラマ, 平成26年1月9日~3月20日放送.
4. 富田泰彦: AED (自動体外式除細動器) の使用方法について (テレビ出演・解説), TBS 「Dr. DMAT」ナビ, 平成26年1月5日放送.

解剖学教室

(肉眼解剖学)

口 演

1. 藤倉義久¹, 松村讓兒, 雉鼻一郎², 松川詠梅², 立川修二¹, 北村裕和¹ (¹大分大・医・分子解剖, ²株・日本医化器械製作所): ホルムアルデヒド代替液 (プリザーブ) を用いた献体者の固定, 保存, 解剖所見. 第11回日本予防医学会学術総会. 東京, 平成25年6月22日~23日.
2. 天野カオリ, 島田和幸¹, 松村讓兒 (¹鹿児島大学・院・歯・人体構造解剖): ヒト胎児・成人耳下腺管にお

ける神経分布の観察. 第17回臨床解剖研究会. 鹿児島, 平成25年8月23日—24日.

3. 松村讓兒:「ホルマリン代替保存液で固定した遺体の解剖」.(テーマ:遺体処置法の現在・未来). 篤志解剖全国連合会「第31回献体実務担当者研修会」. 広島, 平成25年11月22日.
4. 灰塚嘉典, 松村讓兒, 藤倉義久¹ (¹大分大・医・分子解剖):ホルマリン代替液固定遺体の解剖. 日本解剖学会関東支部第101回学術集会. 東京, 平成25年11月30日.
5. 松村讓兒:総括「解剖学実習における倫理教育の意義と課題」. 篤志解剖全国連合会 第38回団体部会・大学部会合研修会. 下野. 平成26年3月25日—26日.
6. 天野カオリ, 松村讓兒, 島田和幸¹ (¹鹿児島大・院・歯・人体構造解剖):ヒト成人耳下腺管における神経分布について—サブスタンスPの分布と機能との関係—. 第119回日本解剖学会総会・全国学術集会. 下野. 平成26年3月27日—29日.
7. 灰塚嘉典, 松村讓兒, 高篠智¹藤倉義久² (¹杏林大・医・解剖(肉眼)・法医, ²大分大・医・分子解剖):ホルマリン代替液(N-Vinyl-2-pyrrolidone)注入固定遺体の解剖所見. 第119回日本解剖学会総会・全国学術集会. 下野. 平成26年3月27日—29日.
8. 池崎隆三郎¹, 小川晃汰¹, 原田巽矢¹, 灰塚嘉典, 高篠智², 松村讓兒 (¹杏林大・医・学生, ²杏林大・医・解剖(肉眼)・法医):実習でみられた馬蹄腎の観察. 第119回日本解剖学会総会・全国学術集会. 下野. 平成26年3月27日—29日.
9. 安藤稔彦¹, 古明地康平¹, 大貫朋也¹, 中村祐太¹, 天野カオリ, 松村讓兒 (¹杏林大・医・学生):鎖骨下動脈の変異—両側鎖骨下動脈が前斜角筋前面を通る1症例—. 第119回日本解剖学会総会・全国学術集会. 下野(栃木). 平成26年3月27日—29日.

論文

1. Amano K, Moriyama H¹, Shimada K² & Matsumura G (¹Dept of Anat Showa Univ Med, ²Dept of Neurology & Gross Anat Section, Kagoshima Univ Graduate Sch of Med and Dent Sci): Study of human adult parotid duct in the area of penetration through buccinator muscle and their functional relationship as a sphincter. *Ital J Anat Embryol.* 118: 6- 18, 2013.
2. Matsui T¹, Hongo Y², Haizuka Y, kaida K³, Matsumura G, Donna M.Martun⁴, Kobayashi Y¹ (¹Dept Anat & Neurobiol, National Defense Med Coll, ² Dept Anat & Neurobiol, National Defense Med Coll & Thied Dept Inter Med National Defense Med Coll, ³ Thied Dept Inter Med National Defense Med Coll, ⁴Dept Pediatric, Human Genetice, and the Cellular and Moleculer Biology Program, Univ Michigan):C-terminals in the mouse branchiomotor nuclei originate from the magnocellular reticular foemation. *Neuro Letters* 548:137-142, 2013.
3. 天野カオリ, 松村讓兒, 島田和幸¹ (¹鹿児島大・院・歯・人体構造解剖):ヒト胎児・成人耳下腺管における

神経分布の観察. 第17回臨床解剖研記会記録 14: 23-24, 2013.

4. 高篠智^{1,2,3}, 伊藤正裕³, 松村讓兒, 佐藤喜宣¹ (¹杏林・医・法医, ²杏林・医・解剖, ³東京医科大・人体構造):作業療法士教育における解剖学的模型作りの試み. *形態科学* 17: 1-10, 2014.
5. Kobayashi Y¹, Matsui T¹, Haizuka Y, Ogihara N², Hirai N³, Matsumura G (¹Dept Anat & Neurobiol, National Defense Med Coll, ²Lab Evol Biomechanics, Dept Mech Eng Keio Univ, ³Dept Integrative physiol, Kyorin Univ Sch of Med): Cerebral sulci and gyri observed on Macaque endocasts. *Dynamics of Learning in Neanderthals and Modem Humans* 2:131-137, 2014.
6. Kobayashi Y¹, Matsui T¹, Haizuka Y, Ogihara N², Hirai N³, Matsumura G (¹Dept Anat & Neurobiol, National Defense Med Coll, ²Lab Evol Biomechanics, Dept Mech Eng Keio Univ, ³Dept Integrative physiol, Kyorin Univ Sch of Med): The coronal suture as an indicator of the caudal border of the Macaque prefrontal cortex. *Dynamics of Learning in Neanderthals and Modem Humans* 2:139-143, 2014.

著書

1. 松村讓兒(監修):運動・からだ図鑑 解剖学の基本. 東京, マイナビ, 2013.
2. 松村讓兒:イラスト解剖学 第8版. 東京, 中外医学社, 2014.

その他

1. 松村讓兒:イラストでわかる疾患と症状 からだのしくみ・解剖研究所 第13回 コンパートメント症候群. 東京, へるす出版, 臨牀看護 4: 656 -657, 2013.
2. 松村讓兒:もっと知りたい からだの仕組み 第14回 持病の癪が・・・. NHK テレビテキストきょうの健康 5: 122, 東京, NHK, 2013.
3. 松村讓兒:イラストでわかる疾患と症状 からだのしくみ・解剖研究所 第14回 睡眠時無呼吸症候群. 東京, へるす出版, 臨牀看護 5: 784 -785, 2013.
4. 松村讓兒:もっと知りたい からだの仕組み 第15回 認知症の徘徊には理由がある. NHK テレビテキストきょうの健康 6:122, 東京, NHK, 2013.
5. 松村讓兒:イラストでわかる疾患と症状 からだのしくみ・解剖研究所 第15回 頭蓋内出血を探る. 東京, へるす出版, 臨牀看護 6: 912 -913, 2013.
6. 松村讓兒:もっと知りたい からだの仕組み 第16回 肩が痛いのに. NHK テレビテキストきょうの健康 7: 122, 東京, NHK, 2013.
7. 松村讓兒:イラストでわかる疾患と症状 からだのしくみ・解剖研究所 第16回 脳の話①:大脳皮質の機能. 東京, へるす出版, 臨牀看護 7: 1044 -1045, 2013.
8. 松村讓兒:もっと知りたい からだの仕組み 第17回 充血とうっ血の違い. NHK テレビテキストきょうの健康 8: 122, 東京, NHK, 2013.
9. 松村讓兒:イラストでわかる疾患と症状 からだの

- しくみ・解剖研究所 第17回 脳の話②:運動麻痺. 東京,へるす出版,臨牀看護 8:1184-1185, 2013.
10. 松村讓児:もっと知りたい からだの仕組み 第18回 膝臓は無口? NHK テレビテキスト きょうの健康 9:122, 東京, NHK, 2013.
 11. 松村讓児:イラストでわかる疾患と症状 からだのしくみ・解剖研究所 第18回 脳の話③:感覚解離? 東京,へるす出版,臨牀看護 9:1314-1315, 2013.
 12. 松村讓児:もっと知りたい からだの仕組み 第19回 脈をとってみよう. NHK テレビテキスト きょうの健康 10:122, 東京, NHK, 2013.
 13. 松村讓児:数字で見るとビックリ!新・身体測定. 読売 k o d o m o 新聞9月12日:10-11, 東京, 読売新聞東京本社, 2013.
 14. 松村讓児:イラストでわかる疾患と症状 からだのしくみ・解剖研究所 第19回 脳の話④:脳幹って? 東京,へるす出版,臨牀看護 10:1452-1453, 2013.
 15. 松村讓児:もっと知りたい からだの仕組み 第20回 病膏肓に入る. NHK テレビテキスト きょうの健康 11:117, 東京, NHK, 2013.
 16. 松村讓児:イラストでわかる疾患と症状 からだのしくみ・解剖研究所 第20回 心電図と刺激伝道系. 東京,へるす出版,臨牀看護 11:1806-1807, 2013.
 17. 松村讓児:もっと知りたい からだの仕組み 第21回 最近よくつまずくんです. NHK テレビテキスト きょうの健康 12:117, 東京, NHK, 2013.
 18. 松村讓児:イラストでわかる疾患と症状 からだのしくみ・解剖研究所 第21回 黄疸について. 東京,へるす出版,臨牀看護 12:1954-1955, 2013.
 19. 松村讓児:もっと知りたい からだの仕組み 第22回 狭心症にはニトロ!? NHK テレビテキスト きょうの健康 1:117, 東京, NHK, 2014.
 20. 松村讓児:もっと知りたい からだの仕組み 第23回 お口のニオイ!? NHK テレビテキスト きょうの健康 2:117, 東京, NHK, 2014.
 21. 松村讓児:もっと知りたい からだの仕組み 第24回 頭の痛い膝の痛み. NHK テレビテキスト きょうの健康 3:117, 東京, NHK, 2014.
 22. 松村讓児:もっと知りたい からだの仕組み 第25回 薬が体に効く仕組み. NHK テレビテキスト きょうの健康 4:117, 東京, NHK, 2014.

解剖学教室
(顕微解剖学)

口 演

1. 石橋亮一¹, 竹本稔¹, 秋元義弘, 大西俊一郎¹, 石川崇広¹, 河村治清¹, 賀鵬¹, 藤本昌紀¹, 小林一貴¹, Betsholtz C², 横手幸太郎¹ (¹千葉大・院医・細胞治療内科学, ²カロリンスカ研): Semaphorin3g はポドサイトの構築に参与する. 第56回日本腎臓学会学術総会, 東京, 平成25年5月10-12日.
2. 大西俊一郎¹, 竹本稔¹, 正司真弓¹, 服部暁子¹, 北本匠¹, 坂本憲一¹, 山賀正弥¹, 石橋亮一¹, 賀

- 鵬¹, 石川崇広¹, 小林一貴¹, 河村治清¹, 横手幸太郎¹, 秋元義弘 (¹千葉大・院医): Investigation of the roles of Semaphorin 3G in the regulation of glucose metabolism. 第7回 Atherosclerosis and Cardiovascular Research Conference (ACRC), 東京, 平成25年5月11日.
3. 石橋亮一¹, 竹本稔¹, 秋元義弘, 藤本昌紀¹, 河村治清¹, 小林一貴¹, 大西俊一郎¹, 石川崇広¹, 岡部恵見子¹, 賀鵬¹, Betsholtz C², 横手幸太郎¹ (¹千葉大・院医・細胞治療内科学, ²カロリンスカ研): ポドサイト発現遺伝子 Semaphorin3g の腎糸球体における機能解析. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 平成25年5月16-18日.
 4. 秋元義弘, 不破尚志¹, 一宮智美¹, 上山盛夫¹, 松田宗男², 松原幸枝³, 上田龍⁴, Hart GW⁵, 川上速人, 西原祥子¹ (¹創価大・工・生命情報, ²杏林大・医・生物学, ³杏林大・医・電子顕微鏡室, ⁴遺伝研・無脊椎, ⁵Department of Biological Chemistry, Johns Hopkins University School of Medicine): *Drosophila* の多糸染色体における糖転移酵素の局在. 日本顕微鏡学会第69回学術講演会, 吹田, 平成25年5月20-22日.
 5. Sugahara D¹, Kaji H¹, Sugihara K², Asano M², Narimatsu H¹ (¹Research Center for Medical Glycoscience, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, ²Division of Transgenic Animal Science, Advanced Science Research Center, Kanazawa University): Systematic identification of in vivo target proteins specific for a glycosyltransferases isozyme, β 1,4-galactosyltransferase-I. 22nd International Symposium on Glycoconjugates, China, June 23-28, 2013.
 6. 石橋亮一¹, 竹本稔¹, 秋元義弘, 藤本昌紀¹, 河村治清¹, 小林一貴¹, 大西俊一郎¹, 石川崇広¹, 岡部恵見子¹, 賀鵬¹, Betsholtz C², 横手幸太郎¹ (¹千葉大・院医・細胞治療内科学, ²カロリンスカ研): Semaphorin3g の糸球体における機能解析. 第45回日本動脈硬化学会学術集会, 東京, 平成25年7月18-19日.
 7. 宮東昭彦: 画像解析の基礎. 第38回組織細胞化学講習会, 東京, 平成25年8月1-2日.
 8. Okamura K¹, Shiokawa Y¹, Tsubokawa T², Johshita H², Kudo A, Kawakami H, Koroishi S³, Matsubara S³ (¹Department of Neurosurgery, Kyorin University Faculty of Medicine, ²Department of Neurosurgery, Saitama Cardiovascular and Respiratory Center, ³Laboratory for Electron Microscopy, Kyorin University Faculty of Medicine): Experimental hemorrhagic infarction in the edaravone-treated hyperglycemic rat brain. Electron microscopic studies of microvasculature. Asia Pacific Stroke Conference 2013, Hong Kong, August 30 - September 1, 2013.
 9. 三宅正紀¹, 吉田一平¹, 杉山亜由美¹, 國安健太¹, 山本みな実¹, 秋元義弘, 川上速人, Kwaik YA², 今井康之¹ (¹静岡県大・薬・免疫微生物学, ²Department of Microbiology and Immunology,

- University of Louisville, School of Medicine) : マクロファージ内増殖性を欠損したレジオネラ強細胞毒性株 (mil-Toxh 変異株) の性状解析. 第25回微生物シンポジウム～ヒトの健康と微生物～, 静岡, 平成25年9月6-7日.
10. Sugahara D¹, Kaji H¹, Sugihara K², Asano M², Narimatsu H¹ (¹Research Center for Medical Glycoscience, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, ²Division of Transgenic Animal Science, Advanced Science Research Center, Kanazawa University): An LC/MS-based glycoproteomic approach for systematic identification of in vivo target proteins specific for a glycosyltransferase isozyme. The 12th Human Proteome Organization World Congress, Yokohama, September 14-18, 2013.
 11. Akimoto Y, Miura Y¹, Toda T², Fukutomi T³, Sugahara D, Wolfert MA⁴, Wells L⁴, Boons G-J⁴, Hart GW⁵, Endo T¹, Kawakami H (¹Research Team for Mechanism of Aging, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ²Advanced Medical Research Center, Yokohama City University, ³Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine, ⁴Complex Carbohydrate Research Center, University of Georgia, ⁵Department of Biological Chemistry, Johns Hopkins University School of Medicine): Change of the *O*-GlcNAc modification of proteins accompanied with diabetic nephropathy. The 12th Human Proteome Organization World Congress, Yokohama, September 14-18, 2013.
 12. 秋元義弘 : プラズマ照射による細胞, 組織への影響の分子形態学的解析. 新学術領域研究「プラズマ医療科学の創成」第二回公開シンポジウム～名古屋大学プラズマ医療科学国際イノベーションセンター創設記念シンポジウム～, 名古屋, 平成25年9月28日.
 13. 光永敬子¹, 秋元義弘, 安井金也², 楠慎一郎³, 山下一郎⁴, 川上速人, 安増茂樹⁵ (¹広島大・院理・数理分子生命, ²広島大・院理・生物科学, ³LSL, ⁴広島大・自然センター, ⁵上智大・理工) : アリアルスルファターゼ B (ArsB) のメダカ脳における免疫組織化学的解析. 日本動物学会第84回大会, 岡山, 平成25年9月26-28日.
 14. 岡村耕一¹, 坪川民治², 城下博夫², 塩川芳昭¹, 轉石小百合³, 松原幸枝³, 宮東昭彦, 川上速人 (¹杏林大・医・脳神経外科, ²埼玉県立循環器・呼吸器病センター・脳神経外科, ³杏林大・医・電顕部門) : エダラボンによる出血性脳梗塞の抑制, 高血糖ラットモデルを用いた実験的検討, 電子顕微鏡による観察. 第72回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 平成25年10月16-18日.
 15. 秋元義弘 : *O*-GlcNAc 修飾と糖尿病. 第11回糖鎖科学コンソーシアムシンポジウム, 仙台, 平成25年10月25-26日.
 16. Miyake M¹, Yoshida I¹, Yamamoto M¹, Sugiyama A¹, Kuniyasu K¹, Akimoto Y, Kawakami H, Imai Y¹, Kwaik YA² (¹Laboratory of Microbiology and Immunology, University of Shizuoka, School of Pharmaceutical Sciences, ²Department of Microbiology and Immunology, University of Louisville, School of Medicine): Characterization of Legionella hyper-toxic mutants which are intracellular growth-deficient (Toxh mutants) for infectivity to host cells. The 8th International Conference on LEGIONELLA, Australia, October 29 - November 1, 2013.
 17. 秋元義弘, 福富俊之¹, 菅原大介, 西堀由紀野², 楊國昌², 川上速人 (¹杏林大・医・薬理学, ²杏林大・医・小児科学) : (平成25年度杏林大学医学部共同研究プロジェクト中間報告) 糖尿病新規マーカーの探索. 第42回杏林医学会総会, 三鷹, 平成25年11月16日.
 18. 藤原智徳¹, 宮東昭彦, 小藤剛史¹ (¹杏林大・医・細胞生理学, ²杏林大・医・RI 部門) : (平成25年度杏林大学医学部共同研究プロジェクト中間報告) 新規モデルマウスを用いた発達期神経機能障害による精神神経疾患の研究. 第42回杏林医学会総会, 三鷹, 平成25年11月16日.
 19. Akimoto Y, Miura Y¹, Toda T², Fukutomi T³, Sugahara D, Wolfert MA⁴, Wells L⁴, Boons G-J⁴, Hart GW⁵, Endo T¹, Kawakami H (¹Research Team for Mechanism of Aging, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ²Advanced Medical Research Center, Yokohama City University, ³Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine, ⁴Complex Carbohydrate Research Center, University of Georgia, ⁵Department of Biological Chemistry, Johns Hopkins University School of Medicine): Morphological changes in diabetic kidney are associated with increased *O*-GlcNAc modification of cytoskeletal proteins. The World Diabetes Congress 2013, Australia, December 2-6, 2013.
 20. 野中真弓¹, Wetsel RA², 宮東昭彦, 川上速人, 吉田薫³, 吉田学⁴, 河野菜津子⁵, 宮戸健二⁵, 野中勝¹ (¹東京大・院理・生物, ²テキサス大, ³桐蔭横浜大・先端医用工学センター, ⁴東京大・院理・附属臨海, ⁵国立成育医療センター・生殖細胞医療) : 補体制御因子 C4b-binding protein のノックアウトマウス作成と精巢上体における機能解析. 第36回日本分子生物学会年会, 神戸, 平成25年12月3-6日.
 21. 秋元義弘 : プラズマ照射による細胞, 組織への影響の分子形態学的解析. 新学術領域研究「プラズマ医療科学の創成」仙台研究会, 仙台, 平成25年12月14-15日.
 22. 秋元義弘, 池原譲¹ (¹産業技術総合研・糖鎖医工学センター) : プラズマ照射後のサンプルの超微形態学的解析法について. 新学術領域研究「プラズマ医療科学の創成」名古屋全体会議, 名古屋, 平成26年3月8-9日.
 23. 横矢重臣¹, 田中俊英², 檜山孝美³, 宮東昭彦, 川上速人, 小林博雄³, 塩川芳昭¹ (¹杏林大・医・脳神経外科, ²東京慈恵医大・附属柏病院, ³石岡循環器科脳神経外科病院) : 細胞外マトリックス分解酵素がプラーク不安定化に関与するか — 病理組織学的解

析による検討. STROKE2014 第39回日本脳卒中学会総会, 大阪, 平成26年3月13-15日.

24. 光永敬子¹, 秋元義弘, 安井金也², 楠慎一郎³, 山下一郎⁴, 川上速人, 安増茂樹⁵ (¹広島大・院理・数理分子生命, ²広島大・院理・生物科学, ³LSL, ⁴広島大・自然センター, ⁵上智大・理工): メダカアリアルスルファターゼ B (ArsB) の脳における分子環境の解析. 日本動物学会中国四国支部広島県例会, 広島, 平成26年3月27日.
25. 秋元義弘, 三浦ゆり¹, 戸田年総², 福富俊之³, 菅原大介, 楊國昌⁴, 西堀由紀野⁴, Hart GW⁵, 遠藤玉夫¹, 川上速人 (¹都健康長寿医療センター研・老化機構, ²横浜市立大・先端医科学研究センター, ³杏林大・医・薬理学, ⁴杏林大・医・小児科学, ⁵Department of Biological Chemistry, Johns Hopkins University School of Medicine): 糖尿病性腎症に伴う糸球体タンパク質の糖修飾異常の解析. 第119回日本解剖学会総会・全国学術集会, 下野, 平成26年3月27-29日.
26. 小川裕子¹, 角田圭¹, 登松千晴¹, 秋元義弘, 矢ノ下良平¹ (¹帝京平成大・薬): ヒト唾液由来エキソソームの安定性の検討. 日本薬学会第134年会, 熊本, 平成26年3月27-30日.
27. 津元裕樹¹, 岩本真知子¹, 千葉優子¹, 秋元義弘, 森澤拓¹, 遠藤玉夫¹, 三浦ゆり¹ (¹都健康長寿医療センター研・老化機構): 糖尿病患者赤血球中の O-GlcNAc 化プロテオーム解析. 日本薬学会第134年会, 熊本, 平成26年3月27-30日.

論文

1. Yamashita S¹, Kudo A, Kawakami H, Okada Y² (¹Electron Microscope Laboratory, School of Medicine, Keio University, ²Department of Pathology, School of Medicine, Keio University): Mechanisms of angiogenic suppression in uteri exposed to diethylstilbestrol neonatally in the mouse. Biol Reprod 88: 116, 1-13, 2013.
2. Kawashima S¹, Arimura Y¹, Sano K¹, Kudo A, Komagata Y¹, Kaname S¹, Kawakami H, Yamada A¹ (¹First Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine): Immunopathologic co-localization of MPO, IgG, and C3 in glomeruli in human MPO-ANCA-associated glomerulonephritis. Clin Nephrol 79: 292-301, 2013.
3. Mitsunaga-Nakatsubo K¹, Akimoto Y, Kusunoki S², Kawakami H (¹Department of Mathematical and Life Sciences, Graduate School of Science, Hiroshima University, ²LSL): Novel structure of hepatic extracellular matrices containing arylsulfatase A. Okajimas Folia Anat Jpn 90: 17-22, 2013.
4. Nikzad H¹, Haddad Kashani H¹, Kabir-Salmani M², Akimoto Y, Iwashita M³ (¹Anatomical Sciences Research Center, Faculty of Medicine, Kashan University of Medical Sciences, ²Department of Molecular Genetics, National Institute of Genetic Engineering and Biotechnology, ³Department of Obstetrics and

Gynecology, School of Medicine, Kyorin University): Expression of galectin-8 on human endometrium: Molecular and cellular aspects. Iran J Reprod Med 11: 65-70, 2013.

5. Sugisaki K¹, Hanawa T¹, Yonezawa H¹, Osaki T¹, Fukutomi T², Kawakami H, Yamamoto T³, Kamiya S¹ (¹Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Pharmacology, Kyorin University School of Medicine, ³Department of Microbiology and Molecular Genetics, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Chiba University): Role of (p)ppGpp in biofilm formation and expression of filamentous structures in *Bordetella pertussis*. Microbiology 159: 1379-1389, 2013.
6. Hanawa T¹, Yonezawa H¹, Kawakami H, Kamiya S¹, Armstrong SK² (¹Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Microbiology, University of Minnesota Medical School): Role of *Bordetella pertussis* RseA in the cell envelope stress response and adenylate cyclase toxin release. Pathog Dis 69: 7-20, 2013.
7. 秋元義弘, 三浦ゆり¹, 戸田年総², Hart GW³, 遠藤玉夫¹, 川上速人 (¹都健康長寿医療センター研究所・老化機構, ²横浜市立大・先端医科学研究センター, ³ジョンズ・ホプキンス大・医・生物化学): 特集「糖鎖と疾患」. タンパク質の O-GlcNAc 修飾と糖尿病. 病理と臨床・別冊31: 847-851, 2013.

著書

1. 宮東昭彦, 川上速人: 画像解析の基礎. 日本組織細胞化学会編, 組織細胞化学2013. 学際企画, 東京, 2013, p.145-155.
2. 秋元義弘, 平野寛: 人体の構造と生命機能. A. 人体の構造. 「健康・栄養科学シリーズ. 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち・総論」. 香川靖雄, 近藤和雄, 石田均, 門脇孝編, 第2版, 南江堂, 東京, p.1-15.

特許等知的財産関係, 報告書

1. 天野純子, 菅原大介 [特許登録]: 多様性を表現するオリゴ糖またはその誘導体. 特許5331293号 (特願2006-127109), 【登録日】平成25年8月2日, 【発行日】平成25年10月30日.

統合生理学教室

口演

1. Nakajima T, Komiyama T, Ohtsuka O, Suzuki S, Futatsubashi G and Ohki Y: Activity- and timing-dependent plasticity of indirect cortico-motoneuronal excitation in humans, 第36回日本神経科学会, 京都, 平成25年6月20日-23日.
2. 中島剛, 小宮山伴与志, 大木紫: ヒト脊髄固有ニューロンの機能とその可塑性について シンポジウム4 「電気生理学を基礎とした運動制御研究の進展」, 第21回日本運動生理学学会, 川越, 2013年7月28日.

3. 八木淳一, 小林靖, 大木紫, 平井直樹: Warm 刺激, Cool 刺激は侵害刺激か, 非侵害刺激か? -In Vivo パッチクランプ法による温度感受性 DRG ニューロンの分類と解析-, 温熱生理研究会, 岡崎, 平成25年9月5-6日.
4. 平井直樹, 本郷利憲, 稲富貴美, 魚谷恭太郎, 佐々木成人: ニホンサル *Macaca fuscata* の道具使用の学習過程 - 初めて道具を使う時の視覚情報の役割 (第2報) - 第29回日本霊長類学会, 岡山, 平成25年9月6-8日.
5. 大森雅夫, 五十嵐一峰, 佐野秀仁, 高橋雅人, 市村正一, 中島剛, 澁谷賢, 大木紫, 遠藤隆志: 頸髄症患者における巧緻運動機能の客観的評価法の開発, 第28回日本整形外科学会基礎学術集会, 千葉, 平成25年10月19日.
6. 八木淳一: 痛みに関連するイオンチャネルの性質, バイオを論じる会, 埼玉, 平成25年10月29日.
7. Nakajima T, Komiyama T, Ohtsuka O, Suzuki S, Futatsubashi G and Ohki Y: Activity- and timing-dependent plasticity of indirect cortico-motoneuronal pathways in humans, *Neuroscience* 2013, USA, November 9-13 2013.
8. Suzuki S, Nakajima T, Mezzarane RA, Futatsubashi G Ohtuka H, Komiyama T: Different conditioning effect of contralateral H-reflex during walking and standing, *Neuroscience* 2013, USA, November 9-13 2013.
9. Zehr EP, Nakajima T, Brass T., Klarner T, Miklosovic S, Mezzarane RA, Nurse M, Komiyama T: Neuromechanical effects of cutaneous feedback from discrete regions of the foot sole during locomotion, *Neuroscience* 2013, USA, November 9-13 2013.
10. Seki K Nakajima T, Kim G. Monosynaptic group Ia excitation in first dorsal interossei (FDI) muscles during various manipulation tasks in man. *Neuroscience* 2013, USA, November 9-13 2013.
11. 大木紫, 空間内の到達運動制御と身体認知, 平成25年度東北大学電気通信研究所共同プロジェクト研究会, 仙台, 2014年2月28日. (招待講演)
12. 中島剛, 小宮山伴与志, 大木紫: ヒト脊髄介在ニューロンシステムを利用した上肢の運動機能回復戦略, 第160回日本体力医学会関東地方会 特別講演「中枢神経障害に対するニューロリハビリテーションの機序と応用」, 東京, 2014年3月8日. (招待講演)

論文

1. Nakajima T, Mezzarane RA, Klarner T, Barss TS, Hundza SR, Komiyama T and Zehr EP: Neural mechanisms influencing interlimb coordination during locomotion in humans: presynaptic modulation of forearm H-reflexes during leg cycling. *PLOS ONE* 8: e77124, 2013.
2. Takahashi R, Endoh T, Nakajima T, Komiyama T: Modulation of homosynaptic depression during voluntary contraction and muscle fatigue with different test reflex size. *The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine* 2: 251-258, 2013.

3. 中島剛, 大木紫: 屈曲反射・皮膚反射, 反射 - What's new and what's classic? *Clinical Neuroscience* 31, 890-894, 2013.
4. Mezzarane RA, Nakajima T, Zehr EP: After stroke bidirectional modulation of soleus stretch reflex amplitude emerges during rhythmic arm cycling. *Front Hum Neurosci* 8: 136, 2014.
5. Domingo A, Klimstra M, Nakajima T, Lam T, Hundza SR: Constrained treadmill walking suppresses and phase modulates the flexor carpi radialis H-reflex. *J Motor Behavior* 46: 49-57, 2014.
6. Sakamoto M, Tazoe T, Nakajima T, Endoh T, Komiyama T: Leg automaticity is stronger than arm automaticity during simultaneous arm and leg cycling. *Neurosci Lett* 564:62-66, 2014.

著書

1. 訳者名 (共訳) カールソン神経科学テキスト 脳と行動 第4版, 泰羅雅登・中村克樹 監訳, 丸善出版株式会社, 2013年5月

細胞生理学教室

口演

1. 小藤剛史¹, 藤原智徳, 真田ますみ, 三嶋竜弥, 赤川公朗 (¹放射性同位元素部門): 神経細胞の生存に対する HPC-1/ シンタキシン1A とシンタキシン1B の異なる役割. 第36回日本神経科学大会 / 第56回日本神経化学学会大会, 京都, 平成25年6月20-23日.
2. 藤原智徳, 小藤剛史¹, 三嶋竜弥, 赤川公朗 (¹放射性同位元素部門): STX1A, STX1B 欠損マウスにおける行動異常の比較. 第36回日本神経科学大会 / 第56回日本神経化学学会大会, 京都, 平成25年6月20-23日.
3. Suga K, Saito A, Mishima T, Akagawa K: ER stress suppress Ab secretion and induces the expression of ER-Golgi SNARE including Syntaxin5 proteins in neuronal cells. 第56回日本神経化学学会大会, 京都, 平成25年6月29日.
4. 中山高宏, 御子柴克彦¹, 赤川公朗 (¹理研・BSI・発生神経): Syntaxin 1A 遺伝子の組織特異的発現制御機構. 第86回日本生化学学会大会, 横浜, 平成25年9月13日.
5. 藤原智徳, 小藤剛史¹, 三嶋竜弥, 赤川公朗 (¹放射性同位元素部門): HPC-1/STX1A および STX1B による社会行動の制御. 第91回日本生理学会, 鹿児島, 平成26年3月16-18日.
6. 三嶋竜弥, 藤原智徳, 真田ますみ, 小藤剛史¹, 赤川公朗 (¹放射性同位元素部門): シナプス伝達におけるシンタキシン1B の生理機能. 第91回日本生理学会, 鹿児島, 平成26年3月16-18日.

論文

1. Sakurai T¹, Kitadate K², Nishioka H², Fujii H², Ogasawara J¹, Kizaki T¹, Sato S¹, Fujiwara T, Akagawa K, Izawa T³, Ohno H¹(¹Department of Molecular Predictive Medicine and Sport Science, ²Amino Up Chemical

Company Limited, ³Faculty of Health and Sport Science, Doshisha University) : Oligomerised lychee fruit-derived polyphenol attenuates cognitive impairment in senescence-accelerated mice and endoplasmic reticulum stress in neuronal cells. *Br J Nutr* 110(9): 1549-58, 2013.

2. Ohara-Imaizumi M¹, Kim H^{2,3}, Yoshida M⁴, Fujiwara T, Aoyagi K¹, Toyofuku Y⁵, Nakamichi Y¹, Nishiwaki C¹, Okamura T⁶, Uchida T⁵, Fujitani Y⁵, Akagawa K, Kakei M⁴, Watada H⁵, German MS^{3,7}, Nagamatsu S¹(¹Departments of Biochemistry, ²Graduate School of Medical Science and Engineering, Korea Advanced Institute of Science and Technology, Korea, ³Diabetes Center and Hormone Research Institute and ⁷Department of Medicine, University of California, San Francisco, ⁴First Department of Medicine, Saitama Medical Center, Jichi Medical University School of Medicine, ⁵Department of Metabolism and Endocrinology, Juntendo University Graduate School of Medicine, and ⁶Section of Animal Models, Department of Infectious Diseases, Research Institute, National Center for Global Health and Medicine) : Serotonin regulates glucose-stimulated insulin secretion from pancreatic β cells during pregnancy. *Proc Natl Acad Sci USA* 110(48):19420-5, 2013.
3. Matsuzawa R¹, Fujiwara T, Nemoto K¹, Fukushima T¹, Yamaguchi S¹, Akagawa K, Hori Y¹(¹Department of Physiology and Biological Information, Dokkyo Medical University) : Presynaptic inhibitory actions of pregabalin on excitatory transmission in superficial dorsal horn of mouse spinal cord: further characterization of presynaptic mechanisms. *Neurosci Lett* 558:186-91, 2013.
4. Mishima T, Fujiwara T, Sanada M, Kofuji T¹, Kanai-Azuma M², Akagawa K (¹Radioisotope laboratory, ²Department of Anatomy) : Syntaxin 1B, but not syntaxin 1A, is necessary for the regulation of synaptic vesicle exocytosis and of the readily releasable pool at central synapses. *PLoS One* 9: e90004, 2014.

生化学教室 (1)

口 演

1. Homareda H, & Hara Y¹ (¹Tokyo Medical and Dental Univ) : Subunit structure of silkworm Na⁺/K⁺-ATPase. 第86回日本生化学会大会, 横浜, 平成25年9月11日.
2. 菅田晴夫, 原論吉¹ (¹東京医歯大) : カイコ Na⁺/K⁺-ATPase の局在とサブユニット構造, 日本生体エネルギー研究会第39回討論会, 静岡, 平成25年12月18日.

著 書

1. 菅田晴夫 : ヌクレオチド代謝. 臨床化学検査学. 太田敏子他編. 東京, メディカルサイエンス社, 2013. p.24-29.
2. 菅田晴夫 : ヘム代謝. 臨床化学検査学. 太田敏子他編. 東京, メディカルサイエンス社, 2013. p.32-35.

生化学教室 (2)

口 演

1. 今泉美佳 ホルモン開口分泌の分子イメージング (教育講演) 第86回日本内分泌学会学術総会 仙台 平成25年4月25-27日
2. Ohara-Imaizumi M, Kim H^{1,6}, Yoshida M², Fujiwara T³, Aoyagi K, Toyofuku Y⁴, Nakamichi Y, Nishiwaki C, Okamura T⁵, Uchida T⁴, Fujitani Y⁴, Akagawa K³, Kakei M², Watada H⁴, German MS^{1,6} and Nagamatsu S¹(¹Graduate School of Medical Science and Engineering, Korea Advanced Institute of Science and Technology. ²First Department of Medicine, Saitama Medical Center, Jichi Medical University School of Medicine. ³Cell Physiology Kyorin University School of Medicine. ⁴Department of Metabolism and Endocrinology, Juntendo University Graduate School of Medicine. ⁵Section of Animal Models, Department of Infectious Diseases, Research Institute, National Center for Global Health and Medicine. ⁶Diabetes Center and Hormone Research Institute and Department of Medicine, University of California) Serotonin regulates glucose stimulated insulin secretion from pancreatic β cells during pregnancy. 73th Scientific Session of American Diabetes Association, Chicago, USA, June 21-25, 2013
3. Ohara-Imaizumi M, Kim H^{1,6}, Yoshida M², Fujiwara T³, Aoyagi K, Toyofuku Y⁴, Nakamichi Y, Nishiwaki C, Okamura T⁵, Uchida T⁴, Fujitani Y⁴, Akagawa K³, Kakei M², Watada H⁴, German MS^{1,6} and Nagamatsu S¹(¹Graduate School of Medical Science and Engineering, Korea Advanced Institute of Science and Technology. ²First Department of Medicine, Saitama Medical Center, Jichi Medical University School of Medicine. ³Cell Physiology Kyorin University School of Medicine. ⁴Department of Metabolism and Endocrinology, Juntendo University Graduate School of Medicine. ⁵Section of Animal Models, Department of Infectious Diseases, Research Institute, National Center for Global Health and Medicine. ⁶Diabetes Center and Hormone Research Institute and Department of Medicine, University of California) Serotonin regulates glucose stimulated insulin secretion from pancreatic β cells during pregnancy. Beta Cell Workshop 2013 京都. 平成25年4月23-26日
4. Aoyagi K, Ohara-Imaizumi M, Nagamatsu S, Acute inhibition of PI3K-PDK1-Akt pathway potentiates glucose-induced insulin secretion through myosin Va pathway in pancreatic beta cells. Beta Cell Workshop 2013 京都. 平成25年4月23-26日
5. 青柳共太, 今泉美佳, Mei Zhen^{1,2,3,4}, 永松信哉 (¹Institute of Medical Science, University of Toronto, Ontario, ²Canada, Samuel Lunenfeld Research Institute, Toronto, Ontario, Canada, ³Department of Molecular Genetics, University of Toronto, Ontario, Canada, ⁴Department of Physiology, University of Toronto,

Ontario, Canada.) 膵β細胞からのインスリン分泌におけるNALCN/mNLF-1の役割 文部科学省 科学研究費補助金「新学術領域研究」細胞内ロジスティクス・シンポジウム 兵庫 平成25年9月17-18日

6. 青柳共太, 今泉美佳, Zhen M^{1,2,3,4}, 永松信哉^(1,2,3,4)Institute of Medical Science, University of Toronto, Ontario, ³Canada, Samuel Lunenfeld Research Institute, Toronto, Ontario, Canada, ⁴Department of Molecular Genetics, University of Toronto, Ontario, Canada, ⁵Department of Physiology, University of Toronto, Ontario, Canada.) 膵β細胞からのインスリン分泌におけるNALCN/mNLF-1の役割 第86回日本生化学会大会, 横浜, 平成25年9月11-13日
7. 青柳共太, 今泉美佳, 西脇知世乃, 中道洋子, 永松信哉 Acute inhibition of PI3K-PDK1-Akt pathway potentiates glucose-induced insulin secretion through MyosinVa pathway in pancreatic beta-cells. 第65回日本細胞生物学会大会, 名古屋, 平成25年6月19-21日
8. 永松信哉 インスリン分泌分子機構 - 妊娠・糖尿病・新規タンパク質 -. 第10回糖尿病病診連携懇話会 東京 平成25年11月5日 .

論文

1. Ohara-Imaizumi M, Kim H^{1,6}, Yoshida M², Fujiwara T³, Aoyagi K, Toyofuku Y⁴, Nakamichi Y, Nishiwaki C, Okamura T⁵, Uchida T⁴, Fujitani Y⁴, Akagawa K³, Kakei M², Watada H⁴, German MS^{1,6}, Nagamatsu S¹.⁽¹⁾Graduate School of Medical Science and Engineering, Korea Advanced Institute of Science and Technology. ²First Department of Medicine, Saitama Medical Center, Jichi Medical University School of Medicine. ³Cell Physiology Kyorin University School of Medicine. ⁴Department of Metabolism and Endocrinology, Juntendo University Graduate School of Medicine. ⁵Section of Animal Models, Department of Infectious Diseases, Research Institute, National Center for Global Health and Medicine. ⁶Diabetes Center and Hormone Research Institute and Department of Medicine, University of California) Serotonin regulates glucose-stimulated insulin secretion from pancreatic β cells during pregnancy. Proc Natl Acad Sci U S A. 110: 19420-5, 2013
2. Tamaki M¹, Fujitani Y^{1,2,3}, Hara A², Uchida T¹, Tamura Y^{1,4}, Takeno K¹, Kawaguchi M¹, Watanabe T¹, Ogihara T¹, Fukunaka A^{1,2}, Shimizu T¹, Mita T^{1,5}, Kanazawa A^{1,6}, Ohara-Imaizumi M, Abe T⁸, Kiyonari H⁸, Hojyo S⁹, Fukada T^{9,10}, Kawachi T^{11,12}, Nagamatsu S, Hirano T^{9,13}, Kawamori R^{1,4}, Watada H^{1,2,4,5,6}. (¹Department of Metabolism and Endocrinology, ²Center for Beta-Cell Biology and Regeneration, ³JST-CREST Program, ⁴Sportology Center, ⁵Center for Molecular Diabetology, and ⁶Center for Therapeutic Innovations in Diabetes, Juntendo University Graduate School of Medicine, ⁸Laboratories for Animal Resources and Genetic Engineering, RIKEN Center for Developmental Biology. ⁹Laboratory of Cytokine Signaling, RIKEN Research

Center for Allergy and Immunology. ¹⁰Department of Allergy and Immunology, Graduate School of Medicine, Osaka University. ¹¹Precursor Research for Embryonic Science and Technology (PRESTO), Japan Science and Technology Agency (JST). ¹²Department of Physiology, Keio University School of Medicine, To ¹³JST-CREST Program, Osaka University. The diabetes-susceptible gene SLC30A8/ZnT8 regulates hepatic insulin clearance. J Clin Invest.123:4513-24,2013

著書

3. Ohara-Imaizumi M, Aoyagi K, Nagamatsu S. Imaging of insulin exocytosis from pancreatic beta cells. Exocytosis Methods. Neuromethods 83. Springer Protocols. Thorn P. (ed.) Humana Press. pp55-74 ,2013

薬理学教室

口演

1. 丸茂丈史¹, 河原崎和歌子¹, 西本光宏¹, 渡邊隆史¹, 櫻井裕之, 藤田敏郎⁽¹⁾(東京大) : 腎障害にかかわる細胞特異的なエピジェネティック異常. 第56回日本腎臓学会総会, 東京, 平成25年5月10日 -12日 .
2. 木村徹, 塚田愛, 大槻純男¹, 福富俊之, 市田公美², 櫻井裕之⁽¹⁾(熊本大, ²東京薬科大) : 上皮細胞における尿酸の paracellular 輸送と claudin の発現. 第8回 トランスポーター研究会年会 (JTRA2013), 熊本, 平成25年6月15日 -16日 .
3. 末弘淳一, 櫻井裕之 : 血管内皮細胞における LAT1 選択的阻害薬 JPH203の薬理学的検討. 第128回日本薬理学会関東部会, 東京, 平成25年7月14日 .
4. 末弘淳一, 櫻井裕之 : LAT1 阻害は血管内皮細胞増殖を抑制する. 生理研研究会『上皮膜輸送の多層的コントロールによる生体の恒常性維持機構』, 岡崎, 平成25年8月26日 .
5. 木村徹, 上野誠二, 遠藤仁¹, 櫻井裕之⁽¹⁾(株)ジェイファーマ) : メトホルミンは LAT1 阻害薬の抗腫瘍効果を増強する. 第72回日本癌学会学術総会, 横浜, 平成25年10月3日 -5日 .
6. 山賀貴, 櫻井裕之 : 抗 LAT1療法は乳癌細胞の増殖を抑制する. 第129回日本薬理学会関東部会, 東京, 平成25年10月19日 .
7. 末弘淳一, 木村徹, 櫻井裕之 : 血管内皮細胞増殖因子を介した血管ネットワーク形成におけるアミノ酸トランスポーター LAT1の役割. 第129回日本薬理学会関東部会, 東京, 平成25年10月19日 .

ポスター

1. Sakurai H, Kimura T, Tsukada A¹, Ohtsuki S², Uehara I³, Tanigaki S³, Iwashita M³, Ichida I⁴ (¹Tokyo Metro Ohtsuka Hosp., ²Kumamoto Univ., ³Dept. of Ob&Gyn, Kyorin Univ., ⁴Tokyo Univ. Pharm. & Life Sci.): Paracellular urate transport in the placenta. Experimental Biology 2013, USA, April 20-24. 2013.
2. Akimoto Y¹, Miura Y², Toda T³, Fukutomi T, Wolfert MA⁴, Wells L⁴, Boons GJ⁴, Hart GW⁵, Endo T²,

Kawakami H¹ (1^{Dept. Anatomy, Kyorin Univ.}, 2^{Tokyo Metropol. Inst. Gerontol.}, 3^{Yokohama city Univ.}, 4^{Univ. Georgia}, 5^{Johns Hopkins Univ.}): Changes of the O-GlcNAc modification of proteins accompanied with diabetic nephropathy. HURO 12th Annual World Congress, Yokohama, Sep. 14-18. 2013.

3. 堅田智久, 金井正美¹, 金井好克², 遠藤仁³, 櫻井裕之¹ (東京医科歯科大,²大阪大,³(株)ジェイファーマ): マウス初期発生におけるアミノ酸トランスポーターLAT1の発現解析. 第87回日本薬理学会年会, 仙台, 平成26年3月19日 -21日.
4. 福富俊之, 木村徹, 安西尚彦¹, 櫻井裕之¹(獨協医大): PDZ タンパク質 NHERF3 (PDZK1) は, 肝臓の酪酸輸送体 OAT7 を負に制御する. 第87回日本薬理学会年会, 仙台, 平成26年3月19日 -21日.
5. 秋元義弘¹, 三浦ゆり², 戸田年総³, 福富俊之, Hart Gerald W⁴, 遠藤玉夫², 川上速人¹ (1^{杏林大・医・解剖}, 2^{都健康長寿医療センター研・老化機構}, 3^{横浜市立大}, 4^{Johns Hopkins Univ. Sch. Med.}): 糖尿病性腎症に伴うタンパク質への糖修飾異常の解析. 第118回日本解剖学会総会・全国学術集会, 高松, 平成26年3月28日 -30日.

論文

1. 木村徹, 上原一朗¹, 谷垣伸治¹, 岩下光利¹, 安西尚彦², 櫻井裕之¹ (1^{杏林大・医・産婦人科学}, 2^{獨協医大}): 妊娠時における母体・胎児間の尿酸代謝解析. 発達腎研究会誌 21:7-11, 2013.
2. Nakase I¹, Tanaka G, Futaki S¹ (1^{Kyoto Univ.}): Cell-penetrating peptides (CPPs) as a vector for the delivery of siRNAs into cells. *Molecular Biosystems* 9:855-61, 2013.
3. Sugisaki K¹, Hanawa T¹, Yonezawa H¹, Osaki T¹, Fukutomi T, Kawakami H², Yamamoto T³, Kamiya S¹ (1^{Dept. of Infectious Diseases, Kyorin Univ.}, 2^{Dept. of Anatomy, Kyorin Univ.}, 3^{Chiba Univ.}): Role of (p)ppGpp in biofilm formation and expression of filamentous structures in *Bordetella pertussis*. *Microbiology* 159:1379-89, 2013.
4. Kawaguchi Y¹, Tanaka G, Nakase I¹, Imanishi M¹, Chiba J², Hatanaka Y², Futaki S¹ (1^{Kyoto Univ.}, 2^{Univ. Toyama}): Identification of cellular proteins interacting with octaarginine (R8) cell-penetrating peptide by photocrosslinking. *Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters* 23:3738-40, 2013.
5. Minami T¹, Jiang S², Schadler K³, Suehiro J, Osawa T¹, Oike Y⁴, Miura M¹, Naito M², Kodama T¹, Ryeom S³ (1^{Univ. Tokyo}, 2^{Niigata Univ.}, 3^{Univ. Pennsylvania}, 4^{Kumamoto Univ.}): The Calcineurin-NFAT-Angiopoietin-2 Signaling Axis in Lung Endothelium Is Critical for the Establishment of Lung Metastases. *Cell Reports* 4:709-23, 2013.
6. Sakurai H: Urate transporters in the genomic era. *Current Opinion in Nephrology and Hypertension* 22:545-50, 2013.

7. Kimura T, Takahashi M, Yan K¹, Sakurai H (1^{Dept. of Pediatrics, Kyorin Univ.}): Expression of SLC2A9 isoforms in the kidney and their localization in polarized epithelial cells. *PLoS ONE* 9: e84996, 2014.

著書

1. 二木史朗, 田中弦, 中瀬生彦: 「膜透過ペプチド」, 応用が広がる DDS 人体環境から農業・家電まで, 寺田弘, 中川晋作, 辻孝三, 牧野公子, 絹田精鎮, 西野敦編集, 東京, エヌ・ティー・エス, 2013. p.135-139.

病理学教室

口演

1. 宍戸-原由紀子, 矢澤卓也, 菅間博, 内原俊記: 進行性多巣性白質脳症: グリア細胞の腫大核における細胞周期関連蛋白の発現と PML-NBs の形態変化. 第54回日本神経病理学会, 東京, 平成25年4月24-26日.
2. 大倉康男: 改訂された胃生検分類の病理診断 - 異型度診断から質的診断へ -. 岩手消化器病理セミナー, 盛岡, 平成25年4月27日.
3. 藤田直之, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄, 寺戸雄一: VEGF による腎細胞癌術後再発の予測. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌, 平成25年5月10日.
4. 大木亜津子, 阿部展次, 竹内弘久, 正木忠彦, 森俊幸, 海野みちる, 大倉康男, 杉山政則: 胃癌に対する内視鏡的全層切除術や LECS に向けた胃内洗浄液の検討 遊離癌細胞は検出されるのか? 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 京都, 平成25年5月10日.
5. 三浦みき, 齋藤大祐, 得津敬之, 平野和彦, 櫻庭彰人, 山田雄二, 林田真理, 小山元一, 徳永健吾, 大倉康男, 正木忠彦, 杉山政則, 高橋信一: 小腸転移を来たし, 消化管出血を繰り返した悪性胸膜中皮腫の1例. 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 京都, 平成25年5月11日.
6. 西ヶ谷順子, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利, 坂本憲彦, 小松京子, 望月眞: 子宮内膜細胞診にて扁平上皮癌成分のみを認めた類内膜腺癌の1例. 第52回日本臨床細胞学会総会 春期大会, 東京, 平成25年5月31日 -6月2日
7. 清水麗子, 武井秀史, 橘啓盛, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 長島鎮, 近藤晴彦, 呉屋朝幸, 藤原正親, 矢澤卓也, 菅間博: 肺毛細血管腫の2切除例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 平成25年6月1日.
8. 大倉康男: 病理検体の検体処理について. 第16回関東消化器内視鏡技師会レベルアップ講習会, 平成25年6月2日
9. 小嶋基寛, 島崎英幸, 鹿毛政義, 秋葉純, 岩屋啓一, 大倉康男, 堀口慎一郎, 庄盛浩平, 九嶋亮治, 味岡洋一, 野村尚吾, 落合淳志: Consensus development method を用いた脈管侵襲病理判定基準

- 作成の試み 大腸癌研究会プロジェクトより. 第102回日本病理学会総会, 札幌, 平成25年6月6-8日.
10. 大久保陽一郎, 根本哲生, 栃木直文, 石渡誉郎, 笹井大督, 下平佳代子, 山本慶郎, 長谷川千花子, 密田亜希, 若山恵, 青山肇, 大倉康男, 桂奏, 藤井丈士, 西上隆之, 横瀬智之, 渋谷和俊: 多施設共同研究による gangliocytic paraganglioma の生物学的特性の解明. 第102回日本病理学会総会, 札幌, 平成25年6月6-8日.
 11. 菅間博: WHO 分類の浸潤性乳癌 NST と乳癌学会分類の浸潤性乳管癌の相違点. 第102回日本病理学会総会, 札幌, 平成25年6月6-8日.
 12. 寺戸雄一, 有益優, 宍戸 - 原由紀子, 住石歩, 菅間博: 間期細胞の核内の DNA 分布の超解像顕微鏡による解析. 第102回日本病理学会総会, 札幌, 平成25年6月6-8日.
 13. 下山田博明, 小島薫子, 佐野加津子, 住石歩, 齋藤督芸, 山田明, 菅間博: 超解像度顕微鏡を用いた膜性腎症の解析. 第102回日本病理学会総会, 札幌, 平成25年6月6-8日.
 14. 藤原正親, 矢澤卓也, 遠藤哲哉, 下山田博明, 石井順, 榮田昌史, 有益優, 大森嘉彦, 氣賀沢秀明, 平野和彦, 寺戸雄一, 宍戸 - 原由紀子, 望月眞, 大倉康男, 菅間博: 肺神経内分泌腫瘍における REST 発現の免疫組織化学的検討. 第102回日本病理学会総会, 札幌, 平成25年6月6-8日.
 15. 岡田春香, 寺戸雄一, 藤原正親, 望月眞, 石澤貢, 菅間博: 子宮 Perivascular epithelioid cell tumor(PEComa) の1例. 第102回日本病理学会総会, 札幌, 平成25年6月6-8日.
 16. 平野和彦, 下山田博明, 矢澤卓也, 山田和昭, 菅間博: Solitary fibrous tumor 様成分が殆どを占めた後腹膜脱分化脂肪肉腫の2例. 第102回日本病理学会総会, 札幌, 平成25年6月6-8日.
 17. 小島薫子, 下山田博明, 近藤凡子, 住石歩, 海野みちる, 山田明, 菅間博: 腎生検への蛍光二重染色ならびに超解像度顕微鏡解析の応用. 第102回日本病理学会総会, 札幌, 平成25年6月6-8日.
 18. 山田和昭, 平野和彦: いわゆる "カテコールアミン心筋症" が原因と考えられた心筋の広汎な石灰化のみられた1症例. 第102回日本病理学会総会, 札幌, 平成25年6月6-8日.
 19. 遠藤哲哉, 石井順, 榮田昌史, 藤原正親, 宍戸 - 原由紀子, 下山田博明, 平野和彦, 寺戸雄一, 菅間博, 矢澤卓也: 肺神経内分泌腫瘍における BRN2, ASCL1, TTF1 の発現性の検討. 第102回日本病理学会総会, 札幌, 平成25年6月6-8日.
 20. 石井順, 佐藤華子, 榮田昌史, 宍戸 - 原由紀子, 平松千恵, 菅間博, 下山田博明, 藤原正親, 遠藤哲哉, 青木一郎, 矢澤卓也: POU 型転写因子 BRN2 は肺小細胞癌細胞の神経 / 神経内分泌形発現および増殖活性に関与する. 第102回日本病理学会総会, 札幌, 平成25年6月6-8日.
 21. 齊藤しおり, 田川祐未, 對馬可葉, 矢澤卓也, 菅間博: Cytokeratin7, CEA 発現性から見た肺神経内分泌腫瘍群の不均一性の検討. 第102回日本病理学会総会, 札幌, 平成25年6月6-8日.
 22. 榮田昌史, 佐藤華子, 石井順, 菅間博, 原由紀子, 平松千恵, 下山田博明, 藤原正親, 遠藤哲哉, 矢澤卓也: 肺小細胞癌における TTF-1 発現は POU ドメイン転写因子 BRN2 により直接的に制御されている. 第102回日本病理学会総会, 札幌, 平成25年6月6-8日.
 23. 平田佳史, 河内利賢, 清水麗子, 橘啓盛, 荻田真, 中里陽子, 長島鎮, 武井秀史, 藤原正親, 矢澤卓也, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 複数の腫瘍の既往があり, 術前診断に苦慮した多発肺病変の1例. 第167回日本肺癌学会関東支部会, 川崎, 平成25年6月6-8日.
 24. 宍戸 - 原由紀子: 学会発表 (国内ワークショップ): 基礎と臨床の架け橋となる病理学を目指して. 第102回日本病理学会総会, 北海道, 平成25年6月6-8日.
 25. 頼元雅慧, 此田奈央, 宍戸 - 原由紀子, 永根基雄, 矢澤卓也, 菅間博: JC ウィルスはヒト脳腫瘍を発生させるか? ~脳腫瘍組織におけるウィルス再活性化の可能性~. 第102回日本病理学会総会, 札幌, 平成25年6月6-8日.
 26. 大倉康男: 内視鏡医に必要な消化管病理の知識. 日本消化管内視鏡学会関東セミナー, 東京, 平成25年7月21日.
 27. 氣賀沢秀明, 田中康隆, 石田学, 望月眞, 矢澤卓也: 急激な経過を呈した間質性肺炎の1剖検例. 第43回呼吸器病理研究会. 東京, 平成25年7月20日.
 28. 土屋充輝, 本谷啓太, 林真弘, 吉山晶, 森井健司, 平野和彦, 似鳥俊明: 左大腿に発生した骨外 Ewing 肉腫 / PNET の一例. 第49回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 名古屋, 平成25年10月12-14日.
 29. 大木亜津子, 阿部展次, 竹内弘久, 正木忠彦, 森俊幸, 海野みちる, 大倉康男, 杉山政則: 胃癌に対する内視鏡的全層切除術や LECS に向けた胃内洗浄液の検討~遊離癌細胞は検出されるのか?~. 第6回 LECS 研究会, 神戸, 平成24年10月12日.
 30. 李政勲, 原由紀子, 鈴木香, 清水早紀, 海野みちる, 塩川芳昭, 永根基雄: 原発性中枢神経系悪性リンパ腫の予後規定因子の検討. 第72回日本脳神経学会学術総会, 横浜, 平成25年10月18日.
 31. 村上華奈子, 齋藤督芸, 駒形嘉紀, 吉原堅, 要伸也, 有村義宏, 山田明, 中元康雄, 石田学, 檜垣学, 滝澤始, 河内利賢, 呉屋朝幸, 藤原正親, 矢澤卓也, 菅間博: 肺生検により確定診断に至った MPO-ANCA 陽性多発血管炎性肉芽腫症 (GPA) の1例. 第18回血管病理研究会, 札幌, 平成25年10月19日.
 32. 堀田綾子, 倉田厚, 下山田博明, 菅間博, 齋藤生朗, 黒田雅彦: 剖検症例の冠動脈を用いた肥厚内膜平滑筋細胞の免疫組織化学的検討. 第18回血管病理研究会, 札幌, 平成25年10月19日.
 33. 大塚弘毅, 大西宏明, 小倉航, 岸野智則, 松島早月, 横山琢磨, 橘啓盛, 藤原正親, 大倉康男, 渡邊卓: ALK FISH 検査におけるプレアナリティカルな注意

- 点. 第60回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 平成25年10月31日-11月1日.
34. 川野詳子, 岸野智則, 須藤恵美, 浦田毅, 大藤弥穂, 大西宏明, 大塚弘毅, 望月眞, 關里和, 尾股佑, 塚田幾太郎, 西川かおり, 森秀明, 高橋信一, 杉山政則, 渡邊卓: 膵内分泌腫瘍との鑑別が困難であった限局性慢性膵炎の1例 超音波画像所見の検討. 第60回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 平成25年10月31日-11月1日.
 35. 須藤恵美, 岸野智則, 川野詳子, 佐原條代, 大藤弥穂, 大塚弘毅, 平野和彦, 吉敷智和, 横山 政明, 森井健司, 大西宏明, 渡邊卓: 巨大な後腹膜神経鞘腫の1例 - 超音波画像所見の考察 -. 第60回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 平成25年10月31日-11月3日.
 36. 平田佳史, 河内利賢, 相原健一, 清水麗子, 橘啓盛, 荻田真, 中里陽子, 長島 鎮, 武井秀史, 望月眞, 矢澤卓也, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 出血による嚢胞の切迫破裂を来した, 横隔膜発生気管支原生嚢胞の1例. 第163回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 平成25年11月2日.
 37. 若林隼人, 武井秀史, 平田佳史, 相原健一, 清水麗子, 橘啓盛, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 長島鎮, 近藤晴彦, 呉屋朝幸, 藤原正親, 矢澤卓也: 右楔状下葉切除を行った定型カルチノイドの1例. 第163回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 平成25年11月2日.
 38. 佐原條代, 岸野智則, 須藤恵美, 川野詳子, 大藤弥穂, 大塚弘毅, 寺戸雄一, 多武保光宏, 奴田原紀久雄, 大西宏明, 渡邊卓: 腎オンコサイトーマの2例その超音波画像からの考察 (第2報). 第60回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 平成25年11月2日.
 39. 西ヶ谷順子, 清水英里子, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利, 坂本憲彦, 加藤拓, 寺戸雄一, 望月眞, 大倉康男: 当院における AGC 症例の検討. 第52回日本臨床細胞学会秋期大会, 大阪, 平成25年11月2-3日.
 40. 加藤拓, 坂本憲彦, 水谷奈津子, 市川美雄, 鈴木瞳, 稲嶺圭祐, 海野みちる, 住石歩, 近藤凡子, 藤原正親, 望月眞, 大倉康男: 細胞診標本における唾液腺腫瘍の腫瘍性筋上皮細胞と間質成分の出現形態についての検討. 第52回日本臨床細胞学会秋季大会, 大阪, 平成25年11月2-3日.
 41. 清水英里子, 百村麻衣, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 平野和彦, 望月眞, 寺戸雄一, 坂本憲彦, 小林陽一, 岩下光利: 子宮頸部上皮内癌の円錐切除後経過観察中に発見された最小偏倚型粘液性腺癌 (MDA) の一例 (会議録). 第52回日本臨床細胞学会秋期大会, 大阪, 平成25年11月2-3日.
 42. 我妻美由紀, 大野浩, 指田みゆき, 平野和彦, 山田和昭: 陰嚢水に出現した精巣鞘膜中皮腫の一例. 第52回日本臨床細胞学会秋期大会, 大阪, 平成25年11月2-3日.
 43. 望月眞: Plasmablastic lymphoma. 第24回多摩悪性リンパ腫研究会. 立川, 平成25年11月8日.
 44. 山下紗季, 大畑徹也, 市村正一, 海田賢彦, 山口芳裕, 布川雅雄, 菅間博: 止血に難渋した Fibromuscular dysplasia に伴うコンパートメント症候群の1例. 第42回杏林医学会総会, 東京, 平成25年11月16日.
 45. 矢澤卓也: 小細胞肺癌の細胞形質を制御する転写因子の機能解析から見えてくるもの. 第59回日本病理学会秋期特別総会, 甲府, 平成25年11月21-22日.
 46. 藤原正親, 矢澤卓也, 宍戸 - 原由紀子, 中里陽子, 近藤晴彦, 菅間博: 乳頭癌の部分成分として発生し肺転移を来した甲状腺粘表皮癌の1例. 第59回日本病理学会秋期特別総会, 甲府, 平成25年11月21-22日.
 47. 田口怜, 河内利賢, 平田佳史, 相原健一, 清水麗子, 橘啓盛, 荻田真, 田中良太, 中里陽子, 武井秀史, 長島鎮, 近藤晴彦, 呉屋朝幸, 藤原正親, 矢澤卓也: ゲフィチニブを用いた術前導入療法後, 右下葉切除を施行した肺癌の一例. 第75回日本臨床外科学会総会, 名古屋, 平成25年11月21-23日.
 48. 大木亜津子, 阿部展次, 竹内弘久, 海野みちる, 大倉康, 杉山政則: 胃癌に対する内視鏡的全層切除術や LECS に向けた胃内洗浄細胞診の検討. 第26回内視鏡外科学会, 福岡, 平成25年11月28日.
 49. 磯部貴布, 横山琢磨, 中島明, 小田未来, 肥留川一郎, 小川ゆかり, 高田佐織, 石井晴之, 和田裕雄, 中里陽子, 武井秀史, 藤原正親, 矢澤卓也, 滝澤始, 後藤元: Tree-in-bud pattern を呈し, 術前診断に苦慮した肺扁平上皮癌の1例. 第168回日本肺癌学会関東支部会, 東京, 平成25年12月7日.
 50. 清水麗子, 武井秀史, 平田佳史, 相原健一, 橘啓盛, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 長島鎮, 皿谷健, 滝澤始, 藤原正親, 矢澤卓也, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 局所麻酔下胸腔鏡にて確定診断が得られた悪性リンパ腫の1例. 第147回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 東京, 平成25年12月7日.
 51. 李政勲, 原由紀子, 鈴木香, 清水早紀, 海野みちる, 塩川芳昭, 永根基雄: 原発性中枢神経系悪性リンパ腫の予後規定因子の検討. 第31回日本脳腫瘍学会学術総会, 宮崎, 平成25年12月8日.
 52. 大倉康男: 上部消化管の病理と画像. 第13回上部消化管検査認定講習会, さいたま市, 平成26年1月21日.
 53. 大倉康男 (特別講演): 胃癌の病理 (基礎). 日本消化器がん検診学会関東甲信越支部放射線部会第46回学術集会, 東京, 平成26年2月15日.
 54. 清水麗子, 武井秀史, 平田佳史, 橘啓盛, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 長島鎮, 寺戸雄一, 望月眞, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: PET-CT で異常集積を認めた縦隔 Castleman 病の1例. 第164回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 平成26年3月1日.
 55. 宍戸 - 原由紀子: 進行性多巣性白質脳症 ~神経ウイルス学から神経病理学まで~愛知医科大学加齢医科学研究所セミナー, 名古屋, 平成26年3月7日.
 56. Shishido-Hara Y, Uchihara T, Yazawa T, Kamma H.: JC virus intranuclear inclusions associated with promyelocytic leukemia nuclear bodies. The New

York Academy of Sciences Progressive Multifocal Leukoencephalopathy Consortium. USA, June 19 – 20, 2013.

論文

- 秋山貴洋, 高橋均, 榊原淳太, 武藤高明, 藤原正親, 宮崎勝: 直腸癌手術時に発見された胃癌術後6年目の小腸転移の1例. 日臨外会誌 74:3321-3328, 2013.
- 横山琢磨, 高田佐織, 大塚弘毅, 藤原正親, 滝澤始, 後藤元: ALK immunohistochemistry (IHC) 陽性, EML4-ALK fluorescence in situ hybridization (FISH) 判定不能の肺腺癌に対して crizotinib が奏効した1症例. 肺癌53:893-898, 2013.
- 菅間博: 小児甲状腺腺癌. 病理と臨床31(1):25-30, 2013.
- 岡田春香, 菅間博: 乳腺腫瘍 up to date:WHO 分類改訂の要点 I 【各論: 浸潤癌特殊型】. 病理と臨床 31(9):76-979, 2013.
- 菅間博: 小児甲状腺癌の病理組織学的特徴, 特にびまん性硬化型乳頭癌に着目して. 内分泌甲状腺外科学会誌30(4):281-286, 2013.
- 高橋道央, 平野和彦, 田中秀行, 牛尾浩樹, 小松明男, 井本滋, 菅間博: 顆粒細胞腫の組織発生源および腫瘍形態形成. 乳癌基礎研究21:1-4, 2013.
- 大倉康男: 過誤腫性大腸ポリープ 病理診断の立場から. 胃と腸48: 1129-1139, 2013.
- 大倉康男: 胃癌の組織型と特徴的な転移像. 胃がん perspective 6: 180-185, 2013.
- 大倉康男, 中島寛隆, 五十嵐誠治: 食道胃接合部癌の診断と治療 病理診断. 消化器外科36: 1579-1587, 2013.
- 大倉康男: 食道上皮内腫瘍の取り扱い. 日本消化器病学会雑誌110: 1738-1744, 2013.
- 大倉康男: 食道上皮内腫瘍病変の病理診断. 病理と臨床31: 1165-1171, 2013.
- 楠原光謹, 土岐真朗, 落合一成, 太田博崇, 神保陽子, 大野亜希子, 倉田勇, 田部井弘一, 畑英行, 蓮江智彦, 平野和彦, 林田真理, 徳永健吾, 山口康晴, 大倉康男, 高橋信一: 特発性食道粘膜下血腫が原因と考えられた食道粘膜剥離症の1例. Progress of Digestive Endoscopy(1348-9844)83巻1号 Page96-97, 2013.
- 中島寛隆, 大倉康男: 【最新胃癌学 - 基礎と臨床の最新研究動向 -】胃癌の検査・診断 胃癌の病理検査・診断 内視鏡切除標本の取り扱い方 正確な病理診断のために. 日本臨床72増刊1: 307-309, 2014.
- 大木亜津子, 阿部展次, 大倉康男, 杉山政則: 【最新胃癌学 - 基礎と臨床の最新研究動向 -】胃癌の予後因子 顕微鏡的胃周囲間膜内癌細胞. 日本臨床72増刊1: 203-209, 2014.
- 穴戸-原由紀子: New York Academy of Science Progressive Multifocal Leukoencephalopathy に参加して - 病理と臨床 32(2): 209, 2014.
- 多田真奈美, 伊坂泰嗣, 伊東大樹, 伊美建太郎, 宮本快介, 矢澤卓也, 菅間博, 井本滋. 乳腺原発表在性血管粘液腫の1例. 日本臨床外科学会雑誌 74:2013, 2013.
- Ide H, Terado Y, Sakamaki K, Inoue M, Nakajima A, Lu Y, Hisasue S, Yamaguchi R, Muto S, Horie S: Serum level of follicle-stimulating hormone is associated with extraprostatic extension of prostate cancer. Prostate Int. 1:109-12, 2013.
- Kurata A, Kawashima S, Terado Y, Komagata Y, Kaname S, Okano H, Nishiyama K, Hirano K, Kamma H, Arimura Y, Yamada A: AP-VAS 2012 case report: a case of systemic MPO-ANCA-associated vasculitis that demonstrated brain infarction and immunohistochemically MPO-positive capillaries CEN Case Reports 2: 148-53, 2013.
- Sakaeda M, Sato H, Ishii J, Miyata C, Kamma H, Shishido-Hara Y, Shimoyamada H, Fujiwara M, Endo T, Tanaka R, Kondo H, Goya T, Aoki I, Yazawa T (corresponding author). Neural lineage-specific homeoprotein BRN2 is directly involved in TTF1 expression in small-cell lung cancer. Lab Invest 93: 408-421, 2013.
- Kojima M, Shimazaki H, Iwaya K, Kage M, Akiba J, Ohkura Y, Horiguchi S, Shomori K, Kushima R, Ajioka Y, Nomura S, Ochiai A: Pathological diagnostic criterion of blood and lymphatic vessel invasion in colorectal cancer: a framework for developing an objective pathological diagnostic system using the Delphi method, from the Pathology Working Group of the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum. J Clin Pathol. 66:551-558 2013.
- Ichikawa K, Fujimori T, Moriya T, Ochiai A, Yoshinaga S, Kushima R, Nagahama R, Ohkura Y, Tanaka S, Ajioka Y, Hirata I, Tanaka M, Hoshihara Y, Kinoshita Y, Sasano H, Iwashita A, Tomita S, Hirota S, Yao T, Fujii S, Matsuda T, Ueno H, Ishikawa Y, Takubo K, Fukushima N, Sugai T, Iwafuchi M, Imura J, Manabe T, Fukayama M: Digestive disease management in Japan: a report on The 6th Diagnostic Pathology Summer Fest in 2012. Digestion. 88: 153-160, 2013.
- Ishii J, Sato H, Sakaeda M, Shishido-Hara Y, Hiramatsu C, Kamma H, Shimoyamada H, Fujiwara M, Endo T, Aoki I, Yazawa T (corresponding author). POU domain transcription factor BRN2 is crucial for expression of ASCL1, ND1, and neuroendocrine marker molecules and cell growth in small cell lung cancer. Pathol Int 63: 158-168, 2013.
- Okamoto K, Fujimori T, Yamaguchi T, Ichikawa K, Tomita S, Sugai T, Imura J, Ohkura Y, Yao T, Fujii S, Kusaka T, Sekikawa A, Fukui H, Chiba T, Kato H, Mitomi H: Overexpression of regenerating gene I a appears to reflect aberration of crypt cell compartmentalization in sessile serrated adenoma/polyps of the colon. Diagn Pathol. 8:187, 2013.
- Okamoto Y, Fujimori T, Ohkura Y, Sugai T, Arai

- T, Watanabe G, Wada R, Ueno H, Togashi K, Yao T, Kushima R, Mitomi H, Tomita S, Igarashi Y, Ichikawa K: Histological assessment of intra- and inter-institutional reliabilities in detection of desmoplastic reaction in biopsy specimens of early colorectal carcinomas. *Pathol Int.* 63:539-545, 2013.
25. Saraya T, Fujino T, Suzuki A, Shimura C, Kawachi R, Takei H, Ishii H, Fujiwara M, Oka T, Fujioka Y, Takizawa H, Goto H: Hodgkin lymphoma with rapidly destructive, cavity-forming lung disease. *J Clin Oncol* 31:e211-214, 2013.
 26. Oda M, Saraya T, Wakayama M, Shibuya K, Ogawa Y, Inui T, Yokoyama E, Inoue M, Shimoyamada H, Fujiwara M, Ota T, Takizawa H, Goto H: Calcium oxalate crystal deposition in a patient with Aspergilloma due to *Aspergillus niger*. *J Thorac Dis* 5:E174-178, 2013.
 27. Saraya T, Takata S, Fujiwara M, Takei H: Cellular non-specific interstitial pneumonia masquerading as congestive heart failure. *BMJ Case Rep* Sep 3, 2013.
 28. Nakajima A, Saraya T, Mori T, Ikeda R, Sugita T, Watanabe T, Fujiwara M, Takizawa H, Goto H: Familial summer-type hypersensitivity pneumonitis in Japan: two case reports and review of the literature. *BMC Res Notes* 6:371, 2013.
 29. Kawamura A, Kigasawa H, Kamma H: Autopsy findings of Amplatz septal occluder at 5 months after closure of atrial septal defect: how long does it take to be endothelialized? *J Invasive Cardiol.* 25:E167-8, 2013.
 30. H Tazaki E, Shishido-Hara Y, Mizutani N, Nomura S, Isaka H, Ito H, Imi K, Imoto S, Kamma H: Histopathological and clonal study of combined lobular and ductal carcinoma of the breast. *Pathol Int.* 63:297-304, 2013.
 31. Meretoja TJ, Audisio RA, Heikkilä PS, Bori R, Sejben I, Regitnig P, Luschin-Ebengreuth G, Zgajnar J, Perhavec A, Gazic B, Lázár G, Takács T, Kővári B, Saidan ZA, Nadeem RM, Castellano I, Sapino A, Bianchi S, Vezzosi V, Barranger E, Lousquy R, Arisio R, Foschini MP, Imoto S, Kamma H, Tvedskov TF, Jensen MB, Cserni G, Leidenius MH: International multicenter tool to predict the risk of four or more tumor-positive axillary lymph nodes in breast cancer patients with sentinel node macrometastases. *Breast Cancer Res Treat* 138:817-27, 2013.
 32. Okada H, Terado Y, Fujiwara M, Mochizuki M, Ishizawa M, Kamma H: Perivascular epithelioid cell tumor of the uterus. *Pathol Int.* 64(3):151-3, 2014.
 33. Kojima M, Shimazaki H, Iwaya K, Kage M, Akiba J, Ohkura Y, Horiguchi S, Shomori K, Kushima R, Ajioka Y, Nomura S, Ochiai A: Practical utility and objectivity: does evaluation of peritoneal elastic lamina invasion in colorectal cancer overcome these contrary problems? *Am J Surg Pathol.* 38:144-145, 2014.
 34. Katano H, Hishima T, Mochizuki M, Kodama Y, Oyaizu N, Ota Y, Mine S, Igari T, Ajisawa A, Teruya K, Tanuma J, Kikuchi Y, Uehira T, Shirasaka T, Koibuchi T, Iwamoto A, Oka S, Hasegawa H, Okada S, Yasuoka A.: The prevalence of opportunistic infections and malignancies in autopsied patients with human immunodeficiency virus infection in Japan. *BMC Infect Dis.* 29;14(1):229, 2014.
 35. Ota Y, Hishima T, Mochizuki M, Kodama Y, Moritani S, Oyaizu N, Mine S, Ajisawa A, Tanuma J, Uehira T, Hagiwara S, Yajima K, Koizumi Y, Shirasaka T, Kojima Y, Nagai H, Yokomaku Y, Shiozawa Y, Koibuchi T, Iwamoto A, Oka S, Hasegawa H, Okada S, Katano H.: Classification of AIDS-related lymphoma cases between 1987 and 2012 in Japan based on the WHO classification of lymphomas, fourth edition. *Cancer Med.* 3(1):143-53. 2014.
 36. Matsunaga A, Hishima T, Tanaka N, Yamasaki M, Yoshida L, Mochizuki M, Tanuma J, Oka S, Ishizaka Y, Shimura M, Hagiwara S.: DNA methylation profiling can classify HIV-associated lymphomas. *AIDS.* 20-28(4):503-10, 2014.
 37. Iwasawa T, Ogura T, Sakai F, Kanauchi T, Komagata T, Baba T, Gotoh T, Morita S, Yazawa T, Inoue T. CT analysis of the effect of pirfenidone in patients with idiopathic pulmonary fibrosis. *Eur J Radiol* 24: 32-38, 2014.
 38. Shishido-Hara Y, Yazawa T, Nagane M, Higuchi K, Abe-Suzuki S, Kurata M, Kitagawa M, Kamma H, Uchihara T. JC virus inclusions in progressive multifocal leukoencephalopathy: scaffolding promyelocytic leukemia nuclear bodies grow with cell cycle transition through an S-to-G2-like state in enlarging oligodendrocyte nuclei. *J Neuropathol Exp Neurol* 73: 442-453, 2014.
 39. Tanaka K, Tanigaki S, Matsushima M, Miyazaki N, Hashimoto R, Izawa T, Sakai K, Yazawa T, Iwashita M. Prenatal diagnosis of umbilical artery thrombosis. *Fetal Diagn Ther* 35(2): 148-150, 2014.
 40. Koji H, Yazawa T, Nakabayashi K, Fujioka Y, Kamma H, Yamada A. CD8-positive T-cell lymphoproliferative disorder associated with Epstein-Barr virus-infected B-cells in a rheumatoid arthritis patient under methotrexate treatment. *Mod Rheumatol*, Jan 3, 2014 (Epub ahead of print).
- 著書**
1. 大倉康男 (分担執筆) : 食道悪性腫瘍 扁平上皮癌病理. 浅香正博, 菅野健太郎, 千葉勉 (編) 消化器病学 基礎と臨床. 西村書店, 東京, 2013, p558-561.
 2. 大倉康男 (分担執筆) : 胃疾患の診断法 内視鏡検査 内視鏡下生検による組織診断. 胃外科・術後障害研究会 (編) 胃外科のすべて. メジカルビュー社, 東京, 2014, p.80-84.
- 特許等知的財産関係, 報告書**

1. 穴戸-原由紀子: 進行性多巣性白質脳症: 脳生検における正確な病理診断を目指して. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 (難治性疾患克服研究事業), プリオン病及び遅発性ウイルス感染に関する調査研究班, 平成23~25年度総合研究報告書, 厚生労働省 (刊行物)
2. 穴戸-原由紀子: 進行性多巣性白質脳症の病理診断: 炎症所見をどう評価するのか? 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 (難治性疾患克服研究事業), プリオン病及び遅発性ウイルス感染に関する調査研究班, 平成25年度 総括・分担研究報告書
3. 穴戸-原由紀子 (作成担当・分担): 進行性多巣性白質脳症 (Progressive Multifocal Leukoencephalopathy: PML) 診療ガイドライン2013. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 (難治性疾患克服研究事業), プリオン病及び遅発性ウイルス感染に関する調査研究班, 研究代表者 山田正仁

その他

1. 矢澤卓也: 平成25年度日本病理学会学術研究賞 (第59回日本病理学会秋期特別総会 A 演説)

感染症学教室
(微生物学)

口 演

1. Yonezawa H, Osaki T, Hanawa T, Kurata S, Kamiya S: Effects of biofilm Formation by *Helicobacter pylori* on antibiotics susceptibility. American Society for Microbiology 113th General Meeting, USA, May 18-21, 2013.
2. 米澤英雄, 神谷茂: *Helicobacter pylori* のバイオフィルム形成. 日本細菌学会第7回若手研究者のためのワークショップ「若手研究者によるバイオフィルム研究」, 東京, 平成25年6月2日.
3. 大崎敬子, 今野武津子¹, 奥田真珠美², 蔵田訓, 神谷茂 (¹札幌厚生病院, ²兵庫医大): 家族由来サンプル中の *Helicobacter pylori* 遺伝子の Multi Locus Sequence Typing 法による解析. 第87回日本感染症学会学術講演会・第61回日本化学療法学会総会 合同学会, 横浜, 平成25年6月5-6日.
4. 蔵田訓, 大崎敬子, 田口晴彦¹, 神谷茂 (¹杏林大・保健・免疫学): *Mycoplasma pneumoniae* 抗原感作が CD4⁺CD62L⁺T 細胞分化に及ぼす影響. 第87回日本感染症学会学術講演会・第61回日本化学療法学会総会 合同学会, 横浜, 平成25年6月5-6日.
5. Kamiya S, Yonezawa H, Osaki T, Sugisaki K, Hanawa T: Biofilm formation and bacterial pathogenesis in *Helicobacter pylori* and *Bordetella pertussis*. The 28th International Congress of Chemotherapy and Infection (Symposium), Yokohama, 5-8th June, 2013.
6. 和田薫子¹, 高橋志達¹, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, 米澤英雄, 岡健太郎¹, 田口晴彦², 稲松孝志³, 神谷茂 (¹ミヤリサン製薬株式会社, ²杏林大・保健・免疫学, ³長寿医療センター): 本邦における *Clostridium perfringens* の病原遺伝子保有状況. 第17回腸内細菌学会, 東京, 平成25年6月13-14日.
7. 北条史¹, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 山口博之², 神谷茂 (¹杏林大・医・実験動物, ²北大・院): 共培養系における原生動物と *Helicobacter pylori* の関係について. 第19回日本ヘリコバクター学会学術集会, 長崎, 2013年6月28-29日.
8. 大崎敬子, 今野武津子¹, 奥田真珠美², 上田純子³, 米澤英雄, 北条史⁴, 柳生聖子³, 林櫻松³, 福田能啓², 菊地正悟³, 神谷茂 (¹札幌厚生病院, ²兵庫医大, ³愛知医大, ⁴杏林大・医・実験動物): MLST による *Helicobacter pylori* の家族内感染の状況解析. 第19回日本ヘリコバクター学会学術集会, 長崎, 2013年6月28-29日.
9. 米澤英雄, Zaman Cynthia, 大崎敬子, 神谷茂: *Helicobacter pylori* 持続感染を調節する胃内細菌の解析. 第19回日本ヘリコバクター学会学術集会, 長崎, 2013年6月28-29日.
10. 花輪智子, 新庄克也¹, 米澤英雄, 神谷茂 (¹東京理科大): 黄色ブドウ球菌の Biofilm に対するリネゾリドの効果. 第4回 MRSA フォーラム, 東京, 平成25年7月13日.
11. 神谷茂: 肺炎マイコプラズマ感染症の基礎と臨床. マイコプラズマ感染症シンポジウム, 特別講演, 東京, 平成25年8月23日.
12. 神谷茂: プロバイオティクスの生体への作用と医学への応用. 第12回東海感染対策セミナー, 特別講演, 名古屋市, 平成25年9月4日.
13. Hanawa T, Sugisaki K, Yonezawa H, Kawakami H¹, Kamiya S (¹Anatomy, Kyorin University): Expression of virulence factors under nutrient-limited condition in *Bordetella pertussis*. 10th International Symposium on *Bordetella*, Ireland, September 8-11, 2013.
14. Yonezawa H, Osaki T, Kamiya S: Impact of biofilm formation by *Helicobacter pylori* on antibiotics susceptibility. *Campylobacter, Helicobacter, and Related Organisms*. CHRO conference, Scotland, September 15-19, 2013.
15. Osaki T, Konno M¹, Yonezawa H, Hojo F², Ueda J³, Okuda M⁴, Fukuda Y⁴, Kikuchi S³, Kamiya S (¹Sapporo Kosei General Hospital, ²Institute of Laboratory Animals, Kyorin University, ³Aichi Medical University, ⁴Hyogo College of Medicine): The analysis of intra-familial transmission using multilocus sequence typing of *Helicobacter pylori*. *Campylobacter, Helicobacter and Related Organisms*. CHRO conference, Scotland, September 15-19, 2013.
16. 神谷茂: ナノテクノロジーと感染対策~感染症から身を守るために~. Hospex Japan 2013, 講演会, 東京, 平成25年10月25日.
17. 中里仁美¹, 花輪智子, 福富俊之², 海保房夫¹, 神谷茂 (¹東京理科大, ²杏林大・医・薬理学): 百日咳菌

- の病原遺伝子発現に及ぼす栄養枯渇の影響. 第57回日本薬学会関東支部大会, 東京, 2013年10月26日.
18. 新庄克也¹, 花輪智子, 川上速人², 海保房夫¹, 神谷茂¹ (東京理科大, ²杏林大・医・解剖学): リネゾリドが黄色ブドウ球菌のバイオフィームに与える影響について. 第57回日本薬学会関東支部大会, 東京, 2013年10月26日.
 19. 小林治¹, 大崎敬子, 蔵田訓, 神谷茂¹ (杏林大・保健・看護学): 冬期に高熱を訴える成人を対象とした xTAG RVP FAST によるウイルス検出状況. 第62回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第60回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会, 東京, 平成25年10月30日 - 11月1日.
 20. 米澤英雄, 神谷茂: ヘリコバクター・ピロリのバイオフィーム形成が及ぼす抗菌薬抵抗性への影響. 第42回杏林医学会総会. 東京, 平成25年11月16日.
 21. 米澤英雄, 大崎敬子, 神谷茂: *Helicobacter pylori* のバイオフィーム形成. 第47回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会, 東京, 平成26年1月31日 - 2月1日.
 22. 北条史¹, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 山口博之², 神谷茂¹ (杏林大・医・実験動物, ²北大・院): Survival of *Helicobacter pylori* in co-culture with *Acanthamoeba castellanii*. 第47回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会, 東京, 平成26年1月31日 - 2月1日.
 23. 神谷茂: 腸内細菌叢 (フローラ) と免疫. 第29回日本環境感染学会総会・学術集会, 教育講演, 東京, 平成26年2月15日.
 24. Hojo F¹, Osaki T, Yonezawa H, Hanawa T, Kurata S, Yamaguchi H², Kamiya S¹ (Institute of Laboratory Animals, Kyorin University, ²Hokkaido University): Effect of *Acanthamoeba castellanii* on Survival of *Helicobacter pylori*. 第12回日韓国際微生物学シンポジウム, 東京, 2014年3月25日.
 25. 米澤英雄, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, 神谷茂: CsrA could play a central role for the regulation of gene expression in *Helicobacter pylori* biofilm. 第87回日本細菌学会総会, 東京, 2014年3月26 - 28日.
 26. 花輪智子, 米澤英雄, 大崎敬子, 蔵田訓, Zaman Cynthia, 北条史¹, 神谷茂¹ (杏林大・医・実験動物): グルタミン酸飢餓環境における百日咳菌 III 型分泌装置および線毛の発現調節. 第87回日本細菌学会総会, 東京, 2014年3月26 - 28日.
 27. Zaman Cynthia, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, 米澤英雄, 北条史¹, 神谷茂¹ (杏林大・医・実験動物): 家族由来ヘリコバクター・ピロリ下院株の動物感染性の比較. 第87回日本細菌学会総会, 東京, 2014年3月26-28日.
 28. 大崎敬子, 北条史¹, Zaman Cynthia, 米澤英雄, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂¹ (杏林大・医・実験動物): 鉄制限スナネズミにおけるヘリコバクター・ピロリ感染. 第87回日本細菌学会総会, 東京, 2014年3月26-28日.
 29. 北条史¹, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 山口博之², 神谷茂¹ (杏林大・医・実験動物, ²北大・院): *Helicobacter pylori* の自由生活性アメーバ共培養系における生存性の向上について. 第87回日本細菌学会総会, 東京, 2014年3月26-28日.
 30. 蔵田訓, 大崎敬子, 神谷茂, 櫻井一志¹, 柴森雅文¹, 中島貴子¹, 植松直也¹ (大塚製薬株式会社): Effect of rebamipide on indomethacin induced intestinal injury - role of intestinal microbiota インドメタシン誘導小腸潰瘍へのレバミピドの効果 - 腸内細菌叢との関連性. 第87回日本細菌学会総会, 東京, 平成26年3月26-28日
- ### 論文
1. Oka K¹, Osaki T, Hanawa T, Kurata S, Okazaki M², Manzoku T¹, Takahashi M¹, Tanaka M¹, Taguchi H³, Watanabe T⁴, Inamatsu T⁵, Kamiya S¹ (Miyarisan Pharmaceutical Co. Ltd., ²Department of Clinical Laboratories, Kyorin University Hospital, ³Department of Immunology, Kyorin University Faculty of Health Sciences, ⁴Institute of Laboratory Medicine, Kyorin University, ⁵Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital): Molecular and microbiological characterization of *Clostridium difficile* isolates from single, relapse, and reinfection cases. *J Clin Microbiol* 50(3):915-921, 2012.
 2. Kurai D¹, Nakagaki K², Wada H¹, Saraya T¹, Kamiya S, Fujioka Y³, Nakata K⁴, Takizawa H, Goto H¹ (Department of Respiratory Medicine, Kyorin University, ²Nippon Veterinary and Life Science University, ³Department of Pathology, Kyorin University School, ⁴Niigata University Medical and Dental Hospital): *Mycoplasma pneumoniae* extract induces an IL-17-associated inflammatory reaction in murine lung: Implication for mycoplasmal pneumonia. *Inflammation* 36(2):285-293, 2013.
 3. Osaki T, Okuda M¹, Ueda J², Konno M³, Yonezawa H, Hojo F⁴, Yagyū K², Lin Y², Fukuda Y¹, Kikuchi S², Kamiya S¹ (Hyogo College of Medicine, ²Aichi Medical University, ³Sapporo Kosei General Hospital, ⁴Institute of Laboratory Animals, Graduate School of Medicine, Kyorin University): Multi locus sequence typing for the analysis of intra-familial transmission of *Helicobacter pylori* by using fecal specimens. *J Med Microbiol.* 62(5):761-765, 2013.
 4. Okuda M¹, Kamiya S, Booka M¹, Kikuchi S², Osaki T, Hiwatani T¹, Maekawa K¹, Fukuda Y¹ (Hyogo College of Medicine, ²Aichi Medical University): Diagnostic accuracy of urine-based kits for detection of *Helicobacter pylori* antibody in children. *Pediatr Int.* 55(3):337-341, 2013.
 5. Hanawa T, Yonezawa H, Kawakami H¹, Kamiya S, Armstrong SK² (Department of Anatomy, Kyorin University, ²University of Minnesota Medical School): Role of *Bordetella pertussis* RseA in the cell envelope stress response and adenylate cyclase toxin release. *Pathog Dis* 69:7-20, 2013.

6. Yonezawa H, Osaki T, Hanawa T, Kurata S, Ochiai K¹, Kamiya S (¹Nihon University) : Impact of Helicobacter pylori biofilm formation on clarithromycin susceptibility and generation of resistance mutations. PLOS One. 8(9):1-9, 2013.
 7. Flahou B¹, Haesebrouch F¹, Smet A¹, Yonezawa H, Osaki T, Kamiya S (¹Ghent University) : Gastric and enterohepatic non-H. pylori helicobacters. Helicobacter 18(Suppl S1):66-72, 2013.
 8. Sugisaki K, Hanawa T, Yonezawa H, Osaki T, Fukutomi T¹, Kawakami H², Yamamoto T³, Kamiya S (¹Department of Pharmacology, Kyorin University, ² Department of Anatomy, Kyorin University, ³ Chiba University) : Role of (p)ppGpp in biofilm formation and expression of filamentous structures in Bordetella pertussis. Microbiology 159(7):1379-1389, 2013.
 9. Yasutake T, Wada H, Higaki M, Nakamura M, Honda K, Watanabe M, Ishii H, Kamiya S, Takizawa H, Goto H : Anacardic acid, a histone acetyltransferase inhibitor, modulates LPS-induced IL-8 expression in a human alveolar epithelial cell line A549. F1000Res 2 :78, 2013.
 10. Zaman C, Osaki T, Hanawa T, Yonezawa H, Kurata S, Kamiya S: Analysis for microbial ecology between Helicobacter pylori and gastric microbiota of Mongolian gerbil. J Med Microbiol 63:129-137, 2014.
 11. Aiso T, Kamiya S, Yonezawa H, Gamou S: Overexpression of an antisense RNA, ArrS, increases the acid resistance of Escherichia coli. Microbiology 160(5):954-961, 2014.
 12. Matsui H, Takahashi T, Yamagata-Murayama S, Uchiyama I, Yamaguchi K, Shigenobu S, Matsumoto T, Kawakubo M, Ota H, Osaki T, Kamiya S, Takahashi S, Nakamura S, Nakamura M: Development of a PCR method for the detection of Helicobacter suis in gastric biopsy specimens. Helicobacter 2014 (in press).
 13. 米澤英雄, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, 神谷茂 : Helicobacter pylori バイオフィルムにおける Efflux pump 遺伝子の発現亢進とクラリスロマイシン抵抗性の誘導. Bacterial Adherence & Biofilm 26:73-77, 2012.
 14. 神谷茂, 蔵田訓, 北条史¹, Zaman Cynthia, 大崎敬子 (¹杏林大・医・実験動物) : Clostridium difficile 感染症の疫学と病原性. 臨床腸内微生物学雑誌 15(1):39-43, 2013.
 15. 大崎敬子, 奥田真珠美¹, 菊地正悟², 今野武津子³, 神谷茂 (¹兵庫医科大, ²愛知医科大, ³札幌厚生病院) : Helicobacter pylori の家族内感染に関する multi locus sequence typing (MLST) 解析. Helicobacter Research 17(5):388-393, 2013.
 16. 神谷茂, 大崎敬子 : 図説 : Helicobacter pylori の病原因子. 小児科臨床 71(8):1318-1324, 2013.
 17. 神谷茂 : 特集 : Clostridium difficile 感染 (CDI) 対策 - 総説 Clostridium difficile 感染症の疫学. 日本外科感染症学会雑誌 10(6):743-749, 2013.
 18. 大島利夫^{1, 2}, 浅井さとみ¹, 大菅淳¹, 山本由香梨¹, 野宮沙織¹, 矢部みはる¹, 矢部普正¹, 加藤俊一¹, 鬼塚真仁¹, 安藤潔¹, 大崎敬子, 神谷茂, 宮地勇人¹ (¹東海大, ²杏林大・院) : 造血幹細胞移植患者における内因性細菌叢監視培養検査の臨床的意義. 無菌生物 43(2):91-96, 2013.
 19. 神谷茂 : マイコプラズマの微生物学的特徴 - 肺炎マイコプラズマを中心に -. 臨床とウイルス 41(5):259-265, 2013.
 20. 大崎敬子 : Helicobacter pylori 除菌診療クエスチョン&アドバイス. Helicobacter Research 18(1):82-85, 2014.
 21. 神谷茂 : Clostridium difficile の検査と診断. 日本医事新報 質疑応答 微生物学 Clostridium difficile の検査と診断 No.4652, 68-69, 2013.
 22. 花輪智子, 新庄克也, 中里仁美, 米澤英雄, 大崎敬子, 蔵田訓, シンシア・ザマン, 川上速人, 海保房夫, 神谷茂 : 黄色ブドウ球菌の形成するバイオフィルムに対するリネゾリドの影響. Bacterial Adherence & Biofilm 27 (1) :27-30, 2013.
 23. 今野武津子, 横田伸一, 高橋美智子, 藤原伸一, 大崎敬子, 神谷茂 : 日本人小児の最近のピロリ菌感染率と感染経路について. ヘリコバクター学会誌 15(2):68-74, 2014.
 24. 岡健太郎, 神谷茂 : 腸内フローラと健康・疾病とのかわり. 腸管感染症 臨床と微生物 41(2):137-141, 2014.
- 著書**
1. 米澤英雄, 神谷茂 : 第5章 第3節 口腔微生物. 微生物の簡易迅速検査法. 五十君静信, 江崎孝行, 高鳥浩介, 土戸哲明監修. 東京, テクノシステム, 2013. p . 325-336.
 2. 神谷茂 : 第3版 (原書8版) ブラック微生物学. 神谷茂, 高橋秀実, 林英生, 俣野哲朗, 監訳. 東京, 丸善出版, 2014.
 3. 神谷茂 : 第3版 (原書8版) 顕微鏡と染色. ブラック微生物学. 神谷茂, 高橋秀実, 林英生, 俣野哲朗監訳. 東京, 丸善出版, 2014. p50-p73.
- その他**
1. 神谷茂 : 第27回 Bacterial Adherence & Biofilm 学術集会主催 東京, 平成25年7月12日.
 2. Kamiya S, Yonezawa H, Osaki T, Sugisaki K, Hanawa T: Biofilm formation and bacterial pathogenesis in Helicobacter pylori and Bordetella pertussis. Intn J Antimicrob Agents 42(Suppl.2):S15, 2013.
 3. 神谷茂 : 小児の Helicobacter pylori 感染源の検索. 厚生労働科学研究費補助金 がん臨床研究事業「ピロリ菌除菌による胃癌予防の経済効果に関する研究」平成22-24年度総合研究報告書 (研究代表者, 加藤元嗣) p21-27, 平成25年5月.
 4. 神谷茂 : 第17回腸内細菌学会を終えて. 腸内細菌学雑誌27(3):149-160, 2013.
 5. 神谷茂 : ナノ分子密着抗菌剤の病原細菌への効果と

持続性を検討. その最新データを発表 日経ヘルスケア No.289 p86-87, 2013, 11月号.

6. 神谷茂: CDI (Clostridium difficile infection) ドクターサロン 57(11):813-816, 2013.
7. 成田光生, Bebear Cecile, 石田直, 岩田敏, 大石智洋, 尾内一信, 神谷茂, 宮下修行: 耐性菌を含めたマイコプラズマ肺炎の抗菌薬治療に関するコンセンサスの確立. Pharm Medica 32(2):118-123, 2014.
8. 神谷茂: 腸内フローラと健康・疾病とのかかわり. はじめに 臨床と微生物 41(2):105, 2014.

感染症学教室 (寄生虫学)

口 演

1. 井上信一, 新倉保, 井上愛美, 峯尾松一郎, 小林富美恵: マラリア原虫感染防御に働く脾臓 $\gamma\delta$ T 細胞のレパトア解析. 第24回日本生体防御学会学術総会, 熊本, 平成25年7月10-12日.
2. 井上信一 (平成25年度生体防御学会奨励賞受賞講演): マラリア原虫感染防御における $\gamma\delta$ T 細胞の役割の解明. 第24回日本生体防御学会学術総会, 熊本, 平成25年7月10-12日.
3. Shin-Ichi Inoue, Mamoru Niikura, Megumi Inoue, Shoichiro Mineo, Fumie Kobayashi: $V\gamma 1^+$ cells are the major subset of $\gamma\delta$ T cells for protection against *Plasmodium berghei* XAT. Forum Cheju 16, Seoul, August 30th-September 1st, 2013.
4. Mamoru Niikura, Shin-Ichi Inoue, Shoichiro Mineo, Megumi Inoue, Fumie Kobayashi: Roles of NT1 and PNP in the blood stages of *Plasmodium berghei* ANKA. Forum Cheju 16, Seoul, August 30th-September 1st, 2013.
5. Megumi Inoue, Jianxia Tang, Mana Miyakoda, Osamu Kaneko, Katsuyuki Yui, Richard Culleton: The specificity of immunity against the blood stages and pre-erythrocytic stages of *Plasmodium yoelii*. Forum Cheju 16, Seoul, August 30th-September 1st, 2013.
6. 井上信一, 新倉保, 井上愛美, 峯尾松一郎, 小林富美恵: *Plasmodium berghei* XAT 感染における $\gamma\delta$ T 細胞サブセットの機能解析. 第11回分子寄生虫・マラリア研究フォーラム, 長崎, 平成25年10月2-3日.
7. 峯尾松一郎, 新倉保, 井上信一, 井上愛美, 黒田雅彦¹, 小林富美恵 (¹東京医科大学分子病理学講座): 妊娠マラリアの病態に関わる新たな宿主因子の探索. Development of liver dysfunction in immunized pregnant mice challenged with lethal malaria parasites. 第54回日本熱帯医学会大会, 長崎, 平成25年10月4-5日.
8. Hussein Abkallo¹, 井上愛美^{1,2}, Hunt Paul³, 三高隼人¹, 金子修², Illingworth Chris⁴, Martinelli Axel⁴, Shwen Ho Y⁵, Pain Arnab⁵, Culleton Richard¹ (¹長崎大学熱帯医学研究所共同研究室マラリアユニット, ²長崎大学熱帯医学研究所原虫学分野, ³エジンバラ大学感染症研究所, ⁴ウェルカムトラストサンガー研究所 ゲノムキャンパス, ⁵キングアブドラ工科大学 化学生命科学工学部コンピュータ生物科学研究所): Quantitative Whole Genome Resequencing and Genetic Linkage Analyses To Identify Genes Controlling Virulence in Malaria Parasites. 第54回日本熱帯医学会大会, 長崎, 平成25年10月4-5日.
9. 石井明¹, 柴田清², 岩永史朗³, 油田正夫³, 新倉保, 小林富美恵 (¹浜松医科大学感染症学, ²浜松医科大学実験実習機器センター, ³三重大学医動物・感染医学): ネズミマラリア原虫2種混合感染での感染動態. 第73回日本寄生虫学会東日本支部大会, 東京, 平成25年10月12日.
10. 井上信一, 新倉保, 大西宏明, 渡邊卓, 小林富美恵, (平成25年度杏林大学医学部共同研究プロジェクト中間報告): マラリア防御免疫における $\gamma\delta$ T 細胞の役割. 第42回杏林医学会総会, 東京, 平成25年11月16日.
11. 井上信一, 新倉保, 井上愛美, 峯尾松一郎, 小林富美恵: マラリア原虫感染に対する宿主防御免疫を促進する $\gamma\delta$ T 細胞サブセットの機能解析. Characterization of $\gamma\delta$ T-cell subsets during *Plasmodium berghei* XAT infection. 第36回日本分子生物学会年会, 神戸, 平成25年12月3-6日.
12. Shin-Ichi Inoue, Mamoru Niikura, Megumi Inoue, Fumie Kobayashi: Protective effect of agonistic anti-CD40 monoclonal antibody is limited in the early phase of *Plasmodium berghei* XAT infection. 第42回日本免疫学会学術集会, 幕張, 平成25年12月11-13日.
13. Shin-Ichi Inoue, Mamoru Niikura, Megumi Inoue, Shoichiro Mineo, Fumie Kobayashi: The protective effect of CD40 ligand-CD40 signaling is limited during the early phase of *Plasmodium* infection. 第7回寄生虫感染免疫研究会, 高山, 平成26年3月11-13日.
14. 井上信一, 新倉保, 井上愛美, 峯尾松一郎, 川上泰¹, 内田明彦², 小林富美恵 (¹麻布大学生命環境科学, ²ヤマザキ大学): マラリア防御免疫に必要な CD40 シグナルを介した樹状細胞の活性化は原虫感染初期で重要である. 第83回日本寄生虫学会大会, 愛媛, 平成26年3月27-28日.
15. 田邊將信¹, 嘉陽啓之², 朝日博子³, 木村徳宏⁴, 下田耕治⁵, 小林富美恵, 岩田敏¹, 深尾太郎¹ (¹慶應大・医・感染症, ²Max-Planck-Institute of Immunobiol. & Epigene., ³感染研, 寄生動物, ⁴山口大・医・病理, ⁵慶應大・医・動物実験センター): microRNA 欠損マウスを用いた実験的脳マラリアの病原機構解析. 第83回日本寄生虫学会大会, 愛媛, 平成26年3月27-28日.
16. 新倉保, 峯尾松一郎, 井上信一, 井上愛美, 小林富美恵: 妊娠によるマラリアの病態重症化機構の解明. Studies on pathogenesis in immunized pregnant mice challenged with lethal malaria parasites. 第83回日本寄生虫学会大会, 愛媛, 平成26年3月27-28日.
17. 石井明¹, 柴田清², 岩永史朗³, 油田正夫³, 新倉保,

小林富美恵 (1)浜松医科大学感染症学, (2)浜松医科大学実験実習機器センター, (3)三重大学医動物・感染医学): ネズミマラリア原虫2種混合感染での感染動態. 第83回日本寄生虫学会大会, 愛媛, 平成26年3月27-28日.

論文

1. Mineo S, Niikura M, Inoue S-I, Kuroda M, Kobayashi F: Development of severe pathology in immunized pregnant mice challenged with lethal malaria parasites. *Inf Immun*, 81(10): 3865-3871, 2013.
2. Inoue S-I, Niikura M, Mineo S, Kobayashi F: Roles of IFN- γ and $\gamma\delta$ T cells in protective immunity against blood-stage malaria. *Front Immunol*, 4(258):1-9, 2013. (doi: 10.3389/fimmu.2013.00258)
3. Richards JS, Arumugam TU, Reiling L, Healer J, Hodder AN, Fowkes FJ, Cross N, Langer C, Takeo S, Uboldi AD, Thompson JK, Gilson PR, Coppel RL, Siba PM, King CL, Torii M, Chitnis CE, Narum DL, Mueller I, Crabb BS, Cowman AF, Tsuboi T, Beeson JG: Identification and prioritization of merozoite antigens as targets of protective human immunity to *Plasmodium falciparum* malaria for vaccine and biomarker development. *J Immunol*, 191(2):795-809, 2013.
4. Ito D, Hasegawa T, Miura K, Yamasaki T, Arumugam TU, Thongkukiatkul A, Takeo S, Takashima E, Sattabongkot J, Han ET, Long CA, Torii M, Tsuboi T: RALP1 is a rhoptry neck erythrocyte-binding protein of *Plasmodium falciparum* merozoites and a potential blood-stage vaccine candidate antigen. *Infect Immun*, 81(11):4290-4298, 2013.
5. Kaneko A, Chaves LF, Taleo G, Kalkoa M, Isozumi R, Wickremasinghe R, Perlmann H, Takeo S, Tsuboi T, Tachibana S, Kimura M, Björkman A, Troye-Blomberg M, Tanabe K, Drakeley C: Characteristic age distribution of *Plasmodium vivax* infections after malaria elimination on Aneityum Island, Vanuatu. *Infect Immun*, 82(1):243-252, 2014.
6. 井上信一 (総説): マラリア原虫感染防御における $\gamma\delta$ (ガンマデルタ) T細胞の役割. 杏林医学会雑誌 44 (4), s47-s48, 2013.

受賞

1. 井上 信一: 平成25年度 日本生体防御学会奨励賞「マラリア原虫感染防御における $\gamma\delta$ T細胞の役割の解明」
2. 井上 信一: 第2回 杏林医学会研究奨励賞「Enhancement of dendritic cell activation via CD40 ligand-expressing $\gamma\delta$ T cells is responsible for protective immunity to *Plasmodium* parasites」

その他

1. 井上信一: 筑波大学大学院 生命環境科学研究科 卒業生の活動紹介. <http://www.life.tsukuba.ac.jp/students/graduates.html>
2. 井上信一 (寄稿): 「マラリア原虫感染防御における $\gamma\delta$ T細胞の役割の解明」(平成25年度日本生体防

御学会奨励賞受賞寄稿) 日本生体防御学会ニュースレター2013, 2013.

3. 新倉保 (寄稿): 教職員紹介・第17回, あんず, 10・11月合併号, No.404, 9, 2013.
4. 小林富美恵: 身近に迫る寄生虫 ~寄生虫感染症の現状とその対策・予防法~. 杏林大学オープンキャンパス模擬講義. 三鷹, 平成25年8月17日.
5. 小林富美恵: 計画調書の書き方について ~採択にむけて~. 公的研究費の不正防止および科学研究費助成事業の公募説明会, 三鷹, 平成25年9月9日.

衛生学公衆衛生学教室

口演

1. 松井知子: メンタルヘルス (社内研修の進め方) ~セルフケア~. 東京産業保健推進センター研修会(人事・労務・衛生管理者研修), 東京, 平成25年4月8日.
2. 松井知子, 松岡由樹子: ストレスの基礎理解とストレスマネジメント (リラクゼーション). 練馬区教育委員会初任者研修会, 東京, 平成25年4月12日.
3. Yoshida M, Mizuki N, Kawagoe T, Nagasaki M, Matsunaga N & Okada E: Comparative study of refractive change between glasses and contact lenses users-5 years prospective study against approximately 273 thousand Japanese eyes-. ARVO 2013, Washington (USA), May5~9, 2013. (発表: 5/9)
4. Okada E, Mizuki N, Kawagoe T, Nagasaki M, Matsunaga N & Yoshida M: The large-scale epidemiological study on the prescription of contact lenses in Japan - The result from analyzing approximately 330,000 eyes of Japanese subjects-. ARVO 2013, Washington (USA), May5~9, 2013. (発表: 5/9)
5. 角田透: 酸素欠乏・硫化水素危険作業特別教育講師養成講座. 建築業労働災害防止協会本部講習会, 東京, 平成25年5月10日.
6. 岡本博照, 細田武伸, 和田貴子, 松井知子, 上村隆元, 照屋浩司, 角田透: 管理職消防官の職業性ストレスについて. 第86回日本産業衛生学会, 松山, 平成25年5月14~17日. (発表: 5/17)
7. 幸地勇, 岩澤聡子, 坪井樹, 中野真規子, 上村隆元, 田中茂, 丸山浩一, 工藤翔二, 内山巖雄, 大前和幸: 三宅島成人住民の二酸化硫黄曝露による量-影響関係. 第86回日本産業衛生学会, 松山, 平成25年5月14~17日. (発表: 5/15)
8. 角田透: 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者講習. 建築業労働災害防止協会東京支部講習会, 東京, 平成25年5月23日.
9. 松井知子: 教職員のメンタルヘルス 事例対応における留意点. 瑞穂町教育委員会副校長セミナー, 東京, 平成25年5月23日.
10. Miura Y, Ichikawa K, Yuasa M, Tsunoda T & Matsui T: Measuring Workplace Outcomes in EAPs using the checklist of work functions (PAF). Asia Pacific Employee Assistance Roundtable, Tokyo, May 30~ Jun

- 1, 2013. (発表: 6/1)
11. 松井知子: メンタルヘルス (社内研修の進め方) ~セルフケア~. 東京産業保健推進センター研修会(人事・労務・衛生管理者研修), 東京, 平成25年7月8日.
 12. 久保祐美子, 久米梢子, 神山麻由子, 岡本博照, 山口芳裕, 松田剛明, 照屋浩司, 和田貴子: 二次救急患者の入院に係る地理的要因の影響. 第16回日本臨床救急医学会総会, 東京, 平成25年7月12~13日. (発表: 7/12)
 13. 久米梢子, 久保祐美子, 神山麻由子, 岡本博照, 和田貴子: 救急救命士の資格を地域社会で活用する方策・二次救急病院に勤務する救急救命士に対する評価 (第1報) パイロット調査報告. 第16回日本臨床救急医学会総会, 東京, 平成25年7月12~13日. (発表: 7/13)
 14. 小笠原準悦, 櫻井拓也, 佐藤章悟, 石橋義永, 長澤純一, 大石修司, 芳賀脩光, 井澤鉄也, 木崎節子, 大野秀樹: 持久性走トレーニングによる白色脂肪細胞の脂肪分解反応の亢進には ATGL の発現変化が関与する. 第158回日本体力医学会関東地方会, 新座, 平成25年7月13日.
 15. Takemae R, Takemae M & Takemae Y: Implant Education Program at Dental Hygienist College. Part 1. Camlog Congress 2013, Tokyo, Jul 14~15, 2013. (発表: 7/14)
 16. 角田透: 過重労働による健康障害防止~エビデンス・具体的措置事例~. 東京産業保健推進センター研修会 (認定産業医研修), 東京, 平成25年7月19日.
 17. 角田透: 日本型 EAP について考える. 第14回日本 EAP 協会総会, 東京, 平成25年7月20日.
 18. 櫻井拓也, 小笠原準悦, 木崎節子, 長澤純一, 芳賀脩光, 大野秀樹: 運動は肥満による脂肪組織の線維化関連因子の発現増加を減弱させる. 第21回日本運動生理学会大会, 川越, 平成25年7月27~28日. (発表: 7/27)
 19. Ogasawara J, Ito T, Takanari J, Sakurai T, Kizaki T, Sato S, Ishibashi Y, Nagasawa J, Saito D, Nakano N, Izawa T & Ohno H: Inhibitory effect of ETAS against amyloid beta-induced cellular disorder in PC12 cells. 21st International Congress on Nutrition and Integrative Medicine, Sapporo, Jul 27~28, 2013. (発表: 7/27)
 20. Nagasawa J, Noguchi I, Sasao M, Sato S, Sakurai T, Ogasawara J, Ishibashi Y, Kizaki T & Ohno H: Effect of frequent antioxidant supplementation on oxidative stress when climbing Mt Fuji. 21st International Congress on Nutrition and Integrative Medicine, Sapporo, Jul 27~28, 2013. (発表: 7/28)
 21. 角田透: 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者講習. 建築業労働災害防止協会東京支部講習会, 東京, 平成25年7月30日.
 22. 角田透 (学会賞受賞記念・理事長賞): 産業精神保健学会への期待. 第20回日本産業精神保健学会, 東京, 平成25年8月9~10日. (発表: 8/9)
 23. 松井知子: 精神保健講習会『快適な職場づくり』を
考えよう~安全管理者等のメンタルヘルスケア対策~. 東京都教育委員会, 東京 (三楽病院), 平成25年8月19日.
 24. 角田透: 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者講習. 建築業労働災害防止協会東京支部講習会, 東京, 平成25年8月27日.
 25. 角田透: 建築物の環境衛生~建築物環境と健康~. 建築物環境衛生管理技術者講習会, 東京, 平成25年9月5日.
 26. 角田透: 建築物の環境衛生~温熱環境と健康~. 建築物環境衛生管理技術者講習会, 東京, 平成25年9月5日.
 27. 加藤久詞, 増田慎也, 高倉久志, 佐藤章悟, 小笠原準悦, 櫻井拓也, 木崎節子, 桜井智野風, 大野秀樹, 井澤鉄也: 脂肪組織および骨格筋組織における時計遺伝子と脂質代謝関連遺伝子の関連性. 第68回日本体力医学会大会, 東京, 平成25年9月21~23日. (発表: 9/21)
 28. 佐藤章悟, 木崎節子, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 石橋義永, 長澤純一, 桜井智野風, 井澤鉄也, 今泉和彦, 芳賀脩光, 大野秀樹: 時計遺伝子 Rev-erb α は MCP1 遺伝子の発現を抑制しマクロファージ免疫機能を制御する. 第68回日本体力医学会大会, 東京, 平成25年9月21~23日. (発表: 9/21)
 29. 小笠原準悦, 櫻井拓也, 木崎節子, 佐藤章悟, 石橋義永, 井澤鉄也, 宮崎裕美, 斎藤大蔵, 十枝内厚次, 大石修司, 芳賀脩光, 大野秀樹: 水泳運動は前駆細胞からの褐色脂肪細胞化を促す. 第68回日本体力医学会大会, 東京, 平成25年9月21~23日. (発表: 9/21)
 30. 長澤純一, 野口いづみ, 笹尾真美, 佐藤章悟, 小笠原準悦, 櫻井拓也, 石橋義永, 木崎節子, 芳賀脩光, 大野秀樹: 登山時の低酸素ストレス応答. 第68回日本体力医学会大会, 東京, 平成25年9月21~23日. (発表: 9/22)
 31. 角田透: 酸素欠乏・硫化水素危険作業特別教育講師養成講座. 建築業労働災害防止協会本部講習会, 東京, 平成25年9月24日.
 32. 松井知子: 産業心理臨床のイロハ 企業のニーズと心理職の役割, メンタルヘルスの体制づくり 主にラインケア. 栃木県臨床心理士会研修セミナー, 平成25年9月29日.
 33. 角田透: 有機溶剤業務管理者講習. 建築業労働災害防止協会本部講習会, 東京, 平成25年10月1日.
 34. 角田透: 過重労働による健康障害防止~エビデンス・具体的措置事例~. 東京産業保健推進センター研修会 (認定産業医研修), 東京, 平成25年10月11日.
 35. 岡本博照, 照屋浩司: M市運動相談事業データからみた中高年住民の循環器機能 脳性ナトリウム利尿ペプチド (BNP) からの検討. 第27回日本臨床内科医学会, 神戸, 平成25年10月13~14日. (発表: 10/13)
 36. 松井知子: メンタルヘルス (社内研修の進め方) ~セルフケア~. 東京産業保健推進センター研修会(保

- 健師・看護師研修, 人事・労務・衛生管理者研修), 東京, 平成25年10月15日.
37. 角田透: 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者講習. 建築業労働災害防止協会東京支部講習会, 東京, 平成25年10月17日.
 38. 角田透, 飯島美世子, 斎藤照代, 炭山隆, 錦戸典子, 松井知子, 森崎美奈子, 山田智子, 野田一雄: 現場ニーズに基づいた事業所担当者のためのメンタルヘルス対策支援ツールの開発. 平成25年度(第18回)産業保健調査研究発表会, 川崎, 平成25年10月17~18日. (発表: 10/17)
 39. 久米梢子, 久保祐美子, 神山麻由子, 岡本博照, 小泉健雄, 和田貴子: 救急救命士に対する二次救急病院での評価(第1報)パイロット調査および多施設調査の報告. 第41回日本救急医学会総会, 東京, 平成25年10月21~23日. (発表: 10/22)
 40. 楠田美奈, 岩見文博, 片桐朝美, 太田ひろみ, 石野晶子, 大嶺智子, 加藤英世, 照屋浩司: 幼児・児童を対象とした音響的骨評価値の標準域設定に関する研究. 第72回日本公衆衛生学会総会, 津, 平成25年10月23~25日. (発表: 10/23)
 41. 荻田香苗, 本間純一, 原邦夫, 田村憲治, 井上まり子, 矢野栄二: 中国4都市の粒子状物質濃度の経年変化と月間・曜日間変動-黄砂観測日数との関係. 第72回日本公衆衛生学会総会, 津, 平成25年10月23~25日. (発表: 10/24)
 42. 岩澤聡子, 中野真規子, 上村隆元, 田中茂, 大前和幸: 三宅島小児住民の二酸化硫黄曝露と喘息様所見の発生. 第72回日本公衆衛生学会総会, 津, 平成25年10月23~25日. (発表: 10/24)
 43. 太田ひろみ, 照屋浩司, 片桐朝美, 大木幸子: 地域在住高齢者の個人レベルのソーシャル・キャピタルの3年間の変化と抑うつとの関連. 第72回日本公衆衛生学会総会, 津, 平成25年10月23~25日. (発表: 10/24)
 44. 原田まつ子, 吉田正雄, 小風暁, 荻田香苗: 若年女性の味覚閾値と食生活習慣および気分状態との関連性. 第72回日本公衆衛生学会総会, 津, 平成25年10月23~25日. (発表: 10/23)
 45. 吉田正雄, 石川守, 岳真一郎, 小風暁, 原田まつ子, 荻田香苗: 眼圧値の変動に関連する因子と緑内障一次予防対策解明のための分析疫学的研究. 第72回日本公衆衛生学会総会, 津, 平成25年10月23~25日. (発表: 10/25)
 46. 松井知子, 松浦真澄: 事例検討 職場復帰支援を考える. 日本臨床心理士会第7回研修会, 平成25年10月25日.
 47. 松井知子: 産業保健スタッフ養成のためのメンタルヘルス教育プログラムの開発及び検証. 第72回全国産業安全衛生大会, 大阪, 平成25年10月30~11月1日. (発表: 11/1)
 48. 吉田正雄, 井上真奈美, 岩崎基, 荻田香苗, 岳真一郎, 津金昌一郎: 多目的コホート研究(JPHC Study)における白内障のリスク要因と一次予防対策解明のための分析疫学的研究 ~ BMI と白内障発生率との関係 ~. 第55回全日本病院学会, さいたま市, 平成25年11月2~3日. (発表: 11/2)
 49. 柳真奈美, 小山加代, 山下としえ, 岳真一郎, 吉田正雄: 終末期看護への今後の課題 ~ デスカンファレンスを通して看護・介護を振り返る ~. 第55回全日本病院学会, さいたま市, 平成25年11月2~3日. (発表: 11/2)
 50. 渡邊雅巳, 山川達也, 小宮山千尋, 岳真一郎, 吉田正雄: 慢性腰痛有訴者に対する温熱療法, 腰痛体操およびそれらの複合的アプローチ前後の即時的变化の比較. 第55回全日本病院学会, さいたま市, 平成25年11月2~3日. (発表: 11/2)
 51. 高橋和敏, 作網奈穂美, 古沼哲子, 柿崎真理子, 市村理人, 渡邊文晶, 横田俊也, 長崎文俊, 岳真一郎, 吉田正雄: 当院における持参薬の現状と取り組み ~ Beers Criteria Japan を用いて ~. 第55回全日本病院学会, さいたま市, 平成25年11月2~3日. (発表: 11/3)
 52. 篠塚也寸, 渡邊舞子, 山崎絵里, 齋藤真輝, 岳真一郎, 吉田正雄: 胃瘻患者へのSTの介入と経口移行の可能性に関するレトロスペクティブスタディ. 第55回全日本病院学会, さいたま市, 平成25年11月2~3日. (発表: 11/3)
 53. 岸上直樹, 太田愛子, 森本千恵, 山下としえ, 岳真一郎, 吉田正雄: 保清における皮膚保湿度の経時的変化に関する研究 ~ 効果的ケアを行うために ~. 第55回全日本病院学会, さいたま市, 平成25年11月2~3日. (発表: 11/3)
 54. 横田俊也, 長崎文俊, 岳真一郎, 吉田正雄: 高齢者の安全な薬物療法支援に対する当院の取り組み ~ Beers Criteria Japan を用いて ~. 第3回アジア慢性期医療学会, 東京, 平成25年11月14-15日. (発表: 11/15)
 55. 原田まつ子, 吉田正雄, 井上聡, 荻田香苗: 大学生の健康・食生活・ストレスに関する調査(1) - 女子学生の月経周期・食習慣と味覚閾値との関係 -. 第78回日本民族衛生学会総会, 佐賀, 平成25年11月15~16日. (発表: 11/15)
 56. 荻田香苗, 原田まつ子, 吉田正雄, 井上聡: 大学生の健康・食生活・ストレスに関する調査(2) - 自律神経機能と身体重心動揺との関係 -. 第78回日本民族衛生学会総会, 佐賀, 平成25年11月15~16日. (発表: 11/15)
 57. 松井知子, 角田透: 産業領域におけるメンタルヘルス支援の向上に関する一研究 - 看護職・心理職等を対象とした実態調査から -. 第78回日本民族衛生学会総会, 佐賀, 平成25年11月15~16日. (発表: 11/16)
 58. 小笠原準悦, 櫻井拓也, 木本紀代子, 木崎節子, 高橋和人, 炭谷由計, 石田均, 大野秀樹: 運動は骨格筋前駆細胞から褐色脂肪細胞への分化を誘導するか? 肥満予防・治療への応用. 第42回杏林医学会総会, 三鷹, 平成25年11月16日.

59. 橋口仁美, 福留斉, 恩田智子, 高畑彦松, 岡田真人, 吉田佳奈, 岡本博照: 僻地診療所での見学-第1報 医療過疎に実態-. 第42回杏林医学会, 三鷹, 平成25年11月16日.
60. 恩田智子, 福留斉, 高畑彦松, 橋口仁美, 岡田真人, 吉田佳奈, 岡本博照: 僻地診療所での見学-第2報 診療所での見学-. 第42回杏林医学会, 三鷹, 平成25年11月16日.
61. 高畑彦松, 福留斉, 恩田智子, 橋口仁美, 岡田真人, 吉田佳奈, 岡本博照: 僻地診療所での見学-第3報 通院患者の生活と健康の調査結果-. 第42回杏林医学会, 三鷹, 平成25年11月16日.
62. 福留斉, 恩田智子, 高畑彦松, 橋口仁美, 岡田真人, 吉田佳奈, 岡本博照: 僻地診療所での見学-第4報 僻地診療所に対する満足度, 僻地住民の都市部移住の思いについて-. 第42回杏林医学会, 三鷹, 平成25年11月16日.
63. 大野秀樹(シンポジウム): 山は身も心も豊かにする. 第11回日本山岳文化学会大会, 東京, 平成25年11月16~17日. (発表: 11/17)
64. 山本純子, 竹前理映子, 池田幸子, 宗像美佳: 歯科衛生士学校におけるオベ着の着脱実習, ドレーピング実習の意義 第2報. 第4回日本歯科衛生教育学会, 千葉, 平成25年11月30日~12月1日. (発表: 11/30)
65. 矢野知子, 竹前理映子, 小淵奈生美, 沖本幸代, 中嶋順子: 歯科衛生士学校におけるインプラント埋入実習の意義 第2報. 第4回日本歯科衛生教育学会, 千葉, 平成25年11月30日~12月1日. (発表: 11/30)
66. 角田透: 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者講習. 建築業労働災害防止協会東京支部講習会, 三鷹, 平成25年12月3日.
66. Kizaki T, Sato S & Ohno H: A circadian clock gene *Rev-erb α* modulates inflammatory functions of macrophages through negative regulation of monocyte chemoattractant protein-1 expression. 第42回日本免疫学会学術総会, 東京, 平成25年12月11~13日. (発表: 12/11)
67. 松井知子: 「新・職場のストレスチェックの活用方法」厚労省によるストレスチェックの説明と組織結果の職場組織への活用方法. 東京経営者協会, 東京, 平成26年1月29日.
68. 松井知子: メンタルヘルス活動に活かす面接指導技術・面接演習. 神奈川労務安全衛生協会平塚支部, 平塚, 平成26年2月6日.
69. 角田透: 酸素欠乏・硫化水素危険作業特別教育講師養成講座. 建築業労働災害防止協会本部講習会, 東京, 平成26年2月18日.
70. 角田透: 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者講習. 建築業労働災害防止協会東京支部講習会, 東京, 平成26年2月27日.
71. 松井知子: メンタルヘルス研修(ストレスの基礎理解とストレスマネジメント). 至誠学舎東京 研修センター, 東京, 平成26年3月5日.
72. 小笠原準悦, 櫻井拓也, 石橋義永, 木崎節子, 白土健, 今泉和彦, 井澤鉄也, 大野秀樹(シンポジウム): 運動と脂肪細胞の働き. 第160回日本体力医学会関東地方会, 6周布, 平成26年3月8日.
73. 角田透: 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者講習. 建築業労働災害防止協会東京支部講習会, 東京, 平成26年3月25日.

論文

- Ogasawara J, Ito T, Wakame K, Kitadate K, Sakurai T, Sato S, Ishibashi Y, Izawa T, Takahashi K, Ishida H, Takabatake I, Kizaki T & Ohno H: ETAS, an enzyme-treated asparagus extract, attenuates amyloid β -induced cellular disorder in PC12 cells. *Nat Prod Commun* 9: 561-564, 2014.
- Haga S, Sakurai T, Sato S, Sasahara M, Aita F, Esaki K, Toshinai K, Ueya E, Hashimoto N, Ogasawara J, Kizaki T, Yoshinaga I, Sakurai T, Oh-ishi S, Ohno H & Takakuwa E: The effects of long-term exercise on cerebral function and the maintenance of concentration in the elderly. *J Exer Sports Orthop* 1: 6-11, 2014.
- Sato S, Sakurai T, Ogasawara J, Takahashi M, Izawa T, Imaizumi K, Taniguchi N, Ohno H & Kizaki T: A circadian clock gene, *Rev-erb α* , modulates the inflammatory function of macrophages through the negative regulation of *Ccl2* expression. *J Immunol* 192: 407-417, 2014.
- Sakurai T, Ito T, Wakame K, Kitadate K, Arai T, Ogasawara J, Kizaki T, Sato S, Ishibashi Y, Fujiwara T, Akagawa K, Ishida H & Ohno H: Enzyme-treated *Asparagus officinalis* extract shows neuroprotective effects and attenuates cognitive impairment in senescence-accelerated mice. *Nat Prod Commun* 9: 101-106, 2014.
- Sato S, Shirato K, Mitsuhashi R, Inoue D, Kizaki T, Ohno H, Tachiyashiki K & Imaizumi K: Intracellular β 2-adrenergic receptor signaling specificity in mouse skeletal muscle in response to single-dose β 2-agonist clenbuterol treatment and acute exercise. *J Physiol Sci* 63: 211-218, 2013.
- Radak Z, Zhao Z, Koltai E, Ohno H & Atalay M: Oxygen consumption and usage during physical exercise: the balance between oxidative stress and ROS-dependent adaptive signaling. *Antioxid Redox Signal* 18: 1208-1246, 2013.
- Radak Z, Koltai E, Taylor AW, Higuchi M, Kumagai S, Ohno H, Goto S & Boldogh I: Redox-regulating sirtuins in aging, caloric restriction, and exercise. *Free Radic Biol Med* 58: 87-97, 2013.
- Sakurai T, Kitadate K, Nishioka H, Fujii H, Ogasawara J, Kizaki T, Sato S, Fujiwara T, Akagawa K, Izawa T & Ohno H: Oligomerised lychee fruit-derived polyphenol attenuates cognitive impairment in senescence-accelerated mice and endoplasmic reticulum stress in neuronal cells. *Br J Nutr* 110: 1549-1558, 2013.
- Takahashi K, Miyokawa-Gorin K, Handa K, Kitahara A, Moriya R, Onuma H, Sumitani Y, Tanaka T, Katsuta

- H, Nishida S, Yoshimoto K, Ohno H & Ishida H : Endogenous oxidative stress, but not ER stress, induces hypoxia-independent VEGF120 release through PI3K-dependent pathways in 3T3-L1 adipocytes. *Obesity* 21 : 1625-1634, 2013.
10. Sakurai T, Kashimura O, Kano Y, Ohno H, Ji LL, Izawa T & Best TM : Role of nitric oxide in muscle regeneration following eccentric muscle contractions in rat skeletal muscle. *J Physiol Sci* 63 : 263-270, 2013.
 11. Haga S, Kizaki T, Sato S, Takemasa T, Ezaki K, Ueya K, Aita F, Hashimoto N, Ogasawara J, Sakurai T, Hamaoka T, Katsumura T, Sakurai T & Ohno H : Skeletal muscle oxygenation during the nagewaza kakari exercise in Judo. *Sport Sci Res* 10 : 233-241, 2013.
 12. Sakurai T, Ogasawara J, Kizaki T, Sato S, Ishibashi Y, Takahashi M, Kobayashi O, Oh-Ishi S, Nagasawa J, Takahashi K, Ishida H, Izawa T & Ohno H : The Effects of Exercise Training on Obesity- Induced Dysregulated Expression of Adipokines in White Adipose Tissue. *Int J Endocrinol* 2013 : 801743, 2013.
 13. Aita F, Haga S, Sato S, Sakurai T, Esaki K, Hamaoka T, Mizuno M, Toshinai K, Miyazaki H, Takamasa T, Hashimoto N, Ogasawara J, Katsumura T, Kizaki T & Ohno H : Effects of resistance exercise on intramuscular oxygenation and muscle fiber composition. *J Sports Med Doping Stud* 3 : 3-9, 2013.
 14. Nagasawa J, Kizaki T & Ohno H : Exercise and oxidative stress in hypoxia. *J Phys Fitness Sports Med* 2 : 481-486, 2013.
 15. Yamada T, Nanashima N, Akita M, Shimizu T, Miura T, Yamana D, Sawano T, Sakurai T & Tsuchida S : Lectin-like receptor Ly49s3 on dendritic cells contributes to the differentiation of regulatory T cells in the rat thymus. *J Immunol* 191 : 3799-3809, 2013.
 16. 大野秀樹, 木崎節子, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 佐藤章悟, 石橋義永, 宮澤伸子, 長澤純一, 野口いづみ, 貫田宗男, 荻原理江, 村上和子, 石田均, 宮崎裕美, 斎藤大蔵, 小林靖, 鈴木健二, 人見嘉哲, 中野法彦, 大河原知水, 大石修司, 桜井智野風, 井澤鉄也, 白土健, 今泉和彦, 芳賀脩光 : 高所環境は肥満を改善する. *登山医学* 33 : 167-171, 2013.
 17. Hara K, Homma J, Tamura K, Inoue M, Karita K & Yano E : Decreasing trends of suspended particulate matter and PM_{2.5} concentrations in Tokyo, 1990-2010. *J Air Waste Manag Assoc* 63 : 737-748, 2013.
 18. Yoshida M, Ishikawa M, Karita K, Kokaze A, Harada M, Take S & Ohno H : Association of blood pressure and body mass index with intraocular pressure in middle-aged and older Japanese residents: a cross-sectional and longitudinal study. *Acta Med Okayama* 68 : 27-34, 2014.
 19. Yoshida M, Ishikawa M, Kokaze A, Harada M & Karita K : Association of blood pressure and body mass index with intraocular pressure in middle-aged and older Japanese residents. *Jpn J Health Hum Ecol* 79 : 99-106, 2013.
 20. Yoshida M, Take S, Ishikawa M, Karita K, Kokaze A, Harada M & Ohno H : Interrelationship among blood pressure, intraocular pressure, and life-style in middle-aged and older Japanese residents. *Health* 5 : 1527-1532, 2013.
 21. Yoshida M, Take S, Ishikawa M, Kokaze A, Karita K, Harada M & Ohno H : Association of smoking with intraocular pressure in middle-aged and older Japanese residents. *Environ Health Prev Med* 19 : 100-107, 2014.
 22. Yoshida M, Meguro A, Okada E, Nomura N & Mizuki N : Association study of fibroblast growth factor 10 (FGF10) polymorphisms with susceptibility to extreme myopia in a Japanese population. *Mol Vis* 19 : 2321-2329, 2013.
 23. Yoshida M, Meguro A, Yoshino A, Nomura N, Okada E & Mizuki N : Association study of IGF1 polymorphisms with susceptibility to high myopia in a Japanese population. *Clin Ophthalmol* 7 : 2057-2062, 2013.
 24. Ito T, Kokaze A, Ishikawa M, Matsunaga N, Karita K, Yoshida M, Ohtsu T, Ochiai H, Shirasawa T, Nanri H, Hoshino H & Takashima Y : Joint effects of mitochondrial DNA 5178 C/A polymorphism and coffee consumption or alcohol consumption on clustering of cardiovascular risk factors in middle-aged Japanese men: a cross-sectional study. *J Diabetes Metab Disord* 13 , 2014. (web 公開済)
 25. Kokaze A, Ishikawa M, Matsunaga N, Karita K, Yoshida M, Ohtsu T, Ochiai H, Shirasawa T, Nanri H, Hoshino H & Takashima Y : Difference in effects of cigarette smoking or alcohol consumption on serum non-high-density lipoprotein cholesterol levels is related to mitochondrial DNA 5178 C/A polymorphism in middle-aged Japanese men: a cross-sectional study. *J Physiol Anthropol* 33, 2014. (web 公開済)
 26. Kokaze A, Ishikawa M, Matsunaga N, Karita K, Yoshida M, Ohtsu T, Ochiai H, Shirasawa T, Nanri H, Hoshino H & Takashima Y : Unexpected combined effects of NADH dehydrogenase subunit-2 237 Leu/Met polymorphism and green tea consumption on renal function in male Japanese health check-up examinees: a cross-sectional study. *J Negat Results Biomed* 12 , 2013. (web 公開済)
 27. 野島真美, 岡本博照, 神山麻由子, 和田貴子, 角田透 : 東日本大震災に派遣された消防官の惨事ストレスとメンタルヘルスについての横断研究. *杏林医学会誌* 44 : 13-23, 2013.
 28. 岡本博照, 大瀧憲夫, 菊野隆明, 石松伸一, 鈴木幸一郎 : 2003年時の救急医師の仕事のストレスについて. *民族衛生* 79 : 71-73, 2013.
 29. 神山麻由子, 岡本博照, 細田武伸, 和田貴子 : 都市部救急隊員の日常業務のストレス 消防隊員および救助隊員との比較. *日臨救医誌* 16 : 557-564, 2013.
 30. Okamoto H, Hosoda T, Wada T, Teruya K, Tsunoda T : Work conditions and fatigue symptoms among Japanese male emergency medical technicians (EMTs). *Journal of*

the Kyorin Medical Society 44 : 127-136, 2013.

31. 岳眞一郎, 吉田正雄, 宗邦雄, 伊藤葉那, 田口栄治, 海老名泰子: 当院における在宅療養支援の取り組み, 日本慢性期医療協会誌 92 : 44-47, 2014.

平成24年度追加分

1. Hosoda T, Osaki Y, Okamoto H, Wada T, Otani S, Mu H, Yokoyama Y, Okamoto M & Kurozawa Y : Evaluation of relationships among occupational stress, alcohol dependence and other factors in male personnel in a Japanese local fire fighting organization. *Yonago Acta medica* 55 : 63-68, 2012.

著書

1. 大野秀樹, 木崎節子: 身体の活性酸素消去を高める方法. In: 活性酸素の本当の姿, 鈴木敬一郎編, ナップ, p.149-169, 2014.
2. 小笠原準悦, 井澤鉄也, 大野秀樹: 第2章褐色脂肪細胞の起源, 増殖, 分化. In: ここまでわかった燃える褐色脂肪組織の不思議. 斎藤昌之, 大野秀樹編, 東京, ナップ, 2013, p.30-49.
3. 木崎節子, 佐藤章悟, 大河原知水: Topics4 マクロファージは褐色脂肪組織に燃料を補給するか. In: ここまでわかった燃える褐色脂肪組織の不思議. 斎藤昌之, 大野秀樹編, 東京, ナップ, 2013, p.56.
4. 櫻井拓也, 石橋義永, 井澤鉄也: Topics6 褐色脂肪組織は安眠をもたらすか. In: ここまでわかった燃える褐色脂肪組織の不思議. 斎藤昌之, 大野秀樹編, 東京, ナップ, 2013, p.78-79.
5. 大野秀樹, 野口いづみ, 長澤純一: Topics9 UCP2はヒトの寿命を左右する. In: ここまでわかった燃える褐色脂肪組織の不思議. 斎藤昌之, 大野秀樹編, 東京, ナップ, 2013, p.99.
6. 木崎節子, 鈴木健二, 芳賀脩光: Topics10 UCP2は活性酸素を制御する. In: ここまでわかった燃える褐色脂肪組織の不思議. 斎藤昌之, 大野秀樹編, 東京, ナップ, 2013, p.100.
7. 大野秀樹, 斎藤大蔵, 渡辺憲治: Topics12 漢方薬と褐色脂肪組織. In: ここまでわかった燃える褐色脂肪組織の不思議. 斎藤昌之, 大野秀樹編, 東京, ナップ, 2013, p.128.
8. 大野秀樹, 本田梓, 本田正樹: Topics14 噛むことは, BATの活性化をはじめさまざまな効果をもつ. In: ここまでわかった燃える褐色脂肪組織の不思議. 斎藤昌之, 大野秀樹編, 東京, ナップ, 2013, p.147.
9. 大野秀樹, 上野伸正, 木崎節子: Topics16 水泳は褐色脂肪組織のグッド・ストレス。 In: ここまでわかった燃える褐色脂肪組織の不思議. 斎藤昌之, 大野秀樹編, 東京, ナップ, 2013, p.150.
10. 大野秀樹, 石橋義永, 大石修司: Topics17 スペースフライトは褐色脂肪組織を活性化するか. In: ここまでわかった燃える褐色脂肪組織の不思議. 斎藤昌之, 大野秀樹編, 東京, ナップ, 2013, p.151.
11. 小笠原準悦, 伊藤知洋, 高成準, 櫻井拓也, 木崎節子, 佐藤章悟, 石橋義永, 長澤純一, 斎藤大蔵, 中野法彦, 井澤鉄也, 大野秀樹: 酵素処理アスパラガス茎熱水

抽出物はアミロイド α により誘導されるPC12細胞の細胞障害を抑制する. In: 第21回統合医療機能性食品国際会議議事録. 札幌, AHCC研究会, 2013, p.51-56.

12. 長澤純一, 野口いづみ, 笹尾真美, 佐藤章悟, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 石橋義永, 木崎節子, 大野秀樹: 富士登山時の酸化ストレスに対する抗酸化剤頻回摂取の効果. In: 第21回統合医療機能性食品国際会議議事録. 札幌, AHCC研究会, 2013, p.83-87.
13. 岡本博照: I - IV -6. エビデンスに基づく保健対策. In: エッセンシャル社会・環境と健康第2版第5刷. 高島豊・櫻井裕編, 東京, 医歯薬出版, 2014, p.92-97.
14. 角田透: I - IV -7. 医学研究と倫理. In: エッセンシャル社会・環境と健康第2版第5刷. 高島豊・櫻井裕編, 東京, 医歯薬出版, 2014, p.96-97.
15. 吉田正雄: II - II -2. 食習慣. In: エッセンシャル社会・環境と健康第2版第5刷. 高島豊・櫻井裕編, 東京, 医歯薬出版, 2014, p.111-114.
16. 照屋浩司: II - II -3. 身体活動, 運動. In: エッセンシャル社会・環境と健康第2版第5刷. 高島豊・櫻井裕編, 東京, 医歯薬出版, 2014, p.114-118.
17. 照屋浩司: II - II -4. 喫煙行動. In: エッセンシャル社会・環境と健康第2版第5刷. 高島豊・櫻井裕編, 東京, 医歯薬出版, 2014, p.118-125.
18. 岡本博照: II - II -5. 飲酒行動. In: エッセンシャル社会・環境と健康第2版第5刷. 高島豊・櫻井裕編, 東京, 医歯薬出版, 2014, p.125-129.
19. 角田透: II - II -6. 睡眠, 休養, ストレス. In: エッセンシャル社会・環境と健康第2版第5刷. 高島豊・櫻井裕編, 東京, 医歯薬出版, 2014, p.129-132.
20. 松井知子: II - II -7. 歯科保健行動. In: エッセンシャル社会・環境と健康第2版第5刷. 高島豊・櫻井裕編, 東京, 医歯薬出版, 2014, p.132-136.
21. 石川守: II - II -9. 健康日本21. In: エッセンシャル社会・環境と健康第2版第5刷. 高島豊・櫻井裕編, 東京, 医歯薬出版, 2014, p.142-152.
22. 吉田正雄: III - I -8. 学校保健対策. In: エッセンシャル社会・環境と健康第2版第5刷. 高島豊・櫻井裕編, 東京, 医歯薬出版, 2014, p.237-242.
23. 荻田香苗: 第9章予防と救急(9.1~9.3). In: 化学実験における事故例と安全. 東京, オーム社, 2013, p.289-296.
24. 吉田正雄: 第9章予防と救急(9.4~9.6). In: 化学実験における事故例と安全. 東京, オーム社, 2013, p.296-305.

特許等知的財産関係, 報告書

1. 荻田香苗(分担): 光化学オキシダント等大気汚染物質文献レビュー(平成23年~平成25年に公表された文献を中心として). 環境省受託, 平成25年度報告書, 平成26年3月.
2. 荻田香苗(分担): 化学物質有害性評価書—物質名: ノルマル-ブチル-2,3-エポキシプロピルエーテル. 厚生労働省受託(職場の化学物質のリスク評価推進事業), 平成25年度報告書, 平成26年3月.

3. 村田勝敬, 吉田稔, 菊田香苗, 岩田豊人, 龍田希, 仲井邦彦, 岩井美幸, 柳沼梢, 坂本蜂至: 平成25年度水俣病に関する総合的研究 メチル水銀曝露による健康障害に関するレビュー. 環境省受託研究「重金属等の健康影響に関する総合研究」平成25年度成果報告書, 平成26年3月.

その他

1. 大野秀樹 (新聞掲載): 高山病の予防方法について解説. 日本経済新聞夕刊, 平成25年8月23日.
2. 大野秀樹 (新聞掲載): 堀田宣之著「神地巡歴」について書評. 図書新聞3129号, 平成25年10月5日.
3. 大野秀樹 (新聞掲載): 堀田宣之著「神地巡歴」について書評. 熊本日日新聞, 平成25年10月20日.
4. 角田透 (研修セミナー主催): 平成25年度三鷹市医師会産業医講習会 / 第40回日本産業精神保健学会研修セミナー. 三鷹市, 平成25年12月14日.
5. 角田透 (研修セミナー主催): 第41回日本産業精神保健学会研修セミナー. 東京, 平成26年3月14日.
6. 岡本博照 (研究助成金): 一般財団法人ヘルス・サイエンス・センター・平成25年度研究助成: 救命救急センター勤務医師の健康と職業性ストレスの解析. 研究費100万円.
7. 吉田正雄 (受賞): 平成25年度日本民族衛生学会優秀論文賞, 平成25年11月16日.
8. 吉田正雄: 冬季に流行る感染性胃腸炎 ～ノロウイルス感染症～. Hakumon ちゅうおう, 東京, 中央大学, 2013, p.86-87.
9. 吉田正雄: 多目的コホート研究 (JPHC Study) および次世代多目的コホート (JPHC NEXT) における眼科疾患研究の進捗状況. 国立がんセンター, 東京, 2013年10月18～19日.
10. 小笠原準悦 (研究助成金): 杏林大学・平成25年度研究奨励賞助成金: 運動は骨格筋前駆細胞から褐色脂肪細胞への分化を誘導するか: 肥満予防・治療への応用. 研究費100万円.
11. 小笠原準悦 (研究助成金): 公益財団法人明治安田厚生事業団・第30回 (平成25年度) 若手研究者のための健康科学研究助成 (一般課題研究): 持久的運動トレーニングは白色脂肪細胞のブライト脂肪細胞化を促すか. 研究費50万円.

法医学教室

口 演

1. 佐藤喜宣: 虐待を見逃さないために, 保育園が今できること, 保育と虐待対応事例研究会, 東京, 平成25年6月6日.
2. 佐藤喜宣: 学校で行う虐待防止, 教育支援校長研修会, 三鷹, 平成25年7月5日.
3. 佐藤喜宣: 臨床法医学からみた子供虐待, 第3回 Oedo Pediatrics Conference, 東京, 平成25年7月8日.
4. 佐藤喜宣: 虐待の予防及び対応のために医療従事者として必要なことについて, 平成25年度児童虐待対策委員会研修, 東京, 平成25年7月12日.

5. 佐藤喜宣: 二次加害を起こさないために～DV や児童虐待の事例から学ぶ～, DV 被害者サポートに関わる窓口職員・関連職場職員研修, 八王子, 平成25年7月29日.
6. 佐藤喜宣: 医療機関における虐待の発見と地域連携～法医学からみた虐待の実態と地域でできること～, 子供の虐待対応講演会, 小平, 平成25年8月1日.
7. 佐藤喜宣: 臨床法医学からみた子ども虐待, 日本赤十字社和歌山医療センター講演会, 和歌山, 平成25年8月22日.
8. 佐藤喜宣: 臨床法医学からみた子ども虐待, 平成25年度短期研修児童虐待研修, 東京, 平成25年9月25日.
9. 佐藤喜宣: 死亡事例から学ぶ～法医学の立場から, 平成25年度短期研修児童虐待研修, 和光市, 平成25年10月10日.
10. 佐藤喜宣: 小児救急医療—外傷・虐待—, 第29回日本小児外科学会秋季シンポジウム / 2013PSJM, 東京, 平成25年10月26日.
11. 佐藤喜宣: 病院組織としての児童虐待への対応について, 平成25年度児童虐待対策委員会研修, 東京, 平成25年11月7日.
12. 佐藤喜宣: 臨床法医学からみた子ども虐待, 児童虐待防止研修会, 神奈川, 平成25年11月15日.
13. 佐藤喜宣: こどもを守るための妊娠期からの児童虐待防止!!～医療機関で発見するポイントと関係機関とのネットワーク～, 平成25年度周産期からの児童虐待予防研修会, 茅ヶ崎市, 平成25年12月3日.
14. 佐藤喜宣: DV に巻きこまれた子どもへの影響について, 東京都母子相談連絡研究会, 東京, 平成26年1月23日.

論 文

1. 吉田昌記¹, 高篠智¹, 山田千歩¹, 須藤孝子¹, 岩橋桜子², 高木徹也¹, 佐藤喜宣¹ (¹杏林大・医, ²杏林大・保): 法医解剖後のお遺体修復の試み—頭蓋冠の固定および頭蓋骨の間隙充填—. 法医学の実際と研究 56: 243-246, 2013.
2. 高篠智^{1,2,3}, 伊藤正裕³, 松村譲児², 佐藤喜宣¹ (¹杏林大学医学部法医学教室, ²杏林大学医学部解剖学教室, 東京医科大学人体構造学講座): 作業療法士教育における解剖学的模型作りの試み. 形態科学 17(1): 1-10, 2014.

著 書

1. 佐藤喜宣: 臨床法医学からみた子ども虐待. 目からウロコの知識レット. 佐藤喜宣. 東京, 有限会社ノーブル・プレス, 2013.
2. 佐藤喜宣: 法医学概論, 死の判定・死因, 医学関係書類の書き方, 死体現象, 虐待による死. 臨床法医学テキスト2版. 佐藤喜宣編. 東京, 中外医学社, p. 2014. 1, 3-5, 11-35, 37-52, 157-167.
3. 高木徹也: 死の判定・死因, 医学関係書類の書き方, 内因性急死, 外因死. 臨床法医学テキスト2版. 佐藤喜宣編. 東京, 中外医学社, 2014. p. 6-10, 11-35, 59-64, 145-155.
4. 吉田昌記: 血液型と個人識別. 臨床法医学テキスト

2版. 佐藤喜宣編. 東京, 中外医学社, 2014. p. 235-260.

共同研究施設 RI 部門

口 演

1. 小藤剛史, 藤原智徳¹, 真田ますみ¹, 三嶋竜弥¹, 赤川公朗¹ (¹杏林大・医・細胞生理学) 神経細胞の生存に対する HPC-1/ シンタキシン1A とシンタキシン1B の異なる役割 第36回日本神経科学大会 / 第56回日本神経化学学会大会, 京都, 平成25年6月20日 -23日
2. 藤原智徳¹, 小藤剛史, 三嶋竜弥¹, 赤川公朗¹ (¹杏林大・医・細胞生理学) STX1A, STX1B 欠損マウスにおける行動異常の比較 第36回日本神経科学大会 / 第56回日本神経化学学会大会, 京都, 平成25年6月20日 -23日
3. 藤原智徳¹, 小藤剛史, 三嶋竜弥¹, 赤川公朗¹ (¹杏林大・医・細胞生理学) HPC-1/STX1A および STX1B による社会行動の制御 第91回日本生理学会, 鹿児島, 平成26年3月16日 -18日
4. 三嶋竜弥¹, 藤原智徳¹, 真田ますみ¹, 小藤剛史, 赤川公朗¹ (¹杏林大・医・細胞生理学) シナプス伝達におけるシンタキシン1Bの生理機能 第91回日本生理学会, 鹿児島, 平成26年3月16日 -18日

論文

1. Tatsuya Mishima¹, Tomonori Fujiwara¹, Masumi Sanada¹, Takefumi Kofuji, Masami Kanai-Azuma², Kimio Akagawa¹ (¹Kyorin Univ. Sch. Med., Dept. Cell Physiol., ²Dept. Anatomy): Syntaxin 1B, but not syntaxin 1A, is necessary for the regulation of synaptic vesicle exocytosis and of the readily releasable pool at central synapses. PLoS One, 9:e90004, 2014.

フローサイトメトリー部門

口 演

1. Takahashi R and Shiohara T¹ (¹Dept. of Dermatology): Suppressive CD14^{dim}CD16⁺ monocytes contribute defective anti-viral immune responses in eczema herpeticum, International Investigative Dermatology 2013, Scotland, May 8-11, 2013.
2. Ushigome Y¹, Takahashi R, Shiohara T¹ (¹Dept. of Dermatology): CD16⁺ patrolling monocytes (pMO) sensing HSV negatively control regulatory T cell (Treg) responses in severe drug eruptions, International Investigative Dermatology 2013, Scotland, May 8-11, 2013.
3. 高橋 良: アトピー性皮膚炎患者におけるヘルペスウイルスの再活性化と制御性 T 細胞の動態. 第23回日本サイトメトリー学会 シンポジウム, 東京, 2013年6月22日

論文

1. Takahashi R, Sato Y¹, Kurata M¹, Yamazaki Y¹, Kimishima M¹, and Shiohara T¹ (¹Dept. of Dermatology): Pathological role of regulatory T cells in the initiation and maintenance of eczema herpeticum lesions. The Journal of Immunology 192: 969-978. 2014.

生体機能実験部門

口 演

1. 萬知子¹, 森山潔¹, 本保晃¹, 森山久美¹, 岡田智香子, 山田達也¹ (¹杏林大・医・麻酔科): 高機能患者シミュレーターを用いた, 非呼吸式リザーバマスクの呼吸酸素濃度についての研究. 第42回杏林医学会総会, 東京, 平成25年11月16日.

生物学教室

口 演

1. 澤村京一¹, 佐藤玄², 李昭揚³, 上村佳孝⁴, 松田宗男² (¹筑波大, ²杏林大, ³マレーシア科学大, ⁴慶応大): アナナスショウジョウバエ類における種間遺伝子浸透の分子生物学的証拠: ペナン島 (マレーシア) 集団の事例. 昆虫 DNA 研究会第10回研究集会, 東京, 平成25年 5月25日 -26日
2. Hirai K¹, Kudo A², Matsuda M¹ (¹ Biol, ² Anat, Kyorin Univ): *De novo* centrosome synthesis in parthenogenetic embryos of *Drosophila ananassae*-complex species. 第65回日本細胞生物学会 大会, 愛知, 平成25年6月19-21日.
3. Hirai K¹, Kudo A², Matsuda M¹ (¹ Biol, ² Anat, Kyorin Univ): *De novo* synthesis of centrosomes and diploidization in parthenogenetic embryos of *Drosophila ananassae*. EMBO workshop *Drosophila* cell division cycle, Totnes, Sep. 12-16, 2013.
4. 平井和之, 松田宗男: アナナスショウジョウバエにおける単為発生開始機構の解析. 国立遺伝学研究所共同研究会ショウジョウバエ多様性研究会, 三島, 平成25年9月28-30日.
5. 佐藤玄¹・島幸夫²・松田宗男¹ (¹医学部・生物, ²保健・臨床検査教育 杏林大学): アナナスショウジョウバエ雄交も DNA2重鎖切断モデルが適用されるのか? 日本分子生物学会第36回年会, 神戸, 平成25年12月3-6日
6. Hirai K, Matsuda M: *De novo* centrosome synthesis and diploidization in parthenogenetic embryos of *Drosophila ananassae*-complex species. 第36回 日本分子生物学会年会, 神戸, 平成25年12月3-6日.
7. Umeki Y, Awasaki T: Remodeling of glial organization in *Drosophila* brain during metamorphosis. 第36回 日本分子生物学会年会, 兵庫, 平成25年12月3-6日.
8. 上田 龍¹, 近藤 周¹, 矢野 弘之¹, 高野 敏行², 都丸 雅敏², 和多田 正義³, 松田 宗男⁴, 栗崎 健⁴, 佐藤 玄⁴, 平井 和之⁴, 明石 良⁵ (¹国立遺伝学研究所, ²京都工芸繊維大学, ³愛媛大, ⁴杏林大, ⁵宮崎大): NBRP 「ショウジョ

ウバエ」: ショウジョウバエ・リソース — たゆまざる進化. 第36回 日本分子生物学会年会, 神戸, 平成25年12月3-6日.

論文

1. Yang JS¹, Awasaki T^{1,2}, Yu HH¹, He Y³, Ding P³, Kao JC³, Lee T^{1,3}. (¹JFRC/HHMI, ²Biol. Kyorin Univ, ³Univ of Massachusetts): Diverse neuronal lineages make stereotyped contributions to the *Drosophila* locomotor control center, the central complex. *J Comp Neurol* 521: 2645-2662, 2013.
2. Yu HH¹, Awasaki T^{1,2}, Schroeder MD¹, Long F¹, Yang JS¹, He Y³, Ding P³, Kao JC³, Wu GY¹, Peng H³, Myers G¹, Lee T^{1,3}. (¹JFRC/HHMI, ²Biol. Kyorin Univ, ³Univ of Massachusetts): Clonal development and organization of the adult *Drosophila* central brain. *Curr Biol* 23: 633-643, 2013.

物理学教室

口演

1. Tohyama M: Application of extended RPA with ground-state correlations to collective excitations of ¹⁶O. XVII. International Conference on Recent Progress in Many-Body Theories, Germany, Sept. 10, 2013.
2. 大谷宗久: 核子軸正結合定数に対する有限体積効果. 日本物理学会2013年秋季大会, 高知, 平成25年9月20日.
3. 高原哲士, 田嶋直樹¹, 清水良文² (¹福井大, ²九州大): 原子核の偏長変形優勢における Strutinsky 法の巨視的部分の寄与 II. 第69回日本物理学会年次大会, 神奈川, 平成26年3月27日.
4. 遠山満: 密度行列方程式の連結チェーンの切断法. 第69回日本物理学会年次大会, 平塚, 平成26年3月29日.

論文

1. Tohyama M, Schuck P¹ (¹IPN Orsay): Odd particle number random-phase approximation and extensions: Application to particle and hole states around ¹⁶O. *Phys Rev C* 87: 044316-1-13, 2013.
2. Tohyama M: Effects of ground-state correlations on collective excitations of ¹⁶O. *Phys Rev C* 87: 054330-1-5, 2013.
3. Tohyama M: Magnetization and collective excitations of a magnetic dipole Fermion gas. *J Phys Soc Jpn* 82: 124004-1-7, 2013.